

千歳市

しゅくばい がわ お の
祝梅川小野遺跡(1)

うめ かわ
梅川 1 遺跡(1)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

しゅくばい がわ お の
祝梅川小野遺跡(1)
うめ かわ
梅川 1 遺跡(1)

一道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書一

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

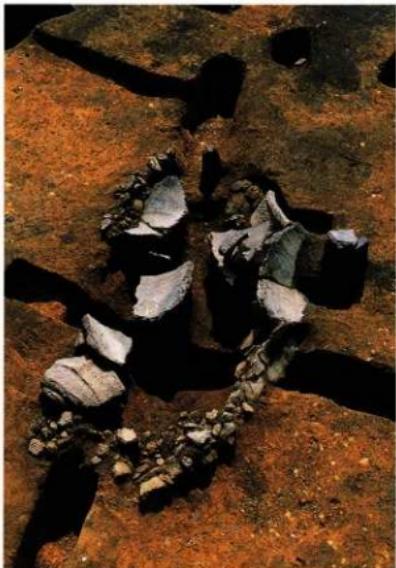
図解 1



VH-2・3



VH-15・17



VH-5 HF-1



VP-15 盤状粘土塊



VP-57 瓦砾土



VH-6 II群b-2類の土器



VP-39 IV群b-1類の土器



VFC-1



梅川 1 遺跡 調査状況



梅川 1 遺跡 VFC-1



梅川 1 遺跡 V群 b 類土器出土状況



II群土器



IV群土器

例　　言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成19・20年度に委託を受けて実施した、千歳市祝梅川小野遺跡と梅川1遺跡の埋蔵文化財発掘調査のうち、第Ⅱ黒色土層（当報告書呼称ではV層あるいは包含層）についての報告書である。第Ⅰ黒色土層については次年度以降に報告を予定している。
2. 報告内容は、祝梅川小野遺跡の平成19年度調査範囲（7,630m²）および平成20年度調査範囲（10,267m²）、梅川1遺跡の平成20年度調査範囲（893m²）、計18,790m²の遺構と遺物である。
3. 調査は第1調査部第3調査課が担当した。
4. 本書は、鈴木　信、菊池慈人、影浦　覚、芝田直人、阿部明義、山中文雄、酒井秀治が執筆し、文末に執筆者を示した。編集は芝田が担当した。
5. 遺物の整理は、土器を芝田、石器等を酒井が担当した。
6. 現地調査での写真撮影、室内での写真撮影・整理は菊池が担当した。
7. 放射性炭素年代測定については、(株)加速器分析研究所に依頼した。
8. 胎土分析については、(株)第四紀地質研究所に依頼した。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。

国土交通省北海道開発局札幌開発建設部用地課、同部千歳道路事務所、千歳市教育委員会、千歳市埋蔵文化財センター

赤石慎三、秋山洋司、天方博章、石井　淳、石橋孝夫、稻垣和幸、乾　哲也、上野秀一、上屋真一、大谷敏三、大林千春、大沼忠春、長田佳宏、小野哲也、小野寺穂、葛西智義、柏木大延、川内谷修、工藤　肇、工藤義術、小針大志、柳田朋広、佐藤一志、仙庭伸久、高倉　純、高橋　理、田中　亮、田村俊之、豊田宏良、中間利泰、長町章弘、奈良智法、野月寿彦、野村　崇、羽賀憲二、平野　祐、藤井誠二、松田淳子、松谷純一、森　秀之、森岡健治、守屋聰人　（五十音順・敬称略）

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。先頭のローマ数字「V」は、第Ⅱ黒色土層（V層）から検出されたことを表す。

VH：住居跡 HF：住居にともなう焼土 HP：住居にともなう土坑・柱穴
VP：土坑 VSP：小土坑、VF：焼土 VS：集石 VFC：剥片集中
2. 遺構図等には真北を示す方位印を付した。図の天方向は、N-77° 50' -Wである。遺構平面図の「+」は調査区または小調査区ラインの交点で、傍らの名称記号は右下の調査区を表す。また、小黒丸とその下の数字およびセクションレベルは標高（単位m）である。
3. 遺構図の記号は、以下のことを表す。また、付された数字は掲載番号を示し、正字体は土器、斜字体は石器等を表す。

●：土器 ▲：剥片石器 ■：礫石器 △：剥片 □：礫・礫片 ★：土・石製品
4. 掲載した遺構・遺物の図は基本的に以下の縮尺に統一した。ただし、遺構位置図、地形図、遺物出土状況図などは任意の縮尺であるため、各図にはスケールを付けてある。

遺構 1:40 復元土器 1:3 土器拓本 1:3 剥片石器 1:2
磨製石器 1:2 磕石器 1:3 土製品 1:2 石製品 1:2/1:3
5. 遺構の規模は、「長軸の上端×下端／短軸の上端×下端／確認面からの最大深」（単位m）で示している。
6. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字（I、II、III・・・）、遺構内の層序についてはアラビア数字（1、2、3・・・）を使用した。
7. 土層の色調は『新版標準土色帖29版』（小山・竹原2007）に準じた。
8. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山命名委員会1982）に準じ、以下の略号を用いた。

樽前山火山灰c層：Ta-c 惠庭岳火山灰a層：En-a
9. 遺物図右下の太ゴチックアラビア数字は掲載番号であり、これに後続する小文字アルファベット（a、b、c・・・）は同一個体を示す。
10. 復元土器の「⊕」は上面観を模式的に表したもので、十字の垂直線は下端が前面側—上端が裏面側を、十字の水平線は左端が左面側—右端が右面側を示す。「⊕」の直下の図は「⊕」に太線で示した弧の範囲の文様・器面調整を図化表現している。太線は転写範囲を表し、「⊕」の外面に太線がある場合は外面の情報、「⊕」の内側に太線がある場合は内面の情報を表現している。
11. 復元土器の断面図上方に「▼」「▽」が付されている場合、正面図に「▼」「▽」が付されている部位の断面を表す。
12. 石器・土製品・石製品の大きさは、最大長・最大幅・最大厚（単位cm）で示した。破損しているものについては現存最大値を（）、不明なものは「-」で示した。
13. 石器の実測図中でたたき痕は「V-V」、すり痕は「|→→|」で範囲を示した。また、被熱部分をドットのスクリーントーンで示した。
14. 文中において「北埋調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

口 紙
例 言
記号等の説明
目 次
挿図目次
表 目 次
図版目次

I 緒 言	3 包含層出土の遺物	
1 調査要項	(1)土器	162
2 調査にいたる経緯	(2)土製品	170
3 調査の経過	(3)石器等	224
II 調査の方法	祝梅川小野遺跡一覧表	249
1 調査範囲	4	
2 摂取など	5	
3 測量と記録	5	
4 資料整理	6	
5 保管	7	
6 遺物の分類	7	
III 遺跡の環境	V 梅川1遺跡	
1 位置	1 遺構	
2 周辺の遺跡	(1)概要	285
3 地層	(2)施土	285
IV 祝梅川小野遺跡	2 遺構出土の遺物	
1 遺構	(1)土器	289
(1)概要	(2)石器等	289
(2)住居跡	3 包含層出土の遺物	
(3)土坑	(1)土器	290
(4)Tピット	(2)石器等	293
(5)小ピット	梅川1遺跡一覧表	295
(6)焼土		
(7)集石	VI 自然科学的分析	
(8)剖片集中	1 放射性炭素年代測定結果について	297
2 遺構出土の遺物	2 祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析	303
(1)土器	引用参考文献	328
(2)土製品	写真図版	
(3)石器等	報告書抄録	

挿図目次

II 調査の方法		
図II-1 発掘区の設定	4	
	図IV-1-22 VH-6 遺物出土位置図	39
	図IV-1-23 VH-7	41
	図IV-1-24 VH-7・HF-1・HP-1~8	
III 遺跡の環境		
図III-1 遺跡の位置と周辺の遺跡	10	
図III-2 遺跡の位置と調査範囲	11	
図III-3 土層柱状模式図	12	
	図IV-1-25 VH-8	43
	図IV-1-26 VH-9	45
	図IV-1-27 VH-10	46
	図IV-1-28 VH-10土層断面	47
IV 祝梅川小野遺跡		
図IV-1-1 遺構位置図(全体)	15	
図IV-1-2 遺構位置図(南側)	17	
図IV-1-3 遺構位置図(中央)	18	
図IV-1-4 遺構位置図(北側)	19	
図IV-1-5 VH-1	20	
図IV-1-6 VH-1土層断面	21	
図IV-1-7 VH-1・HF-1~3、 HP-1~18土層断面	22	
図IV-1-8 VH-1遺物出土位置図	23	
図IV-1-9 VH-2	24	
図IV-1-10 VH-2土層断面	25	
図IV-1-11 VH-2・HF-1、 HP-1~22~24土層断面	26	
図IV-1-12 VH-2遺物出土位置図	27	
図IV-1-13 VH-3	29	
図IV-1-14 VH-3土層断面	30	
図IV-1-15 VH-3・HF-1~3、 HP-1~24土層断面	31	
図IV-1-16 VH-4	33	
図IV-1-17 VH-4土層断面	34	
図IV-1-18 VH-5	35	
図IV-1-19 VH-5・HF-1	36	
図IV-1-20 VH-6	37	
図IV-1-21 VH-6・ HP-1~33土層断面	38	
	図IV-1-29 VH-10・HF-1~2、 HP-1~17土層断面	48
	図IV-1-30 VH-11	50
	図IV-1-31 VH-12	51
	図IV-1-32 VH-13	52
	図IV-1-33 VH-14	54
	図IV-1-34 VH-15	55
	図IV-1-35 VH-15土層断面	56
	図IV-1-36 VH-15横断面	57
	図IV-1-37 VH-16	58
	図IV-1-38 VH-17	59
	図IV-1-39 VH-17土層断面	60
	図IV-1-40 VH-17・HP-2~23土層断面	61
	図IV-1-41 VP-1~3	63
	図IV-1-42 VP-4~6~8	64
	図IV-1-43 VP-10~12~14	66
	図IV-1-44 VP-13~15~17~19	68
	図IV-1-45 VP-18~20~23	70
	図IV-1-46 VP-24~25~29~32	71
	図IV-1-47 VP-33~38	73
	図IV-1-48 VP-39~41	75
	図IV-1-49 VP-42~45~47	77
	図IV-1-50 VP-46~48~51	79
	図IV-1-51 VP-52~57	81
	図IV-1-52 VP-57(2)	82
	図IV-1-53 VP-58~60	83

図IV-1-54 V P-61~63・65	85	図IV-2-17 造構の土器(17)	137
図IV-1-55 V P-66~72	87	図IV-2-18 造構の土器(18)	138
図IV-1-56 V P-73~78	89	図IV-2-19 造構の土器(19)	139
図IV-1-57 V T P-1	90	図IV-2-20 造構の土器(20)	140
図IV-1-58 V T P-2・10	91	図IV-2-21 造構の土器(21)	141
図IV-1-59 V T P-3・4	92	図IV-2-22 造構の土器(22)	142
図IV-1-60 V T P-5・6	93	図IV-2-23 造構の土製品(1)	143
図IV-1-61 V T P-7・8	95	図IV-2-24 造構の土製品(2)	144
図IV-1-62 V T P-9・11	96	図IV-2-25 造構の土製品(3)	145
図IV-1-63 V T P-12・13、V P-64	98	図IV-2-26 造構の石器(1)	147
図IV-1-64 V T P-14~16	99	図IV-2-27 造構の石器(2)	148
図IV-1-65 V T P-17・18・21	101	図IV-2-28 造構の石器(3)	149
図IV-1-66 V T P-19・20	102	図IV-2-29 造構の石器(4)	150
図IV-1-67 V S P-1~13	104	図IV-2-30 造構の石器(5)	151
図IV-1-68 V S P-14~19・21~30	105	図IV-2-31 造構の石器(6)	152
図IV-1-69 V S P-31~40	106	図IV-2-32 造構の石器(7)	153
図IV-1-70 V F-1~7・9	107	図IV-2-33 造構の石器(8)	155
図IV-1-71 V F-13~19	109	図IV-2-34 造構の石器(9)	156
図IV-1-72 V S-1~4	111	図IV-2-35 造構の石器(10)	157
図IV-1-73 V S-5・6、V F C-1	112	図IV-2-36 造構の石器(11)	159
図IV-2-1 造構の土器(1)	121	図IV-2-37 造構の石器(12)	160
図IV-2-2 造構の土器(2)	122	図IV-2-38 造構の石器(13)	161
図IV-2-3 造構の土器(3)	123	図IV-3-1 包含層の土器(1)	171
図IV-2-4 造構の土器(4)	124	図IV-3-2 包含層の土器(2)	172
図IV-2-5 造構の土器(5)	125	図IV-3-3 包含層の土器(3)	173
図IV-2-6 造構の土器(6)	126	図IV-3-4 包含層の土器(4)	174
図IV-2-7 造構の土器(7)	127	図IV-3-5 包含層の土器(5)	175
図IV-2-8 造構の土器(8)	128	図IV-3-6 包含層の土器(6)	176
図IV-2-9 造構の土器(9)	129	図IV-3-7 包含層の土器(7)	177
図IV-2-10 造構の土器(10)	130	図IV-3-8 包含層の土器(8)	178
図IV-2-11 造構の土器(11)	131	図IV-3-9 包含層の土器(9)	179
図IV-2-12 造構の土器(12)	132	図IV-3-10 包含層の土器(10)	180
図IV-2-13 造構の土器(13)	133	図IV-3-11 包含層の土器(11)	181
図IV-2-14 造構の土器(14)	134	図IV-3-12 包含層の土器(12)	182
図IV-2-15 造構の土器(15)	135	図IV-3-13 包含層の土器(13)	183
図IV-2-16 造構の土器(16)	136	図IV-3-14 包含層の土器(14)	184

図IV-3-15 包含層の土器(15)	185	図IV-3-51 土器の分布(5)	222
図IV-3-16 包含層の土器(16)	186	図IV-3-52 土器の分布(6)	223
図IV-3-17 包含層の土器(17)	187	図IV-3-53 包含層の石器(1)	225
図IV-3-18 包含層の土器(18)	188	図IV-3-54 包含層の石器(2)	226
図IV-3-19 包含層の土器(19)	189	図IV-3-55 包含層の石器(3)	227
図IV-3-20 包含層の土器(20)	190	図IV-3-56 包含層の石器(4)	229
図IV-3-21 包含層の土器(21)	191	図IV-3-57 包含層の石器(5)	230
図IV-3-22 包含層の土器(22)	192	図IV-3-58 包含層の石器(6)	231
図IV-3-23 包含層の土器(23)	193	図IV-3-59 包含層の石器(7)	232
図IV-3-24 包含層の土器(24)	194	図IV-3-60 包含層の石器(8)	233
図IV-3-25 包含層の土器(25)	195	図IV-3-61 包含層の石器(9)	235
図IV-3-26 包含層の土器(26)	196	図IV-3-62 包含層の石器(10)	236
図IV-3-27 包含層の土器(27)	197	図IV-3-63 包含層の石製品(1)	237
図IV-3-28 包含層の土器(28)	198	図IV-3-64 包含層の石製品(2)	238
図IV-3-29 包含層の土器(29)	199	図IV-3-65 石器の分布(1)	239
図IV-3-30 包含層の土器(30)	200	図IV-3-66 石器の分布(2)	241
図IV-3-31 包含層の土器(31)	201	図IV-3-67 石器の分布(3)	242
図IV-3-32 包含層の土器(32)	202	図IV-3-68 石器の分布(4)	243
図IV-3-33 包含層の土器(33)	203	図IV-3-69 石器の分布(5)	244
図IV-3-34 包含層の土器(34)	204	図IV-3-70 石器の分布(6)	245
図IV-3-35 包含層の土器(35)	205	図IV-3-71 石器の分布(7)	246
図IV-3-36 包含層の土器(36)	206	図IV-3-72 石器の分布(8)	247
図IV-3-37 包含層の土器(37)	207	図IV-3-73 石器の分布(9)	248
図IV-3-38 包含層の土器(38)	208		
図IV-3-39 包含層の土器(39)	209	V 梅川1遺跡	
図IV-3-40 包含層の土器(40)	210	図V-1-1 遺構位置図	285
図IV-3-41 包含層の土器(41)	211	図V-1-2 VF-1~4・9	287
図IV-3-42 包含層の土器(42)	212	図V-1-3 VF-5~8	288
図IV-3-43 包含層の土器(43)	213	図V-2-1 遺構の土器	289
図IV-3-44 包含層の土器(44)	214	図V-2-2 遺構の石器	290
図IV-3-45 包含層の土器(45)	215	図V-3-1 包含層の土器(1)	291
図IV-3-46 包含層の土製品	216	図V-3-2 包含層の土器(2)	292
図IV-3-47 土器の分布(1)	217	図V-3-3 包含層の石器	294
図IV-3-48 土器の分布(2)	219		
図IV-3-49 土器の分布(3)	220		
図IV-3-50 土器の分布(4)	221		

VI 自然科学分析	
図VI-2-1 対象試料(1)	305
図VI-2-2 対象試料(2)	306
図VI-2-3 三角ダイヤグラム位置分類図	318
図VI-2-4 菱形ダイヤグラム位置分類図	318
図VI-2-5 Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム	318
図VI-2-6 Mo-Ch,Mi-Hb菱形ダイヤグラム	318
図VI-2-7 Qt-Pt図	319
図VI-2-8 SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	319
図VI-2-9 Fe ₂ O ₃ -TiO ₂ 図	319
図VI-2-10 K ₂ O-CaO図	319

表目次

I 緒 言	
表I-1 祝梅川小野遺跡	
年別検出遺構数一覧	3
表I-2 祝梅川小野遺跡	
出土土器等点数一覧	3
表I-3 祝梅川小野遺跡	
出土石器等点数一覧	3
表I-4 梅川1遺跡 出土土器等点数一覧	3
表I-5 梅川1遺跡 出土石器等点数一覧	3
IV 祝梅川小野遺跡	
表1 検出遺構規模一覧	249
表2 遺構出土遺物一覧	254
表3 遺構出土土器等一覧	261
表4 遺構出土石器等一覧	262
表5 遺構出土掲載土器一覧	263
表6 遺構出土掲載土製品一覧	268
表7 遺構出土掲載石器等一覧	268
表8-1 包含層出土掲載復元土器一覧	270
表8-2 包含層出土掲載土器一覧 II群a類	272
表8-3 包含層出土掲載土器一覧 II群b類	272
表8-4 包含層出土掲載土器一覧 III群a類	274
表8-5 包含層出土掲載土器一覧 III群b類	274
表8-6 包含層出土掲載土器一覧 IV群a類	275
表8-7 包含層出土掲載土器一覧 IV群b類	275
表8-8 包含層出土掲載土器一覧 IV群c類	278
表8-9 包含層出土掲載土器一覧 V群b類	279
表8-10 包含層出土掲載土器一覧 V群c類	280
表9 包含層出土掲載土製品一覧	280
表10 包含層出土掲載石器等一覧	280
表11 土壤フローテーション成果一覧	284
V 梅川1遺跡	
表1 検出遺構規模一覧	295
表2 遺構出土遺物一覧	296
表3 遺構出土掲載土器一覧	296
表4 遺構出土掲載石器一覧	296
表5 包含層出土掲載土器一覧	296
表6 包含層出土掲載石器一覧	296
表7 土壤フローテーション成果一覧	296
VI 自然科学的分析	
表VI-1-1 放射性炭素年代測定試料一覧	297
表VI-2-1 胎土分析依頼試料一覧(1)	303
表VI-2-2 胎土分析依頼試料一覧(2)	304
表VI-2-3 胎土性状表(1)	311
表VI-2-4 胎土性状表(2)	312
表VI-2-5 化学分析表(1)	313
表VI-2-6 化学分析表(2)	314
表VI-2-7 タイプ分類表	315
表VI-2-8 組成分類表(1)	316
表VI-2-9 組成分類表(2)	317

図版目次

<祝梅川小野遺跡>

- 図版1 調査状況
- 図版2 住居跡(1)
- 図版3 住居跡(2)
- 図版4 住居跡(3)
- 図版5 住居跡(4)
- 図版6 住居跡(5)
- 図版7 住居跡(6)
- 図版8 住居跡(7)
- 図版9 住居跡(8)
- 図版10 住居跡(9)
- 図版11 住居跡(10)
- 図版12 住居跡(11)
- 図版13 住居跡(12)
- 図版14 住居跡(13)
- 図版15 住居跡(14)
- 図版16 住居跡(15)
- 図版17 住居跡(16)
- 図版18 土坑(1)
- 図版19 土坑(2)
- 図版20 土坑(3)
- 図版21 Tピット(1)
- 図版22 Tピット(2)
- 図版23 小ピット
- 図版24 焼土・剥片集中・集石
- 図版25 包含層遺物出土状況
- 図版26 遺構の土器(1)
- 図版27 遺構の土器(2)
- 図版28 遺構の土器(3)
- 図版29 遺構の土器(4)
- 図版30 遺構の土器(5)
- 図版31 遺構の土器(6)
- 図版32 遺構の土器(7)
- 図版33 遺構の土器(8)
- 図版34 遺構の土器(9)
- 図版35 遺構の土器(10)
- 図版36 遺構の土器(11)
- 図版37 遺構の土器(12)
- 図版38 遺構の土器(13)
- 図版39 遺構の土器(14)
- 図版40 遺構の土製品(1)
- 図版41 遺構の土製品(2)
- 図版42 包含層の土器(1)
- 図版43 包含層の土器(2)
- 図版44 包含層の土器(3)
- 図版45 包含層の土器(4)
- 図版46 包含層の土器(5)
- 図版47 包含層の土器(6)

- 図版48 包含層の土器(7)
- 図版49 包含層の土器(8)
- 図版50 包含層の土器(9)
- 図版51 包含層の土器(10)
- 図版52 包含層の土器(11)
- 図版53 包含層の土器(12)
- 図版54 包含層の土器(13)
- 図版55 包含層の土器(14)
- 図版56 包含層の土器(15)
- 図版57 包含層の土器(16)
- 図版58 包含層の土器(17)
- 図版59 包含層の土器(18)
- 図版60 包含層の土器(19)
- 図版61 包含層の土器(20)
- 図版62 包含層の土器(21)
- 図版63 包含層の土器(22)
- 図版64 包含層の土器(23)
- 図版65 包含層の土器(24)
- 図版66 包含層の土器(25)
- 図版67 包含層の土器(26)
- 図版68 包含層の土器(27)
- 図版69 包含層の土器(28)
- 図版70 包含層の土器(29)
- 図版71 包含層の土器(30)
- 図版72 包含層の土器(31)
- 図版73 包含層の土器(32)
- 図版74 包含層の土器(33)
- 図版75 包含層の土器(34)
- 図版76 包含層の土器(35)
- 図版77 包含層の土器(36)
- 図版78 包含層の土製品
- 図版79 遺構の石器(1)
- 図版80 遺構の石器(2)
- 図版81 遺構の石器(3)
- 図版82 遺構の石器(4)
- 図版83 遺構の石器(5)
- 図版84 遺構の石器(6)
- 図版85 遺構の石器(7)
- 図版86 包含層の石器(1)
- 図版87 包含層の石器(2)
- 図版88 包含層の石器(3)
- 図版89 包含層の石器(4)
- 図版90 包含層の石器(5)
- 図版91 包含層の石器(6)
- 図版92 包含層の石製品
- <梅川1遺跡>
- 図版93 梅川1遺跡の遺物(1)
- 図版94 梅川1遺跡の遺物(2)

I 緒 言

1 調査要項

事業名 一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査（平成21年度まで）
 道央圏連絡道路新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成22年度整理作業）
 道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成23年度整理作業）

事業委託者 國土交通省北海道開発局札幌開発建設部

事業受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名 祝梅川小野遺跡（北海道教育委員会登載番号：A-03-48）
 梅川1遺跡（北海道教育委員会登載番号：A-03-56）

所在地 北海道千歳市祝梅485-2ほか：祝梅川小野遺跡
 北海道千歳市祝梅498-3：梅川1遺跡

調査期間 平成19年5月7日～平成19年3月31日（発掘期間5月7日～10月31日）
 平成20年5月7日～平成20年3月31日（発掘期間5月7日～10月31日）
 平成21年4月1日～平成24年3月30日：整理期間

調査面積 17,897m²：祝梅川小野遺跡
 893m²：梅川1遺跡

平成19年度調査体制 第1調査部 部長 越田賢一郎
 第1調査部第2調査課 課長 遠藤香澄（発掘担当者）
 第1調査部第2調査課 主査 菊池恵人（発掘担当者）
 第1調査部第2調査課 主任 芝田直人
 第1調査部第2調査課 主任 酒井秀治
 第1調査部第2調査課 嘴託 山田和史（発掘担当者）
 第1調査部第4調査課 主任 阿部明義

平成20年度調査体制 第1調査部 部長 越田賢一郎
 第1調査部第3調査課 課長 鈴木 信（発掘担当者）
 第1調査部第3調査課 主査 菊池恵人（発掘担当者）
 第1調査部第3調査課 主任 影浦 覚
 第1調査部第3調査課 主任 芝田直人
 第1調査部第3調査課 主任 山中文雄
 第1調査部第3調査課 主任 酒井秀治

2 調査にいたる経緯

札幌開発建設部が計画・実施している「道央圏連絡道路（一般国道337号）；千歳市～小樽市を連結する延長約80kmの地域高規格道路」事業は、平成元（1989）年に事業化され、そのうち「新千歳空港関連」事業が本調査の原因となる。平成2年12月に札幌開発建設部は、千歳市教育委員会を経由して、北海道教育委員会あてに国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台～中央までの路線内における事前協議書を提出した。平成3年6月に北海道教育委員会は路線内の遺跡所在確認調査を行い、同年7

月に周知8か所・未登載4か所(対象面積299,000m²)について範囲確認調査の必要を札幌開発建設部に回答した。

その後、平成7(1995)年5月に事業名変更等のため再び事前協議書の提出があった。事業名は「一般国道337号新千歳空港関連工事」、事業面積828,000m²となる。この包蔵地については現状保存が望ましいが、やむをえない場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、北海道教育委員会より札幌開発建設部に伝えられた。札幌開発建設部は工事計画の変更は困難と判断した。

以上の経緯から、平成19年2月に北海道教育委員会は財団法人北海道埋蔵文化財センターに祝梅川小野遺跡の発掘調査(12,310m²)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査し、工事計画の変更により7,630m²(4,680m²減)を終了した。平成20年2月に北海道教育委員会は財団法人北海道埋蔵文化財センターに祝梅川小野遺跡の発掘調査(6,630m²)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査した。遺跡範囲の拡大変更により10,267m²(3,637m²増)を完了した。両年合わせて最終調査面積は17,897m²となった。

梅川1遺跡については、平成20年2月に北海道教育委員会が財団法人北海道埋蔵文化財センターに発掘調査(780m²)を指示し、3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査を受諾し、調査計画を立案した。同年4月に札幌開発建設部と委託契約を交わした上で、5月～10月まで発掘調査した。遺跡範囲の拡大変更により893m²(113m²増)を完了した。

3 調査の経過

(1) 発掘経過

平成19年度 5月9日：開所式、5月11～17日；Ⅴ層25%調査、5月14日；Ⅲ層25%調査、5月18日以降；Ⅲ・Ⅴ層遺構調査(住居・土坑・焼土を検出)、10月24日；Ⅲ層遺構調査終了、10月26日；Ⅴ層遺構調査終了、10月29日～11月1日；撤収作業・越年準備

平成20年度 5月9日；開所式、5月13日以降；Ⅲ層遺構調査(住居・土坑を検出)、5月15～30日；調査区南半の鋼矢板打設、6月2～12日；調査区南半の排水準備工・表土剥ぎ、6月9日；調査区南半のⅢ・Ⅴ層25%調査、6月21日；調査区北半の鋼矢板打設、6月23日以降；調査区南半のⅢ・Ⅴ層遺構調査、7月11～30日；排水準備工・表土剥ぎ、7月13～15日サミットによる作業休止、7月29日調査区北半のⅢ・Ⅴ層25%調査、8月8日以降調査区北半のⅢ・Ⅴ層遺構調査、9月3日；調査区南半の調査終了、10月23日；調査区北半の調査終了、10月24日～29日；撤収作業

(2) 整理経過

平成19年度 出土遺物の破片接合・遺物復元・遺構素図作成・遺物図作成を行なう。並行して報告書『梅川4遺跡(1)』(北埋調報253集)を刊行した。

平成20年度 土器破片接合・石器接合・遺構素図作成・遺物図作成・微細遺物の選別。

平成21年度 遺物復元・遺構素図作成・遺物図作成・微細遺物の選別。並行して報告書『梅川4遺跡(2)』(北埋調報269集)を刊行した。

平成22年度 遺構素図作成・遺物図作成・原稿執筆、微細遺物の選別・原稿執筆。

平成23年度 遺構図作成・写真撮影・原稿執筆、報告書『祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)』(北埋調報285集)を刊行した。
(鈴木)

表 I - 1 梶梅川小野遺跡 年度別検出遺構数一覧

調査年度	調査面積 (m ²)	遺構							土製品	総計
		住居跡 (VH)	土坑 (VP)	Tピット (VTP)	小ピット (VSP)	焼土 (VF)	剥片集中 (VFC)	集石 (VS)		
平成19年度	7,630	12	44	6	32	8	0	0		
平成20年度	10,267	5	28	15	7	7	1	6		
計	17,897	17	72	21	39	15	1	6		

表 I - 2 梶梅川小野遺跡 出土土器等点数一覧

	分類													土製品	総計
	II群 a類	II群 b類	III群 a類	III群 b類	IV群 a類	IV群 b類	V群 c類	V群 d類	V群 e類	IV群 不明	V群 不明	不明			
遺構	18	2,892	408	172	1,589	780	114	0	0	3	3	0	1	357	6,337
包含層	553	14,601	1,311	3,646	1,358	30,175	11,648	387	1,566	11	1,241	3	21	436	66,957
計	571	17,493	1,719	3,818	2,947	30,955	11,762	387	1,566	14	1,244	3	22	793	73,294

表 I - 3 梶梅川小野遺跡 出土石器等点数一覧

	分類													土製品	総計														
	細石刃	石鏃	石錐	石槍	石槍・ナイフ	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	Rフレイク	Uフレイク	石核	剥片	石斧	石のみ	すり石	北海道式石器	たたき石	砥石	矢炳研磨器	石刀	台石	石皿	石錐	加工痕ある砾	擦り切り残片	原石	棒状原石	礫・礫片	
遺構	0	91	9	19	37	11	1	50	17	4	56,428	53	2	18	82	24	37	0	1	15	101	8	0	74	5	0	1,172	1	58,280
包含層	13	918	120	169	319	227	48	364	218	130	40,300	579	20	166	660	387	435	1	12	58	202	62	19	432	96	1	5,982	29	51,967
計	13	1,009	129	188	356	238	49	414	235	134	96,728	632	22	184	742	411	472	1	15	73	303	70	19	506	101	1	7,154	30	110,227

表 I - 4 梶梅川1遺跡 出土土器等点数一覧

	分類						土製品	総計
	III群 b類	IV群 b類	IV群 c類	V群 b類	V群 c類	土製品		
遺構	0	0	0	242	21	95	358	
包含層	256	59	4	1,466	0	11	1,796	
計	256	59	4	1,708	21	106	2,154	

表 I - 5 梶梅川1遺跡 出土石器等点数一覧

	分類													土製品	総計			
	石鏃	つまみ付きナイフ	スクレイパー	複形石器	Rフレイク	Uフレイク	石核	剥片	石斧	すり石	北海道式石器	たたき石	砥石	石皿	原石	礫・礫片		
遺構	3	0	1	0	0	0	0	3,579	0	0	0	0	0	0	0	19	3,602	
包含層	15	1	11	1	12	12	2	542	6	1	2	4	1	2	3	1	19	635
計	18	1	12	1	12	12	2	4,121	6	1	2	4	1	2	3	1	38	4,237

II 調査の方法

1 調査範囲

(1) 発掘区の設定

a 方格組みおよび座標

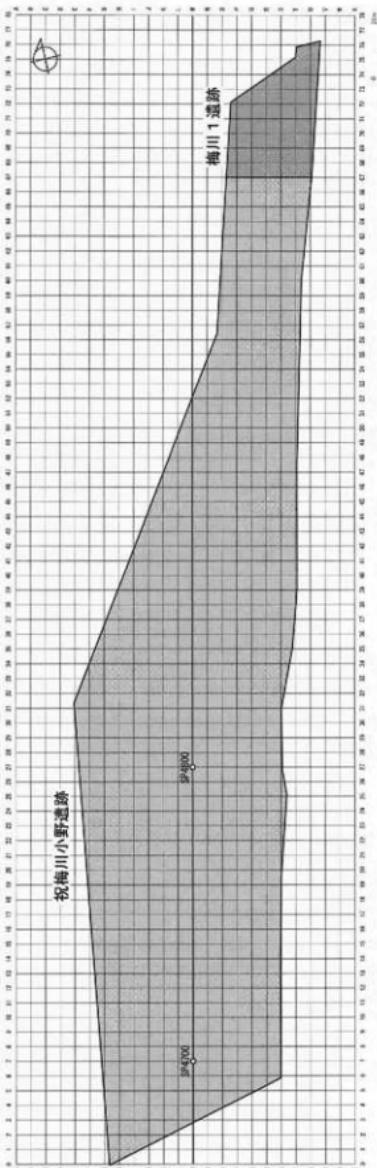
発掘必要区域は「道央圏連絡道路（一般国道337号）」内であるため、発掘区の設定は以下のように行った（図II-1）。

まず、調査対象遺跡に当たる計画路線のうちSP4400（梅川4遺跡内）～SP5348.492（梅川2遺跡内）が直線であることからこれを基線とし、くわえて、梅川4遺跡・祝梅川小野・梅川1遺跡が同系の座標に入るよう基線に対して平行・直交する方格を組み、平成19年度には方格設定の原点として点間100mのSP4700（調査方格名称M7）・SP4800（調査方格名称M27）を選定した。平成20年度はこれを踏襲している。

方格間隔は、方格杭打設の経費節減、1グリッド（発掘区）あたりの投入人員数・作業員の班構成、遺構内に含まれてしまう方格杭の低減、調査面積累計把握の容易さを考慮して5mに設定した。それぞれの区画線にアルファベット（東西方向）と数字（南北方向）を与え、グリッドの呼称は、方眼の南西角で交差する区画線を読む。さらに、5m方眼を2.5m四方に分割して、反時計回りに南西角から「a」・「b」・「c」・「d」と呼ぶ小発掘区（小グリッド）を設置し、調査の便宜を図った。

平成19年度の調査着手に当たっては株式会社総合測量設計に委託し、平成20年度の調査着手に当たっては株式会社田中測量に委託し、平成19年度は、3級基準点2か所の測量を行い、20m間隔の基準杭を14か所設置し座標値と標高を得た。平成20年度は鋼矢板打設などの準備工があったため複数回にわたり39か所設置し座標値と標高を得た。これを基本杭として5m方眼杭の打設を行った。

なお、調査に必要な5m方格杭は、その都度自ら打設することがあった。



図II-1 発掘区の設定

上記方格の原点平面直角座標（平面直角座標系第X II系）は図II-1中の2点SP4690・SP4790にあたる。

M5(SP4690) : X=-129,595.445、Y=-45,721.772

北緯42° 49' 55"・東経141° 41' 26"

M25(SP4790) : X=-129,497.984、Y=-45,699.534

北緯42° 49' 58"・東経141° 41' 27"

b 水準点

平成19年度に用いた水準点は以下である。

M5 : 13.116m M10 : 13.919m M15 : 13.869m M20 : 14.122m M25 : 14.025m

平成20年度に用いた水準点は以下である。

L11 : 13.262m N29 : 13.584m R45 : 10.134m S49 : 10.649m S61 : 9.964m S73 : 8.660m

2 挖削など

人力掘削作業は主に移植ゴテ・ねじり鎌を使用して行った。遺構・遺物の検出状況に応じて竹べらや竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないように掘削を行った。精査・清掃の際には前記のほかに炉ボウキ・ブラシ等を用いた。また、移植ゴテでは掘ることが困難な場所や遺構・遺物の見られない範囲、攪乱坑等ではスコップ等を併用した。

遺構は火山灰土壌に包埋されているため、降雨による流水・乾燥により崩壊が起こりやすい。そのため、適度にじょうろや噴霧器を用いて散水を行い、ペニヤ板・ブルーシートなどをかけるなど降雨・乾燥に配慮を行って調査を進めた。黒色腐植土は水を含むと滑りやすく危険をともなった。そのため、排水道や通路に歩み板や麻袋やまき砂（遺跡内の細粒火山灰を利用）を敷いて転倒の防止に努めた。

人力掘削方針は、上面での精査、第I黒色土層はアイヌ文化期・擦文文化期の遺構・遺物の確認のため深度3cm、それ以降は深度5cm単位で掘削し、第II黒色土層は深度5cm単位で掘削した。なお、状況に応じて深度3cmと深度5cmを適宜用いた場合がある。

3 測量と記録

(1) 測量・図化

委託設置した基準杭をもとに5m方格の各交点に木杭を設置し、平面測量の基準とした。水準測量は自動レベルと1mm目盛のアルミスタッフを用いて方格杭に基準杭を与点とする標高を入れ、方格杭と対象の比高を直接観測した。平面測量は方格杭を基準としての手測りによる。

遺構・遺物の詳細な出土位置と範囲を記録することにより、その接合関係を把握し、遺構の形成順序を把握するため下記のような方法を用いて遺物の検出範囲と出土位置を記録することとした。

実測は1mm方眼のA4版セクションフィルムに基本的に20分の1スケールで記入した。出土状況の詳細図を必要としたときは10分の1スケールで行った。
(鈴木)

(2) 現場での撮影

a 撮影方法

発掘現場での撮影は、6×7サイズカメラと35mmサイズカメラを使用し、デジタルカメラで補助記録を撮った。記録保存のため同一カットを同じ条件（シャッタースピード・露出）で複数コマ撮影し

1セットとした。なお、絞りを替えてさらに撮影した場合がある。撮影は遺構・遺物の出土状況などを行った。また、進行状況の確認となる定点撮影も行った。撮影に際しては、各被写体の撮影方向・出土位置・層位など必要な情報を入れることを考慮した。ブレ・ボケなどを防止する為に、全ての撮影は三脚・レリーズを用いて行った。

a 撮影機材・撮影データ

撮影機材・フィルムは下記を使用した。フィルム(フジネオパンクロス100-120・フジRDPⅢ120)の使用頻度や収納スペースの観点から、ほとんどを6×7判(Mamiya RZ67PRO II)で行なうこととした。スライドは必要に応じて6×7判リバーサルフィルムより作成した。現場での撮影データ(カットNo.・撮影日・被写体名・被写体詳細または出土層位・撮影方向・フィルム種類・撮影者)は撮影者が野帳に記入し、記録とデジタルカメラによる撮影の統合を行い写真台帳とした。
(菊池)

(3) 出土品の収集

掘り出し遺物についての取り上げ方法は、点取り上げと一括上げがある。一括上げとは5m方眼・層別である。土壤の取り上げは遺物の取り上げと同じ方法で行った。ただし、すべて範囲を記録した一括上げである。土壤に含まれる、多量の小剥片などは、土壤ごとポリ袋に採取し、その後の整理作業で水篩選別方法により取り出している。
(鈴木)

4 資料整理

(1) 図面等

遺構などの原図は訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその個所が確認できるよう原図に書き込んでいる。その後、原図から1mm方眼の方眼紙に鉛筆(芯径0.5mm)をもちいて作成した。素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト(Adobe Illustrator CS3)により補正・加工し版下を作成した。

(2) 出土品

a 掘り出し遺物

一次整理：掘り出された土器・石器等は、野外作業と平行して現地で水洗・乾燥・遺物台帳の作成・遺物カードの添付・注記作業を行った。水洗はポンドブラシや歯ブラシなどを使用して遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、遺物乾燥小屋の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに遺物名と点数を決定したうえで遺物番号を与え、遺物台帳に登録した

遺物台帳は、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記入し、グリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土グリッドまたは遺構のほか遺物番号・取り上げ日・層位・遺物名・分類・材質(石器等に限る)・点数・その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチャック付ポリ袋に納めた。

注記は、手書きによって行った。注記対象は、土器片が微細なものを除く大多数、石器等が微細なものである。注記できなかった遺物は遺物番号ごとにポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。

注記内容は、遺構については、遺跡名の略号「オノ」「ウ1」、出土遺構名の略号「例えばP」と遺構番号「アラビア数字」、層位名「ローマ数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は「例えばオノ」+「P: 第I 黒色土層→UP、第II 黒色土層→LP」+「遺構番号」+「層位名」

+「遺物番号」である。包含層については、遺跡名の略号「例えばウ1」、出土方格南北方向「アルファベット」と東西方向「アラビア数字」、層位名「ローマ数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は「例えばウ1」+「層位名」+「遺物番号」である。

二次整理：一次整理の終了した遺物を埋蔵文化財センターに搬入し、分類・材質の確認、接合などを行った。遺物の整理と平行して遺物台帳の修正・コンピューターへの入力を進めた。整理終了後、原則として各遺物と遺物カードを同封したチャック付ポリ袋に戻し、出土方格南北方向「アルファベット」と出土層ごとに遺物番号順に整頓し、プラスチックコンテナに収納した。

立体復元は、遺物台帳と破片の照合→接合関係表記入→土器接合→樹脂充填の手順を取った。土器拓本は破片個体について行い、断面は人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。土器実測は立体復元について行い、人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。石器実測は人手による原寸実測、原寸素図をもとに墨入れを行った。
(芝田)

(3) 写真

室内撮影は、6×7版カメラ・4×5版カメラ・ストロボを用いて撮影を行った。俯瞰撮影は無影撮影台を用い、遺物集合写真など立面撮りは、撮影台に遺物が乗り切らない時は、背景紙を床に直に垂らして撮影した。フィルム現像はカラーリバーサルフィルムを外注し、モノクロフィルムに関しては、自動現像機での自家処理となっている。モノクロ写真的焼き付けは自家処理しており、写真図版用の焼付けや密着焼きを行なっている。フィルムには1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。
(菊池)

5 保管

今回の報告に関する図面等・写真・出土遺物は2012年3月現在、道立北海道埋蔵文化財センターで保管している。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・北埋調報番号・遺跡名をつけて収納している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。出土遺物に関しては、土器片や石器等はコンテナに収納する。コンテナには調査年度・北埋調報番号・遺跡名・遺物名・分類・収納番号を記したラベルを貼り、収蔵庫に保管し、今後の活用に備えた。

(鈴木)

6 遺物の分類

(1) 土器等

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、以下前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群とした。統縄文時代のものはVI群、擦文文化期のものはVII群である。また、a・b類に二分したものはa類が前半、b類が後半を意味する。同様にa・b・c類に三分したものはa類が前葉、b類が中葉、c類が後葉である。さらに細分を要する場合は、アラビア数字の枝番号を付した。なお、今回の調査ではI群、VI群、VII群は出土していない。

II群 縄文時代前期に属する道央の土器群

a類 厚手で縄文の施された丸底・尖底の土器群

a-1類 美沢3式、美々7式、縄文式に相当するもの。

a-2類 静内中野式に相当するもの。

b 類 円筒土器下層式とこれに並行する土器群

b - 1 類 植苗式に相当するもの。

b - 2 類 大麻V式に相当するもの。

b - 3 類 円筒土器下層 a ~ d 式に相当するもの。

III群 繩文時代中期に属する道央の土器群

a 類 円筒土器上層 a 式・b 式、萩ヶ岡 1・2 式に相当するもの。

b 類 円筒土器上層式に後続する土器群。

b - 1 類 天神山式に相当するもの。

b - 2 類 柏木川式に相当するもの。

b - 3 類 北筒式（トコロ 6 類）に相当するもの。

IV群 繩文時代後期に属する道央の土器群

a 類 余市系土器群とこれに並行する前葉の土器群。

a - 1 類 伊達山式、小野幌式に相当するもの。

a - 2 類 タブコブ式に相当するもの。

a - 3 類 手稻砂山式、入江式に相当するもの。

b 類 磨消繩文が施された中葉の土器群。

b - 1 類 ウサクマイ C 式に相当するもの。

b - 2 類 手稻式に相当するもの。

b - 3 類 銀潤式に相当するもの。

b - 4 類 エリモ B 式に相当するもの。

c 類 突瘤文、貼瘤文、爪形文が施された後葉の土器群。

c - 1 類 堂林式に相当するもの。

c - 2 類 「三ツ谷式」並行と考えられるもの。

c - 3 類 御殿山式に相当するもの。

V群 繩文時代晚期に属する道央の土器群

a 類 大洞 B 式、大洞 B - C 式とこれに並行する在地の土器群。東三川 I 式など。

b 類 大洞 C, 式、大洞 C, 式とこれに並行する在地の土器群。浜中大曲式、美々 3 式など。

c 類 大洞 A 式、大洞 A' 式とこれに並行する在地の土器群。タンネトウし式、氷川式など。

このほか、再生土製円盤、焼成粘土塊、盤状粘土塊を土製品に分類した。

(芝田)

(2) 石器等

分類は器種を基本とした。各器種は剥片石器群、礫石器群に大別される。

剥片石器群

石鋸、石槍、ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイバー、両面調整石器、石核、R フレイク、U フレイク、剥片

礫石器群

石斧、擦り切り残片、石のみ、たたき石、台石、すり石、石皿、石鋸、砥石、石錐、加工痕のある礫、礫、礫片

上記以外の石製遺物については石製品として分類した。

石製品

軽石製石製品、黒曜石製石製品、玉、垂飾、有孔石製品、オロシガネ状石製品、棍棒形石器（酒井）

III 遺跡の環境

1 位置

(1) 所在

祝梅川小野遺跡は千歳市祝梅485-2ほか、梅川1遺跡は千歳市祝梅498-3に所在する。千歳市は北海道の西部、石狩地方の南端を占め、北は恵庭市、南は苫小牧市に接している。両遺跡は千歳市街東南隅に位置する。また、祝梅川小野遺跡は祝梅川上流部右岸にあり、梅川1遺跡は梅川下流部左岸にある。祝梅川は遺跡の500m下流で梅川と合流し、3,500m下流で千歳川と合流する（図III-1）。

千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図に記載された祝梅川小野遺跡は100m四方の規模であったが、平成18年に行われた範囲確認調査により下流側を含めた遺跡へと拡大した。梅川1遺跡は平成19年に行われた範囲確認調査により、千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図に記載された範囲が南方へ拡大した。

(2) 地名

遺跡名の「祝梅」はアイヌ語地名に当て字したもので、この地名は少なくとも19世紀後葉まで遡る。アイヌ語地名については幾つかの解説がある。長見義三は「sukup-pay：成長した-イラクサ、または別の語解の可能性あり」「ちとせ地名散歩」（長見1976年）と解している。柳原正文は「sukup-hay-us-nay：成長する-イラクサ-群生する-川」「データベース・アイヌ語地名3」（柳原2002年）と推定している。「梅川」のアイヌ語地名は存在しないが、長見義三によれば「sino-oman-sukupay：本当に行く-シュカバイ」「ちとせ地名散歩」（長見1976年）であり、祝梅川は源頭部が冷泉であることから「nam-sukupay：冷たい-シュカバイ」と解している。

(3) 地形

遺跡は石狩平野と勇払平野に挟まれた低平な美々台地の東北縁にあり、地質構造分類では石狩低地帯に属する。遺跡がある潤れ沢は第四紀更新世末葉の支笏火砕流堆積物が浸食を受けて形成された地形であり、支笏火砕流堆積物の上には恵庭a降下軽石・樽前c降下軽石・岩片・樽前a降下軽石が降下堆積して現地地形を造る。

2 周辺の遺跡

祝梅川水系にある遺跡は左岸に4か所・右岸に10か所あり、梅川水系にある遺跡は左岸に2か所・右岸に2か所ある（図III-1）。このうち、祝梅川遺跡・祝梅川矢島遺跡・祝梅竪穴遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川3遺跡について千歳市教育委員会が発掘調査・報告を行っている。平成18年度には北海道埋蔵文化財センターが梅川4遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡の発掘調査・報告を行った。以下、今回の報告と関係する第II黒色土の遺構について時代別に概要を記す。

縄文・前期：竪穴住居2軒・土坑12基（梅川3）

縄文・中期：竪穴住居2軒（祝梅川山田）、竪穴住居1軒（梅川4・2003年）

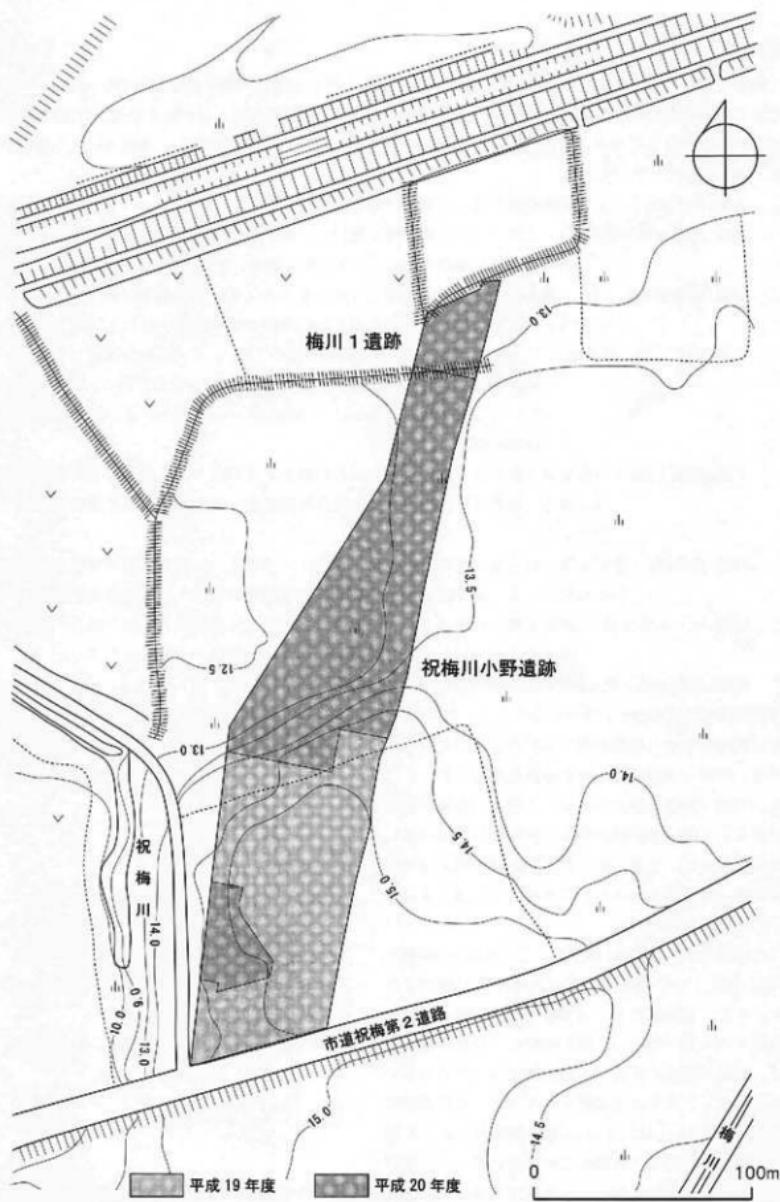
縄文・後期：竪穴住居4軒・土坑1基（梅川3）、土器窯炉1基・土坑3基（梅川4・千歳市教委2003年）

縄文・晚期・第II黒色土層：土坑7基（梅川3）



この図は国土地理院の数値地図 25000(地図画像)『札幌』を使用したものである。

図III-1 遺跡の位置と周辺の遺跡



図III-2 遺跡の位置と調査範囲

3 地層

確認した台地上の標準的な地層は表土層～恵庭a降下軽石層下位の鈍い橙色(7.5YR6/4)ローム層である。報告対象とした地層は第II黒色土層(V層)～恵庭a降下軽石層上部にある暗褐色(7.5YR3/3)ローム層(VI層)までである。調査対象の土層は呼称を設けローマ数字で表記し、遺構内の人為堆積物はアラビア数字で表記した。

I層(表土層)：工業用地等造成に關わる客土・畑の耕作土

II層(樽前a降下軽石層)：元文4(1739)年旧暦7月14日に降下、軽石・火山灰が堆積。3～4の降下単位が確認できる。上部は畑の耕作によって削られる。略称Ta-a。

III層(腐植土層)：樽前c降下軽石・岩片を母材とする黑色シルト質。第I黒色土層(略称IB)に相当し、近世アイヌ文化期～縄文時代晚期後葉の遺構・遺物を包含する。

IV層(樽前c降下軽石層)：上位から樽前c₁降下軽石層(略称Ta-c₁)・灰褐色砂質ローム層・樽前c₂降下岩片・岩津層(略称Ta-c₂)に細分される。Ta-c₁とTa-c₂間に厚さ数cmの灰褐色砂質ローム層がある。縄文時代晚期後葉に降下。

V層(腐植土層)：恵庭a降下軽石層上部のローム層を母材とする黑色シルト質。第II・III黒色土層に相当(略称II B・III B)、縄文時代晚期後葉～縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。

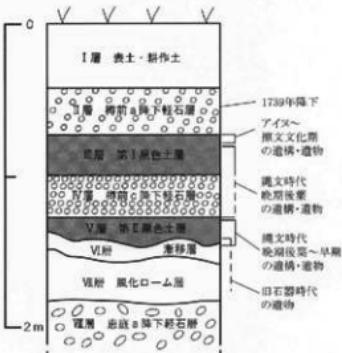
VI層(漸移層)：恵庭a降下軽石層上部の暗褐色ローム質土・樽前d₁ d₂降下軽石・恵庭a降下軽石を母材とする。縄文時代早期～後期旧石器時代の遺構・遺物を包含する。

VII層(ローム質土層)：恵庭a降下軽石層上部の暗褐色ローム質土・樽前d₁ d₂降下軽石・恵庭a降下軽石を母材とする。後期旧石器時代の遺構・遺物を包含する。

VIII層(恵庭a降下軽石層)：後期旧石器時代前半に降下。略称En-a。

低湿部は沢状地形の谷部分に当たるため水の營力によって、層厚が増すこと・還元土壌化すること・未分解の草本の有機物が混じるため土質が泥炭化することが生じる。II層・V層の層厚は著しく増幅する。IV層は水位の上下による酸化還元が著しく、固結が起こり、土色の赤褐色・灰青化が明瞭である。VI層・VII層は還元が著しく土色の灰青化が明瞭である。V層は未分解の草本の有機物が多量に混じり泥炭化する。また、泥炭の下部には砂質土の堆積が認められる部分があり、これを「V砂層」または「VS層」と呼称した。

台地部では木本植物の吸水による土中鉄分の凝集=「擬似焼土」が、風倒木痕にともない多数検出された。また、台地部でTa-c層がTa-c₁層・灰褐色砂質ローム層・Ta-c₂層が明瞭に三分される状況は、2006年調査の祝梅川上田遺跡では目視されている。ただし、キウス4遺跡・ユカンボシC15遺跡の標高6.5m以下においては、流水の營力によって層厚が増幅するので、IV層中の灰褐色砂質ローム層が泥炭質の黒色腐植土層として視認できる。(鈴木)



図III-3 土層柱状模式図

IV 祝梅川小野遺跡

1 遺構

(1) 概要

祝梅川小野遺跡のV層より検出された遺構は、住居跡17軒、土坑73基、Tピット21基、小ピット40基、焼土19か所、剥片集中1か所、礫集中6か所である。これらの大部分は、祝梅川の旧河道を望む高位（標高13～14m）・低位の段丘上（標高10～11m）とこれに続く北～西向きの緩斜面上に立地する。

住居跡の時期は、縄文時代前期前半1軒、前期後半8軒、中期後半1軒、後期前葉2軒、後期中葉5軒である。前期前半の住居跡（VH-13）は、調査範囲中央のやや急な斜面に単独で掘り込まれている。前期後半の住居跡（VH-2～4・6・8・10・15・17）は、調査範囲南側の高位の段丘～緩斜面上に立地する。これらは床面に掘り込みを伴う炉跡や大型の土坑が設けられているなどの特徴があり、大麻V式土器・円筒下層d式土器が出土している。中期後半の住居跡（VH-1）は調査範囲南東隅で検出され、床面にベンチ状構造が見られる。後期前葉の住居跡（VH-5・7）は、タブコア式の土器圓炉を伴うが、明瞭な掘り込みは確認されなかった。後期中葉の住居跡は、調査範囲南側の西向きの緩斜面上（VH-9・11・12・16）と調査範囲北側の低位の段丘から続く氾濫原（VH-14）に立地する。VH-11・12は、炉跡と柱穴のみが確認されたもので、隣接する梅川4遺跡でも類似する住居跡が検出されている（北埋調報269）。VH-14からは手稿式土器の一括資料が出土した。

土坑は、時期が特定できる遺物が坑底部などから出土したものは少ないが、概ね住居跡の分布と一致すると考えられる。調査範囲中央の北向き斜面上で、前期後半の植苗式土器を伴う土坑が4基（VP-23・57・59・61）検出された。これらは覆土の堆積状況や遺物出土状況から、墓の可能性がある。VP-57の坑底部からは、板状の珪藻土が出土している。調査範囲南東側の高位の段丘上で検出されたVP-1・15・17・20・21からは、いわゆる「サツマアゲ状土製品」（北埋調報116）と称される盤状粘土塊が出土した。同様の遺物は周辺の住居跡VH-15・17からも出土しており、前期後半の大麻V式期の所産と考えられる。調査範囲南西側の緩斜面上では、ウサクマイC式（VP-39）、銚溝式（VP-41）、堂林式（VP-30）など後期中～後葉の土器を伴う土坑が検出されている。

Tピットは、周辺の遺構の時期から、中期前半～後期初頭に構築されたと推測される。すなわち、前期後半の住居が廃絶されてから、後期前葉の住居が営まれるまでの間である。形態は楕円形と長楕円形のものがある。楕円形のものは、緩斜面上のはば同じ標高に4ないし5基が並列する例（VTP-5・6・11・12・13とVTP-14・15・16・20）が見られる。長楕円形のものは、やや急な斜面の上段と下段に2基が並列（VTP-2・10とVTP-7・8）あるいは重複（VTP-3・4）する例が見られる。逆茂木痕と考えられる坑底面の小ピットは楕円形のものに多い。

なお、遺構番号VP-5・7・9・26・27・28、VF-8・10～12は、調査の進捗により、住居跡の付属遺構や、屋倒木などの搅乱と判断されたため、欠番となった。

(芝田)

(2) 住居跡

VH-1 (図IV-1-5～8/表1～5・7・11/図版2)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた堅穴住居跡。VI層上面で、V層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。全体の約1/2は調査範囲外である。調査範囲東側の境界壁面を長軸とし、これに直行する短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立

ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆土 1～3層はV層を起源とする腐植土。2層には掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入している。4・5層は腐植土とロームの混合で、床面直上に堆積していた。6層はいわゆる三角堆積した壁際の腐植土。いずれも自然堆積である。

形態 東側約1/2が調査範囲外にあるため平面形は不明であるが、調査部分から、ほぼ円形と推測される。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。北東側の壁の一部は木根による搅乱を受けていた。床面は壁際から1～2mの範囲に平坦なベンチ状構造が見られ、中央部よりも1段高くなっている。このベンチ状構造は壁際のローム（VII層）を高めに掘り残したもので、土盛りなどで整形したものではない。床面中央部も平坦であり、平面形は橢円形と推測される。

付属遺構 HF-1～3：床面中央部に3か所の炉跡が並んで検出された。いずれも一部は調査範囲外であるが、平面形は橢円形と推測される。HF-1は住居床面のほぼ中央に位置し、最も規模が大きい。HF-2・3はHF-1よりやや北側へ離れた位置に近接して位置する。これらは上部に炭化材を多量に伴い、下部の床面は非常に強く被熱していた。HF-1の周辺からは、砥石や石斧剥片、黒曜石製の剥片などが出土している。

HP-1～18：住居跡の内外から小土坑が18基検出された。このうちHP-1・4・9・10はベンチから床面中央へ降りる段差に、HP-2・3・5～8・12は床面中央の平坦部に、HP-11・17・18はベンチの平坦部に、HP-13～16は住居の掘り込みの外側に掘り込まれていた。これらは住居の中心（HF-1～3）から間隔を空けて同心円状に設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形もしくは橢円形を呈する。深さは検出面より10～20cmで、掘り込みが垂直なものが大半である。HP-11・16は住居の中心へ向かって強く内傾する。

遺物出土状況 遺物は北側のベンチ部分と床面中央部のHF-1周辺より多く出土している。また、南側の壁際からは頁岩製の剥片集中が4か所検出された。土器はⅢ群b-3類（図IV-2-19-125～127）が出土している。石器等は、石鎌・石槍（図IV-2-26-2・4・5）・つまみ付ナイフ片・石斧片・石のみ（8）・たたき石（9）・砥石片・剥片・礫などが出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代中期末葉である。

（芝田）

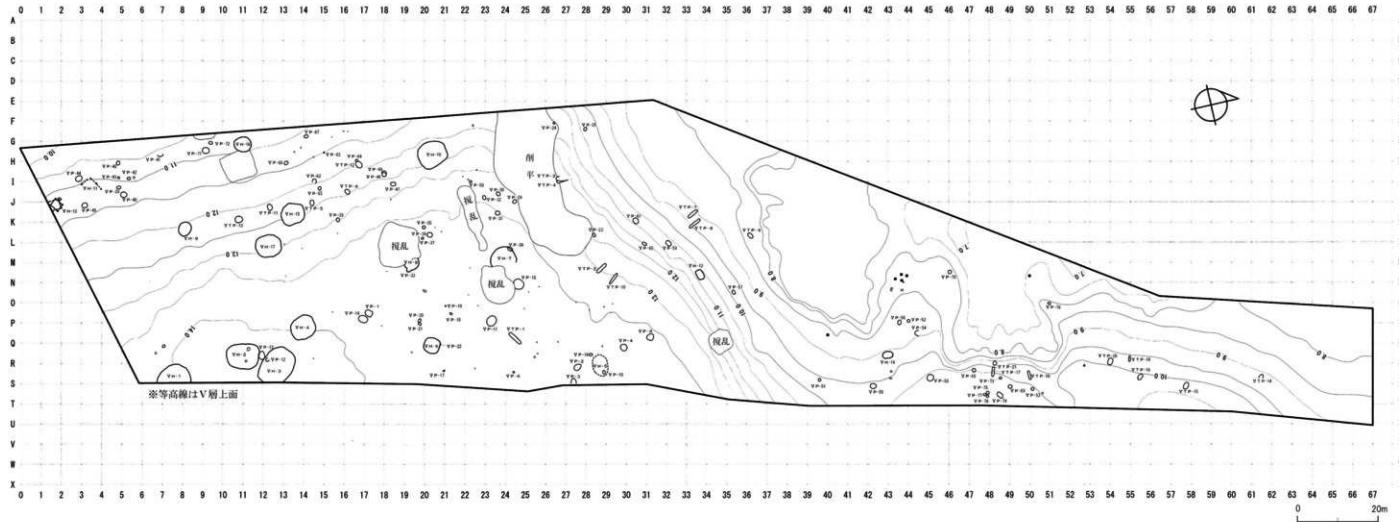
VH-2（図IV-1-9～12/表1～7/図版3）

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。V層の調査中、堆積状況の確認のため、北海道教育委員会による試掘坑を精査したところ、土層断面に掘り込みの一部が見られた。その後、土層観察用の土手を残して周囲を掘り下げるに、VI層上面で黒色土が橢円形に落ち込んでおり、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

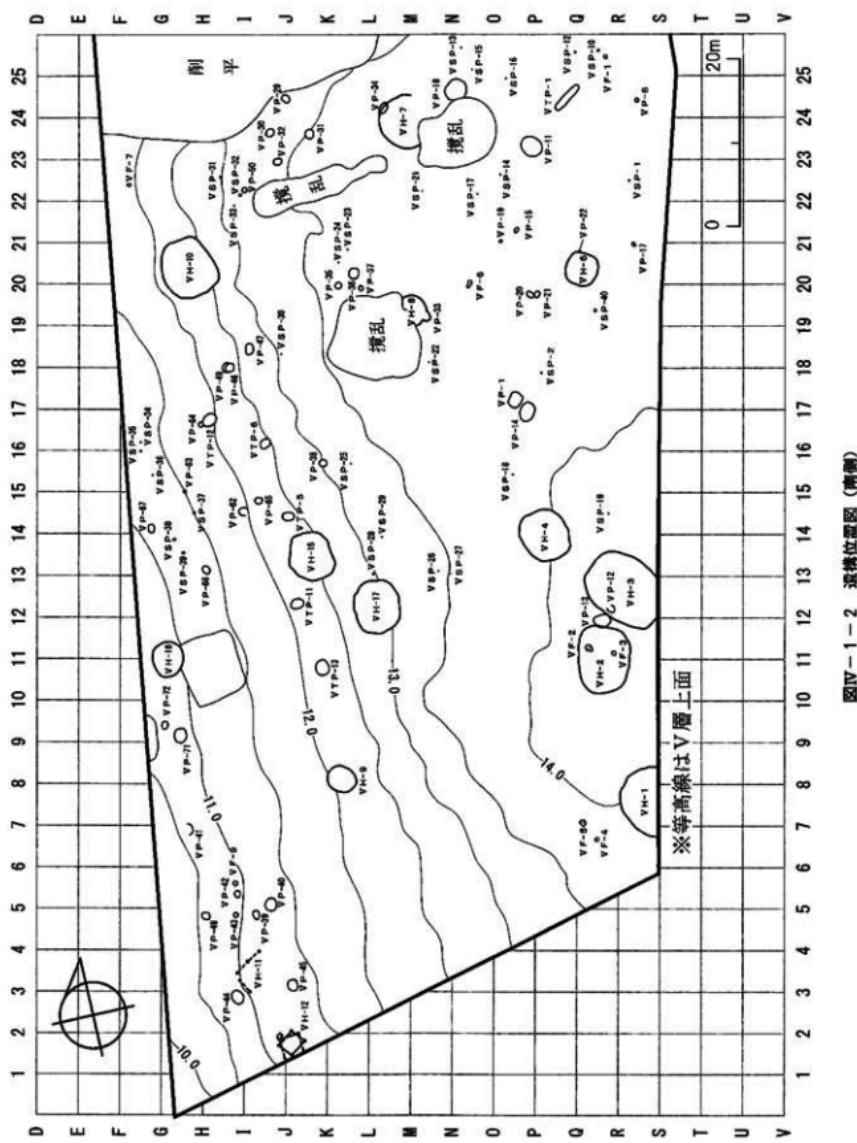
覆土 1・2層はV層が落ち込んだ腐植土。2層には掘り上げ土の流れ込みと考えられるEn-a降下軽石が混入している。3～5層は腐植土とロームの混合で、壁際から床面直上にかけて堆積していた。5層は床面中央部にのみ堆積していた。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は北側がやや広がった橢円形。壁面は明瞭で、内傾する。床面は中央へ向かってごく緩く傾斜している。北側の壁の一部はVP-13により壊されている。床面より焼土1か所（HF-1）、土坑3基（HP-1・2・23）、小土坑16基（HP-3～16・20・21・24）、掘り込みの外側から小土坑4基（HP-17～19・22）が検出された。

付属遺構 HF-1・HP-1：HF-1は床面中央よりやや南側に位置する、HP-1の内部に設けられた炉である。HP-1は平面形が橢円形で、南東側の一部が外側へ突き出ている。床面を約15

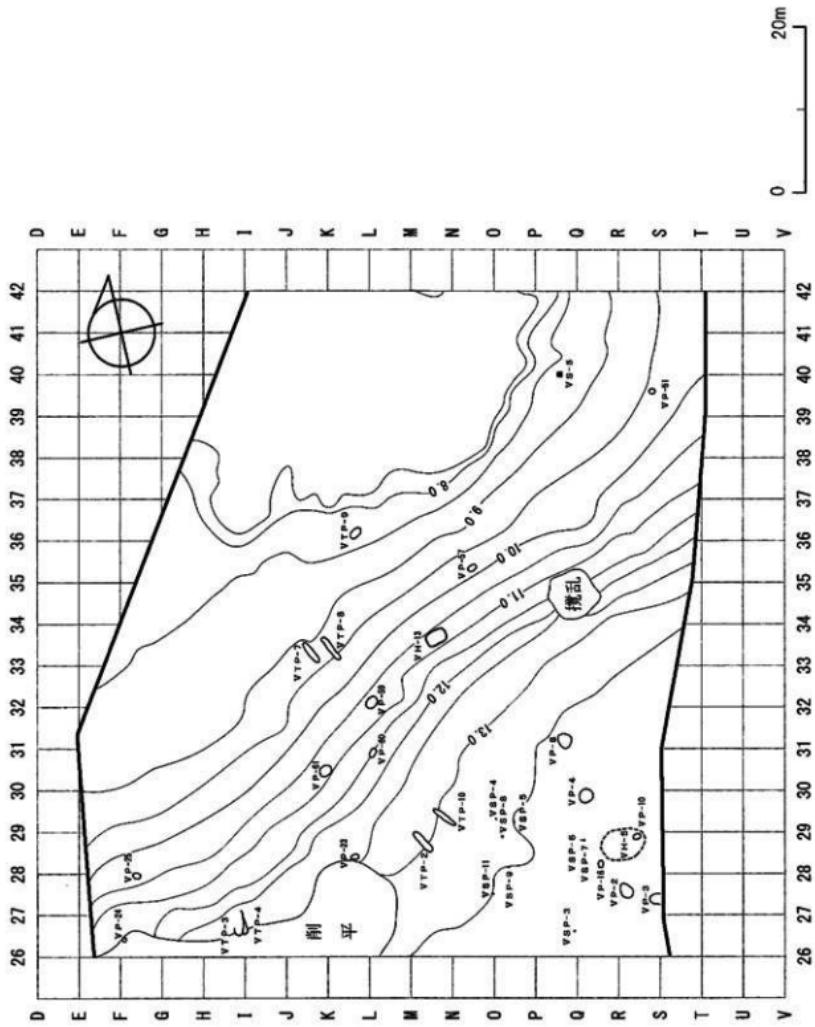


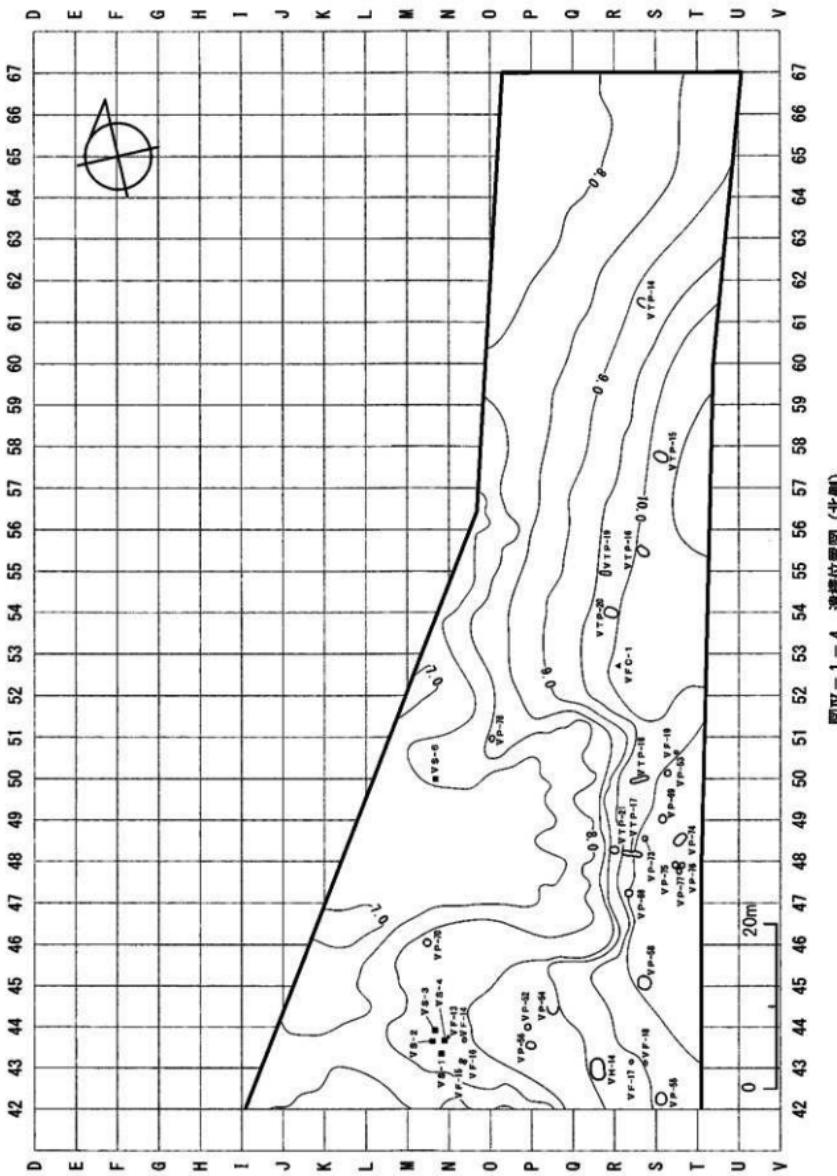
図IV-1-1 遺構位置図（全体）



図IV-1-2 連携位置図(南側)

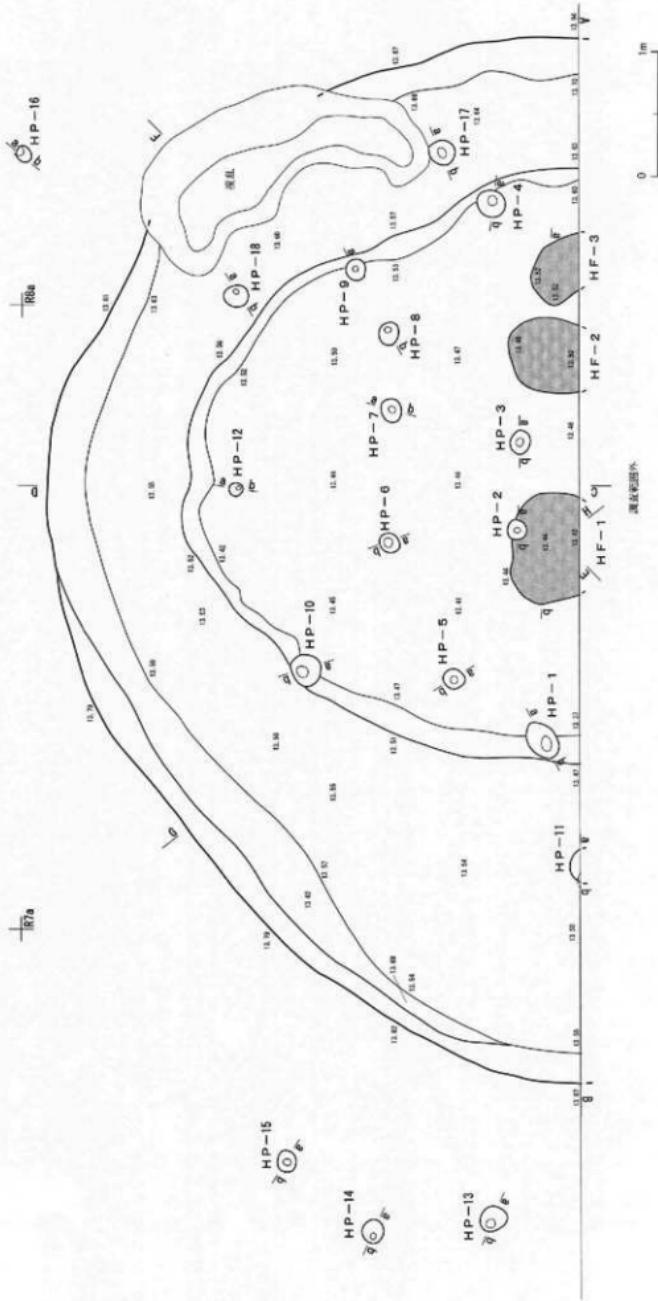
图IV-1-3 造構位置圖（中央）





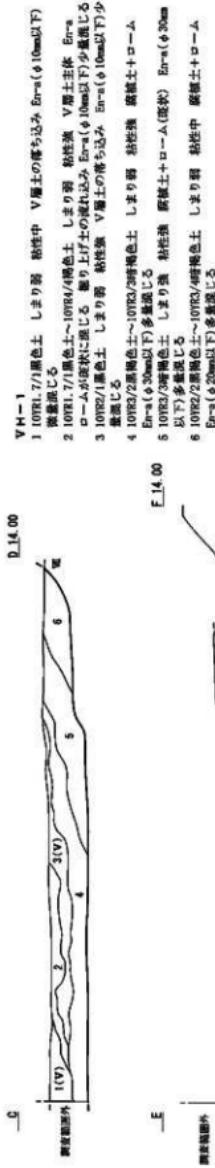
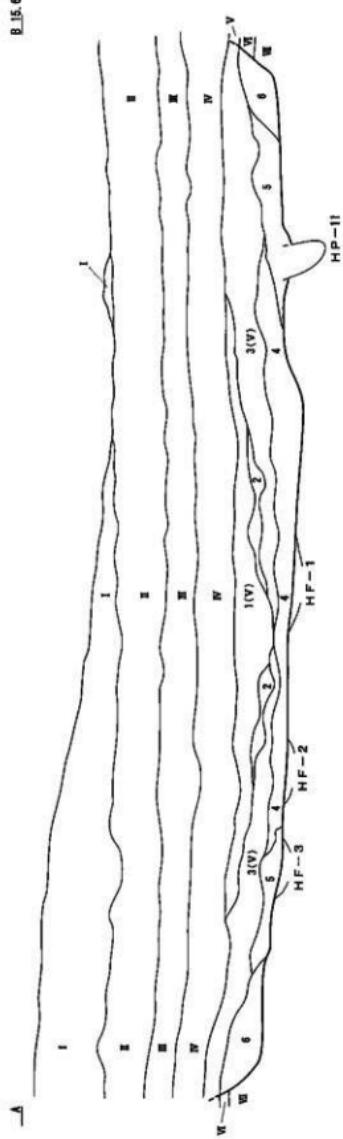
図IV-1-4 遺構位置図(北側)

VH-1

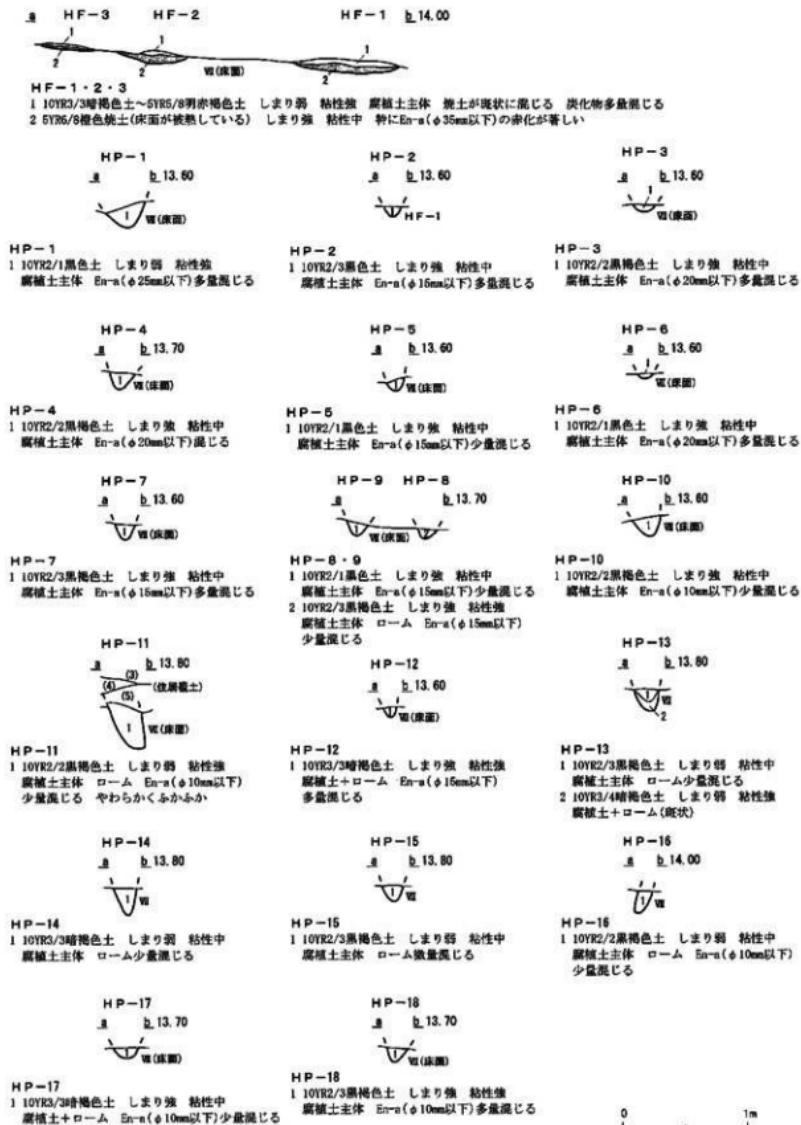


図IV-1-5 VH-1

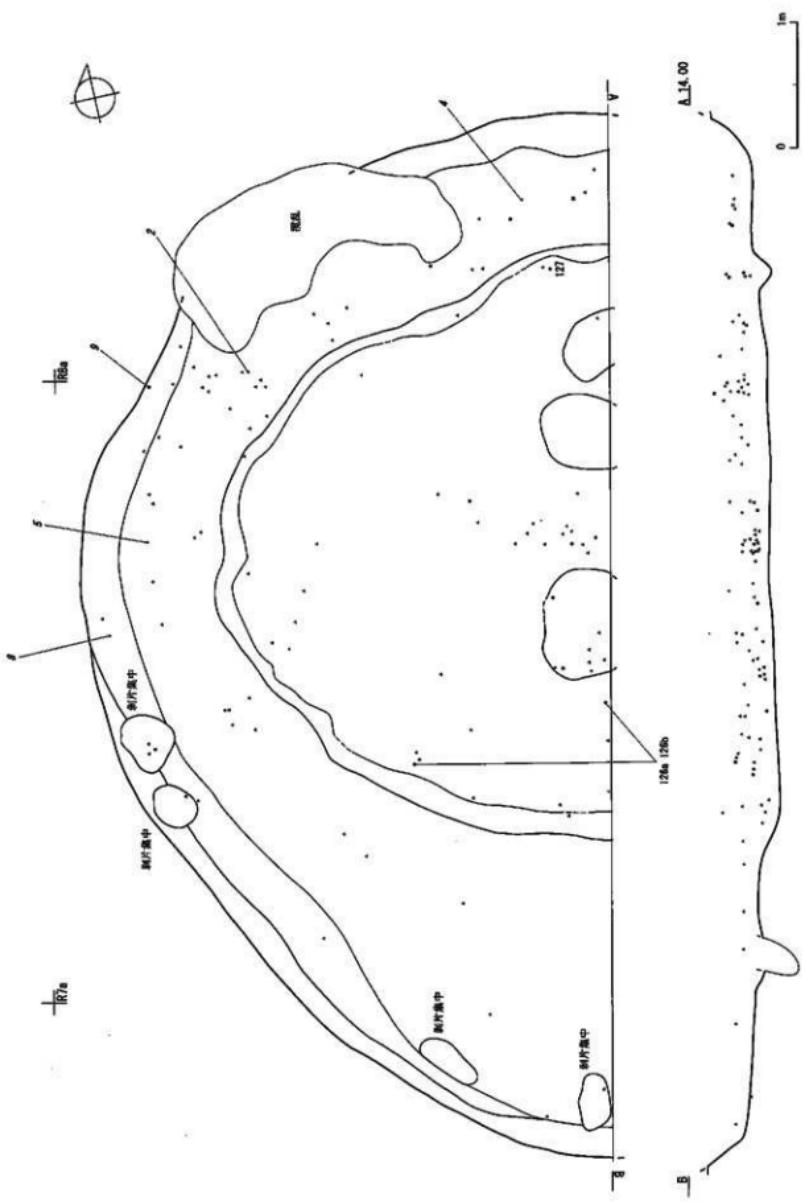
B 15.60



§IV-1-6 VH-1 土層断面



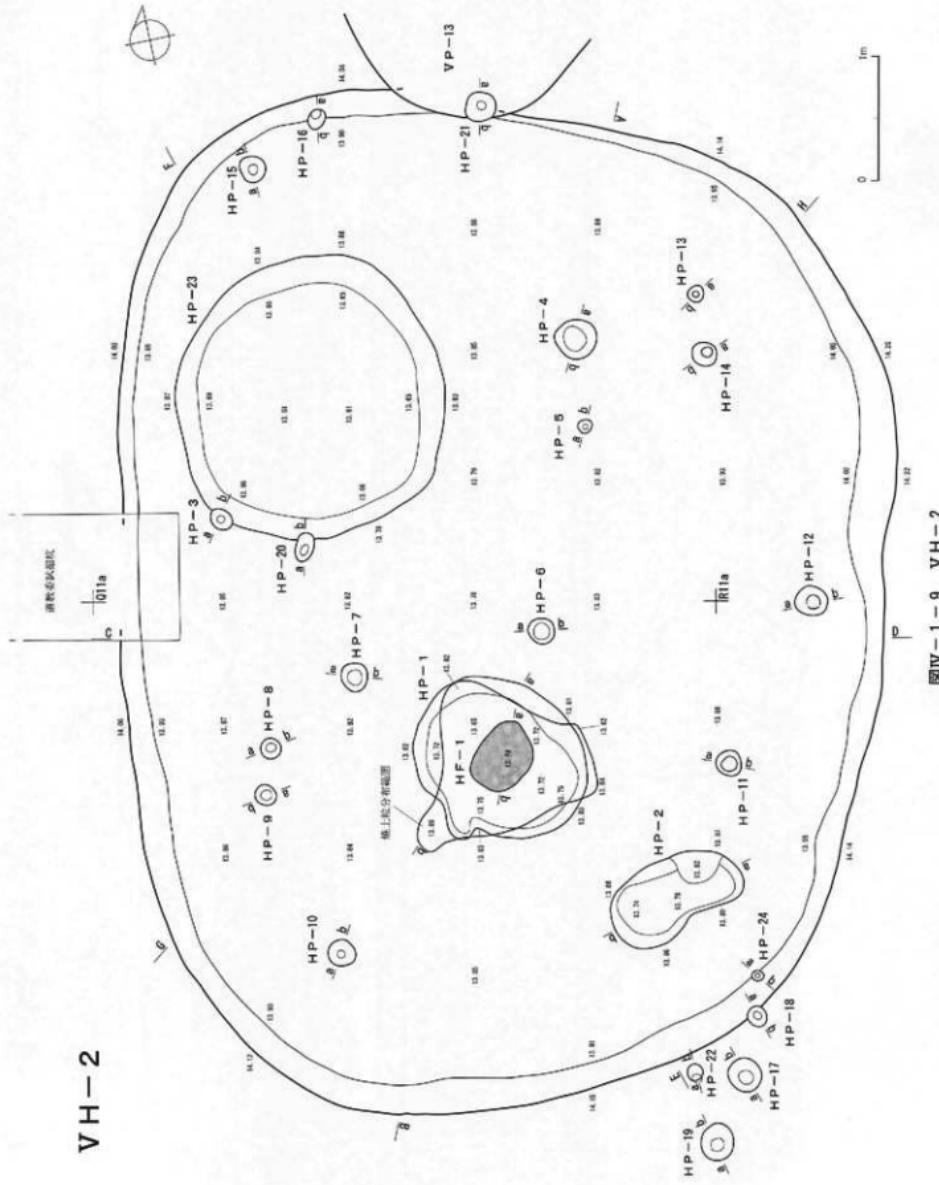
図IV-1-7 VH-1・HF-1~3、HP-1~18土層断面



图IV-1-8 VH-1 遗物出土位置图

VH-2

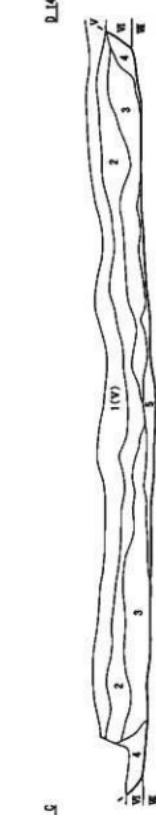
清獻公集



B.14.60



V-H-2
1 10PI.7/1褐色土 しまり弱 棲生中 V層土の基部から
2 10PI.7/1褐色土 しまり強 棲生中 褐鐵土主体
Eri-(4-26mm)F 多量葉化石(黒色)
3 10PI.2/4褐色土 しまり弱 黑粘土
Eri-(4-26mm)F 多量葉化石(5mm)
4 10PI.2/3褐色土 しまり弱 棲生強 ローム主体 褐鐵土
5 10PI.2/2褐色土 しまり弱 棲生強
Eri-(4-26mm)F 多量葉化石(5mm)



F.14.60

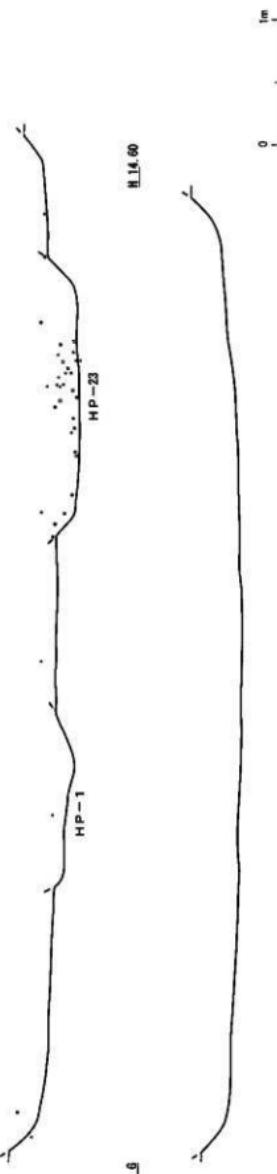
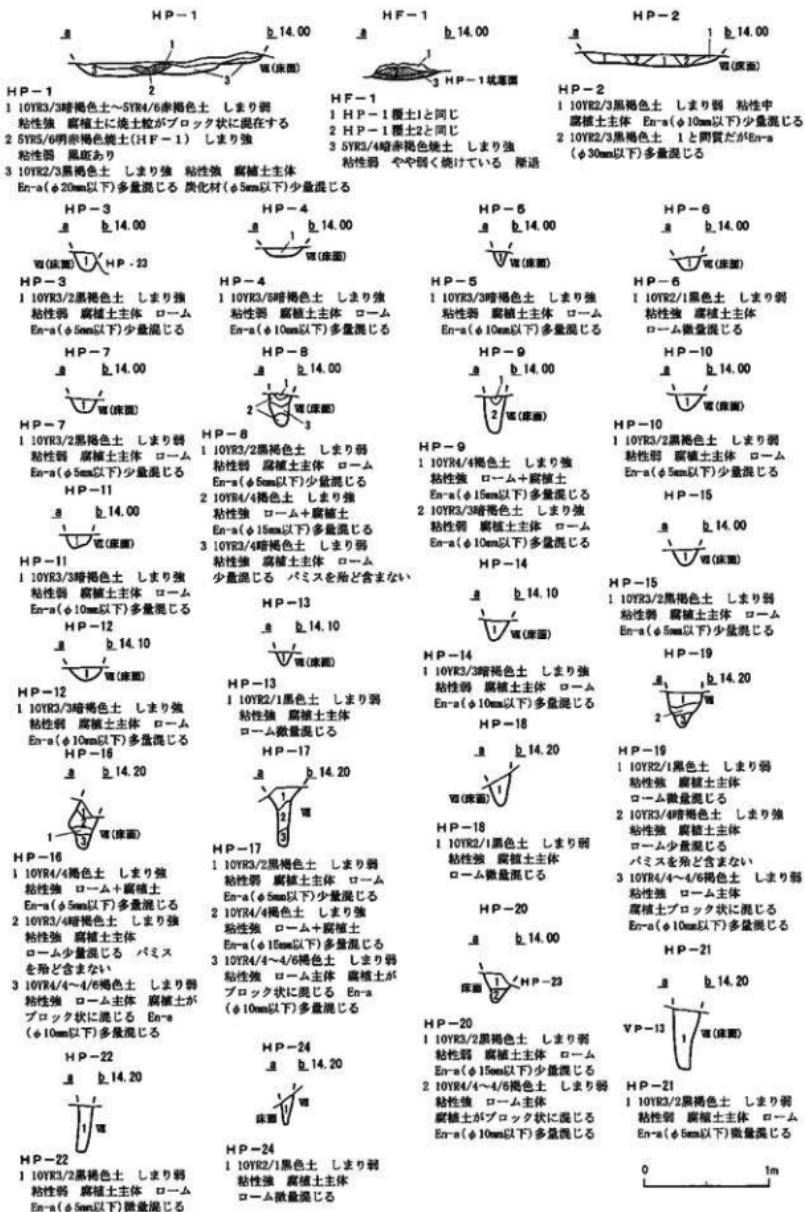
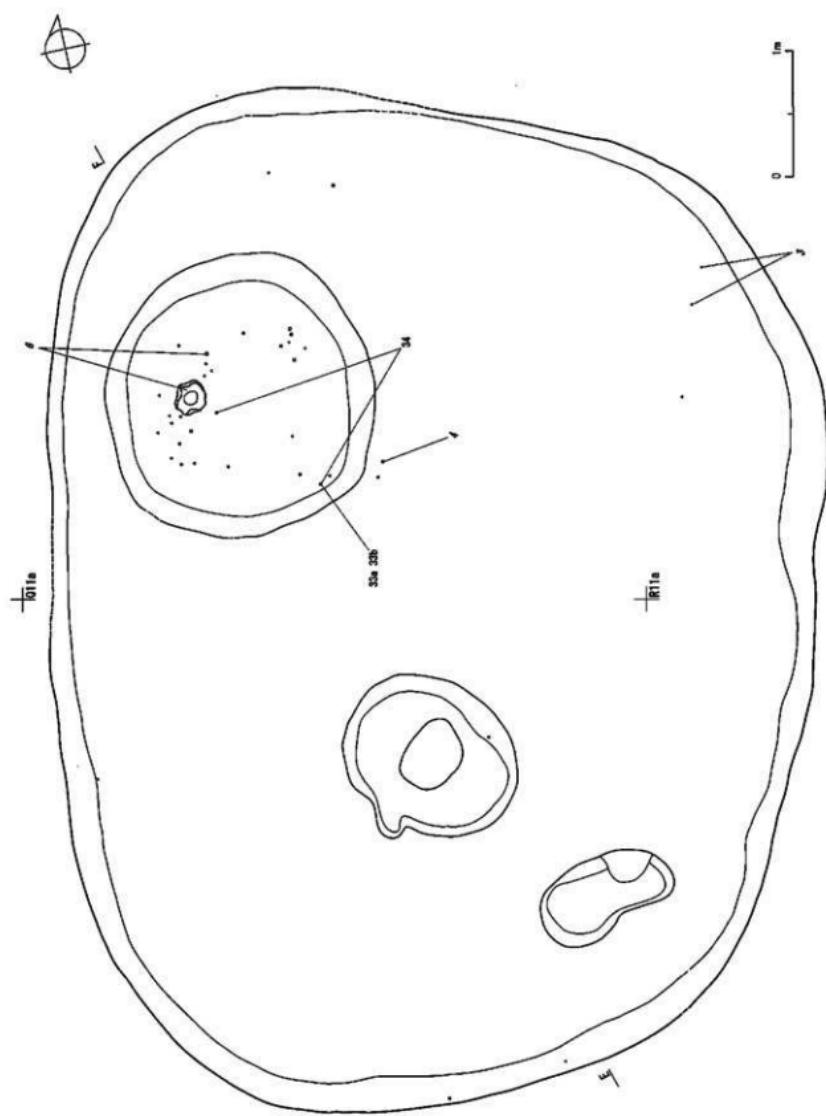


図 IV-1-10 V-H-2 土層断面



図IV-1-11 VH-2・HF-1、HP-1~22・24土層断面

図IV-1-12 VH-2遺物出土位置図



cm掘り下げた後、火床を小さくするため坑底面に土を貼って整形している。H F - 1 は、この貼り土（H P - 1 の覆土 3 層）が被熱したもので、上部に焼土粒を多く含む腐植土（H P - 1 の覆土 1 層）の分布が認められた。この腐植土層は炉の使用に伴う自然堆積と考えられる。

H P - 2 : 床面南側で検出された、浅い土坑。平面形は不整な楕円形を呈する。坑底面はほぼ平坦であるが、西側の一部が掘り残されて高くなっている。用途は不明である。

H P - 23 : 床面北側で検出された、やや大型の土坑。平面形は円形を呈する。壁面は明瞭で、内傾ぎみに掘り込まれている。坑底面は平坦である。V H - 2 の覆土 3 層が坑底部まで落ち込んでおり、新旧関係が確認されなかったことから、住居の付属遺構と判断した。用途は不明である。坑底部より採取した炭化材を試料として放射性炭素年代測定（AMS 法）を行ったところ、暦年較正年代で 4,537 ± 37 yr BP という数値が得られた。詳細は VI 章第 1 節を参照されたい。

H P - 3 ~ 22・24 : これらは住居跡の内外に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形や楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面や V 層上面より 15 cm 以下の浅いもの（H P - 3 ~ 7・10~15）と、15~50 cm のやや深いもの（H P - 8・9・16~22・24）がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部（壁際）や屋外に多い。H P - 3・20 は H P - 23 の掘り込みの縁辺に位置する。H P - 6~11 は H F - 1・H P - 1 の周囲を巡るような配置になっている。H P - 17~19・22 は、掘り込みの南側外でまとまって検出された。

遺物出土状況 床面全体では壁際でフレイク・チップが集中して出土したほかは、非常に希薄であった。H P - 23 の坑底部からは石皿（図 IV - 2 - 27 - 6）、近接する床面から北海道式石冠（4）が出土している。このほか、土器等は II 群 b - 2 類（図 IV - 2 - 13 - 33~35）、III 群 b - 3 類（図 IV - 2 - 6 - 16）、再生土製円盤（図 IV - 2 - 23 - 1）、石器等は、石斧（図 IV - 2 - 27 - 3）、すり石（4）、砥石、石皿（6）、剥片、礫が出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代前中期末葉である。

（芝田）

V H - 3 (図 IV - 1 - 13~15 / 表 1 ~ 5・7 / 図版 4)

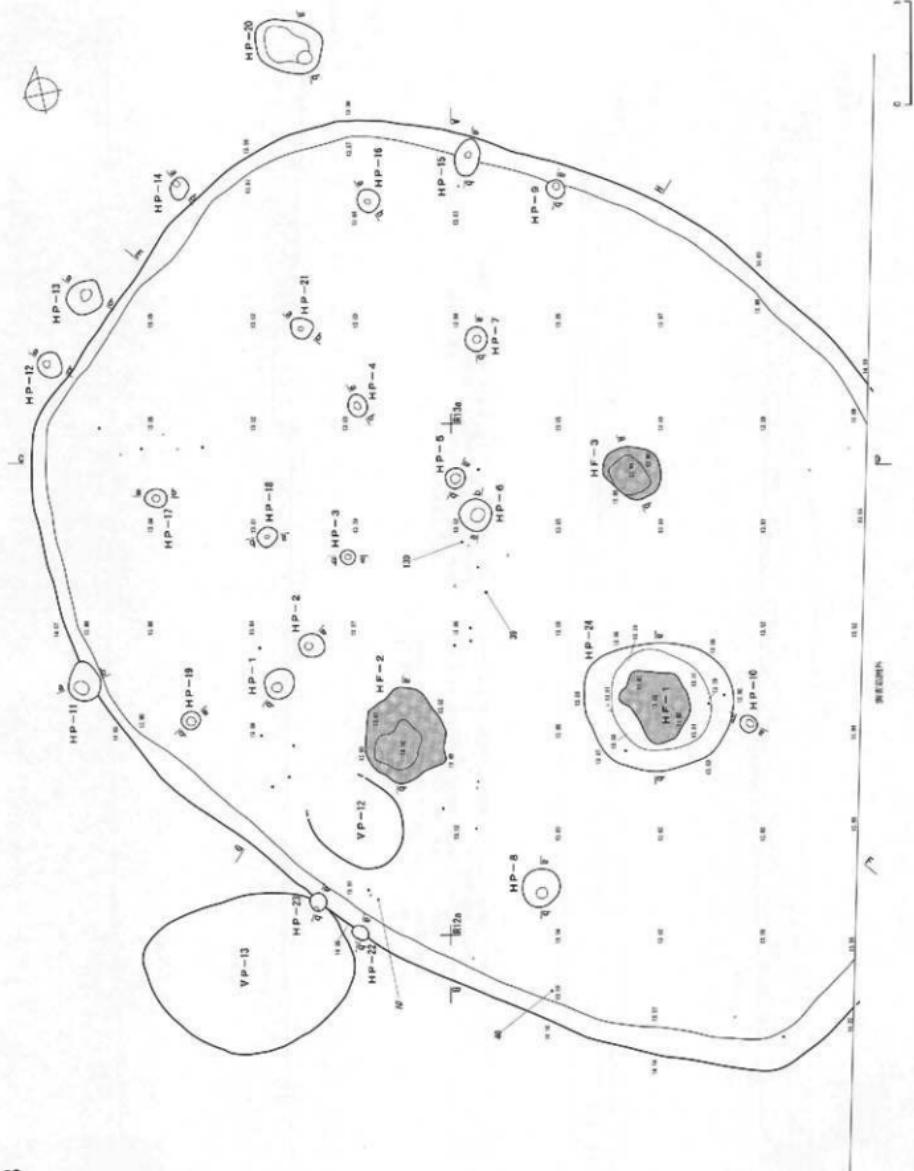
確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。V 層の調査中、遺物が密集して出土した部分があり、土層観察用の土手を残して周囲の V 層土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面は V 層中と推測される。南東側の一部は調査範囲外である。

覆 土 1・2 層は V 層が落ち込んだ腐植土。2 層には掘り上げ土の流れ込みと考えられる En-a 降下軽石が混入しており、特に中央部に多い。3~5 層は腐植土とロームの混合で、壁際から床面直上にかけて堆積していた。5 層は北側にのみ疎らに分布する。いずれも自然堆積である。

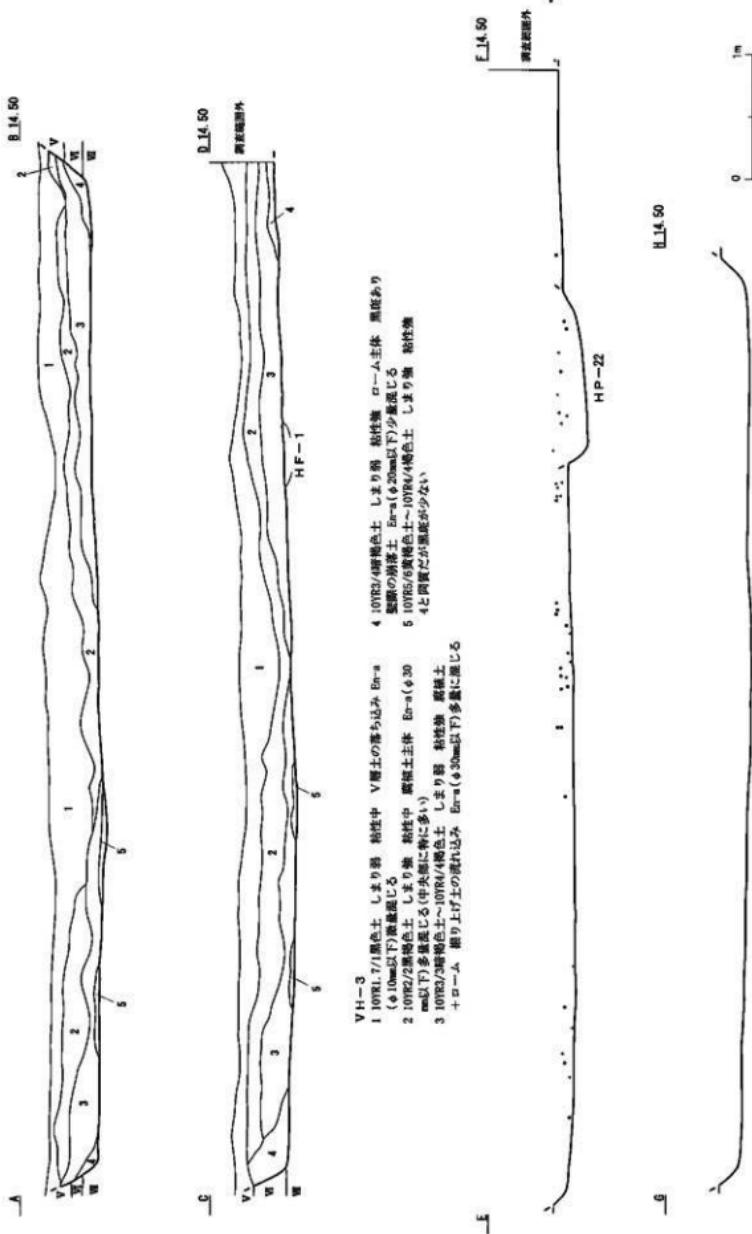
形態 平面形は楕円形。壁面は明瞭で、内傾する。床面はほぼ平坦である。西側で V P - 13 と接するが、掘り込みに重複は見られない。ただし、この住居の柱穴 H P - 23 が V P - 13 を掘り込んでいることから、V H - 3 が新しい。また、西側の覆土～床面が V P - 12 に壊されている。床面より焼土 3 か所（H F - 1 ~ 3）、土坑 1 基（H P - 24）、小土坑 16 基（H P - 1 ~ 10・15~19・21）、掘り込みの外側から小土坑 7 基（H P - 11~14・20・22・23）が検出された。

付属遺構 H F - 1・H P - 24 : H F - 1 は床面中央よりやや南側に位置する、H P - 24 の内部に設けられた炉である。H P - 24 は平面形が楕円形、断面は皿形である。H F - 1 は、この浅いくぼみ（H P - 24 の坑底面）が焼けたものである。上部に焼土粒・炭化材・黒曜石のフレイク・チップを多く含む腐植土（H P - 24 の覆土 1・3 層）が堆積していた。

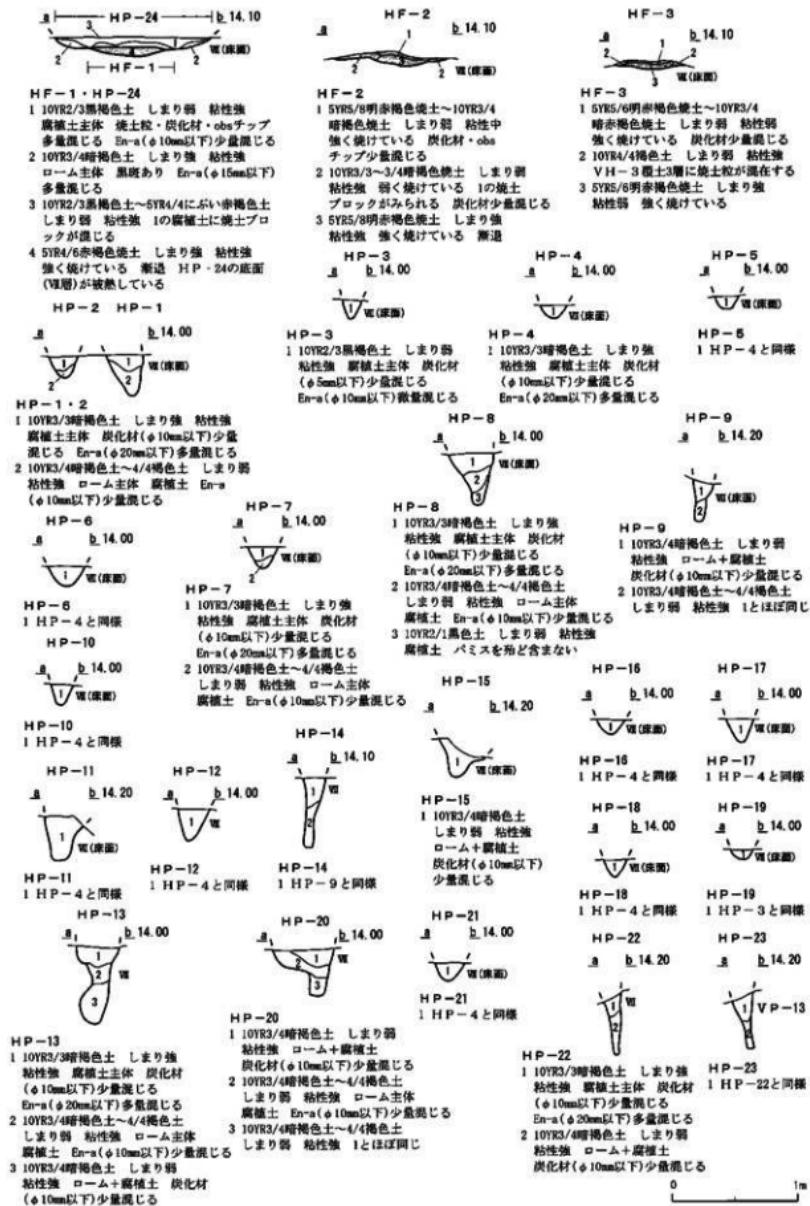
VH-3



図IV-1-13 VH-3



図IV-1-14 VH-3 土層断面



図IV-1-15 VH-3・HF-1~3、HP-1~24土層断面

H F - 2 : H F - 1 より約 2 m 離れた、西側の床面に設けられた炉。H F - 1 よりもやや規模が小さいが、強く焼けている。副次的な用途をもつ炉として、継続的に使用されたと考えられる。

H F - 3 : H F - 1 より約 2 m 離れた、東側の床面に設けられた炉。H F - 1・2 よりも規模が小さいが、強く焼けている。副次的な用途をもつ炉として、継続的に使用されたと考えられる。

H P - 1 ~ 23 : これらは住居跡の内外に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形や楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面や VII 層上面より 15 cm 以下の浅いもの (H P - 2 ~ 7・16~19・21) と、15~50 cm のやや深いもの (H P - 1・8・9・11~15・20・22・23) がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部 (壁際) や屋外に多い。H P - 20 は坑口部が大きく広がっており、外側へ柱が倒れた可能性がある。

遺物出土状況 床面より疎らに遺物が出土した。土器は、II 群 b - 1・2 類 (図 IV - 2 - 13-36~40)・III 群 b - 3 類 (図 IV - 2 - 19-128~130)、石器等は、石槍 (図 IV - 2 - 28-4)・石錐片・つまみ付きナイフ (10)・石斧片・北海道式石冠片・剥片・礫などが出土している。

時期 床面出土の遺物から、縄文時代前期末葉である。

(芝田)

V H - 4 (図 IV - 1 - 16・17 / 表 1 ~ 5・7 / 図版 5)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面上に掘り込まれた竪穴住居跡。VI 層上面で、V 層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。長軸および短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面は V 層中と推測される。

覆土 1・2 層は V 層を起源とする腐植土。2 層には En-a 降下軽石が多量に混入している。3 層はローム主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられる。4 層は腐植土とロームの混合で、床面直上に堆積していた。5 層はいわゆる三角堆積した壁際の腐植土。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は北西側が少し突き出した不整円形。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、中央部と北側が若干低い。床面より焼土 1 か所 (H F - 1)、土坑 2 基 (H P - 3・4)、小土坑 1 基 (H P - 1)、掘り込みの外側から小土坑 1 基 (H P - 2) が検出された。

付属遺構 H F - 1・H P - 4 : H F - 1 は床面中央よりやや南側に位置する、H P - 4 の内部に設けられた炉である。H P - 4 は平面形が不整な楕円形、断面は皿形である。H F - 1 は、この浅いくぼみ (H P - 4 の坑底面) が焼けたものである。上部に焼土粒・炭化材・黒曜石製の剥片が多く含む腐植土 (H P - 4 の覆土 1 層) が堆積していた。

H P - 1 : 南東側の床面で検出された小土坑で、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形を呈する。掘り込みは垂直で、深さは床面より約 10 cm である。

H P - 2 : 住居の南東側外で検出された小土坑で、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形を呈する。掘り込みは先端が細く、断面がわずかに湾曲する。深さは VII 層上面より約 60 cm である。

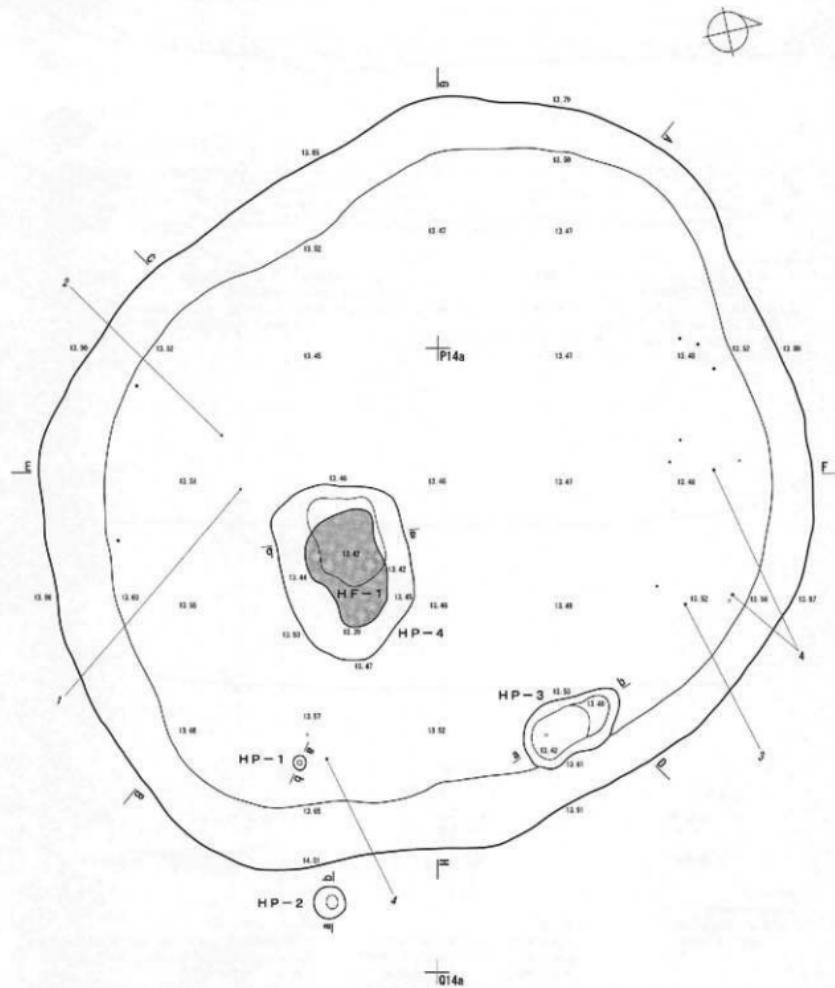
H P - 3 : 床面西側の壁際で検出された、浅い土坑。平面形は不整な楕円形を呈する。坑底部は段が見られ、南側の一部が少し低い。覆土は V H - 4 の覆土 5 層と同じである。用途は不明。

遺物出土状況 全体的に出土遺物は少ないが、西側の床面でやまとまりが見られる。土器は、II 群 b - 1 ~ 3 類 (図 IV - 2 - 4 - 4・13-41~49)・III 群 b - 3 類 (図 IV - 2 - 19-131)・IV 群 a - 2 類 (図 IV - 2 - 19-134)、石器等は、つまみ付きナイフ (図 IV - 2 - 28-1・2)・スクレイバー (3)・石斧片・砥石 (4)・剥片・礫などが出土している。

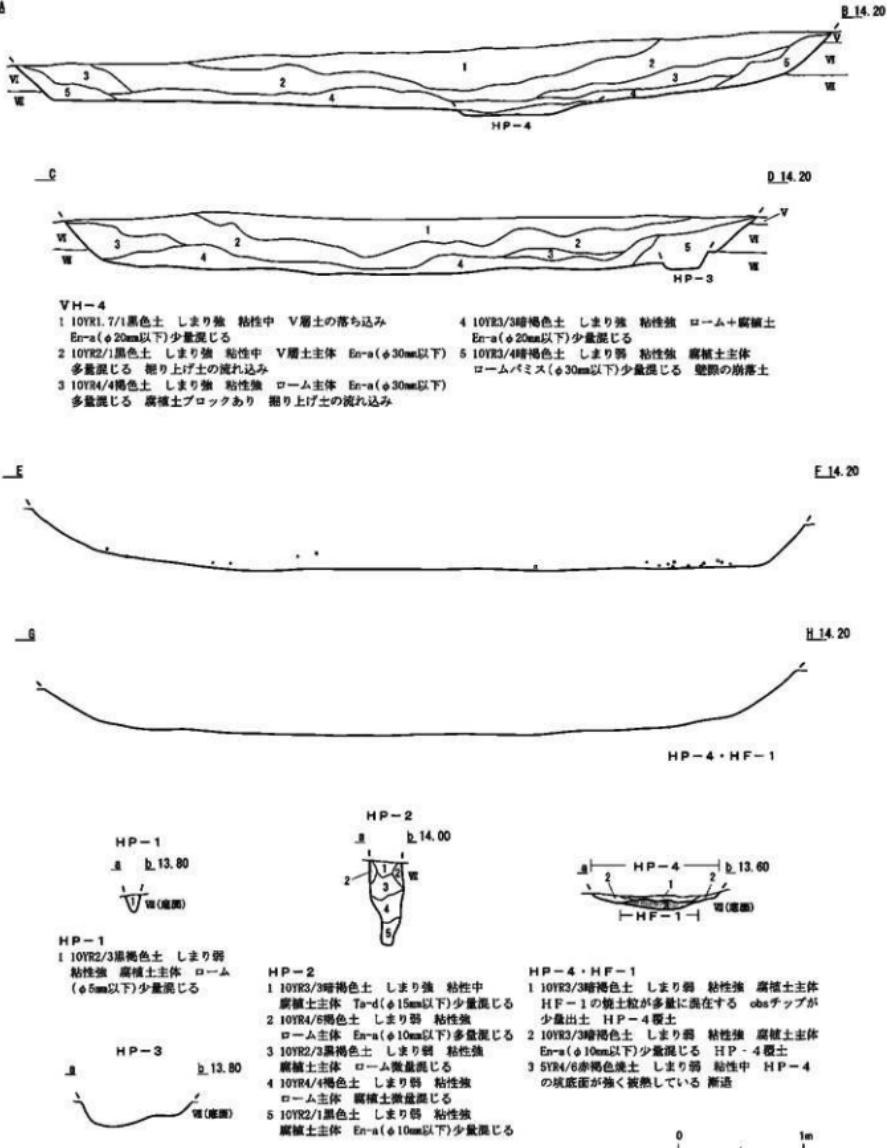
時期 床面出土の遺物から、縄文時代前期末葉である。

(芝田)

VH-4

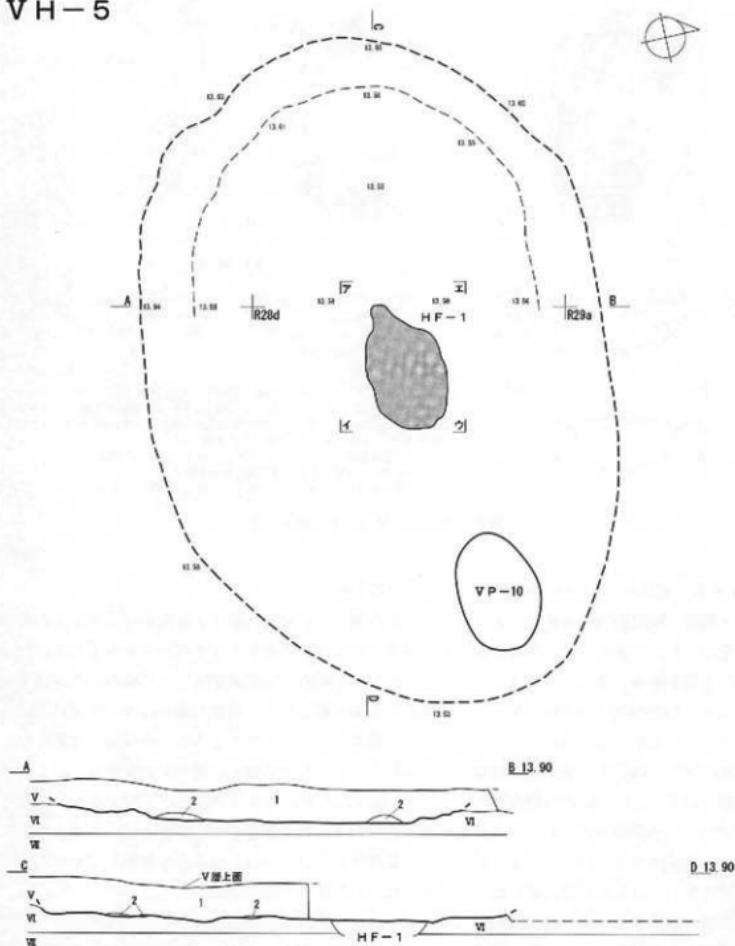


图IV-1-16 VH-4



図IV-1-17 VH-4 土層断面

V H - 5

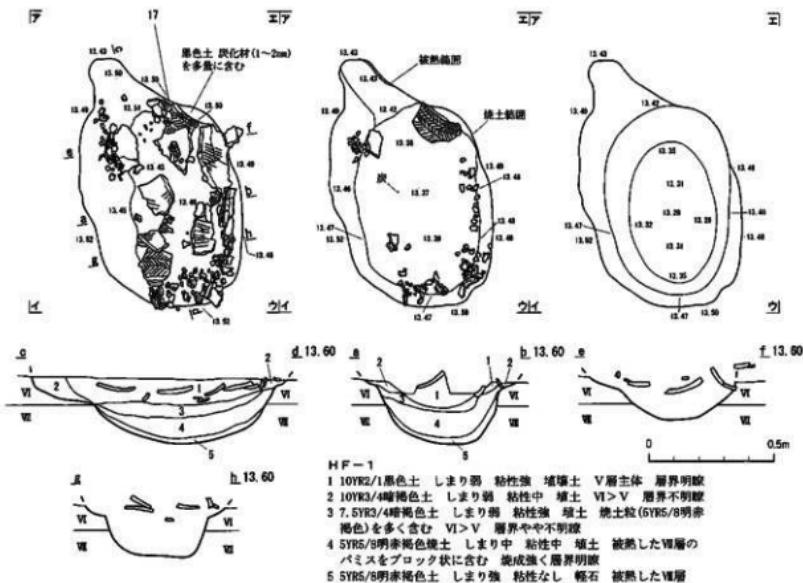


V H - 5

- 1 10YR2/1墨色土 しまり弱 粘性強 塗土 V層の自然堆積土
2 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 塗土 V>VI 自然堆積土?



図IV-1-18 VH-5



VH-5 (図IV-1-18・19/表1~5・11/図版6)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で土器片を伴う黒色土の落ち込みを検出した。土器片の多くが破断面を上に直立しており、黒色土に炭化材が多く含まれていたことから、土器焼土と判断した(HF-1)。HF-1から東側(R28調査区)はV層の調査が終了していたため、Q28調査区の東境(Rライン)断面で土層を観察した。明瞭な掘り込み・床面は確認されなかったが、HF-1を中心としてV層土がごく浅くばんでいたことから、住居跡と認定した。

覆土 1・2層ともV層の自然堆積と考えられるが、下部のVI層との層境がやや乱れている。

形態 HF-1より東側を確認前に削平してしまったため、全体の平面形は不明である。西側の調査部分から、不整橈円形であった可能性がある。HF-1の構築面から、V層下位～VI層上位が床面だったと推測される。HF-1より約2m東に位置するVP-10は、坑底面が被熱しており、住居の建て替えもしくは炉の移設以前に使用されていた古い炉跡の可能性がある。

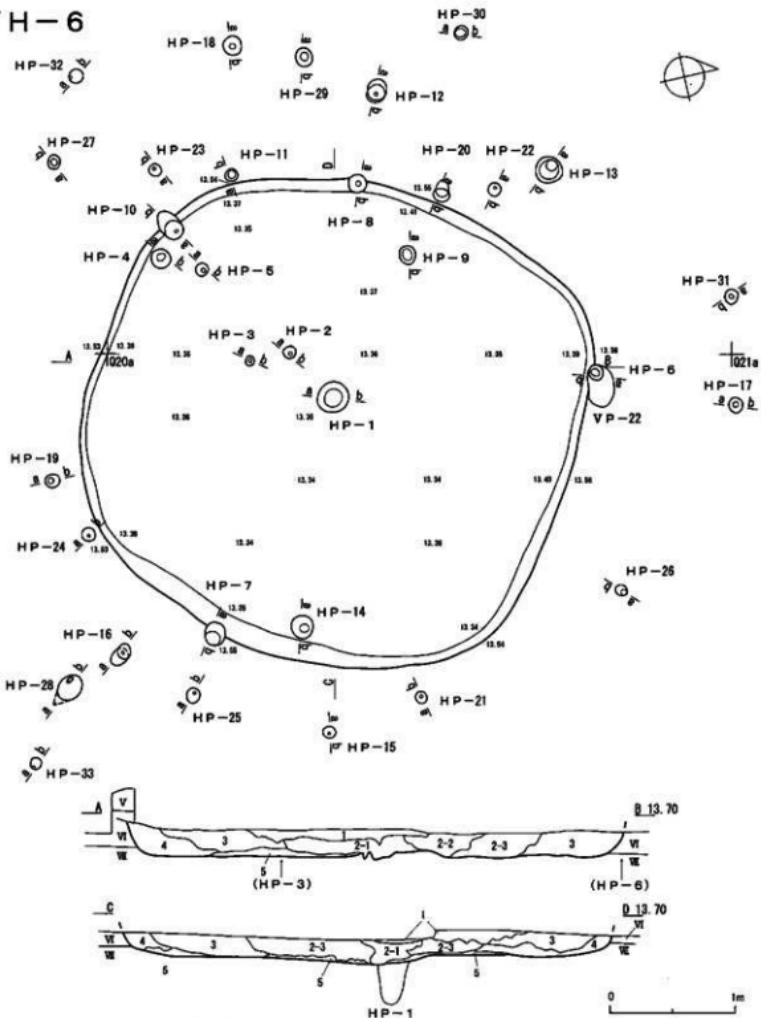
付属遺構 HF-1: 深さ約30cmの不整形な掘り込みの内部に構築された土器焼土。IV群a-2類土器が炉材として使用されている(図IV-2-7-17、19-135・136)。口縁～胸部の大型破片と細片が細長い「コの字」状に配置され、西側が開く。炉内部は炭化材を多量に含む黒色土が堆積し、その下部から強く被熱した焼土層が検出された。また、掘り込みの周縁部および底面のVI～VII層でも被熱範囲が認められた。

遺物出土状況 覆土中からII群b類・IV群a-2類土器、剥片、礫が疎らに出土した。HF-1からは炉材のIV群a-2類土器のほか、黒曜石製の石鏃・剥片が出土している。

時期 HF-1に使用されている土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

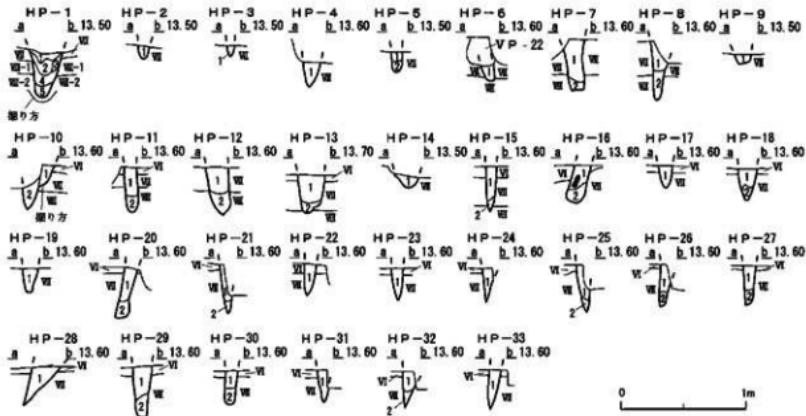
(芝田)

V H - 6



- VH-5
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性強 塗土 V層主体 $E_n-a (\phi 1 \sim 20mm)$
と $T_{ad} (\phi 1 \sim 15mm)$ をまばらに含む 層界は不明瞭
 - 2 3枚に分層できるが層界は不明瞭で漸移的
 - 2-1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性強 VI > V 塗土
 - 2-2 10YR4/6褐色土 塗土 しまり強 粘性弱 VI層主体
 - 2-3 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性弱 塗土 VI層主体
 - 3 10YR2/4褐色土 しまり強 粘性弱 塗土 VI > V
 - 4 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 塗土 VI > V 層界はやや明瞭
 - 5 10YR5/3暗褐色土 しまり強 粘性中 塗土 V > VI 層界は明瞭

図IV-1-20 VH-6



HP-1

1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性強 塙土 V>VI
 $Ta-d(\phi 1 \sim 5mm)$ En-a($\phi 1 \sim 10mm$)をまばらに含む
 2 10YR2/1黑色土 しまり弱 粘性強 塙壌土 V層主体
 VI層のローム質土をまばらに含む
 3 10YR5/6黄褐色土 しまり強 粘性弱 塙壌土 墓層主体
 En-a($\phi 1 \sim 3mm$)をブロック状に含む
 4 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 塙壌土 VI>V
 $Ta-d(\phi 1 \sim 5mm)$ En-a($\phi 1 \sim 10mm$)を多く含む
 5 10YR4/6褐色土 しまり強 粘性強 塙壌土 VI>V>VI
 $En-a(\phi 1 \sim 3mm)$ をブロック状に含む

HP-2

1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性強 塙土 V層主体

HP-3

1 HP-2と同様

HP-4

1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性強 塙土 V>VI
 $Ta-d(\phi 1 \sim 6mm)$ En-a($\phi 1 \sim 10mm$)をまばらに含む

HP-5

1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性強 塙土 V層主体
 2 10YR2/1黑色土 しまり弱 粘性強 塙壌土 V層主体
 VI層のローム質土をまばらに含む

HP-6

1 HP-2と同様

HP-7

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 塙土
 VI層主体 層界は漸変 $Ta-d(\phi 1 \sim 3mm)$ をごくわずかに含む
 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性強 塙土 V>VI
 $Ta-d(\phi 1 \sim 5mm)$ En-a($\phi 1 \sim 10mm$)をまばらに含む

HP-8

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 塙土
 VI層主体 層界は漸変 $Ta-d(\phi 1 \sim 3mm)$ をごくわずかに含む
 2 10YR2/1黑色土 しまり弱 粘性強 塙壌土 V層主体
 VI層のローム質土をまばらに含む

HP-9

1 HP-4と同様

HP-10

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 塙土
 VI層主体 層界は漸変 $Ta-d(\phi 1 \sim 3mm)$ をごくわずかに含む
 2 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性強 塙土 V層主体

HP-11

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 塙土
 VI層主体 層界は漸変 $Ta-d(\phi 1 \sim 3mm)$ をごくわずかに含む
 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 塙壌土 V層主体
 VI層のローム質土を多く含む

HP-12

1 HP-10と同様

HP-13

1 HP-7と同様

HP-14

1 HP-4と同様

HP-15

1 HP-10と同様

HP-16

1 HP-7と同様

HP-17

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし
 塙土 VI層主体 層界は漸変
 $Ta-d(\phi 1 \sim 3mm)$ をごくわずかに含む

HP-18

1 HP-7と同様

HP-28

1 HP-17と同様

HP-19

1 HP-10と同様

HP-29

1 HP-8と同様

HP-20

1 HP-7と同様

HP-30

1 HP-7と同様

HP-21

1 HP-17と同様

HP-31

1 HP-31と同様

HP-22

1 HP-10と同様

HP-32

1 HP-10と同様

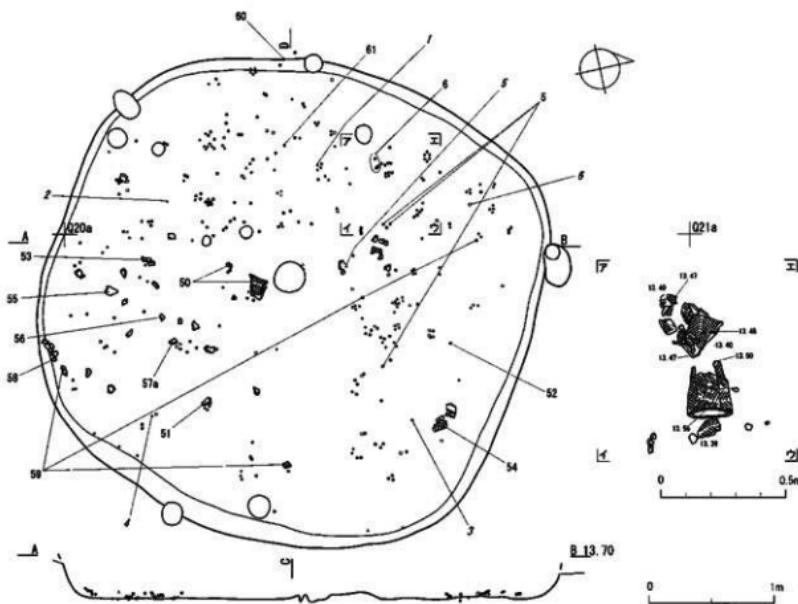
HP-23

1 HP-17と同様

HP-33

1 HP-17と同様

図IV-1-21 VH-6・HP-1~33土層断面



図IV-1-22 VH-6 遺物出土位置図

VH-6 (図IV-1-20~22/表1~5・7・11/図版7)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で暗褐色～褐色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を十字に設定し、トレンチ調査を行ったところ、土層断面で平坦な床面と壁の立ち上がりを確認した。掘り込み面はV層下位～VI層上位と考えられる。

覆土 1・2層は竪穴中央部、3・4層は壁際、5層は床面直上に堆積する。いずれも自然堆積で、V～VII層を起源とする。

形態 平面形は隅丸方形。床面は平坦で、全体に硬化面が認められる。壁面はやや急角度で立ち上がる。炉跡は検出されなかった。掘り込みの内外で柱穴33基を検出した。

付属遺構 HP-1~34：掘り込みの内部および壁際で9基 (HP-1~5・8~10・14)、外部で24基 (HP-6・7・11~13・15~33) を検出した。床面では、中央にHP-1、長軸上にHP-9・14が位置する。外部の柱穴は周囲をめぐるように位置する。竪穴内及び壁際の柱穴は垂直に近く、竪穴外のものは外踏ん張りとなる傾向がある。柱穴先端は尖るものが多く、丸または角状のものは少ない。HP-1の覆土より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定 (AMS法) を行ったところ、曆年較正年代で $4,489 \pm 35$ yrBPという数値が得られた (VI章第1節参照)。

遺物出土状態 床面からほぼ完形のII群b-2類土器が横倒しの状態で2個体出土した (図IV-2-4~5・6)。ほかにII群b-2・3類の破片 (図IV-2-14~50~62)、石鏃 (図IV-2-28~1~2)、石錐 (4)、石斧片、北海道式石冠片、砥石片 (6)、石皿片、剥片、礫などが出土した。

時期 床面出土土器から、縄文時代前期後半と考えられる。

(芝田)

VH-7 (図IV-1-23・24/表1~5・7・11/図版8)

確認・調査 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で土器片を伴う黒色土の落ち込みを検出した。土器片が弧状に折り重なっており、黒色土に炭化材が多く含まれていたことから土器窯炉と判断した (HF-1)。HF-1を中心とした土層観察用の土手を十字に設定し、トレンチ調査を行った。土層断面では明瞭な掘り込みは確認されなかったが、V層土がごく浅くくぼんでいたため住居跡と認定した。

覆土 1・2層とも自然堆積層と考えられるが、下部のVI層との層境がやや乱れている。

形態 東側の約1/3が攪乱により失われているため、全体の平面形は不明だが、西側の調査部分から、不整梢円形の可能性がある。HF-1の構築面から、VI層上位が床面だったと推測される。

付属遺構 HF-1: 深さ約40cmの不整形状の掘り込みの内部に構築された土器窯炉。IV群a-2類土器が炉材として使用されている (図IV-2-8-18, 19-137)。土器片を貼り付けるための浅い凹みを作り出すため、掘り込みの下部は埋め戻されている。口縁～胴部の大型破片と細片が、器外面を内側に向けて「コの字」状に配置され、西側が開く。炉内部は炭化材を多量に含む黒色土が堆積し、その下部から薄い焼土層が検出された。焼土が小規模であることから、焼き出しが行われたと考えられる。炉内より採取した炭化物2点を試料として放射性炭素年代測定 (AMS法) を行ったところ、曆年較正年代で3,490±31yrBP、3,528±31yrBPという数値が得られた (VI章第1節参照)。

HP-1~8: 浅いくぼみの内部で1基 (HP-5)、外部で7基 (HP-1~4・7・8) の柱穴を検出した。HP-3のみHF-1方向へ内傾するが、他は断面が垂直である。先端形状は角形 (HP-1・2)、丸形 (HP-4・6・8)、尖るもの (HP-3・5・7) がある。

遺物出土状況 床面付近よりII群b類土器、IV群a-2類土器、剥片、礫が疎らに出土した。また、覆土中よりII群b類土器、石鎚 (図IV-2-29-1)、つまみ付きナイフ (2・3)、北海道式石冠、剥片、礫が出土している。

時期 HF-1に使用されている土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

(芝田)

VH-8 (図IV-1-25/表1~5・7・11/図版9)

確認・調査 調査範囲南側の平坦面に位置する。南西側の約1/2が攪乱のため削平されている。V層の調査において暗褐色土の落ち込みを確認した。攪乱部分を除去して土層断面を観察し、竪穴住居跡と認定した。

覆土 1~4層はV層を起源とする腐植土の流れ込みによる自然堆積である。5~8層はローム主体であり屋根葺き土の可能性がある。

形態 南西側の約1/2が削平されているが、残存する東側から推定すると平面形は梢円形、床面は平坦であり浅皿状である。

付属遺構 HF-1: 炉は床面中心よりやや南側に位置し、被熱は弱く若干赤褐色に変化している程度であり、厚さは約6cmである。

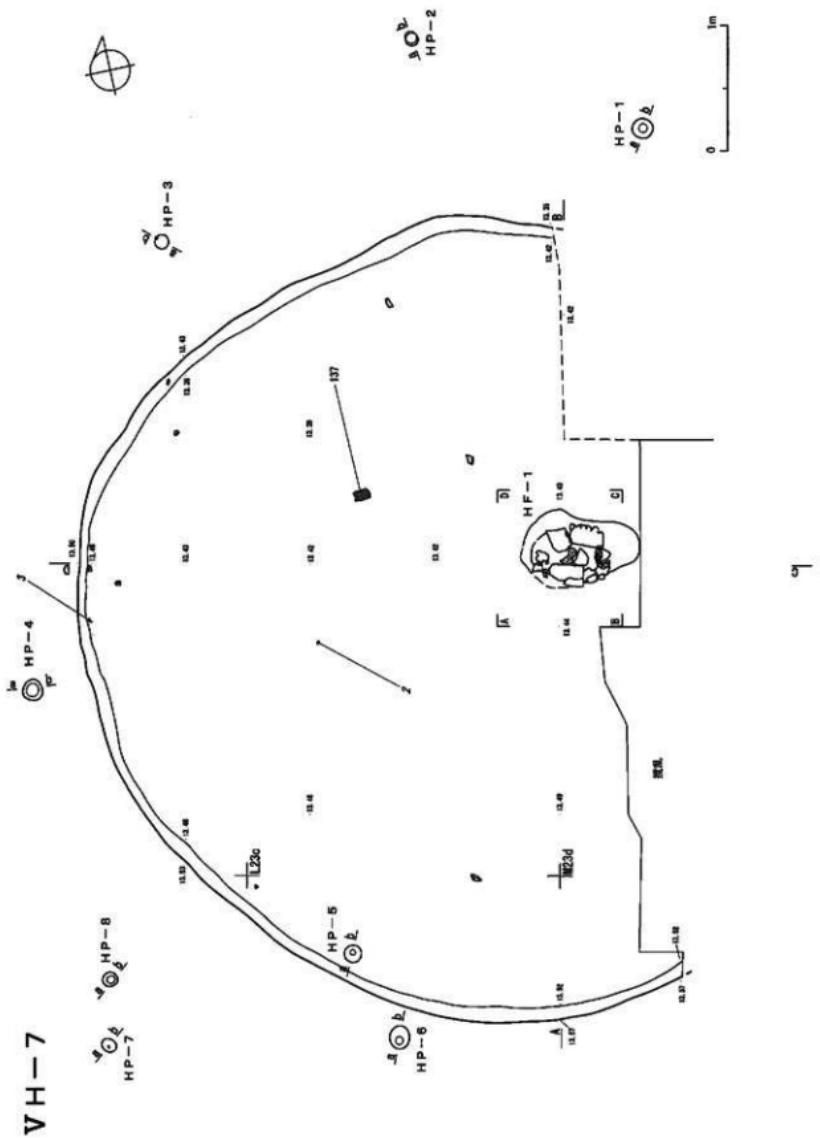
HP-1・2: 柱穴は中央部と北東の壁際に位置する。平面は円形で深さは約20cmの小柱穴である。

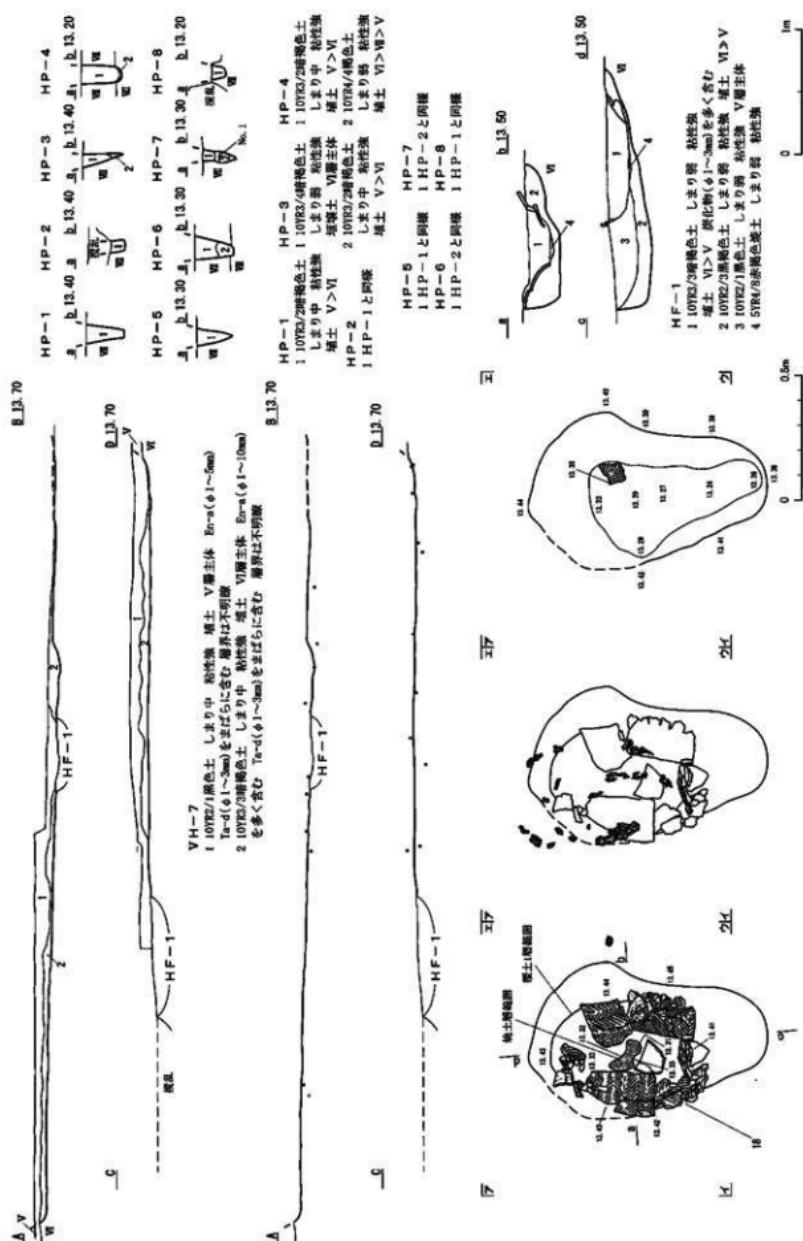
貼り床: 床面中央東寄りに長軸約1.4m、短軸約1.2mの貼り床を確認した。

遺物出土状況 覆土よりII群b-1類土器 (図IV-2-4-63・64)、石鎚、ナイフ (図IV-2-29-1)、剥片、礫が出土している。床面からはつまみ付きナイフ (2)、磁石片が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

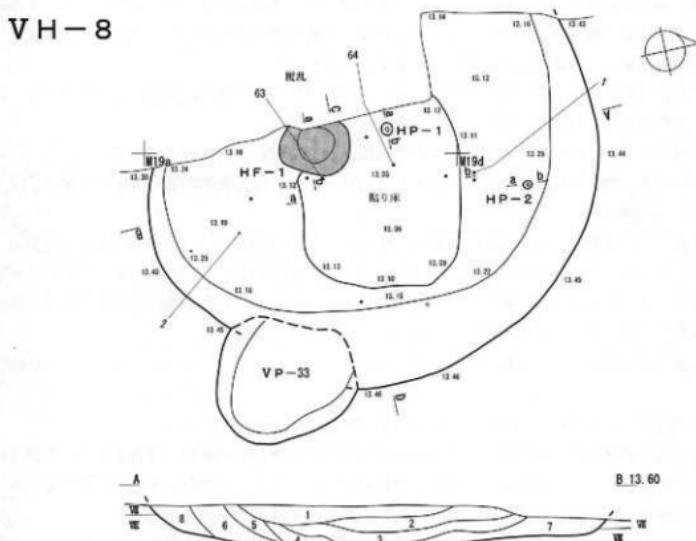
(菊池)





図IV-1-24 VH-7・HF-1・HP-1～8土層断面、HF-1遺物出土状況

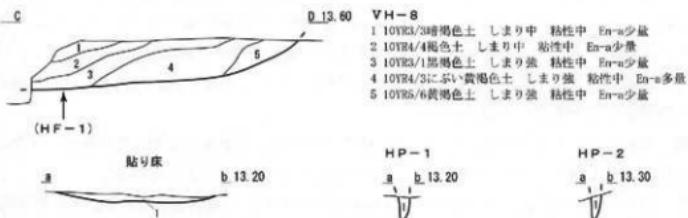
V H - 8



V H - 8

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量 | 5 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性中 En-a多量 |
| 2 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量 | 6 10YR5/4暗褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量 |
| 3 10YR3/1墨褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量 | 7 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性中 En-a多量 |
| 4 10YR4/4暗褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量 | 8 10YR5/6黄褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量 |

C



貼り床

1. 2.5T粘オリーブ褐色土 しまり強 粘性中 En-a多量 氯化物少量

HF - 1

b. 13.20

HF - 1

1. 10YR2/2墨褐色焼土 しまり強 粘性中 En-a多量

0 1m

図IV-1-25 VH-8

VH-9 (図IV-1-26/表1~5・7/図版10)

確認・調査 調査範囲南側の緩斜面に位置する。V層調査中に黒色土の落ち込みを検出した。東西と南北にベルトを設定し掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりを確認した。

覆土 V層を起源とする腐植土の流れ込みによる自然堆積である。

形態 平面形は楕円形であり、床は平坦である。壁は北西側でやや急に、他は緩く立ち上がる。南東側では一度やや急に立ち上がってから緩く立ち上がる。

付属造構 HF-1：炉は床面ほぼ中央に東西を長軸として位置し、厚さ約4cmである。

HP-1~10：壁、壁際に位置する小柱穴である。HP-4~7は北東側の壁に集中しており、入り口等の施設の可能性がある。

遺物出土状況 土器は覆土よりII群b類、III群a類・b-3類(図IV-2-19-132・133)、IV群a-2類(図IV-2-19-134)、IV群b-1類(図IV-2-20-139・140)・c類が出土しており、石器は石鎚(図IV-2-29-1)、石槍(2)、石斧(3)、Uフレイク、剥片、礫が出土している。床面よりIV群b類の土器、Uフレイクが出土している。

時期 床面出土の土器から縄文時代後期中葉である。

(菊池)

VH-10 (図IV-1-27~29/表1~5・7・11/図版11)

確認・調査 調査範囲西側の緩斜面上に掘り込まれた竪穴住居跡。V層下位~VI層上面で、黒色土の落ち込みとして検出した。長軸および短軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆土 1・2層はV層を起源とする腐植土。2層にはEn-a降下輕石が多量に混入している。3層はロームと腐植土の混合で、掘り上げ土の流れ込みと考えられる。4層は床面直上のロームで固くしまっている。5層は壁際の崩落土で、東側の掘り込みが深い部分(HP-4の周辺)ではしまりが見られた。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は南側がやや広がった隅丸方形。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。床面は西側へ傾斜しており、比高差は約30cmある。覆土4層は床面中央~南西側に偏って分布していることから、床面の高さを調整するための貼り床であったと考えられる。床面より焼土2か所(HF-1・2)、土坑7基(HP-1~4・8~10)、小土坑10基(HP-5~7・11~17)が検出された。住居の掘り込みの外側から付属造構が確認されなかった。

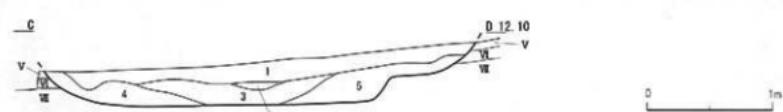
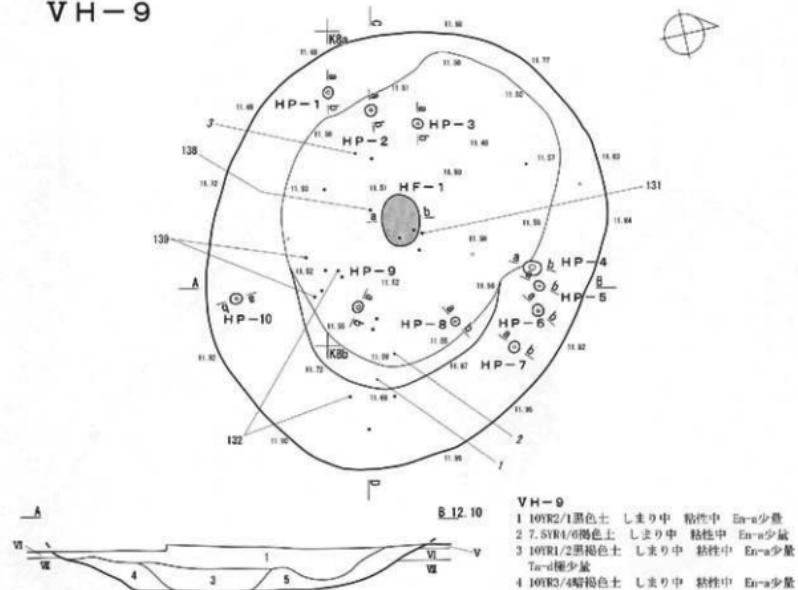
付属造構 HF-1：床面中央よりやや北側で検出された炉。平面形は不整な楕円形を呈する。断面はレンズ状で、強く焼けている。火焼面はややくぼんでおり、固くしまっている。

HF-2：HF-1より西側へ約1m離れた床面に設けられた、小規模な炉である。平面形は楕円形。HF-1と同じく、火焼面は周囲よりややくぼんでいる。木根による擾乱を受ける。

HP-1~4・8~10：いずれも床面の壁際付近で検出された。長径1m以上の大型のもの(HP-1・2・4)は南側、長径50~60cmのやや小型のもの(HP-3・8~10)は北~西側に分布する。平面形は不整な楕円形で、断面は浅い皿形を呈する。掘り込みは床面より20cm以下のものが大半である。HP-1・2・4・8の内部には、住居の覆土2・3・5層が流れ込んでいる。HP-2・3およびHP-8・9は重複しており、それぞれHP-3、HP-9が新しい。

HP-5~7・11~17：これらは住居跡の床面に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形もしくは楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲しており、住居の中心に向かって強く内傾するものはない。深さは、床面より15cm以下の浅い

V H - 9



HF-1	HP-1	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	HP-6
b 11.60	a b 11.60	a b 11.60	a b 11.60	a b 11.60	a b 11.70	a b 11.80
HP-7	HP-8	HP-9	HP-10			
a b 11.80	a b 11.60	a b 11.60	a b 11.80			
HF-1 1 10YR3/2暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a多 HP-1 1 10YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-2 1 10YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-3 1 10YR4/1混灰色土 しまり中 粘性中 HP-4 1 10YR4/2灰褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-5 1 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-6 1 10YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-7 1 10YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-8 1 10YR3/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-9 1 10YR4/1黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少 HP-10 1 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a少						

図IV-1-26 VH-9

VH-10

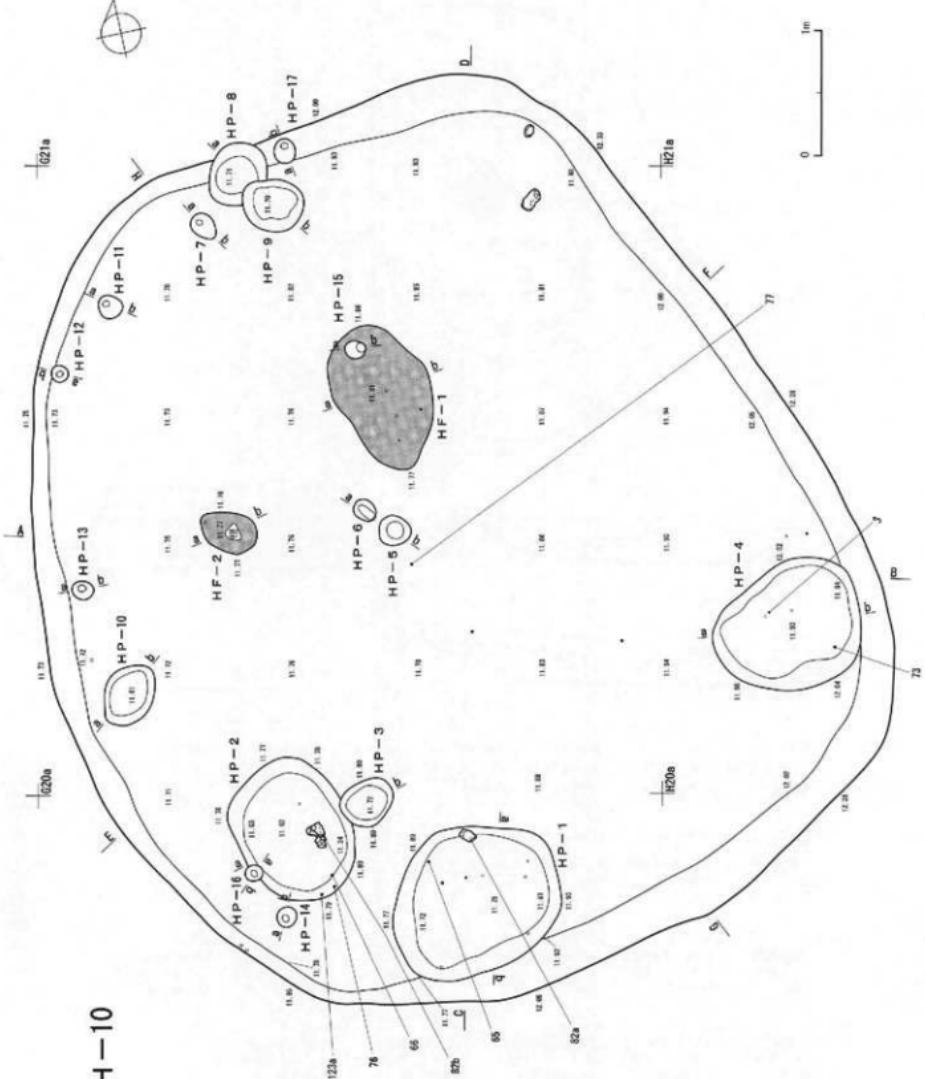
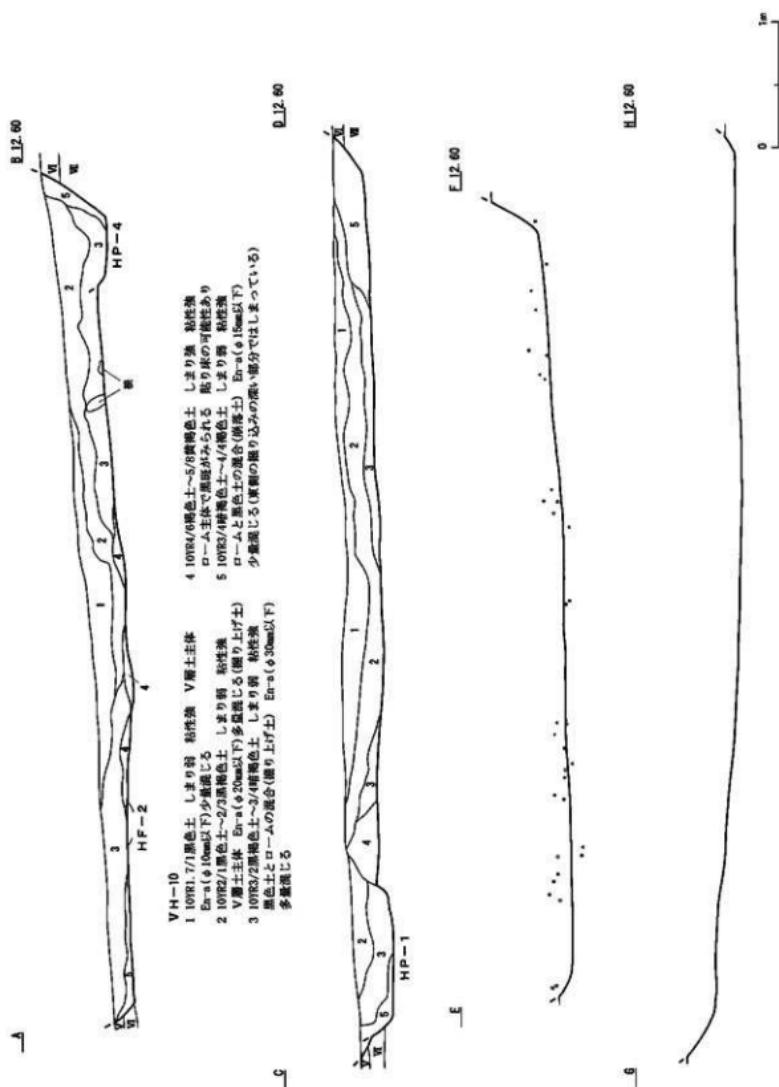
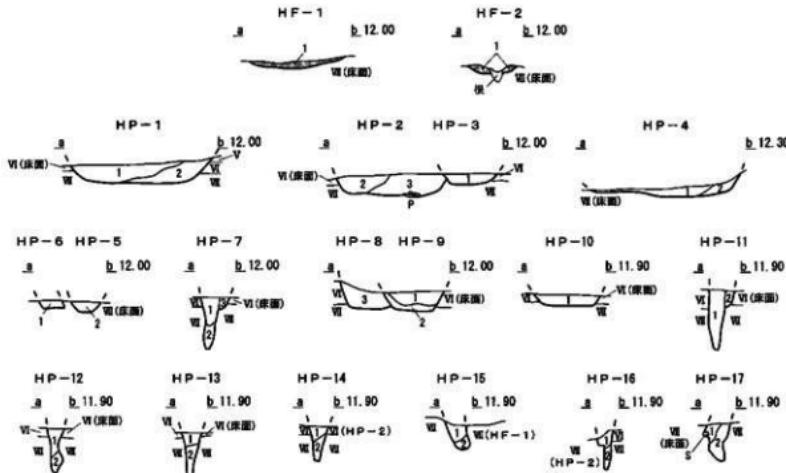


FIG IV-1-27 VH-10



図IV-1-28 V H-10士断面



HF - 1

1 SYRA/3明赤褐色焼土～10YR2/3暗褐色燒土 しまり弱 粘性強
腐植土中に焼土が斑状に混在する 腐化材(φ10mm以下)少量混じる
燃焼 残灰

HF - 2

1 SYR4/6紫褐色焼土～10YR2/4暗褐色燒土 しまり弱 粘性強
腐植土中に焼土が斑状に混在する 腐化材(φ5mm以下)微量混じる
燃焼 周囲より熱で、被熱している

HP - 1

1 10YR3/2黒褐色土～3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
黒褐色土とロームの混合(振り上げ土) En-a(φ30mm以下)多量混じる
2 10YR3/4暗褐色土～4/4褐色土 しまり弱 粘性強 ロームと
黒褐色土の混合(崩落土) En-a(φ10mm以下)少量混じる

HP - 2 ~ 3

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/1黒色土～2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 V層土主体
En-a(φ20mm以下)多量混じる(振り上げ土)
3 10YR2/2黒褐色土～3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 黒褐色土と
ロームの混合(振り上げ土) En-a(φ30mm以下)多量混じる

HP - 4

HP - 1 と同様

HP - 6 ~ 5

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 En-a(φ20mm以下)
多量混じる
2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 En-a(φ5mm以下)
少量混じる

HP - 7

1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土
2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 En-a(φ10mm以下)
少量混じる
3 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム
柱の振り方か

HP - 8 ~ 9

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)多量混じる
2 10YR2/4暗褐色土 しまり強 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)多量混じる
3 10YR2/1黒色土～2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 V層土主体
En-a(φ20mm以下)多量混じる(振り上げ土)

HP - 10

1 10YR2/7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)多量混じる

HP - 11

1 10YR2/2暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 腐化材
(φ5mm以下)微量混じる
2 10YR2/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 ローム+腐植土
柱の振り方か

HP - 12

1 10YR2/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ローム少量混じる
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ロームブロックあり

HP - 13

1 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム

HP - 14

1 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土+ローム En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/2暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
ローム少量混じる

HP - 15

1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体(Ⅲ層土?)
Ta-c(φ5mm以下)少量混じる
2 10YR2/1黒色土～6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性弱
腐植土+En-a U S P の可能性あり

HP - 16

1 10YR2/3暗褐色土～3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土+ローム En-a(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)微量混じる

HP - 17

1 10YR2/7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ10mm以下)少量混じる
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 En-a
(φ15mm以下)多量混じる



図IV-1-29 VH-10・HF-1・2、HP-1~17土層断面

もの（HP-5・6）と、30~50cmのやや深いもの（HP-7・11~17）がある。掘り込みの深いものは床面の縁辺部（壁際）に多い。HP-15はHF-1を掘り込んでおり、覆土にTa-c降下軽石が少量混入することから、Ⅲ層中の遺構（ⅢSP）の可能性がある。

遺物出土状況 HF-1・2、HP-1・2・4などの付属遺構より遺物が多く出土した。これ以外の床面出土の遺物は、疎らに分布する。土器は、Ⅱ群a類・Ⅱ群b-1~3類（図IV-2-4-7・8、15-65~82）・Ⅲ群a類（図IV-2-18-123）・Ⅳ群a類、石器等は、つまみ付きナイフ・石斧・砥石・台石・剥片・礫が出土している。

時期 床面よりⅡ群b類土器が多く出土していることから、縄文時代前期末葉である。（芝田）

VH-11（図IV-1-30/表1~5・7・11/図版12）

確認・調査 標高10.6~11.0m、祝梅川右岸肩部にあたる緩斜面上に立地する。包含層調査において、焼土および柱穴とみられる円形の黒色土を検出した。竪穴住居跡を想定して調査したが、発掘区境などの土層観察では壁面の立ち上がりは確認できなかった。VII層上面まで掘り下げ、半蔵により柱穴確認を行った。その結果、全体の形状・柱穴配置は不明瞭ながら、炉と柱穴等で構成される住居跡と推定した。

覆土 焼土と柱穴の周辺からは覆土と推定できる堆積土は確認されなかった。

形態 平面形は不明。床面付近より焼土2か所（HF-1・2）、粘土・炭化物分布域1か所、柱穴等12基（HP-1~12）を検出した。

付属遺構 HF-1・2：住居跡の中心部から南東寄りに位置する炉。試掘坑によりそれぞれ欠損するが、平面形はどちらもほぼ橢円形である。HF-1は断面レンズ状の被熱層で、VII層近くに及んでいる。軽石表面も赤色に被熱している。上面は黒色土混じりで、炭化物を少量含んでいる。HF-2は風倒木の影響があり、黒色土上に被熱層がある。HF-2の東側に5~6cmの厚さをもった粘土ブロックがあり、周辺に炭化物が広がっている。この炭化物を試料として放射性炭素年代測定（AMS法）を行ったところ、暦年較正年代で3,407±32yrBPという数値が得られた（VI章第1節参照）。

HP-1~12：径20~25cm、深さ20cm前後の柱穴が多い。HP-10・1・7とHP-6・5は柱穴間距離がそれぞれ1.8~1.9mで柱穴ラインが直角になることから、住居跡の主柱穴を構成する可能性がある。焼土付近の柱穴HP-2・12は深い柱穴で、しまりのない黒色土の覆土である。HP-3は浅い橢円形の土坑。出入口等にかかる可能性がある。

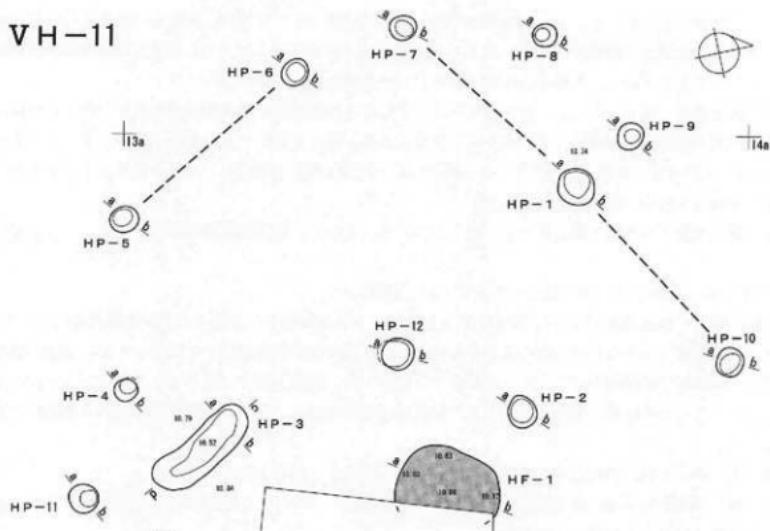
遺物出土状況 床面付近およびHF-1、HP-2より、IV群b-1類土器（図IV-2-20-141・142）、石錐（図IV-2-30-1）、両面調整石器（2）、台石片（3）石皿片（4）、剥片等が出土している。

時期 出土遺物や構造がVH-12に類似することから、縄文時代後期中葉と思われる。（阿部）

VH-12（図IV-1-31/表1~5・7・11/図版13）

確認・調査 標高10.7~11.0m、祝梅川右岸肩部にあたる緩斜面上に立地する。包含層調査において、焼土および柱穴とみられる円形の黒色土を検出した。竪穴住居跡を想定して調査したが、南側の調査区境および北側の発掘区境などの土層観察では壁面の立ち上がりは確認できなかった。VII層上面まで掘り下げ、半蔵により柱穴確認を行った結果、炉と4本主柱穴、その他の柱穴・土坑で構成される住居跡と認定した。柱穴の配置や覆土の堆積状況から、柱穴を埋め戻した上、建て替えが行われたと推定される。

VH-11



HF-1

- 1 SYR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
境界や不明瞭 やや均質的 硬化物少量含む
- 2 SYR2/4明赤褐色土～4赤褐色土 しまり中
境界や不明瞭 表面被熱

HF-2

- 1 SYR4/5赤褐色土 境界明瞭 やや均質的
黒色土混じる

- 1 10TR6/2灰黄褐色土～4/1褐色土 しまり中 粘性強
黒色土混じる 不均質 硬化物や多量含む

V 10TR2/1黒色土 硬化物多量含む

HP-1

- 1 10TR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性中

HP-2

- 1 10TR2/2黒褐色土～2/3褐色土 下位はしまりなし
粉々カカ

HP-3

- 1 10TR2/2黒褐色土～2/3褐色土 しまり弱
黒色土少含む

HP-4

- 1 10TR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
軽石少含む

HP-5

HP-4と同様

HP-6

HP-4と同様

HP-7

- 1 10TR2/2黒褐色土 しまり弱
粘性中 軽石少含む

HP-8

HP-4と同様

HP-9

- 3 10TR2/1黒色土 しまり弱
粘性中 ローム混じり
不均質 軽石少含む

HP-10

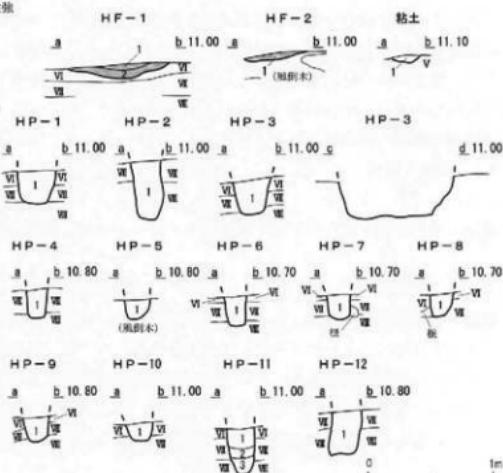
HP-4と同様

HP-11

- 1 10TR2/2黒褐色土 しまり弱
粘性中 軽石少含む

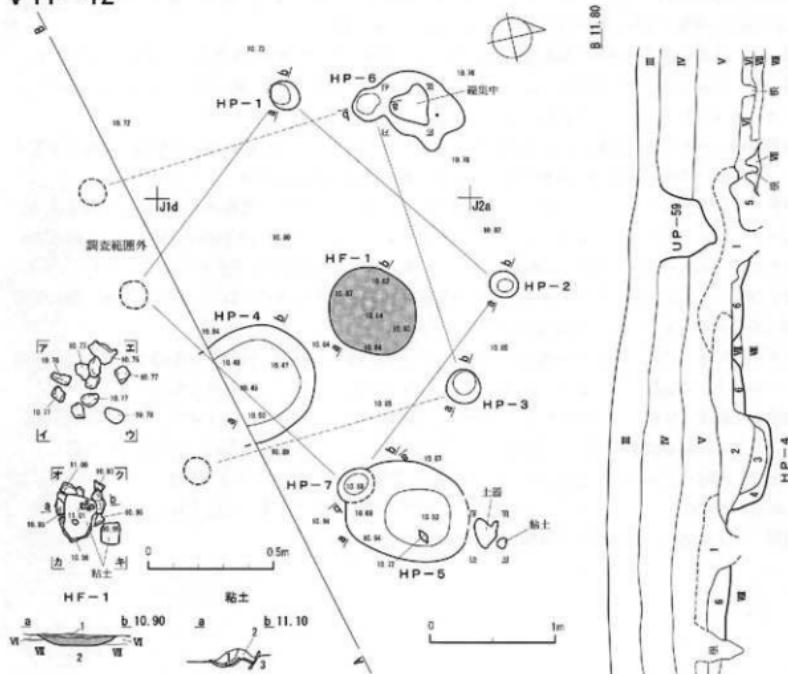
HP-12

- 1 10TR2/2黒褐色土 しまり弱
粘性中 軽石少含む



図IV-1-30 VH-11

V H - 12



	HP - 1	HP - 2	HP - 3	HP - 4	HP - 5	HP - 6	HP - 7	
	a b. 10.90	a b. 10.90	a b. 11.00	a b. 11.00				
HP - 1	10YR2/2黒褐色土 しまり弱 径の小さな軽石少量含む	10YR2/2黒褐色土 しまり弱 径の小さな軽石少量含む	10YR2/2黒褐色土 しまり弱 中 粘性強 径の小さな軽石少量含む VI層相当	10YR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性中 フカフカ 軽石少量含む	10YR2/3黒褐色土～10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 径の大きい軽石10～20%含む やや不均質	10YR2/3黒褐色土～10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 径の大きい軽石10～20%含む やや不均質	10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 径5mm程度の軽石・ローム・黑色土混じる	HP - 4
HP - 2	10YR2/3黒褐色土 しまり弱 中 粘性強 径の小さな軽石少量含む VI層相当	10YR2/2黒褐色土 しまり弱 径の小さな軽石少量含む			10YR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性中 フカフカ 軽石少量含む			10YR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性中 フカフカ 軽石10%以下含む やや均質的
HP - 3					10YR3/3暗褐色土～10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 径の大きい軽石10～20%含む やや不均質			2 10YR3/3暗褐色土～10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 径の大きい軽石10～20%含む やや不均質
HP - 4					10YR4/3c.5y1黄褐色土 しまり弱 粘性強 径5mm程度の軽石・ローム・黑色土混じる			3 10YR4/3c.5y1黄褐色土 しまり弱 粘性強 径の小さな軽石少量含む
HP - 5					4 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 径の小さな軽石少量含む			4 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 径の小さな軽石少量含む
HP - 6								HP - 5
HP - 7								1 10YR2/1黒褐色土 しまり弱 粘性中 フカフカ 軽石10%以下含む やや均質的
								2 10YR3/3暗褐色土～10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 径の大きい軽石10～20%含む やや不均質
								3 10YR4/4褐色土 しまり弱 粘性強 径石不均質に混じる
								HP - 6 HP - 7
								1 HP - 3 と同様 1 HP - 1 と同様

図IV-1-31 V H - 12

なお同様の住居跡は、当遺跡と市道祝梅川第2道路を挟んで隣接する梅川4遺跡で検出されている（北埋調報269集『千歳市梅川4遺跡（2）』VH-1・VH-2）。

覆土 南側の調査区塊の土層断面から、En-a下輕石を含む黒色～暗褐色土の堆積を確認した。
形態 平面形は不明。床面付近より焼土1か所（HF-1）、柱穴5基（HP-1～3・6・7）、土坑2基（HP-4・5）を検出した。

付属遺構 HF-1 VI層上面で検出した。平面形は橢円形で、住居跡の中心部から北寄りに位置する。断面レンズ状の被熱層はVII層に及んでいる。軽石表面も赤色に被熱している。

HP-1～3・6・7 径25～30cm、検出面からの深さ30～40cmと規格性がある。主柱穴は4本で、①HP-1・2・7・推定調査区外柱穴1基、②HP-6・3・推定調査区外柱穴2基、の組み合わせである。これらの柱穴の配列は概ね正方形である。柱穴の覆土は、前者がやや明るくしまっており、後者が暗くしまりのない土壤である。覆土の状況から前者が古く後者が新しいとみられる。柱穴間距離は後者の場合で2.35m×2.00mほどである。

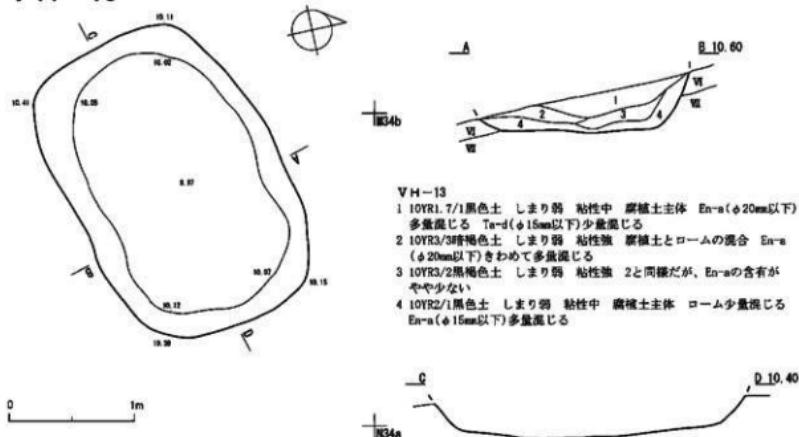
HP-4・5 長径1m前後の橢円形のやや深い土坑。住居の時期とは異なる可能性があるが、関連するものとして掲載した。HP-4は柱穴間ラインの内側、HP-5は外側にある。

遺物出土状況 床面付近よりIV群b-1類土器（図IV-2-20-143～146・148）、台石、礫が出土した。また、住居跡東側のHP-5付近から、粘土が盛られた（土器の内部に詰められた）IV群b-1類土器の深鉢約1/4個体（図IV-2-19-147）のほか、つまみ付きナイフ（図IV-2-30-1）、たたき石、剥片が出土した。HP-6付近のくぼみから礫がやまとまって出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代後期中葉である。

（阿部）

VH-13



図IV-1-32 VH-13

V H - 13 (図IV-1-32/表1~5/図版14)

確認・調査 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に掘り込まれた小型の竪穴住居跡。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。東側を半截して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はV層中と推測される。

覆 土 1層はV層を起源とする腐植土。2・3層はロームと腐植土の混合。4層は床面直上の腐植土。2~4層にはEn-a降下軽石が多量に混入している。いずれも自然堆積である。

形 態 平面形は隅丸長方形。壁面は明瞭で、南側の掘り込みが深い。斜面上で床面を平坦に調整するため考えられる。付属構造は確認されなかった。千歳市美々5遺跡、同キウス5遺跡B地区では、やはり斜面上で類似する形態の縄文時代前期前半の竪穴住居群が検出されている。

遺物出土状況 覆土中よりII群a-1類土器が出土した。

時 期 立地と形態、出土遺物から、縄文時代前期前半である。(芝田)

V H - 14 (図IV-1-33/表1~5・7・11/図版14)

確認・調査 V層上面で楕円形のくぼみを確認した。その周囲をV層下位まで掘り下げたところで、くぼみの長軸・短軸に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、竪穴式住居跡として調査した。

覆 土 覆土は自然堆積とみられ、2層では炭化木片が混じる。

形 態 平面形は上端・下端とも楕円形であるが、下端の短軸東側は内にやや入り込む。床面は皿状で緩やかに立ち上がる。

付属構造 炉跡や柱穴は認められなかった。

遺物出土状況 遺物は覆土から土器364点、石器等1,826点が出土した。覆土中では遺物等が集中する部分が見られ、北東壁付近では割れたIV群b-2類土器が内向きに重ね合わせられた状態で出土した(図IV-2-11-23~25)。土器の大半はIV群b-2類(図IV-2-20-149~155)である。また南壁付近では、緑色泥岩のフレイク等の集中、住居の中央よりやや北東側では黒曜石のフレイク・チップの集中がある。この他、En-a降下軽石の集中が2か所にある。

時 期 床面近くでの遺物出土状況から縄文時代後期中葉である。

(山中)

V H - 15 (図IV-1-34~36/表1~7・11/図版15)

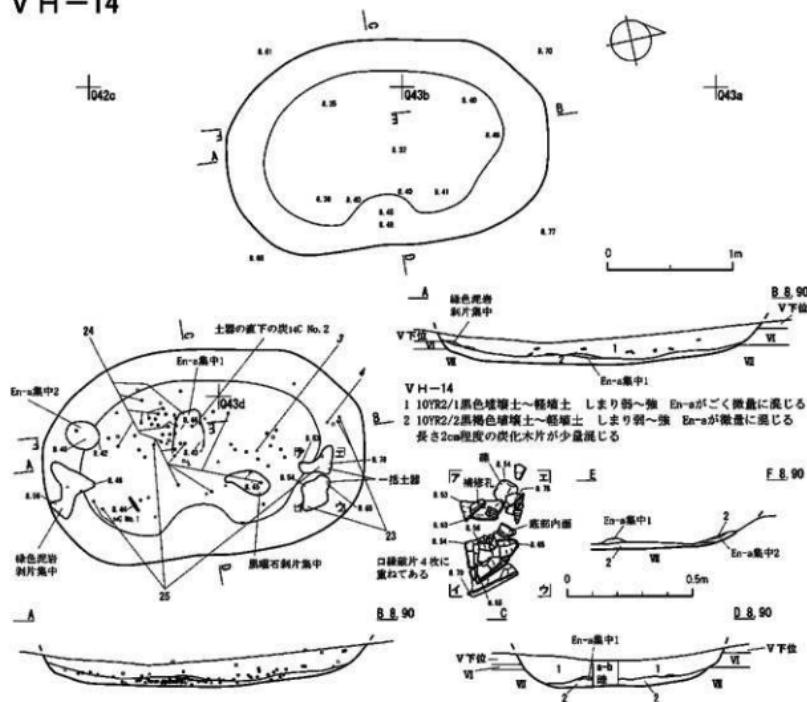
確認・調査 J13付近のV層を調査中に、En-a降下軽石を多く含む直径5m程の円形の黒色土の拡がりを確認した。周辺を精査した後、竪穴住居跡の可能性を考慮し、堆積状況・下端・壁面確認のために十字にベルト(a-b・c-d)を設定し、竪穴内の調査を開始した。調査を進めて土層断面を確認したところ、黒褐色土・暗褐色土を最下層覆土とする竪穴住居跡と判断した。

形 態 平面形は上端・下端ともに隅丸の五角形である。床面には2.6×2.2mの隅丸長方形で深さ0.1m程の掘りこみがあり、ベンチ状になっている。床面は平坦で立ち上がりは明瞭であり、壁は緩やかに上方へ立ち上がる。

覆 土 8層に分層した。En-a降下軽石が含まれることから、掘り揚げ土が流れ込んだものと考えられる。

付属構造 ベンチ内の床面に焼土(HF-1)があり、地床炉と考えられる。焼土土壤をフローテーション処理し、微量の炭化材を検出した。東側には楕円形で長軸1.1m、床面からの深さ0.1mの土坑(HP-1)が付属している。柱穴を12基検出した。HP-2~5は主柱穴とみられ、柱はほぼ垂直に立って

VH-14



図IV-1-33 VH-14

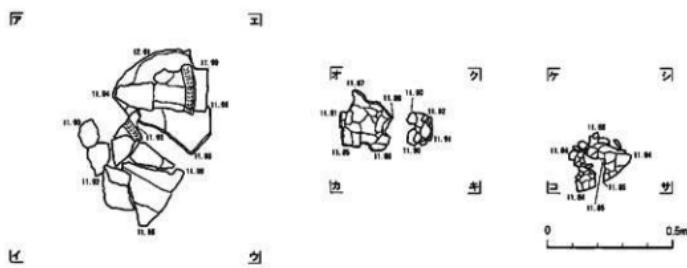
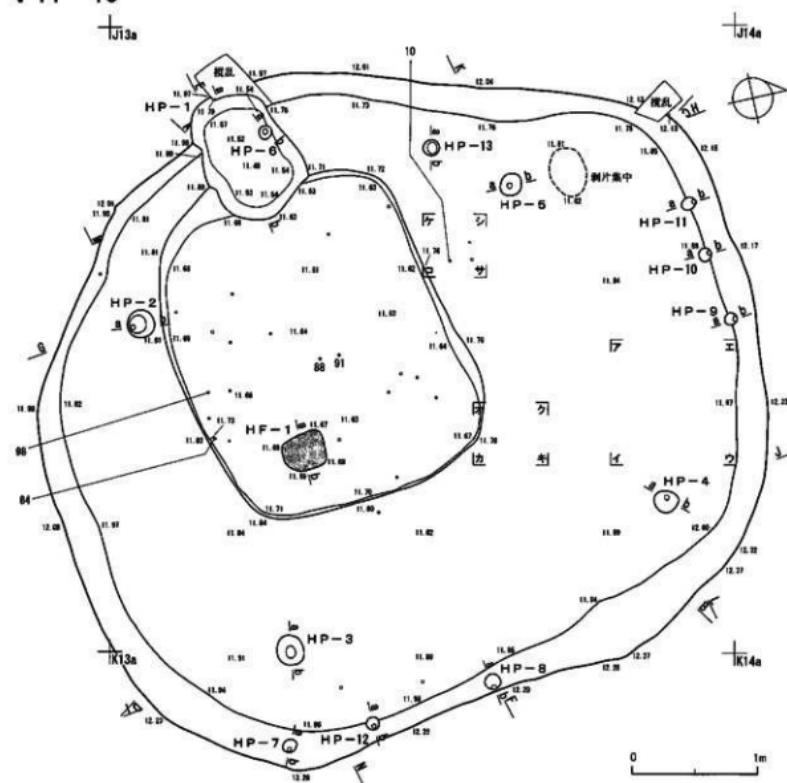
いたと考えられる。HP-6~13は壁柱穴とみられ、竪穴住居跡の中央方向に向かって傾斜する。

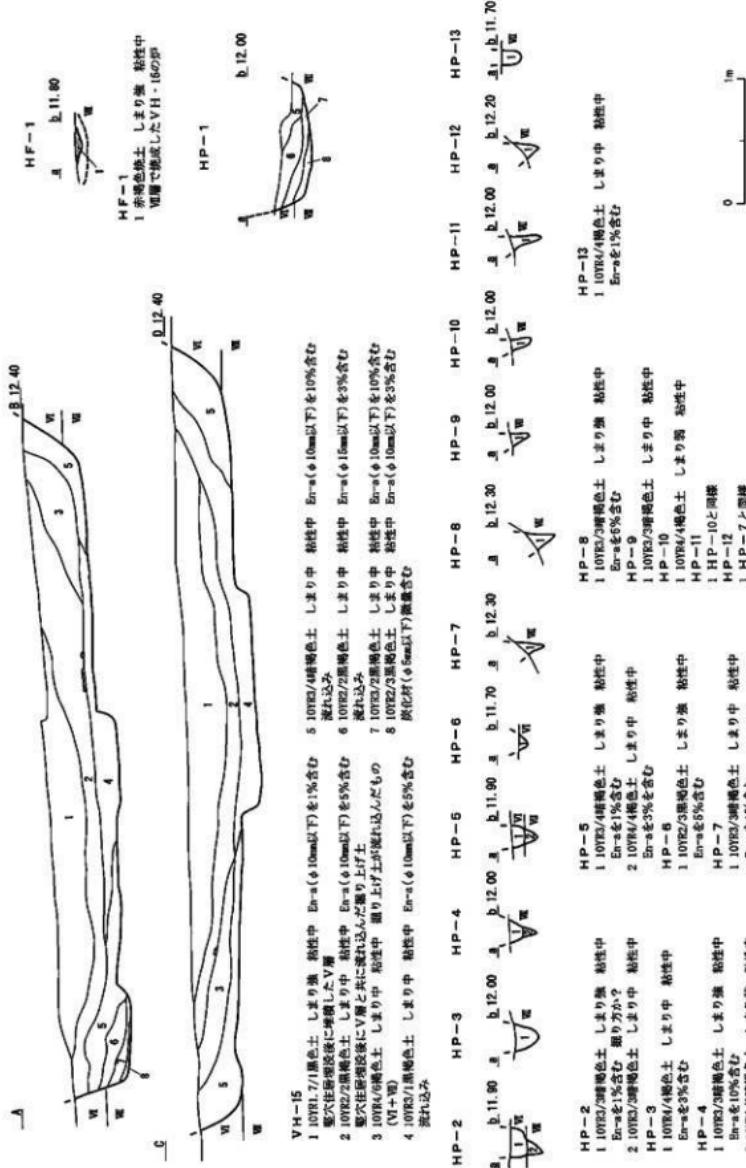
遺物出土状況 覆土から土器片437点、石器等786点が出土した。土器片は90%がII群b-2・3類(図IV-2-5-9・10、16-83~94)である。床面直上に当たる覆土4層よりII群b-2類3個体が出土したが、このうち2個体は酸化による凝固が著しく、復元には至らなかった。土製品は粘土塊(図IV-2-23-2・3)が出土した。石器等は石鎌(図IV-2-31-1・2)、つまみ付きナイフ(3~6)、スクレイパー(7・8)、石斧(9)、すり石(10・11)、石鱗片(12)、剥片、礫等が出土している。

時期 伴出土器から縄文時代前期後半である。

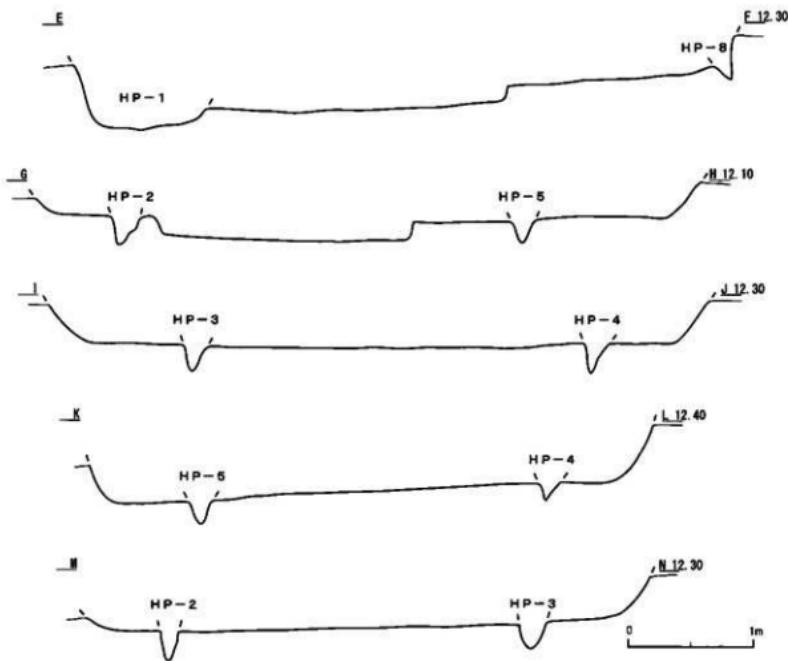
(酒井)

V H - 15





図IV-1-35 VH-15±層断面



図IV-1-36 VH-15横断面

VH-16 (図IV-1-37/表1~5・7・11/図版16)

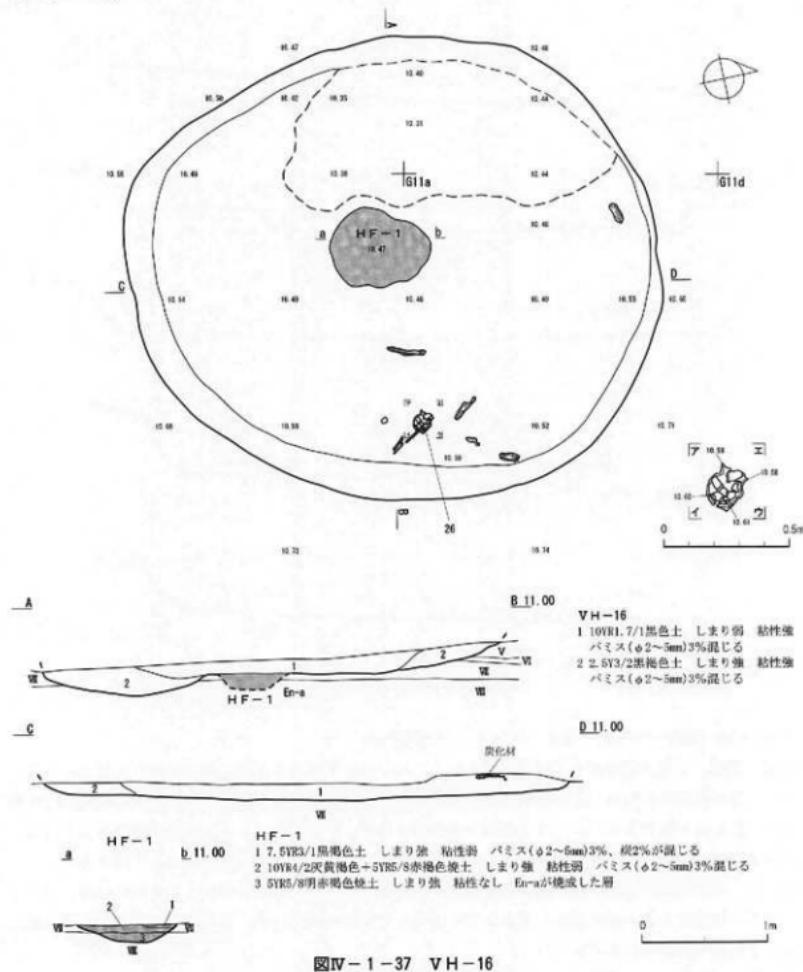
確認・調査 V層下部を掘り下げていたところ、En-a降下軽石を多量に含んだ掘り上げ土とみなされる土壤が広範囲に現れた。住居跡の存在を想定し、周囲を精査したところ、径4mほどの円形の黒色土の拡がりが検出された。立地は東側から西側に向けて下る緩斜面で、住居跡の確認面上で標高の推移を見ていくと、径に相当する4mで標高が25cm下っており、その斜度はおよそ7度である。

覆土 土層観察の結果、覆土は2層に分層された。覆土2はV層とVI層からなる流れ込み。覆土1はV層の堆積である。確認面から床面までの層厚は10~20cmと浅いが、本来の掘り込み面と確認面とは、それほど差がないと考えられる。

形態 平面形はほぼ円形である。床面は平坦であるが、西側が一部、皿状の窪みを呈している。標高の低い側であり、調査中も雨天の翌日など泥水が若干溜まっていたことから、床面の全体が冠水しないために設けた窪みであるかもしれない。床面は全体的にVII層内であるが、皿状に一段低く窪んだところは埴層(En-a降下軽石)であり、VII層に比して水はけが良い。

付属遺構 床面中央部では炉と考えられる焼土が検出された。層厚14cmでVII層にまで達しているが、灰・骨片等は肉眼では確認されなかった。上面で微量の炭が検出されたが、住居の床面および覆土内で散発的に炭化材等の炭が検出されているため、この炭が炉に直接ともなうものかはわからない。

VH-16



図IV-1-37 VH-16

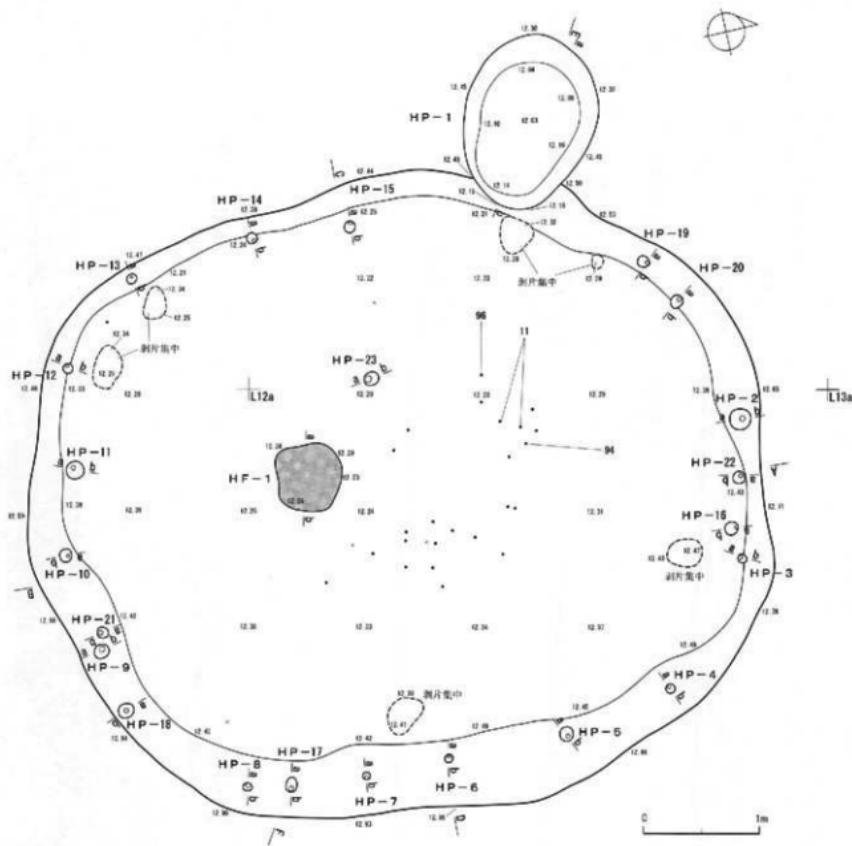
床面および住居壁の周辺で、柱穴確認を行い、数十か所に及ぶ半割作業を試みたが、柱穴と判断できるものは1か所も見出されなかった。

遺物出土状況 遺物は、床面・覆土から土器片83点、石器等82点が出土した。床面よりIV群b-2類(手稻式)の壺(図IV-2-11-26)、覆土中よりIV群c-1類(堂林式)の鉢(図IV-2-12-28)・注口(図IV-2-12-29)・口縁部片(図IV-22-186)が出土した。

時期 床面上の土器から、縄文時代後期中葉と考えられる。

(影浦)

V H-17

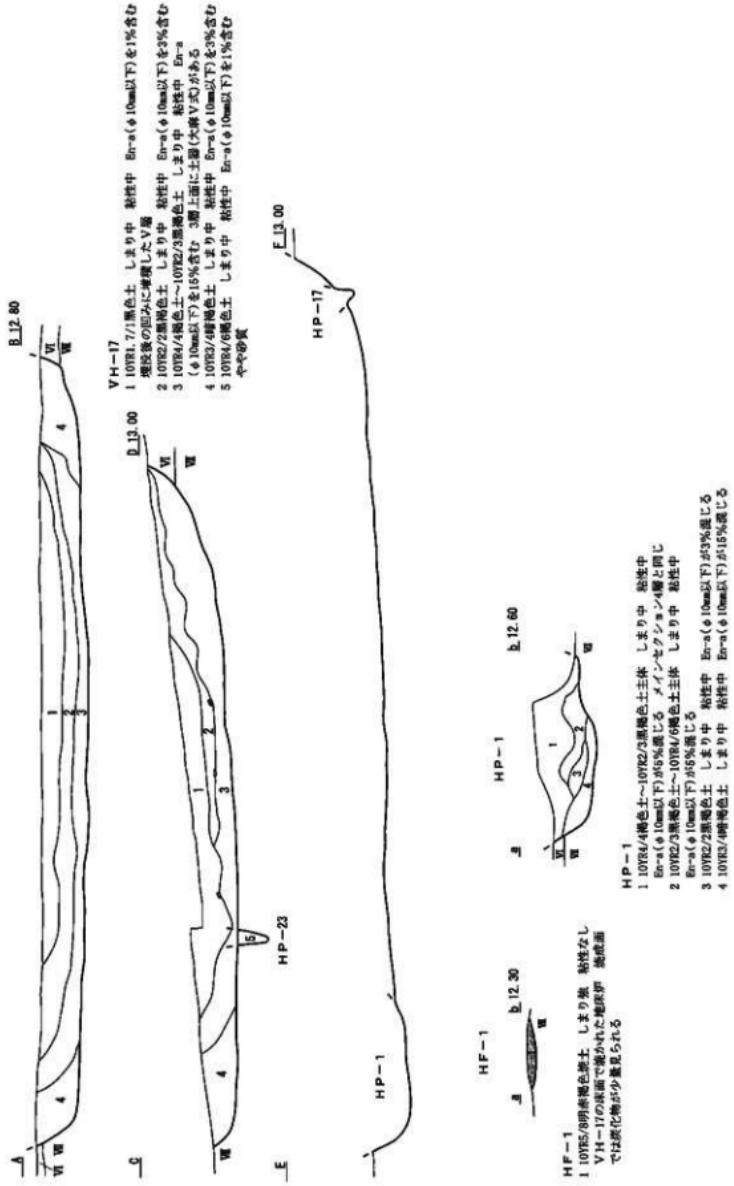


図IV-1-38 V H-17

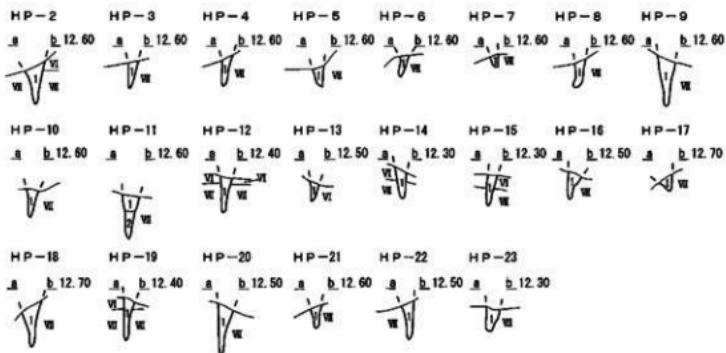
V H-17 (図IV-1-38~40/表1~7・11/図版17)

確認・調査 K・L11・12区付近のV層を調査中に、En-a降下軽石を多く含む長径6m程の楕円形の黒色土の拡がりを確認した。周辺を精査した後、堅穴住居跡の可能性を考慮し、堆積状況・下端・壁面確認のために十字にベルト(a-b・c-d)を設定し、堅穴内の調査を開始した。調査を進めて断面を確認したところ、黒褐色土・暗褐色土を最下層覆土とする堅穴住居跡と判断した。

覆土 4層に分層した。En-a降下軽石が含まれることから、掘り揚げ土が流れ込んだものと考えられる。
形態 下端平面形は不整な隅丸長方形、床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。



图IV-1-39 VH-17土管断面



HP-2	1 10YR4/6褐色土 しまり強 粘性中 En-a:1%含む	HP-9	1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中 HP-10	HP-17	HP-2と同様
HP-3	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 HP-4	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 En-aを微量に含む やや砂質	HP-11	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 HP-12	HP-18
HP-5	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 HP-6	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 En-aを含む	HP-13	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 HP-14	HP-16と同様
HP-7	HP-4と同様	HP-11	HP-15	HP-19	HP-19
HP-8	HP-4と同様	HP-12	HP-16	HP-20	HP-4と同様
HP-9	HP-4と同様	HP-13	HP-17	HP-21	HP-20
HP-10	1 10YR4/6褐色土 しまり弱 粘性中 En-a:1%含む	HP-14	2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中 HP-15	HP-22	HP-16と同様
HP-11	HP-4と同様	HP-15	HP-16	HP-23	HP-21
HP-12	HP-4と同様	HP-16	1 10YR4/6褐色土 しまり弱 粘性中 やや砂質	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 En-a:1%含む やや砂質	1 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 En-a:1%含む やや砂質
HP-13	HP-4と同様	HP-17	1 10YR4/6褐色土 しまり弱 粘性中 やや砂質	HP-9と同様	HP-22
HP-14	HP-4と同様	HP-18	HP-18	HP-23	HP-23
HP-15	HP-4と同様	HP-19	HP-19	HP-24	HP-24
HP-16	HP-4と同様	HP-20	HP-20	HP-25	HP-25
HP-17	HP-4と同様	HP-21	HP-21	HP-26	HP-26
HP-18	HP-4と同様	HP-22	HP-22	HP-27	HP-27
HP-19	HP-4と同様	HP-23	HP-23	HP-28	HP-28
HP-20	HP-4と同様	HP-24	HP-24	HP-29	HP-29
HP-21	HP-4と同様	HP-25	HP-25	HP-30	HP-30
HP-22	HP-4と同様	HP-26	HP-26	HP-31	HP-31
HP-23	HP-4と同様	HP-27	HP-27	HP-32	HP-32

図IV-1-40 VH-17・HP-2~23土層断面

付属遺構 床面中央部南側に焼土（HF-1）があり、地床炉と考えられる。焼土土壤をフローテーション処理し、微量の炭化材を検出した。北東側には楕円形で長軸1.5m、床面からの深さ0.18m・確認面からの深さ0.47mの土坑（HP-1）が付属している。壁際には黒曜石や頁岩の剥片集中が6か所確認されている。柱穴を22基検出している。HP-23を除く21基は壁面付近に作られ、柱はほぼ垂直に立っていたと考えられる。柱の間隔は0.2~1.3m、平均0.85mである。

遺物出土状況 遺物は、覆土中から土器660点、石器等5,757点、焼成粘土塊58点、計6,475点が出土した。土器は、Ⅱ群b-1~3類（図IV-2-5-11、16-95~99）、Ⅲ群a類（図IV-2-18-124）、土製品は盤状粘土塊（図IV-2-23-4~7）、石器等は、石鎚（図IV-2-33-1~4）、つまみ付きナイフ（5~9）、スクレイパー（10~11）、石斧片（12）、剥片、礫などが出土した。

時期 伴出土器から縄文時代前期後半である。

（酒井）

(3) 土坑

VP-1 (図IV-1-41/表1~7・11/図版18)

特 徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は不整な楕円形を呈する。掘り込みの角度はやや急である。坑底面は平坦でVII層上位まで達する。覆土1層は腐植土とロームの混合で、埋め戻しによるものと考えられる。覆土2層はローム主体で、壁際の崩落土。北側の坑底面で5×20cmの範囲で赤褐色土がまとまっていた。覆土上～中位よりII群b-2類土器(図IV-2-16-100~104)、盤状粘土塊(図IV-2-23-8)、石鐵片(図IV-2-34-1)、石錐(2)、つまみ付きナイフ(3)、すり石、北海道式石冠片、砥石、石皿、台石、剥片、礫などが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

(芝田)

VP-2 (図IV-1-41/表1~4・7)

特 徴 調査範囲中央東端の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は卵形で坑底面は平坦、壁は北側で開き、他ではやや急に立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土からIII群b類の土器、砥石(図IV-2-34-1)、礫が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代中期後半である。

(菊池)

VP-3 (図IV-1-41/表1~2・4)

特 徴 調査範囲中央東端の平坦面に掘り込まれた土坑で範囲外に続く。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形と推定され、坑底面は平坦で壁はやや開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土から剥片、北海道式石冠、加工痕のある礫が出土している。

時 期 出土遺物、周辺の遺構から縄文時代中期と推定される。

(菊池)

VP-4 (図IV-1-42/表1~4)

特 徴 調査範囲東側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土からII群b類の土器、剥片、礫が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

(菊池)

VP-6 (図IV-1-42/表1~4)

特 徴 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形を呈する。掘り込みは南側がやや急角度、北側が緩やかである。断面は浅い皿状で、坑底面はほぼ平坦。覆土1・2層は腐植土とロームの混合で、堅くしまっており、埋め戻しによるものと考えられる。坑口上面から覆土中位にかけて北海道式石冠、礫片が出土した。このうち礫片は、南西側の土坑周辺で同一石材(泥岩)のものが出土している。

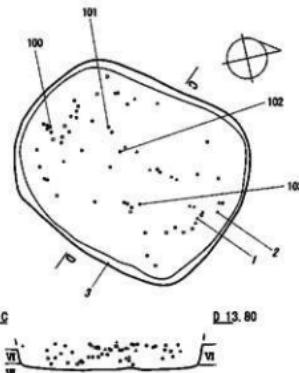
時 期 不明。

(芝田)

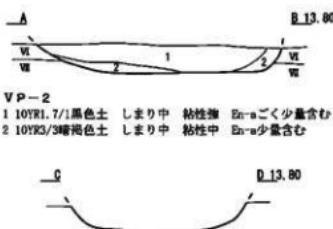
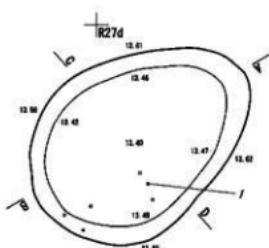
VP-8 (図IV-1-42/表1~5)

特 徴 調査範囲東側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はおにぎり形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層と掘り上げ土の流れ込みで

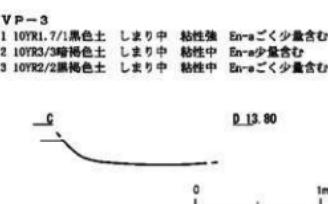
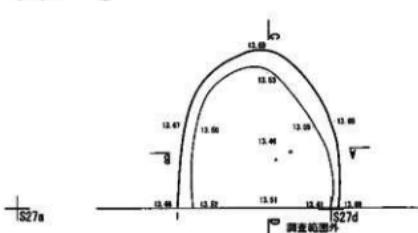
VP-1



VP-2

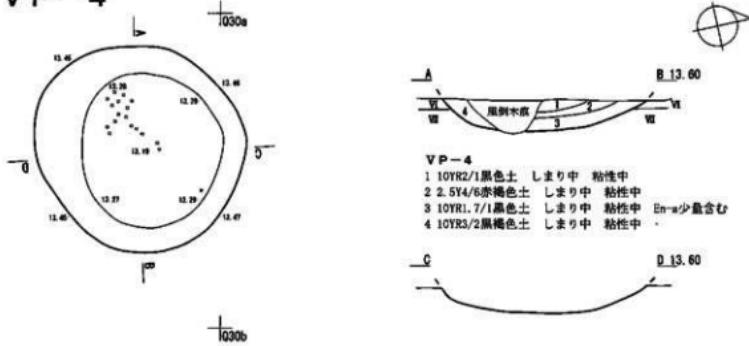


VP-3

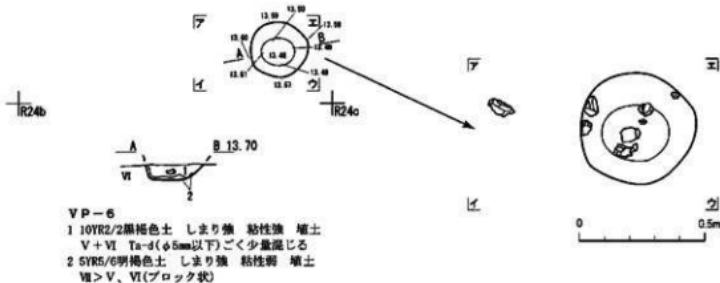


図IV-1-41 VP-1~3

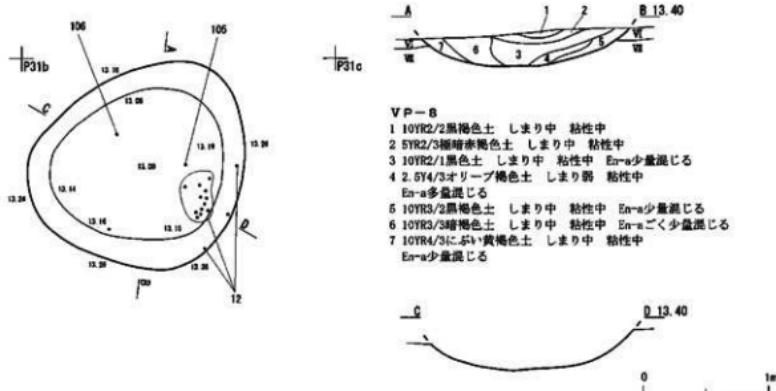
VP - 4



VP - 6



VP - 8



図IV-1-42 VP-4・6・8

ある。遺物は覆土より、II群b-1・2類(図IV-2-5-12、16-105・106)、剥片、礫が出土した。
時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-10(図IV-1-43/表1)

特 微 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VI層上面で暗褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。坑底～壁面下部には長軸上に細長く伸びる被熱範囲が確認された。これは坑底面から約5cmの厚さでEn-a降下軽石が部分的に赤色化していたもので、VI層のローム全体が被熱した焼土ではない。焼土下部の漸移層が残存したものと推測される。覆土はロームと腐植土の混合で、ローム・ブロックが見られることから、埋め戻しによるものと考えられる。遺物は出土していない。VP-10より約2m西にVH-5の土器窯炉(HF-1)があり、形状・規模・長軸方向が非常によく類似している。VP-10は、VH-5の建て替え、または炉の移設により廃棄された古い炉の可能性が高い。覆土中より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、暦年校正年代で3,523±31yrBPという数値が得られた(VI章第1節参照)。これはVH-5と同型式のIV群a-2類土器を炉材として使用している、VH-7の土器窯炉(HF-1)の年代値(3,490±31yrBP・3,528±31yrBP)と近似している。

時 期 周辺の類似する構造の時期から、縄文時代後期前葉の可能性がある。(芝田)

VP-11(図IV-1-43/表1~5・7)

特 微 調査範囲東側ほぼ中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は梢円形で坑底面は平坦、壁は北東側でやや急、他では開いて立ち上がる。覆土の1・2層は自然堆積、3層は埋め戻し、4・5層は崩落である。遺物は覆土からII群a類・b類、石錐(図IV-2-34-1)、つまみ付きナイフ(2)、剥片、礫、坑底からはII群b-2類(図IV-2-5-13、17-107)、剥片、加工痕のある礫が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

VP-12(図IV-1-43/表1~2)

特 微 VH-3の南側壁際で検出された土坑。VH-3の廃絶後、覆土中より掘り込まれている。平面形は梢円形で、坑底面は北側がやや高い。また、北側の一部はVH-3の調査トレンチにより削平されている。覆土は1層がV層起源の腐植土、2層がVH-3からの崩落土である。遺物は覆土中よりII群b類土器、坑底面より剥片1点が出土した。性格は不明である。

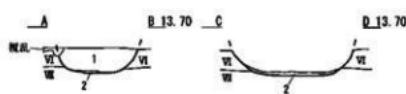
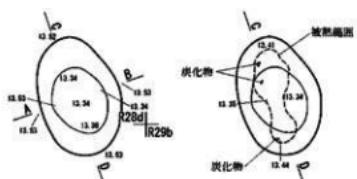
時 期 VH-3との新旧関係から、縄文時代中期前半である。(芝田)

VP-13(図IV-1-44/表1~2・4)

特 微 調査範囲南側の平坦面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。VH-2とVH-3の中間に位置しており、VH-2の壁の一部を壊している。平面形は不整梢円形、坑底面は北西側がやや高い。覆土は1・2層がV層起源の腐植土、3層が壁面からの崩落土で、いずれも自然堆積である。南東側の覆土1層下部に灰集中(層厚3cm以下)を確認した。遺物は覆土中より石錐(図IV-2-34-1)、石斧(2)、剥片、礫が出土した。性格は不明である。

時 期 VH-2との新旧関係から、縄文時代中期前半である。(芝田)

VP-10

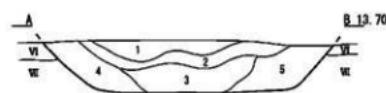
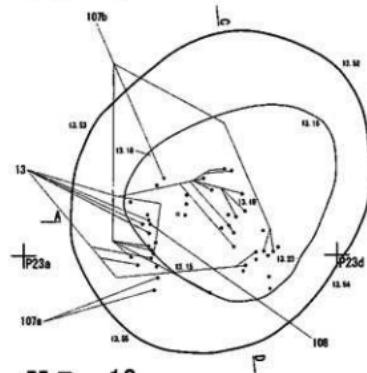


VP-10

1 10YR2/4暗褐色土 しまり中 粘性中 塗土 にぶい黄褐色土
(10YR4/3 しまり強 粘性中 塗土)がブロック状に混じる
VI > V En-a(φ1~30mm)がまばらに混じる

2 5YR5/8明赤褐色土 しまり強 粘性なし 植石 VI層の被熱層
施土層はなく、植石が部分的に被熱している

VP-11



VP-11

1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中 En-a少量含む 棚土1

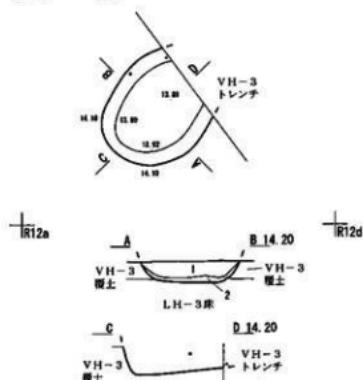
2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量含む 棚土1

3 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性中 En-a多量含む 層土2

4 10YR2/3暗褐色土 しまり強 粘性中 En-aごく少量含む 層土2

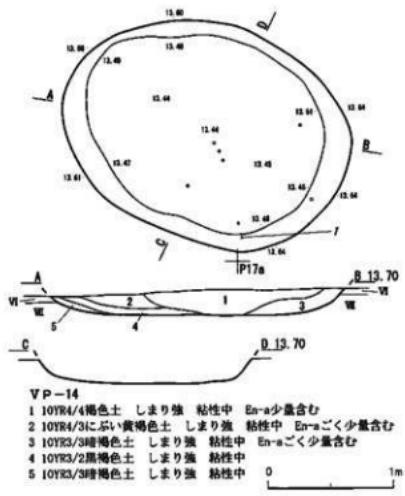
5 10YR4/4褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量含む 層土2

VP-12



- VP-12
- 1 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 VH層土主体
En-a(φ10mm以下)少量混じる
 - 2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 V+VI(混合)
LH-3の塗土よりの崩落土 En-a(φ10mm以下)無
偏混じる

VP-14



VP-14

1 10YR4/4褐色土 しまり強 粘性中 En-a少量含む

2 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性中 En-aごく少量含む

3 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中 En-aごく少量含む

4 10YR3/2黒褐色土 しまり強 粘性中

5 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中

図IV-1-43 VP-10~12・14

VP-14 (図IV-1-43/表1~5・7)

特 微 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、II群b-2類土器(図IV-2-17-108)、石鎌(図IV-2-34-1)、Rフレイク、剥片、礫が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

(菊池)

VP-15 (図IV-1-44/表1~4・6・7/図版18)

特 微 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は南北側でやや急、東西側でやや開いて立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は覆土から石鎌(図IV-2-34-1)、北海道式石冠、礫が出土し、坑底からは盤状粘土塊(図IV-2-24-9~13)が出土している。

時 期 他造構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。

(菊池)

VP-16 (図IV-1-44/表1~5)

特 微 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は、II群b-2類の土器(図IV-2-17-109)、北海道式石冠が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

(菊池)

VP-17 (図IV-1-44/表1~4・6/図版18)

特 微 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は丸底、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の暗褐色土は埋め戻しである。遺物は覆土から北海道式石冠、坑底からは盤状粘土塊(図IV-2-25-14~17)が出土している。

時 期 他造構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。

(菊池)

VP-18 (図IV-1-45/表1~4・7)

特 微 調査範囲ほぼ中央の平坦面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。一部攪乱により削平されている。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層と掘り上げ土の流れ込みである。遺物は覆土から石斧(図IV-2-34-1)、加工痕のある礫、礫が出土し、坑底からはII群b類の土器、剥片が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

(菊池)

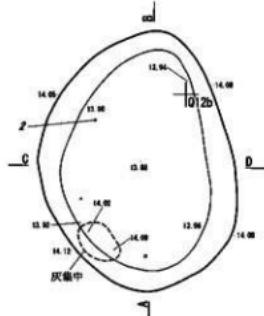
VP-19 (図IV-1-44/表1~3)

特 微 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。VII層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面は丸底、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1層は埋め戻し、2層は崩落である。遺物は覆土からII群b類の土器が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

(菊池)

VP-13

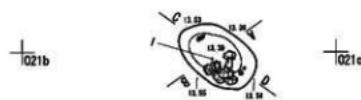


VP-13

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 V層土主体
En-a(φ15mm以下)少量混じる
- 2 10YR2.2/暗褐色土 しまり強 粘性強 V層土主体
VI層土が少量混入する En-a(φ20mm以下)多量混じる
- 3 10YR3/暗褐色土 しまり弱 粘性強 VI層土主体
V層土が斑状に混入する オレンジ色のfa-dが
微量に混じる



VP-15

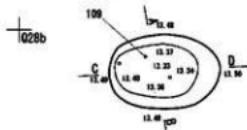


VP-15

- 1 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性中
En-a少量含む



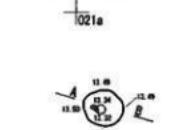
VP-16



VP-17



VP-19



VP-16

VP-17

VP-19

V P - 16
1 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性中
En-aごく少量含む

V P - 17
1 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性中
En-a少量含む

V P - 19
1 10YR5/6黄褐色土 しまり中 粘性中
2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
En-a少量含む

0 1m

図IV-1-44 VP-13・15~17・19

VP-20 (図IV-1-45/表1~3/図版18)

特 微 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1層は埋め戻し、2層は崩落である。遺物は坑底より粘土塊が出土している。

時 期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。 (菊池)

VP-21 (図IV-1-45/表1~3・6/図版19)

特 微 調査範囲南東の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土の黄褐色土は埋め戻しである。遺物は坑底より盤状粘土塊(図IV-2-25-18)が出土している。

時 期 他遺構における粘土塊の共伴例から、縄文時代前期後半の可能性が高い。 (菊池)

VP-22 (図IV-1-45/表1~4)

特 微 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VH-6壁面の調査中、土層断面で柱穴HP-6を壊し、にぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は不整楕円形を呈する。坑底面には凹凸が見られる。覆土は汚れたロームを主体とし、堅くしまっていることから、埋め戻しによるものと考えられる。覆土中から焼成粘土塊1点が出土した。

時 期 VH-6との新旧関係から、縄文時代前期後半以降と考えられる。 (芝田)

VP-23 (図IV-1-45/表1~3・5/図版19)

特 微 調査範囲やや東側の緩斜面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土よりII群b-1類(図IV-2-6-14)が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。 (菊池)

VP-24 (図IV-1-46/表1~5・7/図版19)

特 微 調査範囲西端中央の緩斜面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面はほぼ平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、II群b-1類土器(図IV-2-17-110・111)、石皿片(図IV-2-34-1・2)、礫が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半である。 (菊池)

VP-25 (図IV-1-46/表1)

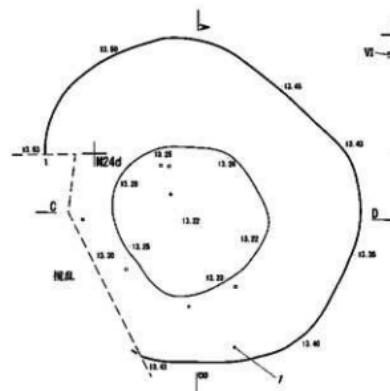
特 微 調査範囲西端中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はV層の流れ込み、2~5層は掘り上げ土の埋め戻し、6層は崩落である。遺物は出土していない。

時 期 特定できないが周囲の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。 (菊池)

VP-29 (図IV-1-46/表1~5・7)

特 微 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。V層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はV層の流れ込み、

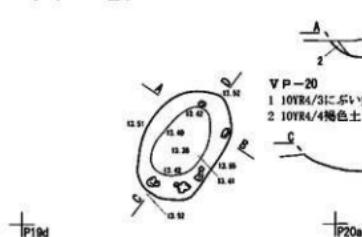
VP-18



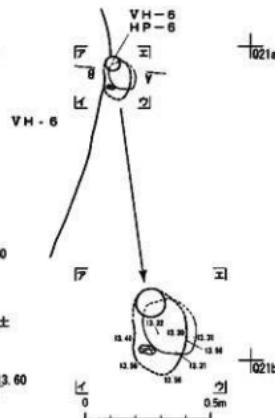
VP-18

1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中 En-a少量化
 2 SYR5/6明赤褐色土 しまり中 粘性中
 3 10YR3/2暗褐色土 しまり中 粘性中
 4 10YR4/2灰黃褐色土 しまり中 粘性中 En-a多量に含む
 5 10YR4/6褐色土 しまり中 粘性中 En-a多量に含む

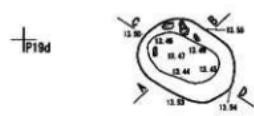
VP-20



VP-22



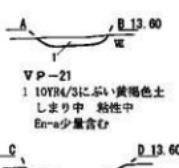
VP-21



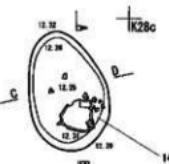
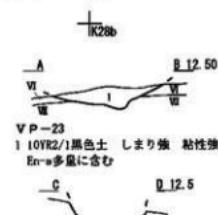
VP-20

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 2 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中

P20a



VP-23

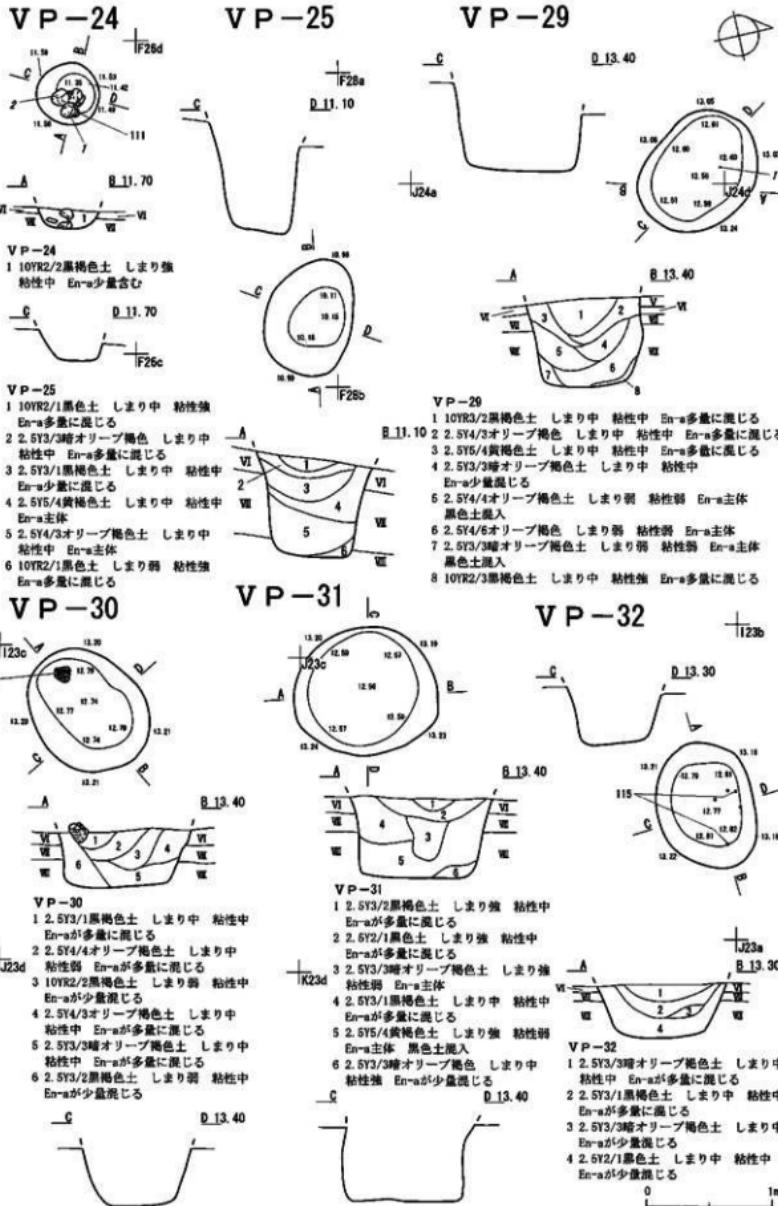


VP-22

1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり強 粘性なし 塩土 層界は層変
 Ta-d (φ 10~30mm) をごくわずかに含む



図IV-1-45 VP-18・20~23



図IV-1-46 VP-24・25・29~32

2～7層は掘り上げ土の埋め戻し、8層は崩落である。遺物は、覆土からII群b-2・3類（図IV-2-17-112～114）、IV群a類・c類の土器、剥片が出土し、坑底からはつまみ付きナイフ（図IV-2-35-1）が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期後葉である。

（菊池）

VP-30（図IV-1-46／表1～3・5）

特 微 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は梢円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はV層の流れ込み、2～5層は掘り上げ土の埋め戻し、6層は崩落である。遺物は覆土からIII群b類、IV群c類の土器が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期後葉である。

（菊池）

VP-31（図IV-1-46／表1～2・4）

特 微 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面はほぼ平坦、壁は急に立ち上がる。覆土の1層はV層の流れ込み、2～6層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は覆土から礫が出土している。

時期 特定できないが周囲の遺構・遺物から縄文時代後期の可能性がある。

（菊池）

VP-32（図IV-1-46／表1～3・5）

特 微 調査範囲西側中央の緩斜面に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で褐色土の落ち込みを確認した。平面形は梢円形で坑底面は平坦、壁は急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、覆土からII群b-2類土器（図IV-2-17-115）が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

（菊池）

VP-33（図IV-1-47／表1～2・4）

特 微 調査範囲西側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VH-8に切られている。VI層調査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は梢円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は坑底から礫が出土している。

時期 周辺の遺物とVH-8に切られていることから縄文時代前期と推定される。

（菊池）

VP-34（図IV-1-47／表1～3・5）

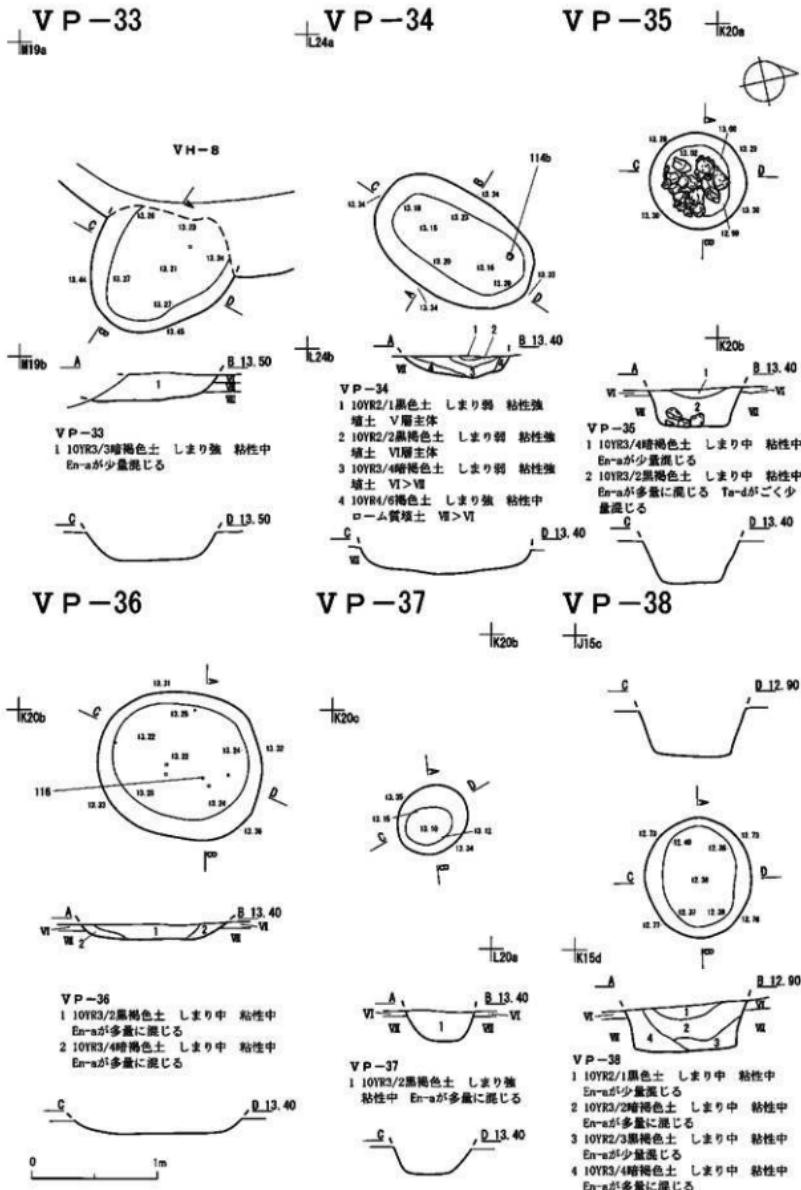
特 微 調査範囲南東側の高位の段丘面上に立地する。VII層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。掘り込みはやや緩やかで、坑底面には凹凸が見られる。覆土は、1・2層がV層起源の腐植土、3・4層が壁面からの崩落土で、いずれも自然堆積。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は覆土中よりII群b類土器、IV群土器、剥片が出土した。南側のVH-7とV層中で重複していたと推測されるが、新旧関係は不明である。

時期 不明。

（芝田）

VP-35（図IV-1-47／表1～2・4／図版19）

特 微 調査範囲南側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。



図IV-1-47 VP-33~38

遺物は坑底から砥石、石皿、台石、加工痕のある礫、礫が出土している。

時 期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。

(菊池)

V P - 36 (図IV - 1 - 47 / 表1 ~ 5)

特 徴 調査範囲南側中央の平坦面に浅く掘り込まれた土坑。VI層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土は掘り上げ土の流れ込みである。遺物は、II群b - 2類土器 (図IV - 2 - 17 - 116)、III群土器、加工痕のある礫、礫が出土している。

時 期 坑底の出土遺物から縄文時代中期である。

(菊池)

V P - 37 (図IV - 1 - 47 / 表1)

特 徴 調査範囲南側中央の平坦面に掘り込まれた土坑。VI層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は出土していない。

時 期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。

(菊池)

V P - 38 (図IV - 1 - 47 / 表1)

特 徴 調査範囲南西側端の緩斜面上に深く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形はほぼ円形で坑底面は平坦、壁は急に立ち上がる。覆土1層はV層の流れ込み、2 ~ 4層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は出土していない。

時 期 特定できないが周辺の遺構・遺物から縄文時代前期の可能性がある。

(菊池)

V P - 39 (図IV - 1 - 48 / 表1 ~ 5 / 図版19)

特 徴 VI層上面で検出した。平面形は概ね楕円形、断面形状が椀形である。覆土は2層に分層した。下層はやや明るい土壤で、一部焼土ブロックと見られる赤色部分や炭化物が少量含まれていた。この炭化物を試料として放射性炭素年代測定 (AMS法)を行ったところ、暦年較正年代で $3,344 \pm 30$ yr BPという数値が得られた。詳細はVI章第1節を参照されたい。また、大型破片が多い個体土器が覆土下位～坑底でまとまって出土した。ウサクマイC式の深鉢形土器 (図IV - 2 - 9 - 19) である。

時 期 縄文時代後期中葉である。

(阿部)

V P - 40 (図IV - 1 - 48 / 表1 ~ 5)

特 徴 調査範囲南西側端の緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形で坑底面はほぼ平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土の1 ~ 3層はV層の流れ込み、4 ~ 5層は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は、IV群b - 1類土器 (図IV - 2 - 21 - 156 ~ 158)、Rフレイク、剥片が出土した。

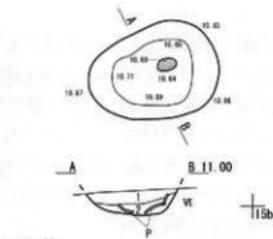
時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。

(菊池)

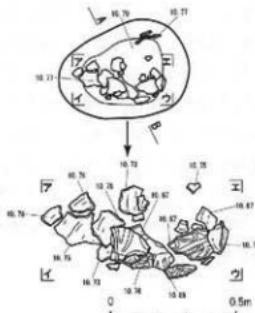
V P - 41 (図IV - 1 - 48 / 表1 ~ 5 + 7 ~ 11 / 図版19)

特 徴 調査範囲南西側端の緩斜面上に立地する。擦文化期の堅穴住居跡 (IIIH - 3) に壊されている。平面形は楕円形と推定され、坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。遺物は、覆土からIV群b - 1 ~ 3類土器 (図IV - 2 - 12 - 27、21 - 159 ~ 165)、石鎌、Rフレイク、石斧 (図IV - 2 - 35 -

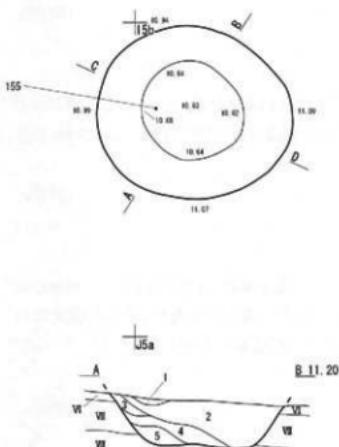
VP-39



- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 黏性中 V層相当
軽石わずかに含む
2 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 黏性強 VI層相当 均質的
炭化物少量含む 軽石わずかに含む

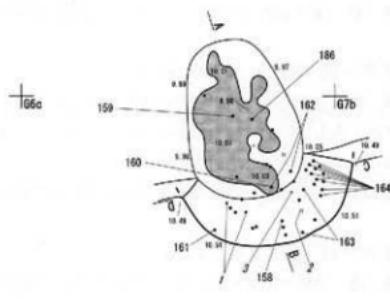


VP-40

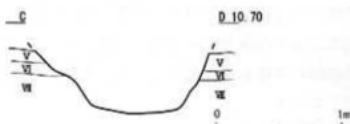


- 1 5YR2/3暗褐色土 しまり中 黏性中
2 10YR2/1黑色土 しまり中 黏性中 En-aが少量混じる
3 10YR3/4暗褐色土 しまり中 黏性中
4 5Y3/3暗オリーブ褐色土 しまり中 黏性中
En-aが多量に混じる
5 10YR2/2暗褐色土 しまり中 黏性中 En-aが少量混じる

VP-41



- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 黏性中
2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 黏性強
3 5YR3/6暗赤褐色土 しまり中 黏性強 En-aが少量混じる
4 5YR5/6暗赤褐色土 しまり中 黏性強 En-aが少量混じる
5 7.5YR3/4暗褐色土 しまり中 黏性強



図IV-1-48 VP-39~41

1)、たたき石(2)、剥片、礫、石製品(玉)(3)、坑底からはIV群c-1類土器(図IV-22-187)が出土している。坑底に明赤褐色土が撒かれており、また出土遺物から土坑墓の可能性が高い。

時期 坑底の出土遺物から縄文時代後期後葉である。

(菊池)

VP-42(図IV-1-49/表1~5/図版20)

特徴 VI層上面で検出した。平面形は概ね楕円形。坑底はVII層中に達し、やや丸みを帯びる。覆土は3層に分層した。1層は黒色土を主体とした自然堆積土である。2層は壁面付近から坑底上位に分布し、やや明るい土壌が堆積している。焼土とみられる赤色部分やブロック状の粘土を少量含む。また焼土の上からウサクマイC式の深鉢形土器の大型破片が2点出土した(図IV-2-11-21)。3層は坑底付近の軽石混じりの薄層である。このほか覆土中よりIV群b-1類土器(図IV-21-166)が出土している。覆土中より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、曆年校正年代で $3,218 \pm 31$ yrBPという数値が得られた(VI章第1節参照)。

時期 縄文時代後期中葉である。

(阿部)

VP-43(図IV-1-49/表1)

特徴 VI層上面で検出した。平面形は円形。坑底はVII層上面付近で、ほぼ平坦である。壁面の立ち上がりは垂直に近い。覆土は単層で、黒色土の自然堆積層。

時期 周辺の出土遺物などから、縄文時代後期中期中葉とみられる。

(阿部)

VP-44(図IV-1-49/表1~3)

特徴 VI層上面で検出した、大型の土坑。平面形は楕円形。坑底はVII層上面付近に達し、おおむね平坦である。壁面はゆるやかに立ち上がる。覆土は上層が黒色の均質的な自然堆積土で、下層は軽石混じりのやや明るい土壌である。

時期 周辺の出土遺物などから、縄文時代後期中期中葉とみられる。

(阿部)

VP-45(図IV-1-49/表1~5)

特徴 VI層上面で検出した、大型の土坑。平面形は楕円形。坑底はVII層上面付近に達し、おおむね平坦。壁面は緩やかに立ち上がる。東側は木根の影響を受けている。覆土は上層が黒色の均質的な自然堆積土で、下層は軽石混じりのやや明るい土壌。坑底付近からIV群b-1類土器(図IV-21-167~169)が出土した。

時期 出土遺物などから、縄文時代後期中期中葉とみられる。

(阿部)

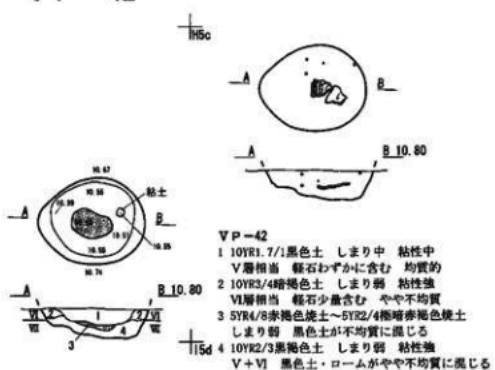
VP-46(図IV-1-50/表1)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。V層下位~VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は不整円形を呈する。掘り込みは緩やかで、断面は半円状。坑底面は平坦ではなく、北西側へ向かって低くなる。覆土は、いずれも自然堆積である。1~4層がV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。5・6層がV~VII層からの崩落土で、壁際~坑底部に堆積する。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は出土していない。北西側でVP-49を壊している。

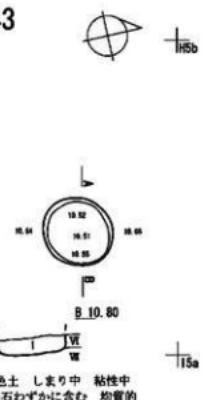
時期 不明。

(芝田)

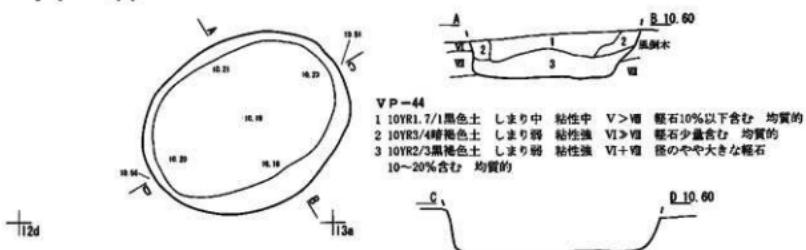
VP-42



VP-43



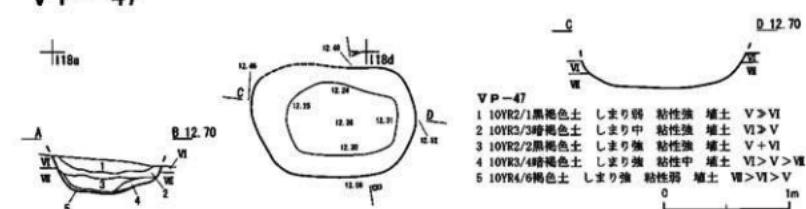
VP-44



VP-45



VP-47



図IV-1-49 VP-42~45・47

VP-47 (図IV-1-49/表1~3・5)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は橢円形を呈する。掘り込みは緩やかで、坑底面は平坦。覆土は、いずれも自然堆積である。1~3層がV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。4・5層がV~VII層からの崩落土で、壁際~坑底部に堆積する。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は、覆土中よりII群b-2類土器(図IV-2-17-117)が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

(芝田)

VP-48 (図IV-1-50/表1~5・7)

特 徴 調査範囲南西側端の緩斜面に掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は橢円形で、坑底面はほぼ平坦、壁はやや急に立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-21-170・171)、石皿片(図IV-2-35-1)が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。

(菊池)

VP-49 (図IV-1-50/表1)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。V層下位~VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は橢円形を呈する。掘り込みはやや急で、坑底面は北東側が低い。覆土は、いずれも自然堆積である。1層はV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。2・3層はロームと腐植土の混合、4・5層はV~VII層からの崩落土である。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は出土していない。南東側でVP-46に壊されている。

時 期 不明。

(芝田)

VP-50 (図IV-1-50/表1~5/図版20)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形を呈する。掘り込みは緩やかで、坑底面は平坦である。覆土は、いずれも自然堆積である。1~3層はV層土主体で、掘り上げ土の流れ込みと考えられるロームが混入する。4層はV~VII層からの崩落土である。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は、覆土中よりII群b-1・2類土器(図IV-2-6-15、17-118)、北海道式石冠、剥片が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

(芝田)

VP-51 (図IV-1-50/表1)

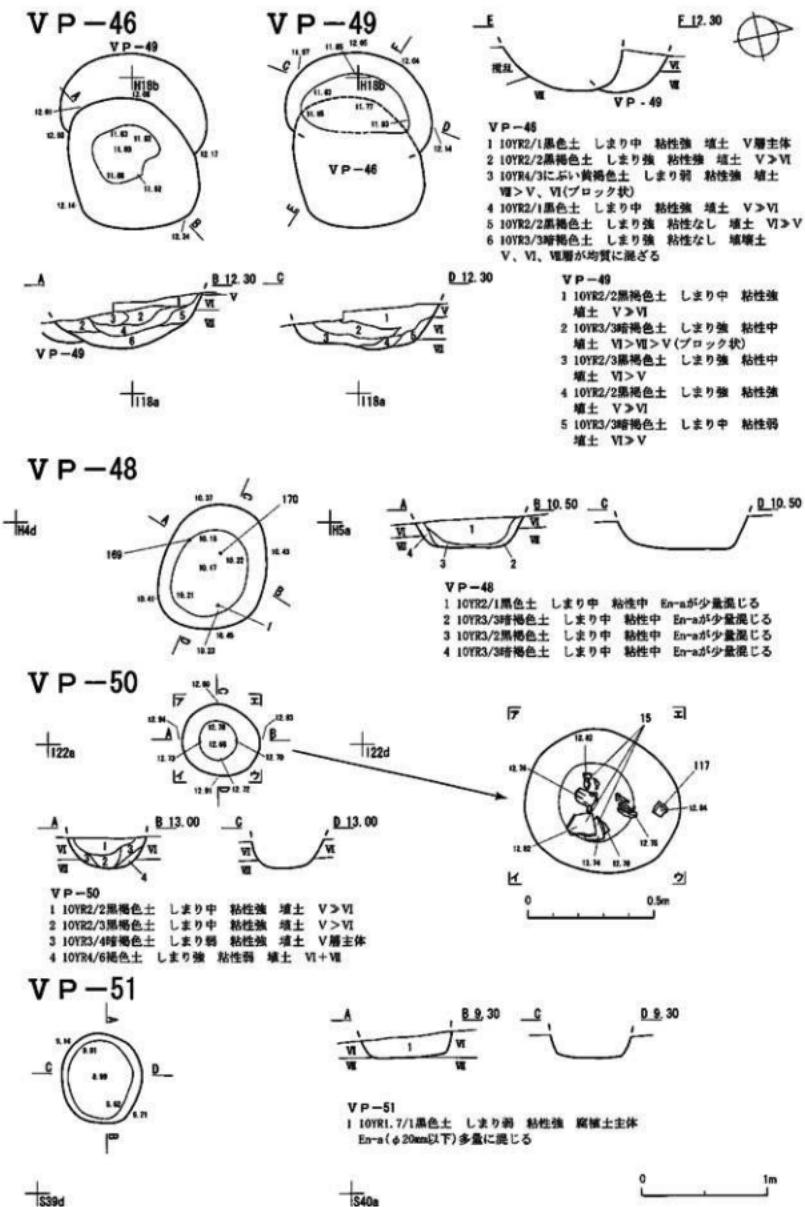
特 徴 祝梅川旧河道の湾曲部分に面する緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形で、坑底面はほぼ平坦である。覆土は自然堆積で、V層起源の腐植土に掘り上げ土の可能性があるEn-a降下軽石が多量に混入する。遺物は出土していない。

時 期 周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代後期中葉と推測される。

(芝田)

VP-52 (図IV-1-51/表1~5)

特 徴 VI~VII層で、黒色土の円形の広がりを確認した。広がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断して引き続き坑内を調査した。平面形は上端・下端とも円形、坑底は平坦、立ち上がりはやや外傾する。構築面はV層とみられ、覆土は1・2層とも埋め戻しの可



图IV-1-50 VP-46·48~51

能性がある。遺物は、覆土からIV群a-2類土器(図IV-2-19-138)、Uフレイクが出土した。
時 期 覆土中の遺物やV層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。(山中)

V P-53(図IV-1-51/表1)

特 徴 VII層上面で検出した。土層観察の結果、覆土は5層に分層した。坑底はVI層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は出土していない。

時 期 不明である。(影浦)

V P-54(図IV-1-51/表1~5)

特 徴 調査範囲北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。V層の包含層調査時に北側約1/2を削平した。平面形は橢円形と推定され坑底面は平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-21-172)、剥片が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

V P-55(図IV-1-51/表1~5+7)

特 徴 調査範囲や北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は橢円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-21-173)、石鎌(図IV-2-35-1)、石のみ(2)が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

V P-56(図IV-1-51/表1~5)

特 徴 調査範囲や北側中央の緩斜面に浅く掘り込まれた土坑。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は橢円形で坑底面はほぼ平坦、壁は開いて立ち上がる。覆土はV層の流れ込みである。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-21-174)、石鎌、多量の黒曜石剥片、礫が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期中葉である。(菊池)

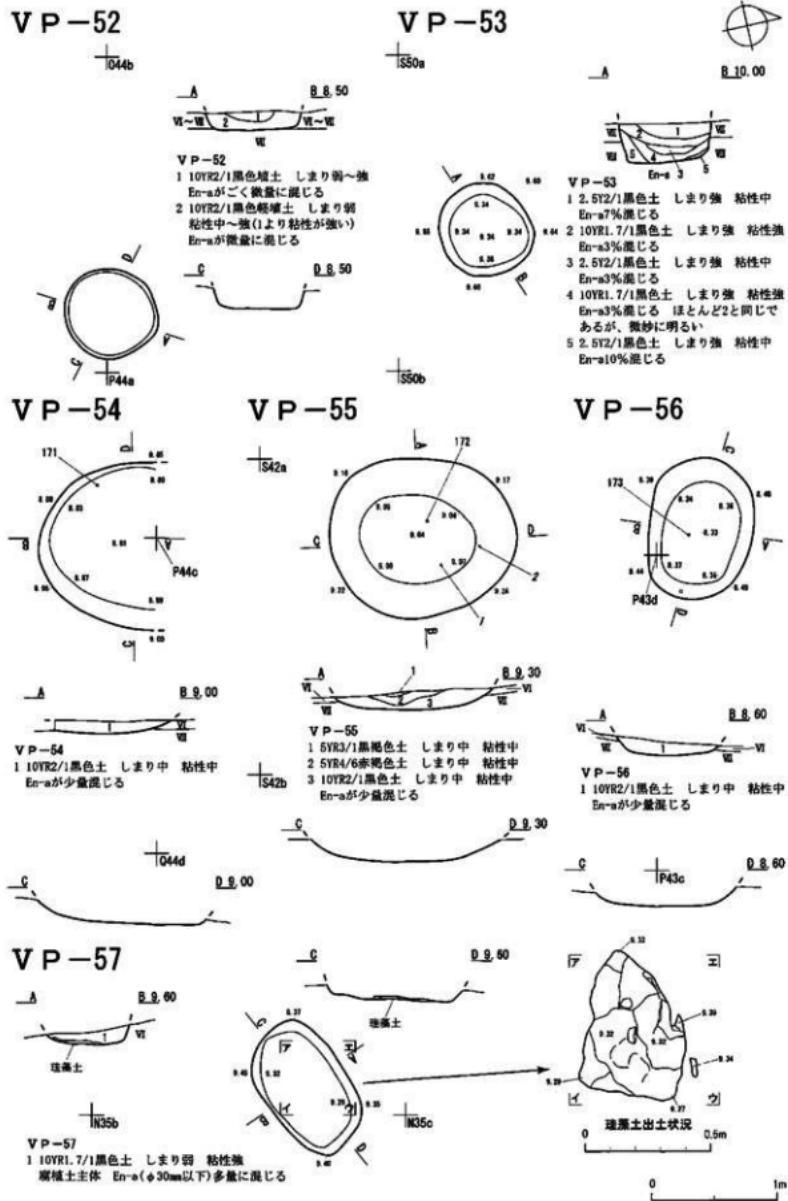
V P-57(図IV-1-51・52/表1~3・5/図版20)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は橢円形で、坑底面は東側がやや低い。覆土は自然堆積で、V層起源の腐植土である。北東側の坑底面から壁面に沿ってめくれ上がるような状態で、板状の灰白色物質が出土した。蛍光X線分析の結果ではSiO₂100%であり、珪藻土の一種と考えられる。覆土中よりII群b-1類土器が1個体出土した(図IV-2-1-1)。これに類似する珪藻土は旧河道内(河床)からも出土している(図IV-1-52)。周辺の出土遺物より、縄文時代後期中葉に河道内へ廃棄されたと推測される。

時 期 出土遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

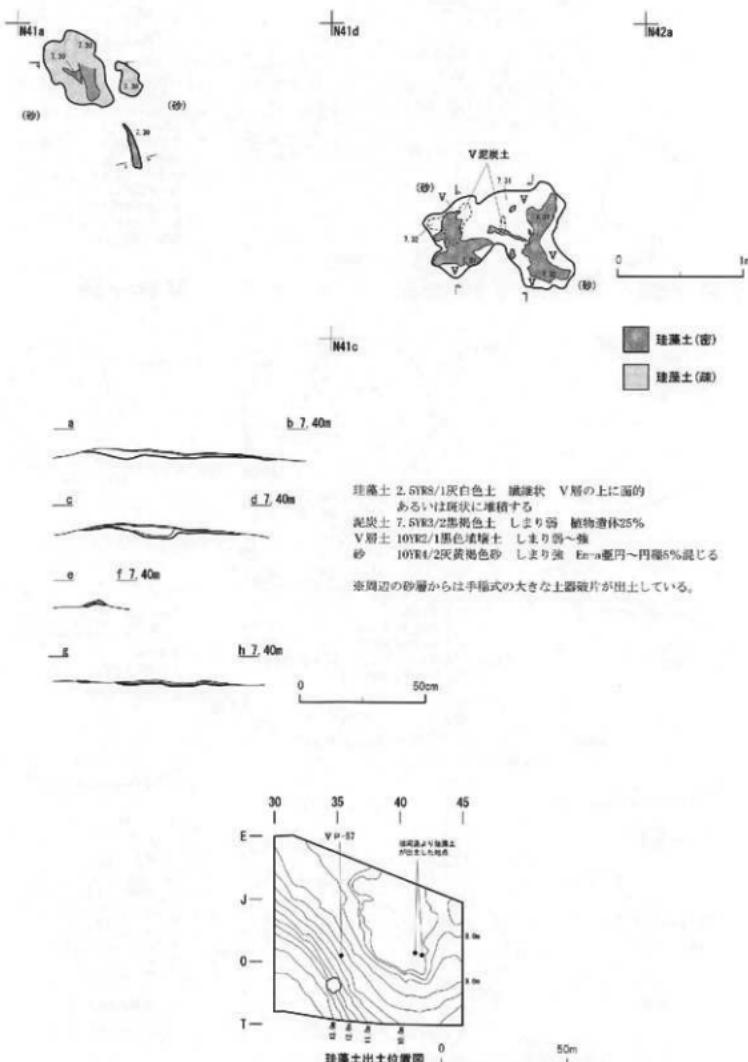
V P-58(図IV-1-53/表1~5)

特 徴 VII層で黒色土の円形の広がりを確認した。広がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断して引き続き坑内を調査した。平面形は上端・下端ともほぼ円形、坑底は概ね平坦、壁は垂直ぎみである。構築面はV層とみられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。遺



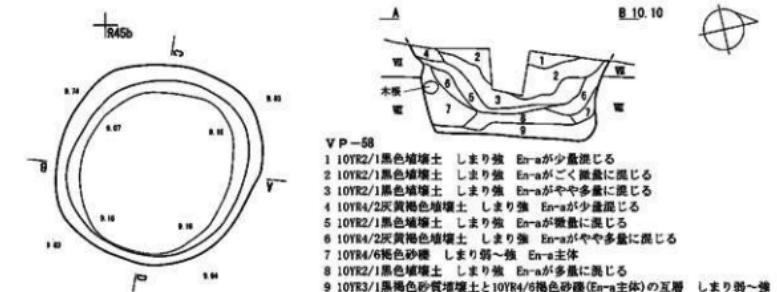
図IV-1-51 VP-52~57

旧河床珪藻土出土状況

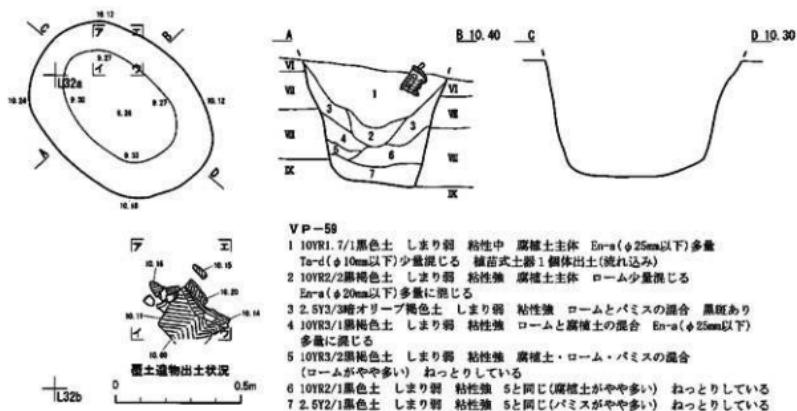


図IV-1-52 V P-57(2)

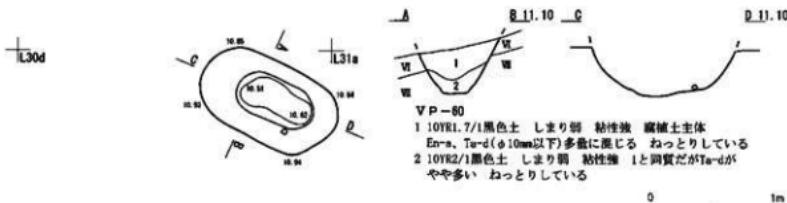
V P - 58



V P - 59



VP-60



図IV-1-53 VP-58~60

物は覆土からIV群b-2類土器(図IV-22-175・176)、剥片が出土した。

時 期 覆土中の遺物やV層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。

(山中)

VP-59(図IV-1-53/表1~5/図版20)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。掘り込みはほぼ垂直で、坑底面は北西側がやや低い。壁面の下部はVII層で、もろく崩れやすい。覆土は上部の1・2層がV層起源の腐植土で、自然堆積。覆土3~7層は、腐植土・ローム・En-a降下軽石の混合で、埋め戻しによるものと推測される。覆土1層からII群b-1類土器1個体が出土した(図IV-2-2-2)。覆土の堆積状況から墓の可能性がある。

時 期 近隣のVP-61と形状・覆土が類似することから、縄文時代前期後半である。(芝田)

VP-60(図IV-1-53/表1~2・4)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。掘り込みは緩やかに内傾し、坑底面には凹凸がある。覆土は自然堆積で、V層起源の腐植土である。遺物は礫・剥片が出土した。用途は不明。

時 期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半である。

(芝田)

VP-61(図IV-1-54/表1~5・7/図版20)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北向きの斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。掘り込みの下部はほぼ垂直であるが、東側に段が見られる。坑底面はほぼ平坦である。南側の壁の上部は搅乱により壊されている。覆土は上部の1・2層がV層起源の腐植土で、自然堆積。覆土3・4層は、腐植土・ローム・En-a降下軽石の混合で、埋め戻しによるものと推測される。坑底部(覆土4層)からII群b-1類土器1個体(図IV-2-3-3)と石皿1点(図IV-2-37-1)が出土した。土器は底部の一部を欠くことから、この土坑を埋め戻す際に、予め割って投げ入れられたと推測される。覆土の堆積および遺物の出土状況から墓の可能性がある。

時 期 出土遺物から、縄文時代前期後半である。

(芝田)

VP-62(図IV-1-54/表1~5)

特 微 V層を調査中に、VI層上面においてIII P-73に南東側の一部を削平された黒色土の梢円形の拡がりを確認した。東側を半截したところ、底面と壁面を確認した。底面は皿状で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は、覆土からII群b-1類土器(図IV-2-17-119)、すり石、礫が出土している。

時 期 遺物や周囲の状況から縄文時代前期後半と考えられる。

(酒井)

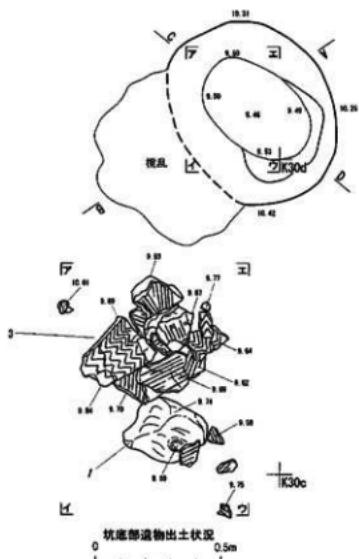
VP-63(図IV-1-54/表1~4・7)

特 微 V層下部で扁平礫が縦位に2枚重なった状態で現われ、VI層上面で範囲を確認した。土層観察の結果、覆土は2層に分層した。木根跡等の自然の窪みに礫を縦位に埋め込んだ可能性も考えられ、人為的な埋め戻しであるか、自然堆積かは判然としない。遺構の性格も定かではない。礫は台石で、素材は砂岩である。重量は東側が3,416g(図IV-2-36-1)、西側が5,700g(2)である。遺物は覆土からII群b類・IV群a類土器、台石、剥片が出土した。

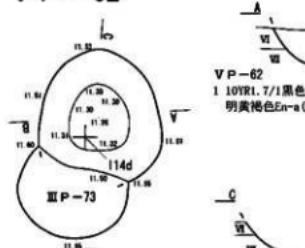
時 期 不明である。

(影浦)

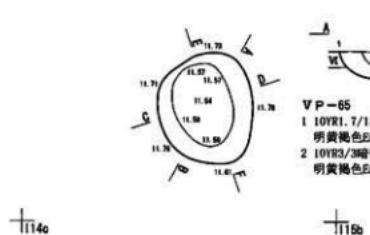
VP-61



VP-62



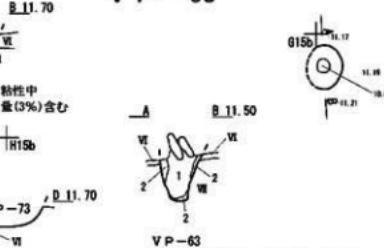
V P - 65



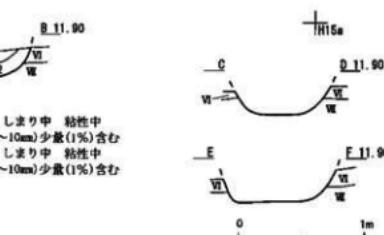
図IV-1-54 VP-61~63・65



V P -63



V P-63
 1. 2.572/1黒色土 しまり強 粘性強
 En-a(φ5~10mm)15%混じる
 2. 2.573/2黒褐色土 しまり強 粘性強
 En-a(φ5~10mm)10%混じる



VP-64 (図IV-1-63/表1~4・7)

特 微 VT P-12と共にⅦ層上面で検出した。平面形はいびつな円形を呈する。坑底面は平坦である。土層観察の結果、覆土は3層に分層した。覆土2・3は流れ込み様の堆積を示していたが、覆土1と2の間に加工痕のある疊(図IV-2-36-1)が出土したことから、埋め戻しの可能性もある。覆土1はV層の堆積であろう。北東壁がVT P-12の掘開によって失われている。遺物は、上述の1点のほか、覆土からII群b類・III群b類・IV群b類土器、疊が出土している。

時 期 不明である。

(影浦)

VP-65 (図IV-1-54/表1)

特 微 VI層上面において黒色土の円形の拡がりを確認した。東側を半截したところ、底面と壁面を確認した。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

時 期 周囲の状況から縄文時代前期後半と考えられる。

(酒井)

VP-66 (図IV-1-55/表1~2・4)

特 微 VI層上面で検出した。覆土は1層で、V層主体の流れ込みと考えられる。坑底面は平坦で、壁は急角度である。遺物は覆土から疊、剥片が出土している。

時 期 不明である。

(影浦)

VP-67 (図IV-1-55/表1~5)

特 微 VI層上面で検出した。覆土は1層で、V層主体の流れ込みと考えられる。坑底面は平坦で、壁は急角度である。遺物は、覆土からIV群a類土器、IV群b-2類土器(図IV-22-177)、剥片が出土した。

時 期 不明である。

(影浦)

VP-68 (図IV-1-55/表1)

特 微 VII層上面で検出した。覆土は1層。壁は急角度で、坑底はⅦ層内に及ぶ。遺物は出土していない。

時 期 不明である。

(影浦)

VP-69 (図IV-1-55/表1~3・5)

特 微 VII層上面で検出した。覆土は1層。坑底面は中央部が皿状に浅く窪み、Ⅶ層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-22-178)が出土している。

時 期 不明である。

(影浦)

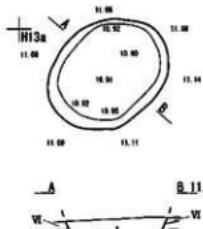
VP-70 (図IV-1-55/表1)

特 微 VII層で黒色土の円形の拡がりを確認した。拡がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況・下端・壁面を観察した結果、土坑と判断した。平面形は上端・下端とも円形、坑底は平坦、立ち上がりは外傾する。構築面はV層とみられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。遺物は出土していない。

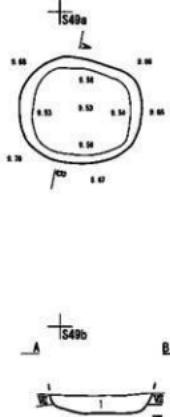
時 期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期のものと推測される。

(山中)

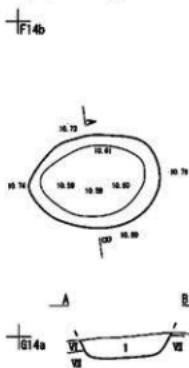
VP - 66

H13a
H13b

VP - 69

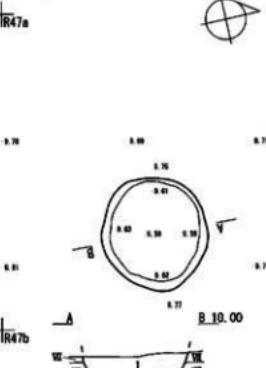


VP - 67

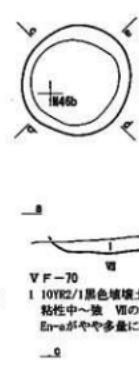


F14b

VP - 68

R47a
R47b

VP - 70

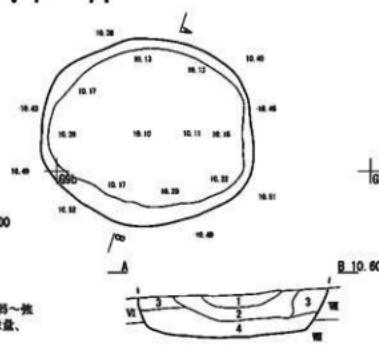


F14b

B 10.00

H46a

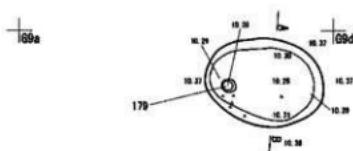
VP - 71



d 8.00

B 10.00

VP - 72

A
B 10.50
VI

0 1m

図IV-1-55 VP-66~72

VP-71 (図IV-1-55/表1~5)

特徴 VP-72と共にVI層上面で検出した。覆土は4層に分層した。いずれも流れ込みと考えられる。覆土4層は掘り上げ土が流れ込んだものかもしれない。坑底面はVI層内で、中央部がわずかに低く皿状を呈している。壁は比較的急角度に立ち上がる。遺物は、覆土からIV群b-1類土器(図IV-22-179)、剥片が出土している。

時期 不明である。

(影浦)

VP-72 (図IV-1-55/表1~5)

特徴 VP-71と共にVI層上面で検出した。覆土は2層。平面形は梢円形。坑底面はVI層内で、中央部がわずかに低く皿状を呈する。南東の壁際で、IV群b-2類土器の底部片(図IV-22-180)が内面を上向きにした状態で出土し、その周囲から黒曜石のRフレイク・剥片が出土した。仮に人為的に埋納したものであれば、覆土については埋め戻しの可能性も考えられる。このほか覆土中より緑色泥岩の剥片も出土した。

時期 繩文時代後期中葉の可能性がある。

(影浦)

VP-73 (図IV-1-56/表1)

特徴 VI層上面で検出した。覆土は1層。坑底面は中央部が皿状に浅く窪み、VII層内に及ぶ。壁は急角度である。遺物は出土していない。

時期 不明である。

(影浦)

VP-74 (図IV-1-56/表1~3・5/図版20)

特徴 祝梅川旧河道から東へ内湾する入江を見下ろす段丘上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みを検出した。平面形は梢円形。坑底面は広く平坦。南東側の一部を鋼矢板によって壊されている。覆土はV層の腐植土で、自然堆積。覆土中よりIV群b-2類土器(図IV-2-11-22、22-181)が出土した。

時期 出土遺物から、繩文時代後期中葉である。

(芝田)

VP-75~77 (図IV-1-56/表1)

特徴 VI層上面において、長径0.7m内外の小型土坑が3基近接して検出された。確認面から坑底面の深さは10~15cm、いずれもVI層上面を坑底面とする。覆土は2層で、流れ込みと考えられる。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。規模や特徴から、これらは同時のものと考えられる。

時期 不明である。

(影浦)

VP-78 (図IV-1-56/表1~2・4・7)

特徴 祝梅川旧河道から東へ内湾する入江を望む段丘上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は梢円形を呈する。掘り込みは垂直で、坑底面は平坦である。覆土は大部分がV層起源の腐植土で、自然堆積。坑底部より石皿1点(図IV-2-37-1)が出土した。

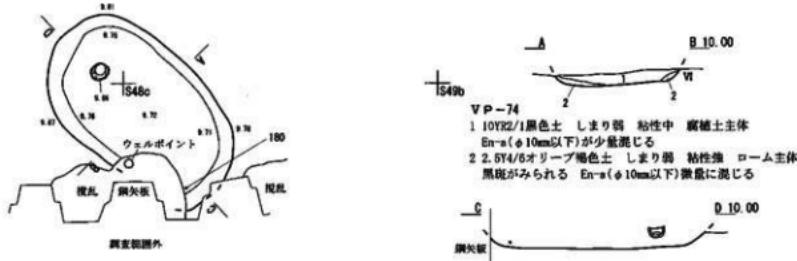
時期 周辺の包含層より出土した遺物から、繩文時代後期中葉である。

(芝田)

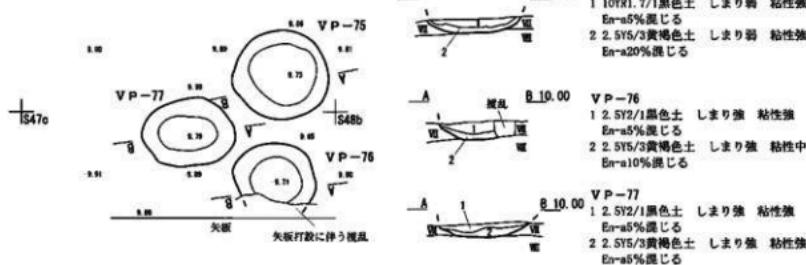
V P - 73



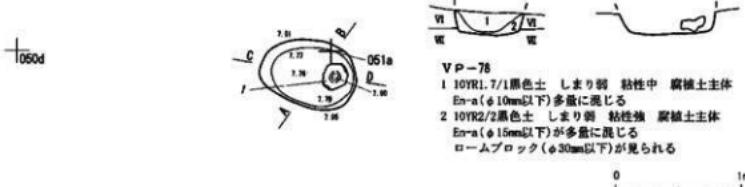
VP-74



V P - 75 • 76 • 77

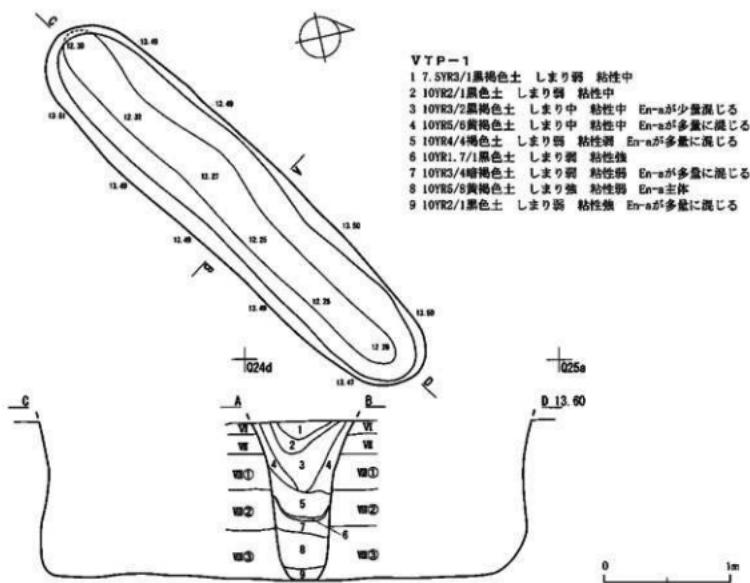


VP-78



图IV-1-56 VP=73~78

VTP-1



図IV-1-57 VTP-1

(4) Tピット

VTP-1 (図IV-1-57/表1~2・3/図版21)

特徴 調査範囲南東側の平坦面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は溝状で坑底面は平坦、壁は長軸、短軸共に垂直に立ち上がる。覆土の1~3層はV層の流れ込み、4~9層は崩落である。遺物は覆土から剥片が出土している。

時期 繩文時代中期と推定される。

(菊池)

VTP-2 (図IV-1-58/表1~2・3/図版21)

特徴 調査範囲ほぼ中央の平坦面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は溝状で坑底面は平坦、壁は長軸はオーバーハングして立ち上がり、短軸は垂直に立ち上がる。覆土の1~3層はV層の流れ込み、4~9層は崩落である。遺物は覆土から蝶が出土している。

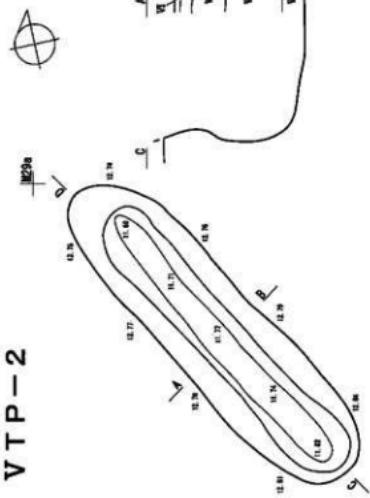
時期 繩文時代中期と推定される。

(菊池)

VTP-3・4 (図IV-1-59/表1)

特徴 調査範囲西側中央の急斜面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。VTP-3がVTP-4を壊しており、さらに試掘坑により壊されている。共に平面形は溝状で坑底面は波打っている。壁はVTP-3は垂直に立ち上がり、VTP-4は長軸は開きぎみに、短軸は垂直に立ち

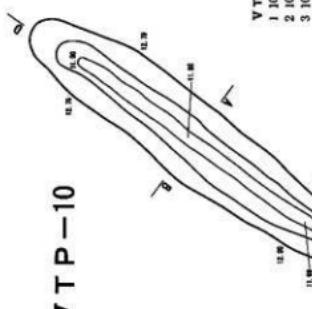
VTP-2



D.13.00

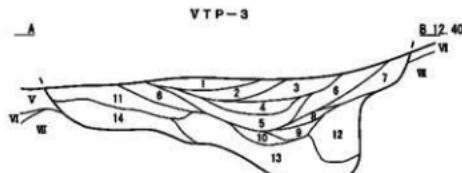
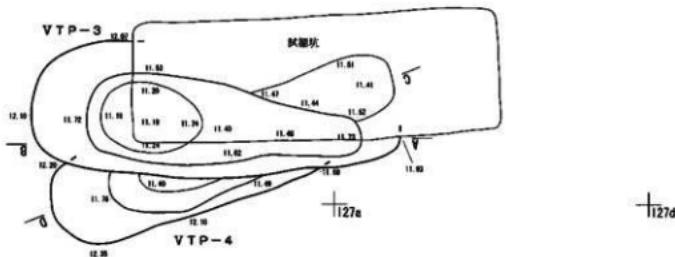
- VTP-2
1. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 棱柱中 En-aが少く少量現じる
 2. 10YR4/2 黒褐色土 しまり弱 棱柱中 En-aが少く少量現じる
 3. 10YR3/2 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-aが少く少量現じる
 4. 10YR4/3-5 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-aが多量に現じる
 5. 10YR4/3 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-aが多量に現じる
 6. 10YR5/6 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-aが多量に現じる
 7. 10YR5/6 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-a主体 黑色土混入
 8. 10YR2/1 黑色土 しまり弱 棱柱中 En-a主体 黑色土混入
 9. 10YR5/6 黑褐色土 しまり弱 棱柱中 En-a主体 黑色土混入

VTP-10



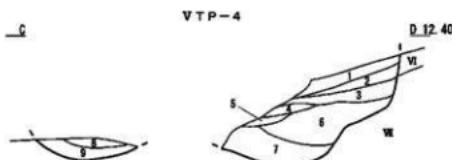
図IV-1-58 VTP-2・10

VTP-3 · 4



VTP-3

1. 2.5V/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-dが多量に混じる
2. 2.5V/3黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが少量、Te-dが多量に混じる
3. 2.5Y/3オリーブ褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量、Te-dが少量混じる
4. 2.5V/4緑褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
5. 2.5V/3黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが少量、Te-dが多量に混じる
6. 2.5V/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが少量混じる
7. 2.5Y/4オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-aが多量に混じる
8. 10YR/5緑褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
9. 2.5V/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
10. 2.5Y/1黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
11. 2.5Y/2黒褐色土 しまり強 粘性中 En-aが多量に混じる
12. 10YR/4にべる黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体
13. 10YR/4にべる黄褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体 黑色土少量混入
14. 2.5Y/3オリーブ褐色土 しまり強 粘性弱 En-a主体



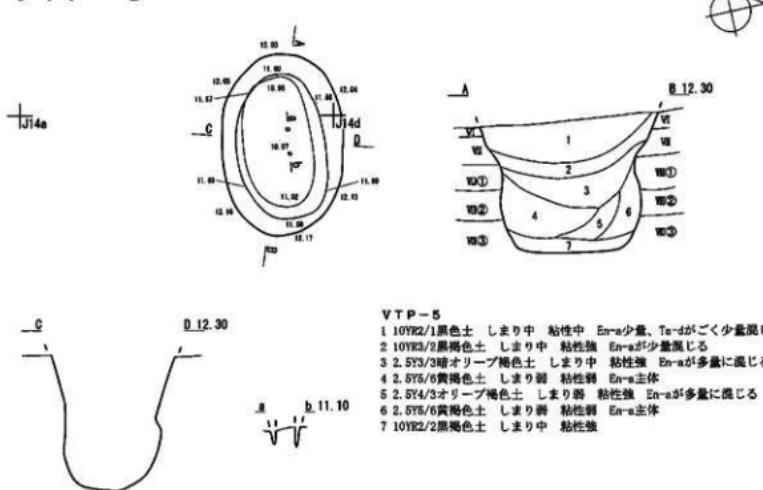
VTP-4

- | | | | |
|--------------------|------|-----|-------------------|
| 1. 2. 3. 5. 1/黒褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Eraが多量、En-aが少量混じる |
| 2. 5. 5/黄褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Eraが多量に混じる |
| 3. 5. 5/3オブリ'褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | En-aが多量に混じる |
| 4. 5. 5/1黒褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Era, Ts-dが少量混じる |
| 5. 5. 5/2黒褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Eraが多量に混じる |
| 10/5'4/1-5/1黒褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Era+主体 |
| 7. 5. 3/3暗オブリ'褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | En-aが多量に混じる 黒色土混入 |
| 8. 5. 4/3オブリ'褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Eraが多量に混じる |
| 9. 5. 3/2/2黑褐色土 | しまり強 | 粘性弱 | Eraが多量に混じる |

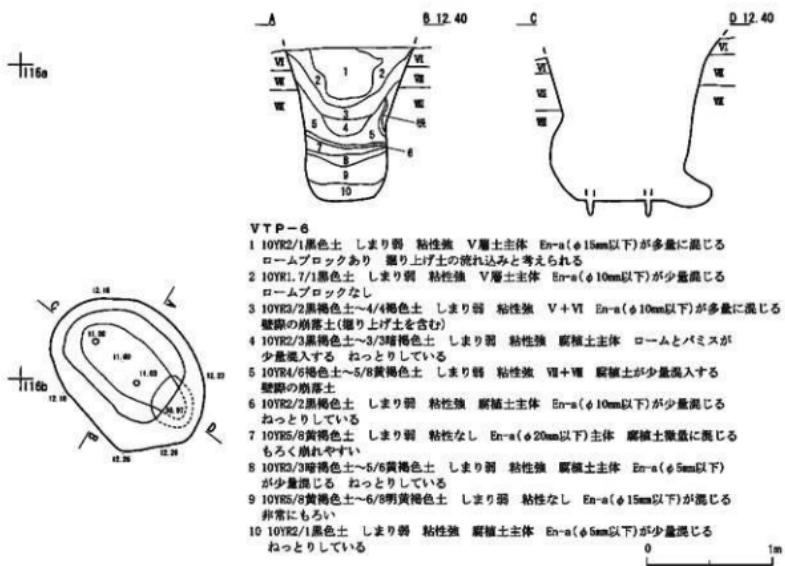
0 1m

■ N = 1 = 59 VTP = 3 : 4

VTP-5



VTP-6



図IV-1-60 VTP-5・6

上がる。覆土は共に上層の黒褐色土はV層の流れ込み、以下の層は崩落である。遺物は出土していない。
時 期 共に縄文時代中期と推定される。 (菊池)

VTP-5 (図IV-1-60/表1)

特 徴 調査範囲南西側の緩斜面に掘り込まれたTピット。VI層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は小判形で坑底面はほぼ平坦、壁は長軸・短軸とともにオーバーハングぎみに立ち上がる。覆土の1・2層はV層の流れ込み、3~7層は崩落である。遺物は出土していない。

時 期 縄文時代中期と推定される。 (菊池)

VTP-6 (図IV-1-60/表1/図版21)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は橢円形を呈する。坑底部は長軸の両端がオーバーハングしており、標高の高い東側が特に大きい。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面に逆茂木痕が2基検出された。垂直に掘り込まれており、先端は丸みを帯びる。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半~後期初頭と推測される。 (芝田)

VTP-7 (図IV-1-61/表1~4/図版21)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は溝状で、中央部がやや高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。約2m東側にVTP-8があり、長軸方向がほぼ一致し、形状がよく類似することから、同時期に掘り込まれたものと推測される。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半~後期初頭と推測される。 (芝田)

VTP-8 (図IV-1-61/表1~5/図版22)

特 徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は溝状で、長軸の両端がオーバーハングする。坑底面は概ね平坦であるが、中央部に凹凸がある。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。VTP-7は、長軸方向がほぼ一致し、形状がよく類似することから、同時期に掘り込まれたものと推測される。覆土中よりII群a-1類土器が出土した(図IV-2-13-32)。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半~後期初頭と推測される。 (芝田)

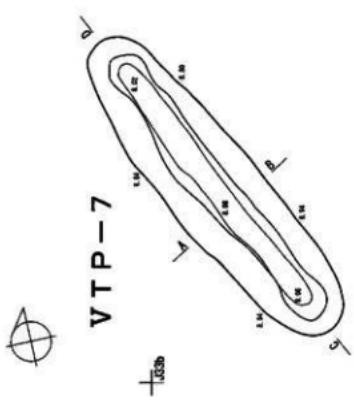
VTP-9 (図IV-1-62/表1/図版22)

特 徴 祝梅川旧河道を望む低位の段丘上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は橢円形を呈する。坑底面は幅広で、ほぼ平坦である。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面に逆茂木痕が5基(SP-1~5)検出された。いずれも垂直に掘り込まれており、SP-1・5は先端が尖る。特に配列は見られない。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半~後期初頭と推測される。 (芝田)

VTP-10 (図IV-1-58/表1~5/図版22)

特 徴 祝梅川旧河道を望む高位の段丘の縁辺に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出



D. S. 10

B.

A.

C.

D.

E.

F.

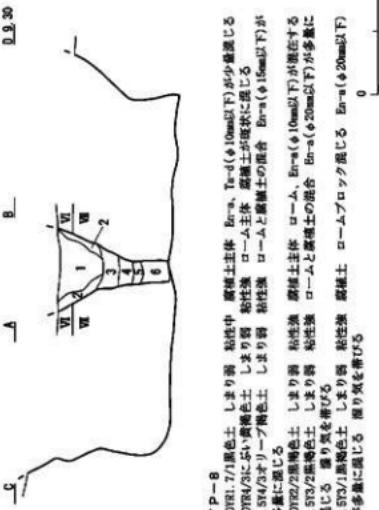
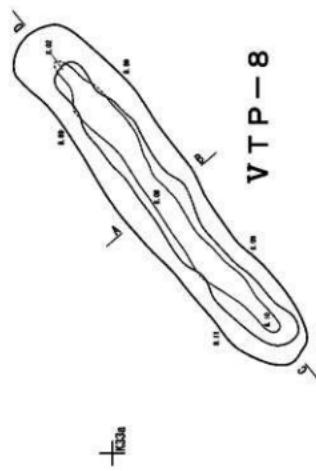
G.

H.

I.

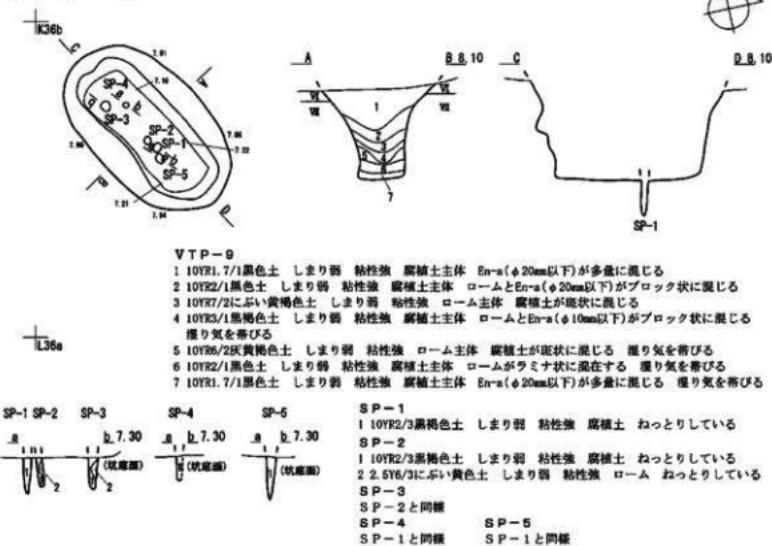
VTP-7

- 1 10m: 7/1褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a, Tc-1(4-20mm以下)が少量混じる
 - 2 10m: 2/1褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
 - 3 En-a(4-20mm以下)が多量に混じる
ローム、En-a(4-10mm以下)が少量混じる
 - 4 10m: 3/1褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土とロームの混合
En-a(4-6mm以下)が少量混じる
 - 5 10m: 2/1褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(4-10mm以下)が多量に混じる
 - 6 10m: 4/1褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体
En-a(4-10mm以下)が多量に混じる
- 堅硬な状態に混じる

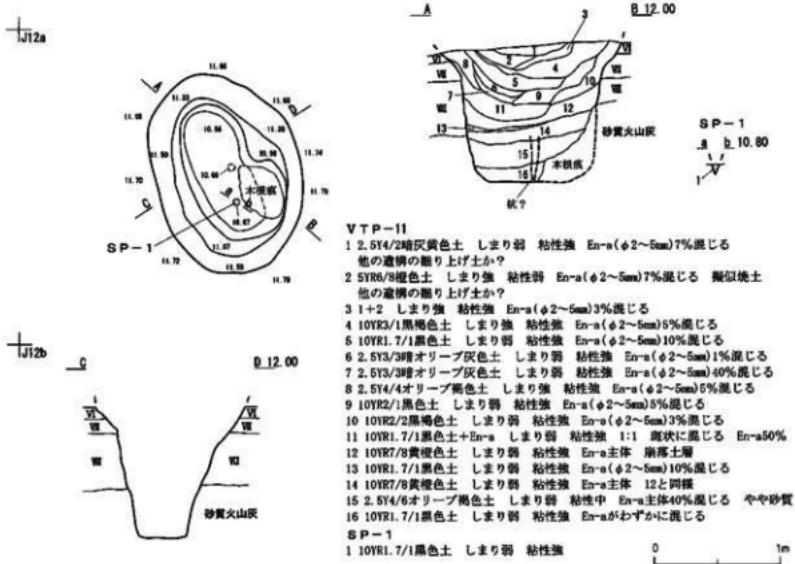


■IV-1-61 VTP-7・8

VTP-9



VTP-11



図IV-1-62 VTP-9+11

した。平面形は長楕円形を呈する。坑底部は細い溝状で、同じ長楕円形タイプのTP-7・8よりも幅が狭い。坑底面は南側が少し高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。約3m西側のTP-2と並列しており、同時期に掘り込まれたものと推測される。遺物は、覆土中よりII群b-1類土器(図IV-2-18-120)が出土したが、流れ込みによるもので、遺構には伴わない。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。
(芝田)

VT P-11(図IV-1-62/表1~4)

特徴 VI層上面で確認した。平面形は小判形。壁面上部は緩やかに開口する。坑底面は平坦で、壁面のオーバーハングは認められない。一部が木根によって破壊されている。杭跡を2か所検出した。いずれも覆土15の上面から確認されたものであるが、1つは坑底面直上で消失、もう1つの杭穴も坑底面で径7cm、深さ7cmと非常に浅いものであった。このことから覆土15の堆積後に、打設したものと考えられる。土層観察の結果、覆土は16層に分層した。覆土11・12・14・15はⅦ層(E_{n-a}降下堅石)主体であることから崩落土と考えられる。覆土9・10・13・16は流れ込み、4・5はV層の堆積。覆土1~3は他の遺構の掘り上げ土の可能性が考えられる。覆土の堆積状況と併せて整理すると、杭なしで使用→覆土16流れ込み→覆土15崩落→坑底面の整地・杭の打設→覆土14崩落→覆土13流れ込み→覆土12、覆土11崩落→覆土10、覆土9流れ込みという埋没過程が想定される(覆土6~8については流れ込みか、他の遺構の掘り上げ土か判別できない)。

時期 不明。
(影浦)

VT P-12(図IV-1-63/表1)

特徴 VP-64と共にⅦ層上面で確認した。平面形は小判形。壁面上部は緩やかに開口する。坑底面は平坦で、長軸の一端のみがオーバーハングする。杭跡を2か所検出した。オーバーハング部分において検出した杭跡は坑底面で直径5cm、深さ8cm、坑底面中央で検出した杭跡は直径5cm、深さ4cmといずれも非常に浅い。覆土は8層。覆土4・7は崩落土と考えられる。覆土2・3・5・8は流れ込み、覆土1はV層土である。覆土6がTピットの最下層のような堆積状況を示していることから勘案すると、これらの杭は覆土7の堆積後に打設した可能性が高いと考えられる。覆土の堆積状況と併せて整理すると、杭なしで使用→覆土8流れ込み→覆土7崩落→坑底面の整地・杭の打設→覆土6、覆土5流れ込み→覆土4崩落→覆土3、覆土2流れ込み→覆土1V層堆積という埋没過程が想定される。同時に確認したVP-64の北東壁を破壊していることから、VP-64の埋没後に掘削したものである。

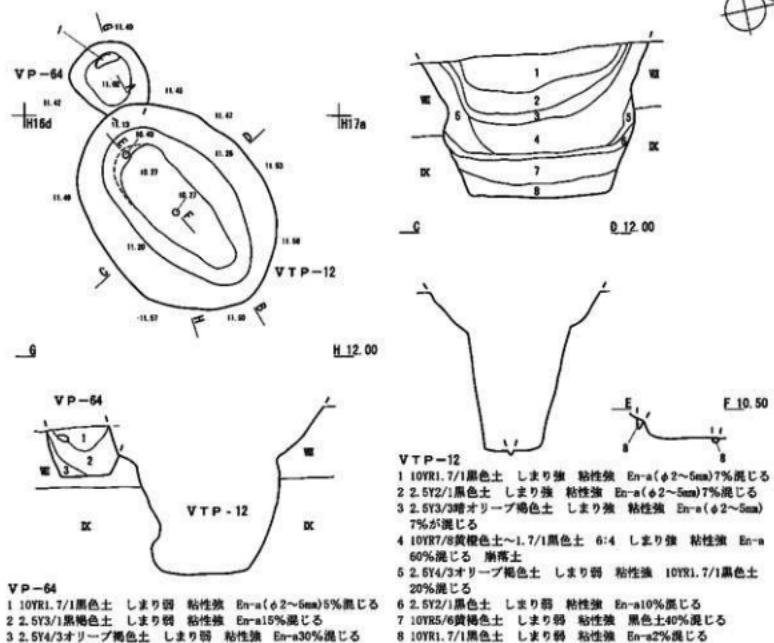
時期 不明。
(影浦)

VT P-13(図IV-1-63/表1~3)

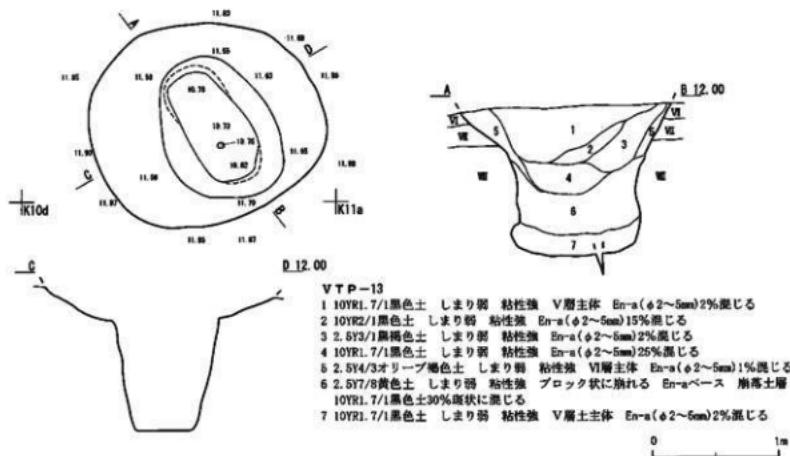
特徴 VI層上面で確認した。平面形は上部が円形、中部から坑底にかけては小判形である。坑底面は長軸方向に緩く湾曲し、長軸の両端壁が、ややオーバーハングしている。坑底からは杭跡を1か所検出した。杭跡は坑底面で直径4.5cm、深さ16cmである。覆土は7層。覆土6はⅦ層(E_{n-a}降下堅石)主体であることから崩落土と考えられる。覆土2~5・7は流れ込み、覆土1はV層の堆積である。遺物は、覆土中よりII群b類土器が出土している。

時期 不明。
(影浦)

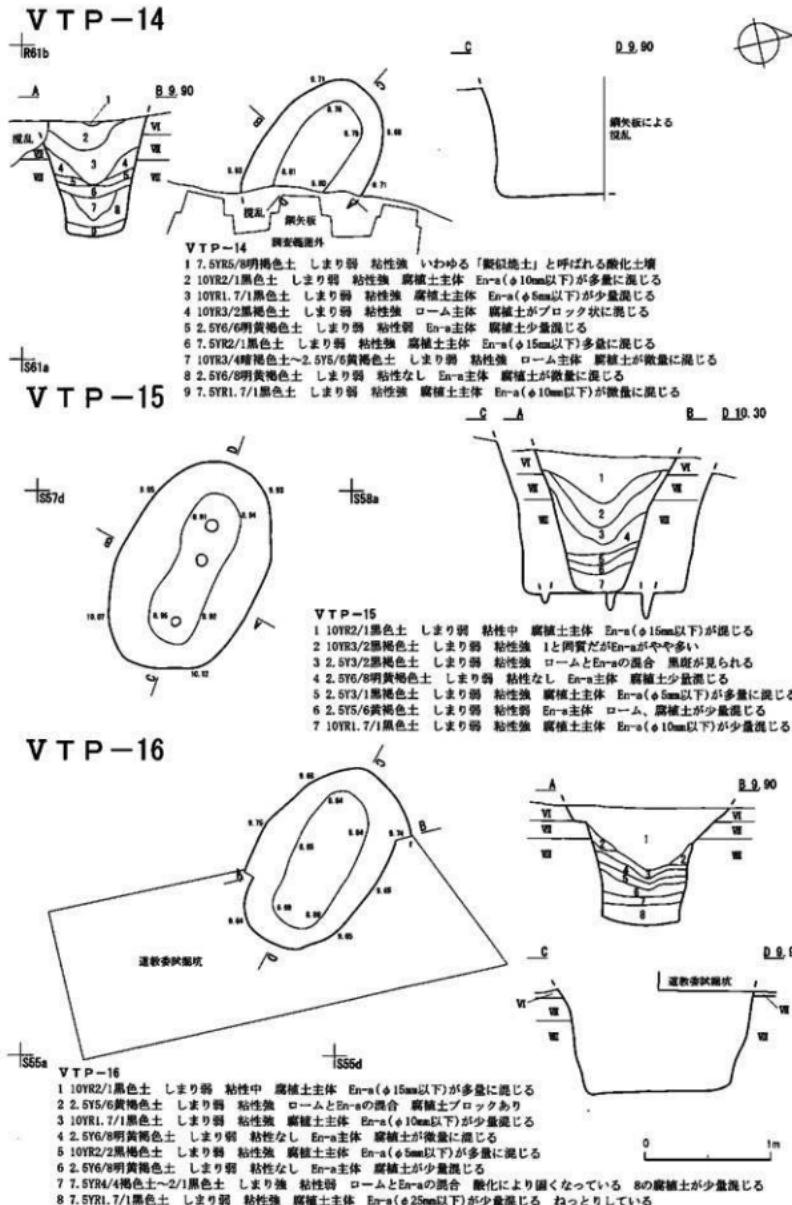
VTP-12・VP-64



VTP-13



図IV-1-63 VTP-12・13、VP-64



図IV-1-64 VTP-14~16

VTP-14 (図IV-1-64/表1)

特 微 祝梅川および梅川の旧河道が合流する地点へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。南側の約1/4は鋼矢板の打設による擾乱で壊されている。平面形は楕円形と推測される。坑底部は幅広で、南東側がやや高い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。

(芝田)

VTP-15 (図IV-1-64/表1～3/図版22)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北西向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形で、坑底面は平坦である。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。坑底面より逆茂木痕が3基検出された。これらは垂直に掘り込まれており、長軸方向に直列している。北側から南側へ次第に浅くなる。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。

(芝田)

VTP-16 (図IV-1-64/表1～4)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。東側の上部は北海道教育委員会の試掘坑によって壊されている。平面形は楕円形で、掘り込みはほぼ垂直である。坑底面は幅広で、北西側が少し低い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。覆土下部は酸化により固く赤化している。

時 期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。

(芝田)

VTP-17 (図IV-1-65/表1)

特 微 VI層上面で確認した。平面形は長楕円形。坑底面はほぼ平坦である。杭跡は検出していない。壁面上部は、長軸両端が絶壁であるが、他は緩やかに開口する。壁面下部は全体的にオーバーハングしている。土層観察の結果、覆土は5層に分層した。覆土4は崩落土。覆土2・3・5は流れ込み。覆土1はV層の堆積である。

時 期 不明。

(影浦)

VTP-18 (図IV-1-65/表1)

特 微 VII層上面で確認した。平面形は長楕円形。坑底面は短軸方向で丸みを持ち、長軸方向では緩やかに傾斜する。杭跡は検出していない。壁面上部は、長軸両端が絶壁であるが、他は緩やかに開口する。壁面下部は全体的にオーバーハングしている。土層観察の結果、覆土は6層に分層した。覆土6は崩落土。覆土2～5は流れ込みである。流れ込みのうち、覆土3は粘性が非常に強く、覆土4・5は半ば液状化している状態であった。また、覆土4は擬似焼土化し、鮮やかな明赤褐色を呈していた。覆土3と4の間に空洞があるが、この空洞に一定期間水が溜まっていた可能性が考えられる。覆土1はV層の堆積である。

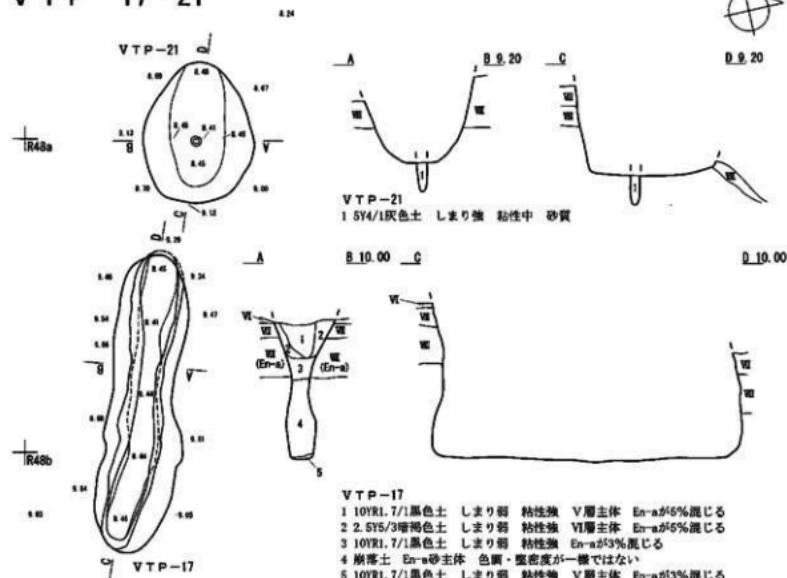
時 期 不明。

(影浦)

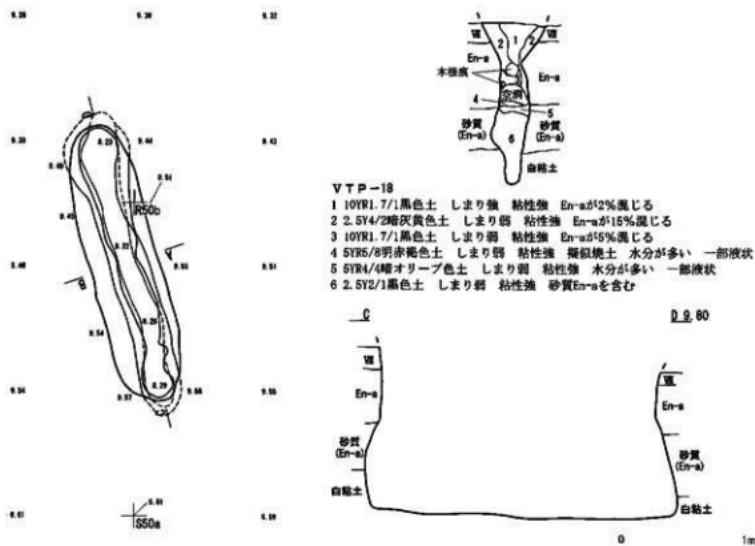
VTP-19 (図IV-1-66/表1)

特 微 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検

VTP-17・21



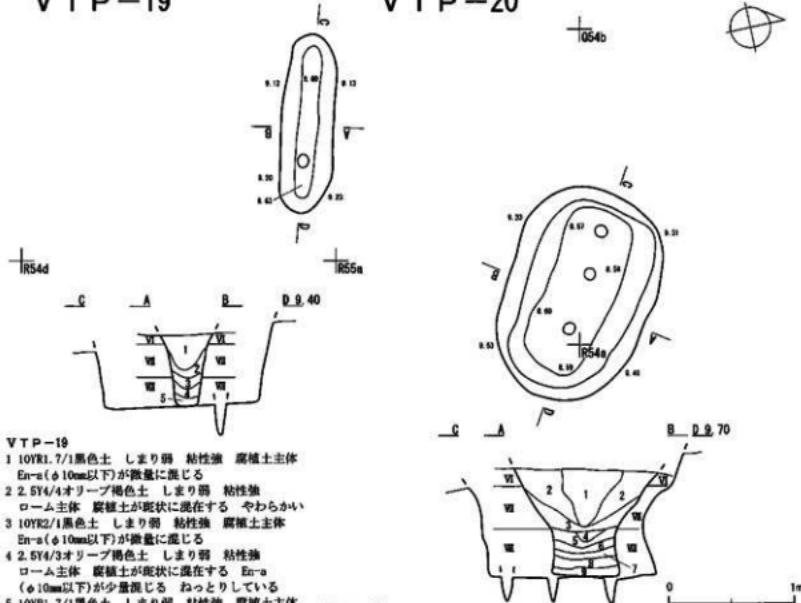
VTP-18



図IV-1-65 VTP-17・18・21

VTP-19

VTP-20



図IV-1-66 VTP-19・20

出した。平面形は長楕円形で、掘り込みはほぼ垂直である。坑底面は溝状で、北西側が少し低い。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が廃植土と崩落土の互層である。壁面よりの崩落土は比較的少ない。覆土下部は酸化により固く赤化している。坑底面の東側より逆茂木痕が1基検出された。坑底面より約20cm垂直に打ち込まれている。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。

(芝田)

VTP-20 (図IV-1-66/表1)

特徴 祝梅川旧河道へ降りる北向きの緩斜面上に立地する。VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は楕円形。壁面上部の崩落が著しいが、本来の掘り込みは垂直であったと推測される。

坑底面は幅広で、平坦である。覆土は自然堆積で上部がV層土の落ち込み、下部が腐植土と崩落土の互層である。覆土下部は酸化により固く赤化している。坑底面より逆木痕が3基検出された。長軸方向に直列する。いずれも深さは同じで約20cm垂直に打ち込まれている。

時期 周辺の遺構の時期から、縄文時代中期前半～後期初頭と推測される。
(芝田)

VTP-21 (図IV-1-65/表1)

特徴 VTP-17と近接してVII層の上面で確認した。河川跡の段丘崖上に位置しており、水の營力で壁の上部は斜めに開削されている。覆土が黒色土1層のみで、堅密度がスponジ状に軟らかかったため、当初は遺構と想定しなかった。覆土を全て掘削したところ、坑底面に杭跡を検出したためTピットであると判断した。10YR1.7/1の黒色土で、非常に軟らかく、粘性のある覆土で、軽石等の混入は認められなかった。おそらく水の營力で、壁の一部が開削された際に、遺構内の覆土も一度全て流失し、その後、二次的に黒色土が流れ込んだものであろう。平面形は小判形。坑底面は緩やかに丸みを持ち、壁と坑底面の境は判然としない。坑底からは杭跡1か所を検出した。坑底面で直径8cm、深さ24cmである。杭穴の覆土は5Y4/1灰色であり、河川による流失を免れた本来の覆土と考えられる。

時期 不明。
(影浦)

(5) 小ピット

VSP-1~40 (図IV-1-67~69/表1~5/図版23)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘上から祝梅川旧河道へ降りる西向きの緩斜面上にかけて、径30cm未満の小土坑が疎らに検出された。これらの大部分は断面が柱穴状であるが、周辺で検出された縄文時代前期後半～後期中葉の住居跡からは離れており、付属する遺構（外柱穴）ではないと考えられる。また、2~3基がやや近接する例は見られるが、複数基が円形や方形の配列を成すことはない。検出面がVI~VII層中であることから、周辺のV層中に検出できなかった小土坑が存在し、これらとともに掘立柱建物を構成していた可能性がある。VSP-1は坑口部から剥片・礫が出土している。このほか、VSP-2はII群b類土器（図IV-2-18-121・122）、VSP-25はII群a類土器（図IV-2-13-31）が覆土中より出土した。坑底部の形状は尖るものが多いが、角形（VSP-9・19・28）や丸みを帯びる（VSP-32・34）ものもある。VSP-30は、柱を埋設した際の掘方と考えられる掘り込みを周縁部に伴っている。

時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半～後期後葉と推測される。
(芝田)

(6) 焼土

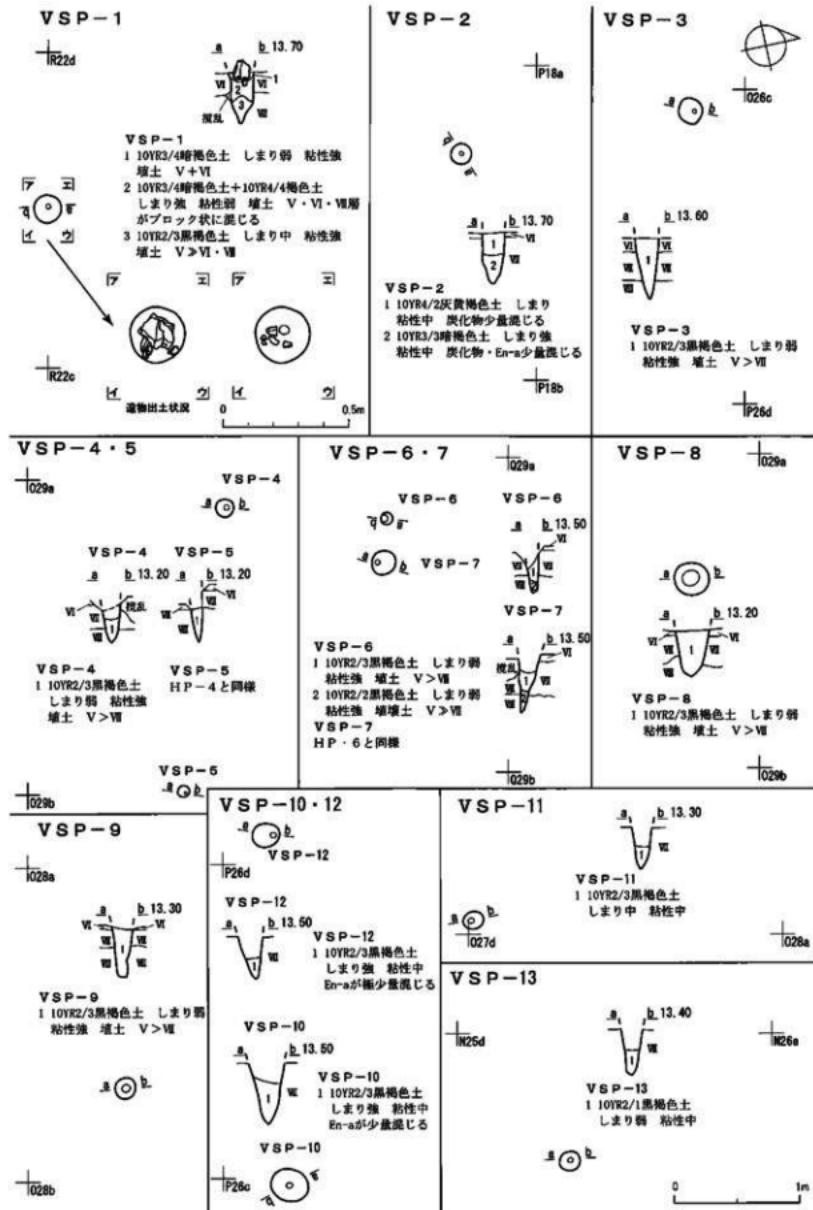
VF-1 (図IV-1-70/表1~2・4)

特徴 調査範囲南東側の高位の段丘上に立地する。検出面はV層下位。平面形は不整円形。断面はレンズ状で強く焼けている。V~VI層との層界が明瞭であること、焼成が均質であることから、二次堆積あるいは「擬似焼土」（北埋調報253）の可能性がある。焼土上面より礫が出土している。

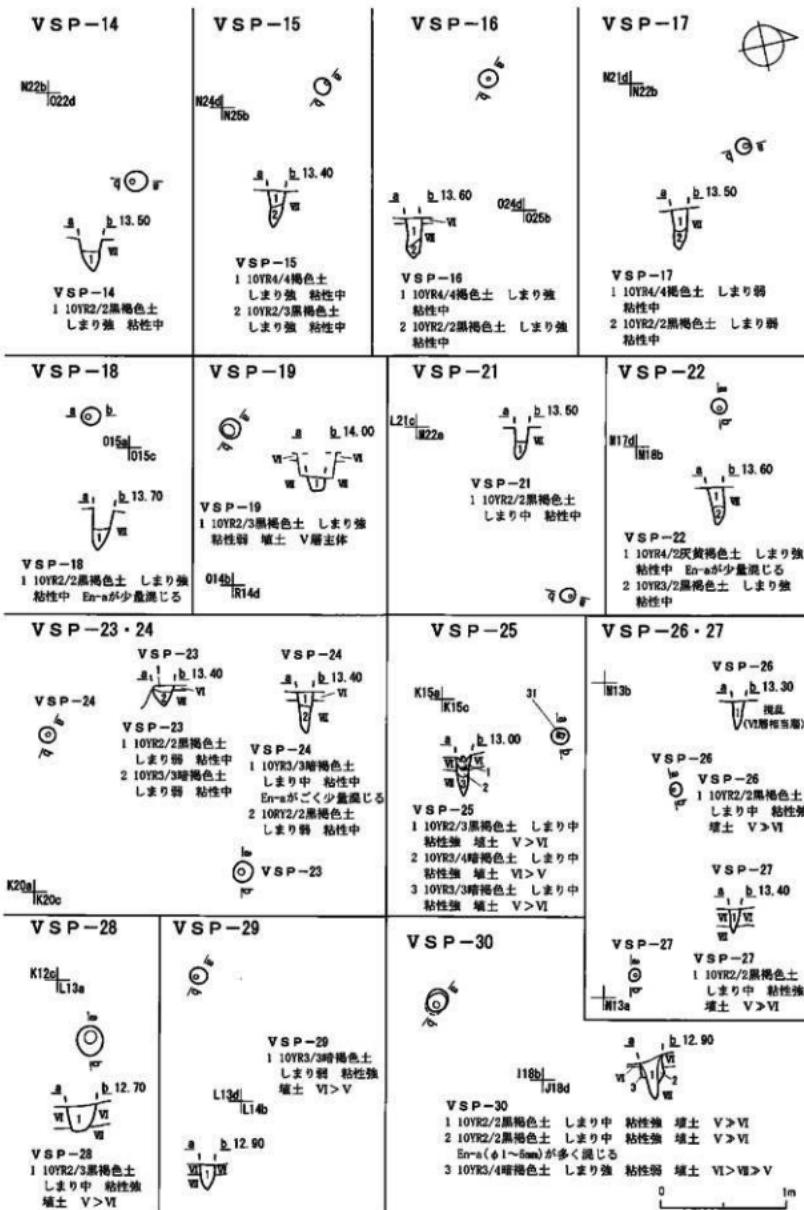
時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。
(芝田)

VF-2 (図IV-1-70/表1~5/図版24)

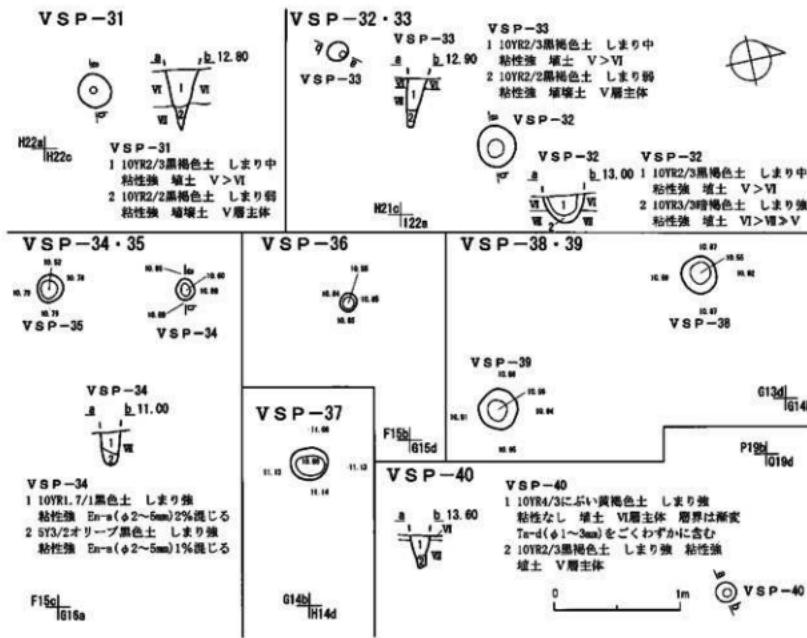
特徴 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はVH-2の覆土中であるが、ほぼV層中位に相当する。直下に住居跡床面の土坑H-P-23があり、これが埋没する際の凹みを利用して形成



図IV-1-67 V S P - 1 ~ 13



図IV-1-68 V S P - 14~19・21~30



図IV-1-69 V S P - 31~40

されたと考えられる。平面形は不整円形。断面はレンズ状で強く焼けている。

時 期 烧土上面で出土した遺物から、縄文時代中期末葉と推測される。

(芝田)

V F - 3 (図IV-1-70/表1~5)

特 微 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はVH-2の覆土中であるが、ほぼV層中位に相当する。平面形は円形。断面はレンズ状で強く焼けている。焼土上面からⅢ群b類土器、石斧、剥片が出土している。立地が共通するVF-2と同時期のものと考えられる。

時 期 烧土上面で出土した遺物から、縄文時代中期末葉と推測される。

(芝田)

V F - 4 (図IV-1-70/表1)

特 微 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はV層下位である。平面形は円形で、北側の一部が木根による攪乱を受ける。断面はレンズ状で、中央部が強く焼けている。

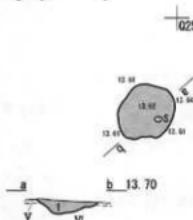
時 期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。

(芝田)

V F - 5 (図IV-1-70/表1)

特 微 調査範囲南東側の台地上で検出された焼土。検出面はV層下位である。平面形は不整円形。断面はレンズ状で、中央部が強く焼けている。

VF - 1

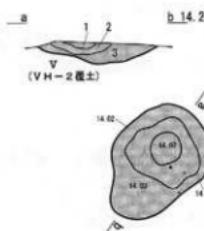


VF - 1

- 1 SYR4/8赤褐色燒土 しまり中
粘性弱 限界は明瞭 燃成は
均質だが底面ほど強い

VF - 2

+011a



VF - 2

- 1 10YR2/2黒褐色土～5YR5/8明赤褐色土
しまり弱 粘性中
V層土に明るい焼土が斑状に分布する
2 5YR5/8明赤褐色燒土 しまり弱 粘性弱
燃成上げ土(VH-1-2)と考えられる
E=α(δ 20mm以下)が残存される
3 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
V層土に暗い焼土が斑状に分布する

VF - 3

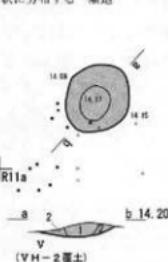
+011b

+025c

+011b

VF - 3

- 1 SYR5/8明赤褐色燒土 しまり弱
粘性弱 腐化材(δ 5mm以下)
微量混じる 混進
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱
粘性中 V層土に10YR燒土が底
状に分布する 燃成



VF - 4

+025c

+07b

VF - 4

- 1 SYR5/6明赤褐色燒土～10YR3/3暗褐色土上
しまり弱 粘性弱
腐化材(δ 5mm以下)が底面に残る
2 10YR2/2黒褐色土～5YR4/4にぶい赤褐色土
しまり弱 粘性強 V層土に土塊が斑状に
混在する
3 5YR5/8明赤褐色燒土 しまり弱 粘性弱
4 5YR3/3暗褐色燒土 しまり弱 粘性弱

木根

VF - 6

+N20a



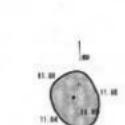
- 1 5YR5/6明赤褐色燒土 しまり中 粘性中
2 7.5YR3/4暗褐色燒土 しまり中 粘性中



VF - 7

+F22d

VF - 7



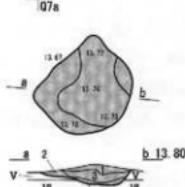
VF - 7

- 1 7.5YR3/2黒褐色燒土 しまり中 粘性中
2 5YR4/6赤褐色燒土 しまり中 粘性中

+F22d

VF - 5

+07b



VF - 5

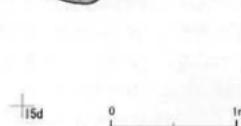
- 1 5YR5/6明赤褐色燒土～10YR3/2黒褐色燒土
しまり弱 粘性弱 底状にV層土が残存する
2 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強
V層土にVの焼土粒が点在する
3 5YR5/8明赤褐色燒土 しまり弱 粘性弱
腐化材(δ 5mm以上)微量混じる
4 5YR4/4暗褐色燒土 しまり弱 粘性中
V層土が斑状に残存する

VF - 9

+15c



- 1 5YR4/8赤褐色燒土～5YR5/6暗赤褐色燒土
境界や不明瞭 混進 黑褐色土混じり
やや不均質



図IV-1-70 VF-1～7・9

時 期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代前期後半と推測される。

(芝田)

V F - 6 (図IV-1-70/表1・11/図版24)

特 微 調査範囲やや南側中央の平坦面に位置する。明褐色土と暗褐色土に分層される。

時 期 周辺の遺構より縄文時代後期の可能性がある。

(菊池)

V F - 7 (図IV-1-70/表1・2・4)

特 微 調査範囲やや南西側端の緩斜面に位置する。黒褐色土と赤褐色土に分層される。遺物は焼土より石皿、疊が出土している。

時 期 周辺の遺構より縄文時代前期の可能性がある。

(菊池)

V F - 9 (図IV-1-70/表1/図版24)

特 微 V層で検出した。VI層上位にかけて被熱している。平面形は円形。赤色部分は中心部から周囲へ漸進している。周辺からは縄文時代後期中葉の土器などが出土している。

時 期 縄文時代後期中葉と推測される。

(阿部)

V F - 13~16 (図IV-1-71/表1~4・7・11)

特 微 V層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを4か所確認した。断面を観察すると、いずれも凸レンズ状で周囲のV層より硬いことから、焼土と判断した。V F - 13のすぐ西側では台石(図IV-2-38-1)が出土した。V F - 13・14をフローテーション処理したところ、炭化材のほかに堅果やブドウ種子が検出された。

時 期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期と推測される。

(山中)

V F - 17 (図IV-1-71/表1~3・5)

特 微 VI層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを確認した。断面を観察すると皿状で周囲のVI層より硬いことから、焼土と判断した。今回の調査範囲ではVI層から遺物が出土していないので、V層から掘り込まれた住居跡の炉であるかもしれない。後述するV F - 18との間には炭化木片が散らばっており、VI層を床面とした穴が存在した可能性がある。焼土の周囲で柱穴を探したところ、それらしい穴を4か所確認したが、柱穴であるかは不明である。なお、本焼土より約10cm上位にも赤色土の拡がりがあったが、平面形が整わず断面も波打つことから、焼土ではなく鉄分の集積等によるものと考えられる。遺物は焼土上からIV群b-1類の土器片4点(図IV-2-3-3)が出土した。

時 期 焼土上で出土した土器片等から、縄文時代後期中葉であろう。

(山中)

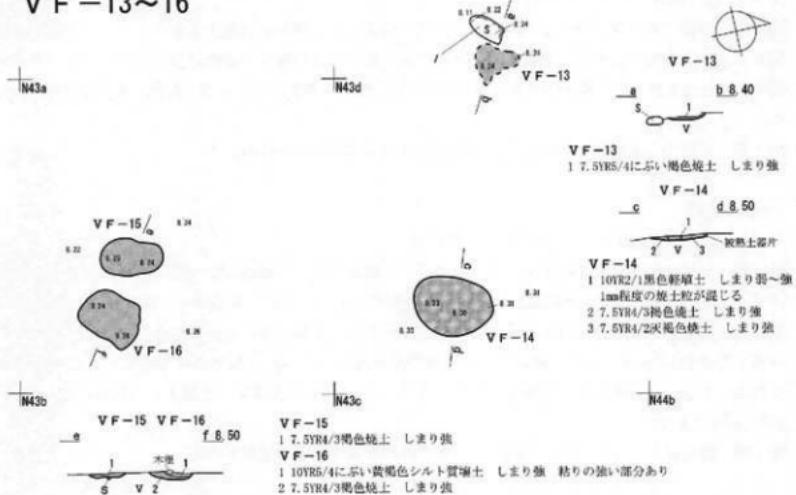
V F - 18 (図IV-1-71/表1~5)

特 微 VI層で黒褐色土の梢円形の拡がりを確認した。黒褐色土上には炭化木片が散らばる。拡がりの中央部に試掘坑を設けて堆積状況等を観察したところ、風倒木痕であることが判明した。統いて、風倒木痕のくぼみに堆積した黒褐色土を除去すると、赤みを帯びた土の拡がりが現れた。色調がV F - 17に似ることから焼土と判断したが、V F - 17に比べて周囲のVI層より軟らかいことから、くぼみ内で形成されたものではないと推測される。遺物はIV群b-2類土器(図IV-22-182)が出土した。

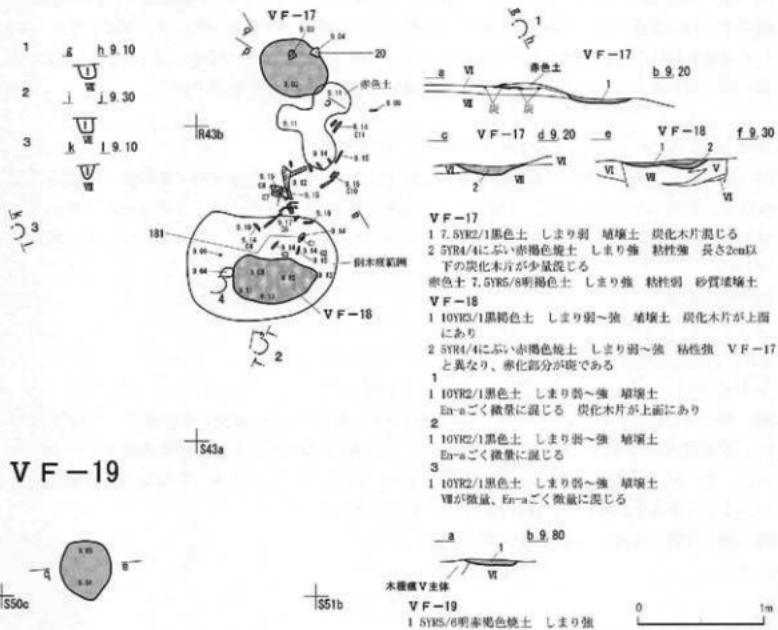
時 期 周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期中葉、V F - 17と同じ頃であろう。

(山中)

VF-13~16



VF-17・18



図IV-1-71 VF-13~19

V F - 19 (図IV-1-71/表1)

特 微 VI層で赤みを帯びた土の円形の拡がりを確認した。断面を観察すると凸レンズ状で周囲のVI層より硬いことから、焼土と判断した。今回の調査範囲ではVI層から遺物が出土していないので、V層から掘り込まれた住居跡の炉であるかもしれない。焼土の周囲で柱穴を探したが、確認はできなかった。

時 期 V層での遺物出土状況から、縄文時代後期中葉頃の可能性がある。

(山中)

(7) 集石

V S - 1 ~ 4 (図IV-1-72/表1/図版24)

特 微 V層で礫のまとまる部分を4か所確認し、礫集中として調査した。礫は割れているものが大半で、なかには熱を受けて赤色化したとみられるものもある。VS-4は礫片が梢円形にまとめられ、その中心に大型の礫が置かれている。いずれもまとまりの下部に掘り込みは認められなかった。なおVI層で長径約1.2mのくぼみを確認したが、堆積状況等から人為的な掘り込みではない。このくぼみのため、VS-4は西側にやや傾いている。VS-1・2よりIV群b-2類土器(図IV-22-183・184)が出土した。

時 期 磨に混じって出土した土器から、縄文時代後期中葉頃と推測される。

(山中)

V S - 5 (図IV-1-73/表1~4)

特 微 VI層で黒色土の円形の拡がりを確認した。黒色土中からは礫片がまとまって出土したので、礫集中として調査した。土層断面の観察では掘り込みは確認できなかったので、V層がややくぼんでいた部分に礫片が集められたものと推測される。IV群b-2類土器(図IV-22-185)が出土した。

時 期 磨に混じって出土した土器等から、縄文時代後期中葉頃と推測される。

(山中)

V S - 6 (図IV-1-73/表1~2・4・7/図版24)

特 微 V層の下部において礫のまとまりを検出した。検出した礫を実測・撮影後、中央部に試掘坑を設定し掘開したが、集石の下に掘り込みは確認できなかった。出土した点数は86点である。石材は砂岩製のものが最も多い。破片を接合したところ、すり石(図IV-2-38-1)と石皿(2)が復元された。

時 期 不明。

(影浦)

(8) 剥片集中

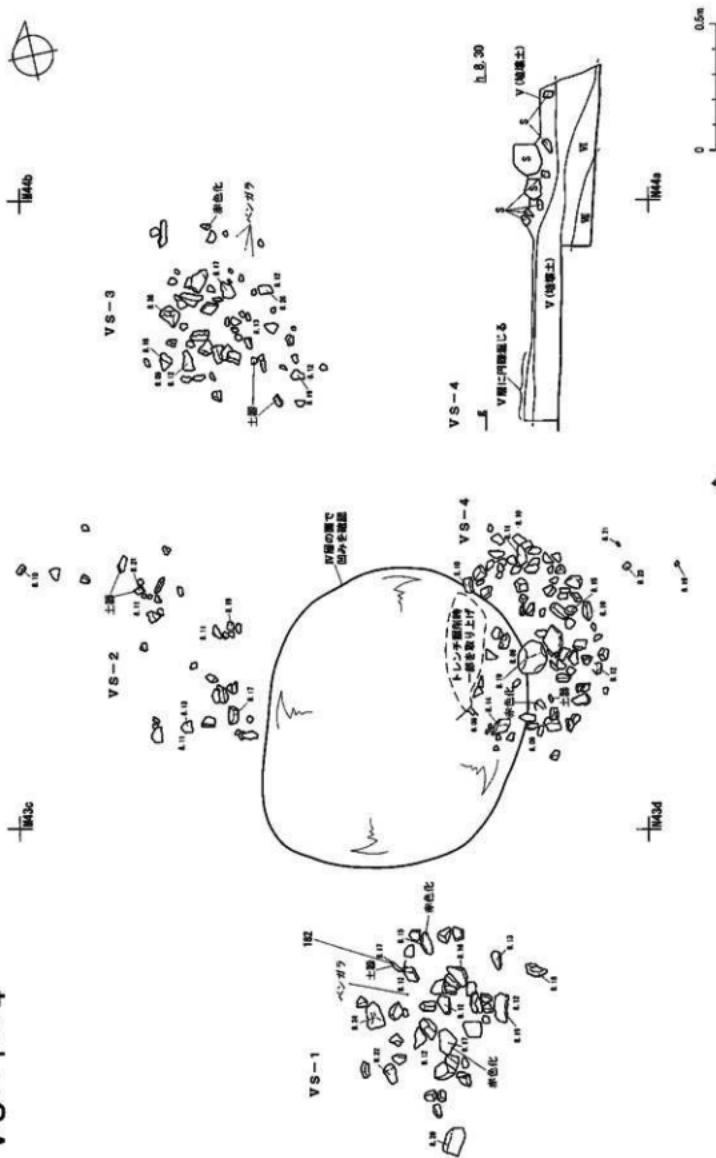
V F C - 1 (図IV-1-73/表1~2・4/図版24)

特 微 V層を調査中に、頁岩の剥片が長さ0.18m・幅0.09m程の範囲に60点集まった状態で検出した。総重量は502.5g、1点の平均は8.4gである。周囲を精査したが、土坑等の掘り込みは確認できなかった。剥片は検出状況からみて、袋状のものに入れられていたと考えられる。同一母岩と思われたことから接合を試みたが、数点が接合しただけであった。

時 期 周囲の状況から縄文時代前期と考えられる。

(酒井)

VS-1~4



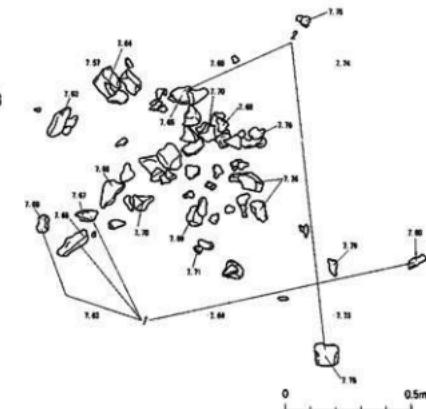
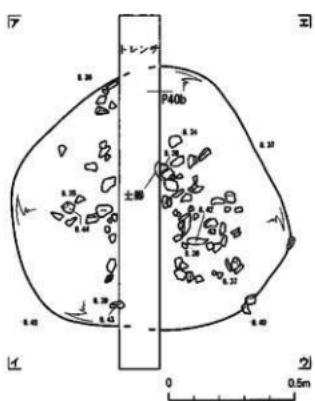
図IV-1-72 VS-1~4

VS-5



VS-6

+ RS60b

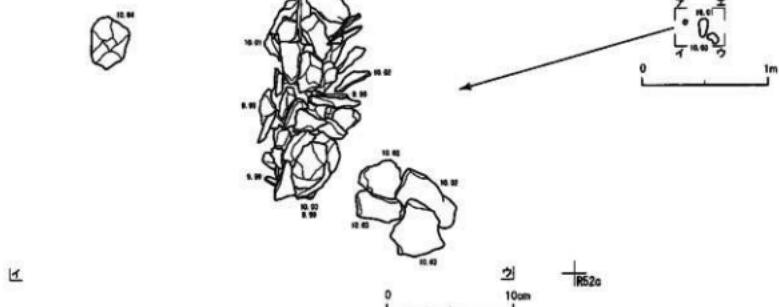


VFC-1

フ

リ

+ RS2d



図IV-1-73 VS-5・6、VFC-1

2 遺構出土の遺物

(1) 土器

①住居跡

VH-1 (図IV-19-125~127/表5/図版36)

125~127はⅢ群b-3類で、北筒式。いずれも胴部片。125・127は結束第2種の羽状縄文、126はRの撒糸文が疎らに施される。126は器面に凹凸が見られる。

VH-2 (図IV-2-6-16、13-33~35/表5/図版29・32)

16はⅢ群b-3類で、北筒式。口縁～底部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴部が膨らむ器形。底部は平底。口縁部の4か所に山形突起を有し、縦位の貼付帯を取り付けている。器外面および口縁部内面にL・R斜走縄文。口縁部には竹管状施文具による押し引き列2条、その直下に棒状施文具による円形刺突列1条が巡る。口唇上にも押し引き列が施される。また、胴上部には押し引き列によりやや不整な鋸齒状文が描かれる。焼成は良好。胎土は砂礫を少量含む。33~35はⅡ群b-2類で、大麻V式。33a・bは口縁部。R・L斜走縄文の地文に、縦側面压痕が1条横走する。端面と内面にも回転縄文。34は胴部で、R・L斜走縄文。35a・bは胴部・底部。外面～底面に疎らなL・R斜走縄文。

VH-3 (図IV-2-13-36~40、19-128~130/表5/図版32・36)

36はⅡ群b-1類で、植苗式。口縁部片で、内外面に羽状縄文を施し、瘤状の貼付帯を巡らす。37~40はⅡ群b-2類で、大麻V式。37・38は口縁部、39・40は胴部で、いずれも羽状縄文が施される。37は端面・内面にも羽状縄文(磨滅)、口唇直下に縦側面压痕1条。128~130はⅢ群b-3類で、北筒式。128・129は口縁部片。半截竹管状施文具による刺突列が、端面と外面に施される。130は胴部片で、結束第2種羽状縄文を地文とし、竹管状施文具により鋸齒状の刺突列が施される。

VH-4 (図IV-2-4-4、13-41~49、19-131/表5/図版26・32・37)

41・42・47はⅡ群b-1類で、植苗式。41・42は口縁部、47は胴部で、いずれも内外面に羽状縄文。41は断面角形、42は断面三角の貼付帯が巡る。4・43~46・48はⅡ群b-2類で、大麻V式。4は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形で、一部内傾。端面～器外面にR・LとL・Rの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。口縁部に未貫通の円形刺突孔1か所。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。43~46は口縁部、48は底部で、いずれも羽状縄文。44は縦側面压痕1条。49はⅡ群b-3類で、円筒土器下層d式。49は胴部で、結節回転文。内面は磨かれている。131はⅢ群b-3類で、北筒式に相当する。山形突起を有する口縁部。口唇が肥厚し、断面が三角形を呈する。端面は、内傾。地文は羽状縄文で、内面にも施文される。半截竹管状施文具による刺突列が、端面に1条、口唇直下に3条、その直下に棒状施文具による円形刺突列(貫通していない)が1条巡る。

VH-5 (図IV-2-7-17、19-135・136/表5/図版29・37)

17・135・136はIV群a-2類で、タブコブ式。17は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部には5か所の低い山形突起を有する。口縁部に幅広の肥厚帯、さらに口唇直下に瘤状の貼付帯を1条取り付けている。山形突起の頂部から縦位の貼付帯が垂下する。端面にL・R斜走縄文。器外面にR・LとL・Rの斜走縄文を交互に施し、羽状縄文を形成する。内面にもR・L・L・R縄文が疎らに施される。胎土は砂礫が多量に混入する。土器窯炉に使用されていたため、被熱により器面の剥落が著しい。135・136は、口縁部および胴部片。いずれも端面と内外面にR・L斜走縄文を施す。136は口唇直下に縦位の貼付帯を取り付ける。

VH-6 (図IV-2-4-5・6、14-50~62/表5/図版27・33)

5・6・50~60はII群b-2類で、大麻V式。5は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は纖維が少量混入する。6は口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、胸部がやや膨らむ器形。底部は上げ底で、底面の中央が凹む。口唇断面は角形。端面～底面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。器内面には横ナデの調整痕が残る。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。50~57は口縁部、58・59は胸部、60は底部。50・51・54は、端面と内外面に羽状繩文が施されており、繩側面圧痕1条が巡る。51・54は端面にも繩側面圧痕。53は補修孔2か所が穿かれている。57は口唇が押し潰されたように外反する。61・62はII群b-3類で、円筒土器下層d式。いずれもは胸部で、縦位の燃糸文。内面が磨かれている。

VH-7 (図IV-2-8-18、19-137/表5/図版29・37)

18・137はIV群a-2類で、タブコブ式。18は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、推定5か所の縦位の貼付帯が垂下する（現存3か所）。端面にRL斜走繩文。器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、羽状繩文を形成する。内面にもRL・LR繩文が疎らに施される。胎土は砂礫が多量に混入する。土器囲炉に使用されていたため、被熱により器面の剥落が著しい。137は山形突起を有する口縁部片。端面と内外面にRL斜走繩文を施す。

VH-8 (図IV-2-14-63・64/表5/図版33)

63・64はII群b-1類で、植苗式。63は口縁部で、端面と内外面に羽状繩文を施し、簞状の貼付帯が1条巡る。64は胸部で、内外面に無節Lの横～斜走繩文がやや粗雑に施される。

VH-9 (図IV-2-19-132~134、20-139・140/表5/図版37)

132・133はIII群b-3類で、北筒式に相当する。132は口縁部片で、半截竹管状施文具による刺突列2条。133は胴部片で、燃糸Lの地文に沈線が上書きされる。内面が研磨されていることから、円筒下層d式の可能性もある。134はIV群a-2類で、タブコブ式に相当する。胴部片で、太い原体によるLR斜走繩文。139・140はIV群b-1類で、ウサクマイC式に相当する。139は口縁部片。RL斜走繩文の地文に、5条以上が1組となった細い沈線により山形あるいは鋸歯状の文様が描かれる。140は胴部片。LR斜走繩文の地文に、横走沈線2条が巡る。

VH-10 (図IV-2-4-7・8、15-65~82、18-123/表5/図版27・33・34・36)

65・78~80はII群b-1類で、植苗式。65は口縁部、78~80は胸部で、いずれも外面に横位、内面に縦位の羽状繩文が施される。65には簞状の貼付帯。7・8・66~77・81はII群b-2類で、大麻V式。7は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。口縁部内面にも羽状繩文。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。8は口縁～胴上部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面はやや急な外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、羽状繩文を形成する。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。66~71は口縁部外面に繩側面圧痕が1ないし2条巡るもの。68は内面にも羽状繩文。82はII群b-3類で、円筒土器下層d式。幅の狭い口縁部文様帶に横位の格条体回転文、胸部には結束第2種の羽状繩文と単軸絶条体が多段に施される。123はIII群a類で、円筒土器上層b式。口縁～胴中部の破片で、口縁部が外反し、胸部がやや膨らむ器形と推測される。端面は外傾。器外面には結束第1種の羽状繩文が施される。端面～口唇直下は無文で、粘土紐が波状に取り付けられる。内面は磨かれている。

V H - 11 (図IV-2-20-141・142/表5/図版37)

141・142はIV群b-1類で、ウサクマイC式。141は胴部片。LR斜走縄文の地文に、2条1組の沈線で曲線文様を描き、内部を磨り消している。142a～dは、深鉢の口縁部・胴部・底部の破片。口縁部は平縁で、口唇断面は角形。端面および器外面にLR斜走縄文が施される。口唇直下に横走沈線1条。胴部は、2条1組の沈線で対向する眼状の文様を描き、内部を磨り消している。底部は平底で、無文。

V H - 12 (図IV-2-20-143～148/表5/図版37)

143～148はIV群b-1類で、ウサクマイC式。143は口縁部片で、外反する器形と推測される。口唇断面は角形。端面～外面にLR斜走縄文を施す。横走沈線が現存で5条が巡り、沈線間が磨り消された無文帯も見られる。144～147は胴部片。144・145はLR斜走縄文の地文に、斜位あるいは横位の沈線。146は沈線で区画された内部が磨り消される。いずれも内面が丁寧に調整されて、平滑になっていている。147a・bは、口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。器外面にRL斜走縄文を施す。口縁部との間には沈線で区画された無文帯が設けられている。胴上部は5条1組の沈線により連続するN字状文、胴中部は磨り消しの技法により屈曲文や上向きの矢印文が描かれる。148は口縁部片で、無文。

V H - 14 (図IV-2-11-23～25、20-149～155/表5/図版30・38)

23～25・149～155はIV群b-2類で、手稲式。23は口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面は丸みを帯びる。底部は平底。器外面にLR斜走縄文を施すが、胴下～底部は無文。口縁部に1条の横走沈線が巡り、それより上位の口唇直下は地文が磨り消され、無文帯としている。24は口縁～胴中部が復元された深鉢。波状口縁で、端面は丸みを帯びる。器外面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下は無文。25は口縁～胴下部が復元された深鉢。波状口縁で、端面は丸みを帯びる。器外面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下および胴下部は無文。口縁～胴上部には、連続する扁平なL字状沈線を多段に巡らす。いずれも焼成は良好で、砂礫を少量含む。149～154は口縁部片。149は波状口縁の突起部分で、内湾する。端面は丸みを帯びる。器外面にLR横走縄文を施す。横走沈線4条が巡り、縦位の短弧線が上書きされる。横走沈線より上位の口唇直下は無文。150は口唇直下の無文帯が削り取りにより薄身に成形され、段が作られている。地文はLR斜走縄文。横走沈線4条が巡り、縦位の短弧線が交互に上書きされる。横走沈線より下位も無文帯。151・153は平縁で、内湾する器形。横走沈線1条より上位の口唇直下はLR斜走縄文が磨り消され、無文帯。153は横走沈線に縦位の短弧線が上書きされる。152は、緩い波状口縁の小型土器。口唇直下は無文帯。横走沈線6条に縦位あるいは蛇行沈線が上書きされる。沈線の幅は狭い。154は波状口縁の突起部分。器外面にLR横走縄文を施すが、口唇直下は無文帯。内面に横ナデの調整痕。155は胴部片。地文を沈線で区画して内部を磨り消している。地文が羽状縄文であることから、堂林式の可能性もある。

V H - 15 (図IV-2-5-9・10、16-83～94/表5/図版27・28・34)

9・10・83～91はII群b-2類で、大麻V式。9・10は口縁～胴中部が復元された深鉢。9は口縁部が平縁で、胴部がやや膨らむ器形。口唇断面は角形。端面～器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。10は口縁部が平縁で、口唇断面は外傾。器外面にRL斜走縄文を疎らに施す。焼成は良好ではなく、器面が剥落する。胎土は纖維が少量混入する。83～90は口縁部、91は底部。いずれも地文が羽状縄文で、83～85は端面、84・87は内面にも施文。83～85は縄側面圧痕が1条巡る。92～94はII群b-3類で、円筒土器下層d式。92は口縁部で、燃りの異なる2条1組の燃糸文が横走する。93・94は胴部で、単軸絡条体の回転文。

VH-16 (図IV-2-11-26、12-28・29、22-186/表5/図版31・39)

26はIV群b-2類で、手稻式。口縁～底部が復元された広口の壺。口縁および底部は無文で、胴部にLR斜走繩文を施す。焼成は良好で、砂礫を少量含む。28・29・186はIV群c-1類で、堂林式。28は口縁～胴部が復元された鉢。口縁部は平縁で、端面は水平～やや内傾。器外面にRL斜走繩文を施す。口縁部には1条のIO突瘤列が巡る。焼成は良好ではなく、器面の一部が剥落する。29a・bは同一個体で、注口土器の胴～底部。器外面には細い原体でRL斜走繩文が施される。注口部は斜め上向きで、先端を欠く。注口部の下端および胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられる。また、注口部や瘤状突起を囲むように細い沈線で文様が描かれるが、構成は不明である。焼成は良好。胎土は砂礫が少量混入する。186a・bは口縁部片。端面は水平～丸みを帯びる。器外面にLR斜走繩文を施す。

VH-17 (図IV-2-5-11、16-95～99、18-124/表5/図版28・34・36)

11はII群b-2類で、大麻V式。口縁～胴上部が復元された深鉢。口縁部は平縁でやや外反し、胴部が膨らむ器形。端面は外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、羽状繩文を形成する。口縁部内面にもRL斜走繩文。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。95～97はII群b-1類で、植苗式。95は口縁部、96は胴部で、内外面に羽状繩文。97は底部で、底面にも回転繩文。98・99はII群b-3類で、円筒土器下層d式。胴部片で、結節回転文。124はIII群a類で、円筒土器上層b式。口縁および胴中部片で、口縁部が外反し、胴部がやや膨らむ器形と推測される。端面は外傾。器外面には結束第1種の羽状繩文が施される。口縁部に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付け、内部を馬蹄形圧痕文や組紐圧痕文で充填している。内面は磨かれている。

②土坑

VP-1 (図IV-2-16-100～104/表5/図版35)

100～104はII群b-2類で、大麻V式。100・101が口縁部、102～104が胴部で、いずれも羽状繩文。101・104は内面にも回転繩文。100は口唇直下に繩側面圧痕。100・102は補修孔が確認される。

VP-8 (図IV-2-5-12、16-105・106/表5/図版28・35)

12・105・106はII群b類。105はII群b-1類で、植苗式。胴部片で、外面は横位、内面は縦位の羽状繩文。12・106はII群b-2類で、大麻V式。12は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁でやや外反する。口唇断面は外傾。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。器内面にも疎らな羽状繩文。口縁部には横位のLR繩側面圧痕2条が巡る。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は纖維が少量混入する。106は胴部片で、外面に単軸絡条体の回転文。

VP-11 (図IV-2-5-13、17-107/表5/図版28・35)

13・107はII群b-2類で、大麻V式。13は胴中～底部が復元された深鉢。底部は上げ底ぎみで、底面の中央が凹む。器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。器内面にも疎らな羽状繩文。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。107は口縁～胴中部。口唇断面が切り出し状を呈し、端面が広く外傾する。端面と外面には羽状繩文が施される。端面は繩側面圧痕2条が巡る。

VP-14 (図IV-2-17-108/表5/図版35)

108はII群b-2類で、大麻V式。口縁部で無文。爪による成形痕が残る。

VP-16 (図IV-2-17-109/表5/図版35)

109はII群b-2類で、大麻V式。胴部で、内外面に羽状繩文（磨滅）。

V P - 23 (図IV-2-6-14/表5/図版28)

14はII群b-1類で、植苗式。口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面～器外面にRLとLRの斜走繩文を交互に施し、不整な羽状繩文を形成する。器内面にも縦位の羽状繩文が同一原体により施される。焼成は良好。胎土は砂礫・繊維に富む。

V P - 24 (図IV-2-17-110・111/表5/図版35)

110・111はII群b-1類で、植苗式。110は口縁部で、端面と内外面に斜走繩文(羽状繩文の一部か)。111は胴部で、羽状繩文(磨滅)。

V P - 29 (図IV-2-17-112~114/表5/図版35)

112・113はII群b-2類で、大麻V式。いずれも胴部で、112は羽状繩文、113はLR斜走繩文。114はII群b-3類で、円筒土器下層d式。胴部で、結節回転文。内面が磨かれている。

V P - 32 (図IV-2-17-115/表5/図版35)

115はII群b-2類で、大麻V式。口縁～胴中部で、粗雑な羽状繩文。器面には凹凸がある。

V P - 36 (図IV-2-17-116/表5/図版35)

116はII群b-2類で、大麻V式。胴部で、内外面にLR斜走繩文。

V P - 39 (図IV-2-9-19/表5/図版29)

19はIV群b-1類で、ウサクマイC式。口縁～底部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は丸みを帯びる。底部は平底。端面～胴中部はLR繩が回転施文され、胴下～底部は無文。口唇直下には端面に沿って1条の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帶が巡る。この無文帶の上下で、連続するN字状文が、口縁部では屈曲する波状沈線、胴上部では斜位の鋸齒状沈線により、いずれも3～4条を単位として描かれる。胴中部は対向する渦巻文や鉤字文が2条1組の沈線により描かれ、その内部の地文はやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。

V P - 40 (図IV-2-21-156~158/表5/図版38)

156～158はIV群b-1類で、ウサクマイC式。156は口縁部片。端面は丸みを帯びる。LR斜走繩文に、斜位・横位の沈線。157・158は胴部片。157はLR斜走繩文に、2条1組の沈線でV字状の文様を描き、内部を磨り消す。158は口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。器外面にLR斜走繩文を施し、沈線で弧状または波状の文様を上書きする。

V P - 41 (図IV-2-12-27、21-159~165、22-187/表5/図版31・38・39)

27・162～165はIV群b-3類で、鈍渦式。27は口縁～胴中部が復元された深鉢。平縁で、胴上部が膨らむ器形。器外面にLR斜走繩文。口縁部に1条の横走沈線が巡り、それより上位の口唇直下は無文帶で、竹管状施文具による刺突列を施す。口縁部と胴部の間には2条の横走沈線で区画された幅広の無文帶が設けている。この無文帶の下部は、口唇直下と同様に竹管状施文具による刺突列を施す。胴部には、全体の構成は不明であるが、沈線で区画された大振りな文様が磨り消しの技法によって描かれる。焼成は良好で、胎土は緻密である。162は胴部片。器外面にLR斜走繩文を施し、沈線で区画された無文帶が見られる。163は口縁部。端面は水平だが、やや丸みを帯びる。幅広の無文帶の下部は、削り取りにより胴部との間に段を作り出す。胴部にはLR斜走繩文。164は注口土器の胴部。肩部が強く張り出する器形と推定される。器外面にLR斜走繩文を施し、2条1組の沈線で屈曲する文様を描き、内部を磨り消す。底部との間に横走沈線1条。165は深鉢の口縁～胴中部。平縁で、胴部がやや括れる器形。端面は内傾する。器外面にLR斜走繩文。159～161はIV群b-1類で、ウサクマイC式。159・160は、いずれも波状口縁の頂部。器外面にLR斜走繩文。160は端面にも施文される。口縁に沿って、数

条を単位として緩い波状沈線が巡る。161は胴部片。LR斜走繩文(磨滅)に沈線で屈曲文を描く。187はIV群c-1類で、堂林式。小型の深鉢の口縁～胴上部。口縁部は平縁で、やや内湾する。口唇断面は角形。端面～外面には細い原体によるLR横～斜走繩文が施される。内面には横ナデの調整痕が残る。

V P - 42 (図IV-2-11-21、21-166/表5/図版30・38)

21・166はIV群b-1類で、ウサクマイC式。21は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は水平。端面～胴中部はLR繩が回転施文される。口縁部は端面に沿って5ないし6条1組の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴部はやや大振りなカギの手状文または屈曲文が2条1組の沈線により描かれ、その内部の地文はやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。166は口縁部片。端面～外面にLR斜走繩文。波状沈線が現存で3条巡る。

V P - 45 (図IV-2-21-167～169/表5/図版38)

167～169はIV群b-1類で、ウサクマイC式。167・168は口縁部片。167は端面と外面にRL斜走繩文。横走沈線を縦位置の弧線で交互に連結する。168は波状口縁の頂部で、外面にLR斜走繩文。非常に細い沈線で、波状あるいは鋸歯状の文様が描かれる。169a・bは胴部片。LR斜走繩文の地文に沈線により曲線や扁平なN字文を上書きし、一部を磨り消している。

V P - 47 (図IV-2-17-117/表5/図版35)

117はII群b-2類で、大麻V式。胴部で、LR横走繩文。

V P - 48 (図IV-2-21-170・171/表5/図版39)

170・171はIV群b-1類で、ウサクマイC式。170は口縁部片。外面にLR斜走繩文。口唇直下に横走沈線2条。171は胴部片。2条1組の沈線で文様を描き、内部の地文をやや粗雑に磨り消す。

V P - 50 (図IV-2-6-15、17-118/表5/図版28・35)

15はII群b-2類で、大麻V式。15は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面は水平。外面にLR斜走繩文。口縁部には横位のLR繩側面圧痕1条が巡り、これより上位の口唇直下は無文。焼成は良好。胎土は纖維が少量混入する。118はII群b-1類で、植苗式。胴部で、内外面に羽状繩文。

V P - 52 (図IV-2-19-138/表5/図版37)

138はIV群a-2類で、タブコブ式。胴部片で、LR斜走繩文。

V P - 54 (図IV-2-21-172/表5/図版39)

172はIV群b-1類で、ウサクマイC式。胴部片で、LR斜走繩文。沈線1条が確認される。

V P - 55 (図IV-2-21-173/表5/図版39)

173はIV群b-1類で、ウサクマイC式。台付土器の底部。無文で、外面には条痕が横走する。

V P - 56 (図IV-2-21-174/表5/図版39)

174はIV群b-1類で、ウサクマイC式。胴部片。外面にはRL斜走繩文が回転方向を変えて施される。細い沈線で区画された内部の地文が磨り消されている。

V P - 57 (図IV-2-1-1/表5/図版26)

1はII群b-1類で、植苗式。口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形で、LR回転繩文。器外面に横位のRL+LR羽状繩文が多段に施される。口縁部には籠状の貼付帶1条が巡っており、これより上位の口唇直下は無文。貼付帶上にも羽状繩文が施される。器内面にも縦位の羽状繩文が同一原体により施される。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は砂礫・纖維に富む。

V P - 58 (図IV-2-22-175・176/表5/図版39)

175・176はIV群b-2類で、手稲式。175は口縁部片で、波状口縁の頂部。口唇断面は丸い。器外

面にLR斜走縄文を施すが、口唇直下は無文である。口縁に沿って波状沈線6条が巡り、縦位の短弧線で交互に連結している。内面は磨かれて、平滑である。176は、深鉢の口縁～胴中部で、口唇を欠く。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。器外面にLR斜走縄文を施す。口縁部と胴部の間の括れた部分、胴中部には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部は横走または波状沈線を縦位の短弧線で交互に連結している。胴上部は沈線で波状や円弧状の文様を描き、内部の地文を磨り消している。

V P-59 (図IV-2-2-2/表5/図版26)

2はII群b-1類で、植苗式。口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面はやや外傾し、RL回転縄文。器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な縦位の羽状縄文を形成する。口縁部には籠状の貼付帯1条が巡っており、貼付帯上にも羽状縄文が施される。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。胎土は砂礫・繊維に富む。

V P-61 (図IV-2-3-3/表5/図版26)

3はII群b-1類で、植苗式。口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、口唇断面は角形。底部は少し外側へ張り出す。端面～底面には燃りの異なる無節の原体を交互に縦位回転し、羽状縄文を多段に施す。口縁部には籠状の貼付帯1条が巡っており、貼付帯上には無節1縄文。器内面にも縦位の羽状縄文が同一原体により施される。焼成は良好。胎土は砂礫・繊維に富む。

V P-62 (図IV-2-17-119/表5/図版35)

119はII群b-1類で、植苗式。口縁部で、端面と内外面にLR斜走縄文。籠状の貼付帯が巡る。

V P-67 (図IV-2-22-177/表5/図版39)

177はIV群b-2類で、手稲式。小型の深鉢の底部。平底で、底縁がやや張り出す。無文。

V P-69 (図IV-2-22-178/表5/図版39)

178a・bはIV群b-1類で、ウサクマイC式。深鉢の口縁～胴中部。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。端面は丸みを帯びる。外面はRL縄が回転施文される。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部では5条1組の沈線により鋸歯状文が描かれる。胴中部は対向する屈曲文が沈線により描かれ、その内部の地文は磨り消されている。

V P-71 (図IV-2-22-179/表5/図版39)

179a・bはIV群b-1類で、ウサクマイC式。深鉢の口縁部と底部。口縁部は緩やかな波状を呈すると推測される。端面～外面にLR斜走縄文。斜位沈線3条が確認される。底部は平底で、無文。

V P-72 (図IV-2-22-180/表5/図版39)

180はIV群b-2類で、手稲式。平底の底部。無文で、よく磨かれている。

V P-74 (図IV-2-11-22、22-181/表5/図版30・39)

22・181はIV群b-2類で、手稲式。22は無文の底部。内外面ともに横ナデの調整痕が残る。焼成は良好で、胎土は緻密である。181は胴部片。地文はRL縦走縄文。横走沈線2条が確認される。

③Tピット

V T P-8 (図IV-2-13-32/表5/図版32)

32はII群a-1類で、網文式。丸底の底部片で、筋の粗いRL横走縄文を深めに施す。

V T P-10 (図IV-2-18-120/表5/図版36)

120はII群b-1類で、植苗式。口縁部で、端面と内外面にRL斜走縄文。

④小ピット

V S P - 2 (図IV-2-18-121・122/表5/図版36)

121・122はII群b-2類で、大麻V式。いずれも胴部で、羽状縄文。内面には横位の条痕。

V S P - 25 (図IV-2-13-31/表5/図版32)

31はII群a-2類で、静内中野式。口縁部片で、太めのLR縄による斜走縄文を施す。

⑤焼土

V F - 17 (図IV-2-10-20/表5/図版30)

20はIV群b-1類で、ウサクマイC式。口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈し、端面は水平。端面～胴上部はLR縄が回転施文され、胴中部は無文。口縁部は11ないし12条1組の沈線により連続する鋸歯状文が描かれる。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴上部は6条1組の沈線により連続するカギの手状文が描かれる。焼成は良好で、胎土は緻密である。

V F - 18 (図IV-2-22-182/表5/図版39)

182はIV群b-2類で、手稻式。波状口縁の頂部。無文。

⑥礎集中

V S - 1 (図IV-2-22-183/表5/図版39)

183はIV群b-2類で、手稻式。胴部片。器外面にLR斜走縄文。

V S - 2 (図IV-2-22-184/表5/図版39)

184はIV群b-2類で、手稻式。胴部片。RL横走縄文が沈線で区画され、内部が磨り消される。

V S - 5 (図IV-2-22-185/表5/図版39)

185はIV群b-2類で、手稻式。胴部片。器外面にやや粗いLR斜走縄文。 (芝田)

(2) 土製品

V H - 2 (図IV-2-23-1/表6/図版40)

1は再生土製円盤。III群b-3類土器(ノダップII式)の胴部片の周縁を打ち欠いて円盤状にしている。地文はLR横走縄文で、竹管状施文具による横向きの押し引き列が施される。

V H - 15 (図IV-2-23-2・3/表6/図版40)

2・3は不定形の粘土塊。2は外面が暗褐色～褐色を呈し、固くしまり、ずしりとした重みがある。3は外面が黄褐色～明黄褐色を呈し、やわらかく、同じ大きさの土器片と比較して軽い。2は十分に熱を受けている(焼かれている)が、3は未焼成のまま自然乾燥、あるいは非常に低温で焼成された可能性がある。いずれも胎土は緻密で、細砂礫を少量含む。

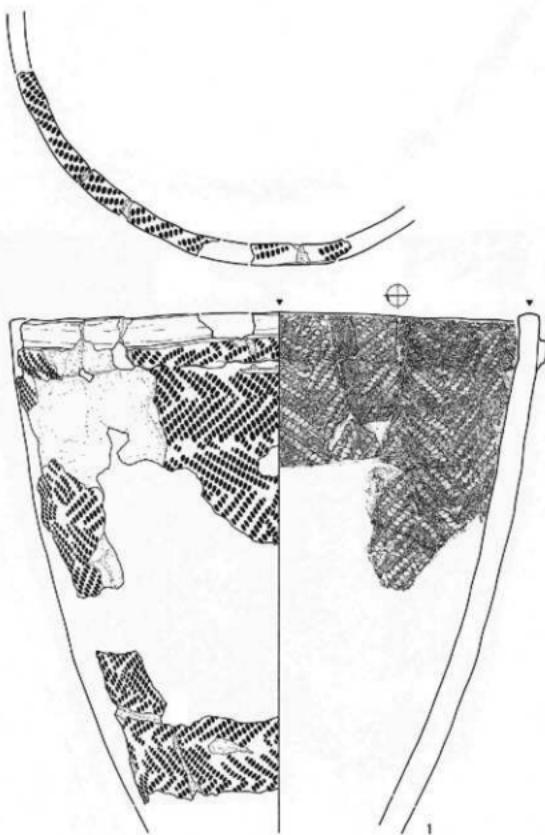
V H - 17 (図IV-2-23-4～7/表6/図版40)

4～7は盤状粘土塊の破片。外面の色調や質感はVH-15出土の3と同じである。いわゆる「サツマアゲ状土製品」と称されるもの(北埋調報116)によく類似する。破片の形状から、本来の大きさはほぼ同じであったと推測される。よって、これらは同時期に製作された可能性が高い。

V P - 1 (図IV-2-23-8/表6/図版40)

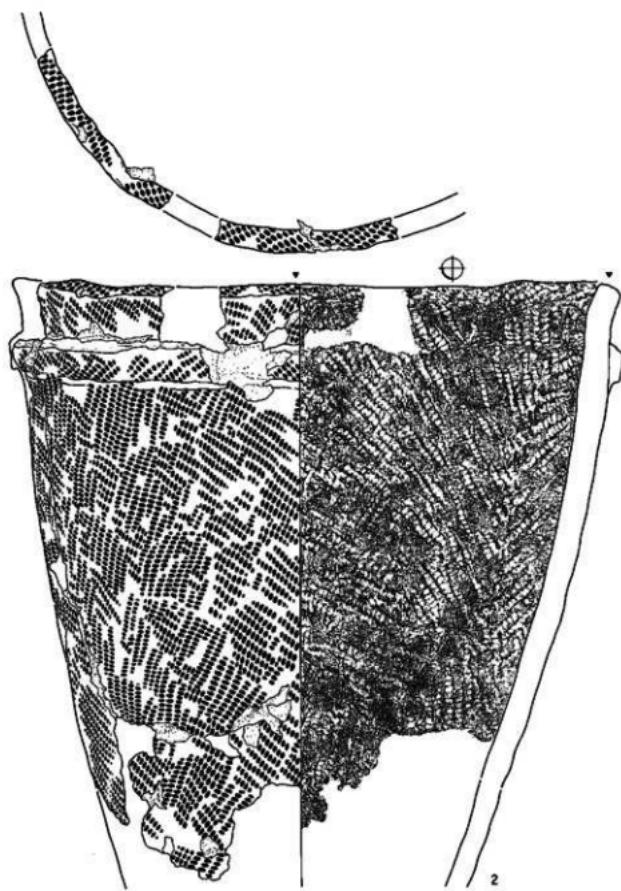
8は盤状粘土塊。形状はほぼ円形で、一部欠損する。外面には指で扁平に整形した痕跡が残る。

VP-57



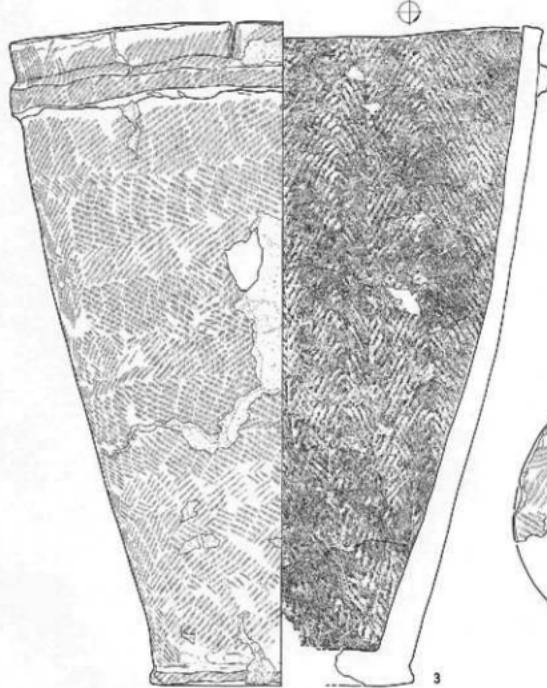
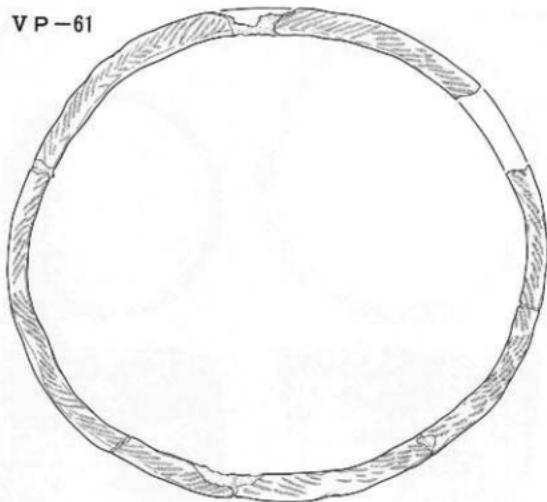
図IV-2-1 遺構の土器 (1)

VP-59



図IV-2-2 造模の土器(2)

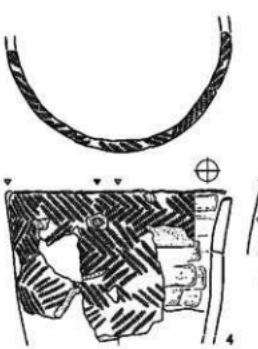
VP-61



0 10cm

図IV-2-3 遺構の土器（3）

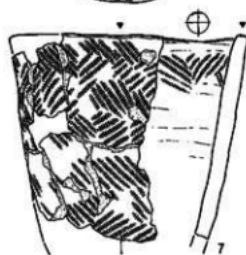
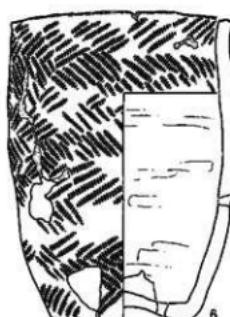
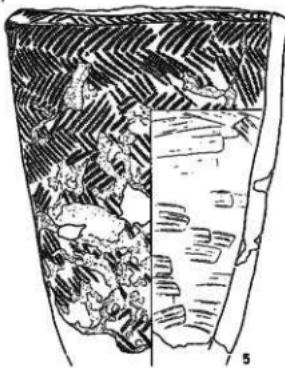
VH-4



VH-6

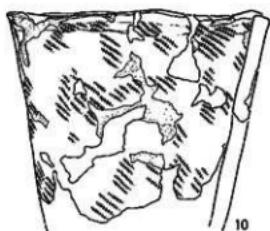
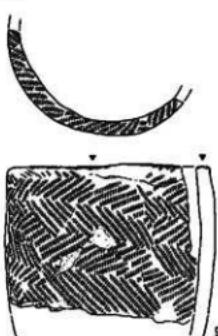


VH-10



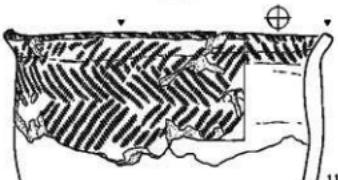
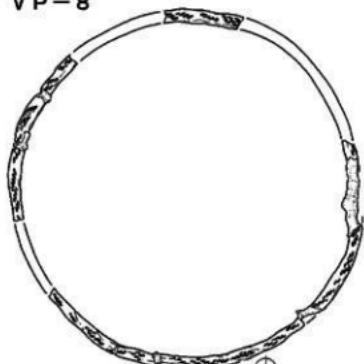
図IV-2-4 造構の土器 (4)

VH-15

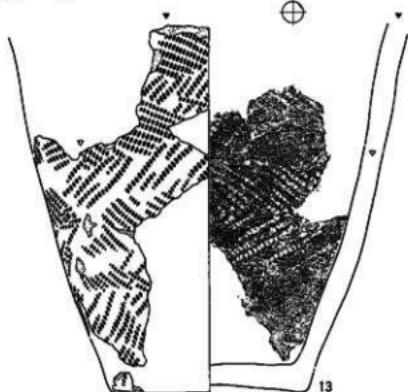
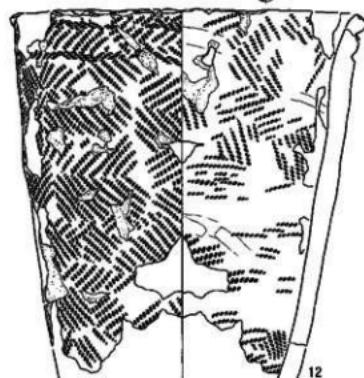


VH-17

VP-8



VP-11

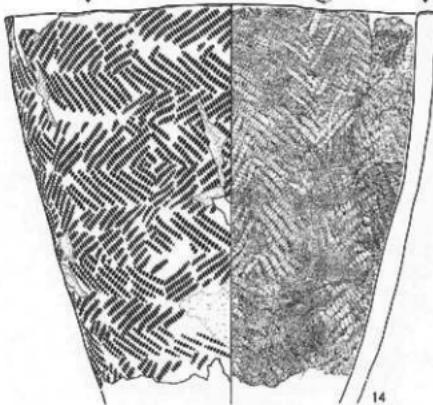
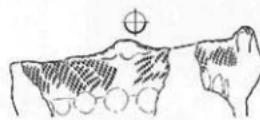


図IV-2-5 遺構の土器（5）

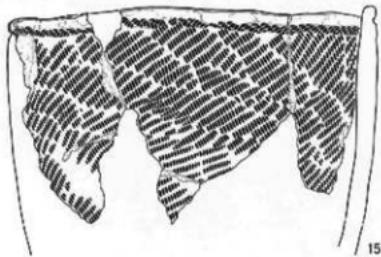
VP-23



VH-2



VP-50



図IV-2-6 遺構の土器 (6)

VH-5



図IV-2-7 造構の土器 (7)

VH-7



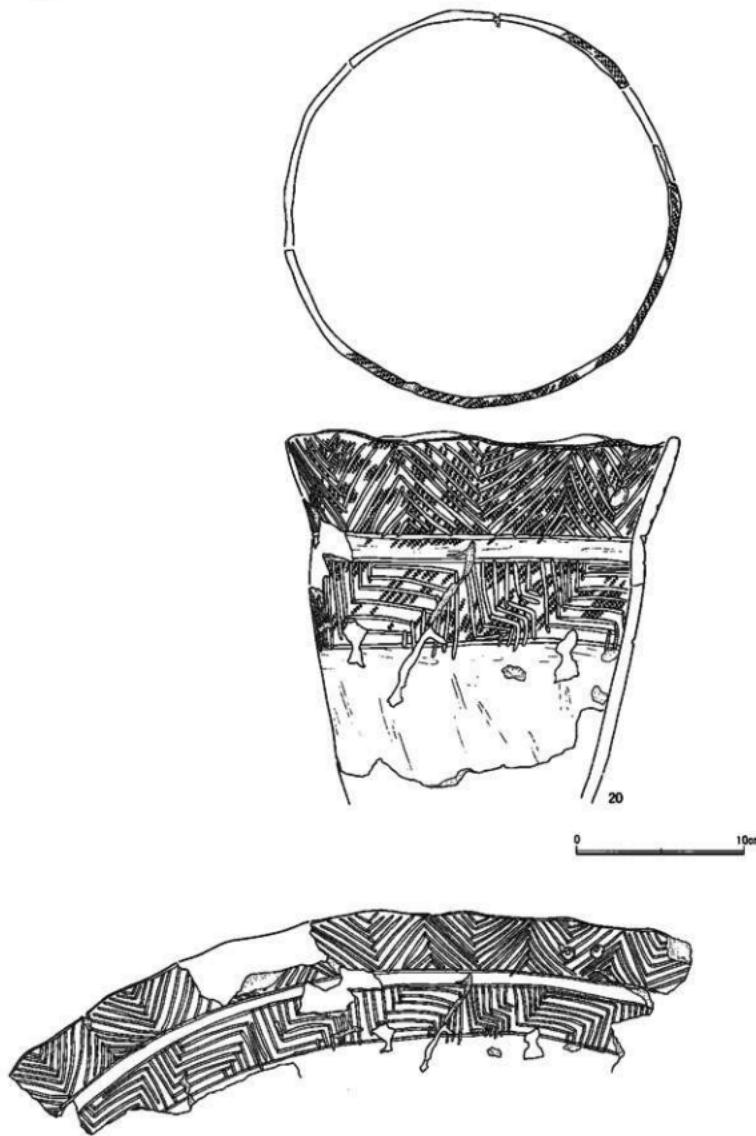
図IV-2-8 造構の土器 (8)

VP-39



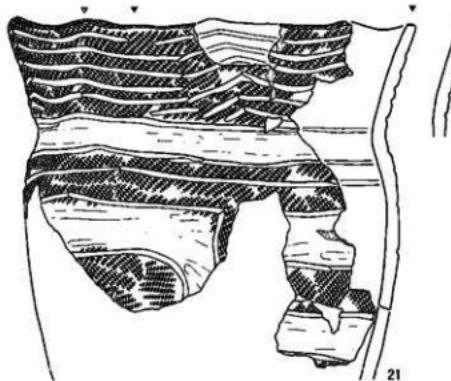
図IV-2-9 造構の土器 (9)

VF-17



図IV-2-10 造構の土器 (10)

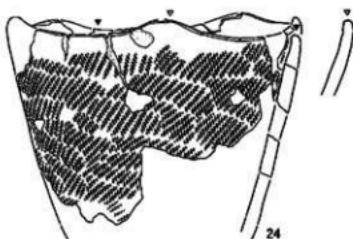
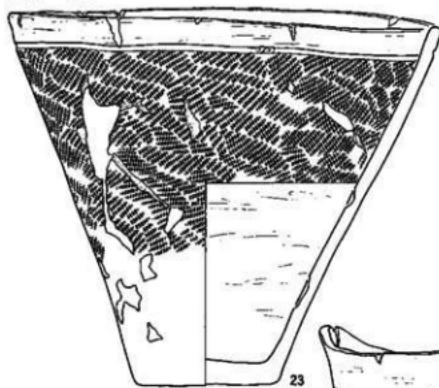
VP-42



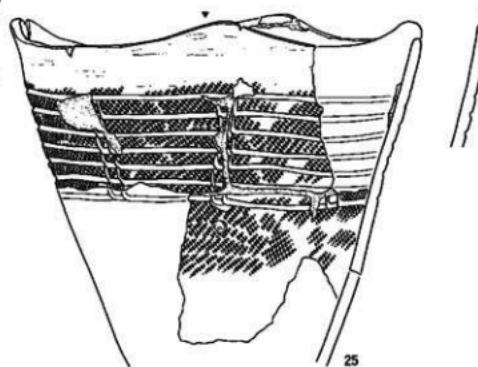
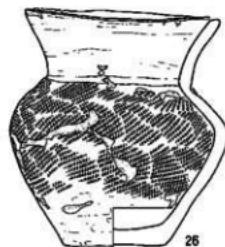
VP-74



VH-14



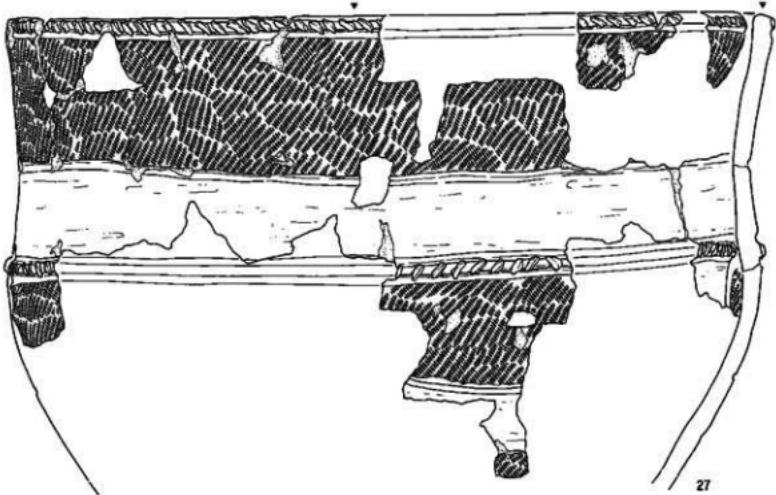
VH-16



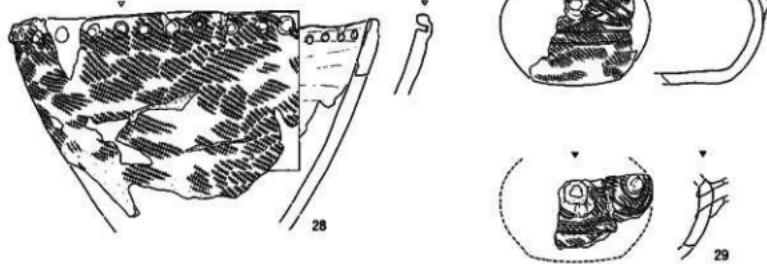
0 10cm

図IV-2-11 造構の土器 (11)

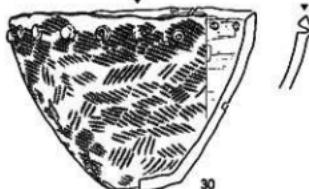
VP-41



VH-16

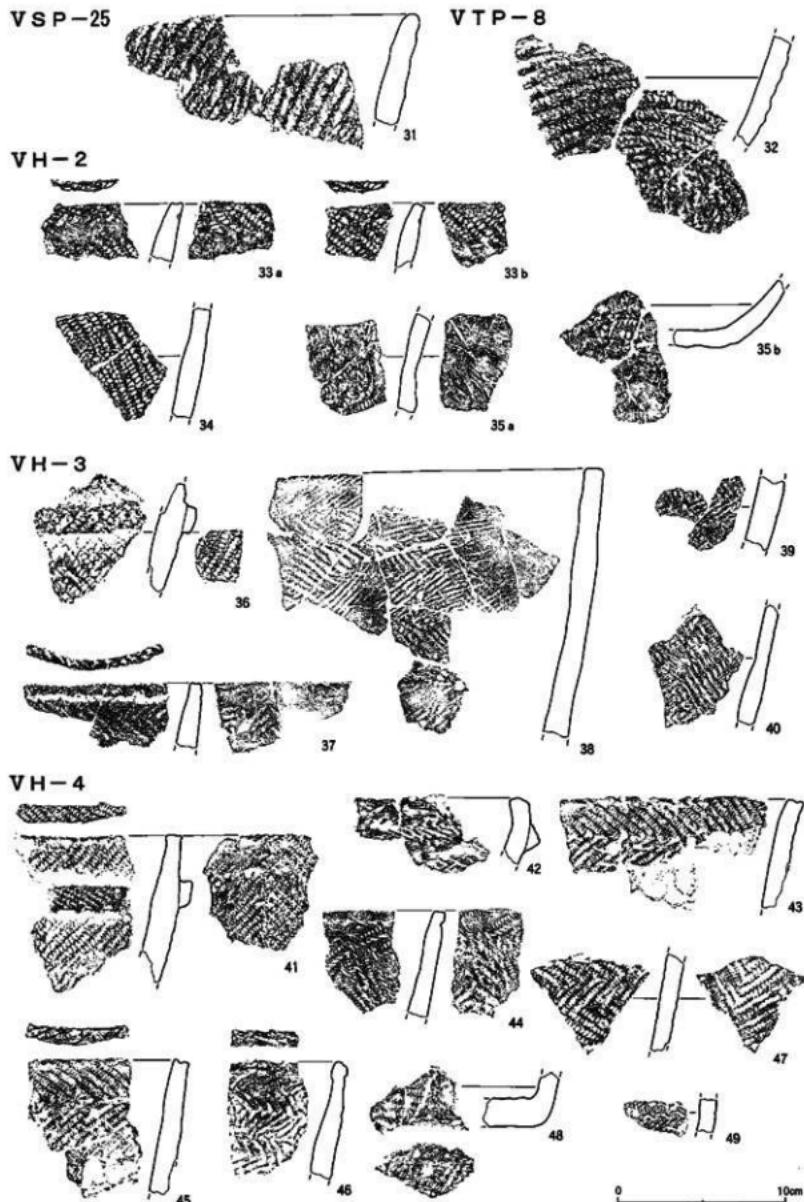


VP-30



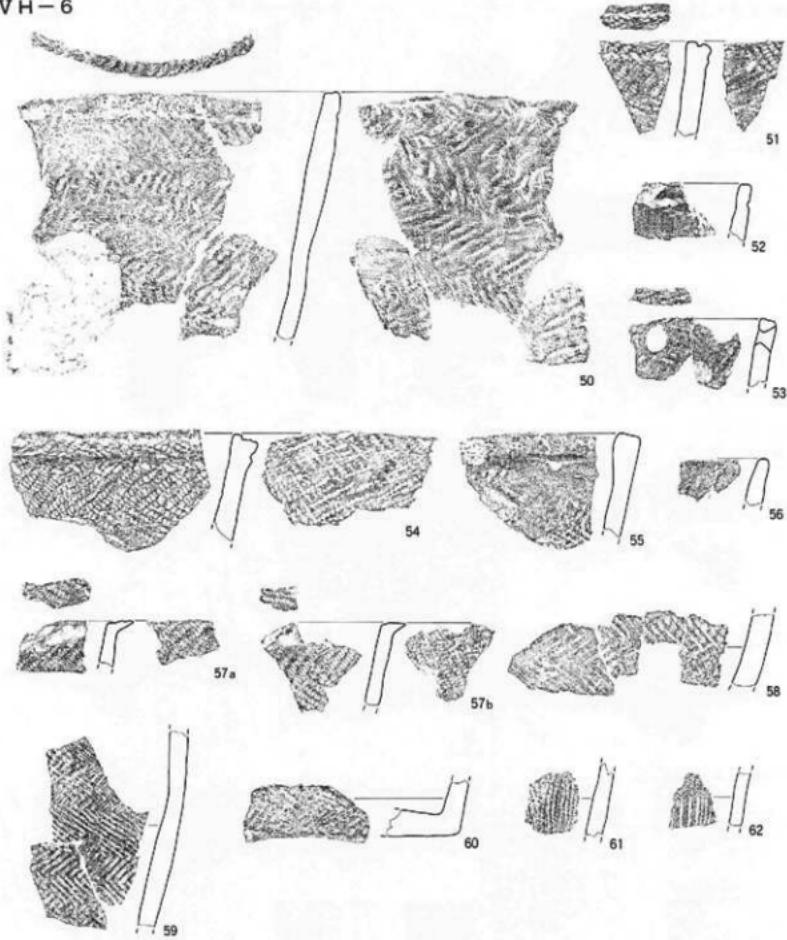
0 10cm

図IV-2-12 造構の土器 (12)



図IV-2-13 造構の土器 (13)

VH-6

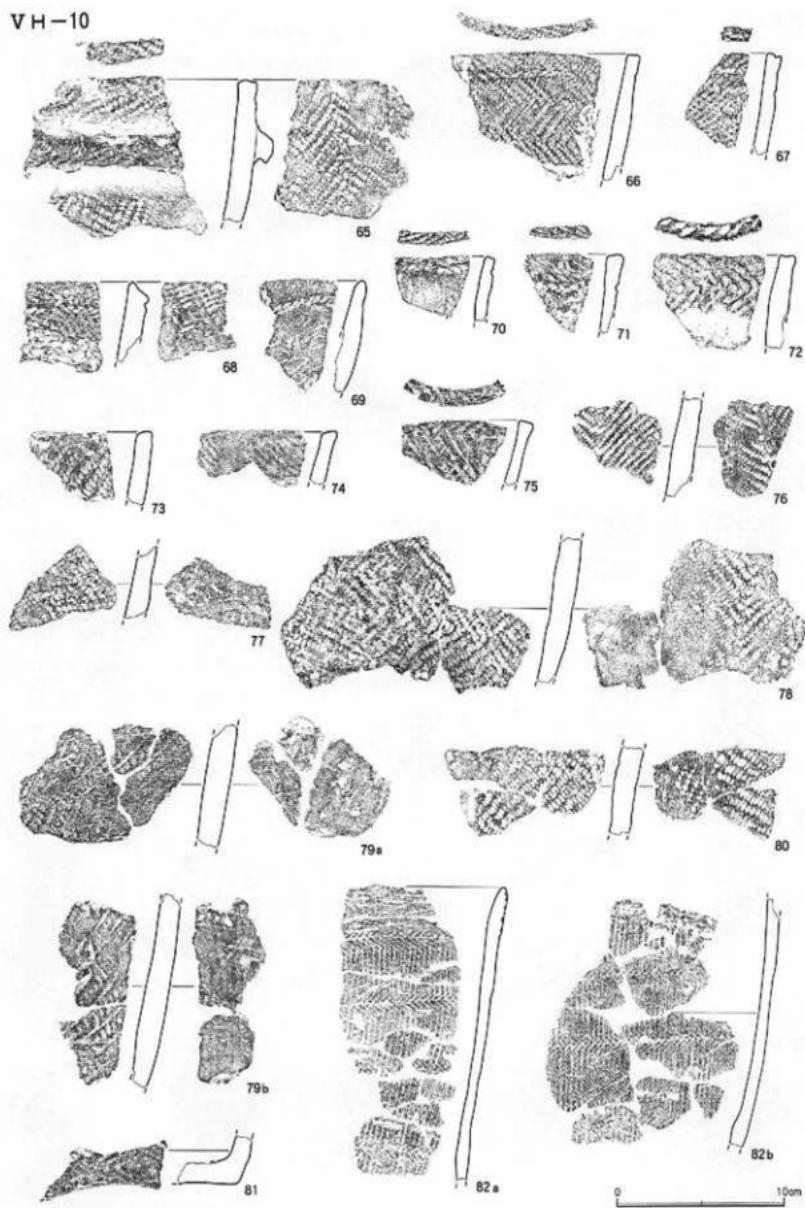


VH-8



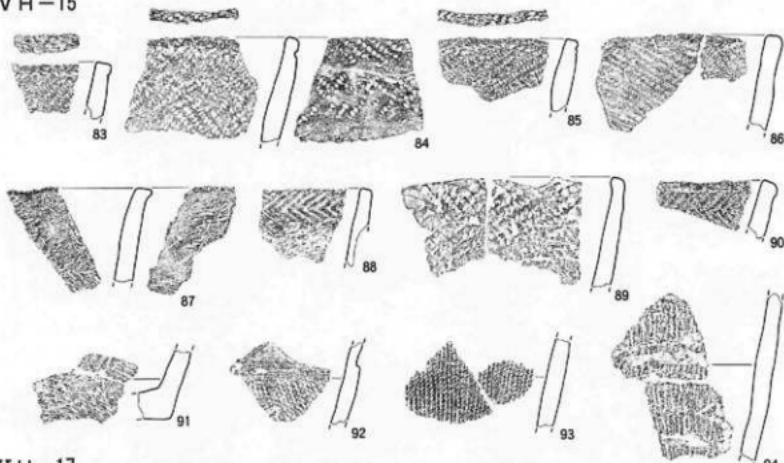
図IV-2-14 遺構の土器 (14)

V H - 10

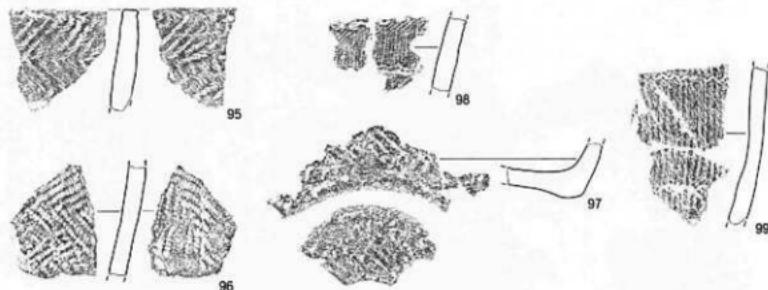


図IV-2-15 遺構の土器 (15)

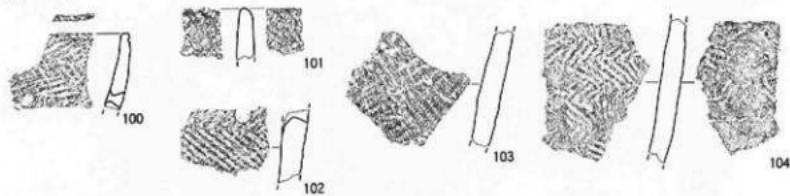
V H - 15



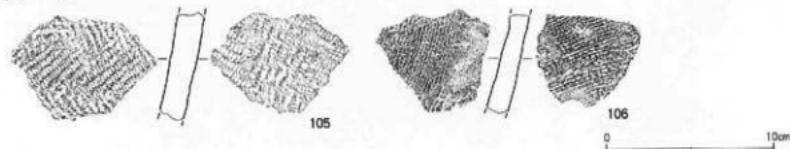
V H - 17



V P - 1



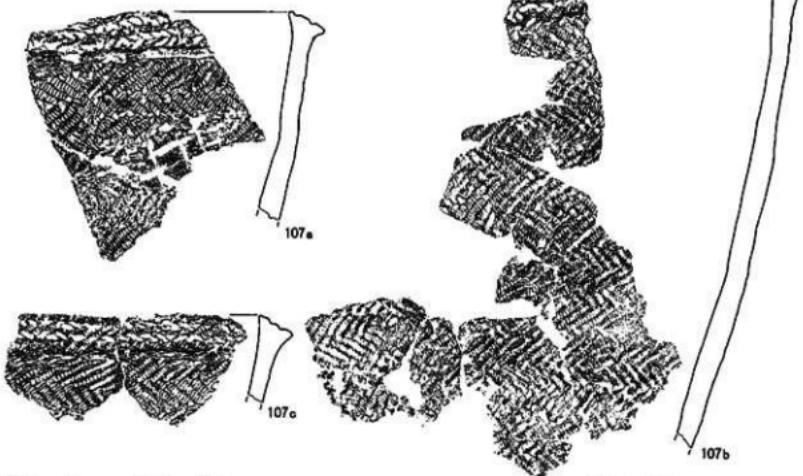
V P - 8



0 10cm

図IV-2-16 遺構の土器 (16)

VP-11



VP-14

VP-16

VP-24

VP-29

VP-32

VP-36

VP-47

VP-62

VP-50

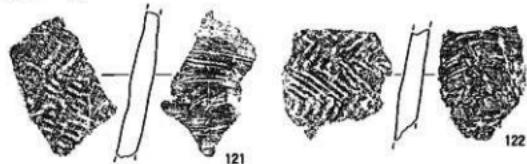
0 10cm

図IV-2-17 造構の土器 (17)

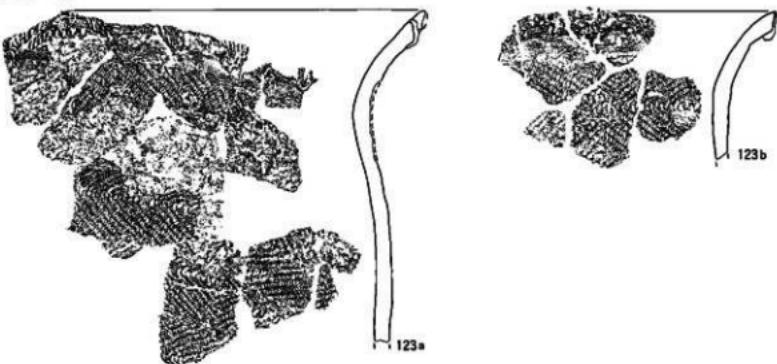
VTP-10



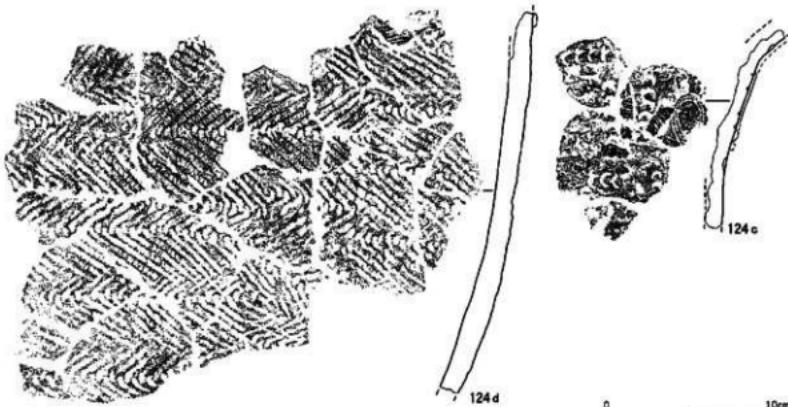
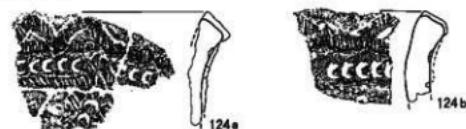
VSP-2



VH-10



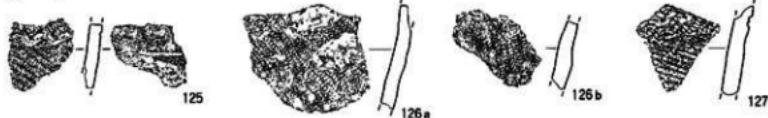
VH-17



0 10cm

図IV-2-18 遺構の土器 (18)

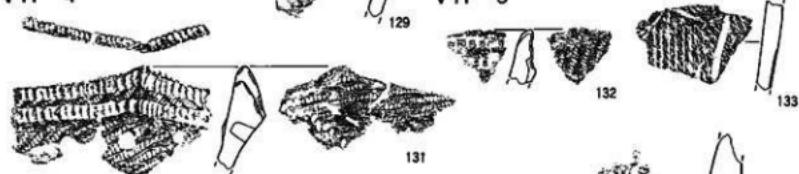
VH-1



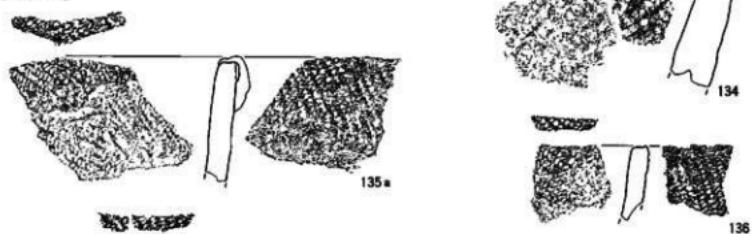
VH-3



VH-4



VH-5

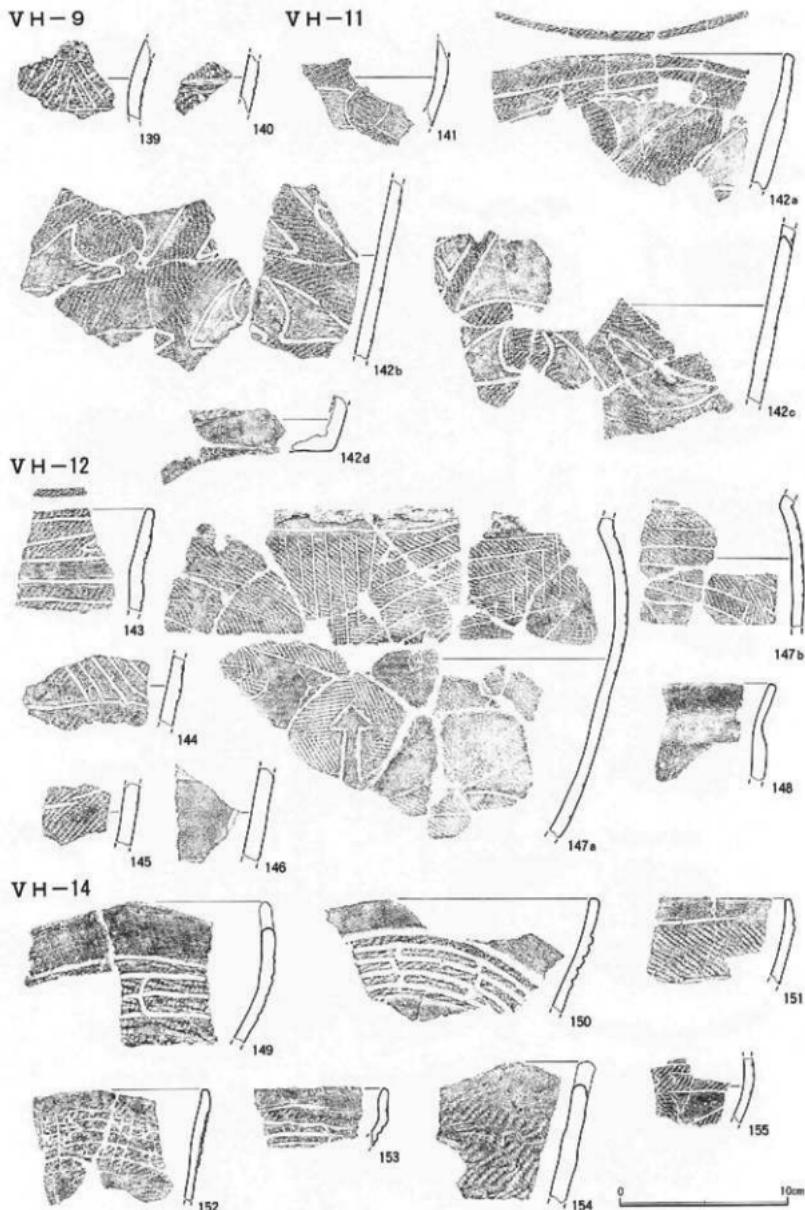


VH-7

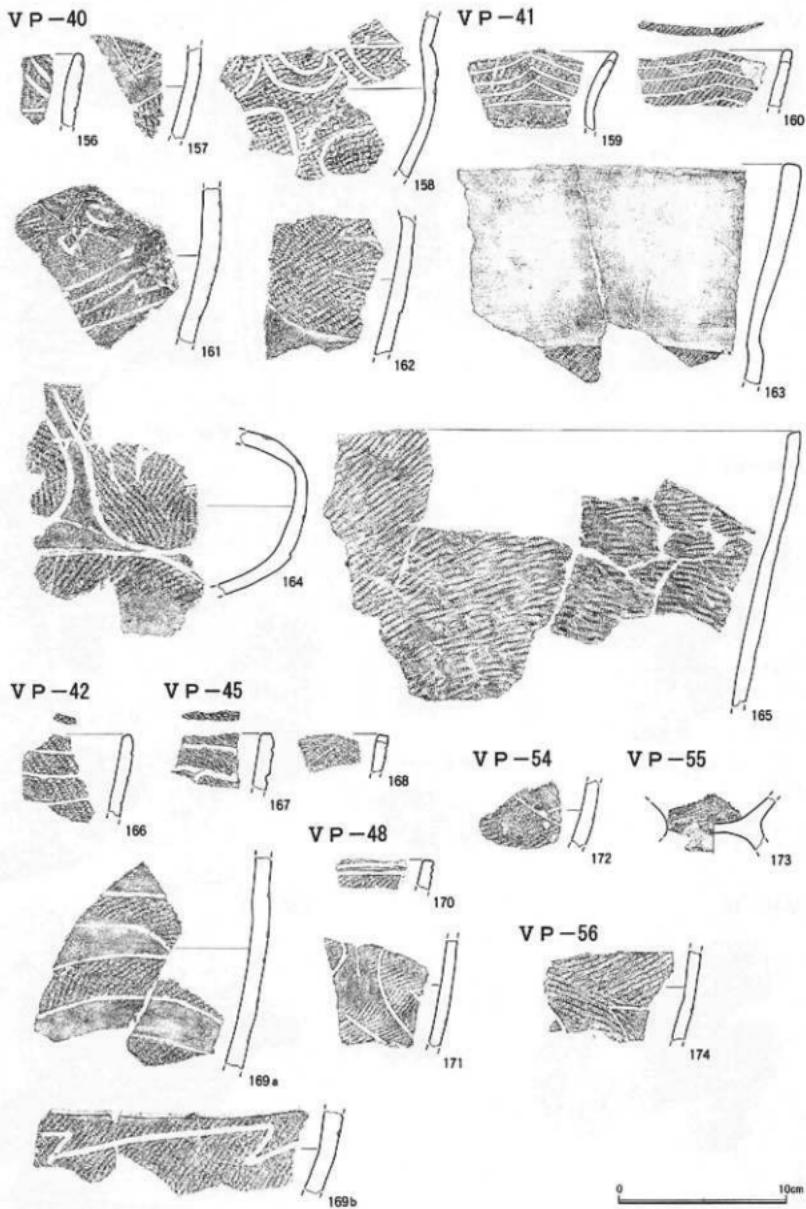


0 10cm

図IV-2-19 遺構の土器 (19)

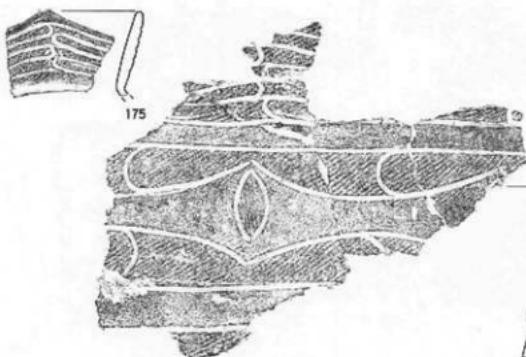


図IV-2-20 遺構の土器 (20)



図IV-2-21 遺構の土器 (21)

VP-58



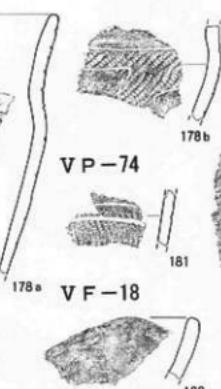
VP-67



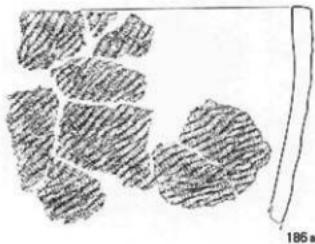
VP-69



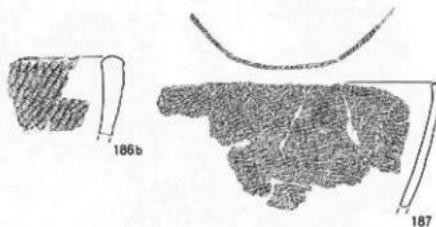
VP-74



VH-16



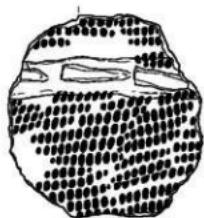
VP-41



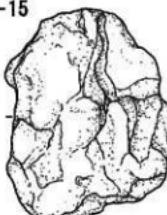
0 10cm

図IV-2-22 遺構の土器 (22)

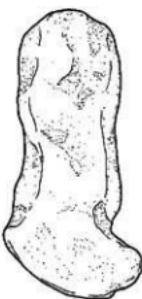
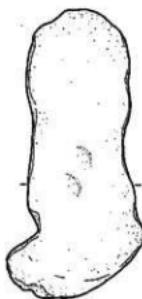
VH-2



VH-15

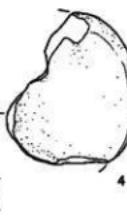
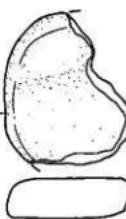


2



3

VH-17



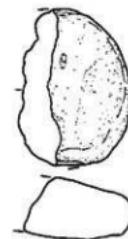
4



5

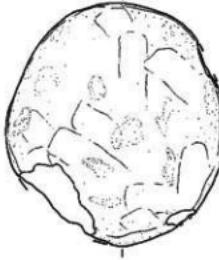


6



7

VP-1

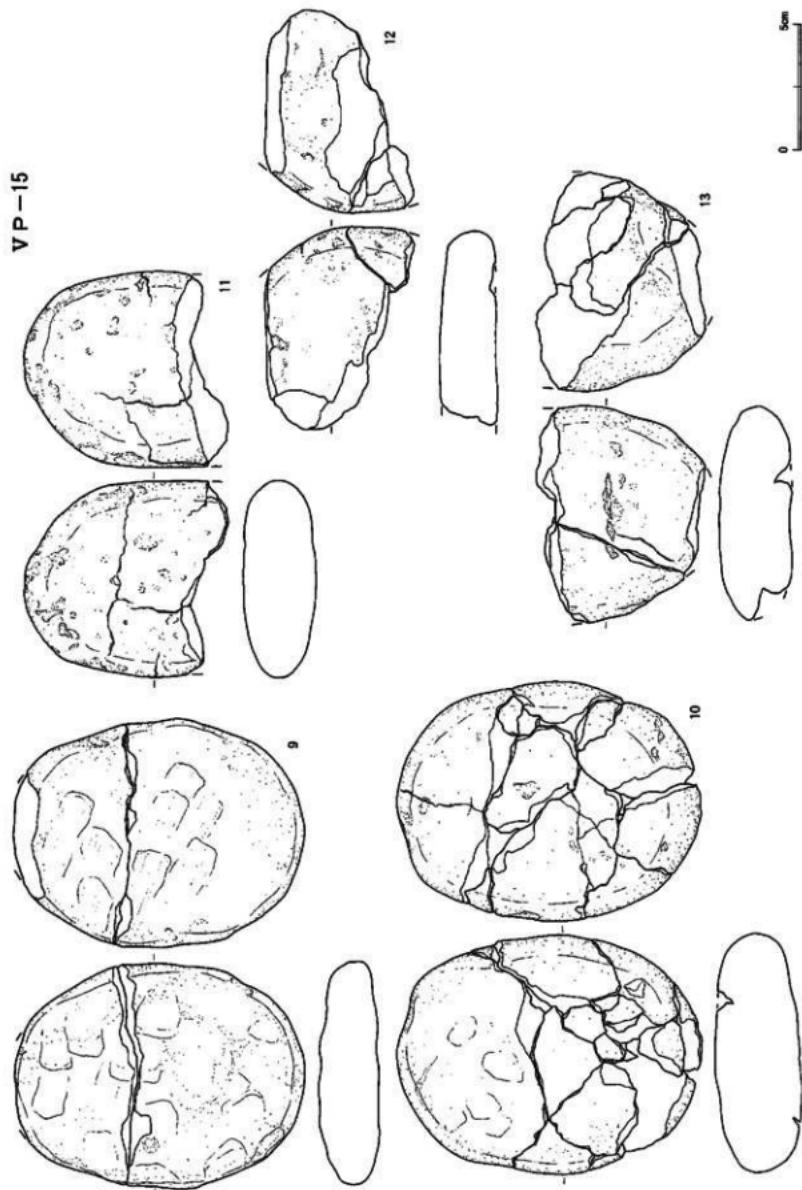


8



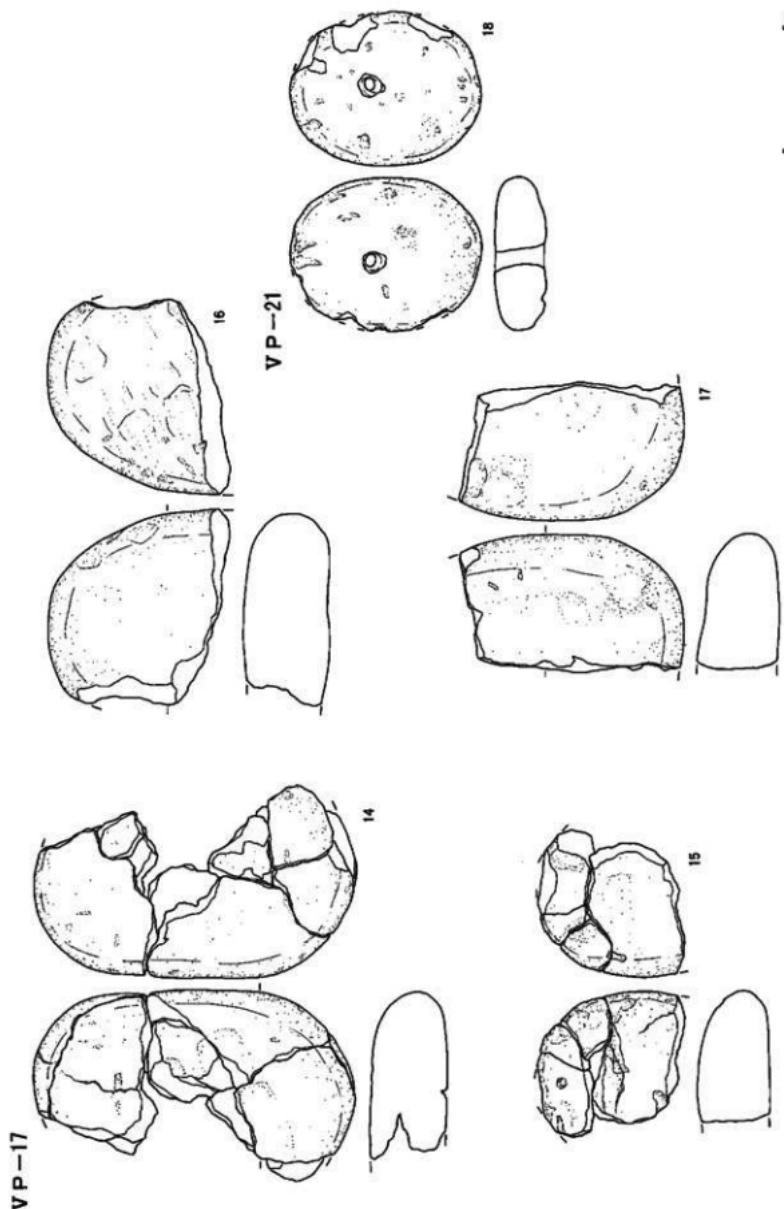
図IV-2-23 造構の土製品(1)

図IV-2-24 遺構の土器品（2）



6 cm

図IV-2-25 連構の土製品（3）



V P - 15 (図IV-2-24-9~13/表6/図版40)

9~13は盤状粘土塊。形状は橢円形。V P - 15からは粘土塊の破片が50点出土したが、微細で脆弱なものが大部分であった。このため、比較的状態が良好であった9・10がほぼ完形、11~13が約1/2~1/3程度接合したのみである。完形品の大きさと破片の量から、10個体前後が土坑内部にあったと推測される。

V P - 17 (図IV-2-25-14~17/表6/図版41)

14~17は盤状粘土塊。形状は橢円形。V P - 17からは粘土塊の破片が122点出土したが、微細で脆弱なものが大部分で、14・15以外はほとんど接合しなかった。16・17は比較的大きめの破片。厚さはほぼ同じである。完形品の大きさと破片の量から、20個体前後が土坑内部にあったと推測される。

V P - 21 (図IV-2-25-18/表6/図版41)

18は盤状粘土塊。形状は橢円形で、中央が穿孔されている。V P - 21からは粘土塊の破片が6点出土したが、18のみが完形品。V P - 1・15・17出土のものよりも小さい。これらの遺構や包含層より出土した盤状粘土塊、各時期の土器片を試料として胎土分析を行った(VI章第2節参照)。(芝田)

(3) 石器等

遺構からは剥片石器239点、剥片56,428点、礫石器415点、礫・礫片1,177点、石製品1点、合計58,261点が出土している。各遺構で出土した遺物は表2、器種別は表4に掲載している。ここでは掲載した石器等について、遺構ごとに述べる。

①住居跡

V H - 1 (図IV-2-26-1~10/表7/図版79)

1は石鎌。三角形鐵平基。2~5は石槍。2は菱形。3~5は有茎鐵凸基。3・4は使用による再調整によって刃部が短くなったと推測される。5は基部を折損している。6・7はスクレイパー。剥片の側縁に刃部を作出したもの。8は石のみ。短冊形で円刃、片刃。全面を研磨で整形している。9はたたき石。円礫の周縁に敲打痕がある。10は石皿片。平坦な擦り痕がある。

V H - 2 (図IV-2-27-1~6/表7/図版79)

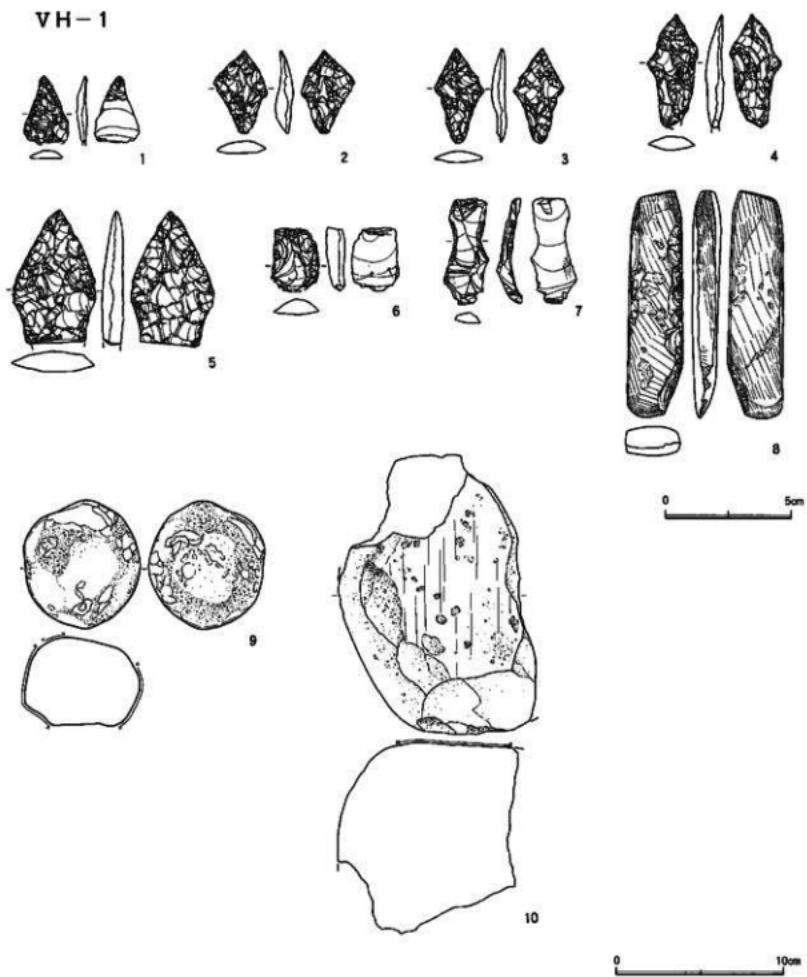
1は石鎌。基部が折損しているが有茎鐵とみられる。2はスクレイパー。剥片の側縁に刃部を作出している。3は石斧。短冊形で円刃、両刃。扁平礫を剥離によって成形した後、全面を研磨によって整形している。4・5は北海道式石冠。全面を敲打によって整形している。5は破片。6は石皿。両面ともに擦り面があり、2条の幅の広い凹みがある。背面は被熱しているが、凹みの部分には被熱痕が見られないことから、被熱後に使用されたと考えられる。

V H - 3 (図IV-2-28-1~11/表7/図版80)

1~3は石鎌。1は有茎鐵凸基。2・3は有茎鐵円基。4~6は石槍。有茎で菱形になる。6は破片。7~9は石錐。7は棒状のもの。両端に機能部がある。8は綫長剥片の先端に機能部を作出したもの。9は両面を加工して機能部を作出している。10はつまみ付きナイフ。縦型で両面を加工している。つまみ部先端を折損後、再調整している。先端部にやや摩滅がみられる事から、石錐として再利用された可能性がある。11は石鋸。敲打によって整形した後、縁部に直線的な刃部を作り出している。

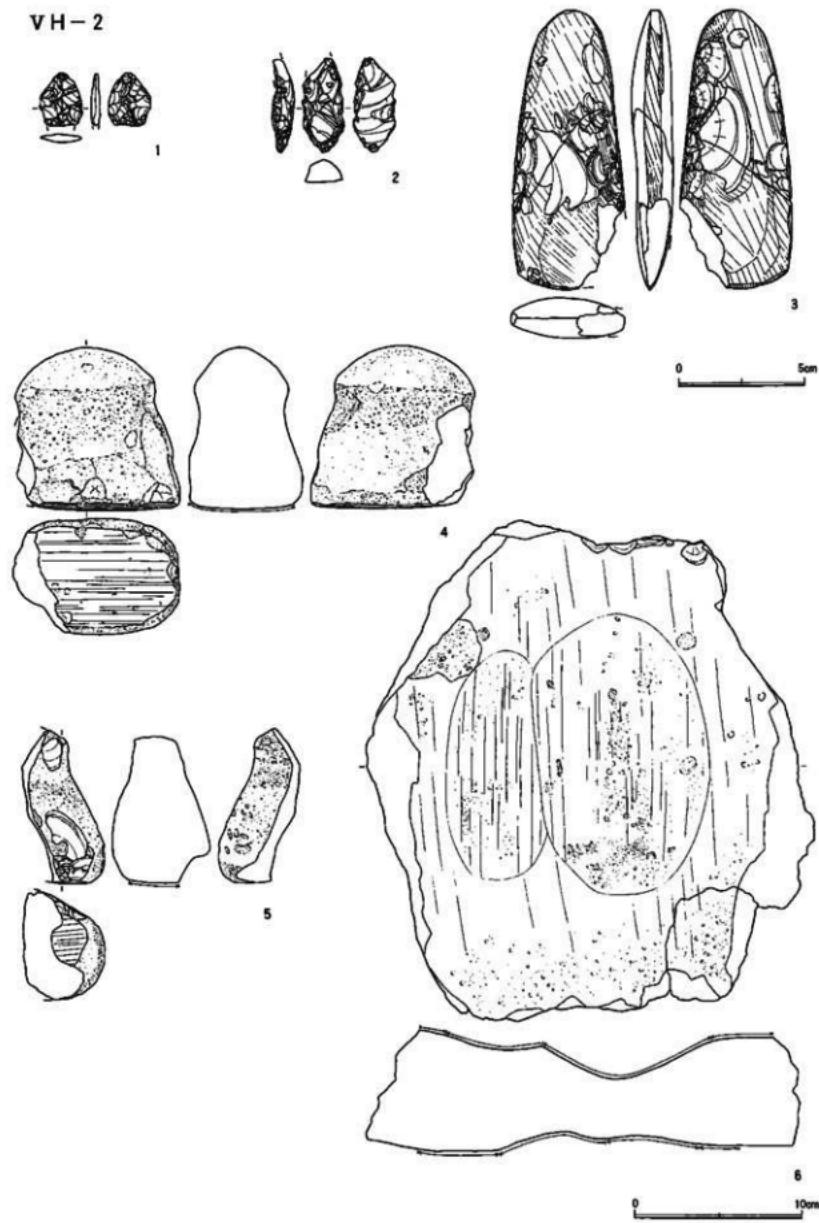
V H - 4 (図IV-2-28-1~4/表7/図版80)

1・2はつまみ付きナイフ。縦型。1は片面周縁を加工している。2は片面全体を加工している。3はスクレイパー。剥片の周縁に刃部を作出したもの。4は砥石片。平坦な擦り面がある。背面には敲打による溝みがみられる。



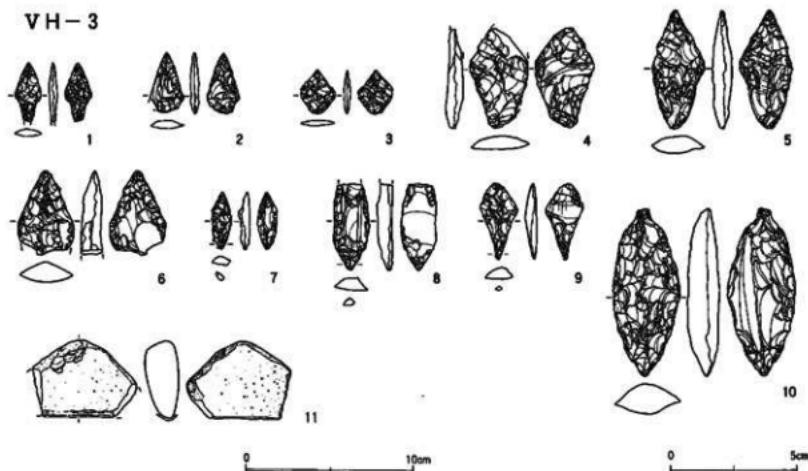
図IV-2-26 造構の石器（1）

VH-2

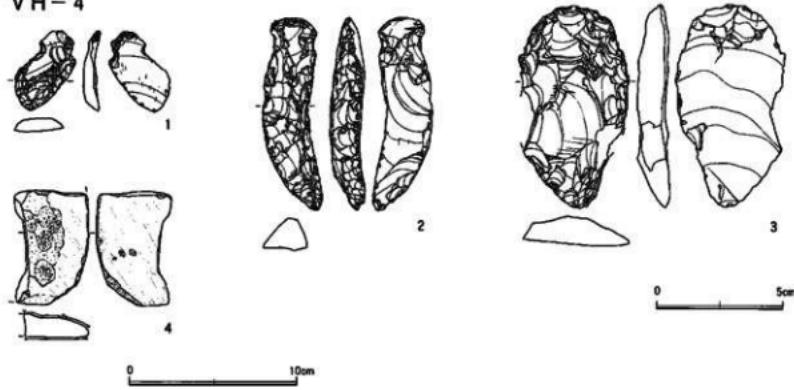


図IV-2-27 遺構の石器（2）

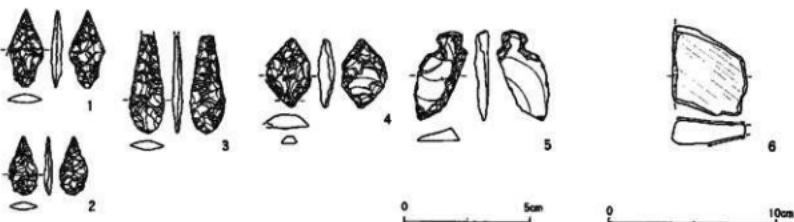
VH-3



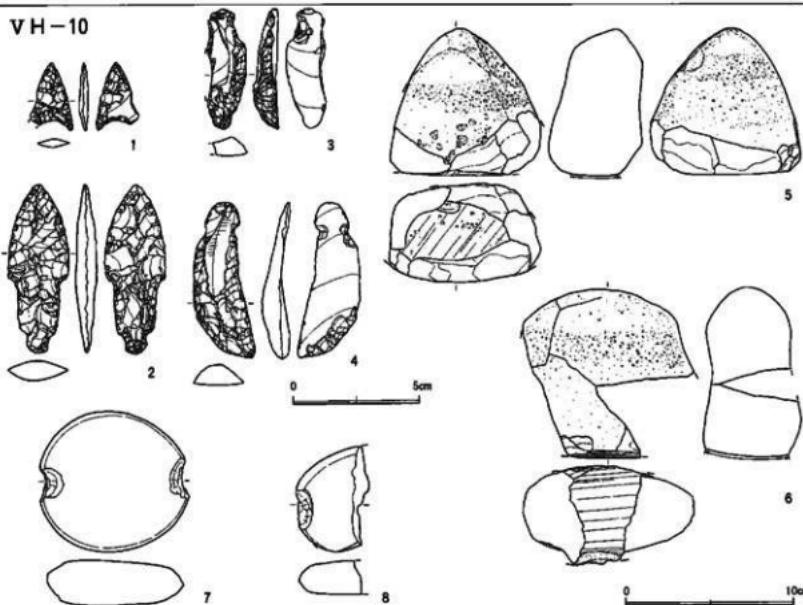
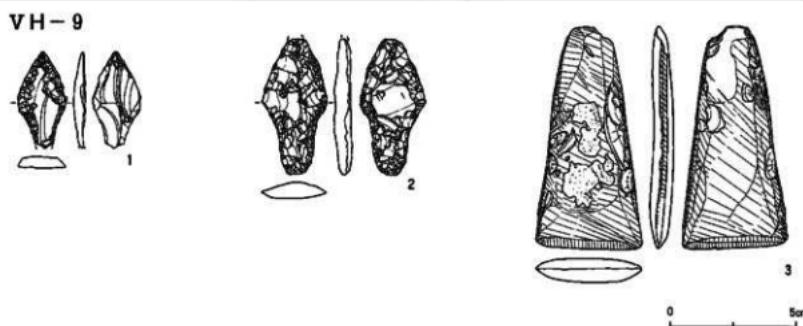
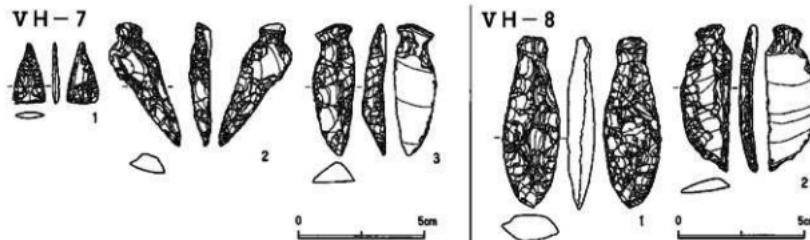
VH-4



VH-6

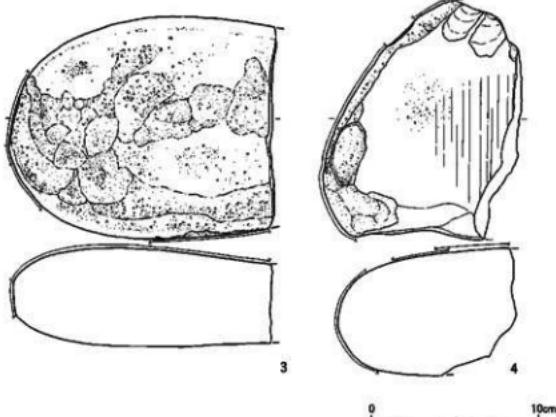
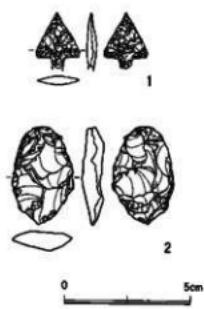


図IV-2-28 遺構の石器(3)

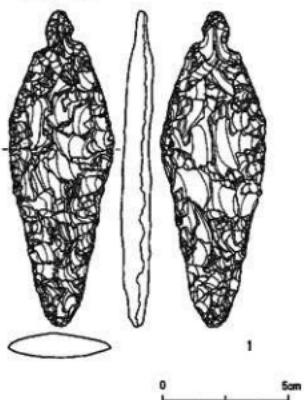


図IV-2-29 造構の石器 (4)

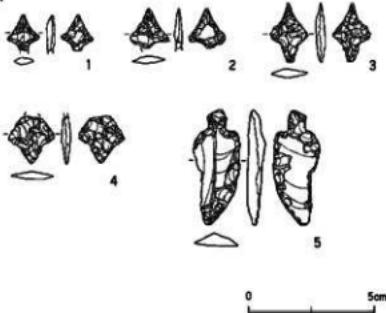
VH-11



VH-12



VH-14



図IV-2-30 遺構の石器(5)

VH-6 (図IV-2-28-1~6/表7/図版80)

1~3は石鎌。1は有茎鎌凸基。2・3は有茎鎌円基。4は石錐。剥片の側縁を加工して両端部に機能部を作出している。5はつまみ付きナイフ。縦型で片面周縁を加工しているもの。6は砥石片。腹背面に平坦な擦り面がある。

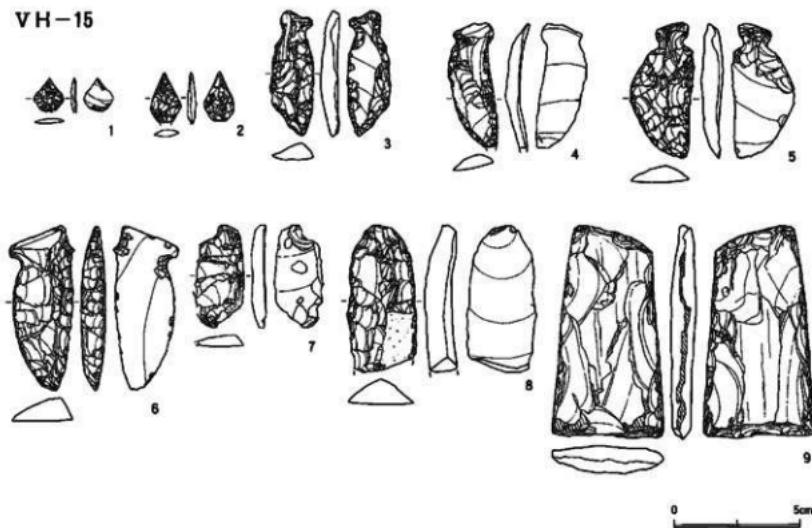
VH-7 (図IV-2-29-1~3/表7/図版80)

1は石鎌。三角形鎌平基。2・3はつまみ付きナイフ。縦型。2は両面を加工している。石錐として利用した可能性がある。3は片面全面を加工している。

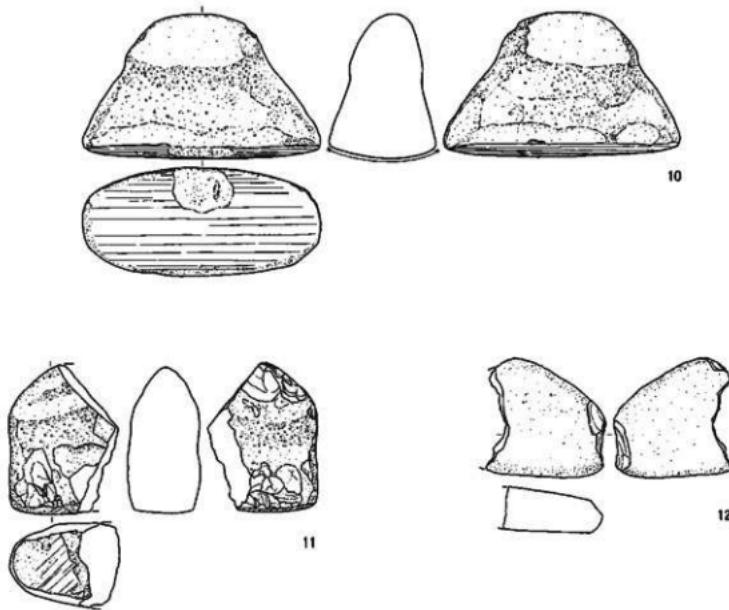
VH-8 (図IV-2-29-1・2/表7/図版80)

1はナイフ。有茎。基部先端に原石面を残す。両面を二次加工して成形している。2はつまみ付きナイフ。縦型。片面全面を加工している。

VH-15

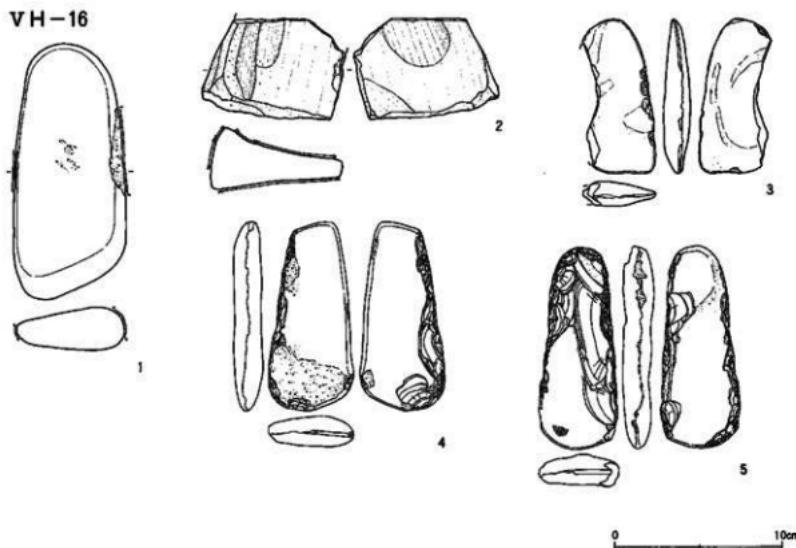


0 5cm



0 10cm

図IV-2-31 造様の石器（6）



図IV-2-32 遺構の石器（7）

VH-9 (図IV-2-29-1~3/表7/図版80)

1は石鎌。有茎縁凸基。片面周縁を加工して成形している。2は石槍。有茎凸基。両面を加工して成形している。腹面に素材剥離面を残す。3は石斧。形状は撥形で直刃、両刃。剥離による成形後、全面を研磨によって整形している。

VH-10 (図IV-2-29-1~8/表7/図版81)

1は石鎌。三角形縁凹基。被熱している。2は石槍。有茎で基部の側縁が平行、先端につまみ状の突起が作り出されている。3・4はつまみ付きナイフ。縦型で片面全面を加工している。5・6はすり石で北海道式石冠。5は擦り面周縁を打ち欠いている。7・8は石鎌。扁平疊の長軸両端に打ち欠きがある。抉入部の稜は磨耗により丸くなっている。

VH-11 (図IV-2-30-1~4/表7/図版81)

1は石鎌。有茎縁平基。2は両面調整石器。3は石皿片。平坦面に擦り痕がある。周縁に敲打による整形が見られる。被熱している。4は台石片。平坦面と側縁に敲打痕がある。

VH-12 (図IV-2-30-1/表7/図版81)

1はつまみ付きナイフ。縦型で両面加工である。

VH-14 (図IV-2-30-1~5/表7/図版81)

1~4は石鎌。有茎縁凸基。1~3は刃部が内湾する。5はつまみ付きナイフ。縦型で両面の周縁に加工がある。

VH-15 (図IV-2-31-1~12/表7/図版82)

1・2は石鎌。有茎縁円基。3~6はつまみ付きナイフ。縦型。3は両面を加工している。4~6は片面全面を加工している。7・8はスクレイパー。側縁に刃部を作り出したもの。7は被熱による

はじけがある。9は短冊形の石斧。刃部を折損している。剥離による成形後、側縁を研磨で整形している。10・11はすり石で北海道式石冠。11は破片。12は石鏟片。扁平礫の長軸端部に打ち欠きがある。抉入部の稜は磨耗により丸くなっている。

VH-16 (図IV-2-32-1~5 / 表7 / 図版81)

1はたたき石。扁平礫の両側縁と背部に敲打痕がある。2は砥石片。平坦な使用面が3面ある。3~5は加工痕のある礫。扁平礫を剥離によって整形している。4は敲打による整形も行っている。石斧の未成品と考えられる。

VH-17 (図IV-2-33-1~13 / 表7 / 図版82)

1~4は石鏟。1は三角形鏟平基。裏面はほとんど加工していないことから未成品と見られる。2~4は有茎鏟。2はやや尖り気味の円基。3は調整が粗く、未成品の可能性がある。5~9はつまみ付きナイフ。5~8は縦型のもの。5・6は片面のほぼ全面を加工している。7・8は片面の周縁を加工している。9は横型のもの。つまみ部と刃部のみ加工している。10・11はスクレイパー。12は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離によって成形後、全面を研磨している。13は加工痕のある礫。剥離痕が右側縁にある。石斧の未成品と考えられる。

②土坑

VP-1 (図IV-2-34-1~3 / 表7 / 図版83)

1は石鏟。有茎鏟円基。先端部を折損している。2は石錐。3はつまみ付きナイフ。縦型で片面を全面加工している。下端部は原石面を残す。

VP-2 (図IV-2-34-1 / 表7 / 図版83)

1は四面砥石。下半部を折損している。先端部にも擦り痕が見られる。全面を研磨によって整形した後、砥石として使用したと考えられる。

VP-11 (図IV-2-34-1~2 / 表7 / 図版83)

1は石鏟。有茎鏟凸基。2はつまみ付きナイフ。片面全面を加工している。

VP-13 (図IV-2-34-1~2 / 表7 / 図版83)

1は石鏟。三角形鏟平基。2は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離による成形後、研磨によって整形している。刃部先端は使用による剥離が見られる。

VP-14 (図IV-2-34-1 / 表7 / 図版83)

1は石鏟。有茎鏟円基。

VP-15 (図IV-2-34-1 / 表7 / 図版83)

1は石鏟。三角形鏟平基。被熱により表面が曇っている。

VP-18 (図IV-2-34-1 / 表7 / 図版83)

1は石斧。短冊形で円刃、両刃。剥離による成形後、全面を研磨によって整形している。

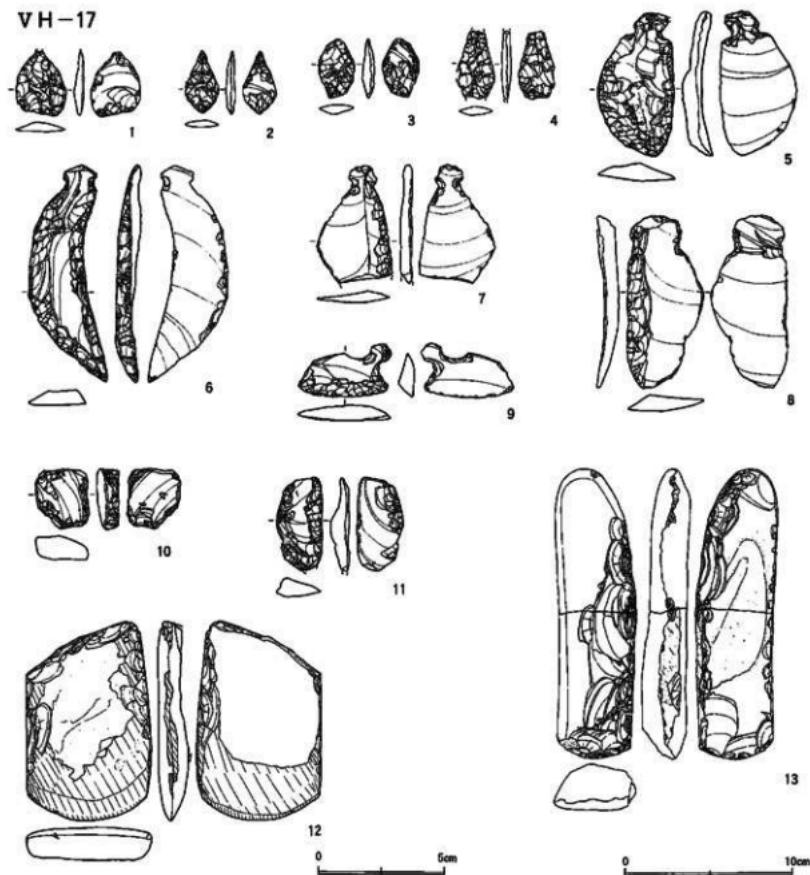
VP-24 (図IV-2-35-1・2 / 表7 / 図版83)

1・2は石皿片。礫の平坦面に広い擦り面があるもの。周縁を敲打によって整形している。1は礫の平坦面を敲打によって調整した後、平坦な擦り面を作り出している。腹面平坦面にも敲打痕がみられる。

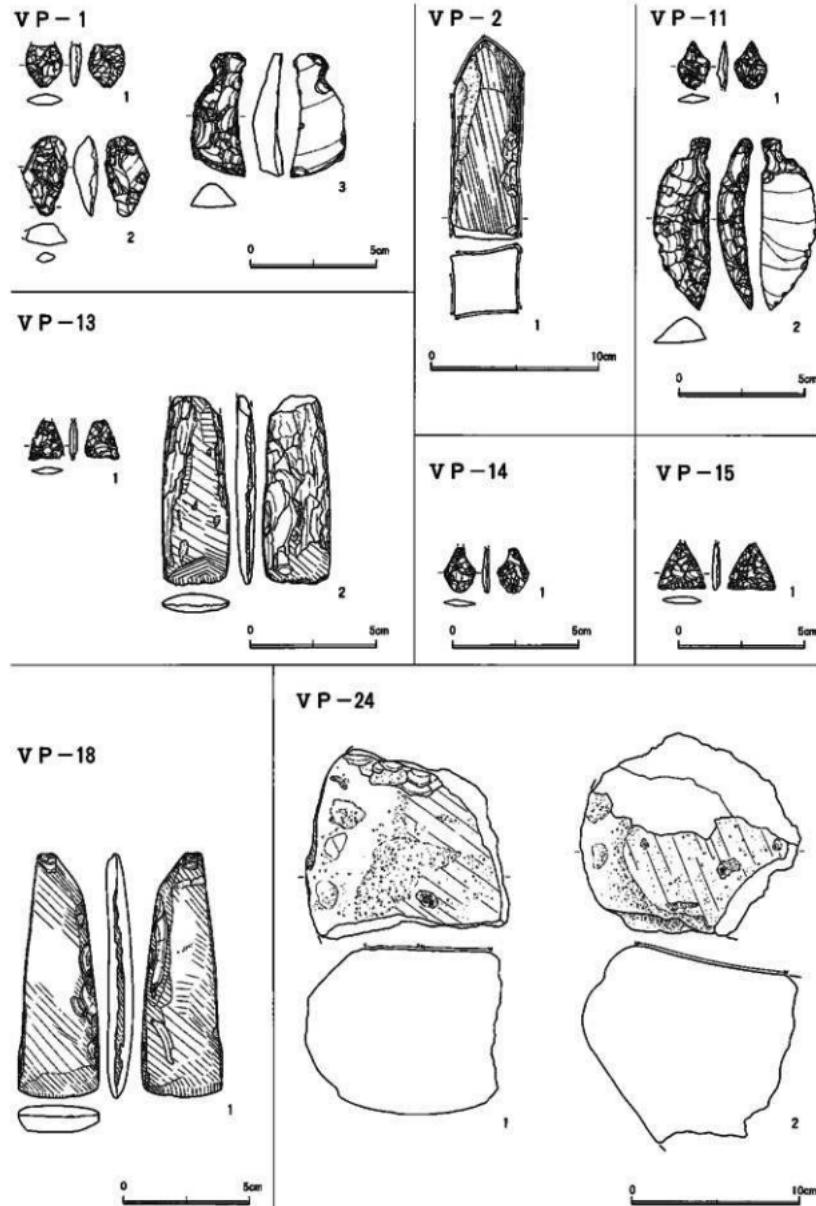
VP-29 (図IV-2-35-1・2 / 表7 / 図版83)

1はつまみ付きナイフ。縦型で両面加工のもの。2は石斧。短冊形で円刃、両刃。敲打痕の上から研磨されていることから、敲打によって調整された後に全面を研磨したと考えられる。基部先端部に原石面を残す。

VH-17

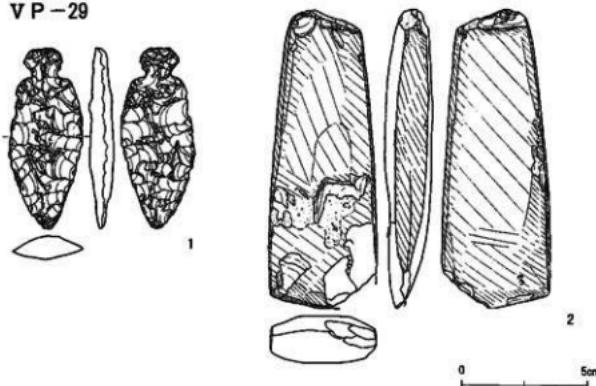


図IV-2-33 遺構の石器（8）

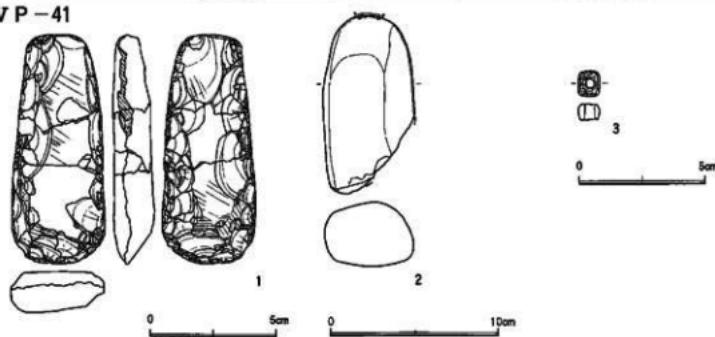


図IV-2-34 造様の石器 (9)

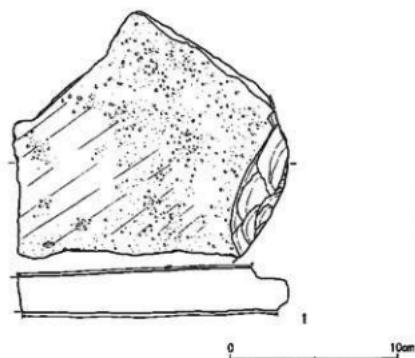
VP-29



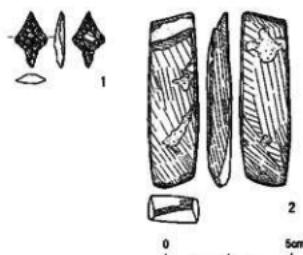
VP-41



VP-48



VP-55



図IV-2-35 遺構の石器 (10)

V P - 41 (図IV - 2 - 35 - 1 ~ 3 / 表7 / 図版83)

1は石斧。剥離による成形後、一部研磨によって整形している。刃部は研磨されていない。未成品と考えられる。2はたたき石。棒状礫の両端部に敲打痕がある。3は石製品。長方形の形状をした玉。短軸側から穿孔されている。穿孔痕は確認できない。穿孔の内部に縦方向の研磨痕がみられることから、孔の内面を磨いたと思われる。

V P - 48 (図IV - 2 - 35 - 1 / 表7 / 図版83)

1は石皿片。板状礫の表面を敲打によって調整し、両面に平坦な擦り面を形成している。被熱している。

V P - 55 (図IV - 2 - 35 - 1 + 2 / 表7 / 図版83)

1は石礫。有茎鐵凸基。刃部が内湾する。2は石のみ。短円形。全面を研磨によって整形している。刃部先端は研磨によって平坦に潰されている。刃部は約20°の角度で傾いている。基部側にも刃部が作出されている。直刃、片刃。

V P - 61 (図IV - 2 - 37 - 1 / 表7 / 図版85)

1は石皿。礫の平坦面を敲打によって調整し、擦り面を作り出している。中央部は長軸13.5cm、短軸8.0cm、最深部1.3cmほどの橢円形に窪んでいる。窪みには赤色顔料が薄く確認できる。

V P - 63 (図IV - 2 - 36 - 1 + 2 / 表7 / 図版84)

1・2は台石。扁平な橢円礫の平坦面の全面を敲打によって調整している。敲打痕の状況から、扁平礫の平坦面を敲打によって調整した後、中央付近を使用したと考えられる。

V P - 64 (図IV - 2 - 36 - 1 / 表7 / 図版84)

1は加工痕のある礫。礫の表面を剥離や敲打によって整形している。

V P - 78 (図IV - 2 - 37 - 1 / 表7 / 図版84)

1は石皿。礫の平坦面を利用して擦り面を作り出したもの。礫の周縁を打ち欠いて整形している。

③焼土

V F - 13 (図IV - 2 - 38 - 1 / 表7 / 図版85)

1は台石。棒状礫の平坦面と端部に敲打痕が確認できる。

V F - 14 (図IV - 2 - 38 - 1 / 表7 / 図版85)

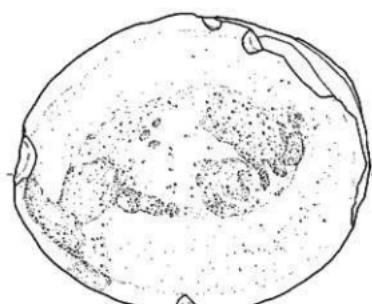
1は石錐。剥片の一部に両面加工を施して棒状の機能部を作出したもの。先端部は使用による摩滅で丸くなっている。被熱により表面が白く曇っている。

④集石

V S - 6 (図IV - 2 - 38 - 1 + 2 / 表7 / 図版85)

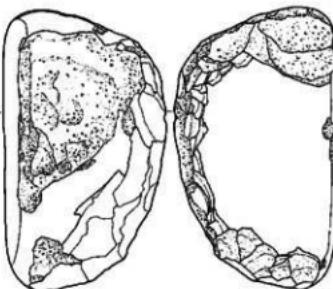
1はすり石。断面が三角形になる礫の稜を擦ったもの。9点が接合している。一部に敲打による調整がある。2は石皿。礫の平坦面に擦り面がある。53点が接合している。
(酒井)

VP-63



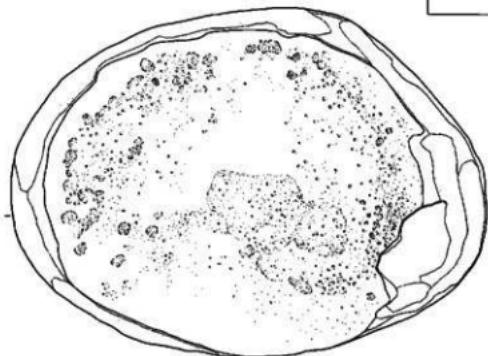
1

VP-64



1

0 10cm

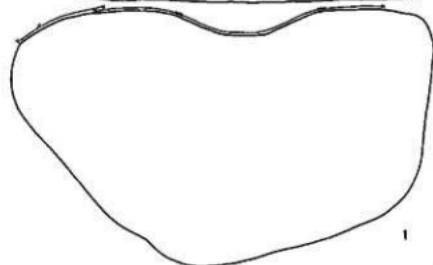
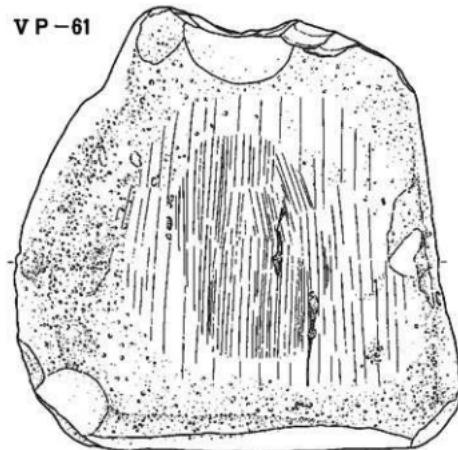


2

0 10cm

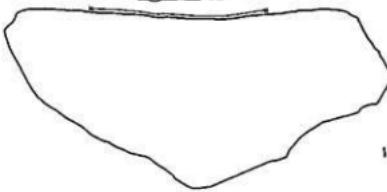
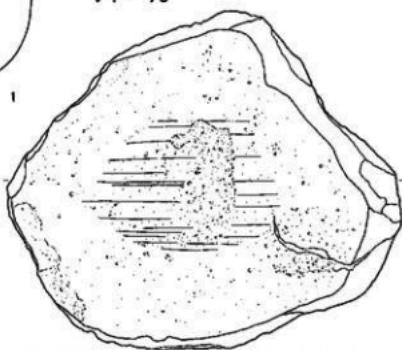
図IV-2-36 遺構の石器 (11)

VP-61



0 10cm

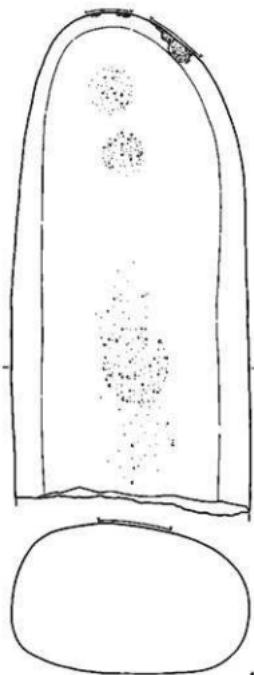
VP-78



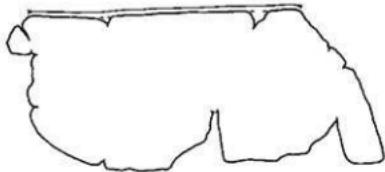
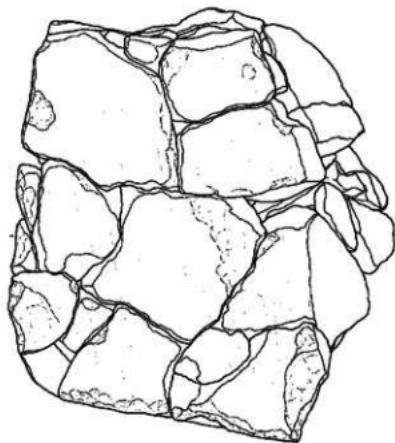
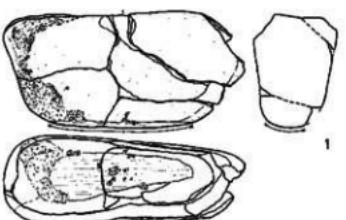
0 10cm

図IV-2-37 遺構の石器 (12)

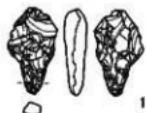
VF-13



VS-6



VF-14



0 5cm

図IV-2-38 造構の石器 (13)

3 包含層出土の遺物

(1) 土器

平成19・20年度、2か年の調査で、V層より土器・土製品は66,957点出土した(表I-2)。時期は、縄文時代前期(II群)、中期(III群)、後期(IV群)、晩期(V群)のものがある。縄文時代後期中葉(IV群b類)の土器が30,175点(45.1%)と最も多く、以下、前期後半(II群b類)14,601点(21.8%)、後期後葉(IV群c類)11,648点(17.4%)、中期後半(III群b類)3,646点(5.5%)、晩期後葉(V群c類)1,566点(2.3%)、後期前葉(IV群a類)1,358点(2.0%)、中期前半(III群a類)1,311点(2.0%)と続く。前期前半(II群a類)は553点(0.8%)、晩期中葉(V群b類)は387点(0.6%)と非常に少ない。

土器の出土分布は遺構とほぼ一致しており、調査範囲南側～中央の高位・低位の段丘面とそれから祝梅川旧河道へ降りる斜面上に集中し、北側の低地部分は希薄である(図V-3-47～52)。II群a類土器は、当該期の住居跡VH-13が検出された、調査範囲中央の北向きの斜面を中心としてまとまりがある。縄文式がこの部分に分布が偏るのに対して、静内中野式は南側の段丘面や緩斜面上からも疎らに出土している。II群b類土器は、調査範囲南側で濃密だが、北側の低地部分ではほとんど出土していない。植苗式と大麻V式の分布は重なっており、住居跡の覆土から両型式が併出した例も多い。植苗式は、当該期の土坑VP-23・57・59・61などの周辺、大麻V式は当該期の住居跡VH-6・10・15・17などの周辺に小規模なまとまりが見られる。大麻V式のほうが個体数が多いようである。大麻V式と併行するとされる円筒土器下層d式は出土量が少なく、客体的な存在であったと考えられる。III群a類土器(円筒土器上層b式)は、調査範囲南西側の標高12.0～13.0m付近の緩斜面上に集中しており、VH-10・15・17の覆土中からも出土している。III群b類土器は、調査範囲南側～中央の全体に分布しており、特に際立った集中域は確認されなかった。天神山式は、調査範囲西側の標高8.0～10.0m付近の氾濫原、柏木川式は一段高い標高11.0～13.0m付近の緩斜面上、北筒式は南東側の標高13.0～15.0m付近の段丘上に多い。北筒式が大半を占め、天神山式・柏木川式の個体数は非常に少ない。IV群a類土器は、すべてタブコブ式である。調査区全体に疎らで、当該期の土器匂炉を伴う住居跡(VH-5・7)の周辺でも、それほど多くない。IV群b類土器は、主にウサクマイC式が調査範囲南西側の緩斜面上、手稻式・銚潤式が調査範囲中央の低位の段丘面から続く氾濫原に多く分布している。接合作業後の復元個体と口縁部片による大まかな個体識別では、ウサクマイC式：手稻式・銚潤式の個体数比は5:4:1であった。エリモB式は個体数が非常に少ない。IV群c類土器の分布は、IV群b類とほぼ重なるが、主体となるのは調査範囲南西側である。IV群c類の大部分が堂林式である。後続する御殿山式は非常に少なく、調査範囲中央の氾濫原で出土した。V群b類土器は、美々3式に相当するものである。調査範囲南東側の段丘上で深鉢1個体(図IV-3-16-59)が出土したほか、北側の梅川1遺跡との境界部分でまとまりが見られる。梅川1遺跡でも同時期のものが出土している。V群c類土器は、ママチII群・II類に相当するもので、調査範囲南側～中央ではほとんど出土していない。K6調査区などで多く出土したものは、晩期後葉の土坑の掘削などに伴ってIII層から混入した可能性が高い。このほか北側の低地部分で集中する部分がある。

縄文時代前期前半の土器(図IV-3-18/表8-2/図版53)

II群a-1類:美々7式に相当するもの(62)

62は口縁部片。平縁で、端面は内傾。口唇直下に太いRL横走縄文。その下位に同じ原体による斜

走縄文が施される。器外面の縄文はナデられて、不鮮明になっている。内面は丁寧に横ナデ調整される。胎土は少量の繊維と細砂礫が混入する。

II群a-1類：縄文式に相当するもの（63~68）

63・64は口縁部片。いずれも平縁で、端面は水平。器外面に太いRL横走縄文。65~67は胴部片、68は丸底の底部片。筋の荒いRL横走縄文を施す。胎土は多量の繊維が混入する。器面の剥落が著しい。

II群a-2類：静内中野式に相当するもの（69~84）

69~78は口縁部片。太めのLR縄による斜走縄文を施す。79~82は胴部片で、太い原体によるLR斜走縄文。83は口縁部片で、端面は水平。器外面にRL斜走縄文。横走沈線2条にLR縄側面圧痕を重ねている。内面に横方向の擦痕が確認される。84は口縁部で、端面は丸みを帯びる。無文。器形から大麻V式の可能性もある。胎土は多量の繊維が混入する。器面の剥落が著しい。

縄文時代前期後半の土器（図IV-3-1・19~23/表8-1・3/図版42・53~57）

II群b-1類：植苗式に相当するもの（1・85~117）

1は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁。端面はやや内傾し、LR回転縄文。器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。器内面にも縦位の羽状縄文。口縁部には弧状の縄側面圧痕が連続して施される。

85~117は破片資料。端面、内外面および底面に異種原体による羽状縄文を施す。羽状縄文は、外側が横位、内面が縦位のものが多い。85~92は口縁部に肥厚帯が設けられている。口縁部に横状の貼付帯1条が巡るもの（85・87・88・91）と口唇直下に粘土紐を貼り付けるもの（86・89・90）がある。前者は貼付帯の断面が角形や台形で、厚みがあり隆々としている。これに対して、後者は断面が三角形もしくは扁平で、口唇と一体化している。91は横状の貼付帯の上下に縄側面圧痕。92は貼付帯より上位の口縁部を欠損しており、形状が不明である。93~99は縄文のみが施されている。端面は水平だが、押しつぶされたように肥厚するもの（93~96・98）が見られる。99は胴部。100~109は口縁部に縄側面圧痕が横走する。縄側面圧痕が1条のみのもの（101・102）、2条のもの（103~109）がある。107・110はさらに縦位の短縄線を上書きしている。111~117は底部。底縁が外側へ張り出す器形のものが多い（111~114・117）。111は底内面にも縄文が施される。胎土は繊維・砂礫が多く混入する。

II群b-2類：大麻V式に相当するもの（2・118~167）

2は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部は平縁。口唇断面は角形。端面～器外面にRLとLRの斜走縄文を交互に施し、不整な羽状縄文を形成する。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。

118~167は破片資料。植苗式と同様に端面や内外面に異種原体による羽状縄文を施す。植苗式が節の粗い縄文を強めに施すのに対して、大麻V式はやや筋の細かい縄文を浅く施すという違いがある。また、内面の施文は、植苗式が口縁部から底部にまで及ぶのに対して、大麻V式は口縁部付近に偏る傾向が見られる。118~134は縄文のみが施されている。端面が外傾するもの（118~124・132）、水平なもの（125・126・128・129・134）、丸みを帯びるもの（127・130・131・133）がある。端面が外傾するものは、口唇断面が肥厚するものが多い（118~122・124）。125は平底。135~165は口縁部に縄側面圧痕が横走する。端面が丸みを帯び、縄文が施されないものが多い（135~138・145・146）。縄側面圧痕1条のみのものが大半だが、2条以上が並走するもの（151・153~155・160）、弧状や縦位の短縄線が上書きされるもの（159・164・165）もある。156~158・160~163は端面に縄側面圧痕が横走する。2条以上が施されるものは、口唇断面が肥厚する例が多い（156・157・161~163）。161~163は端面が外傾する。166・167は底部。166は凹底。167は平底。胎土は繊維・砂礫が混入する。

II群b-3類：円筒土器下層d式に相当するもの（168～193）

168～193は破片資料。主に単軸絡条体の回転文（撲糸文）が施される。168～186は口縁部。168は口唇直下に絡条体圧痕。171～175・185は内面にも撲糸文。内外面で回転方向を変えて施文されるものが多い。173・174は外傾する端面に撲糸文が施され、口唇直下に幅の狭い無文帯。175は口縁部文様帶下に繩端が圧痕される。186は波状口縁の波頂部。168～175・186は胎土や器面調整、内面への施文などの特徴が大麻V式と非常によく類似している。これらは円筒土器下層式の施文方法を取り入れた在地の土器（大麻V式の一部）の可能性がある。176～185は口縁部がやや外反し、端面が丸みを帯びるもの。撲糸文が横走る。176は端面にも施文される。177は扁平な横位貼付帯が取り付けられ、貼付帯の外面にも撲糸文。178・182・185は端面が繩の側面により斜めに刻まれる。178は補修孔1か所が確認される。179は横位貼付帯の下に結節回転文（綾繩文）。口唇を欠く。176～185は内面の施文が見られず、よく磨かれている。187～193は胴～底部。187は細い原体による結節回転文と単軸絡条体が多段に施される。188は内面および底面にも施文される。190は直前段合撲、191・192は結節回転文。187・189・193は底縁の形状から平底と推測される。

縄文時代中期前半の土器（図IV-3-24／表8-4／図版57・58）

III群a類：円筒土器上層b式に相当するもの（194～207）

194～198・200・202・204は口縁部が外反する器形で、端面が外傾する。194は端面に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付ける。貼付帯はR L繩の側面により縦位に刻まれる。口縁部には横位の馬蹄形圧痕文と3条1組のR L繩側面圧痕が多段に施される。胴部は結束第1種羽状繩文。底部は平底。195は端面に眼鏡状の貼付帯。貼付帯はL R繩の側面により縦位に刻まれる。貼付帯の内部は無文。口縁～胴部は結束第1種羽状繩文。196は山形突起部分。端面および口縁部に粘土紐を山形あるいは波状に貼り付け、内部を繩側面圧痕や馬蹄形圧痕文で充填する。貼付帯には回転繩文。197は山形突起の端面および口縁部に波状・横位の繩側面圧痕と馬蹄形圧痕文。胴部は結束第1種羽状繩文。底部は平底。196・197の繩側面圧痕は3条1組の撲りの異なる原体による。198は山形突起部分で、端面に弧状の粘土紐。199は口縁部にボタン状突起が貼り付けられ、その上部が半截竹管状施文具により刻まれる。200・202は端面がL R繩の側面により縦位に刻まれる。外面は結束第1種羽状繩文。201は口縁部片で口唇を欠く。粘土紐を波状に貼り付け、内部を4条1組の繩側面圧痕や刺突列で充填する。203・204は深鉢の口縁～底部。外面は結束第1種羽状繩文。底部は平底で、底縁が張り出す。203は山形突起の頂部が指頭により圧痕される。205は口縁部に山形突起と肥厚帯が貼り付けられ、端面にも回転繩文。206は胴部片で、結束第2種羽状繩文。207は底部の地文が横ナデにより消されている。

縄文時代中期後半の土器（図IV-3-1・25～27／表8-1・5／図版42・58～60）

III群b-1類：天神山式に相当するもの（208～223）

208～223は口縁部の山形突起部分。208は口縁部に沿って粘土紐を貼り付けて、肥厚帯を作出している。山形突起下にも瘤状突起を貼り付ける。端面は外傾し、山形突起部分の口唇断面は三角形を呈する。山形突起および端面にはヘラ状施文具の先端による刺突列が多段に巡る。口唇直下にも扁平な粘土紐が貼り付けられ、半截竹管状施文具による横向きの刺突列が施される。瘤状突起の周縁にも同様の刺突列。器外面には、やや筋の粗いL R斜走繩文。212は山形突起の外面および肥厚帯の端面に円環状の粘土紐が貼り付けられる。粘土紐の周縁と肥厚帯の端面には半截竹管状施文具の先端による刺突列が多段に巡る。213は山形突起の側縁（端面）に半截竹管状施文具の先端による刺突列。外面

が剥落する。214・216は山形突起下にやや大きめの瘤状突起が貼り付けられる。214は瘤状突起の外面に竹管状施文具の先端による刺突、端面と口縁部に横向きの刺突列が巡る。216は突起部の外面と端面～口唇直下に半截竹管状施文具の先端による刺突列。215は山形突起下に円環状、瘤状、斜走する貼付帶。貼付帶上は半截竹管状施文具とヘラ状施文具の先端による刺突列。口縁部に横走沈線2条。地文は214がRL、215・216がLRの斜走繩文。217は山形突起2か所が残存する口縁部。端面～器外面にLR斜走繩文。218～223は口縁部で、端面に刺突列。焼成は良好ではなく、器面が剥落するものが多い。胎土は砂礫・纖維が少量混入する。

Ⅲ群b-2類：柏木川式に相当するもの（224～236）

224～236は破片資料。いずれも器外面に粘土紐を縦横あるいは斜位に貼り付け、刺突列を施す。224～231は口縁部。224は口縁部が外反し、胴部がやや膨らむ器形。口縁部は平縁で、端面が外傾する。口縁部に縦位の貼付帶が垂下し、竹管状施文具の先端による円形の刺突列が多段に巡る。器外面にLR斜走繩文。225・226・229・230は横位、227は縦位、228は斜位の貼付帶。225は繩端圧痕、226・227・229は半截竹管状施文具による横向きの刺突、228は指頭圧痕、230は半截竹管状施文具による押し引きと指頭圧痕が施される。231は山形突起に沿った波状、そして頂部から垂下する縦位の貼付帶。貼付帶上に指頭圧痕。器外面と口縁部内面にLR斜走繩文。232～236は胴部。232は縦位、233・236は横位、234・235は斜位の貼付帶。232は繩端圧痕、233・234は指頭圧痕、235・236は半截竹管状施文具の先端による刺突列。232は地文に結節回転文が横走する。焼成は良好で、胎土は砂礫に富む。

Ⅲ群b-3類：北筒式に相当するもの（3・237～263）

3は胴下～底部が復元された深鉢。底部は平底で、底縁が張り出す器形。器外面はRL斜走繩文が施され、結節回転文（綾繩文）が不整に巡る。

237～263は破片資料。237～253・255は口縁部に円形刺突孔が巡るもの。円形刺突孔は棒状施文具の先端を横あるいは斜め下より突いたもので、貫通はしない。240・246・247・249・253・255は内面が刺突により盛り上がっている。口縁部が肥厚し、端面が外傾するものが多い。端面や口唇直下の肥厚帯・貼付帶には、半截竹管状施文具による横向きの連続刺突列（押し引き文）が多段に施される。237は口縁部肥厚帯から垂下する縦位の貼付帶。249は口唇直下と肥厚帯下に円形刺突列が各1列巡っている。250は横位の低い粘土紐の上にボタン状突起を貼り付け、その上下にやや間隔の空いた刺突列。251は端面と内外面の口唇直下に押し引き列。また、口縁部には2条の押し引き列が交差し、交点の上下にも円形刺突孔。253は円形刺突孔のみで、押し引き列が施されない。254は端面と口唇直下に押し引き列が施されるが、円形刺突孔は見られない。256～258・260～263は胴部。256・262は円形刺突孔の一部が確認されるので、口縁部に近い部分と考えられる。257は縦位、258は横位の押し引き文。260はヘラ状施文具、261は半截竹管状施文具、263は繩端による刺突列。いずれも器外面には結束第1種または第2種の羽状繩文・斜走繩文が施される。237・239・240・249・250・252・253・255は内面にも施文される。焼成は良好。胎土は砂礫を多く含む。

繩文時代後期前葉の土器（図IV-3-1・28/表8-1・6/図版42・61）

IV群a-2類：タブコブ式に相当するもの（4・264～277）

4は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部は平縁で、端面はやや外傾。端面と器外面に疎らなLR斜走繩文。口縁部には竹管状施文具による縦位の刺突列が巡る。胎土は砂礫が多量に混入する。

264～277は破片資料。264は口唇直下に瘤状の貼付帶を1条取り付けている。端面と器外面にLR斜走繩文。口縁部には2個1対の繩端が強く圧痕されており、内面が膨らむ。265は口縁部に指頭に

より縦位の圧痕列。266は瘤状突起が貼り付けられ、その上からL R斜走縄文。267は口唇直下に幅広の肥厚帯を取り付け、地文と回転方向を違えて施文する。底部は平底で、底外面にも縄文。底内面は指頭による調整痕。270は口縁部に地文がナデ消された無文帯があり、貼付帯が剥落した可能性がある。271～273は端面および内外面に縄文が施される。274～276は胴部。274・276は羽状縄文。274は内面にも施文される。277は平底の底部で、底外面にも縄文。器面の縄文は、ナデにより不鮮明なものが多い。焼成は良好ではなく、器面の剥落が著しい。

縄文時代後期中葉の土器（図IV-3-2~8・29~38/表8-1・7/図版42~48・61~72）

IV群b-1類：ウサクマイC式に相当するもの（5・6・278~341）

5は深鉢。口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。口縁部は緩い波状を呈する。口唇断面は角形で、端面は外傾。底部は平底。端面～胴中部はR L斜走縄文が施され、胴下～底部は無文。口唇直下には端面に沿って1条の緩い波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。口縁部では15ないし16条を単位とする波状沈線、胴上部では斜位のS字状沈線が連続して描かれる。胴中部は渦巻文が2条1組の沈線により描かれ、内部の地文がやや粗雑に磨り消されている。焼成は良好で、胎土は緻密である。6は注口土器。口頸部は広口で胴部との接合部がやや窄まる。胴部は算盤玉様に張り出し、下膨れの注口部が取り付けられる。底部は平底。器外面は無文で、丁寧に研磨されている。口唇直下に肥厚帯を設け、さらに弧状の粘土紐を縦位に貼り付ける。胴部には、櫛齒状施文具による集合沈線、C字状あるいは弧状沈線、円形刺突孔を組み合わせた文様が描かれる。関東地方の加曾利B1式に相当し、搬入品と考えられる。周辺よりウサクマイC式が多く出土したことから、並行関係にあると推測される。

278～341は破片資料。278～296は数条を単位とする沈線により鋸歯状の文様が描かれるもの。いずれも口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形と推測される。口縁部と胴部の間の括れた部分に2条の横走沈線で区画された無文帯が巡るものが多い（278～282・288・290）。278は小波状を呈する口縁部に沿って、横走沈線2条が巡る。無文帯を挟み、幅広の口縁部に2段、胴部に2段（以上）の文様帯が横走沈線により区画される。7～9条が1組となった沈線により山形あるいは鋸歯状の文様が描かれる。280～283・286～288・290・291・294は端面にも縄文。285は端面外縁が棒状施文具の側面により刻まれる。297～304は数条を単位とする沈線により弧状の文様が描かれるもの。297は口縁部が外反し、胴上部がやや膨らむ器形。端面にも縄文。小波状を呈する口縁部に沿って、横走沈線1条が巡るが、波頂部では円環状となる。胴部は2条1組の沈線で湾曲する文様を描き、内部の地文を磨り消している。305～309・327～329は扁平なZ字状またはクランク状の文様が描かれるもの。310は鋸歯状文の一部がクランク化し、蛇行線文などと組み合わさるもの。311～326・332は数条を単位とする沈線により波状の文様が描かれるもの。311・312は胴部に屈曲文が磨り消しの技法により描かれる。311は胴部の横走沈線より垂下する円弧文。323は上下に組み合わさる巴状文が連続する。小波状を呈する口縁部に沿って沈線が巡るものが多いが、332は平線である。330は口縁部に横走沈線が巡り、無文帯を挟み、胴～底部には2条1組の沈線による波状文と交互に対向する弧状文が磨り消しの技法により描かれる。331は口縁部に交差する波状沈線が巡り、胴部には2条1組の沈線によりX字状文が描き、内部を粗雑に磨り消している。333～341は胴部で、屈曲文・渦巻文・矢印文などが磨り消しの技法により描かれる。330・339の底部は無文。

IV群b-2類：手縞式に相当するもの（7～31・342～403）

7～31は復元個体。7は口縁～底部。口縁部は波状で、山形突起4か所。口唇断面はやや肥厚し、

端面は丸みを帯びる。底部は平底。口縁～胴中部にLR斜走縄文を施す。口縁に沿って、6条を単位とする波状沈線が巡る。口縁部と胴部の間の括れた部分、胴下部には2条の横走沈線で区画された無文帯が巡る。胴中部には、波状あるいは屈曲沈線により文様が描かれ、地文の一部が粗雑に磨り消される。8は口縁～胴上部。口縁部は平縁で、やや外反する。器外面にLR斜走縄文。口縁部と胴部は横走沈線間に扁平なクランク状沈線が連続して施される。9は口縁～胴下部。器外面にLR斜走縄文。口縁部は平縁で、端面は水平。口縁部に1条の横走沈線が巡り、それより上位の口唇直下は地文が磨り消され、無文帯としている。10は口縁～底部。波状口縁で、波頂部の口唇断面はやや肥厚する。底部は平底。器外面にLR斜走縄文を施すが、口縁部の横走沈線より上位と胴下～底部は無文。11は口縁～底部。波状口縁で、山形突起3か所。底部は平底。胴部上半にのみLR斜走縄文を施す。胴上部には横走沈線8条が巡り、竹管状文具による刺突列が縦位に上書きされる。12は口縁～胴中部。波状口縁で、波頂部の口唇断面はやや肥厚する。器外面にRL斜走縄文を施すが、2条1組の沈線で描かれた、胴部の横走帯とS字状文の内部以外は磨り消されている。13は口縁～胴上部。波状口縁。胴上部にのみLR斜走縄文を施し、横走沈線8条に3ないし4条1組の縦位沈線が上書きされる。14・15は胴中～底部。いずれも器外面にLR斜走縄文が施されるが、底部は無文。数条の横走沈線に、14は弧状の短沈線、15は縦位沈線が上書きされる。16は口縁～底部。口縁部は平縁。胴部上半にのみRL斜走縄文。上下の横走沈線が弧状の短沈線で交互に連続している。17は台付浅鉢で、高台部を欠く。波状口縁。胴部にRL斜走縄文を施し、横走沈線6条に4条1組の縦位沈線が上書きされる。18は口縁～胴上部。口縁部にギタン状突起が貼付される。横走沈線より上位は無文。器形から注口土器の口頭部の可能性もある。19は台付浅鉢で、底部～高台部を欠く。口縁部は波状で、横走沈線より上位は無文。胴部はRL斜走縄文。2条1組の沈線により回旋する弧状文が描かれ、内部がやや粗雑に磨り消される。20～24は縦文のみが施された深鉢。いずれも平縁で25のみ波状。22は口縁～胴部が外反、23・24は口縁部と胴部の間が括れる器形。26・27は小型の深鉢。26は器外面にLR斜走縄文で、口縁部のみ無文。27はRL斜走縄文で、口縁部を欠く。28は胴下～底部。疎らなRL横走縄文で、底部は無文。29は無文の鉢。横ナデ調整されるが、器面の剥落が著しい。30・31は無文の底部。

342～403は口縁～底部の破片資料。口唇断面は角形で、端面は平坦またはやや丸みを帯びる。342～373は口縁部と胴部に数条の横走沈線が巡るもの。縦位の短弧線またはS字状線が上書きされて、上下の横走沈線が交互に連続されるものが多い(342～348・350～357・359～361・363～367・371)。口縁部に山形突起を有するものは、突起下に縦位の区画文が施される(342～344・352・360・361・364～367)。349・358・362は横走沈線のみが残存するもので、短弧線は確認されていない。368・369は縦位の刺突列、370・372は縦位沈線が上書きされる。口縁～胴部が残存し、器形が推測できるものでは、口縁部と胴部の間が「く」の字状に曲がり、その部分から口縁部が垂直ぎみに立ち上がるものの(342)、胴部から口縁部にかけて直線的に開くもの(353・360)、口縁部が内傾するもの(355・358・364)、下半部が細く、胴上部から口縁部にかけて緩やかに外反する、いわゆる朝顔形のもの(366)がある。器外面にLR斜走縄文を施すものが大半である。口唇直下は、横走沈線で区画された内部の地文がナデ消されて無文帯になっている。344はナデ消しが粗雑で、地文の一部が残る。342は口縁部と胴部の間の括れ部分にも幅広の無文帯。360・366は胴下部が無文。367は山形突起の頂部に指頭圧痕。374～376は磨り消しの技法により文様が描かれる。377～379は胴部で、無文地に沈線で同心円文や弧線文。378・379は器形から注口土器と考えられる。380～389は横走沈線1条より上位の口唇直下が無文で、口縁部に文様帯が見られないもの。380は括れ部分にも横走沈線1条が巡り、口縁部が幅広の無文帯となっている。390は口縁部に横走沈線2条で区画された無文帯。391は矢羽状、392・395は

鋸歯状、393は波状、394はZ字状、396はクランク状の文様が沈線により胴部に描かれる。397はミニチュアの浅鉢で、無文。398～402は斜走繩文のみが施された口縁部。

IV群 b - 3類：鍼潤式に相当するもの（32・33・403～420）

32は口縁～胴下部が復元された深鉢。平縁で、胴部が膨らむ器形。器外面にR L 斜走繩文。2条1組の横走沈線に挟まれた竹管状施文具による刻み列が施される。この刻み列により口縁部と胴部の文様帯が区画される。口縁部と胴部下半は斜位の格子状沈線が上書きされ、胴部上半は地文が磨り消された幅広の無文帯。33は注口土器の口頸部。無文で、口縁部に横走沈線、胴部との接合部分に刻み列。

403～420は破片資料。403・404は刻み列が見られないもの。いずれも器外面にL R + R L 羽状繩文が施される。口唇断面が肥厚し、端面は内傾する。403は口縁部と胴部の間に幅広の無文帯。404は端面外縁が棒状施文具の側面で刻まれ、口縁下部に横走沈線1条が確認される。405は口縁部が外反し、胴部が膨らむ器形。器外面にL R + R L 羽状繩文。口縁部と胴部の間の括れ部分には、横走沈線3条で区画された内部にヘラ状施文具の先端による刻み列が2段巡る。胴部には磨り消しの技法による文様が描かれる。406～420は口縁部あるいは胴部に1～3段の刻み列が巡るもの。406～409は刻み列の直下に繩文が残る。410～415は口縁部に刻み列で区画された幅広の無文帯をもつ。415は口唇直下に刻み列が見られない。416は山形突起の外側に、刻み列が施された円環状の貼付帯が取り付けられる。419は胴～底部に二重の刻み列が3段巡る。底部は無文で、平底。

IV群 b - 4類：エリモB式に相当するもの（34・421～424）

34は口縁～胴上部。口縁部は平縁で、端面は内傾。器外面にR L とL R の斜走繩文を交互に施す。口唇直下に竹管状施文具による刺突列と円形刺突文が巡る。口縁部は、縦位・横位の沈線により区画した内部の地文を磨り消し、無文帯としている。

421～424は口縁～胴部の破片資料。刻み列と突瘤文（421～423）・円形刺突文（424）が併用される。423は4～8条を単位とする沈線により鋸歯状の文様が描かれる。

注口部（425～433）

IV群 b類またはIV群 c類の注口土器の口頸部・注口部を一括した。全体の器形・文様が不明であることから、細分できなかった。425は口頸部。器外面は横ナデに調整されており、無文。口縁部に山形突起1か所が確認される。胴部との接合部分に横走沈線2条。426～433は注口部。形状は、上向きに反り返るもの（426）、下向きに反り返るもの（428）、直線的に突き出すもの（427・429・431）がある。430・432・433は先端を欠失している。いずれも無文であるが、431は胴部との接合部分にR L 斜走繩文が施される。428～430・432・433は接合下部に瘤状突起を有する。426・427は先端部に細沈線1条が巡る。

底部（434～453）

434～453は底部。いずれも平底で、無文。434・437はミニチュア土器の底部。434は底側面に段が見られる。底縁から直線的に立ち上がるもの（435～441）とやや外側へ開いて立ち上がるもの（442～453）がある。438は底縁がやや張り出している。451は横走沈線1条が確認される。器外面はナデ調整されているが、器内面は指頭による凹凸が残る。

繩文時代後期後葉の土器（図IV-3-9～15・39～45／表8-1・8／図版48～52・72～77）

IV群 c - 1類：堂林式に相当するもの（35～56・454～530・535）

35～56は復元個体。35・36は繩文のみが施されたもの。いずれも口縁部は平縁で、端面は内傾。35は平底、36は丸底ぎみである。器外面に35はR L + L R 羽状繩文、36はL R 斜走繩文を施す。37～42は口縁部に1条のIO突瘤列が巡るもの。いずれも口縁部は平縁であるが、41は小さな山形突起が貼

り付けられる。端面は水平～内傾。37・41は平底。器外面に37・41はLR斜走縄文、40・42はRL斜走縄文、38・39はRL+LR羽状縄文を施す。43～46は縄文地に横走沈線が巡るもの。43は口縁部に小さな山形突起が貼り付けられ、端面は内傾。口縁部に横走沈線6条が巡るが、口唇直下の1条は全周しない。44は平縁で、口唇断面が肥厚する。端面は内傾。底部は凹底。口縁部に5ないし6条、胴部に3条の不整な横走沈線が巡る。沈線は、段違いで連結しないもの、波状ぎみで重複するものが見られる。45は胴部が括れる器形で、丸底。口縁部に山形突起が設けられ、端面は内傾。口縁部と胴部にそれぞれ6条の横走沈線が巡る。胴部の括れ部分と底部は、横走沈線で区画した内部の地文を横ナデで磨り消し、無文帯としている。46は波状口縁で、端面は内傾。口縁部に沿って3条の波状沈線、胴部にも横走沈線（現存2条）が巡る。器外面に43・44はRL+LR羽状縄文、45・46はLR斜走縄文を施す。47～52は横走沈線とIO突瘤列が組み合わさるもの。47は平縁で、端面は内傾。底部は平底。口縁部に横走沈線2条が巡り、その下部にIO突瘤列。48は平縁で、端面は内傾。口縁部に横走沈線3条が巡り、その2～3条間にIO突瘤列。49は波状口縁で、端面は内傾。波頂部の口唇断面が肥厚する。口縁部に沿って4条の波状沈線が巡り、その1～2条間にIO突瘤列。50～52は胴部にも文様帶をもつもので、いずれも口縁部に小さな山形突起が設けられる。50は突起の頂部がヘラ状施文具により横位に刻まれる。端面は内傾。口縁部に横走沈線3条が巡り、その2～3条間にIO突瘤列。胴上部には鋸歯状あるいは波状沈線により渦巻文が描かれる。胴中部にも横走沈線3条が巡る。51は小型の深鉢。端面は内傾。口縁～胴下部に横走沈線（現存13条）が巡り、口唇直下の1～2条間にIO突瘤列。胴部の横走沈線は縦位の弧線などで区画されている。52は胴部がやや括れる器形。端面は内傾。口縁部に横走沈線4条が巡り、その1～2条間にIO突瘤列。胴上部にはクランク状の連結円弧文が描かれ、外側の地文は磨り消されている。胴中部にも横走沈線7条が巡る。器外面に47・48・51はLR斜走縄文、49・50・52はRL+LR羽状縄文を施す。53・54は、注口土器の胴～底部。器外面には細い原体でRL+LR羽状縄文が施される。注口部は斜め上向きで、先端を欠く。53は注口部の下端および胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられる。胴部には横走沈線が巡り、注口部の周縁も沈線で縁取られる。底部は平底。54は胴部の張り出し部分には瘤状突起が貼り付けられた痕跡が残る。胴部には5条1組の沈線により対向する弧線文が描かれる。口頸部との接合部分と底部には横走沈線。底部は凹底。55は小型の鉢。波状口縁で、端面は内傾。波頂部の口唇断面が肥厚する。器外面にLR斜走縄文を施す。口縁部に沿って3条の波状沈線が巡る。胴部には2条1組の円弧状沈線により、花弁様の文様が描かれる。56は台付浅鉢。無文で、外側面がナデ調整される。

454～530・535は口縁～底部の破片資料。454～461は縄文のみが施されたもの。462～479は口縁部にIO突瘤列が巡るもの。480～491は、沈線のみで文様が描かれるもの。492～522は横走または波状沈線とIO突瘤列が組み合わさるもの。523～530は胴部にも文様帶が見られるもの。535は無文。

IV群c-3類：御殿山式に相当するもの（57・58・531～534・536～540）

57は台付土器の底部。無文。低い高台部分の底縁に刺突列が見られる。58はミニチュアの浅鉢。片面で丸底。沈線と円形刺突列により文様が描かれる。

531～534・536～540は口縁～胴部の破片資料。531～534は器外面に沈線により屈曲・波状・鋸歯状の文様が描かれ、貼瘤と組み合わさるもの。貼瘤は棒状施文具の側面により刻まれる。531は波状口縁でIO突瘤列も施される。536～540は口縁部に爪形文が施されるもの。536・540は、めくれの強い爪形が多段に巡る。540は端面のが内外縁が交互に指頭により圧痕される。

縄文時代晩期中葉の土器（図IV-3-16・45／表8-9／図版52・77）

V群b類：美々3式に相当するもの（59・541～545）

59は口縁～底部が復元された深鉢。口縁部は平縁。底部は凸底。端面は水平で、外縁が棒状施文具の側面、内縁が縦位のRL縄により刻まれる。器外面および底面にLR斜走縄文が施されるが、胴上部に帯状の無施文部分。口縁部は、LR縄側面圧痕5ないし6条が不整に巡る。横走沈線が縄線の一部に上書きされている。2孔1対の補修孔が2か所確認される。内面は横ナデ調整により平滑である。

541～545は破片資料。541は口縁部に横位とそこから垂下する弧状のLR縄側面圧痕。542は口縁部に横位のRL縄側面圧痕が2条残存する。口唇に扁平な突起が設けられており、頂部がヘラ状施文具により押し引かれる。端面は棒状施文具の側面により刻まれる。541・542の地文は磨滅・剥落により不明。543は口唇外縁が肥厚し、縄端により刻まれる。端面は水平で、RL縄側面圧痕1条。器外面はLR斜走縄文。544・545は口唇外縁が棒状施文具の側縁により刻まれる。いずれも器外面はRL斜走縄文。545は平底で、底縁から大きく開いて立ち上がる。

縄文時代晩期後葉の土器（図IV-3-17・45／表8-10／図版52・77）

V群c類：ママチII群・II類に相当するもの（60・61・546～549）

60は口縁～胴中部が復元された深鉢。口縁部に低い山形突起を設けている。突起の頂部はRL縄により縦位に刻まれる。器外面にはRL斜走縄文が疎らに施される。口縁部は横走沈線3条が巡る。61は口縁～胴下部が復元された深鉢。口縁部に内傾する山形突起を貼り付ける。端面は内傾し、外縁が棒状施文具の側面により刻まれる。端面および突起の頂部・外面にRL縄側面圧痕。器外面はRL斜走縄文が施される。口縁部は横走沈線8条が巡り、4～7条を単位とする鋸歯状沈線と縦位沈線が上書きされる。横走沈線下には半截竹管状施文具による刺突列が巡る。

546～549は破片資料。546は口縁部で、横走沈線4条が巡る。547は浅鉢の山形突起部分。端面および突起の頂部に縄側面圧痕。突起下に円形刺孔1か所。548は口縁～胴下部。胴部下半は地文がナデ消されて無文である。549は山形突起が設けられた口縁部。横走沈線8条に3～5条を単位とする縦位あるいは弧状の沈線が上書きされる。地文は546・548・549がRL斜走縄文、547がLR斜走縄文。

（2）土製品

再生土製円盤（図IV-3-46-1～12／表9／図版78）

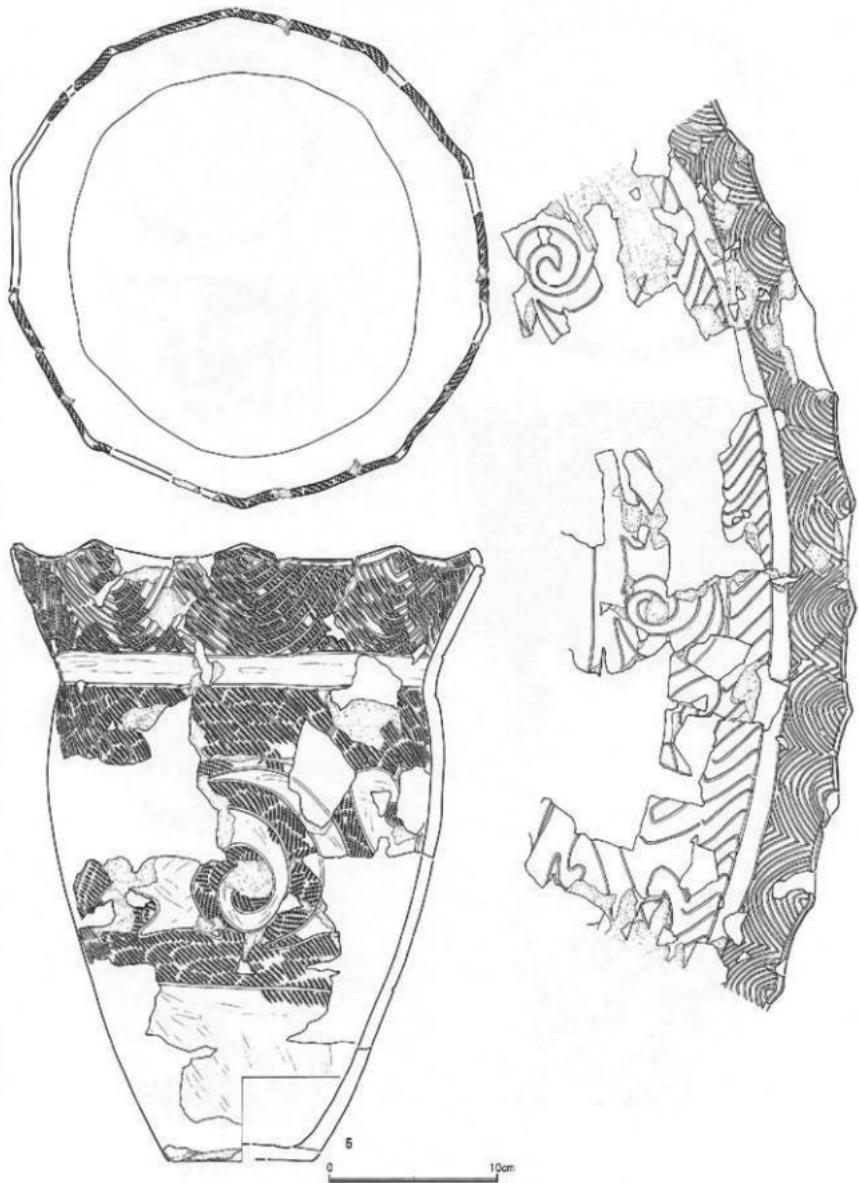
1はII群a類、2・3・6～12はII群b類、4・5はIII群b類の胴部片の周縁を打ち欠いて円盤状にしている。1～3は穿孔されていないもの。2は側縁が擦られている。3は補修孔1か所が確認される。4～12は破片の中央が穿孔されているもの。4は竹管状施文具による横向きの押し引き列、5は格子状の沈線が施される。6は内面に沈線。地文は1がRL横走縄文、2・3・12がRL+LR羽状縄文、4・5・7～9・11がLR斜走縄文、6・10がRL斜走縄文。

盤状粘土塊（図IV-3-46-13～15／表9／図版78）

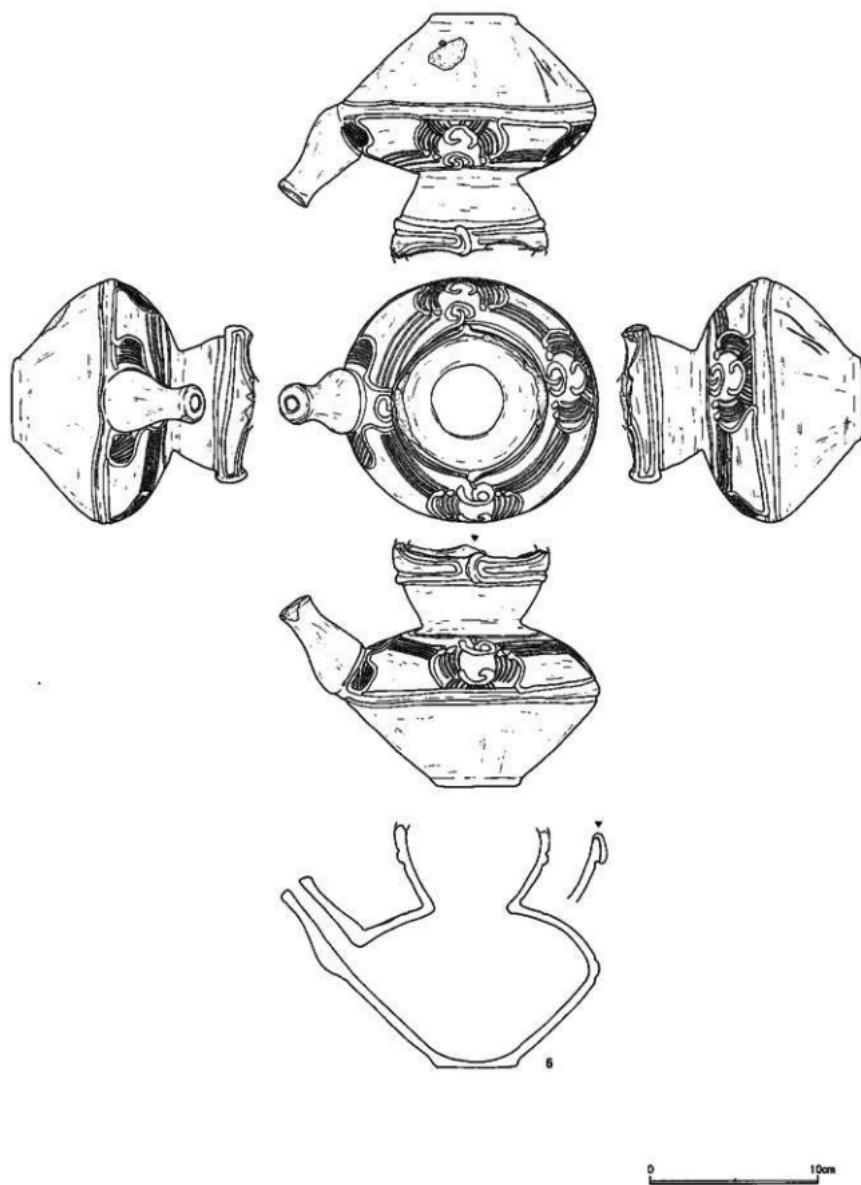
13～15は盤状粘土塊の破片。いずれも外面が黄褐色を呈し、同じ大きさの土器片と比較して軽い。未焼成のまま自然乾燥された可能性がある。厚さはほぼ同じである。胎土は緻密で、細砂礫を少量含む。いわゆる「サツマアゲ状土製品」（北埋調報116）に類似する。破片の形状から、本来は橢円形であったと推測される。13は指で扁平に整形した痕跡が残る。これらの盤状粘土塊、各時期の土器片を試料として胎土分析を行った。（VI章第2節参照）。（芝田）



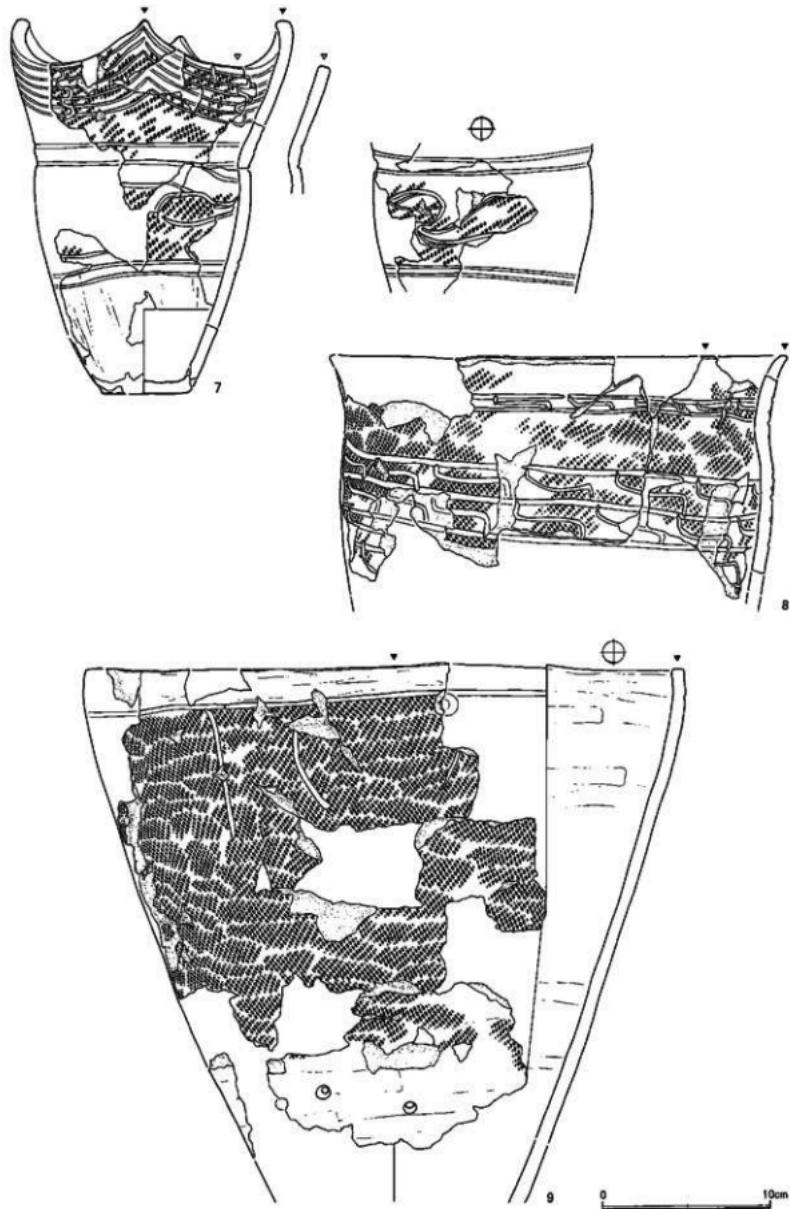
図IV-3-1 包含層の土器（1）



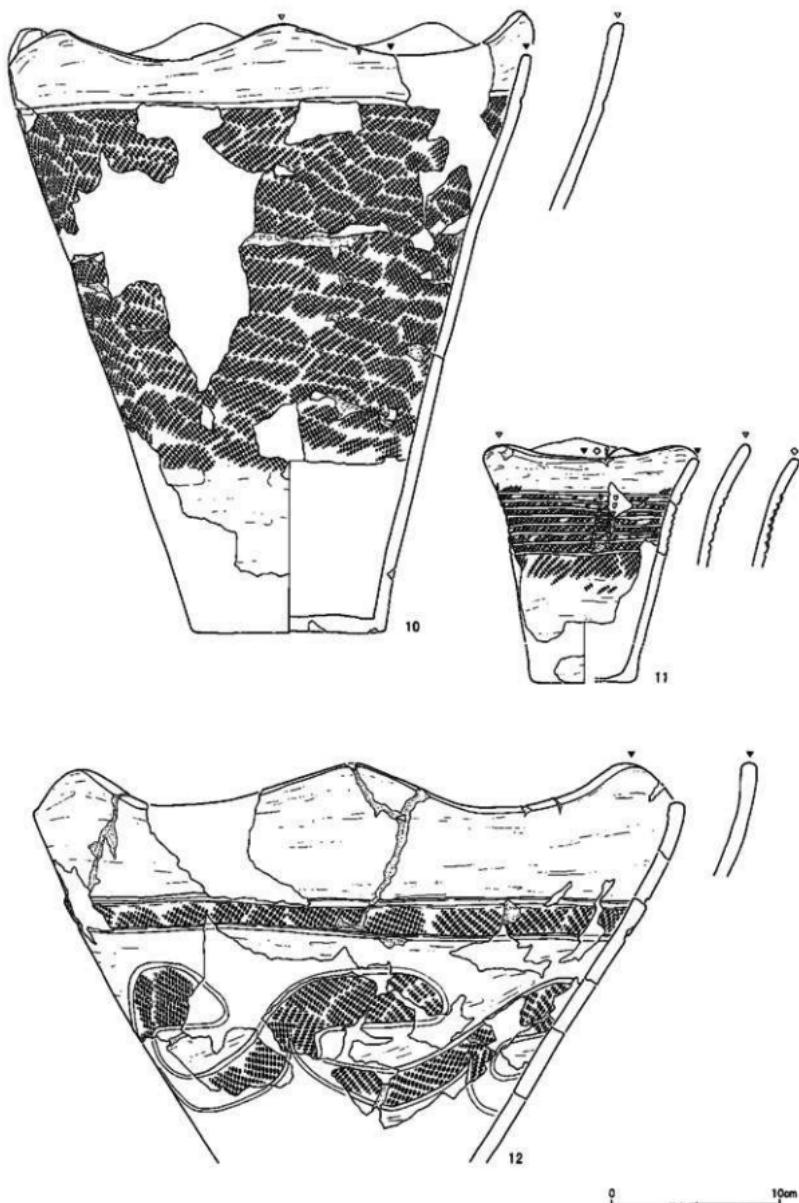
図IV-3-2 包含層の土器（2）



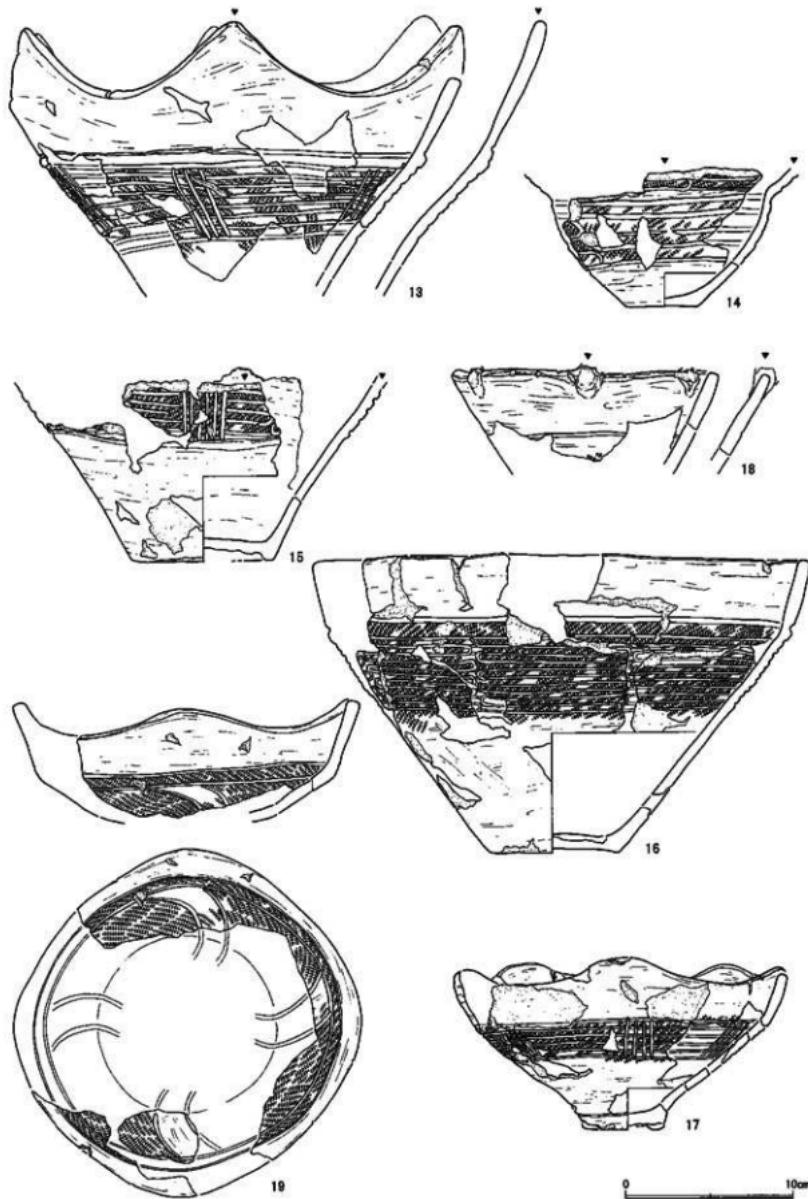
図IV-3-3 包含層の土器（3）



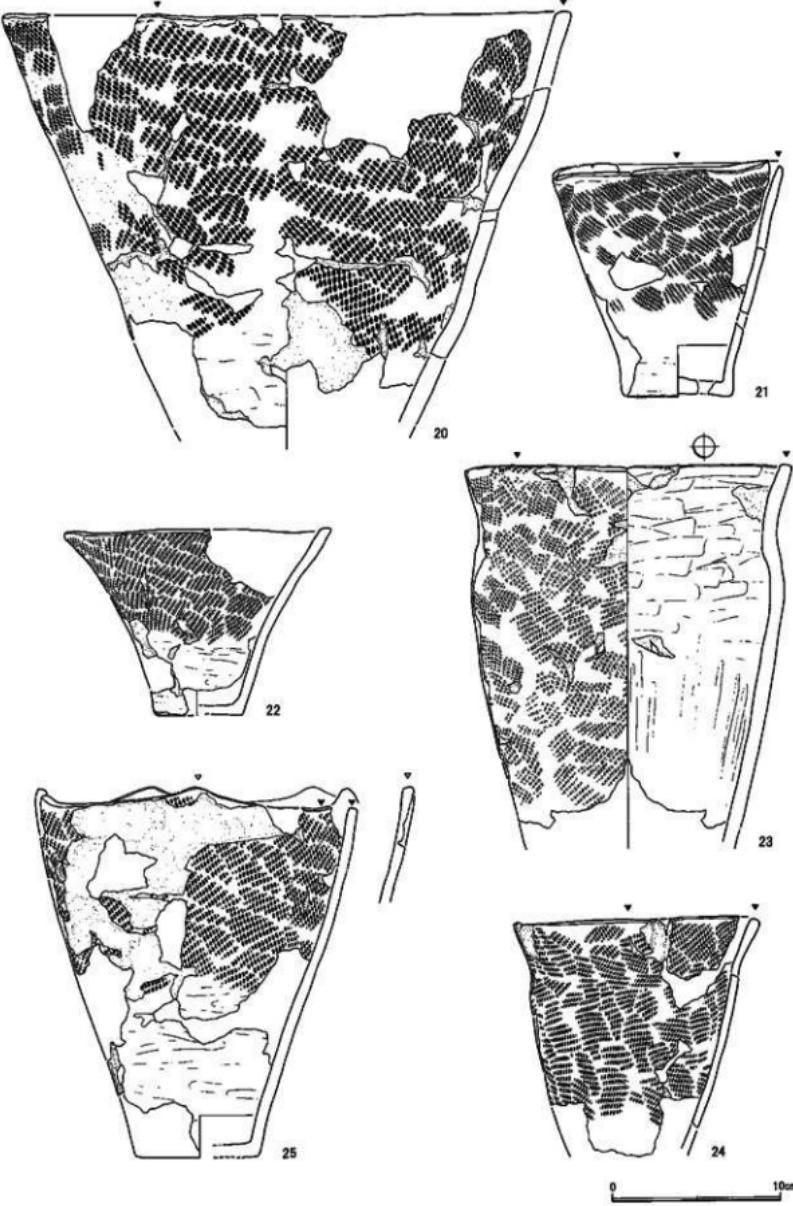
図IV-3-4 包含層の土器 (4)



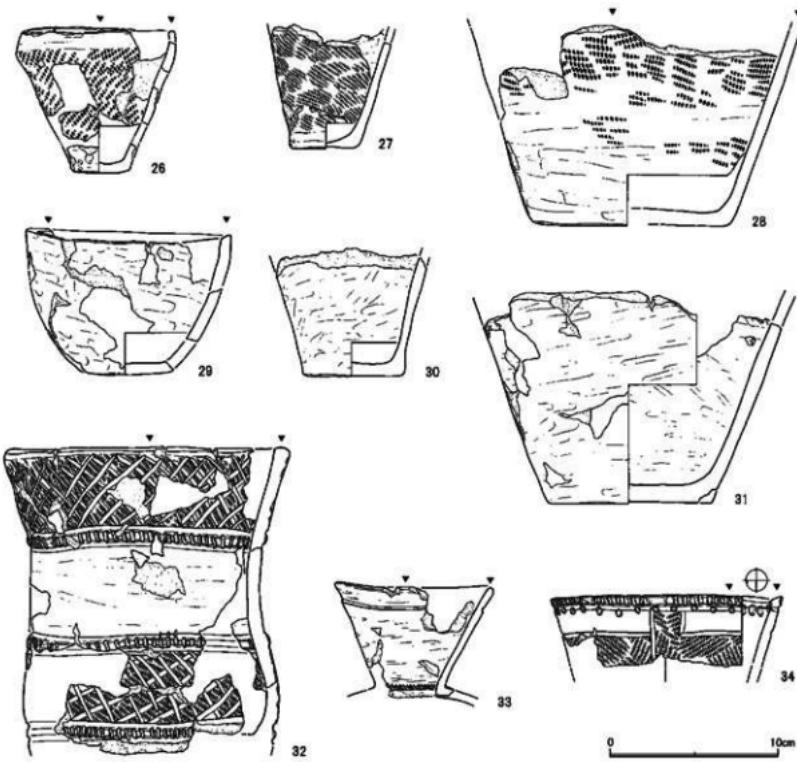
図IV-3-5 包含層の土器（5）



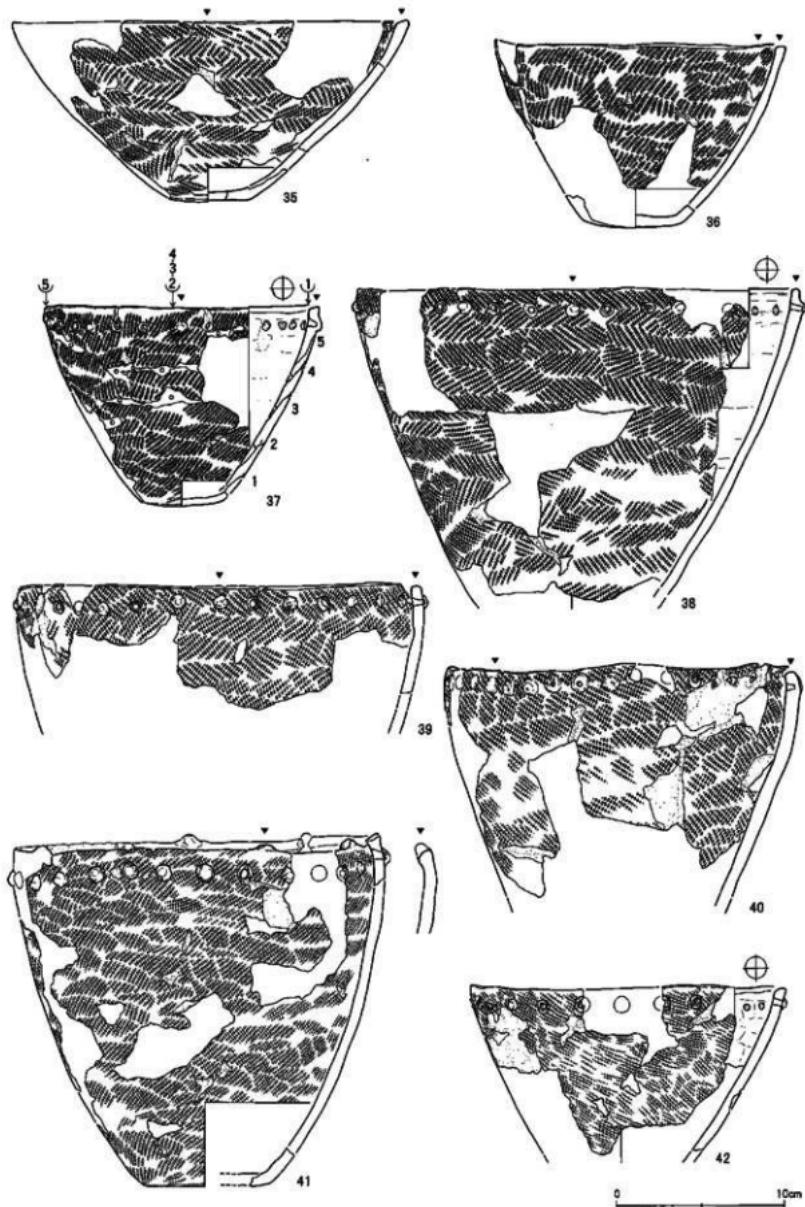
図IV-3-6 包含層の土器 (6)



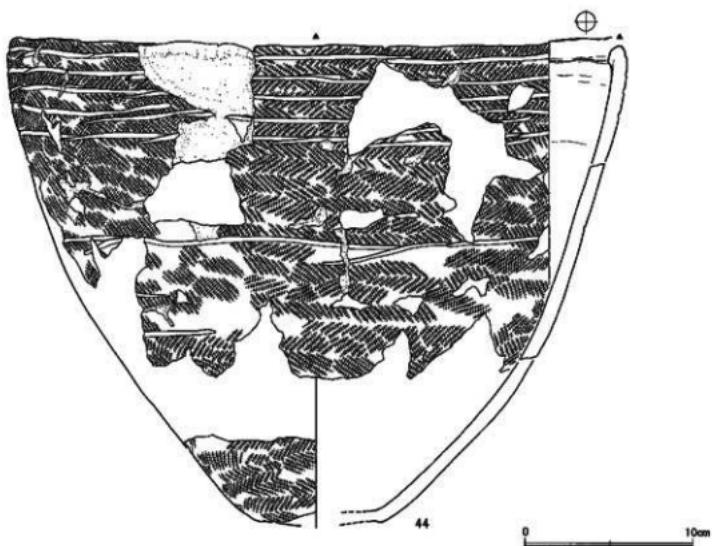
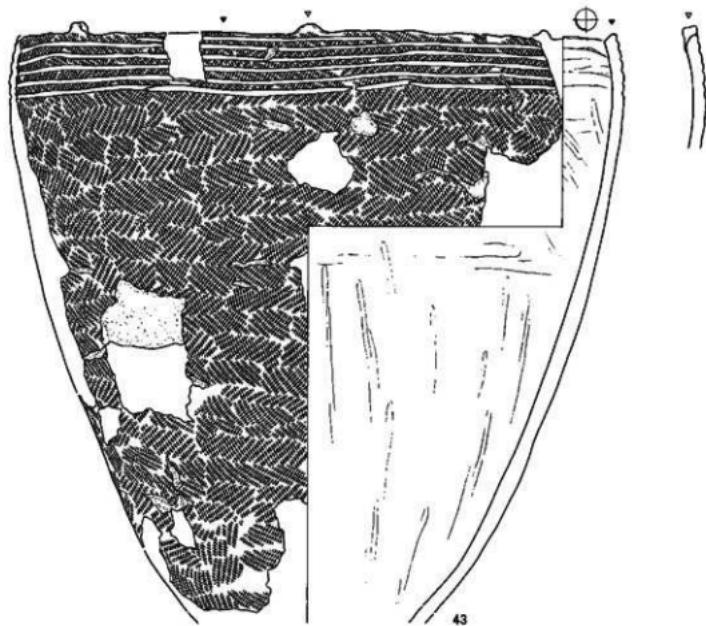
図IV-3-7 包含層の土器（7）



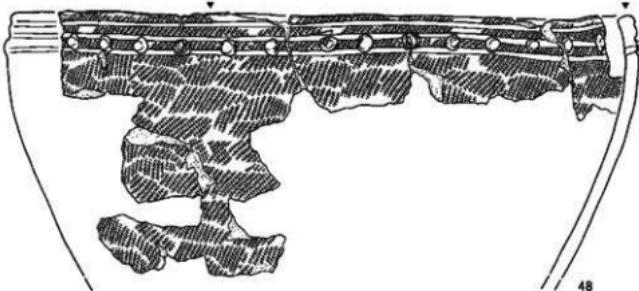
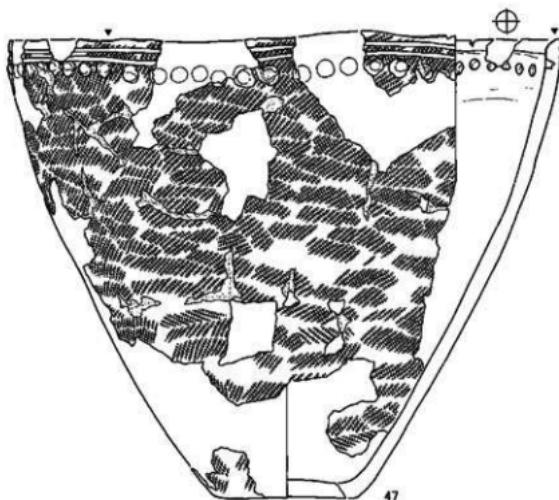
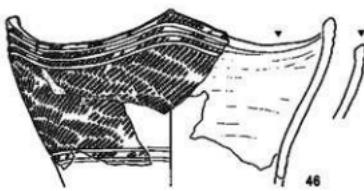
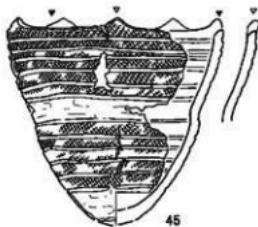
図IV-3-8 包含層の土器(8)



図IV-3-9 包含層の土器 (9)

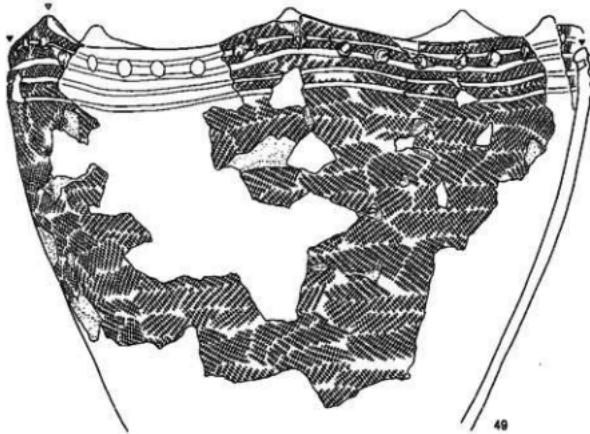


図IV-3-10 包含層の土器 (10)

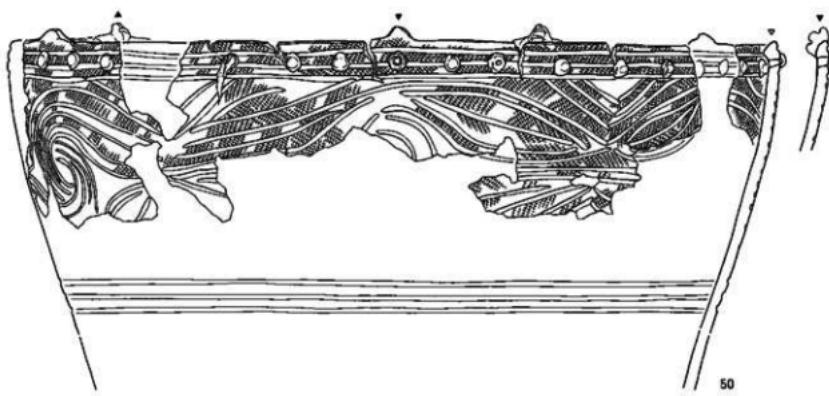


0 10cm

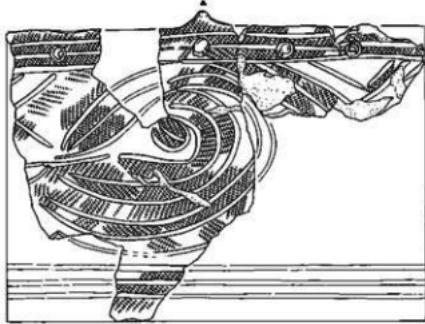
図IV-2-3-11 包含層の土器 (11)



49

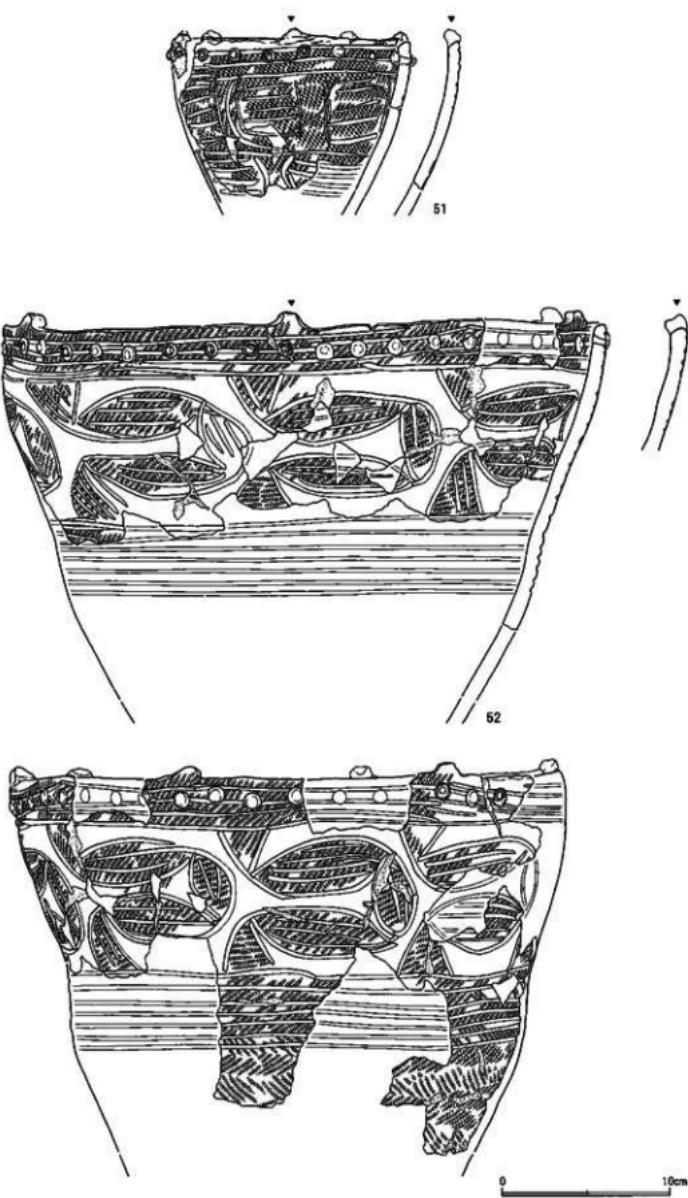


50



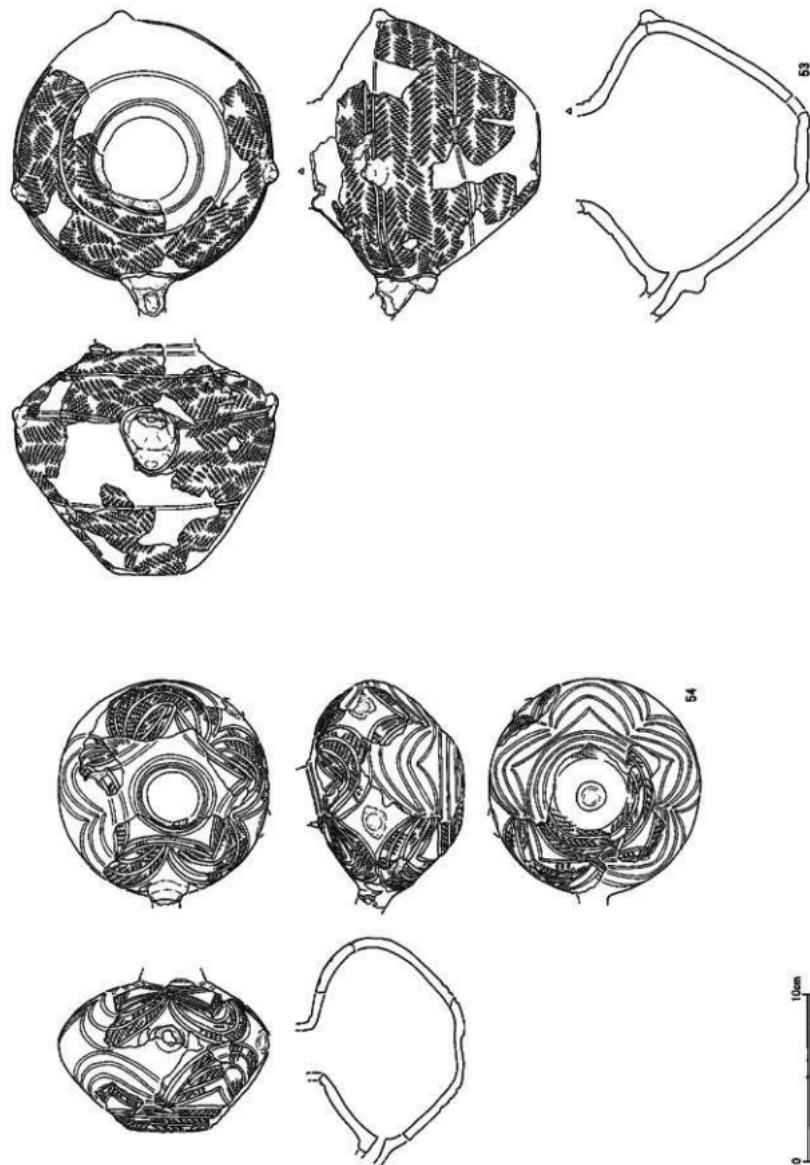
0 10cm

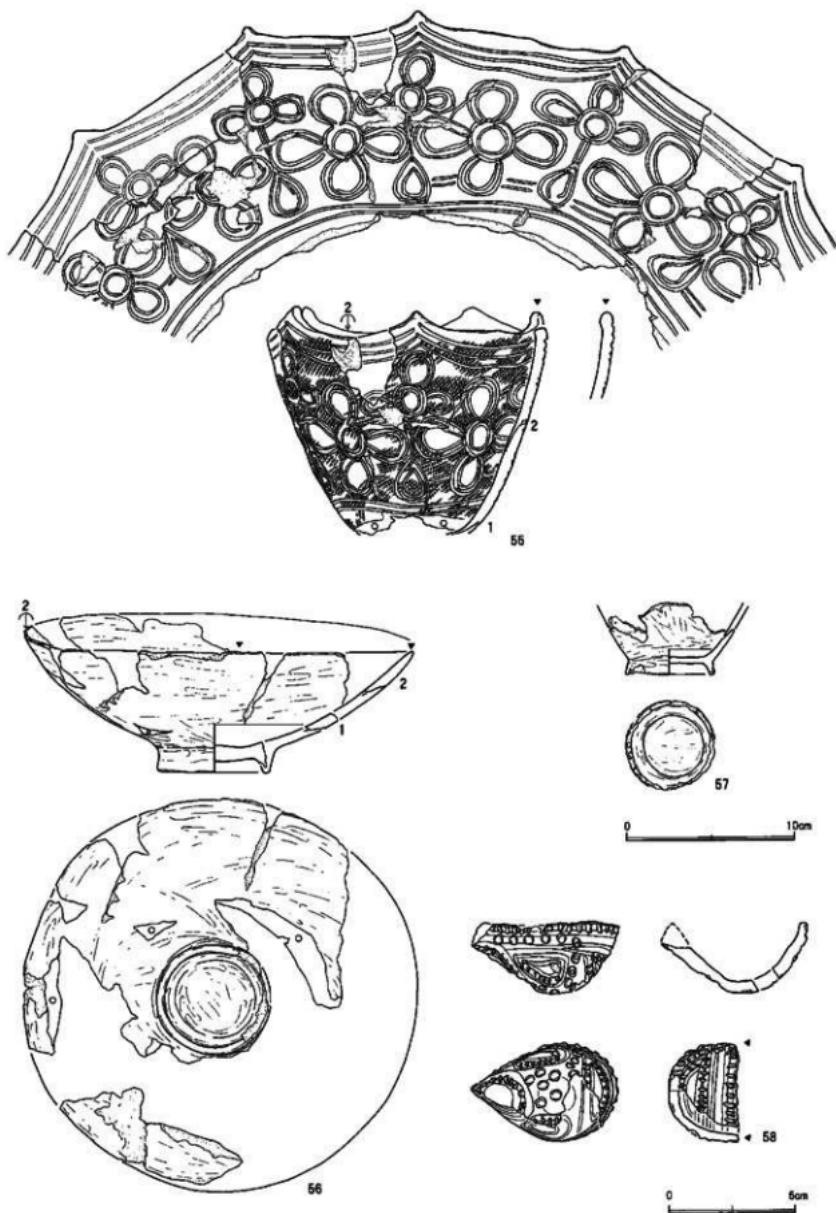
図IV-3-12 包含層の土器 (12)



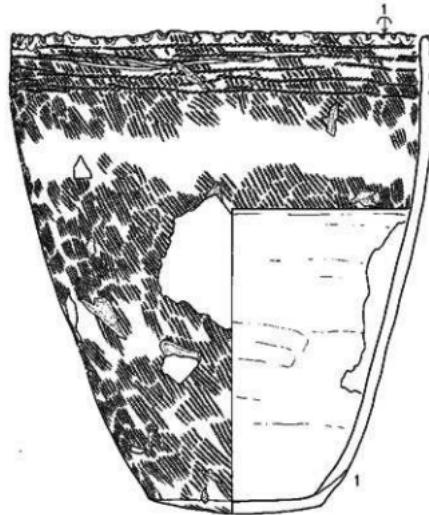
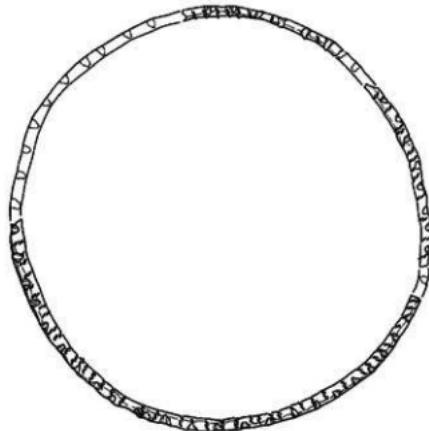
図IV-3-13 包含層の土器 (13)

図IV-3-14 包含層の土器 (14)



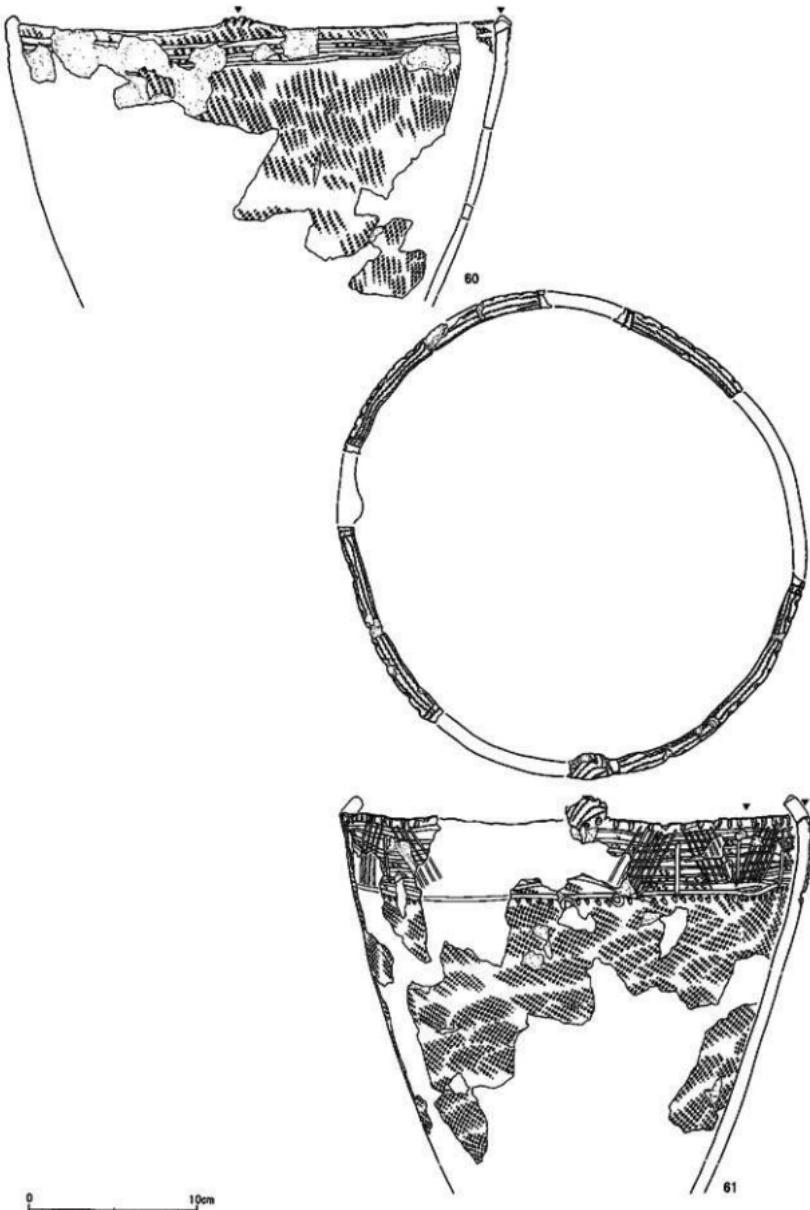


図IV-3-15 包含層の土器 (15)

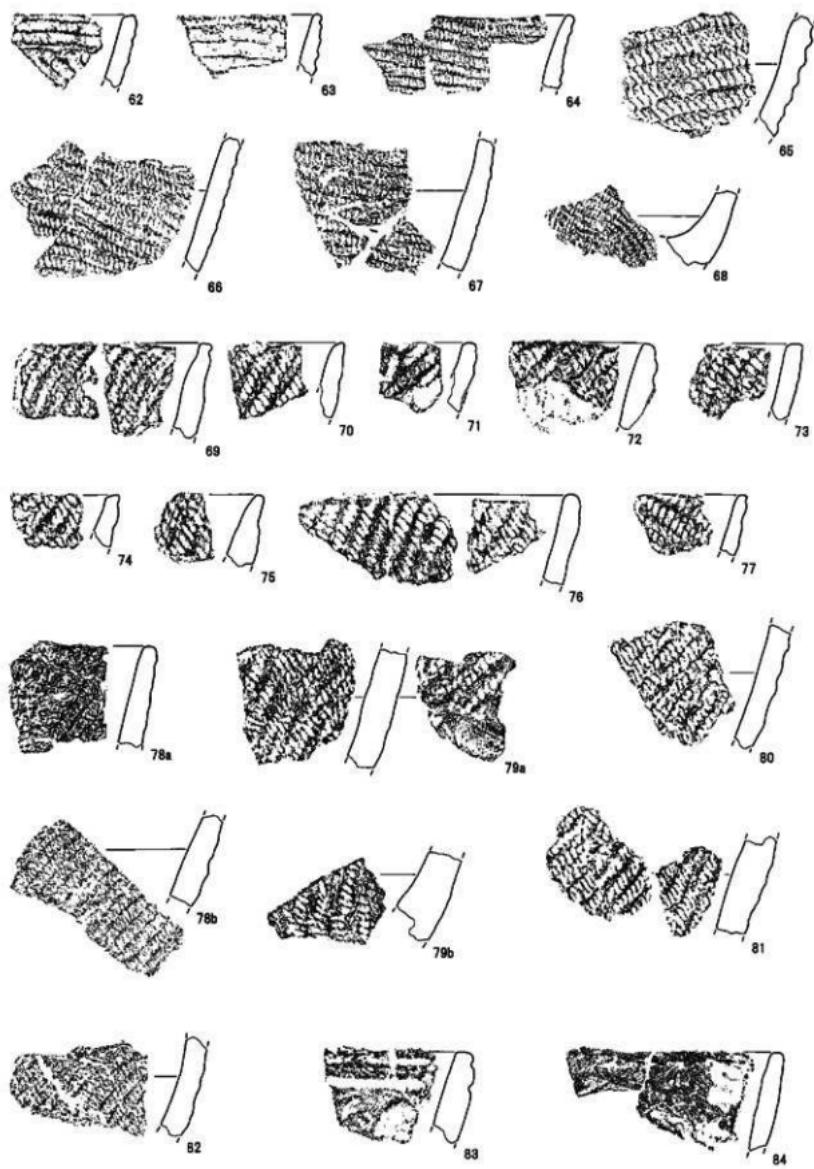


0 10cm

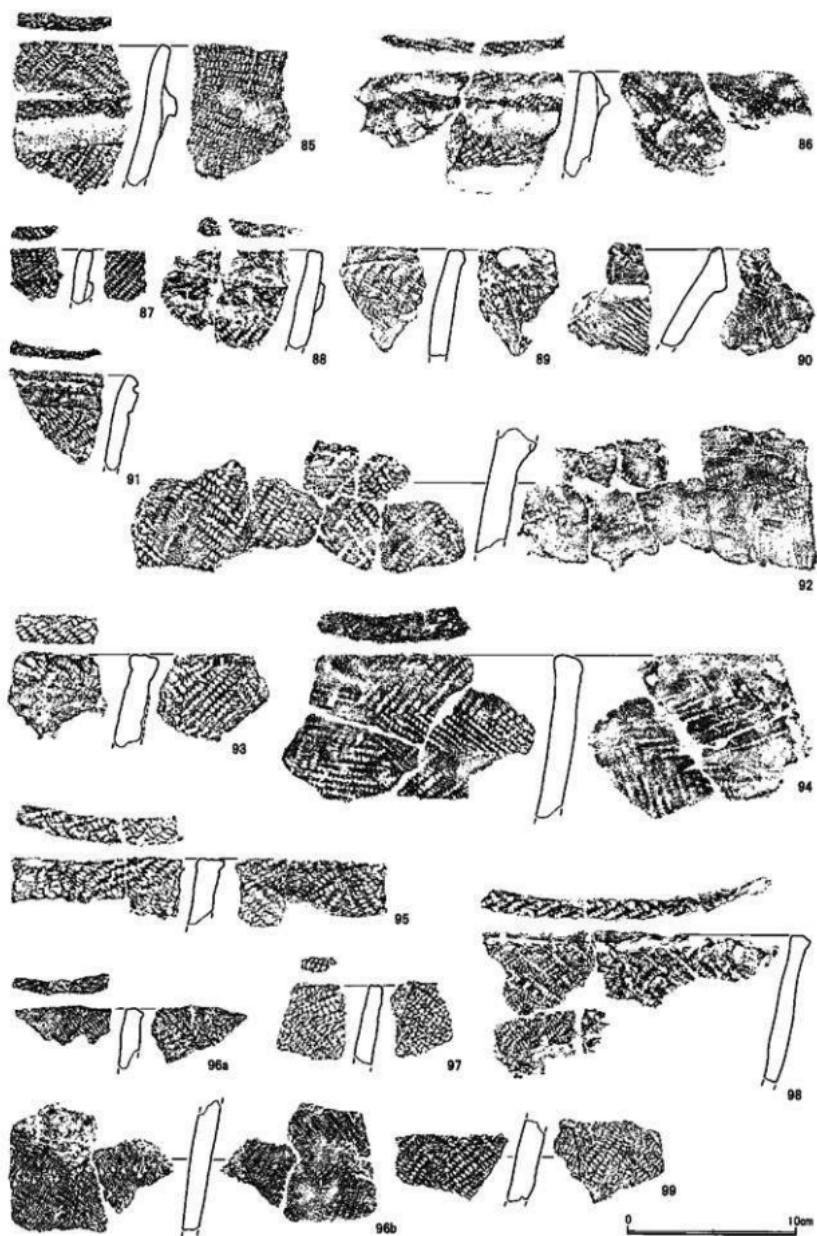
図IV-3-16 包含層の土器 (16)



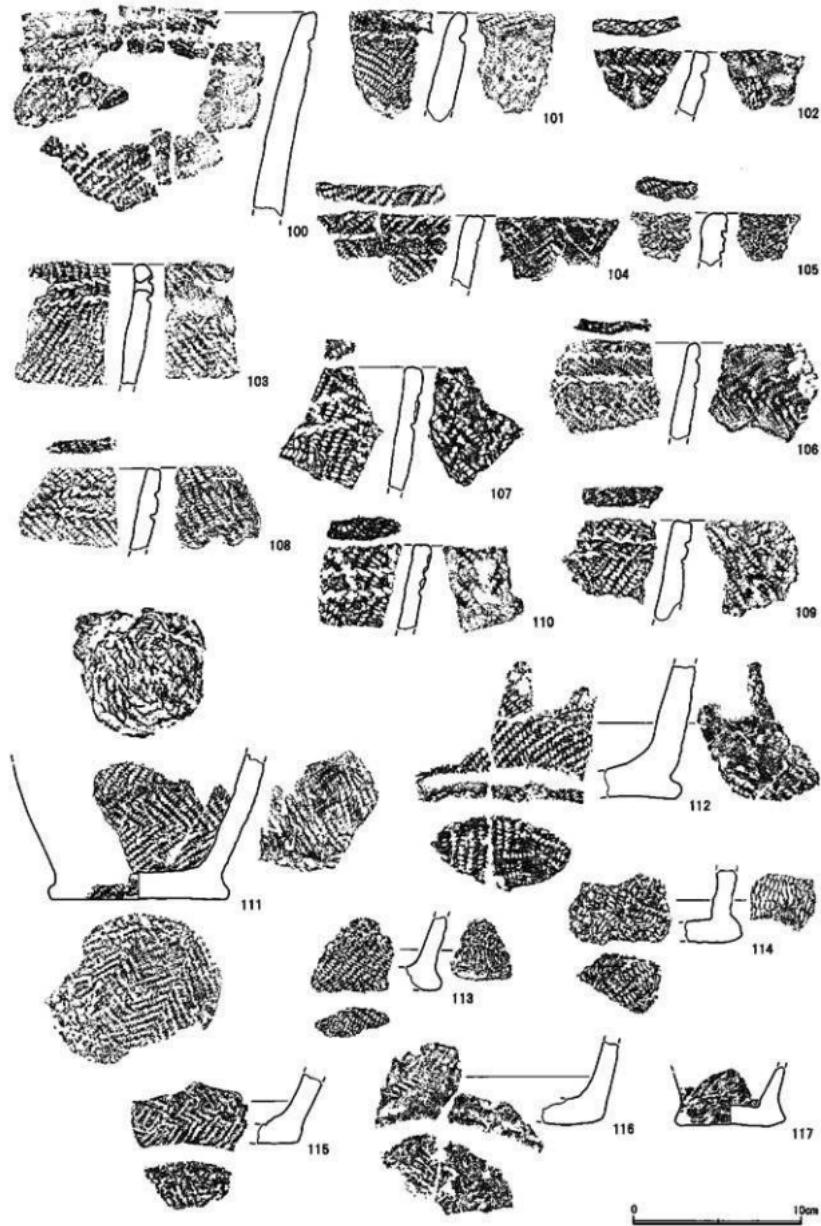
図IV-3-17 包含層の土器 (17)



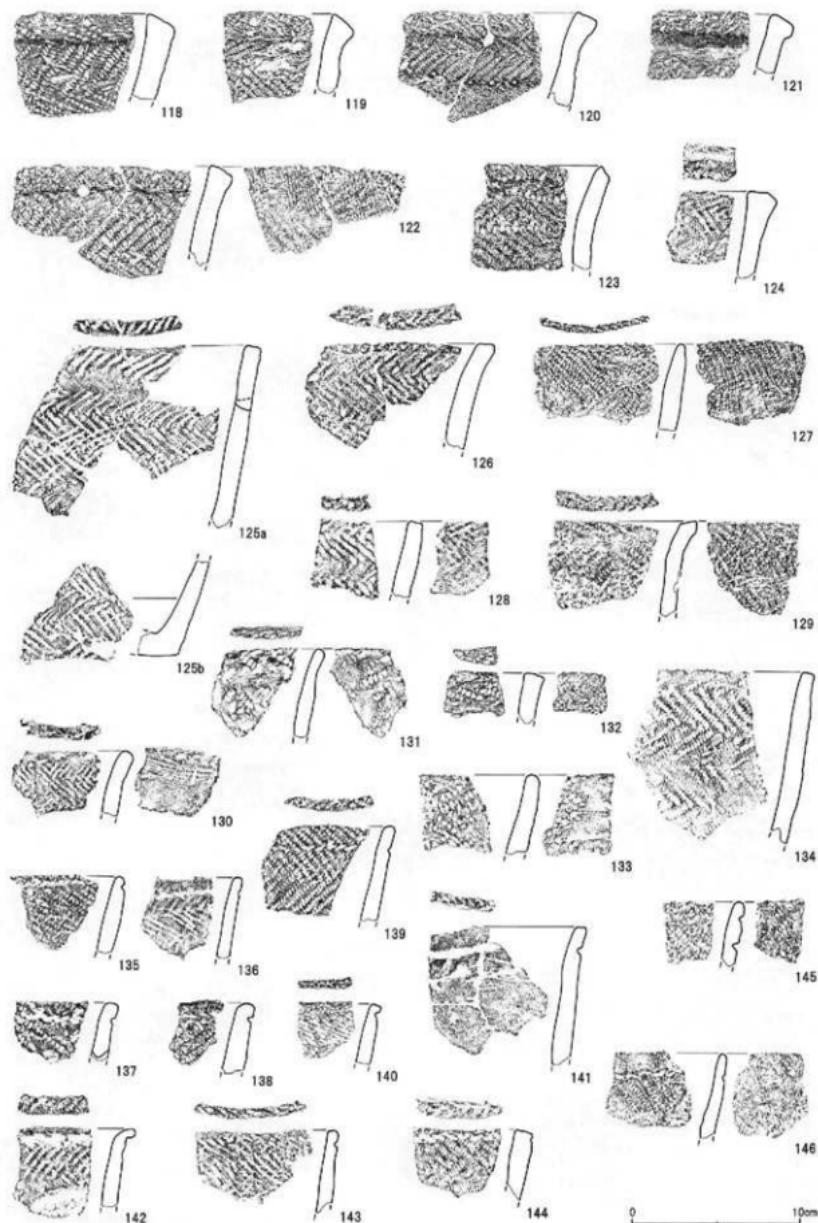
図IV-3-18 包含層の土器 (18)



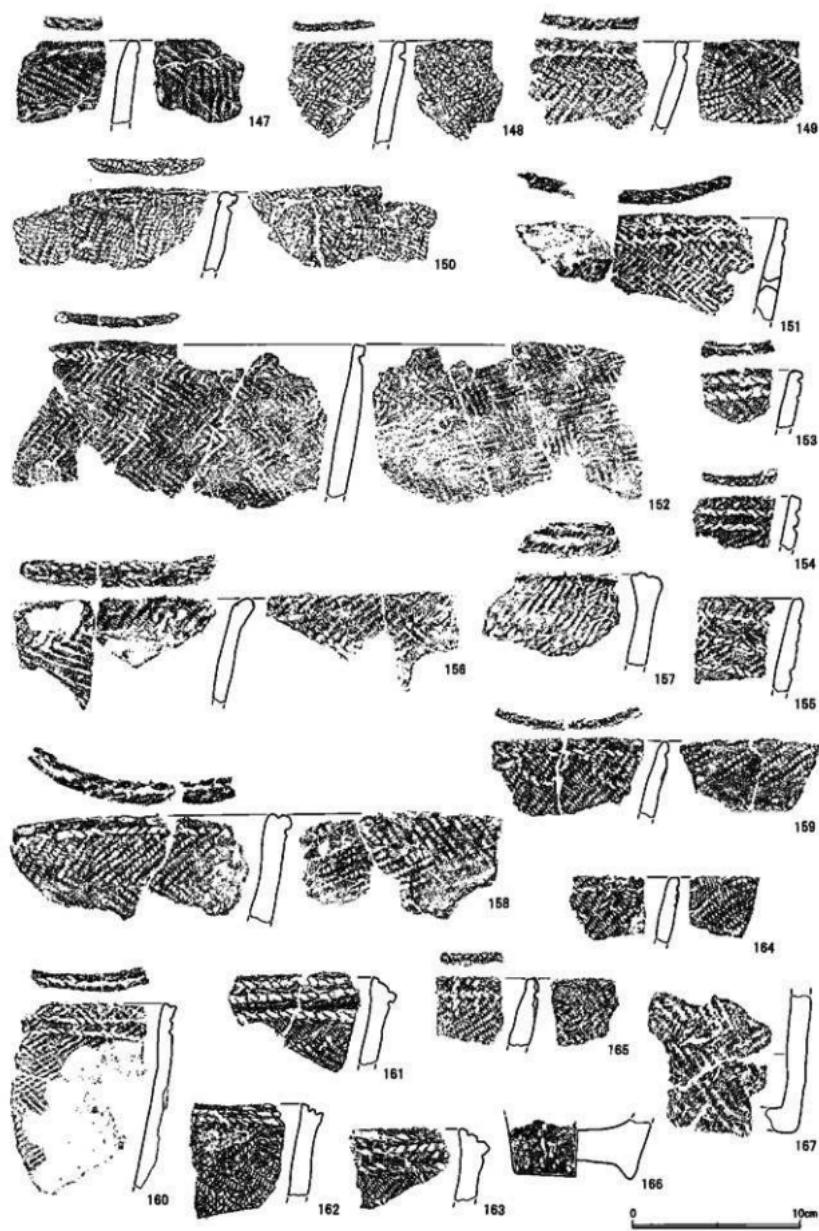
図IV-3-19 包含層の土器 (19)



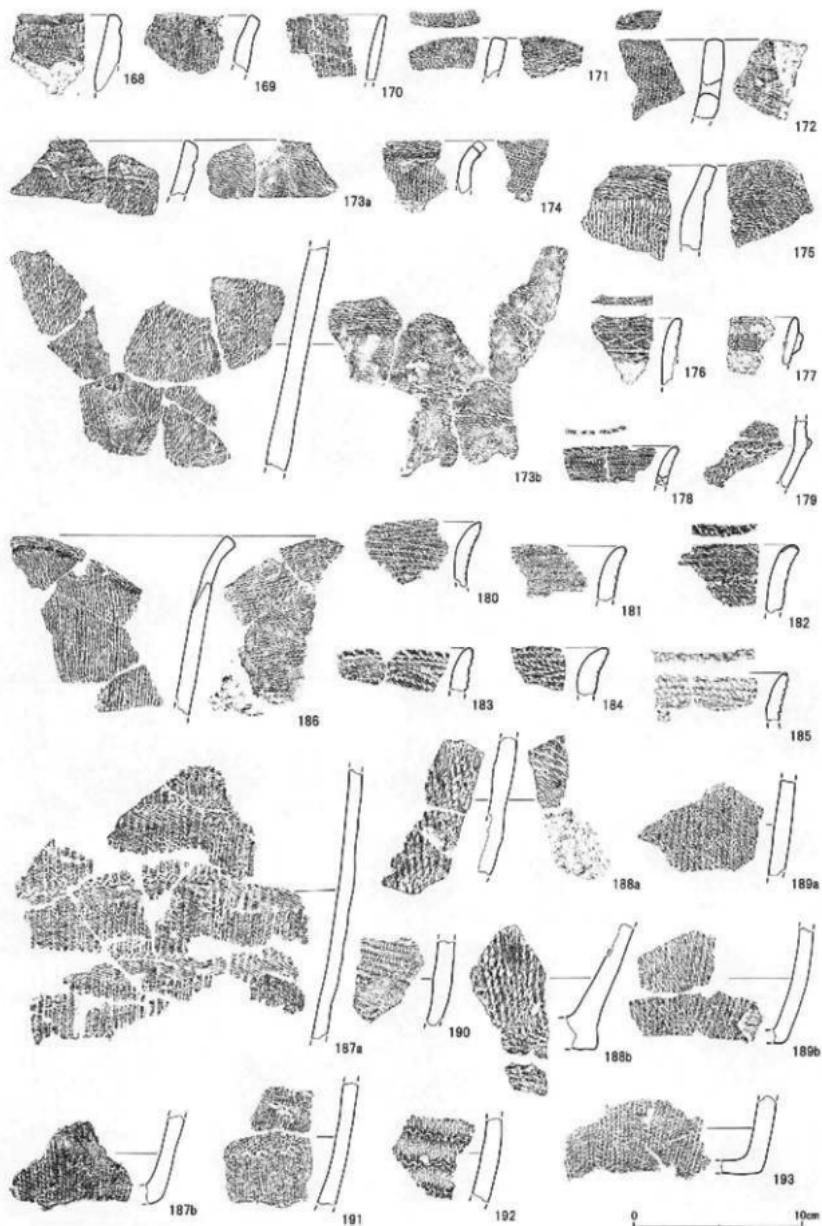
図IV-3-20 包含層の土器 (20)



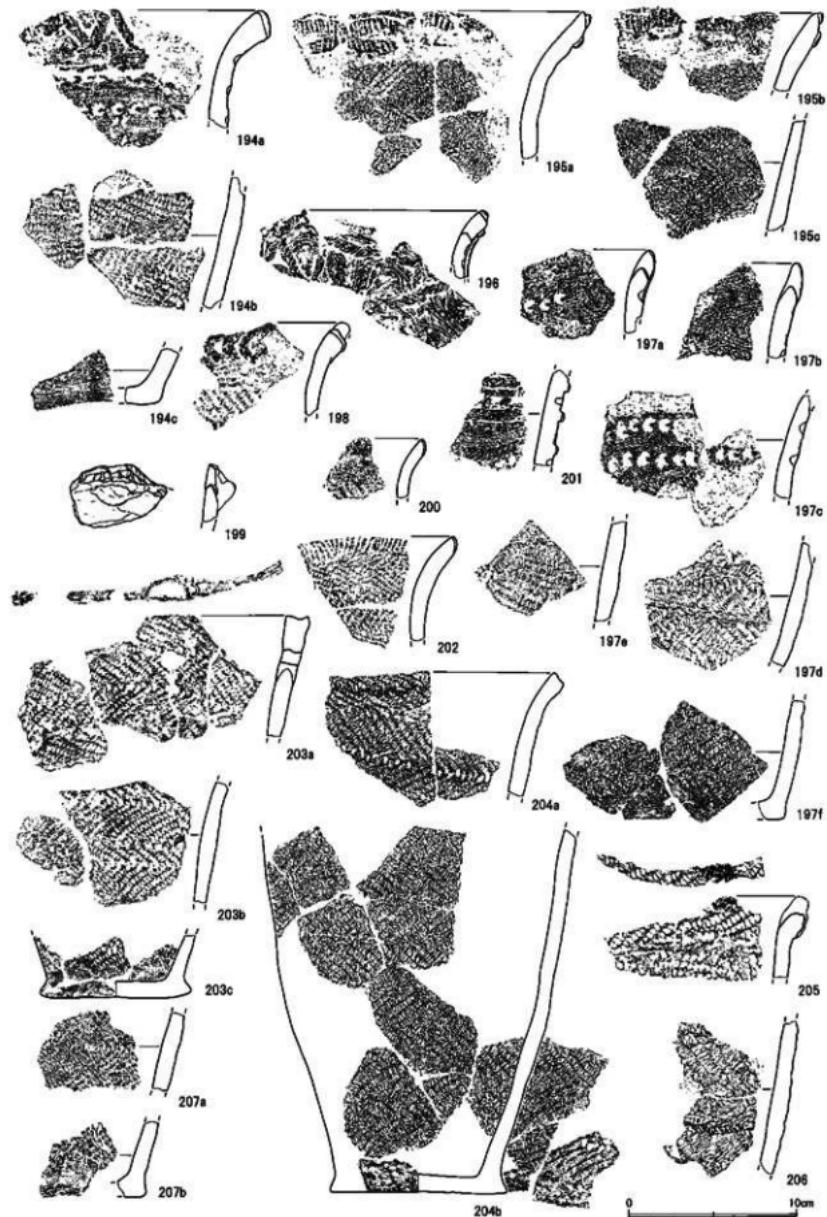
図IV-3-21 包含層の土器 (21)



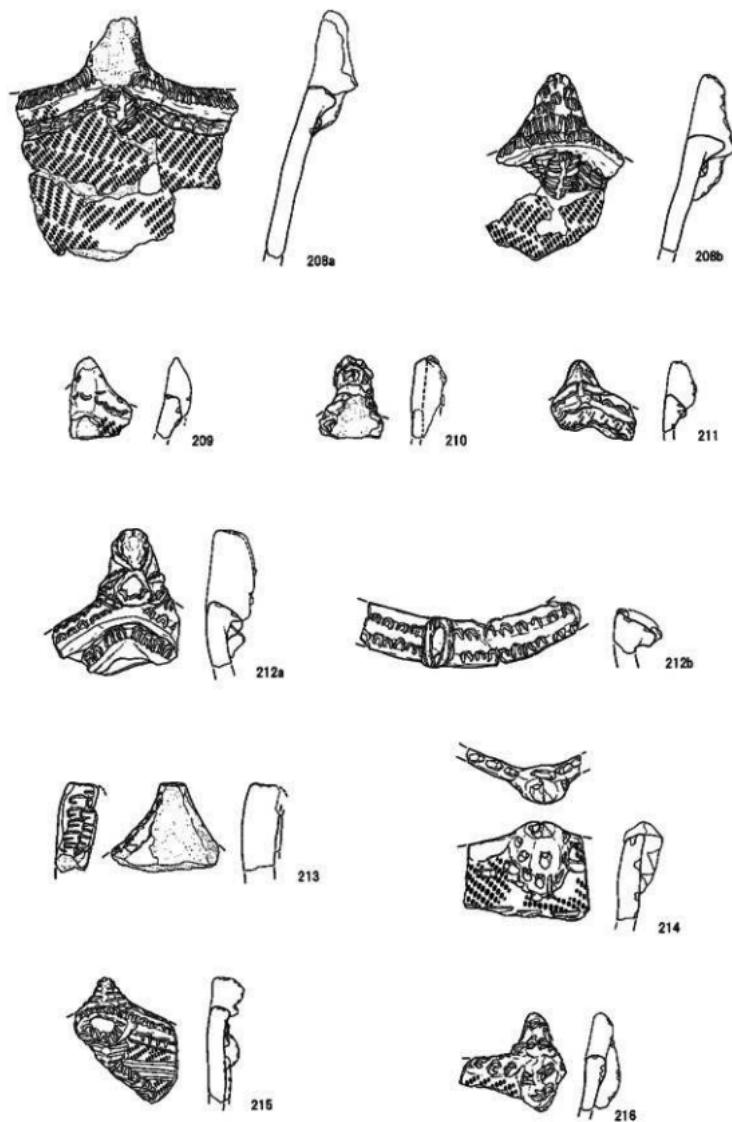
図IV-3-22 包含層の土器 (22)



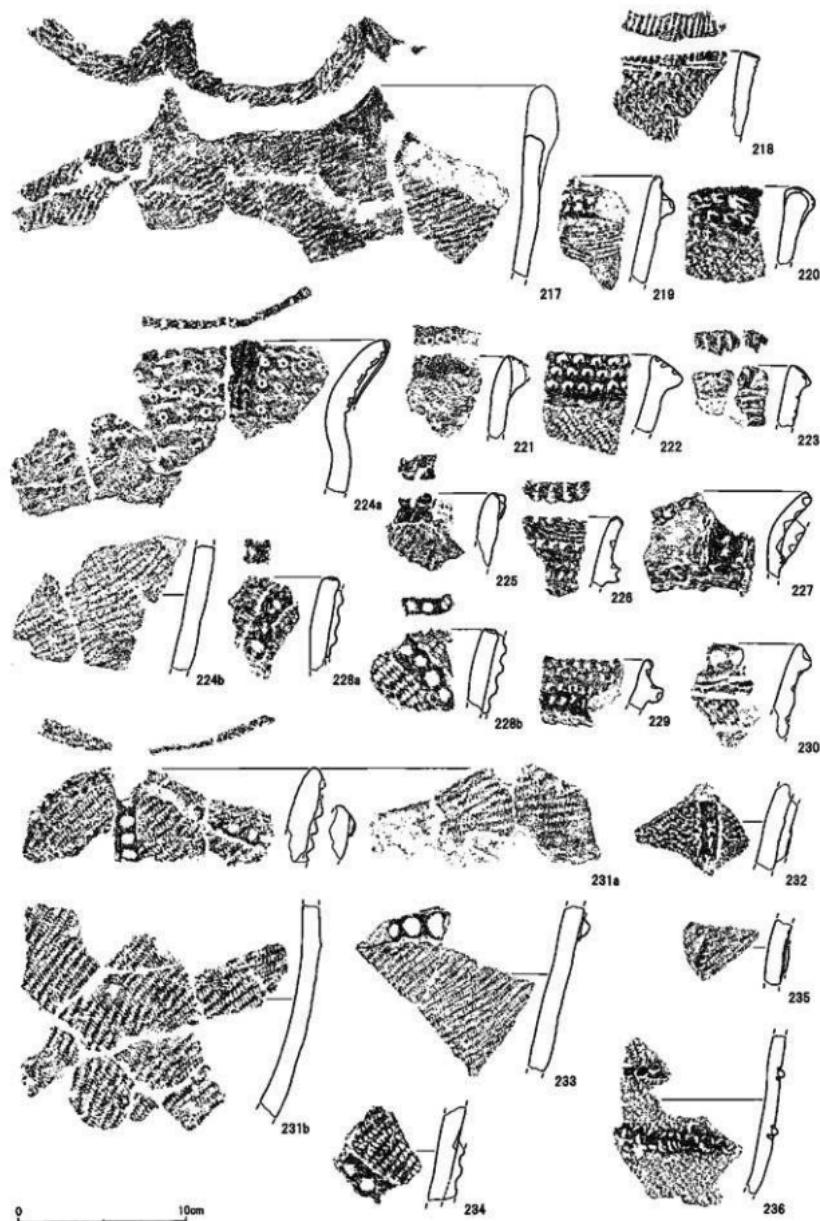
図IV-3-23 包含層の土器 (23)



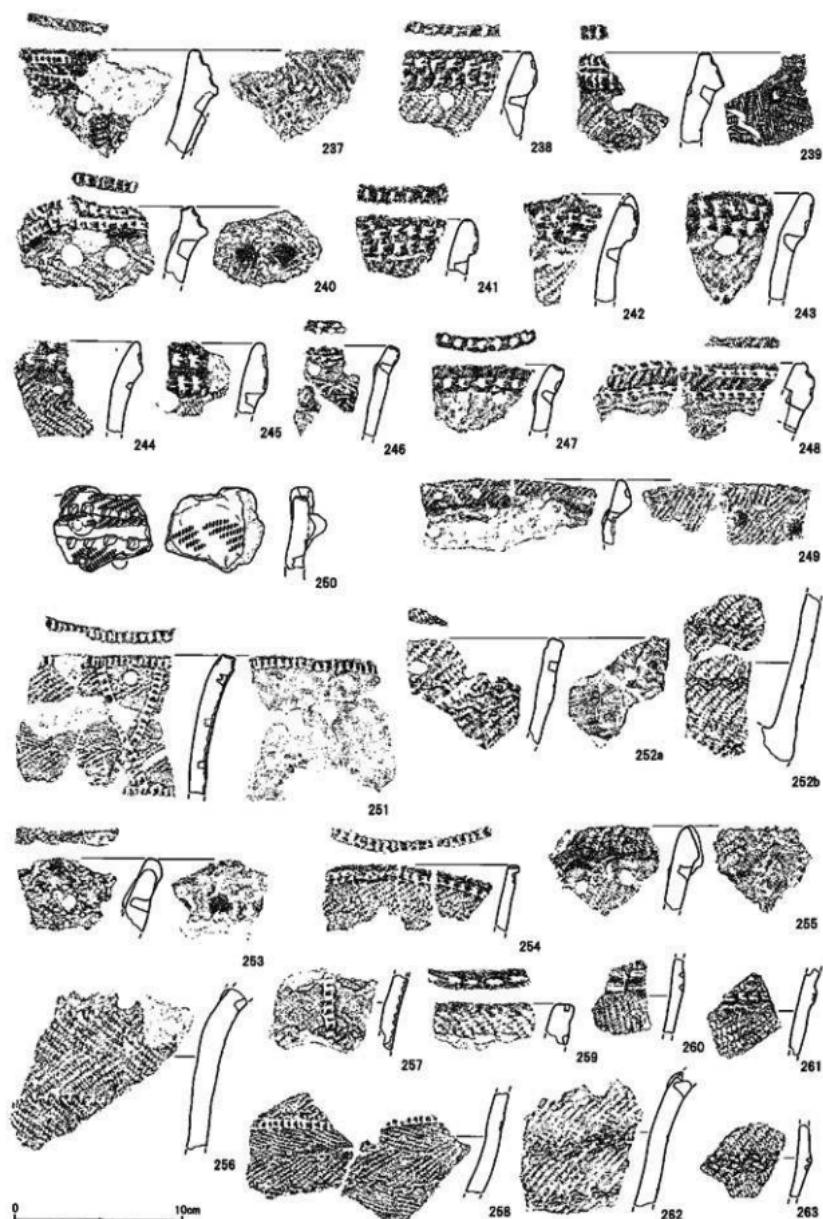
図IV-3-24 包含層の土器 (24)



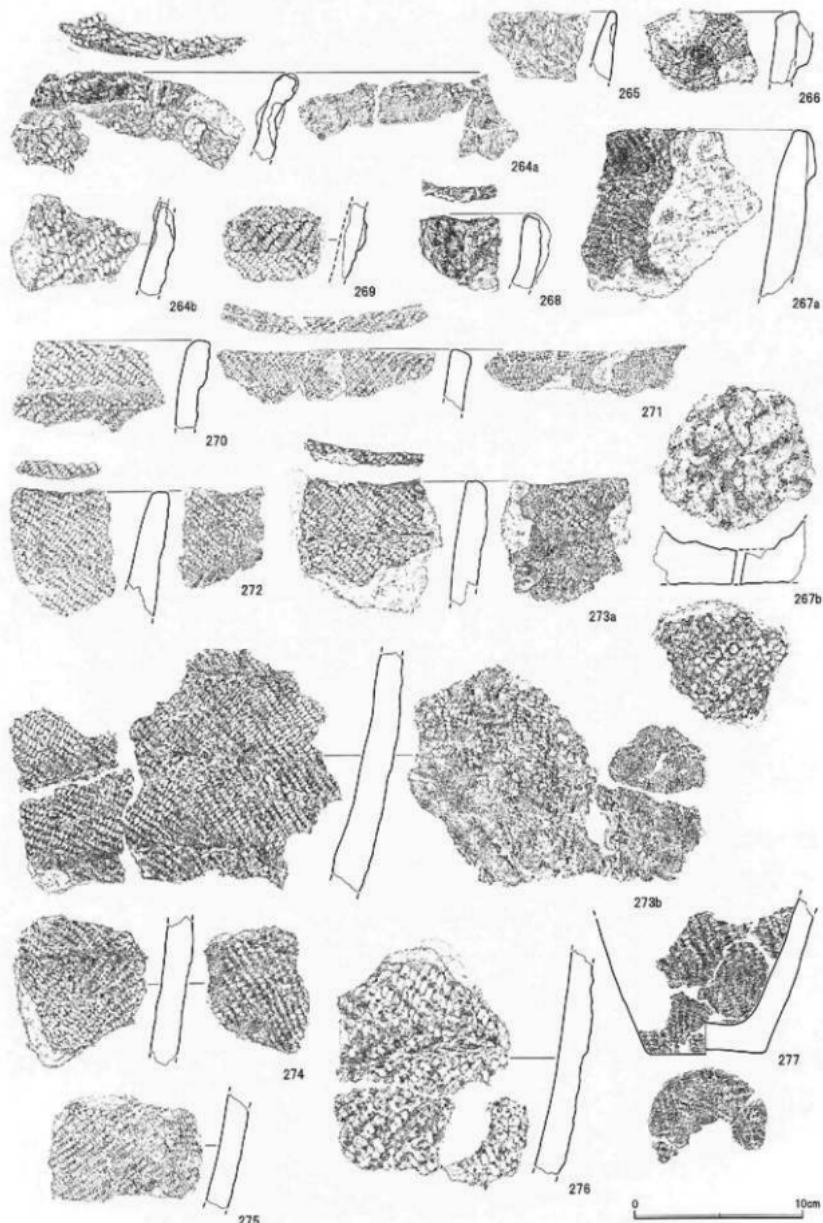
図IV-3-25 包含層の土器 (25)



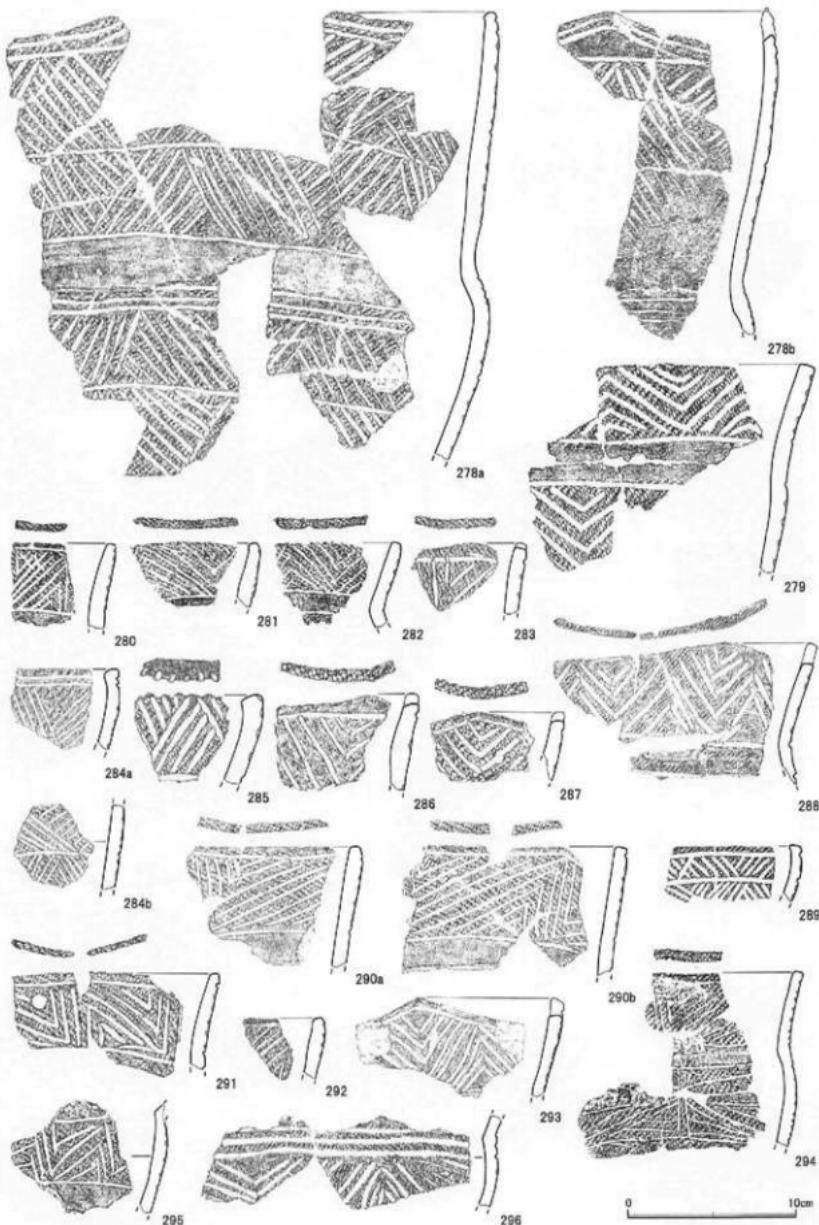
図IV-3-26 包含層の土器 (26)



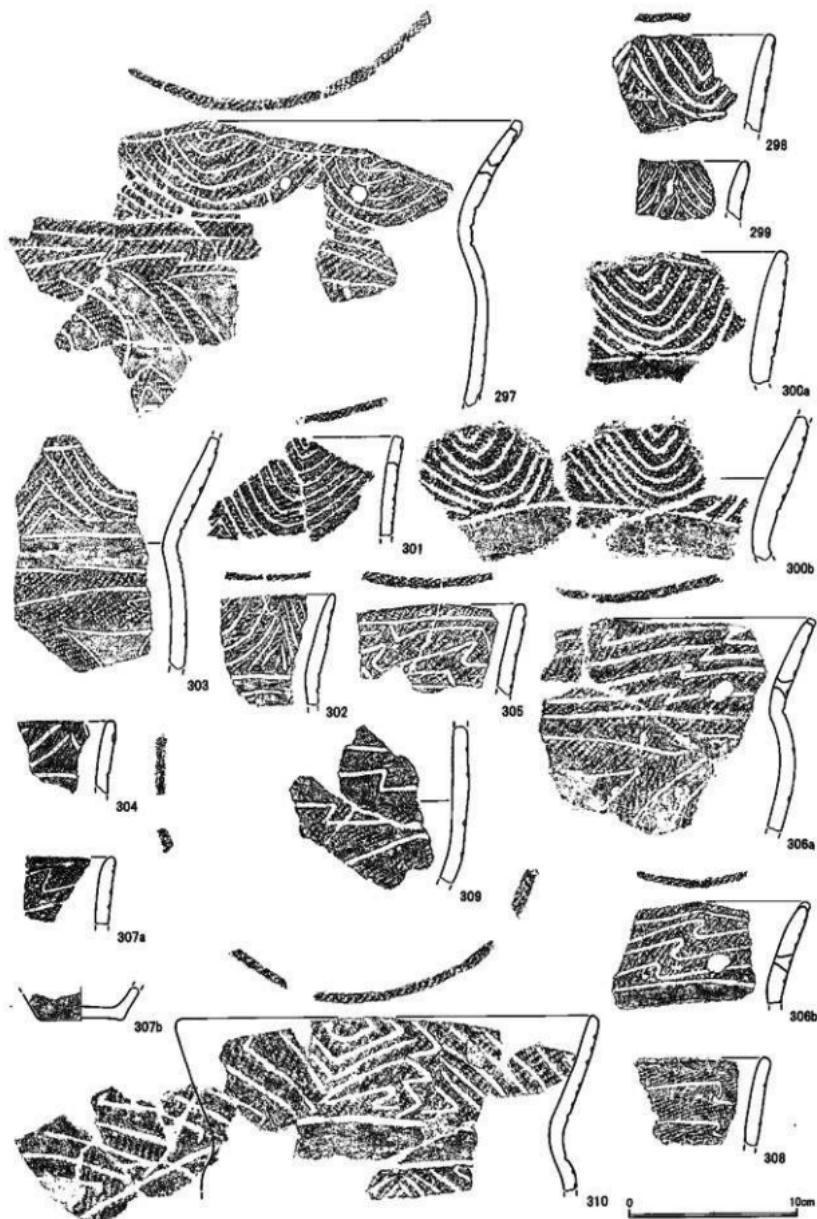
図IV-3-27 包含層の土器 (27)



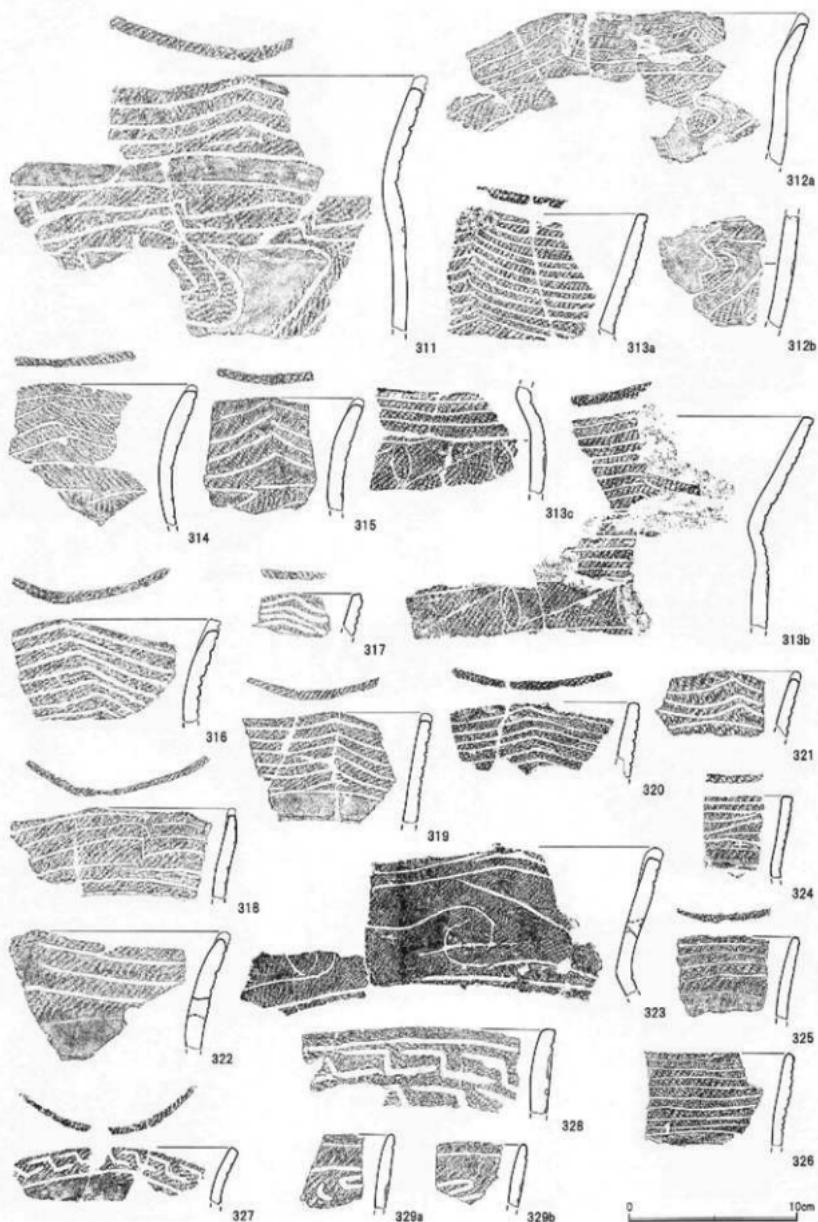
図IV-3-28 包含層の土器 (28)



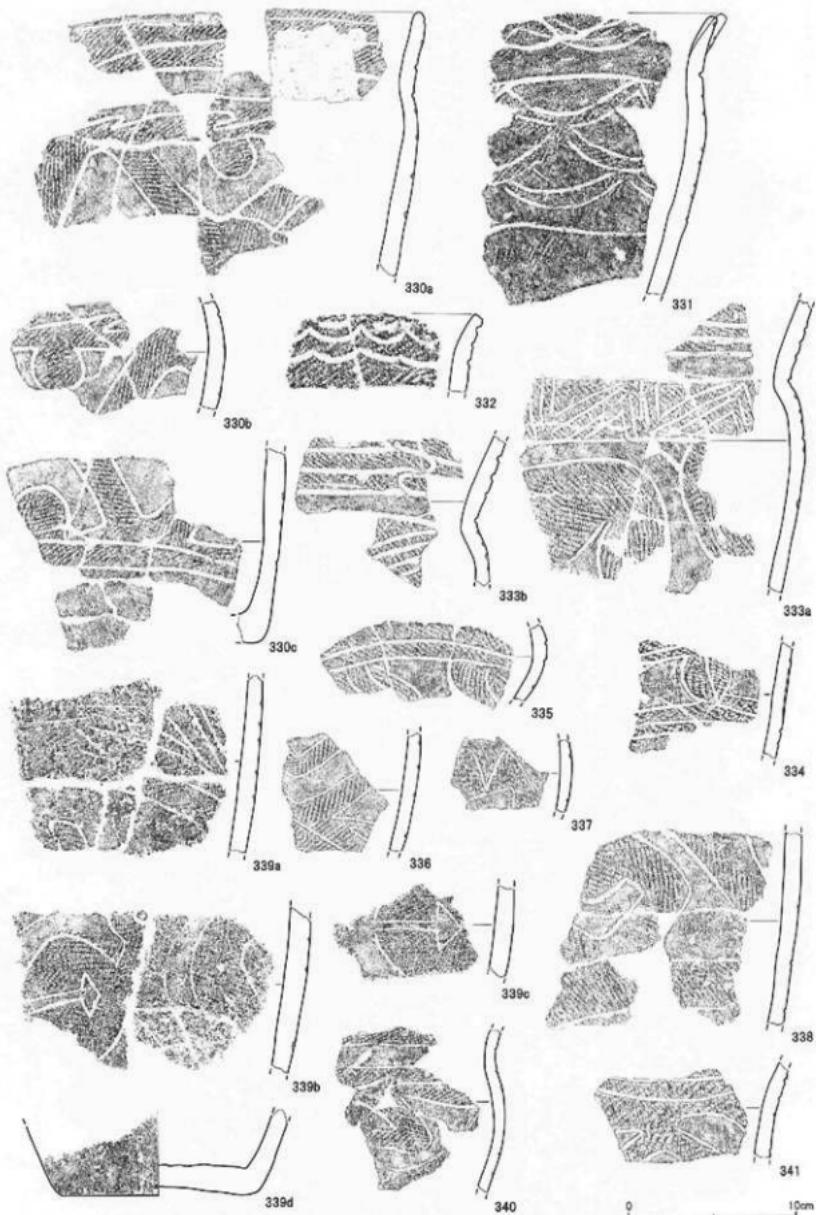
図IV-3-29 包含層の土器 (29)



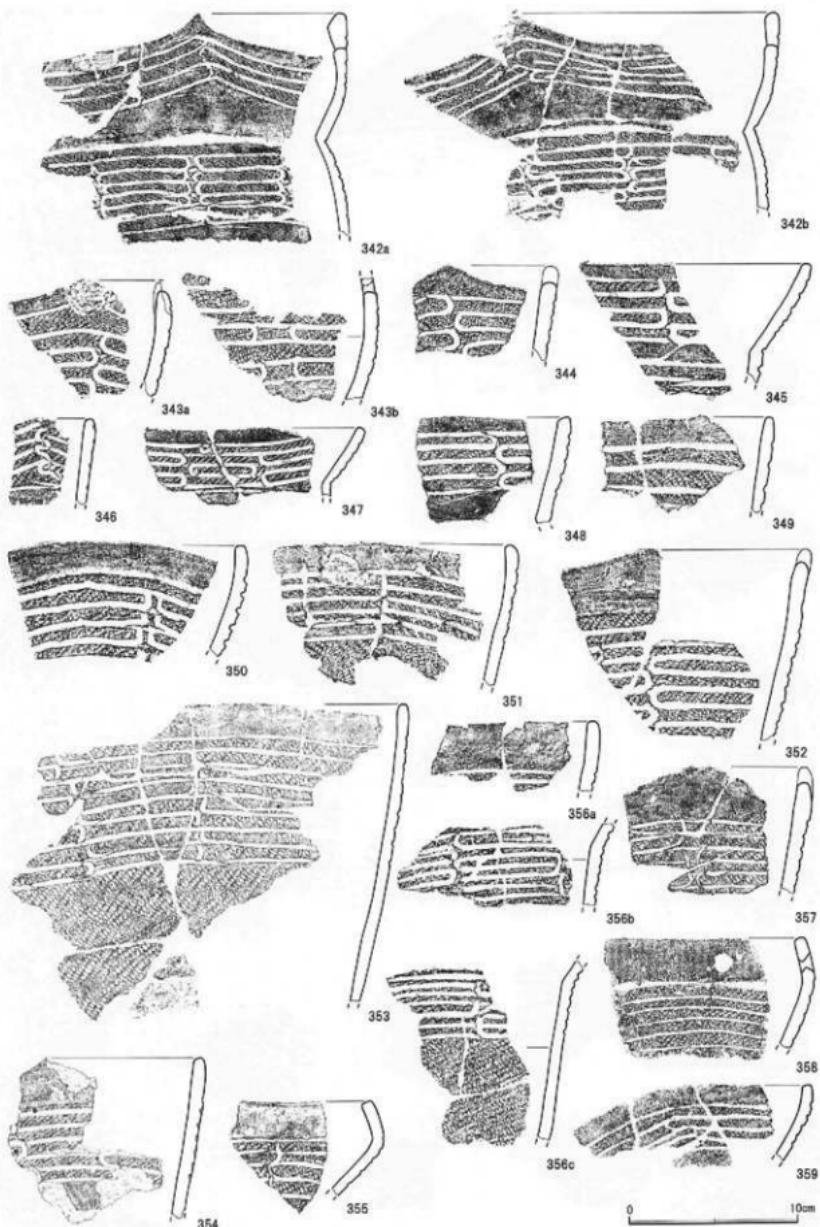
図IV-3-30 包含層の土器 (30)



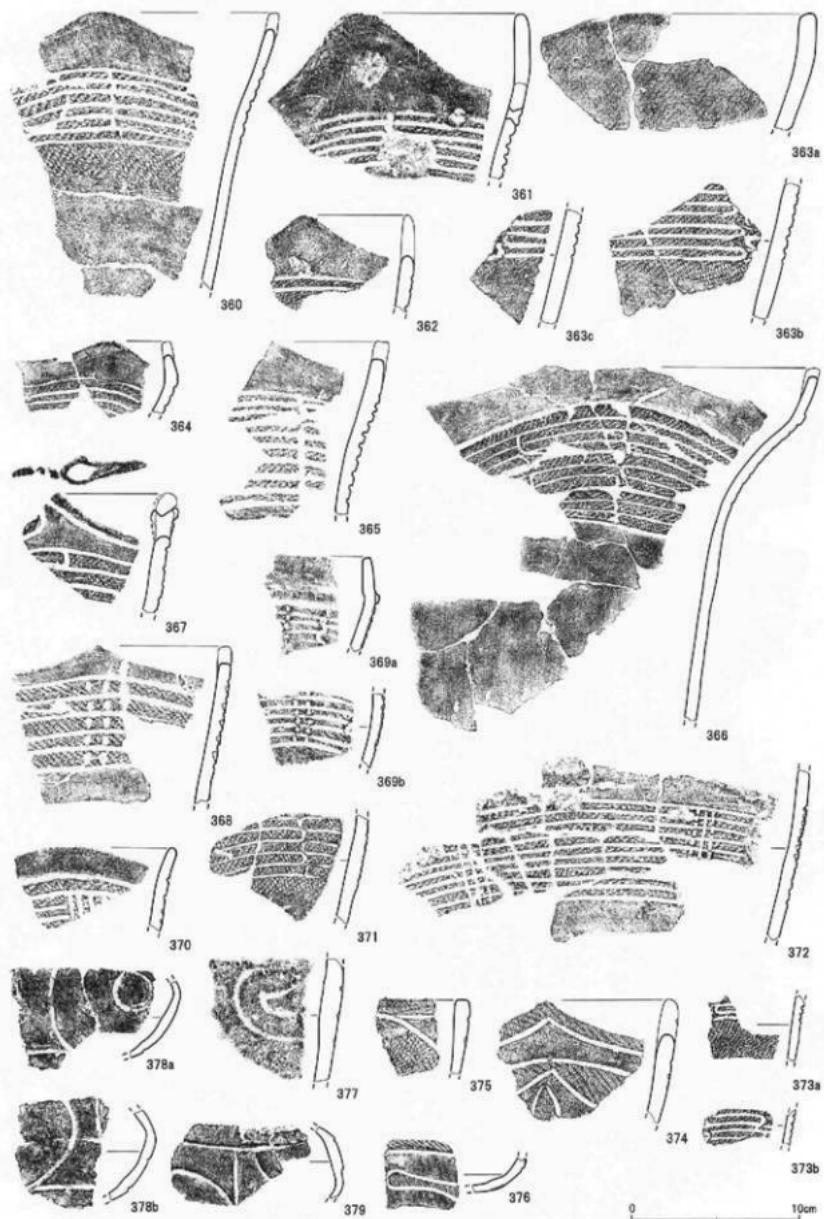
図IV-3-31 包含層の土器 (31)



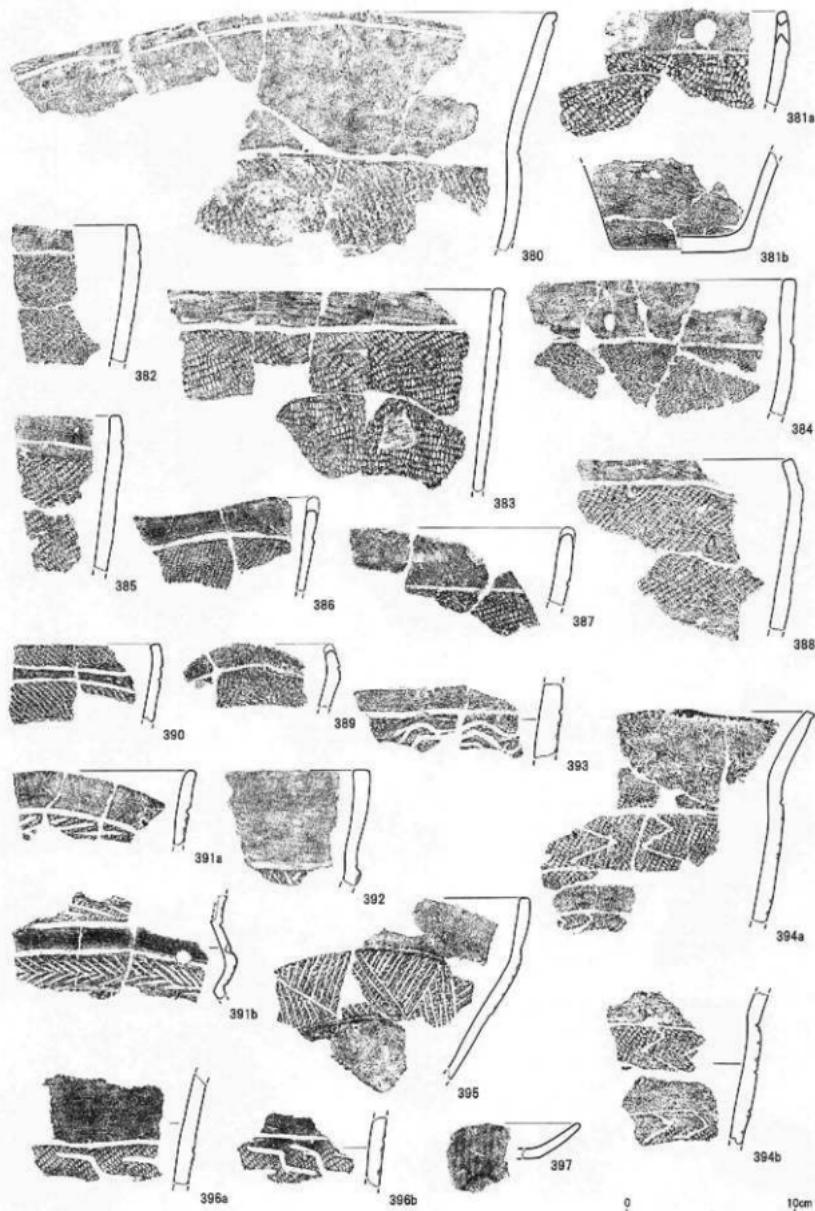
図IV-3-32 包含層の土器 (32)



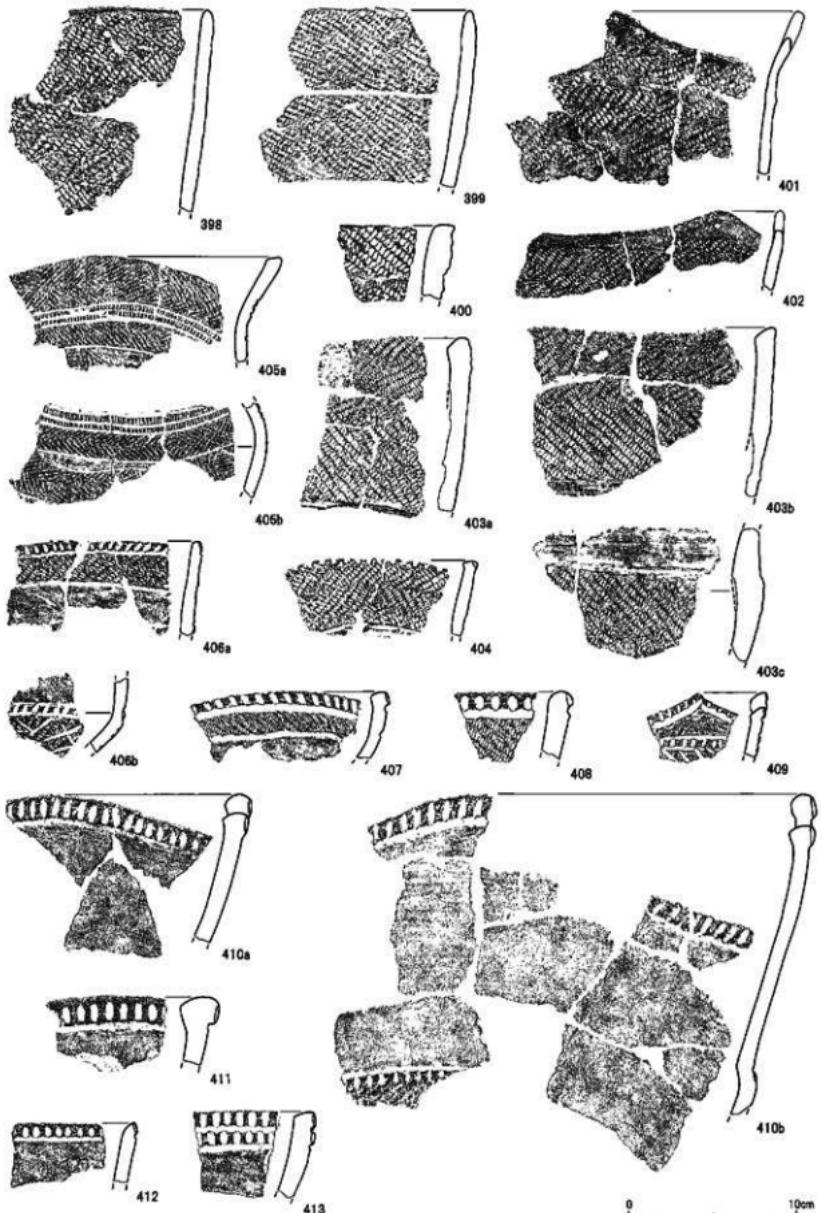
図IV-3-33 包含層の土器 (33)



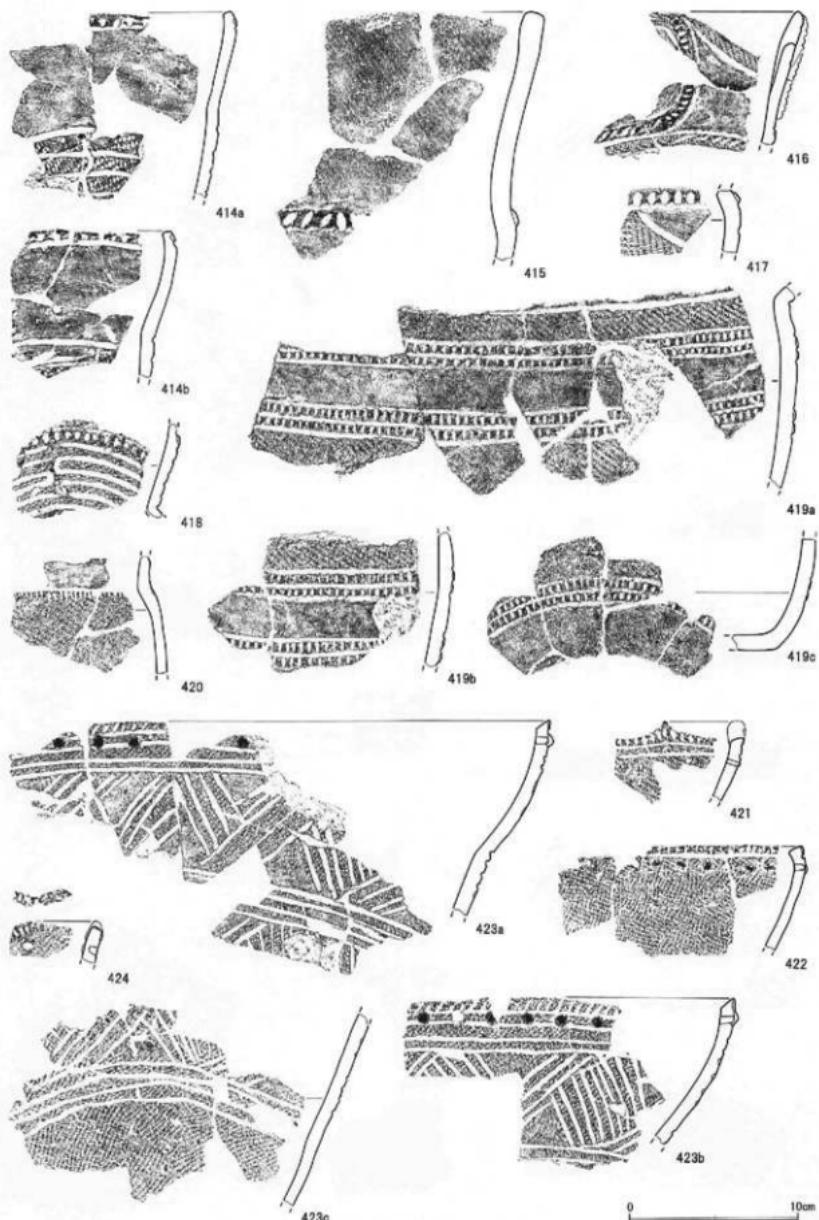
図IV-3-34 包含層の土器 (34)



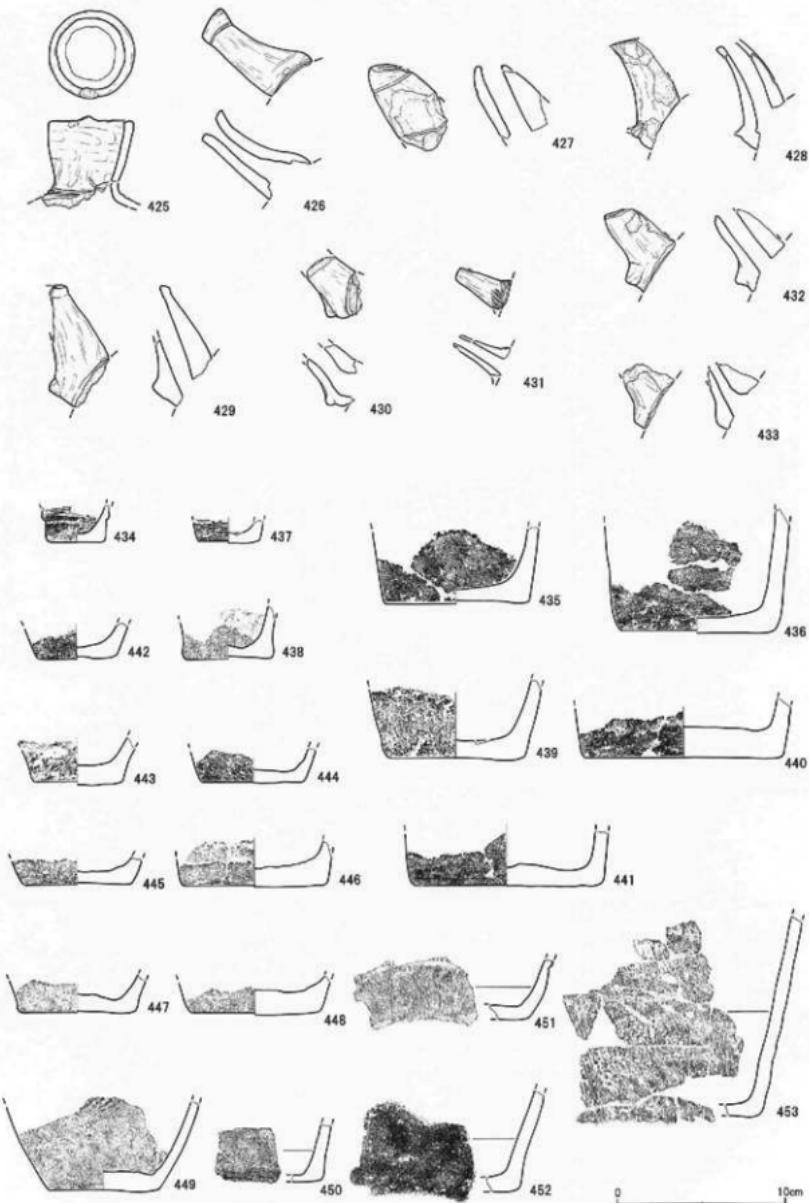
図IV-3-35 包含層の土器 (35)



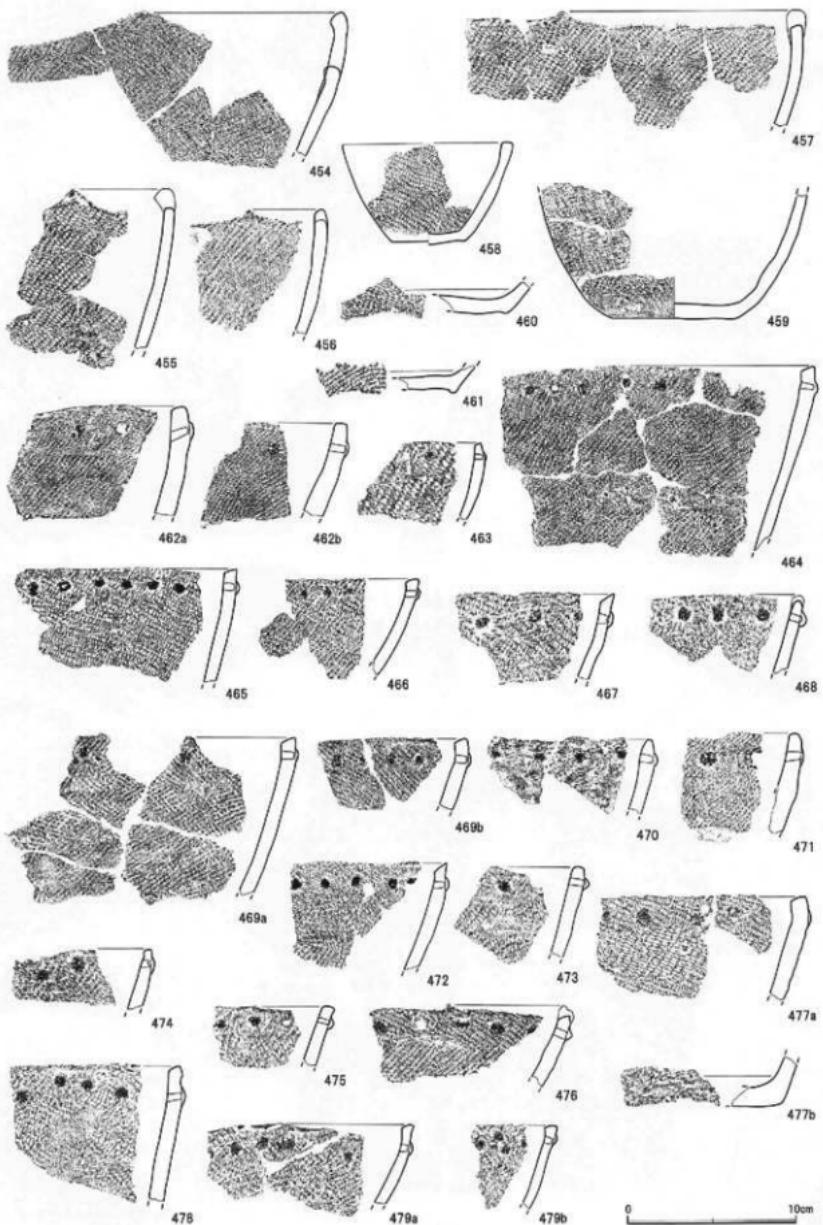
図IV-3-36 包含層の土器 (36)



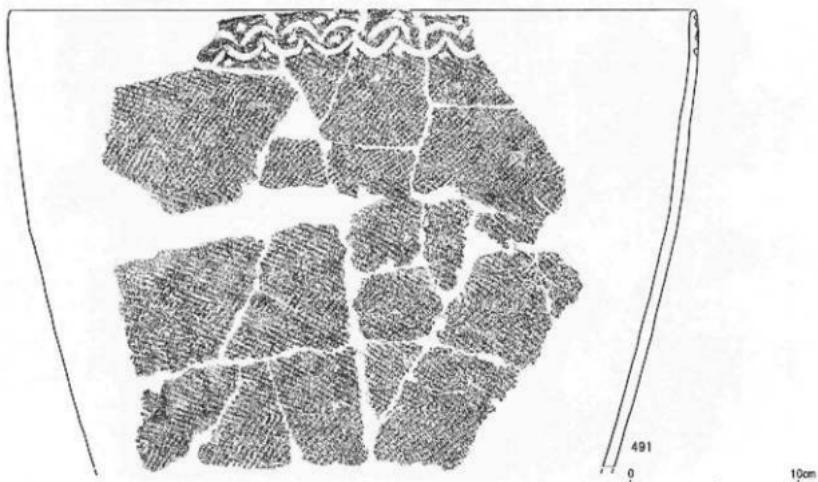
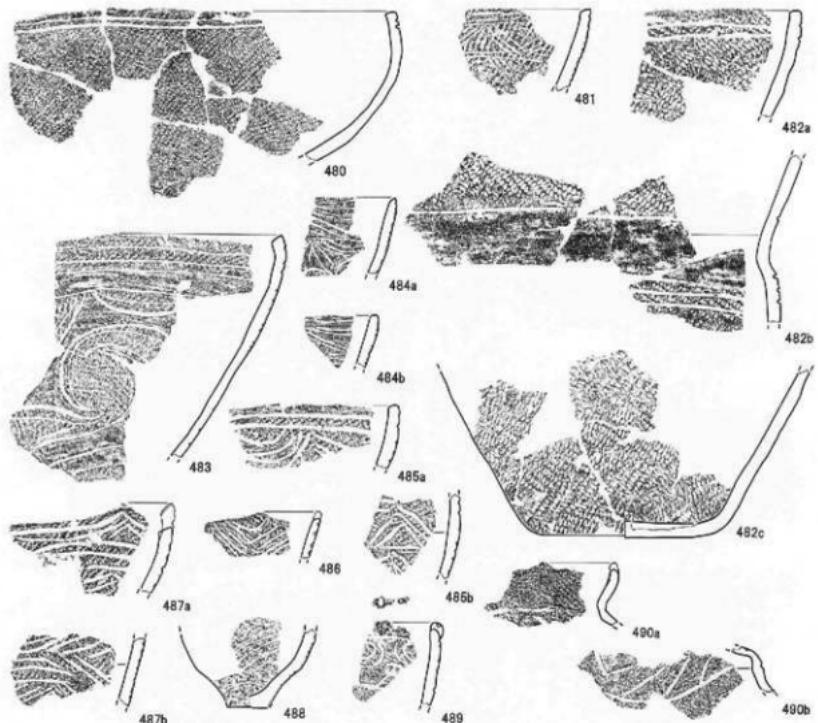
図IV-3-37 包含層の土器 (37)



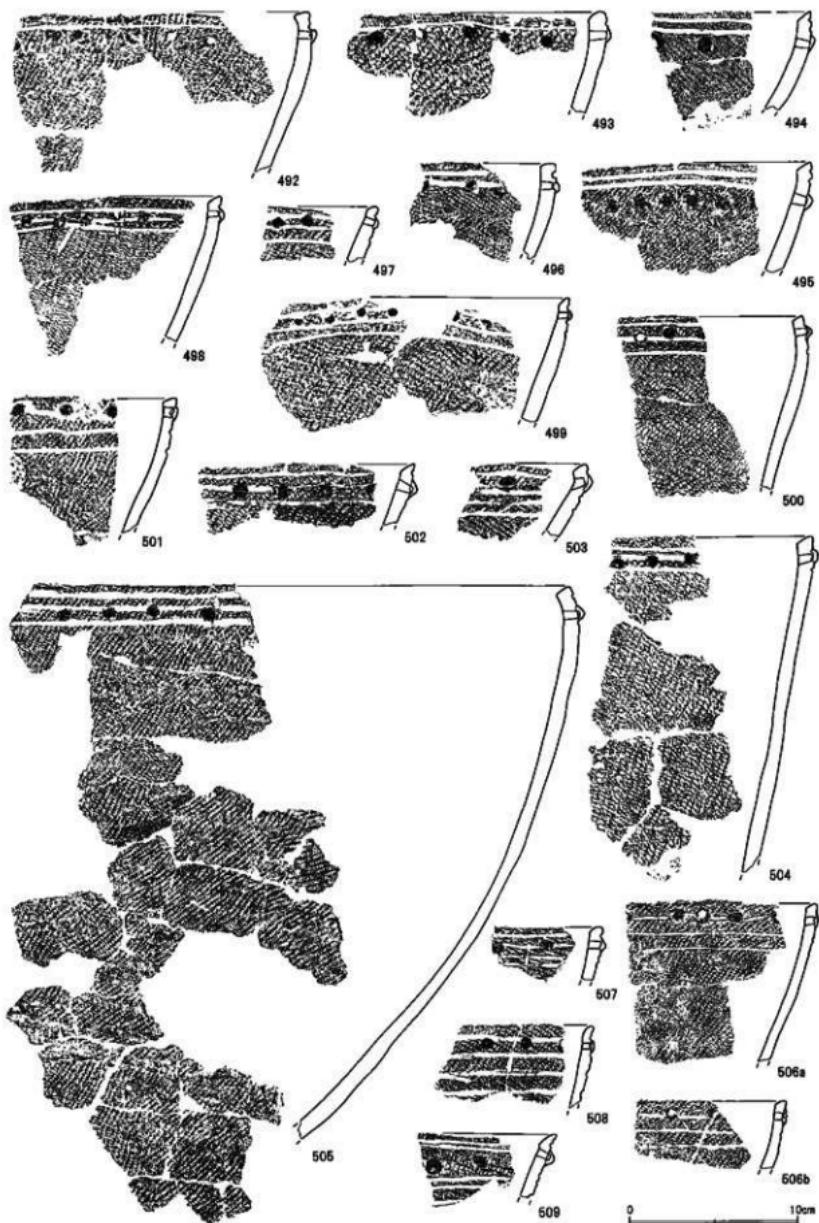
図IV-3-38 包含層の土器 (38)



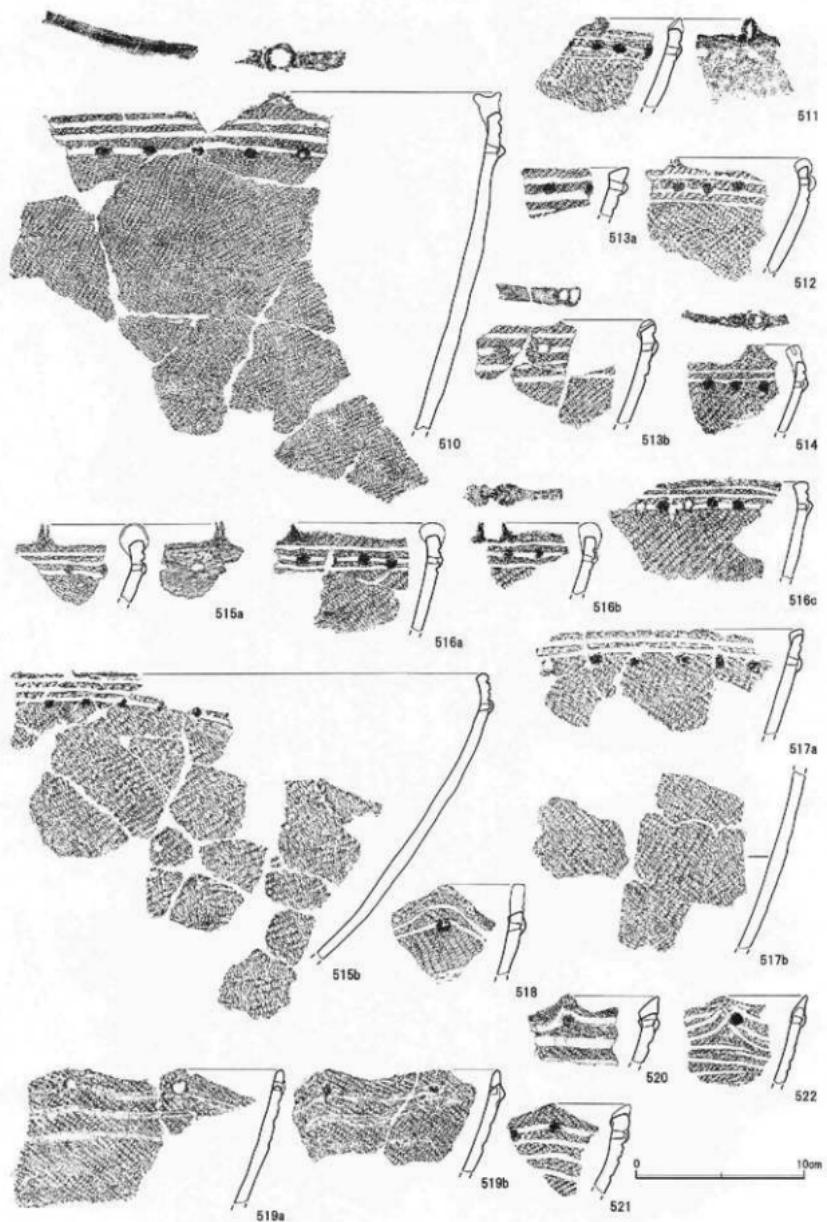
図IV-3-39 包含層の土器 (39)



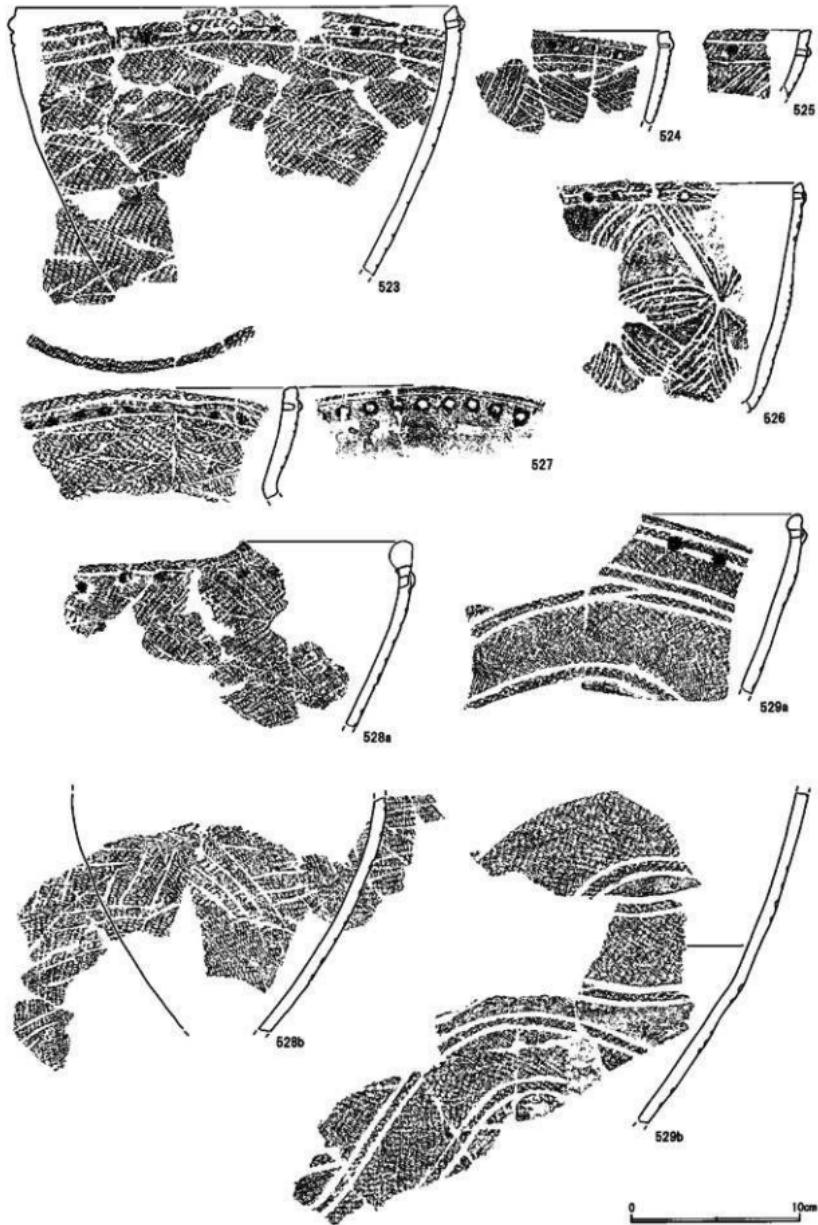
図IV-3-40 包含層の土器 (40)



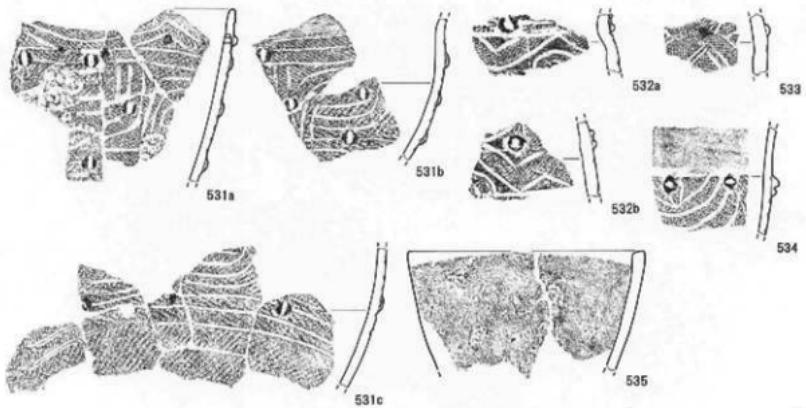
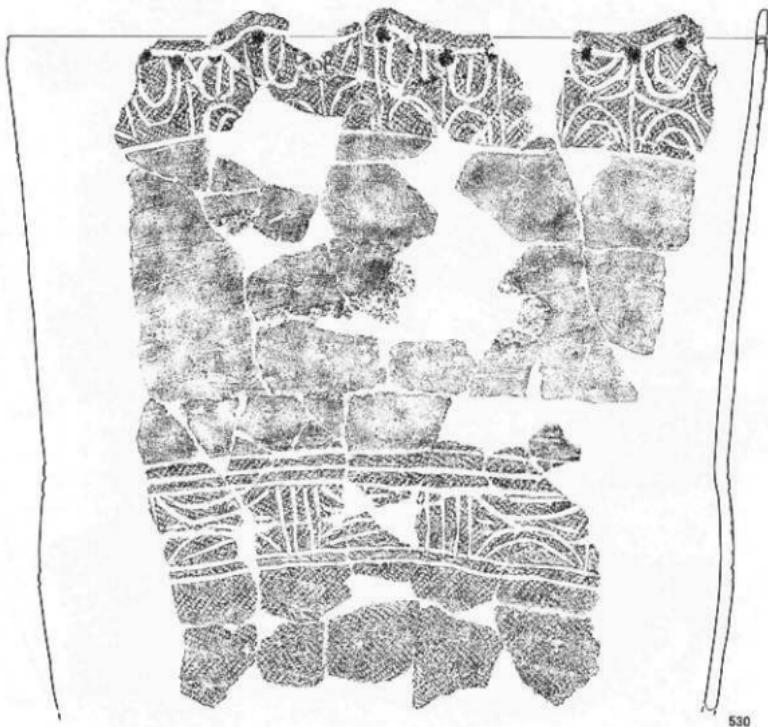
図IV-3-41 包含層の土器 (41)



図IV-3-42 包含層の土器 (42)

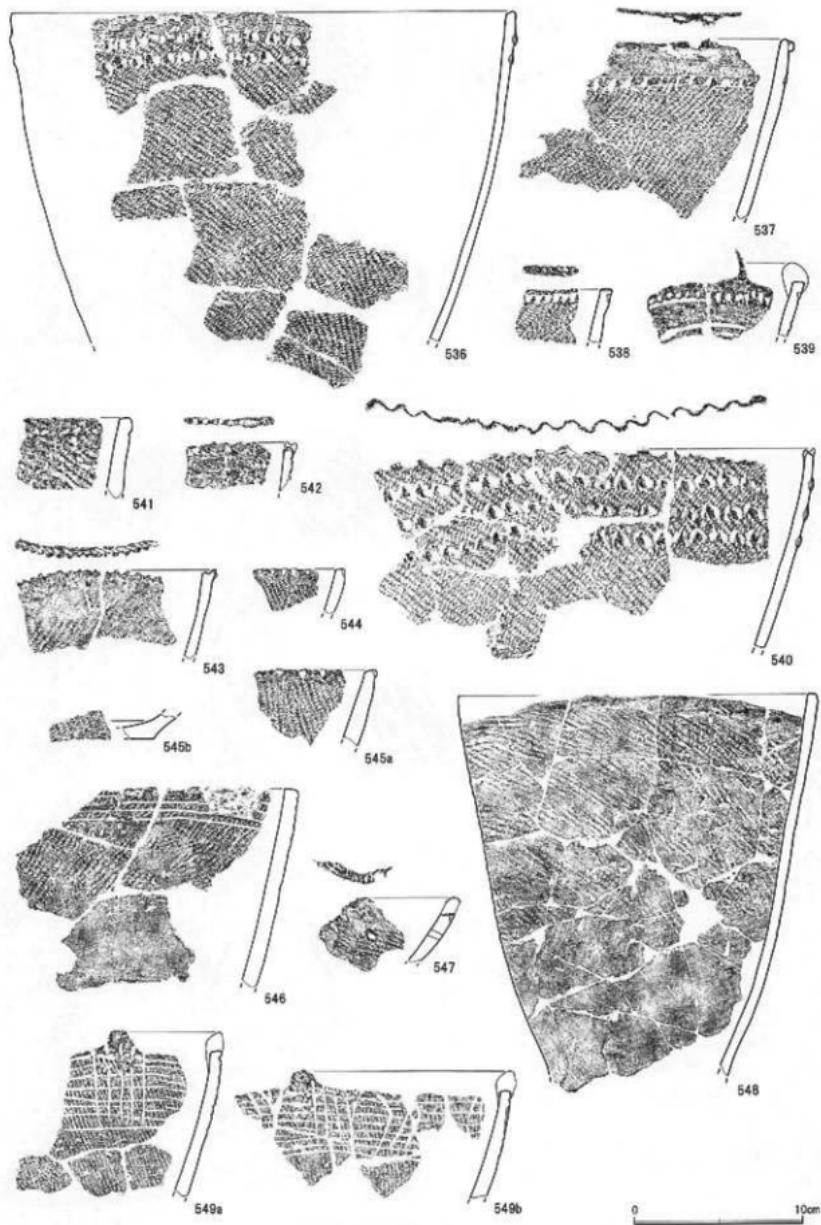


図IV-3-43 包含層の土器 (43)

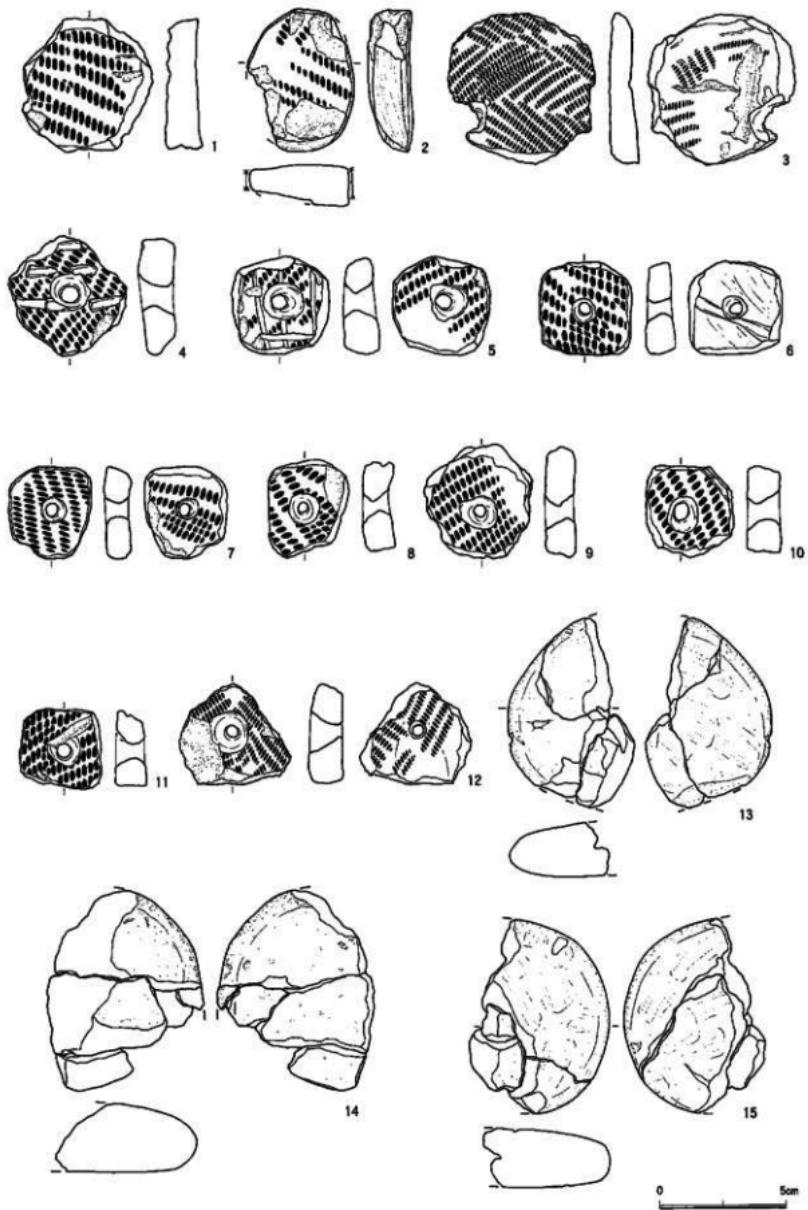


0 10cm

図IV-3-44 包含層の土器 (44)

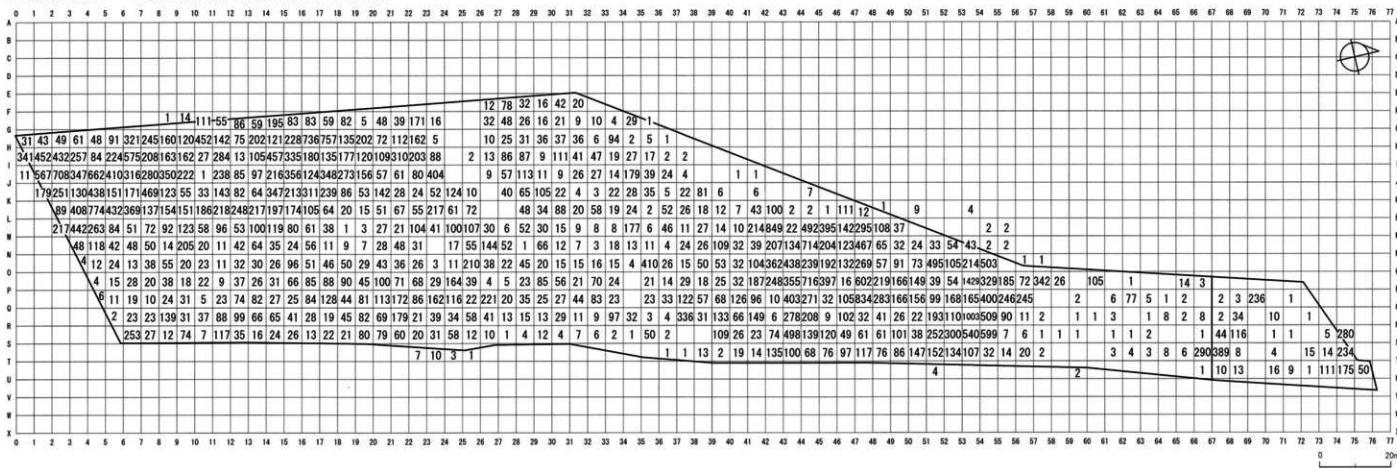


図IV-3-45 包含層の土器 (45)



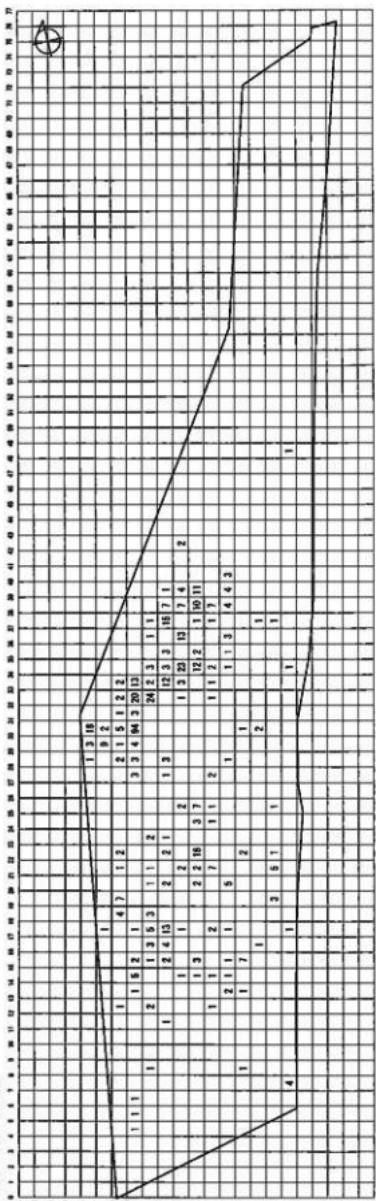
図IV-3-46 包含層の土製品

土器総合計 68,753点 (うち梅川1遺跡 1,796点)

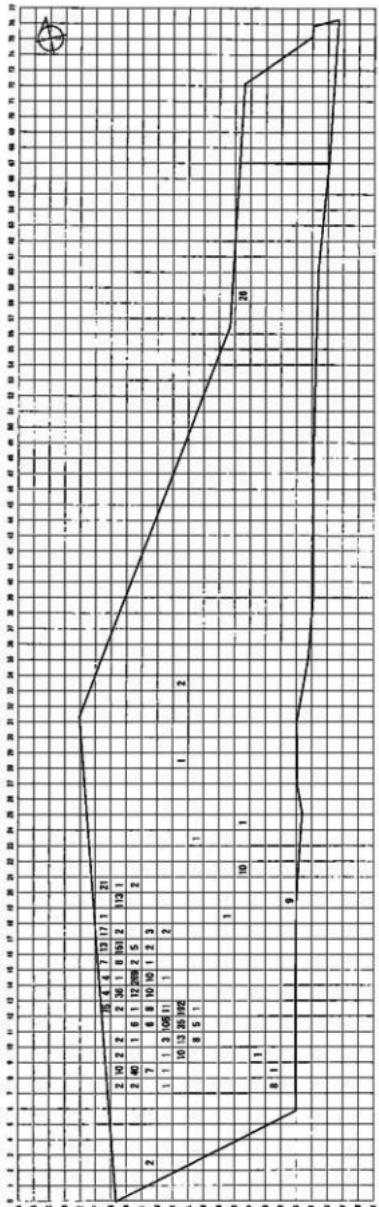


図IV-3-47 土器の分布（1）

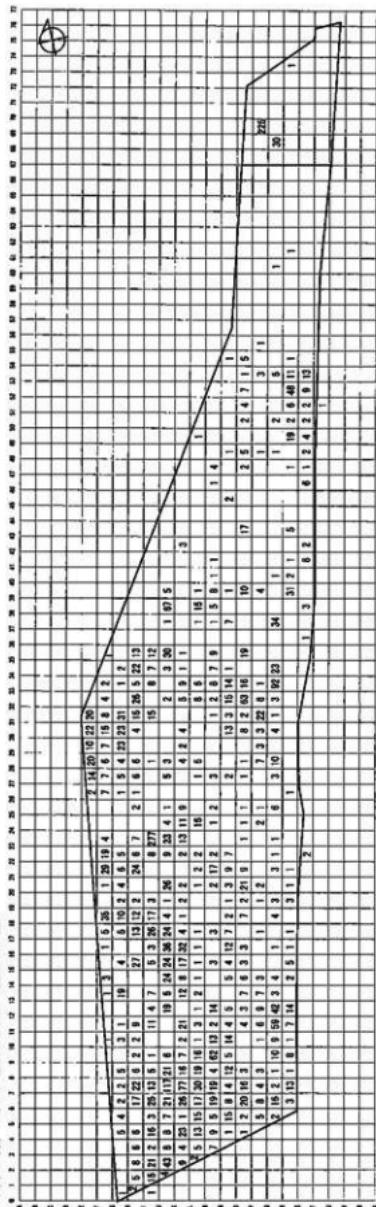
II群a類 553点



Ⅲ群 a 類 1,311点

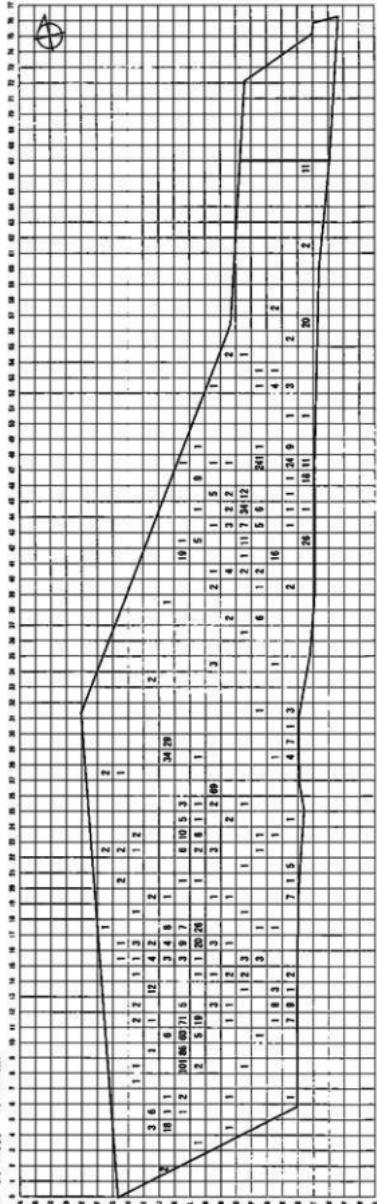


Ⅲ群 b 類 3,902点(うち梅川1遺跡 256点)

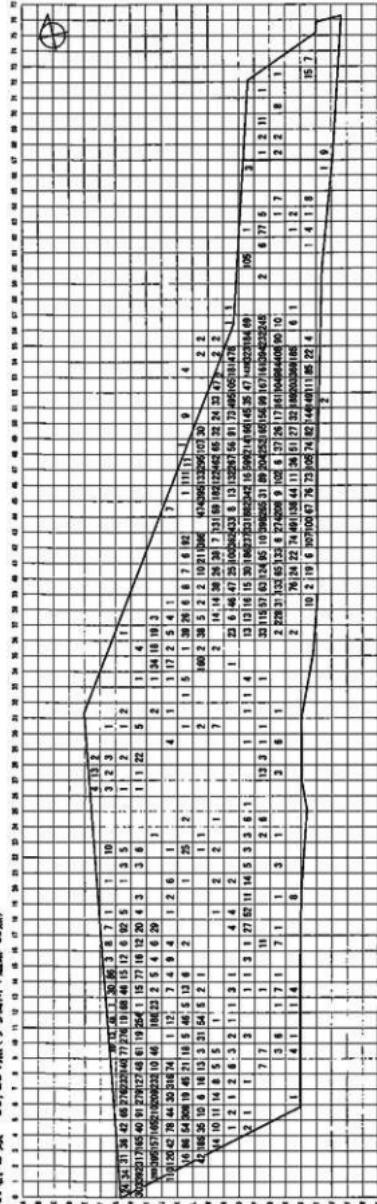


図IV-3-49 土器の分布 (3)

IV群 a類 1,358点

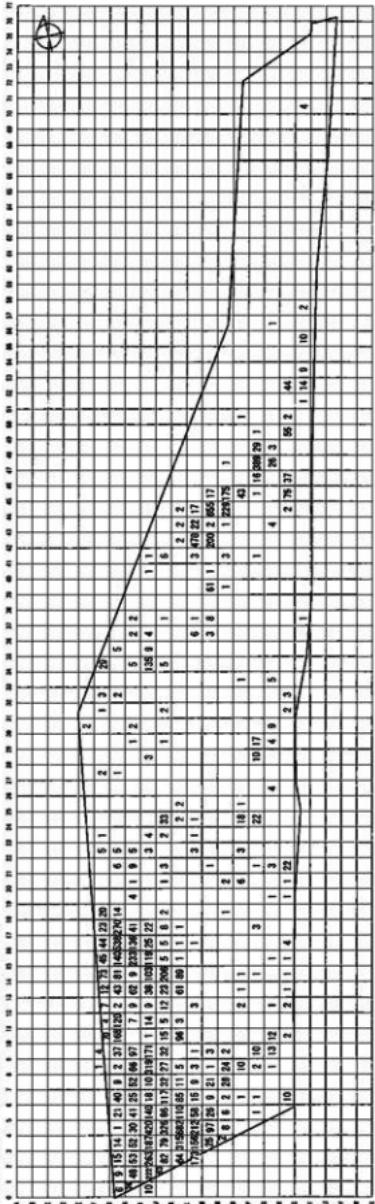


IV群 b類 30,234点 (うち塙川 1遺跡 59点)



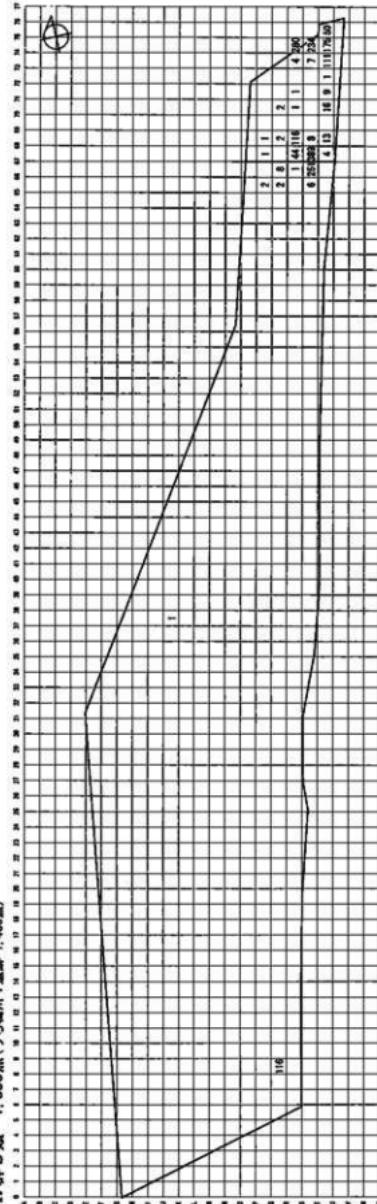
図IV-3-50 土器の分布 (4)

IV群 c類 11,652点(うち鰐川1道路 4点)

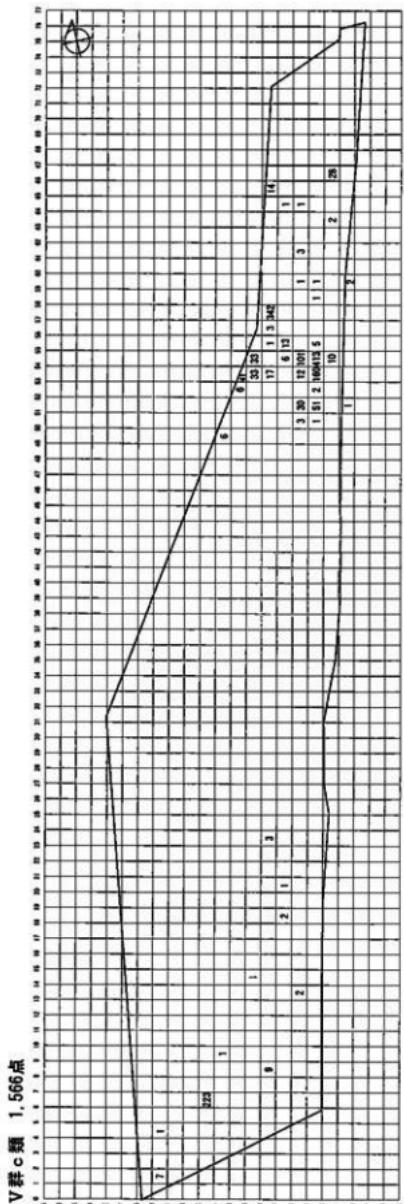


222

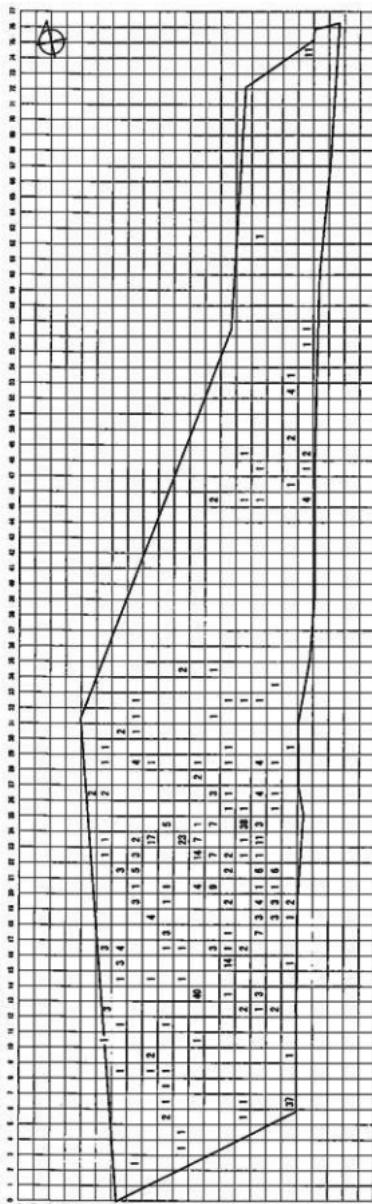
IV群 b類 1,853点(うち鰐川1道路 1,466点)



図IV-3-51 土器の分布 (5)



土製品 447点(うち梅川1遺跡 118点)



図IV-3-52 土器の分布(6)

(2) 石器等

祝梅川小野遺跡のIV～VII層からは剥片石器2,526点、剥片40,300点、礫石器3,033点、原石・礫・礫片6,079点、石製品29点の合計51,967点が出土している。この中から定型的で完形のものを中心に抽出し掲載した。剥片石器に占める黒曜石の割合は82%となり、頁岩やメノウの16%と比べて非常に高い。器種別では、黒曜石の割合が高いのは石錐の95%である。頁岩はつまみ付きナイフが67%、石錐が32%と剥片石器全体に比べて高い。礫石器では、石斧は緑色泥岩、すり石は砂岩、たたき石は砂岩、砥石は砂岩、石鍤は片麻岩が主体となる。器種によって石材を選考している様子が伺える。全般的な傾向としては、砂岩(46%)、泥岩・緑色泥岩(27%)・安山岩(15%)・凝灰岩(5%)・片岩(4%)・片麻岩(2%)・その他(1%)が利用されている。

細石刃(図IV-3-53-1~6/表10/図版86)

細石刃は13点出土している。打点側6点、中間部7点である。末端側は出土していない。すべて黒曜石製である。遺跡の東端部から9点が出土している。

1～3は打点側、4～6は中間部である。側縁に微細剥離痕がみられる。

石錐(図IV-3-53-7~56/表10/図版86)

石錐は918点出土している。石材は黒曜石が95%を占め、頁岩やメノウなどが5%である。

7～15は三角形錐。7～10は平基、11～15は凹基。8は赤褐色の黒曜石を使用している。13・15は抉りが深い。16～28は有茎錐平基。16～20は刃部が正三角形のもの。23は基部が全長よりも長い。29～39は有茎錐凸基。35は基部下端につまみ状の抉りがある。38・39は作りが粗く、未完成の可能性がある。40・41は柳葉形のもの。42は五角形のもの。44～56は円形の基部があるもの。46・48・51・53・54・56は基部が尖り気味になる。

石槍・ナイフ(図IV-3-54-57~67/表10/図版86・87)

石槍・ナイフは破片も含めて169点出土している。石材は黒曜石が89%、頁岩が11%である。

57～65は有茎の石槍。57～59はかえしが明瞭なもの。58は再調整によって刃部が短くなったと見られる。59は先端が欠損した後に再加工を施している。60～65はかえしの不明瞭なもの。62は下端部につまみ状の抉りを作出している。62・65は素材剥片の剥離面の一部を残す。66・67はナイフ。66は上端、67は両端に原石面を残す。

石錐(図IV-3-55-68~75/表10/図版87)

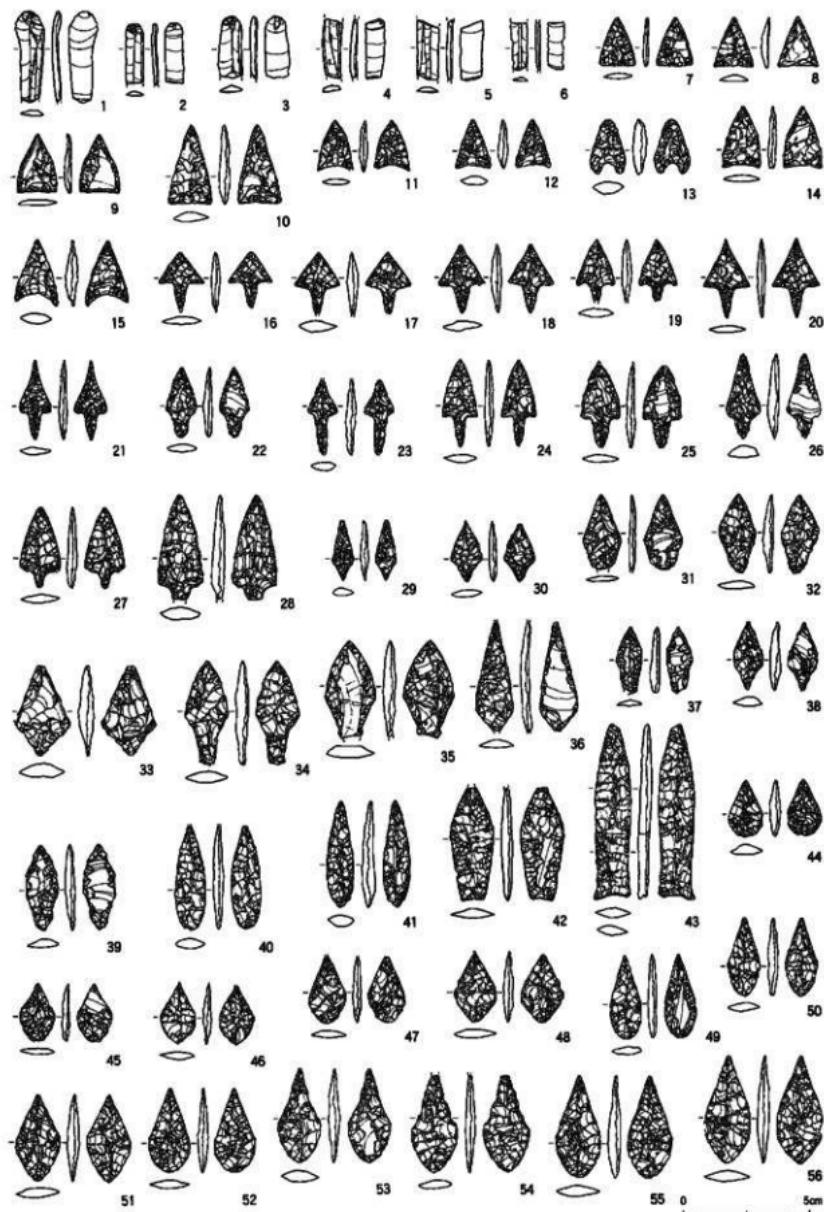
石錐は120点出土している。石材は黒曜石が64%、頁岩やメノウが32%、その他が4%である。

68・69は剥片の一部に刺突部を作り出したもの。70はつまみ付きナイフの破損品を再加工して機能部を作り出したと考えられる。71～74は棒状のもの。75はつまみ部が作り出されている。70・71・73・74・75は使用により先端が磨耗している。

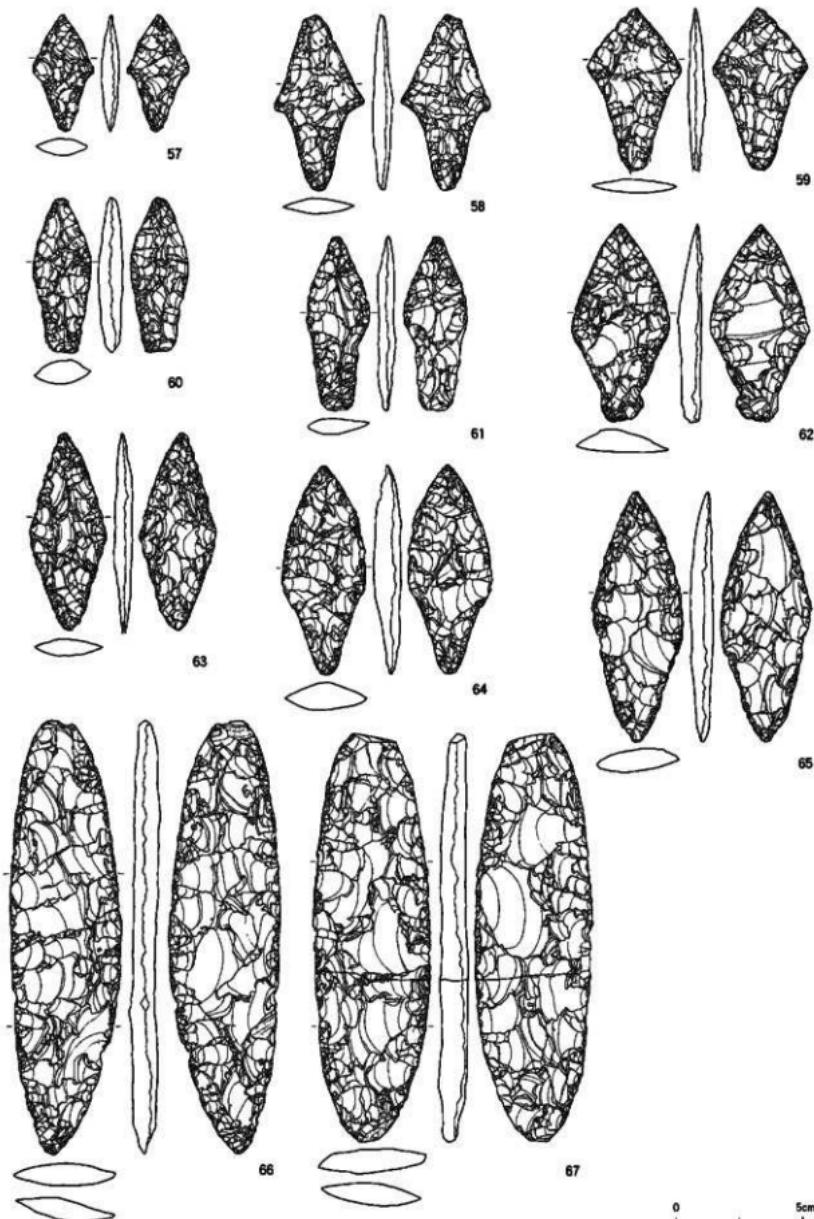
つまみ付きナイフ(図IV-3-55・56-76~90/表10/図版87・88)

つまみ付きナイフは319点出土している。石材は黒曜石が33%、頁岩が67%である。

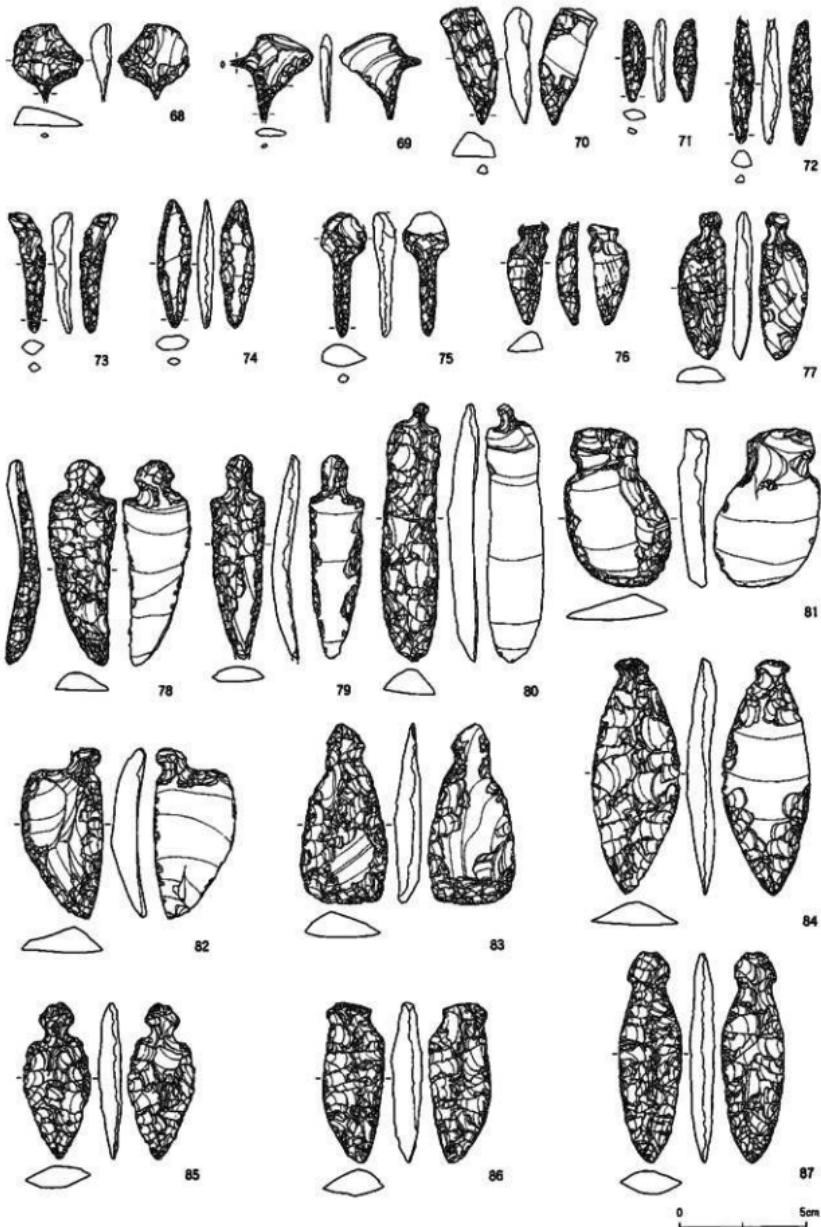
76～87は縦型のもの。76～80は片面全体に二次加工を施している。76は下端部を加工して石錐として使用されている。79は腹面側縁に調整がある。81・82は片面の周縁に二次加工を施しているもの。83～87は両面に二次加工を施しているもの。84は腹面つまみ部付近と下半部を二次加工している。88・89は横型のもの。両面周縁に二次加工を施している。90はつまみ部分の破損品を再加工したもの。



図IV-3-53 包含層の石器（1）



図IV-3-54 包含層の石器（2）



図IV-3-55 包含層の石器（3）

スクレイバー（図IV-3-56-91~105／表10／図版88）

スクレイバーは227点出土している。石材は黒曜石が75%、頁岩が17%、その他8%である。

91~94は剥片の側縁に直線的な刃部のあるもの。95は下端部で収斂する加工を施されたもの。96~102は素材剥片の周縁に刃部を設けたもの。103・104は素材剥片の下端部に刃部を設けたもの。105は縱長剥片の側縁に抉りのあるもの。

両面調整石器（図IV-3-57-106~109／表10／図版88）

両面調整石器は48点出土している。石材は黒曜石が92%、頁岩4%、その他4%である。本来は石鎌や石槍・ナイフなどの破片や未成品と考えられるものである。

106~109は両面を二次加工し、木葉形をしている。石槍やナイフの未成品と考えられる。

石斧（図IV-3-57・58-110~121／表10／図版88・89）

石斧は破片を含めて579点出土している。石材は、緑色泥岩や泥岩が82%、片岩が17%、その他1%である。

110は乳房形、112・113は撥形、111・114~120は短冊形。110・111は敲打による整形がみられる。110は破損部分を敲打によって再調整し利用している。112は成形時の剥離痕が残る。113~121は全面を研磨している。113は素材礫の形状を生かして刃部を作り出している。115は基部端部に敲打痕がみられる。117は両端に刃部を設けている。118はかまばこ型の断面をしている。素材礫を半割した際の形状を利用したとみられる。刃部は基本的には円刃、両刃であるが、111~113・120は直刃、118・120は片刃である。

石のみ（図IV-3-58-122~125／表10／図版89）

石のみは20点出土している。石材は緑色泥岩や泥岩が75%、片岩が25%である。

122~125は研磨によって整形したもの。刃部は円刃、両刃である。122は緑色泥岩の剥片に刃部を設けている。124は左側縁に擦り切り痕が確認できる。125は両端に刃部を設けている。

たたき石（図IV-3-59-126~134／表10／図版89・90）

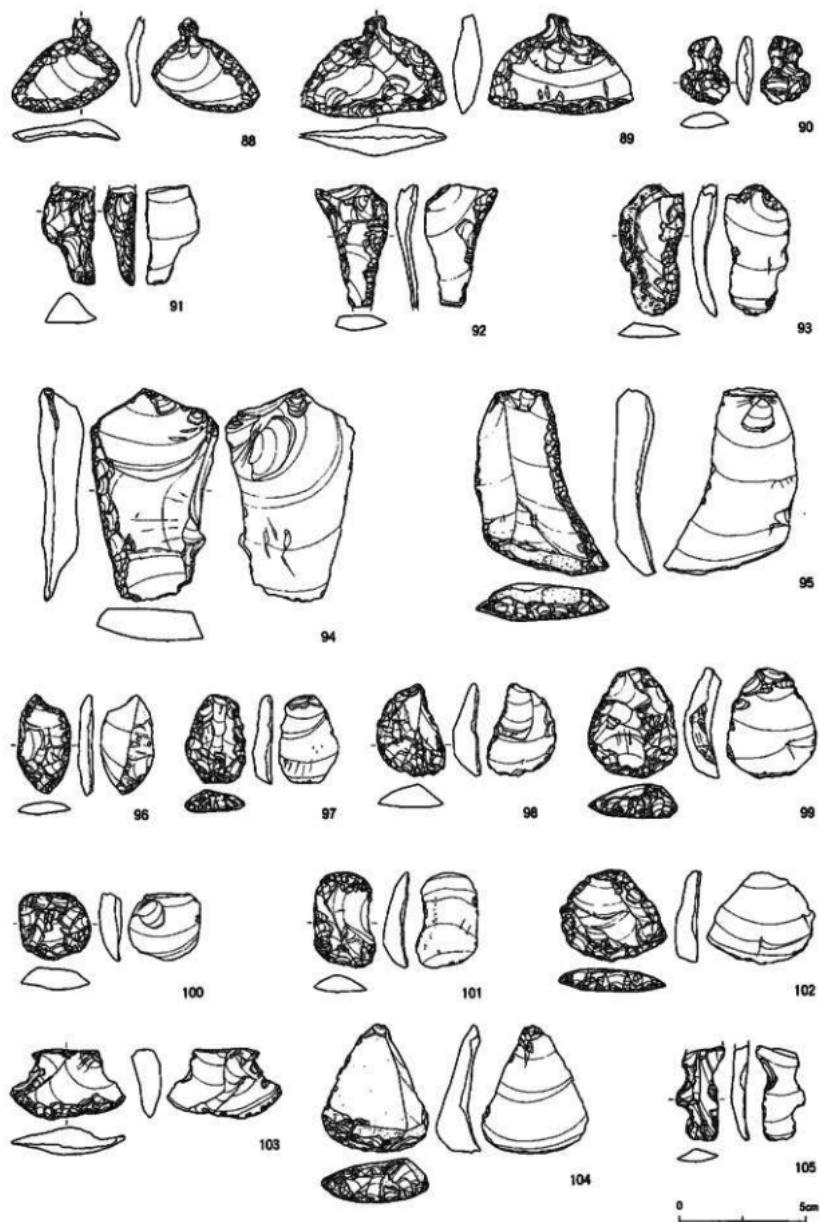
たたき石は破片を含めて387点出土している。石材は砂岩43%、泥岩・緑色泥岩21%、安山岩21%、その他15%である。

126は扁平な楕円礫の腹背部に敲打痕がある。127は断面が隅丸方形の棒状礫の平坦面に敲打痕がある。128は扁平礫の腹背部に敲打痕がある。129・130は楕円礫の両端に敲打痕がある。131は石斧破損品を再利用したもの。両端に敲打痕があり、下端の一部に擦痕がみられる。132・133は扁平な円礫の周縁に敲打痕がある。134は円礫の表面全体に敲打痕がある。

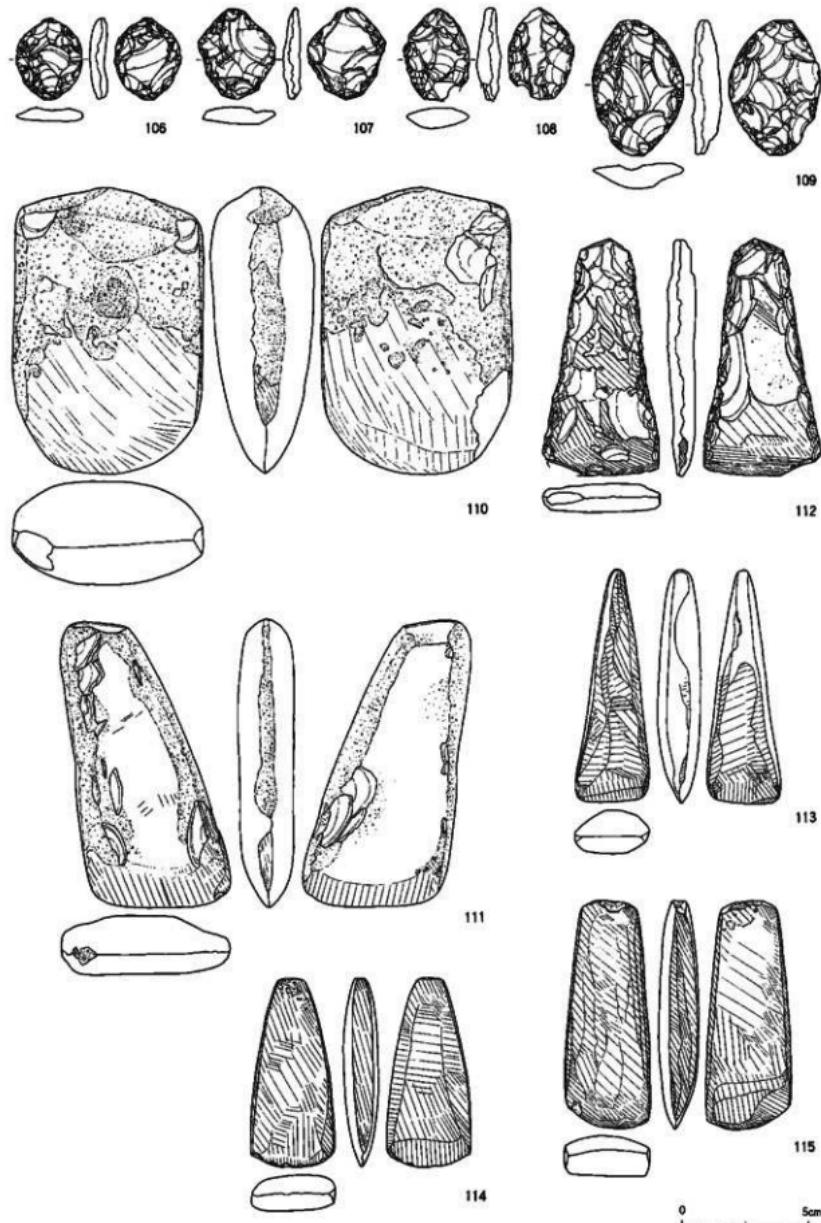
すり石（図IV-3-59・60-135~142／表10／図版90）

すり石は破片を含めて826点出土している。うち北海道式石冠が660点を占める。完形品は非常に少なく、ほとんどが破損品である。石材は、すり石全体では砂岩71%、安山岩24%、その他5%である。北海道式石冠では砂岩74%、安山岩23%、その他3%である。北海道式石冠以外のすり石では砂岩59%、安山岩28%、その他13%である。北海道式石冠では砂岩の割合が高くなる傾向がある。

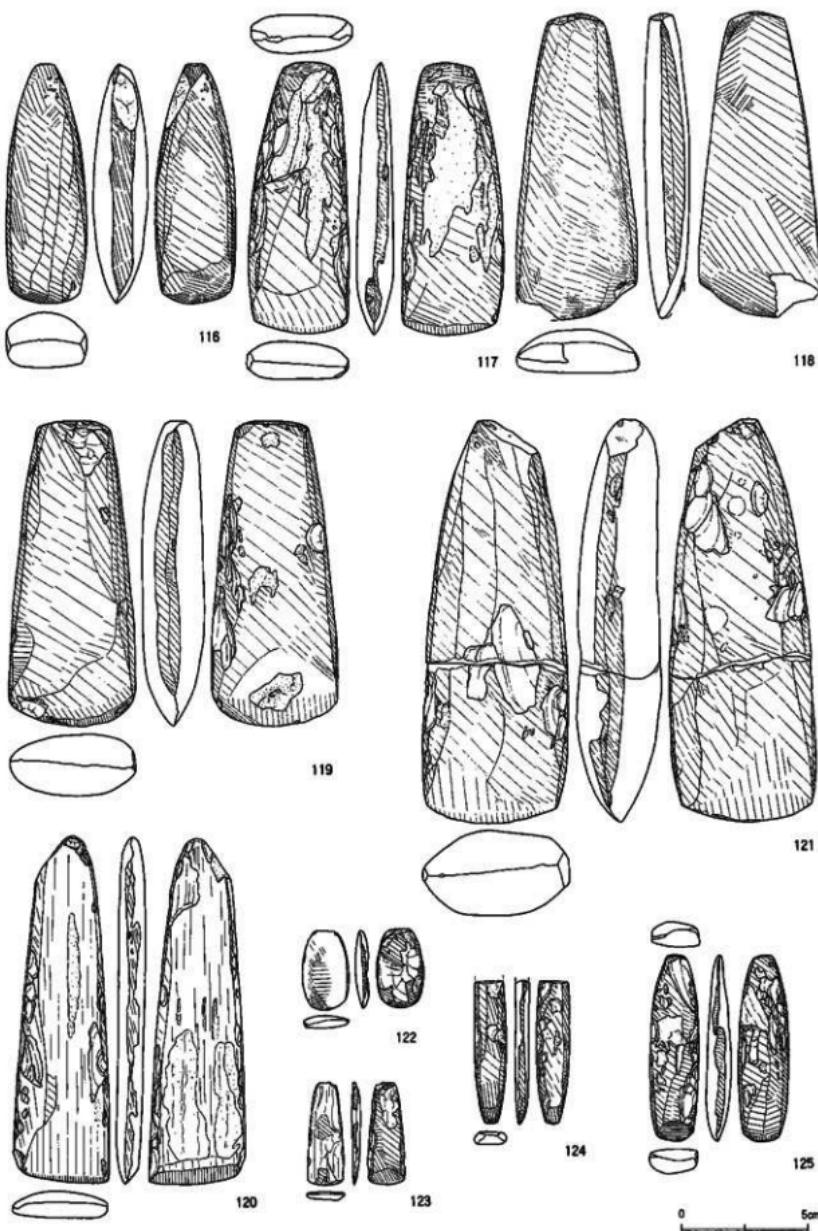
135は断面三角形のもの。2か所の稜に擦り面がある。136は円礫に7面の擦り面がある。敲打痕もみられる事から、たたき石と複合した可能性がある。137は扁平な円礫の腹背部に曲面をなす擦り面がある。周縁には敲打痕がある事から、たたき石と複合した可能性がある。腹面には被熱によるじけがある。138~140は北海道式石冠。敲打によって整形している。141・142は扁平礫の一側縁に擦り面がある。141は長軸両端を打ち欠いている。石錘の転用品の可能性もある。142は長軸両端を敲打によって整形している。腹部に敲打痕がみられ、たたき石と複合した可能性がある。



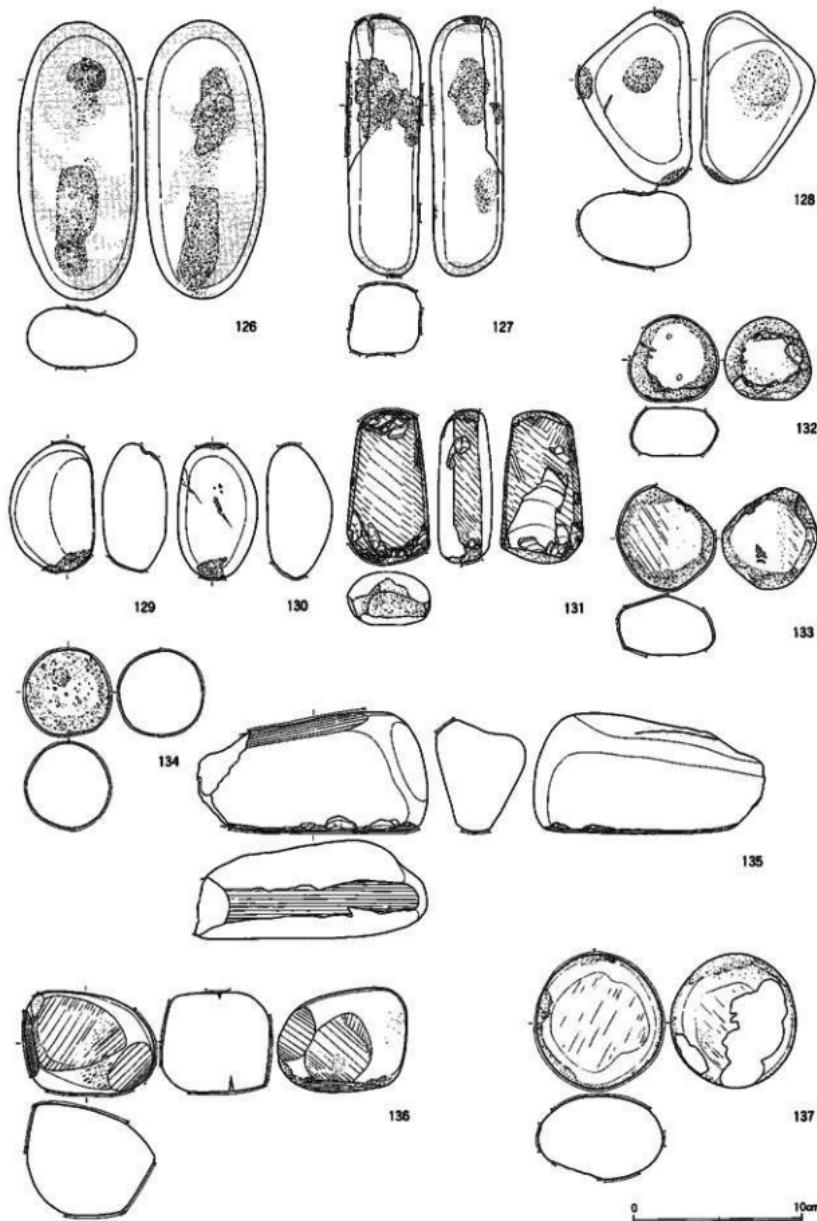
図IV-3-56 包含層の石器（4）



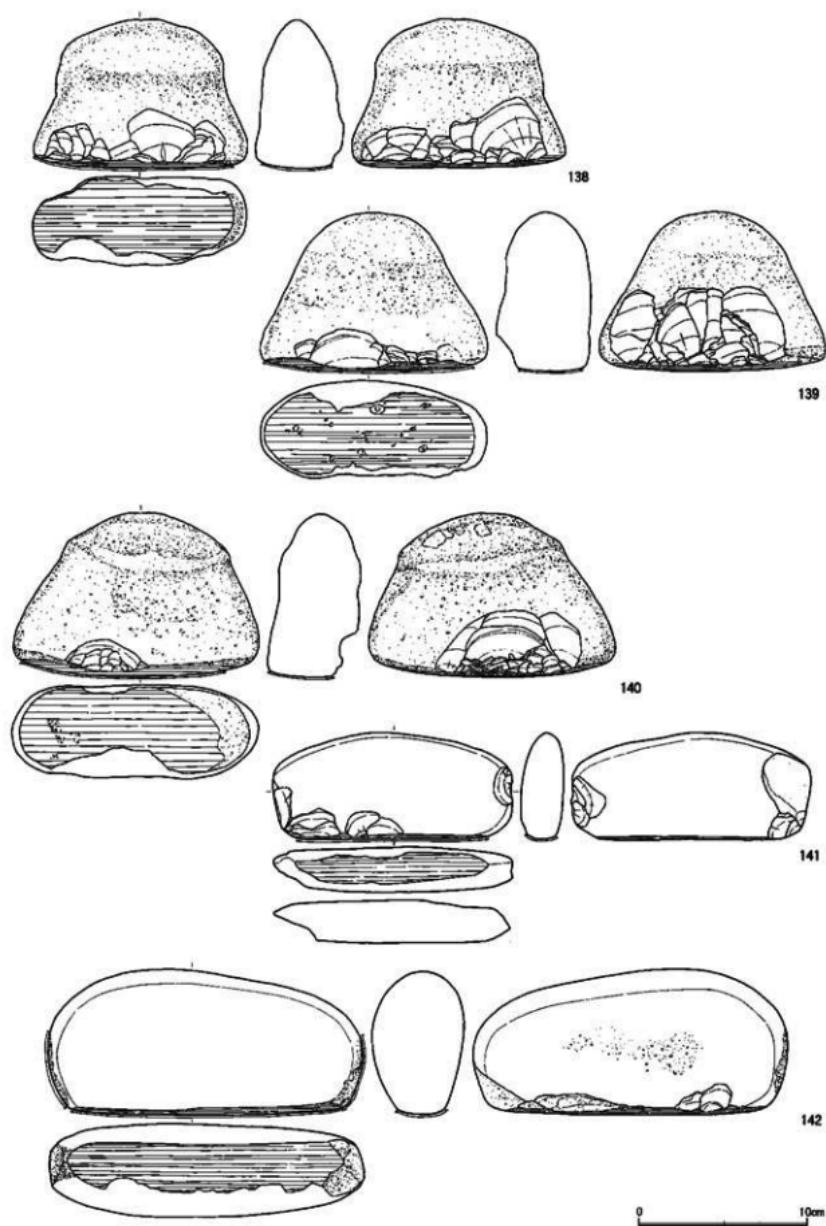
図IV-3-57 包含層の石器（5）



図IV-3-58 包含層の石器（6）



図IV-3-59 包含層の石器（7）



図IV-3-60 包含層の石器（8）

石鏟（図IV-3-61-143・144／表10／図版90）

石鏟は12点出土している。石材は砂岩83%、その他17%である。

143は下辺と右辺の2か所に直線的な刃部を作り出している。腹背面に研磨面がみられる事から、砥石の破損品の周縁を剥離によって成形し、刃部を作り出したと考えられる。

砥石（図IV-3-61-145～147／表10／図版90・91）

砥石は435点出土している。ほとんどが破片である。石材は砂岩が95%を占める。

145・146は板状礫の腹背面に研磨面がある。146はO44調査区内から出土した破片114点が接合した。147は四面砥石。断面方形の棒状礫の四面に研磨面がある。

石錘（図IV-3-61-148～152／表10／図版91）

石錘は62点出土している。石材は片麻岩が66%、砂岩13%、安山岩13%、その他8%である。

148～151は扁平礫の長軸両端を打ち欠いている。打ち欠き部分の稜は使用による磨耗で丸くなっている。152は扁平礫を剥離によって長方形に成形し、長軸両端を打ち欠いている。打ち欠き部分の稜は敲打によって潰されている。腹面に大きな剥離がある。石斧の未成品を転用した可能性がある。

台石（図IV-3-62-153／表10／図版91）

台石は58点出土している。ほとんどが破片である。石材は安山岩38%、凝灰岩31%、砂岩29%である。

153は表面および周縁部を打ち欠きと敲打によって調整している。表面の一部にうすく黒色の付着物がある。

石皿（図IV-3-62-154／表10／図版91）

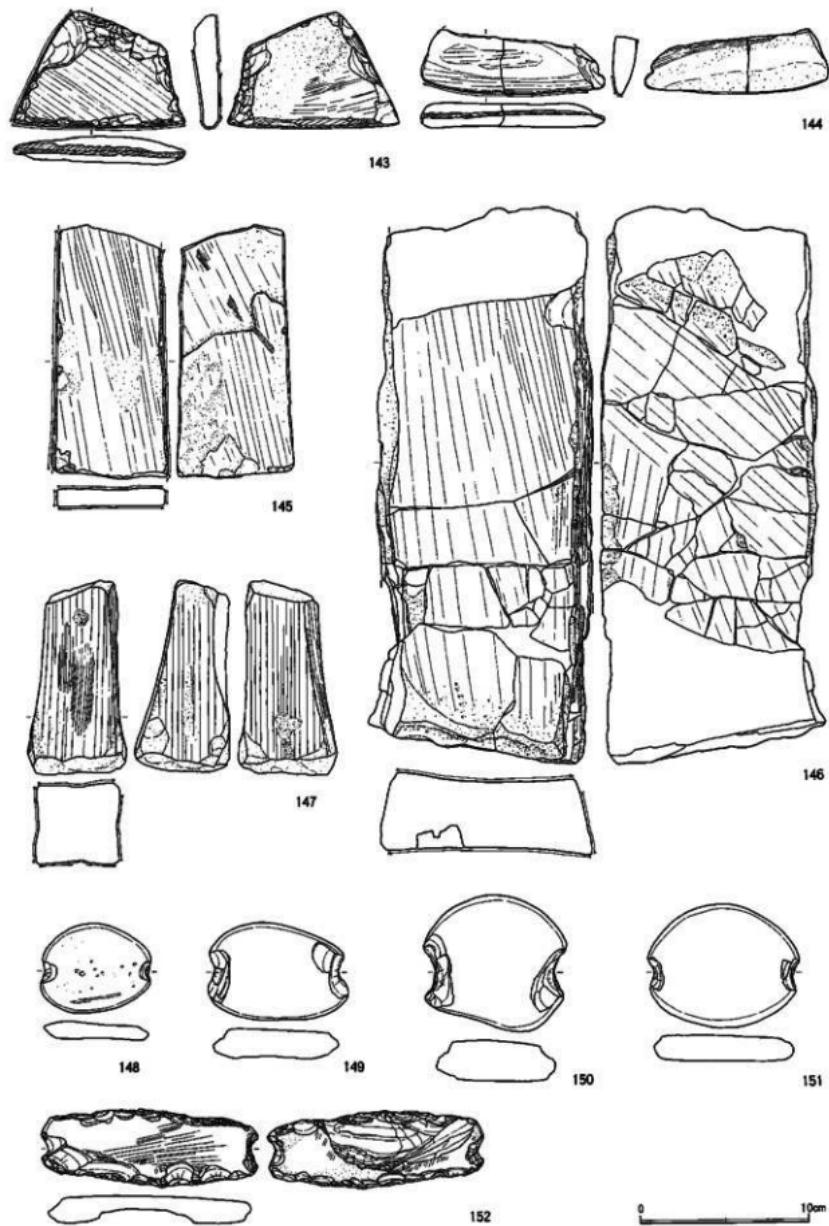
石皿は202点出土している。ほとんどが破片である。石材は安山岩40%、凝灰岩32%、砂岩26%、その他2%である。

154は礫の平坦面に浅く凹む使用面がある。擦り面の周囲には敲打痕がみられる事から、平坦面を敲打によって調整した後に擦り面として使用したと考えられる。擦り面には赤色顔料がみられる。

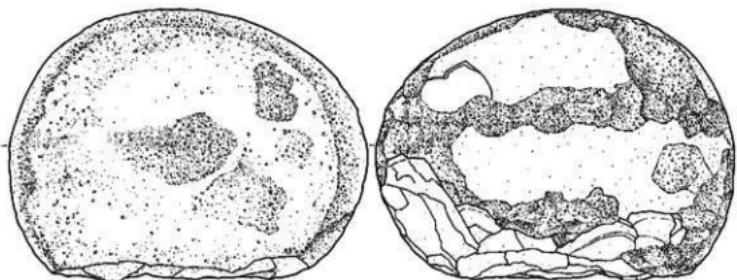
石製品（図IV-3-63・64-155～176／表10／図版92）

石製品は29点出土している。軽石製石製品3点、黒曜石製石製品5点、粘板岩製石製品1点、砂岩製石製品1点、有孔石製品14点（うち玉類13点）、オロシガネ状石製品3点、棍棒形石器1点（2点接合する）である。

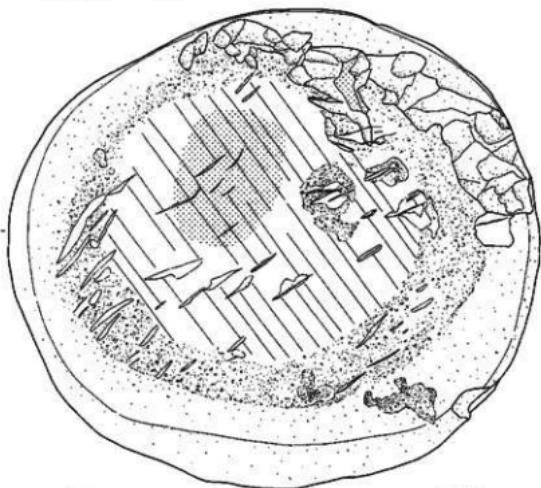
155～157は軽石製石製品。周縁部を調整して平面形が円形～楕円形にしている。浮子の可能性がある。158～160は黒曜石製石製品。157は三角形鐵平基の両側刃部に鋸歯状の抉りを施したもの。159は四隅に突起状の尖端を作出したもの。160は釣針状に作出されたもの。片側を欠損する。161～173は有孔石製品。穿孔は両面から行われている。161～172は玉類。161～163・167は穿孔痕が確認できないほど孔内が研磨されている。165・166は平玉。167・168は垂飾。167は三角形状のもの。169・170は素材礫に穿孔したもの。玉の未成品とみられる。171・172は自然礫の2か所に穿孔したもの。172は凝灰岩の薄く扁平な楕円礫を利用したもの。同様のものが祝梅川小野遺跡や梅川4遺跡のⅢ層から出土しており、Ⅲ層からの混入の可能性がある。173は板状礫を半円形に加工し、全面を敲打と研磨によって整形している。中央に両面から開口部で直径3.0cmの穿孔を施されている。174・175はオロシガネ状石製品。この他に破片が1点出土している。174の上端部には3つの突起が設けられている。中央の突起の下側に両面から施された穿孔が1か所ある。開口部で直径1.2cmである。背面周縁には幅1.0cm・高さ0.7cmほどの高まりを廻らしている。175は突起部分を欠損している。176は棍棒形石器といわれるもの。大きさは、長さ31.5cm・幅8.1cm・厚さ1.9cm・重さ595.0gで片岩製である。扁平な石



図IV-3-61 包含層の石器（9）



153

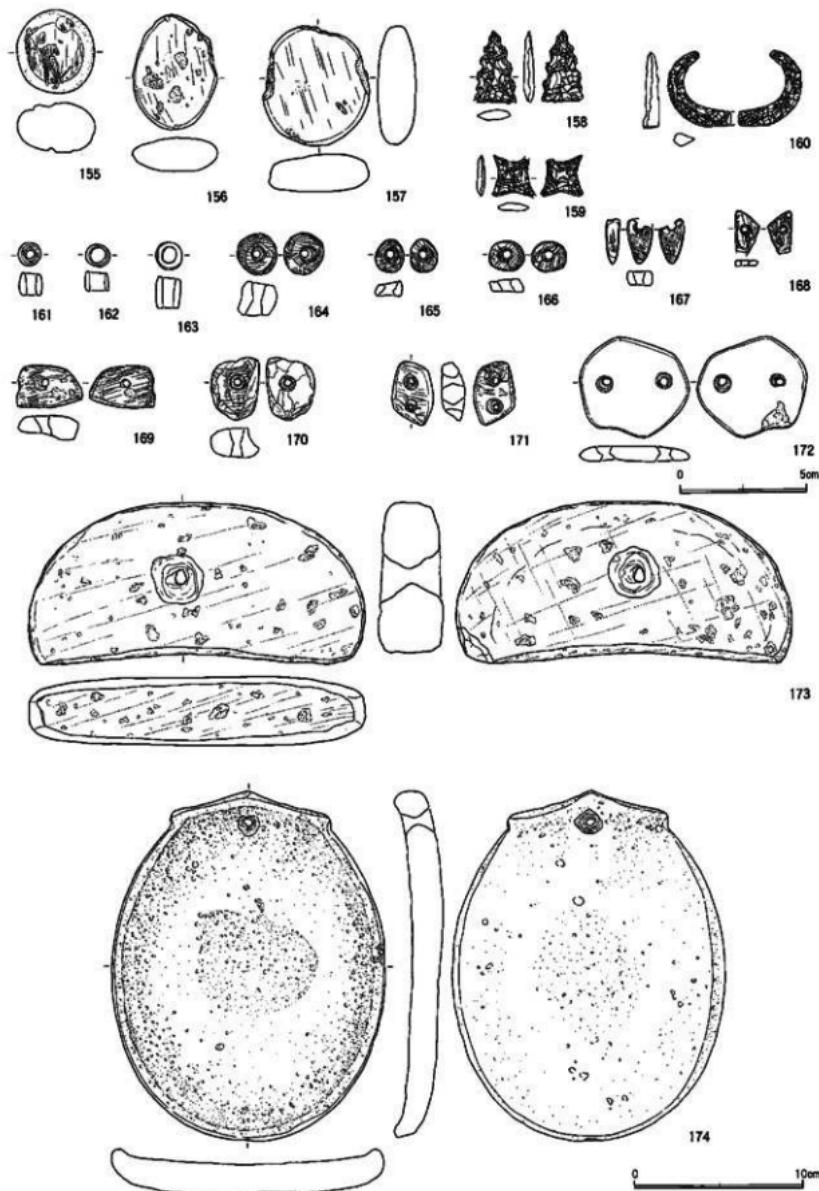


154

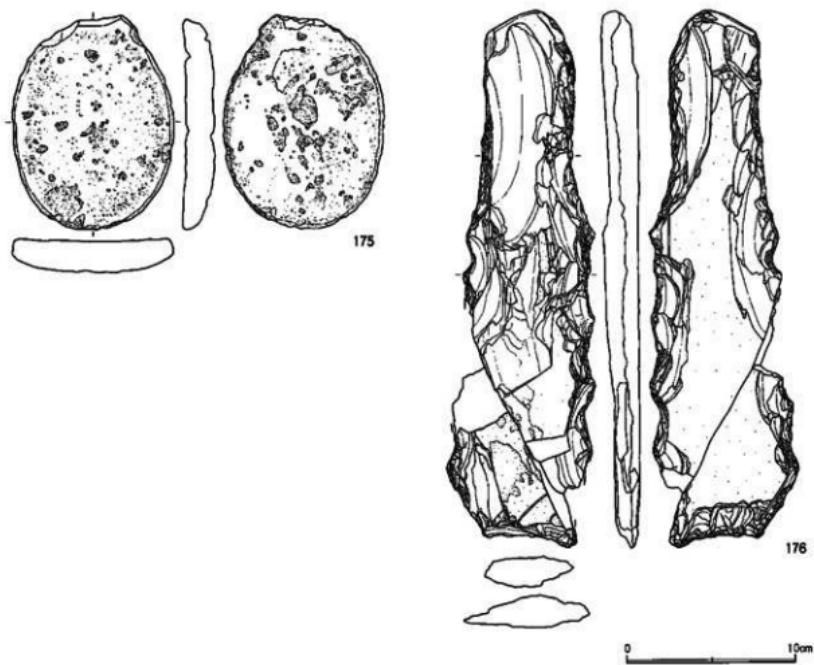


0 10cm

図IV-3-62 包含層の石器 (10)



図IV-3-63 包含層の石製品（1）

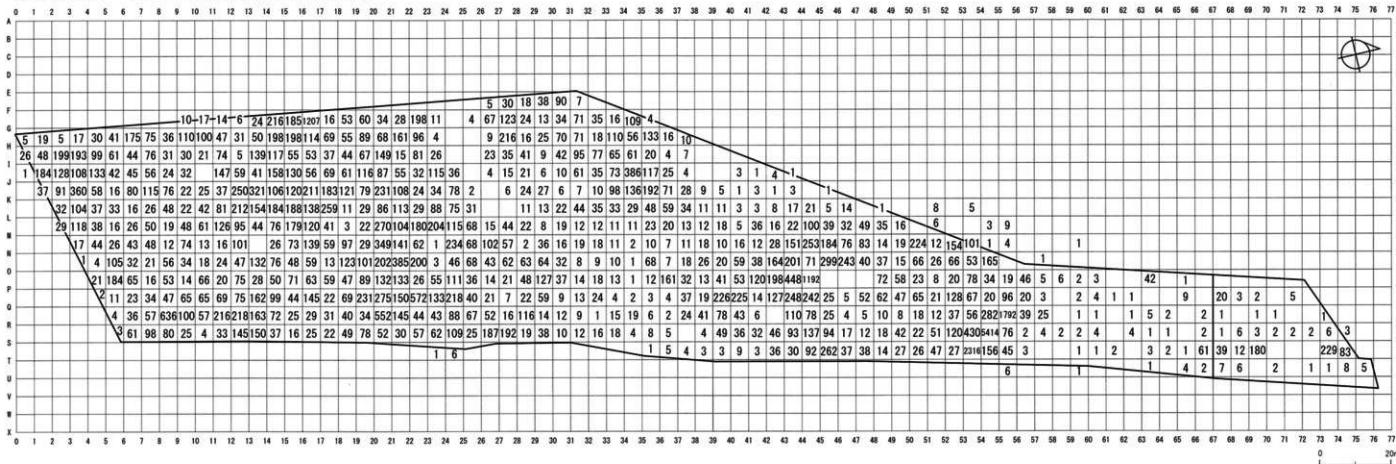


図IV-3-64 包含層の石製品（2）

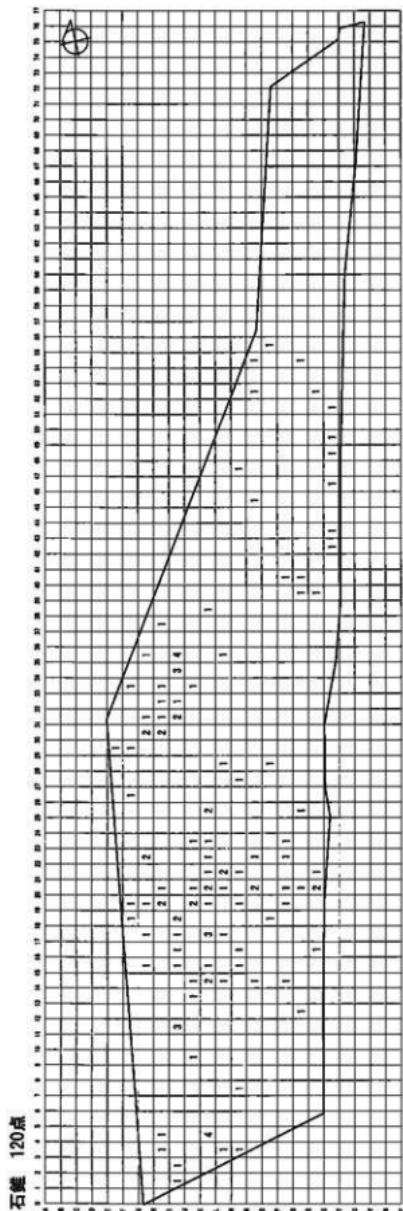
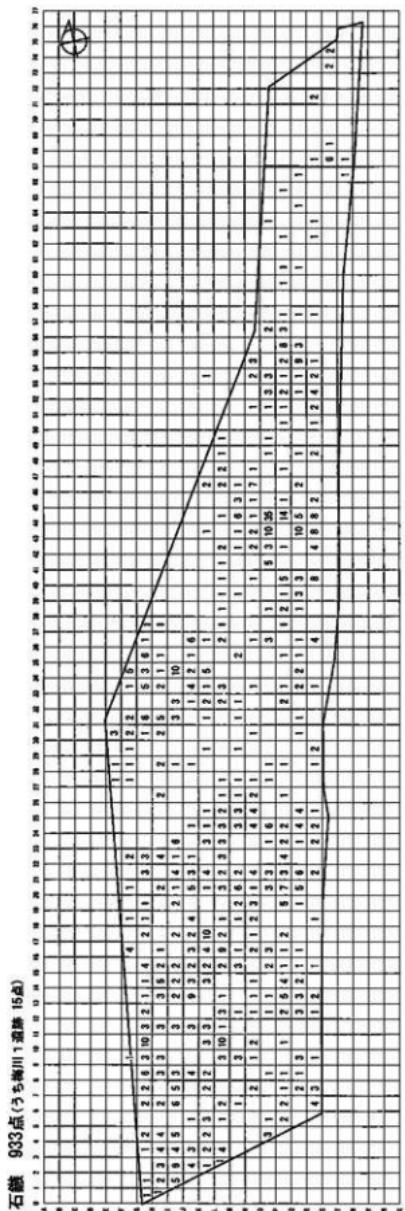
器素材の両側縁を打ち欠いて整形している。両面に礫表皮を残す。柄部側はやや細く、側縁は平行で細かい剥離により潰れている。刃部側はやや幅広、側縁は平行で鋸歯状になる。刃部には欠損部分があるが、刃は右側5個、左側6個が確認できる。刃をあまり強調せず、全体的に細身のタイプである。直線距離で約90m離れた2点が接合した。刃部先端側の破片は、被熱により暗赤褐色をしている。同様の石製品は赤平市、苫小牧市、富良野市、遠軽町、豊頃町、平取町、和寒町、むかわ町（北埋調報259）、泊村で確認されている。石狩低地帯～道東北地域に分布が見られ、縄文時代中期の遺物とされている（野村 1985）。

（酒井）

石器総合計 52,602点(うち梅川1遺跡 635点)

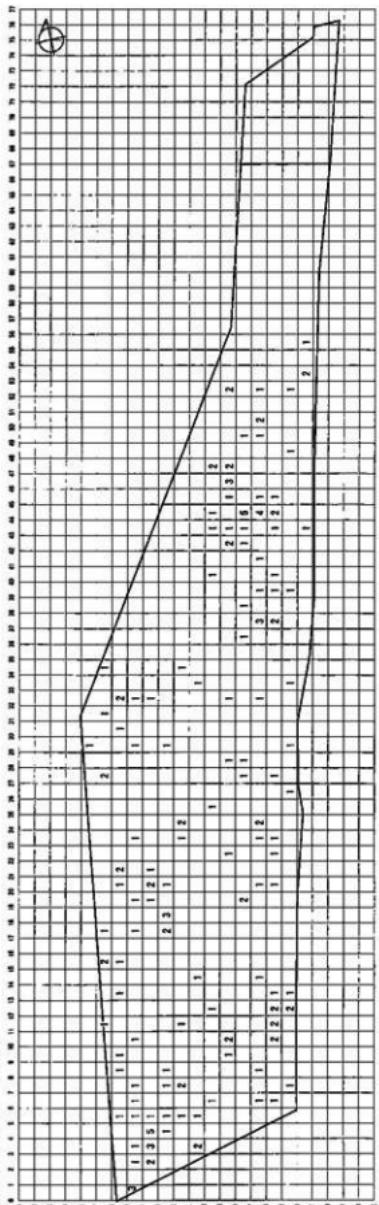


図IV-3-65 石器の分布（1）

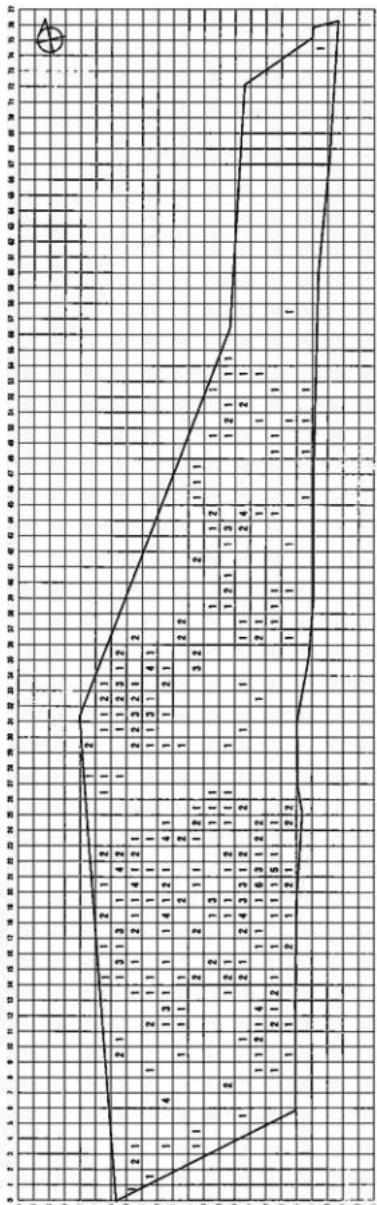


図IV-3-66 石器の分布（2）

石棒・ナイフ 169点

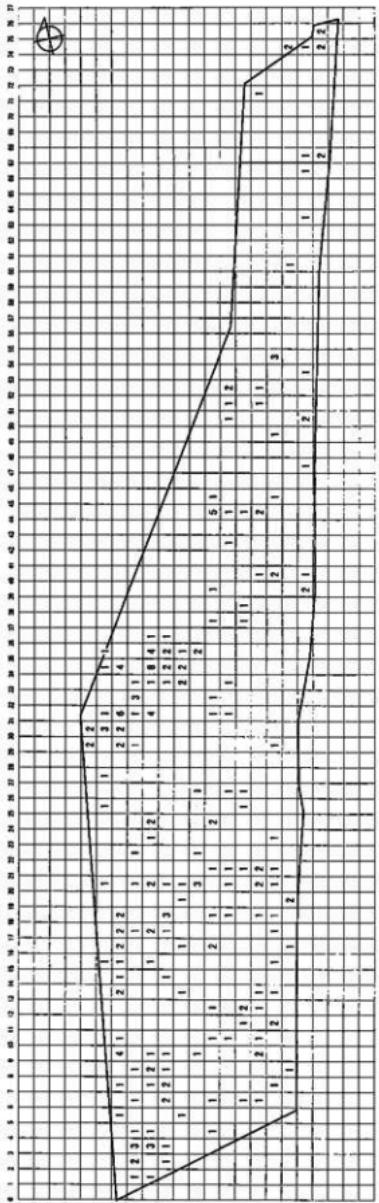


つまみ付きナイフ 320点(うち海川1遺跡1点)

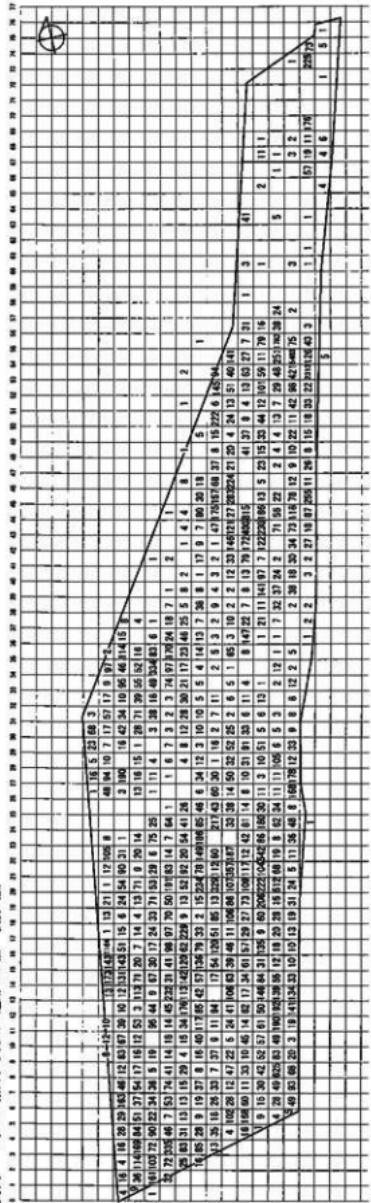


図IV-3-67 石器の分布（3）

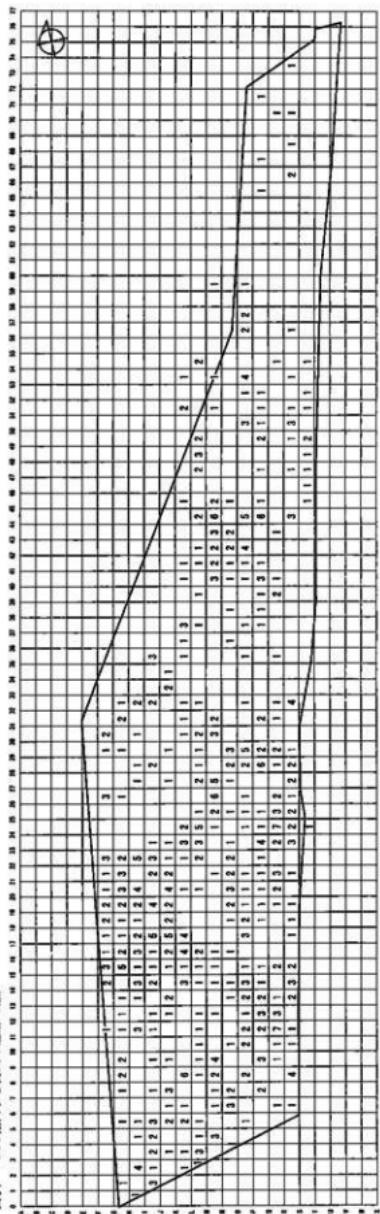
スクレイバー 238点(うち塊川1遺跡 11点)



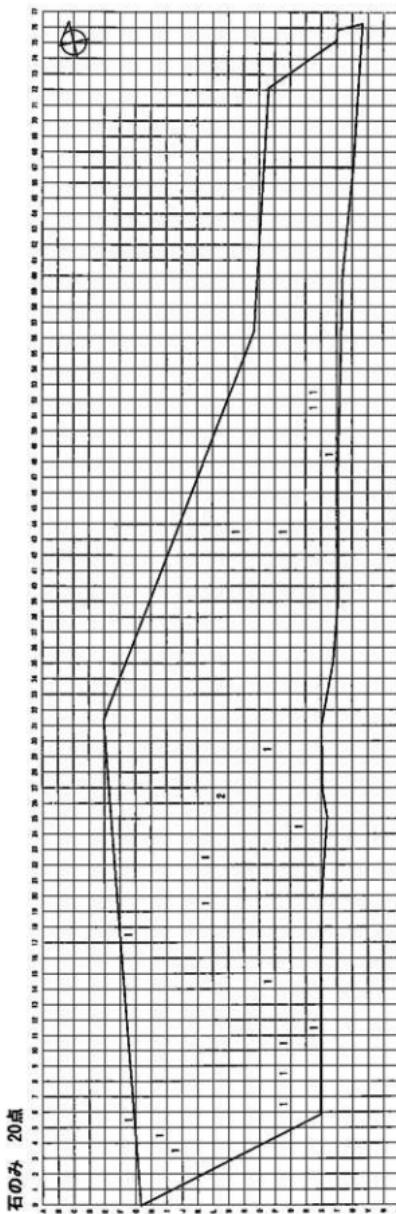
剥片 40. 842点(うち塊川1遺跡 542点 総計1点)



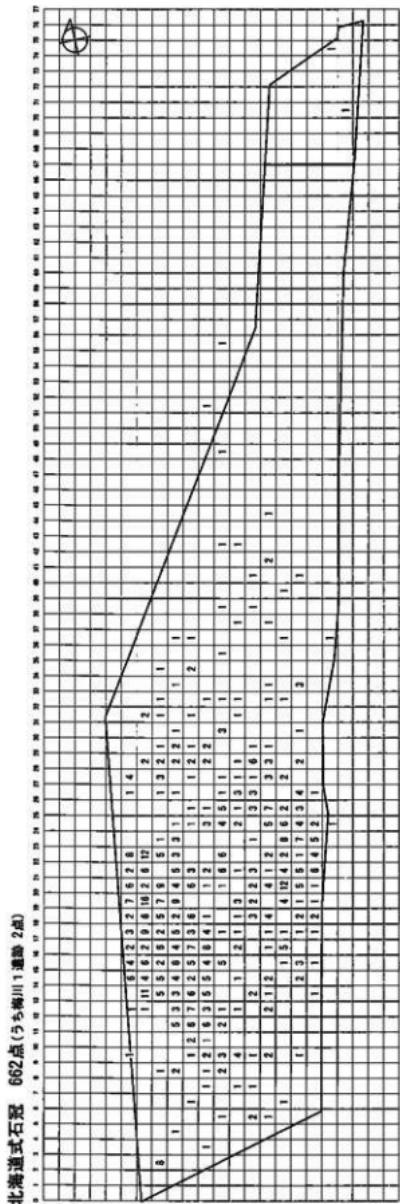
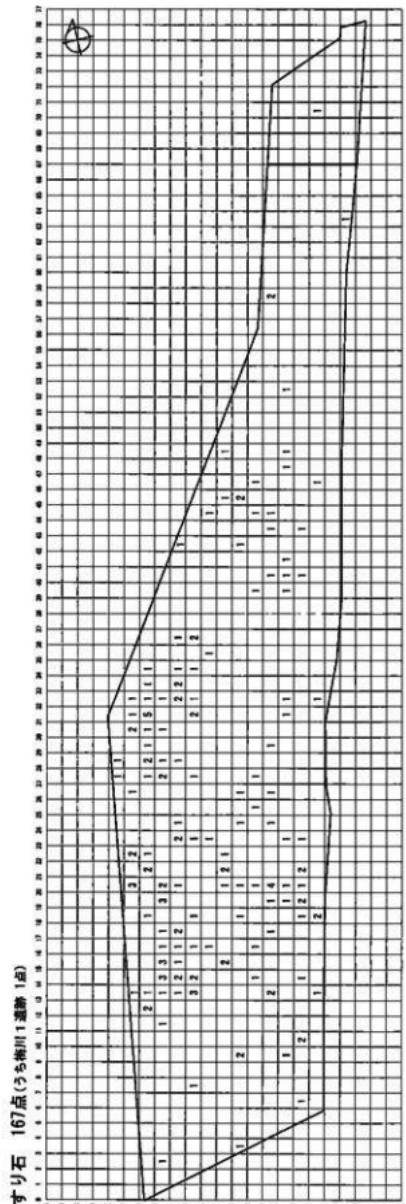
図IV-3-68 石器の分布(4)



石のみ 20点

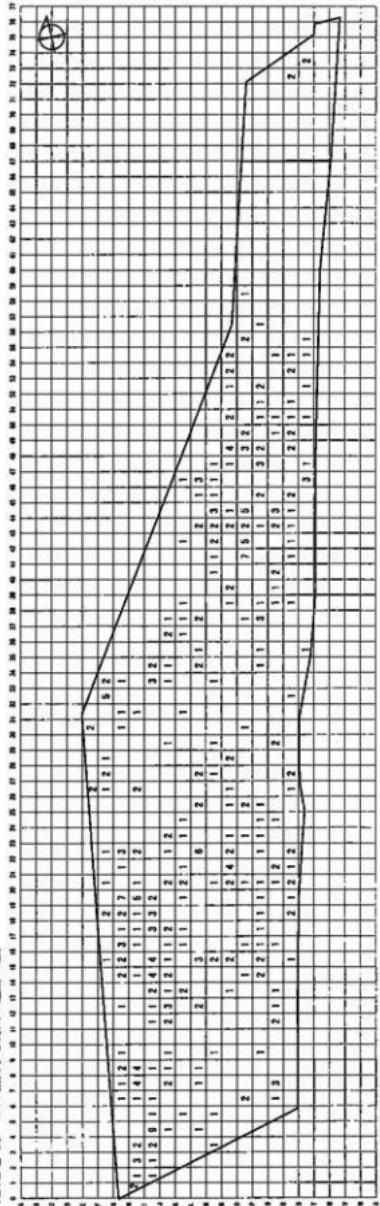


図IV-3-69 石器の分布(5)

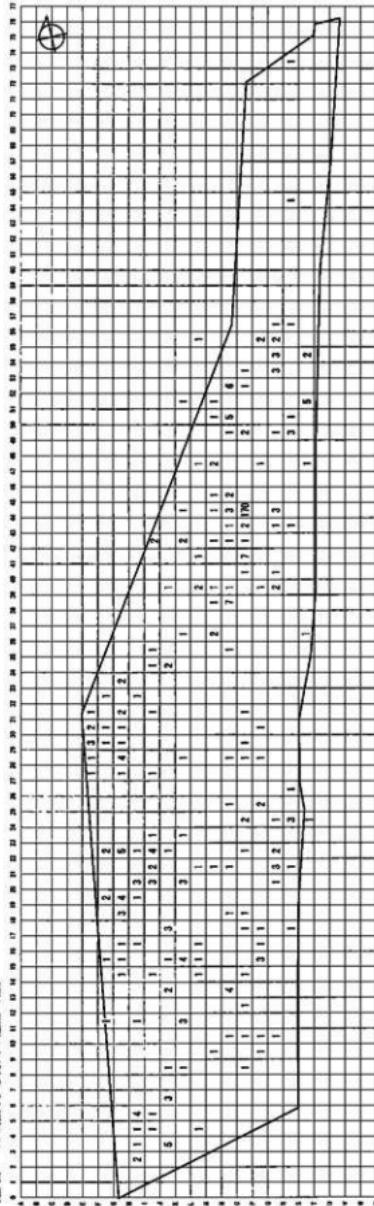


図IV-3-70 石器の分布(6)

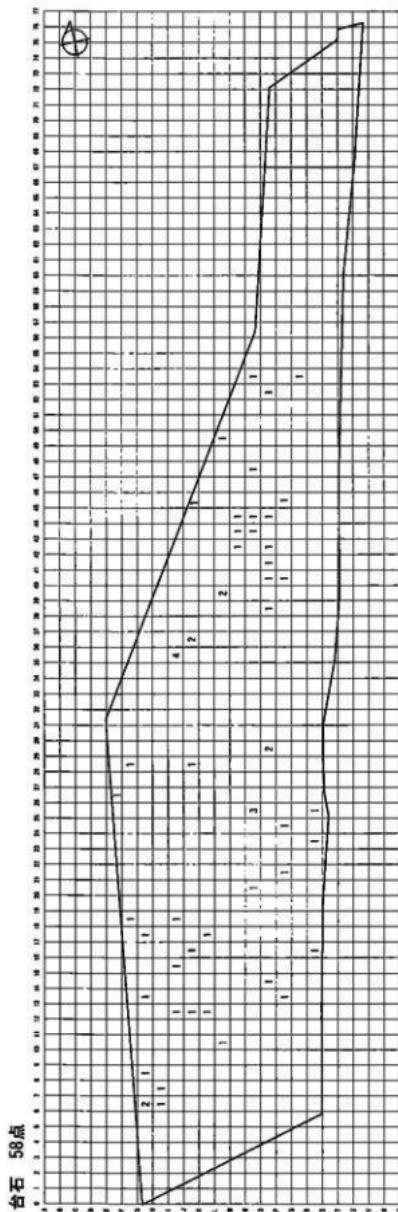
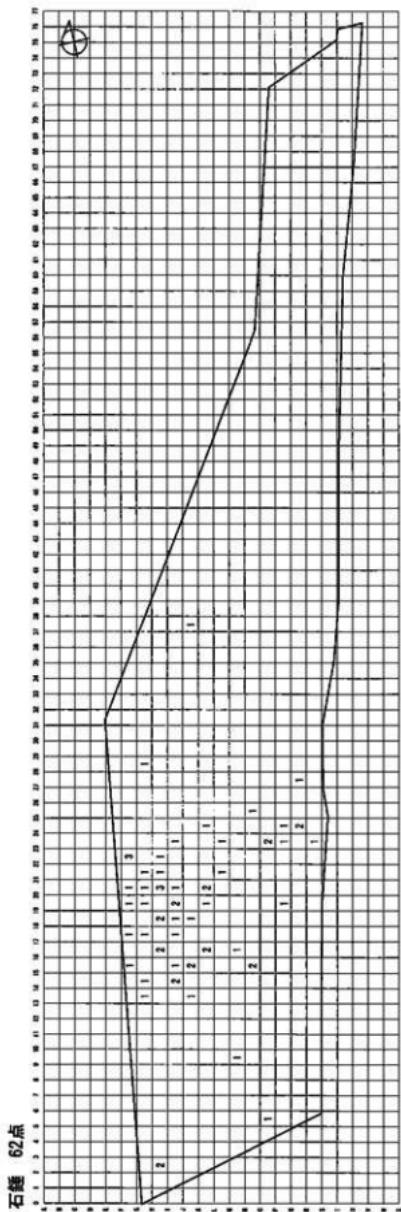
たたき石 391点(うち梅川1遺跡4点)



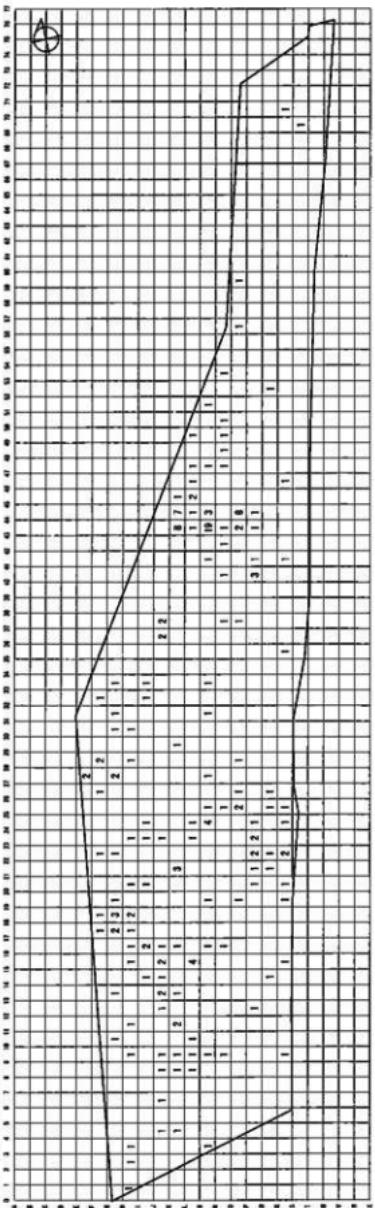
砥石 436点(うち梅川1遺跡1点)



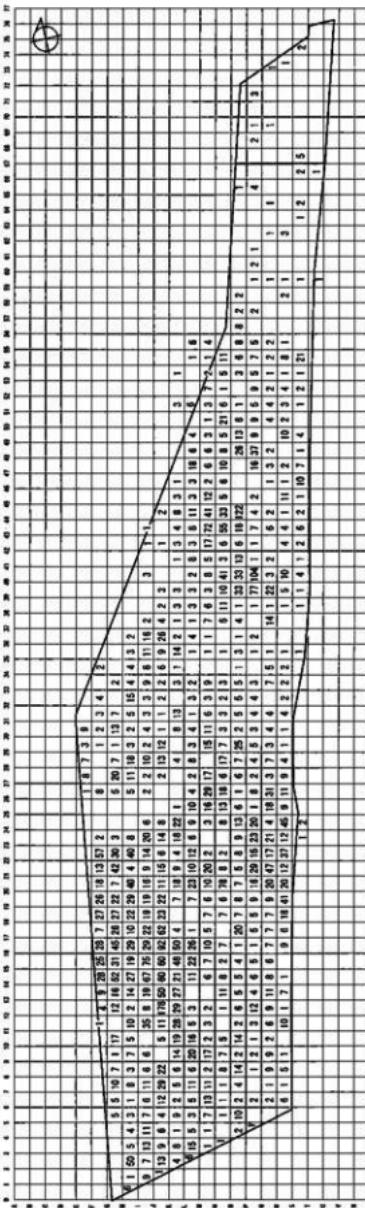
図IV-3-71 石器の分布(7)



図IV-3-72 石器の分布（8）



図IV-3-72 石器の分布(8)



図IV-3-73 石器の分布(9)

表1 検出遺構規模一覧

遺構別	遺構名	調査区	面積(m ²)				時期(鉄文時代)	特徴	図番号	図版番号				
			上層		下層									
			基盤	基礎	基盤	基礎								
VH-1	R 4 ~ 5		8.40	4.28	4.80	5.22	0.30	ベンチ状構造						
	H P - 1	R 7 b	0.83	0.22	0.12	0.07	0.26							
	H P - 2	R 7 c	0.17	0.16	0.06	0.04	0.08							
	H P - 3	R 7 c	0.20	0.16	0.06	0.05	0.06							
	H P - 4	R 8 b	0.24	0.23	0.08	0.05	0.14							
	H P - 5	R 7 b	0.16	0.16	0.06	0.06	0.10							
	H P - 6	R 7 c	0.18	0.15	0.08	0.07	0.04							
	H P - 7	R 7 c	0.19	0.16	0.06	0.06	0.13							
	H P - 8	R 7 c	0.19	0.17	0.06	0.04	0.08							
	H P - 9	R 8 b	0.18	0.16	0.05	0.04	0.17							
	H P - 10	R 7 a	0.26	0.24	0.10	0.05	0.16							
	H P - 11	R 7 b	—	0.27	—	—	0.36							
	H P - 12	R 7 d	0.12	0.11	0.04	0.04	0.05							
	H P - 13	R 6 c	0.25	0.20	0.10	0.05	0.16							
	H P - 14	R 6 b ~ c	0.20	0.18	0.06	0.04	0.21							
	H P - 15	R 6 d	0.18	0.16	0.06	0.06	0.12							
	H P - 16	Q 8 b ~ R 5 a	0.14	0.12	(0.08)	0.08	0.18							
	H P - 17	R 8 b	0.20	0.20	0.09	0.06	0.09							
	H P - 18	R 7 d ~ R 8 a	0.30	0.18	0.04	0.04	0.12							
	H P - 1	R 7 c	0.92	—	—	—	0.12							
	H P - 2	R 7 c	0.72	—	—	—	0.10							
	H P - 3	R 8 b	0.62	—	—	—	0.08							
VH-2	Q ~ R 10 ~ 11		8.14	7.14	7.67	6.93	0.30	V P - 13に接される						
	H P - 1	Q 10 c	1.44	1.34	1.28	1.14	0.10							
	H P - 2	R 10 b ~ c ~ R 10 d	1.12	0.64	0.96	0.45	0.11							
	H P - 3	Q 11 a	0.20	0.16	0.07	0.06	0.14							
	H P - 4	Q 11 b	0.34	0.31	0.21	0.18	0.05							
	H P - 5	Q 11 b	0.12	0.11	0.04	0.04	0.12							
	H P - 6	Q 10 c	0.22	0.20	0.14	0.13	0.11							
	H P - 7	Q 10 d	0.34	0.22	0.15	0.12	0.12							
	H P - 8	Q 10 d	0.17	0.16	0.08	0.07	0.25							
	H P - 9	Q 10 d	0.18	0.16	0.09	0.08	0.30							
	H P - 10	Q 10 a	0.23	0.21	0.06	0.06	0.12							
	H P - 11	R 10 d	0.22	0.20	0.12	0.12	0.10							
	H P - 12	R 10 d ~ R 11 a	0.27	0.24	0.11	0.10	0.10							
	H P - 13	Q 11 b ~ c	0.14	0.13	0.05	0.05	0.10							
	H P - 14	Q 11 b ~ R 11 a	0.22	0.20	0.09	0.08	0.16							
	H P - 15	Q 11 d	0.22	0.20	0.08	0.07	0.12							
	H P - 16	Q 11 d	0.16	0.13	0.08	0.06	0.38							
	H P - 17	R 10 a	0.38	0.28	0.12	0.11	0.47							
	H P - 18	R 10 a	0.18	0.15	0.08	0.06	0.26							
	H P - 19	Q 10 b ~ R 10 a	0.30	0.26	0.12	0.11	0.28							
VH-3	H P - 20	Q 11 a	0.24	0.15	0.10	0.06	0.23							
	H P - 21	Q 11 c	0.35	0.24	0.07	0.07	0.49							
	H P - 22	Q 10 b	0.14	0.12	(0.05)	0.07	0.37							
	H P - 23	Q 11 a ~ b ~ d	2.34	2.22	1.94	1.98	0.26							
	H P - 24	R 10 a	0.10	0.08	0.04	0.04	0.34							
	H P - 1	Q 10 d	0.58	0.48	—	—	0.14							
	Q ~ R 11 ~ 13		10.34	8.07	9.85	7.72	0.48							
	H P - 1	Q 12 b ~ c	0.32	0.28	0.10	0.09	0.37							
	H P - 2	Q 12 c	0.35	0.22	0.06	0.06	0.17							
	H P - 3	Q 12 c	0.15	0.14	0.06	0.05	0.15							
	H P - 4	Q 13 b	0.22	0.18	0.06	0.06	0.10							
	H P - 5	Q 12 c ~ R 12 d	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10							
	H P - 6	R 12 d	0.32	0.32	0.15	0.12	0.15							
	H P - 7	R 13 a	0.34	0.22	0.06	0.08	0.16							
	H P - 8	R 12 a	0.40	0.36	0.12	0.10	0.40							
	H P - 9	R 13 a	0.19	0.18	0.07	0.07	0.34							
	H P - 10	R 12 b	0.18	0.16	0.09	0.06	0.16							
	H P - 11	Q 12 a ~ d	0.39	0.32	0.16	0.12	0.35							
	H P - 12	Q 13 a	0.26	0.24	0.07	0.07	0.25							
	H P - 13	Q 13 a	0.36	0.33	0.12	0.10	0.53							
	H P - 14	Q 13 a	0.22	0.18	0.06	0.06	0.55							
	H P - 15	Q 13 a ~ d	0.36	0.24	0.06	0.06	0.31							
VH-4	H P - 16	Q 13 b	0.34	0.22	0.06	0.04	0.12							
	H P - 17	Q 12 d	0.22	0.18	0.07	0.07	0.16							
	H P - 18	Q 12 c	0.30	0.20	0.04	0.04	0.14							
	H P - 19	Q 12 a ~ b	0.20	0.18	0.06	0.06	0.07							
	H P - 20	Q 13 c	0.35	0.54	0.15	0.13	0.38							
	H P - 21	Q 13 b	0.22	0.22	0.05	0.04	0.34							
	H P - 22	Q 12 c ~ Q 13 b	0.17	0.14	(0.04)	(0.04)	0.49							
	H P - 23	Q 12 b	0.18	0.16	0.04	0.04	0.46							
	H P - 24	R 12 a ~ d	1.48	1.33	1.04	0.94	0.10							
	H P - 1	R 12 a ~ d	0.75	0.65	—	—	0.06							
	H P - 2	R 12 b	0.50	0.45	—	—	0.12							
	H P - 3	R 12 d	0.43	0.38	—	—	0.08							
	O ~ P 13 ~ 14		6.68	5.82	5.98	5.10	0.68							
	H P - 1	P 13 c	0.12	0.10	0.04	0.04	0.14							
	H P - 2	P 13 c	0.26	0.25	0.11	0.08	0.68							
	H P - 3	P 14 b	0.88	0.66	0.42	0.32	0.20							
	H P - 4	P 13 d	1.45	1.04	0.78	0.64	0.08							
VH-5														

遺構 種別	遺構名	調査区	断面(m)				時期(歴史時代)	特徴	図番号	面積番号
			上幅 長軸	下幅 短軸	高さ 厚さ	深さ				
VH-4	H P - 1	P13d	0.54	0.66	—	0.08	前期未至	H P - 4 の内部	図IV-1-16-17	面版5
VH-5	H P - 1	(Q-E29-29)	5.44	3.96	—	2.76	0.94	盛り込みなし	図IV-1-18-19	面版6
		P - Q-18-20	4.26	4.17	4.12	4.05	0.31	土器焼け		
	H P - 1	Q20a	0.26	0.24	0.15	0.14	0.38			
	H P - 2	P20b	0.10	0.10	0.03	0.03	0.11			
	H P - 3	Q20a	0.68	0.66	0.02	0.02	0.68			
	H P - 4	P20b	0.16	0.16	0.07	0.06	0.30			
	H P - 5	P20b	0.11	0.10	0.04	0.03	0.16			
	H P - 6	Q20d	0.12	0.11	0.07	0.06	0.14			
	H P - 7	Q20a	0.18	0.16	0.12	0.10	0.40			
	H P - 8	P20b	0.14	0.14	0.04	0.04	0.46			
	H P - 9	P20b	0.15	0.12	0.10	0.08	0.07			
	H P - 10	P20b	0.38	0.16	0.02	0.02	0.36			
	H P - 11	P20b	0.10	0.10	0.05	0.05	0.36			
	H P - 12	P20b	0.16	0.16	0.02	0.02	0.38			
	H P - 13	P20c	0.22	0.22	0.08	0.08	0.30			
	H P - 14	Q20a	0.18	0.18	0.07	0.06	0.10			
	H P - 15	Q20b	0.10	0.10	0.02	0.02	0.37			
	H P - 16	Q20a	0.12	0.10	0.02	0.02	0.30			
VH-6	H P - 17	Q20d	0.12	0.11	0.06	0.04	0.18	前期後半	図IV-1-20~22	面版7
	H P - 18	P20a+b	0.16	0.15	0.04	0.04	0.25			
	H P - 19	Q19d	0.12	0.12	0.06	0.06	0.18			
	H P - 20	P20c	0.12	0.10	0.13	0.10	0.40			
	H P - 21	Q20b+c	0.10	0.06	0.02	0.02	0.38			
	H P - 22	P20c	0.10	0.10	0.06	0.02	0.25			
	H P - 23	P20b	0.10	0.10	0.06	0.02	0.25			
	H P - 24	Q19d	0.12	0.12	0.06	0.02	0.27			
	H P - 25	Q20b	0.12	0.10	0.02	0.02	0.36			
	H P - 26	Q20d	0.10	0.09	0.04	0.04	0.34			
	H P - 27	P18c	0.12	0.10	0.02	0.02	0.32			
	H P - 28	Q18c	0.22	0.18	0.02	0.02	0.32			
	H P - 29	P20b	0.15	0.14	0.06	0.08	0.41			
	H P - 30	P20d	0.10	0.10	0.08	0.06	0.27			
	H P - 31	P20c+P21b	0.12	0.10	0.02	0.02	0.26			
	H P - 32	P18c	0.12	0.12	0.02	0.02	0.28			
	H P - 33	Q18c	0.10	0.08	0.02	0.02	0.32			
	L-M-25-24			—	5.48	—	6.22	0.42	複元により復元的1/3断面	
住居跡	H P - 1	M34d	0.15	0.16	0.06	0.06	0.30			
	H P - 2	L34a	0.11	0.10	0.10	0.09	0.10			
	H P - 3	L34d	0.10	0.10	0.02	0.02	0.34			
	H P - 4	L33d	0.16	0.14	0.01	0.01	0.32			
VH-7	H P - 5	L32b	0.14	0.14	0.04	0.04	0.16	後期前段	図IV-1-23-24	面版8
	H P - 6	L32b	0.18	0.18	0.06	0.06	0.31			
	H P - 7	L33a	0.12	0.10	0.02	0.02	0.26			
	H P - 8	L32a	0.12	0.10	0.06	0.06	0.12			
	H P - 1	L29a	0.24	0.24	0.06	0.06	0.30			
	L-M-18-19			3.72	—	3.32	—	0.33	上部踏面	
VH-8	H P - 1	L19b	0.10	0.09	0.03	0.03	0.20	前期後半	図IV-1-25	面版9
	H P - 2	M19d	0.07	0.06	0.02	0.02	0.20			
	H F - 1	L19b+M19a	0.58	—	0.30	—	0.06			
	K-T-8			3.58	3.01	2.51	1.91	0.38		
	H P - 1	K7d	0.09	0.08	0.03	0.02	0.14			
	H P - 2	K8a	0.10	0.10	0.09	0.02	0.17			
	H P - 3	K8a	0.09	0.08	0.02	0.02	0.08			
	H P - 4	K8a	0.14	0.14	0.05	0.04	0.12			
VH-9	H P - 5	K8a	0.08	0.08	0.02	0.02	0.14	後期小窓	図IV-1-25	面版10
	H P - 6	K8a	0.10	0.09	0.02	0.02	0.10			
	H P - 7	K8a+b	0.09	0.08	0.02	0.02	0.12			
	H P - 8	K8a	0.07	0.07	0.02	0.02	0.10			
	H P - 9	K8a	0.10	0.08	0.04	0.04	0.14			
	H P - 10	K7d	0.10	0.08	0.02	0.02	0.28			
	H P - 1	K8a	0.42	0.30	—	—	0.04			
	G19-21 H19-20			8.56	7.08	7.10	6.70	0.67	貼り床	
VH-10	H P - 1	G19c	1.45	1.22	1.22	1.07	0.20			
	H P - 2	G19c+G20a	1.16	0.90	0.96	0.80	0.18			
	H P - 3	G19c+d G20a+b	0.44	0.37	0.34	0.16	0.09			
	H P - 4	H30a	1.16	1.00	1.06	0.80	0.18			
	H P - 5	G20b	0.25	0.24	1.40	1.40	0.10			
	H P - 6	G20b	0.18	0.18	0.16	0.06	0.06			
	H P - 7	G20d	0.34	0.18	0.04	0.04	0.40			
	H P - 8	G20d G21n	0.54	—	0.34	0.28	0.22			
	H P - 9	G20d	0.48	0.42	0.36	0.30	0.16			
	H P - 10	G20a	0.54	0.40	0.40	0.28	0.10			
	H P - 11	G20d	0.19	0.19	0.04	0.04	0.46			
	H P - 12	G20d	0.14	0.14	0.05	0.04	0.35			
	H P - 13	G20a	0.18	0.14	0.06	0.06	0.35			
	H P - 14	G19d	0.16	0.15	0.70	0.60	0.28			
	H P - 15	G20c+d	0.16	0.14	0.08	0.07	0.22	面S Pの可逆性あり		
	H P - 16	G19d	0.14	0.14	0.06	0.06	0.32			
	H P - 17	G21a	0.20	0.17	0.05	0.04	0.30			

遺構 種別	遺構名	面積(m)	面積(m)				時期(歴史時代)	特徴	面番号	面番号				
			上層		下層									
			面積	面積	面積	面積								
VH-10	H F - 1	G20 c+d	1.10	3.78	—	0.16	前期末葉	振り込みなし	IV-1-27~29	面版11				
	H F - 2	G20 e	0.47	3.32	—	0.06								
	(H-1-3+4)													
	H F - 1	I 5 a	0.32	0.30	0.22	0.21								
	H F - 2	I 3 d	0.26	0.24	0.16	0.16								
	H F - 3	I 3 a+b	0.90	0.34	0.69	0.26								
	H F - 4	I 2 d + I 3 a	0.18	0.18	—	0.11								
	H F - 5	I 2 d + I 3 a	0.23	0.20	0.16	0.12								
	H F - 6	H 3 b	0.22	0.20	0.15	0.15								
	H F - 7	H 3 b	0.22	0.21	0.14	0.12								
VH-11	H F - 8	H 3 c	0.15	0.15	0.12	0.10	後期中期	振り込みなし	IV-1-30	面版12				
	H F - 9	H 3 c + I 3 d	0.22	0.22	0.12	0.11								
	H F - 10	I 3 d	0.24	0.22	0.18	0.14								
	H F - 11	I 2 c	0.23	0.23	0.13	0.10								
	H F - 12	I 3 a	0.27	0.26	—	0.20								
	H F - 13	I 3 a+d	0.84	—	—	0.11								
	H F - 14	I 3 c	0.52	—	—	0.08								
	(I 1 J 1 ~ 2)	—	—	—	—	—								
	H F - 1	I 1 c	0.25	0.22	0.18	0.16								
	H F - 2	J 2 a	0.23	0.20	0.12	0.10								
VH-12	H F - 3	J 1 d + J 2 a	0.37	0.26	0.18	0.18	後期中葉	振り込みなし	IV-1-31	面版13				
	H F - 4	J 1 d	—	0.90	—	0.76								
	H F - 5	J 1 c+d	1.00	0.78	0.52	0.45								
	H F - 6	I 1 c	—	0.26	0.19	0.16								
	H F - 7	J 1 d	0.31	—	0.18	0.16								
	H F - 8	J 1 d	0.72	0.66	—	0.08								
	VH-13	M33	2.63	1.68	2.16	1.32	0.44	前期前半 後期中葉	屏・柱穴なし 溝跡より手耕式土器出土	IV-1-32	面版14			
	VH-14	Q42+43	2.58	1.66	1.92	1.22	0.32							
VH-13	J 12+14+13	5.86	5.44	5.36	4.80	0.89	前期後半	ベンチ状傾斜	IV-1-33	面版15				
	H F - 1	J 19 a	0.16	0.78	0.82	0.58								
	H F - 2	J 19 a	0.22	0.22	0.04	0.03								
	H F - 3	J 19 b + K 19 a	0.24	0.22	0.08	0.06								
	H F - 4	J 19 c	0.22	0.18	0.04	0.04								
	H F - 5	J 19 d	0.18	0.18	0.04	0.04								
	H F - 6	J 19 e	0.10	0.10	0.04	0.04								
	H F - 7	J 19 a	0.10	0.10	0.03	0.03								
	H F - 8	K 13 d	0.12	0.12	0.04	0.04								
	H F - 9	J 19 d + J 14 a	0.10	0.10	0.04	0.03								
VH-14	H F - 10	J 19 d	0.10	0.10	0.05	0.02	前期後半	壁面六が轍	IV-1-34~36	面版16				
	H F - 11	J 13 d	0.12	0.10	0.04	0.03								
	H F - 12	K 13 a	0.13	0.12	0.11	0.08								
	H F - 13	J 13 b	0.26	0.25	—	0.06								
	H F - 14	F...G+G11a	4.34	3.76	3.80	3.34								
	H F - 15	G16d + G11a	0.80	0.66	—	0.14								
	K 1 L 11+12	6.46	5.52	5.90	4.70	0.75								
	H F - 1	K 12 a+d	1.52	1.14	1.16	0.85								
	H F - 2	L 12 d	0.18	0.18	0.04	0.04								
	H F - 3	L 12 d	0.08	0.08	0.03	0.03								
VH-15	H F - 4	L 12 c	0.08	0.08	0.02	0.02	前期後半	屏面六が轍	IV-1-37	面版17				
	H F - 5	L 12 c	0.12	0.12	0.05	0.03								
	H F - 6	L 12 b	0.07	0.07	0.03	0.03								
	H F - 7	L 12 b	0.06	0.06	0.04	0.04								
	H F - 8	L 11 c + L 12 b	0.08	0.08	0.06	0.06								
	H F - 9	L 11 d	0.12	0.12	0.04	0.04								
	H F - 10	K 11 d	0.12	0.12	0.02	0.02								
	H F - 11	K 11 d	0.16	0.15	0.04	0.04								
	H F - 12	K 11 c	0.08	0.08	0.03	0.03								
	H F - 13	K 11 c	0.08	0.08	0.02	0.02								
VH-16	H F - 14	K 11 c + K 12 b	0.69	0.69	0.63	0.63	前期後半	西側が窓状にくぼむ	IV-1-37	面版18				
	H F - 15	K 12 b	0.10	0.10	0.03	0.03								
	H F - 16	L 12 d	0.12	0.10	0.07	0.07								
	H F - 17	L 12 b	0.12	0.10	0.07	0.07								
	H F - 18	L 11 d	0.12	0.12	0.04	0.04								
	H F - 19	L 11 d	0.14	0.12	0.04	0.04								
	H F - 20	K 12 c	0.12	0.11	0.03	0.03								
	H F - 21	L 11 d	0.10	0.10	0.04	0.04								
	H F - 22	L 12 d	0.10	0.10	0.03	0.03								
	H F - 23	K 12 b	0.12	0.12	0.05	0.05								
VH-17	V F - 1	O17 a+b	3.86	1.45	1.80	1.45	前期後半	屏面六が轍	IV-1-38~40	面版17				
	V F - 2	R27 a+d	1.94	1.44	1.60	1.15								
	V F - 3	R27 b+c	—	1.30	—	1.14								
	V F - 4	Q26 d + Q30 a	1.70	1.64	1.24	1.14								
	V F - 5	R24 a	0.46	0.45	0.36	0.24								
	V F - 6	P31 b	1.82	1.60	1.40	1.24								
	V F - 7	R25 c+d	0.96	0.85	0.55	0.42								
	V F - 8	O23 b+c + P23 a+d	2.64	2.32	1.76	1.50								
	V F - 9	Q11 c+d + Q12 a+b	2.08	1.62	1.76	1.22								
	V F - 10	Q12 b	—	0.80	—	0.58								
壁	V F - 11	O23 a+b	2.32	1.80	1.96	1.56	前期後半	V H - 5 の古い跡か	IV-1-43	面版18				
	V F - 12	O16 c + O17 b	2.32	1.80	1.96	1.56								
	V F - 13	O11 c + O12 b	0.66	0.44	0.44	—								
	V F - 14	O21 a+b	0.66	0.44	0.44	—								
	V F - 15	O21 a+b	0.66	0.44	0.44	—								

遺構 番号	遺構名	調査区	埋積(m)			時期(発現時代)	特徴	番号	開拓番号
			上層	下層	深さ				
土式	V P - 16	Q28 b	0.85	0.60	0.66	0.42	0.15	初期後半	開拓15
	V P - 17	R20 d R21 a	0.56	0.30	0.66	0.19	0.15		
	V P - 18	M21 b-c N24 a-d	2.70	—	1.34	1.36	0.22	初期後半	開拓15
	V P - 19	O21 a	0.22	0.30	0.80	—	0.18	初期後半	開拓15
	V P - 20	O19 c	0.84	0.63	0.68	0.38	0.16	初期後半	開拓15
	V P - 21	O19 c P19 d	0.84	0.58	0.50	0.34	0.10	初期後半	開拓19
	V P - 22	Q26 d	(0.50)	(0.49)	0.80	0.44	0.30	初期後半	開拓19
	V P - 23	K35 d	0.98	0.64	0.85	0.56	0.19	初期後半	開拓19
	V P - 24	F26 e	0.52	0.50	0.39	—	0.17	初期後半	開拓19
	V P - 25	F27 d F28 e	0.94	0.76	0.54	0.43	0.54	初期	開拓19
	V P - 26	T24 a-c T24 a-d	1.04	0.84	0.88	0.64	0.72	後期地盤	開拓19
	V P - 27	T23 a	1.06	0.88	0.88	0.58	0.46	後期地盤	開拓19
	V P - 28	J23 b-c d	1.15	1.04	0.92	0.27	0.54	後期	開拓19
	V P - 29	I23 c	1.25	1.04	0.94	0.34	0.44	後期後半	開拓19
	V P - 30	L14 a	1.06	0.88	0.88	0.58	0.46	後期地盤	開拓19
	V P - 31	J23 b-c d	1.15	1.04	0.92	0.27	0.54	後期	開拓19
	V P - 32	I23 c	1.25	1.04	0.94	0.34	0.44	後期後半	開拓19
	V P - 33	M19 c	—	1.12	—	0.84	0.23	後期	開拓19
	V P - 34	L14 a	1.06	0.88	1.14	0.54	0.18	不明	開拓19
	V P - 35	K19 d K20 a	0.79	0.77	0.69	0.62	0.32	後期	開拓19
	V P - 36	K20 a-b	1.32	1.15	1.19	0.95	0.14	中期	開拓19
	V P - 37	K19 e	0.61	0.52	0.58	0.45	0.24	初期	開拓19
	V P - 38	J15 c	0.95	0.86	0.62	0.58	0.42	後期	開拓19
	V P - 39	J 4 c	1.04	0.76	0.64	0.56	0.20	後期中盤	ワツクマイ C式土器出土
	V P - 40	I 4 c 1 5 b	1.57	1.27	0.84	0.79	0.44	後期中盤	ワツクマイ C式土器出土
	V P - 41	G 6 c-d G7 b	—	1.28	—	0.91	0.61	後期後半	晋H-3に達される
	V P - 42	H 5 b	0.84	0.70	0.86	0.62	0.23	後期	ワツクマイ C式土器出土
	V P - 43	H 4 c	0.58	0.53	0.50	0.47	0.14	後期	後期
	V P - 44	H 2 c L 3 b	1.70	1.40	1.56	1.06	0.37	後期中盤	後期
	V P - 45	J 3 a	1.36	1.33	1.12	0.97	0.35	後期後半	後期
	V P - 46	H17 c H18 b	1.18	1.01	0.53	0.46	0.44	不明	V P - 49 と重す
	V P - 47	I 18 a-d	1.30	0.82	0.68	0.62	0.30	後期後半	後期後半
	V P - 48	G 4 c H 4 d	1.05	0.89	0.70	0.58	0.24	後期後半	後期後半
	V P - 49	H17 c-d H18 a	1.18	—	0.66	0.50	0.39	不明	V P - 46 に達される
	V P - 50	H22 b L 22 a	0.62	0.57	0.31	0.36	0.24	前中期後半	大庭M式土器出土
	V P - 51	R35 c	0.74	0.65	0.53	0.58	0.20	後期後半	後期
	V P - 52	O45 c O46 b	0.74	0.71	0.68	0.66	0.14	後期	後期
	V P - 53	S50 a	0.76	0.64	0.63	0.57	0.32	不明	後期
	V P - 54	P44 a-b	—	1.32	—	1.12	0.19	後期後半	開拓1-51
	V P - 55	S42 c	1.56	1.27	0.93	0.78	0.16	後期中盤	後期
	V P - 56	D46 b-c F43 a-d	1.13	0.86	0.82	0.61	0.14	後期後半	後期
	V P - 57	N36 a-b	1.06	0.75	0.97	0.66	0.16	前中期後半	後期
	V P - 58	R44 c R45 b	1.74	1.63	1.36	1.23	0.76	後期	後期
	V P - 59	K31 c K32 b	1.56	1.06	1.06	0.87	1.02	前中期後半	縦溝式土器出土
	V P - 60	K30 c L 30 d	1.14	0.79	0.65	0.34	0.44	前中期後半	開拓1-53
	V P - 61	J30 b-c K30 a-d	1.54	(1.26)	0.95	0.64	0.78	前中期後半	縦溝式土器・石碑出土
	V P - 62	H19 b-c I14 a-d	—	0.98	0.63	0.45	0.38	前中期後半	晋P-73に達される
	V P - 63	G14 c G15 b	0.34	0.30	0.10	0.10	0.36	不明	石碑出土
	V P - 64	G16 c	1.65	1.35	1.16	0.66	1.34	不明	V P - 46 に達される
	V P - 65	I14 d	0.49	0.78	0.65	0.45	0.26	前中期後半	後期
	V P - 66	G13 b H18 a	1.02	0.80	0.85	0.73	0.30	不明	後期
	V P - 67	F14 b	1.06	0.75	0.68	0.56	0.20	不明	後期
	V P - 68	R47 a	0.95	0.85	0.80	0.74	0.11	不明	後期
	V P - 69	S40 d S49 a	0.98	0.85	0.88	0.73	0.17	不明	後期
	V P - 70	M6 c-d M46 a-b	0.88	0.85	0.70	0.67	0.14	後期	後期
	V P - 71	G6 c-d G9 a-b	1.68	1.49	1.56	1.27	0.36	不明	後期
	V P - 72	G 9 a	0.58	0.72	0.58	0.56	0.14	後期後半	後期後半
	V P - 73	R48 b-c	0.62	0.63	0.46	0.42	0.30	不明	後期後半
	V P - 74	S48 a-d	1.76	1.19	1.55	0.88	0.14	後期後半	後期後半
	V P - 75	S47 c-d	0.78	0.71	0.54	0.49	0.13	不明	同時期のものか
	V P - 76	S47 c	0.68	—	0.42	—	0.12	不明	同時期のものか
	V P - 77	S47 c-d	0.74	0.54	0.46	0.26	0.12	不明	同時期のものか
	V P - 78	N50 c N51 b O51 a	0.56	0.54	0.66	0.45	0.25	後期後半	石碑出土
T ピット	V T P - 1	P24 a-c Q24 d	4.70	0.85	3.63	0.39	1.22	中期	開拓1-57
	V T P - 2	M28 c-d	3.06	0.85	2.56	0.28	1.10	中期	開拓1-58
	V T P - 3	H26 c H27 b	2.94	1.10	0.81	0.54	1.06	中期	V T P - 4 と重す
	V T P - 4	H25 c H27 b-1	—	0.72	2.16	0.56	0.90	中期	V T P - 3 に達される
	V T P - 5	I14 b-c J14 a-d	1.44	0.95	1.05	0.56	1.10	中期	中期
	V T P - 6	I16 a-b	1.02	1.12	0.49	1.22	0.16	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基
	V T P - 7	J33 a-d	2.94	0.75	2.46	0.24	0.83	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基
	V T P - 8	J25 b-c K33 a-d	3.34	0.72	2.76	0.34	0.88	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基
	V T P - 9	K36 b	1.56	0.93	1.15	0.42	0.76	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基
	V T P - 10	M29 b-c N29 a	3.32	0.75	2.48	0.17	0.98	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基
	V T P - 11	J12 a	1.62	1.19	1.00	0.33	1.15	不明	逆茂木塚2基
	V T P - 12	G16 c H16 d	1.83	1.36	1.16	0.46	1.24	不明	逆茂木塚2基
	V T P - 13	J10 c K10 d	2.00	1.60	0.86	0.51	1.20	不明	逆茂木塚1基
	V T P - 14	R16 b-c	—	0.90	—	0.54	0.95	中期後半-後期初頭	南側を隅石板に囲まれる
	V T P - 15	R57 c S57 d	1.76	1.14	1.26	0.47	1.14	中期後半-後期初頭	逆茂木塚1基
	V T P - 16	R55 b-c	1.56	1.07	1.16	0.52	0.94	中期後半-後期初頭	逆茂木塚1基
	V T P - 17	R48 a-b	2.38	0.65	2.32	0.28	1.11	不明	中期後半-後期初頭
	V T P - 18	R6 c-d R36 a-b	2.36	0.61	2.44	0.37	1.30	不明	中期後半-後期初頭
	V T P - 19	Q54 c	1.42	0.44	1.26	0.17	0.68	中期後半-後期初頭	逆茂木塚1基
	V T P - 20	Q33 c Q34 b R33 d R34 a	1.76	1.25	1.34	0.62	0.98	中期後半-後期初頭	逆茂木塚2基

遺構 種別	遺構名	調査区	面積(m)				時期(歴史時代)	特徴	図番号	圖版番号	
			上期	下期	馬蹄	馬蹄					
Tピット	VTP-21	Q48b R48a	1.12	0.88	1.00	0.45	0.70	不明	近江木板1基	図IV-1-65	
	VSP-1	R22a+d	0.22	0.22	0.04	0.04	0.40	南朝前半～後期後半		図版23	
	VSP-2	P17c	0.17	0.16	0.03	0.02	0.42	南朝後半～後期後半		図版23	
	VSP-3	O26b	0.22	0.20	0.02	0.01	0.50	南朝後半～後期後半		図版23	
	VSP-4	O29a	0.14	0.14	0.04	0.04	0.37	南朝後半～後期後半			
	VSP-5	O29a+b	0.10	0.09	0.02	0.02	0.60	南朝後半～後期後半			
	VSP-6	Q28d	0.18	0.18	0.04	0.04	0.47	南朝後半～後期後半			
	VSP-7	Q28d	0.18	0.18	0.04	0.04	0.47	南朝後半～後期後半			
	VSP-8	O26d	0.25	0.26	0.13	0.12	0.37	南朝後半～後期後半			
	VSP-9	O28a	0.15	0.16	0.06	0.06	0.64	南朝後半～後期後半			
小ピット	VSP-10	P25c+d	0.30	0.26	0.05	0.04	0.48	南朝後半～後期後半			
	VSP-11	N27b+c	0.15	0.14	0.04	0.04	0.33	南朝後半～後期後半			
	VSP-12	O26c	0.24	0.19	0.04	0.04	0.34	南朝後半～後期後半			
	VSP-13	N25d	0.16	0.16	0.04	0.04	0.36	南朝後半～後期後半			
	VSP-14	O22d	0.18	0.16	0.04	0.04	0.25	南朝後半～後期後半			
	VSP-15	N25a	0.12	0.12	0.03	0.03	0.29	南朝後半～後期後半			
	VSP-16	O24d	0.14	0.14	0.03	0.02	0.32	南朝後半～後期後半			
	VSP-17	N22b	0.12	0.12	0.05	0.04	0.32	南朝後半～後期後半			
	VSP-18	O15a	0.15	0.14	0.04	0.04	0.35	南朝後半～後期後半			
	VSP-19	Q14b+c	0.16	0.16	0.10	0.10	0.32	南朝後半～後期後半			
VSP-21	M22a	0.12	0.17	0.02	0.02	0.28	南朝後半～後期後半				
	VSP-22	M18a	0.12	0.12	0.04	0.04	0.29	南朝後半～後期後半			
	VSP-23	K30d	0.16	0.16	0.05	0.04	0.14	南朝後半～後期後半			
	VSP-24	K20d	0.12	0.12	0.03	0.03	0.32	南朝後半～後期後半			
	VSP-25	K16c	0.14	0.13	0.04	0.04	0.32	南朝後半～後期後半			
	VSP-26	M13b	0.10	0.10	0.02	0.02	0.22	南朝後半～後期後半			
	VSP-27	M13b	0.10	0.08	0.02	0.02	0.18	南朝後半～後期後半			
	VSP-28	L13a	0.24	0.20	0.10	0.10	0.22	南朝後半～後期後半			
	VSP-29	L13d	0.14	0.12	0.03	0.03	0.20	南朝後半～後期後半			
	VSP-30	I18b	0.18	0.18	0.05	0.04	0.18	南朝後半～後期後半	前方あり		
VSP-31	H22d	0.28	0.28	0.05	0.05	0.48	南朝後半～後期後半				
	VSP-32	H22b	0.32	0.30	0.14	0.12	0.24	南朝後半～後期後半			
	VSP-33	H21c	0.16	0.15	0.05	0.05	0.38	南朝後半～後期後半			
	VSP-34	F16a+b	0.17	0.14	0.10	0.06	0.26	南朝後半～後期後半			
	VSP-35	F18c-d F18a-b	0.22	0.21	0.14	0.13	—	南朝明～後期後半			
	VSP-36	F15b	0.14	0.13	0.10	0.07	—	南朝後半～後期後半			
	VSP-37	G14b+c	0.30	0.26	0.22	0.18	—	南朝後半～後期後半			
	VSP-38	G13d	0.30	0.28	0.18	0.16	—	南朝後半～後期後半			
	VSP-39	G13c-d	0.22	0.31	0.16	0.16	—	南朝後半～後期後半			
	VSP-40	Q19a	0.14	0.14	0.06	0.06	0.28	南朝後半～後期後半			
壁土	VF-1	Q25b	0.50	0.43	—	—	0.01	南朝半	堅似地土の可能性あり		
	VF-2	Q11a	0.97	0.77	—	—	0.20	中期後半	VH-2 壁土中	図版24	
	VF-3	Q11b	0.58	0.52	—	—	0.08	中期後半	VH-2 壁土中		
	VF-4	Q8c-d	0.82	0.46	—	—	0.12	南朝半			
	VF-5	Q5d Q7a	0.80	0.76	—	—	0.16	南朝半			
	VF-6	N13d N20a	1.70	0.46	—	—	0.21	北朝			
	VF-7	F22a	0.45	0.38	—	—	0.12	南朝			
	VF-9	H5c	0.58	0.58	—	—	0.08	後期半			
	VF-13	M43c N43d	0.36	0.32	—	—	0.02	後期	堅似・ブドウ種子出土		
	VF-14	N43d	0.64	0.48	—	—	0.05	後期			
剥片集中	VF-15	N43a	1.62	0.30	—	—	0.04	後期			
	VF-16	N43a	0.48	0.40	—	—	0.08	後期			
	VF-17	R43a	0.56	0.46	—	—	0.08	後期	壁穴の跡の可能性あり		
	VF-18	R43b	0.66	0.38	—	—	0.10	後期	堅似木板内		
	VF-19	S50c-d	0.48	0.41	—	—	0.06	後期	壁穴の跡の可能性あり		
	VFC-1	R32d	0.30	0.14	—	—	—	晩期	貝殻	図版24	
	V-1	M45b	0.92	0.76	—	—	—	後期	貝殻跡あり		
	V-2	M43c	1.14	0.66	—	—	—	後期	貝殻跡		
	V-3	M43c	0.92	0.66	—	—	—	後期	貝殻跡		
	V-4	M43c	0.96	0.58	—	—	—	後期	貝殻跡	図版24	
集石	V-5	P30c-d P40b	1.00	0.72	—	—	—	後期	貝殻	すり石・石礫出土	図版24
	V-6	M45c M50b	1.92	1.37	—	—	—	不規	すり石・石礫	すり石・石礫出土	図版24

表2 遺構出土遺物一覽

遺物名	部位 又は作製遺物名	遺物名	分類	石材	点数
土器		刮片石器	刮片	瓦砾	1852
				黒曜石	6053
				緑色泥岩	57
		磨石器	石斧	瓦砾	5
				緑色泥岩	1
		サツ石	石斧	緑色泥岩	1
		北海道式石器	安山岩	1	
			砂岩	2	
		たたき石	砂岩	2	
				緑色泥岩	2
		鉛石	砂岩	1	
		打石	砂岩	1	
		土器	砂岩	1	
		加工板のある縁	砂岩	4	
		縁	安山岩	9	
			砂岩	9	
				緑色泥岩	1
		合計			369
VH - 4	床面	土器	Ⅲ群 b 型		19
		刮片石器	石斧	瓦砾	1
				黒曜石	2
			チャート	3	
		つまみ付きナイフ	瓦砾	2	
		スライバー	瓦砾	1	
		Rフレイク	瓦砾	1	
		刮片	瓦砾	1114	
		北海道式石器	瓦砾	2129	
			砂岩	8	
			チャート	2	
		縁	瓦砾	13	
			緑色泥岩	8	
		縁	瓦砾	2	
		北海道式石器	砂岩	1	
			砂岩	1	
		縁	安山岩	2	
			砂岩	2	
		片麻岩	砂岩	1	
		合計			3306
HP - 1	土器	Ⅲ群 b 型			
		刮片石器	刮片	黒曜石	6
		合計			6
		縁			11685
VH - 5	土器	土器	Ⅲ群 a 型		1
		IV群 a 型			1
		刮片石器	刮片	黒曜石	8
				安山岩	2
		縁			2
		土製品	粘土塊		4
		合計			18
HP - 1	土器	IV群 a 型			585
		刮片石器	石核	黒曜石	25
			刮片	瓦砾	25
		土製品	粘土塊		1
		合計			1081
		縁			1099
VH - 6	土器	刮片石器	石核	黒曜石	1
			刮片	瓦砾	27
				黒曜石	228
				緑色泥岩	8
		合計			254
土器 1	土器	Ⅲ群 b 型			27
		刮片石器	刮片	緑色泥岩	3
				砂岩	2
		縁			2
		土製品	粘土塊		3
		合計			35
VH - 6	土器 2	土器	Ⅲ群 b 型		33
		刮片石器	刮片	瓦砾	1
				瓦砾	1
		つまみ付きナイフ	瓦砾	1	
		刮片	瓦砾	6	
				黒曜石	3
				緑色泥岩	31
		縁	瓦砾	1	
		北海道式石器	瓦砾	2	
		加工板のある縁	安山岩	1	
		加工板	瓦砾	2	
			安山岩	1	
		縁	砂岩	3	
		合計			66
VH - 6	土器 3	土器	Ⅲ群 b 型		18
		刮片石器	石核	黒曜石	1
			刮片	瓦砾	1
				黒曜石	1
				緑色泥岩	19
		縁	瓦砾	1	
				緑色泥岩	1
		土製品	粘土塊		4
		合計			34
土器 4	土器	Ⅲ群 b 型			18
		刮片石器	刮片	瓦砾	1
				黒曜石	2
				緑色泥岩	2
		縁	瓦砾	1	
		北海道式石器	砂岩	1	
		加工板のある縁	砂岩	1	
		縁	安山岩	1	
		合計			67

遺物名	部位 又は作製遺物名	遺物名	分類	石材	点数
土器 4		刮片石器	砂岩	黒曜石	1
				砂岩	3
				合計	40
土器 5	土器	Ⅲ群 b 型		黒曜石	5
		刮片石器	刮片	緑色泥岩	1
		縁	砂岩	1	
		合計			5
床面 (櫛土 5)		刮片石器	刮片	瓦砾	36
				黒曜石	35
				緑色泥岩	1
		合計			72
床面		土器	Ⅲ群 b 型	瓦砾	4
		刮片石器	刮片	黒曜石	5
				緑色泥岩	12
		縁	砂岩	1	
		合計			19
VH - 6		土器	Ⅲ群 b 型	瓦砾	1
		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				瓦砾	1
		縁	砂岩	1	
		合計			3
HP - 2		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 3		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 4		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 8		刮片石器	刮片	瓦砾	1
				黒曜石	1
		合計			2
HP - 9		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 11		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 12		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 13		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 16		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				緑色泥岩	1
		合計			2
HP - 18		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 20		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 23		刮片石器	刮片	黒曜石	1
				合計	1
HP - 28		刮片石器	刮片	緑色泥岩	1
				合計	1
		合計			412
土器	Ⅲ群 b 型				
	刮片石器	石核	黒曜石	2	
			瓦砾	2	
	つまみ付きナイフ	瓦砾	2		
	刮片	瓦砾	5		
		黒曜石	38		
		合計			45
		縁	砂岩	1	
	少海道式石器	砂岩	1		
		安山岩	1		
		砂岩	3		
	土製品	粘土塊			5
		合計			10
VH - 7	土器	Ⅲ群 b 型			
	刮片石器	刮片	黒曜石	9	
		縁	安山岩	2	
		合計			11
HP - 7	土器	Ⅲ群 b 型			
	刮片石器	刮片	瓦砾	2	
			合計		2
H F - 1	土器	Ⅲ群 b 型			
	刮片石器	刮片	瓦砾	2	
			合計		457
		縁	砂岩	3	
		合計			457

遺構名	属性 又は付加属性名	遺物名	分類	石材	点数
VH - 8	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器・ナイフ	1	
			調片	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	2
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 9	便土	土器	Ⅳ部 b 領	1	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 10	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 11	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 12	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 13	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 14	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
VH - 15	便土	土器	Ⅳ部 b 領	25	
		調片石器	石器	黒曜石	1
			石器	黒曜石	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1
			砂岩	緑色泥岩	1

遺物名	属性 又は付属遺物名	遺物名	分類	石材	点数	
壁土 1		礫石器				
		北海道式石器	Ⅱ部 b 型	砂岩	1	
				砂岩	2	
		加工板のある標		砂岩	2	
		標		砂岩	2	
		鐵灰岩		砂岩	4	
		砂岩		砂岩	5	
		合計			210	
壁土 2		土器	Ⅱ部 b 型		118	
			Ⅲ部 b 型		11	
			Ⅳ部 a 型		1	
			Ⅳ部 b 型		1	
			Ⅴ部		2	
		調片石器	石器	黒曜石	2	
			つまみ付きナイフ	黒曜石	2	
			スクレイパー	黒曜石	1	
			Uフレイク	黒曜石	1	
		刮片	砂岩	4		
			黒曜石	66		
			チャート	3		
			砂岩	4		
			片岩	1		
			緑色泥岩	16		
		礫石器	石器	砂岩	2	
			緑色泥岩	2		
		すり石	砂岩	1		
		北海道式石器	砂岩	1		
			砂岩	11		
		たたき石	砂岩	1		
			砂岩	1		
		砂岩	片岩	1		
			緑色泥岩	5		
		石器	砂岩	1		
			緑色泥岩	1		
		合計			256	
壁土 3		土器	Ⅱ部 b 型		53	
			Ⅲ部 b 型		1	
			Ⅳ部 b 型		3	
		調片石器	スクレイパー	黒曜石	1	
			Rフレイク	黒曜石	1	
		刮片	砂岩	1		
			黒曜石	77		
			片岩	1		
			緑色泥岩	14		
		礫石器	石斧	1		
			砂岩	1		
			砂岩	1		
			北海道式石器	砂岩	2	
			たたき石	砂岩	1	
			安山岩	1		
			砂岩	1		
			砂岩	1		
			緑色泥岩	4		
			緑色泥岩	3		
			砂岩	3		
			砂岩	6		
		合計			179	
壁土 4 上面		土器	Ⅱ部 b 型		185	
		調片石器	刮片	砂岩	1	
				黒曜石	1	
				砂岩	1	
				砂岩	2	
				砂岩	2	
				砂岩	2	
				砂岩	4	
		礫石器	北海道式石器	砂岩	3	
				砂岩	3	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
		合計			201	
壁土 4 下面		土器	Ⅱ部 b 型		32	
		調片石器	石器	黒曜石	1	
				砂岩	2	
				黒曜石	84	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
		礫石器	石斧	緑色泥岩	1	
				緑色泥岩	1	
				北海道式石器	安山岩	1
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
				砂岩	1	
		合計			134	
壁土 5		調片石器	石器	黒曜石	1	
				黒曜石	7	
				緑色泥岩	2	
				緑色泥岩	1	

造様名	施設 又は付属施設名	造物名	分類	石材	点数
V H-17	面土3	剥片石器	R フレイク	斑状石	3
		剥片	真岩	3	
			黒曜石	492	
			片岩	2	
			緑色花崗岩	5	
	磯石器	北海道式石器	安山岩	6	
		たたき石	砂岩	1	
		加工のある標	緑色花崗岩	1	
		加工のある標	安山岩	1	
		海	砂岩	2	
			面白い岩	1	
		土製品	粘土塊	30	
			合計	542	
	面土4 上層	剥片石器	石器	斑状石	3
			剥片	真岩	396
				黒曜石	297
				緑色花崗岩	5
			合計	3375	
	床面	剥片石器	剥片	真岩	3
				黒曜石	17
				合計	20
			瓦片		6425
			合計	97	
	壁土1	土器	日面b型	64	
		剥片石器	石器	1	
			斑状石	1	
			2つまみ付きナイフ	真岩	1
			剥片	真岩	1
			黒曜石	1	
			片岩	1	
			緑色花崗岩	5	
		磯石器	すり石	砂岩	1
			北海道式石器	砂岩	1
	V P - 1	土器	砂岩	1	
		磯石器	砂岩	2	
		石器	砂岩	1	
		瓦片	砂岩	1	
		土器	砂岩	1	
		瓦片	砂岩	1	
		磯石器	砂岩	1	
		土器	砂岩	1	
		瓦片	砂岩	1	
		土製品	粘土塊	3	
			合計	97	
			瓦片	97	
	壁土	土器	日面b型	1	
		磯石器	砂岩	1	
			砂岩	1	
			砂岩	1	
		土製品	粘土塊	3	
			合計	6	
	V P - 2	土器	剥片石器	斑状石	1
			片岩	6	
			特例	4	
		磯石器	北海道式石器	砂岩	1
			加工のある標	緑色花崗岩	1
			合計	13	
			瓦片	13	
	V P - 3	土器	日面b型	1	
		磯石器	剥片	1	
			瓦片	6	
		磯石器	瓦片	1	
			瓦片	4	
			合計	13	
			瓦片	13	
	V P - 4	土器	土器	1	
		磯石器	剥片石器	斑状石	1
			瓦片	2	
		磯石器	瓦片	1	
			瓦片	1	
			合計	10	
	V P - 6	土器	剥片	砂岩	1
		磯石器	北海道式石器	砂岩	1
			瓦片	2	
		磯石器	瓦片	5	
		土製品	粘土塊	2	
			合計	10	
			瓦片	10	
	V P - 8	土器	日面b型	30	
		IV 壁a 壁	1		
		剥片石器	剥片	1	
			瓦片	1	
		磯石器	瓦片	3	
			土製品	粘土塊	3
			合計	101	
			瓦片	101	
	V P - 11	土器	日面b型	32	
		剥片石器	石器	1	
			2つまみ付きナイフ	真岩	1
			剥片	真岩	2
		磯石器	砂岩	1	
			土製品	粘土塊	3
			合計	43	
	面土1	土器	日面b型	7	
			合計	7	
	面土2	土器	日面b型	61	
			合計	61	

造様名	用意 又は付属施設名	造物名	分類	石材	点数	
V P - 11	面土2	磯石器	瓦	砂岩	1	
				合計	1	
	坑底	土器	Ⅲ 壁b 壁	緑色花崗岩	1	
		剥片石器	瓦片	緑色花崗岩	1	
			磯石器	加工のある標	緑色花崗岩	1
			合計	3		
V P - 12	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		剥片石器	瓦片	1		
			磯石器	加工のある標	1	
			合計	2		
V P - 13	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		剥片石器	瓦片	1		
			磯石器	緑色花崗岩	1	
			合計	3		
V P - 14	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		剥片石器	瓦片	1		
			磯石器	黒曜石	1	
			合計	3		
V P - 15	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		剥片石器	瓦片	1		
			磯石器	北海道式石器	1	
			砂岩	1		
			合計	4		
V P - 16	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	安山岩	1	
			砂岩	1		
			合計	6		
V P - 17	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 18	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 19	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 20	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 21	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 22	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 23	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 24	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 25	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 26	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 27	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 28	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		
V P - 29	面土	土器	Ⅲ 壁b 壁	1		
		磯石器	瓦片	1		
			北海道式石器	砂岩	1	
			合計	3		

遺物名	属性 又は付属遺物名	遺物名	分類	石材	点数	
V			合計		10	
便土	土器	IV群 b 領		石器	5	
		IV群 c 領			15	
		IV群 c 領			1	
V P - 29	刮削器	刮片	頁岩		1	
			黑曜石		1	
			合計		2	
		刮削器	IV群 b 領	黑曜石	1	
			合計		1	
		刮削器	IV群 c 領	黑曜石	1	
			合計		1	
		刮削器	IV群 c 領	黑曜石	1	
			合計		1	
V P - 30	便土	土器	IV群 b 領		35	
			IV群 c 領		40	
			合計		75	
V P - 31	便土	刮削器	刮片	頁岩	1	
			合計		1	
		刮削器			1	
V P - 32	便土	土器	IV群 b 領		23	
			合計		23	
		刮削器			23	
V P - 33	坑底 1	刮削器	刮片	頁岩	1	
			合計		1	
		刮削器			1	
V P - 34	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	2	
			合計		4	
		刮削器			4	
V P - 35	坑底 1	刮削器	刮片	砂岩	1	
			合計		1	
		刮削器			1	
V P - 36	便土	土器	IV群 b 領		9	
			IV群 c 領		2	
		刮削器	刮片	黑曜石	2	
			合計		13	
		刮削器			13	
		刮削器	刮片	砂岩	1	
			合計		1	
		刮削器			1	
		刮削器	刮片	安山岩	11	
				砂岩	2	
				安山岩	2	
		刮削器	刮片	加工のある磨	1	
				砂岩	1	
		刮削器	刮片	安山岩	5	
				砂岩	1	
		刮削器	刮片	砂岩	17	
			合計		25	
		刮削器			25	
V P - 37	便土	土器	IV群 b 領		9	
			IV群 c 領		2	
		刮削器	刮片	砂岩	2	
			合計		13	
V P - 38	便土	土器	IV群 b 領		75	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	頁岩	1	
				黑曜石	15	
				綠色岩	1	
		刮削器	刮片	綠色岩	1	
			合計		17	
		刮削器			17	
V P - 39	便土	土器	IV群 b 領		91	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	頁岩	1	
			合計		92	
		刮削器			92	
V P - 40	便土	土器	IV群 b 領		52	
			Rフレイク	チャート	1	
		刮削器	刮片	黑曜石	2	
			合計		55	
		刮削器			55	
V P - 41	便土	土器	IV群 b 領		45	
			IV群 c 領		10	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
				Rフレイク	1	
				黑曜石	1	
		刮削器	刮片	黑曜石	13	
				綠色岩	1	
		刮削器	刮片	頁岩	2	
				黑曜石	1	
		刮削器	刮片	安山岩	1	
				綠色岩	3	
		刮削器	刮片	安山岩	3	
			合計		100	
		刮削器			100	
V P - 42	坑底	土器	IV群 b 領		125	
			IV群 c 領		2	
		刮削器	刮片	頁岩	125	
			合計		127	
		刮削器			127	
V P - 43	便土	土器	IV群 b 領		7	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			Rフレイク	チャート	1	
			刮削器	刮片	黑曜石	4
			合計		12	
		刮削器			12	
V P - 44	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		2	
			合計		3	
		刮削器			3	
V P - 45	便土	土器	IV群 b 領		5	
			IV群 c 領		2	
		刮削器	刮片	黑曜石	2	
				砂岩	1	
		刮削器	刮片	砂岩	1	
			合計		10	
		刮削器			10	
		刮削器			10	
V P - 47	便土	土器	IV群 b 領		5	
			合計		5	
		刮削器			5	
V P - 48	便土	土器	IV群 b 領		1	
			黑曜石	石墨	1	
			合計		1	
		刮削器			1	
V P - 49	便土	土器	IV群 b 領		50	
			IV群 c 領		6	
		刮削器	刮片	黑曜石	4	
			黑曜石	沙岩	1	
			合計		57	
		刮削器			57	
V P - 50	便土	土器	IV群 b 領		50	
			IV群 c 領		6	
		刮削器	刮片	黑曜石	4	
			黑曜石	沙岩	1	
			合計		55	
		刮削器			55	
V P - 52	便土	土器	IV群 b 領		2	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		3	
		刮削器			3	
V P - 54	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	20	
			黑曜石	沙岩	1	
			合計		21	
		刮削器			21	
V P - 55	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	6	
			黑曜石	砂岩	4	
			黑曜石	石のみ	1	
			合計		18	
		刮削器			18	
V P - 56	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	64	
			黑曜石	沙岩	5	
			合計		69	
		刮削器			69	
V P - 57	便土	土器	IV群 b 領		0	
			合計		0	
V P - 58	便土	土器	IV群 b 領		19	
			IV群 c 領		8	
		刮削器	刮片	黑曜石	6	
			合計		27	
		刮削器			27	
V P - 59	便土	土器	IV群 b 領		116	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		117	
		刮削器			117	
V P - 60	坑底 2	刮削器	刮片	砂岩	1	
			合計		1	
V P - 61	便土 2	土器	IV群 b 領		2	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	安山岩	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 62	便土 2	土器	IV群 b 領		4	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	砂岩	1	
			合計		5	
		刮削器			5	
V P - 63	便土	土器	IV群 b 領		5	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			刮削器	刮片	砂岩	1
			合計		7	
		刮削器			7	
V P - 64	便土 2	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 65	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	安山岩	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 66	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	安山岩	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 67	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 68	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 69	便土	土器	IV群 b 領		1	
			IV群 c 領		1	
		刮削器	刮片	黑曜石	1	
			合計		2	
		刮削器			2	
V P - 70	便土	土器	IV群 b 領		4	
			IV群 c 領		2	
		刮削器	刮片	黑曜石	2	
			合計		6	
		刮削器			6	

透名	岩名 又は付高透名	透物名	分類	石材	点数
V P - 71			總計		6
透土 1	土器	IV 順々型			5
	剥片石器	R フラシタ	黒曜石		1
	剥片	黒曜石	黒曜石		3
			合計		9
V P - 72	透土 2	剥片石器	剥片	黒曜石	1
				褐色色石器	1
			合計		2
			總計		11
V P - 74	透土	土器	IV 順々型		3
			總計		3
V P - 76	透土	磯石器	石器	安山岩	1
			合計		1
			總計		1
V S P - 1	透土 1	磯石器	磯	安山岩	4
				酸岩	16
			合計		20
			總計		20
V S P - 2	透土	土器	Ⅲ 順々型		10
		磯石器	北海道式石器	砂岩	2
		土器品	點々型	黒曜石	2
			合計		14
			總計		14
V S P - 3	透土	土器	Ⅱ 順々型		1
			總計		1
V T P - 1	透土	剥片石器	剥片	黒曜石	2
			總計		2
V T P - 2	透土	磯石器	磯	片岩	1
			合計		1
			總計		1
V T P - 7	透土	土器	Ⅲ 順々型		4
		磯石器	R フラシタ	黒曜石	1
			R フラシタ	黒曜石	3
		剥片	黒曜石	黒曜石	9
			合計		14
			總計		14
V T P - 8	透土	土器	Ⅳ 順々型		4
		剥片石器	剥片	黒曜石	1
			合計		5
			總計		5
V T P - 10	透土	土器	Ⅲ 順々型		31
		剥片石器	つまみ付きタイプ	黒曜石	1
			合計		32
			總計		32
V T P - 11	透土	土器	Ⅲ 順々型		6
		剥片石器	剥片	黒曜石	6
			剥片	黒曜石	6
		剥片	剥片のあら巻	片岩	1
			合計		19
V T P - 13	透土 3	土器	Ⅲ 順々型		1
			總計		1
			合計		1
V T P - 15	透土	土器	Ⅲ 順々型		1
			總計		1
			合計		1
V T P - 16	透土	土器	IV 順々型		1
		磯石器	磯	安山岩	1
			合計		2
			總計		2
V F - 1	透土上面	磯石器	磯	砂岩	2
			合計		2
			總計		2
V F - 2	透土上面	土器	Ⅲ 順々型		1
		剥片石器	剥片	黒曜石	1
			合計		2
			總計		2
V F - 3	透土上面	土器	IV 順々型		14
		剥片石器	剥片	黒曜石	5
			剥片	褐色色石器	1
		磯石器	磯	褐色色石器	1
			合計		22
			總計		22
V F - 6	透土	剥片石器	剥片	黒曜石	12
			總計		12
			合計		12
V F - 7	透土	磯石器	磯	砂岩	1
			磯	安山岩	1
			合計		2
			總計		2

道標名	原色 又は付箋種別名	道物名	分類	石材	点数
V P - 13	V	礫石器	石目	凝灰岩	合計
		鉢			
V P - 14	覆土	土器	IV鉢 b 型		1
		礫石器	石目	ノマク	1
		石器	石器	凝灰岩	1
					合計
					3
		総計			3
V F - 17	覆土	土器	IV鉢 b 型		1
	覆土 I	土器	IV鉢 b 型		1
					合計
					1
V F - 18	粘土	土器	IV鉢 b 型		1
	粘土上	刮削石器	縦	砂岩	1
					合計
					1
		総計			1
V S - 1	V	土器	IV鉢 b 型		1
		礫石器	石目	凝灰岩	1
			縦	凝灰岩	47
				砂岩	4
				粘土	1
				片麻岩	3
					合計
					62
		総計			62
V S - 2	V	土器	IV鉢 b 型		20
		礫石器	縦	安山岩	2
				凝灰岩	32
				砂岩	4
				粘土	2
					合計
					60
		総計			60
V S - 3	V	土器	IV鉢 b 型		5
		刮削石器	縦	凝灰岩	1
		礫石器	石目	凝灰岩	1
				砂岩	2
				加工前のある縦	2
				砂岩	3
				粘土	57
				片麻岩	11
					合計
					82
		総計			82
V S - 4	V	土器	IV鉢 b 型		4
		礫石器	石目	凝灰岩	7
			縦	凝灰岩	2
				砂岩	34
				粘土	1
				片麻岩	14
					合計
					142
		総計			142
V S - 5	覆土	土器	IV鉢 a 型		4
		刮削石器	縦	泥岩	8
		礫石器	石目	凝灰岩	1
			縦	砂岩	2
				加工前のある縦	1
				砂岩	45
				粘土	1
				片麻岩	45
					合計
					136
		総計			136
V S - 6	V	礫石器	たなびき石	砂岩	1
				凝灰岩	1
			すり石	砂岩	9
			台石	凝灰岩	1
			石墨	砂岩	53
			縦	凝灰岩	17
				砂岩	1
				粘土	3
					合計
					96
		総計			96
V F C - 1	V	刮削石器	縦	頁岩	60
					合計
					60

表3 造構出土土器等一覧

台所/点数 遺物種別	遺物名	分類								不明	土器品	合計	
		I群a類	I群b類	II群	III群a類	III群b類	IV群	IV群a類	IV群b類	IV群c類			
	VH-1	3	1		15		2			1	20	20	
	VH-2	85		1	4						16	107	
	VH-3	1	62		69		65		2		7	105	
	VH-4				4		4					357	
	VH-5		349					968			5	994	
	VH-6			1							43	452	
	VH-7		48			1	486				5	549	
	VH-8		25									25	
住居跡	VH-9	1		1	9	1		6	1			19	
	VH-10	3	475	3				1	1		4	494	
	VH-11							5				5	
	VH-12			1				41				42	
	VH-13	7										7	
	VH-14						1	363				364	
	VH-15		394		22		1	12	8		2	439	
	VH-16				1			34	48			83	
	VH-17		185		403	34		17	11		58	706	
	合計	11	2036	2	408	146	2	1564	472	60	1	4842	
	VP-1	64									2	66	
	VP-2				1						1	2	
	VP-4	1										1	
	VP-5										2	2	
	VP-8	96					1				2	99	
	VP-11	1	116								3	126	
	VP-12		1									1	
	VP-14	8									1	9	
	VP-15										50	50	
	VP-16	3									1	4	
	VP-17										122	122	
	VP-18	3									1	4	
	VP-19	1									1	2	
	VP-20										15	18	
	VP-21										6	6	
	VP-22										1	1	
	VP-23	71										71	
	VP-24	2										2	
	VP-29	5						12		1		18	
	VP-30				1				39			46	
	VP-32	23										23	
	VP-34	1				1						2	
	VP-36	2	1									3	
	VP-37									1		1	
七坑	VP-39							75				75	
	VP-40						2	6				6	
	VP-41						85	12				97	
	VP-42						7					7	
	VP-44				1			2				3	
	VP-45							5				5	
	VP-47	5										5	
	VP-48						2					2	
	VP-50	50								1		51	
	VP-52						2	6				8	
	VP-54						1					1	
	VP-55						4					4	
	VP-56						1					1	
	VP-57	9										9	
	VP-58							19				19	
	VP-59	116										116	
	VP-61	230										230	
	VP-62	4										4	
	VP-68	1					3					4	
	VP-69	1			1			1				2	
	VP-70						1	1				2	
	VP-71						2					2	
	VP-72						4					4	
	VP-74						5					5	
	合計	1	513	1	0	4	1	19	273	54	0	213	1379
	VTP-7	1										1	
	VTP-5	4										4	
Tビット	VTP-10		31									31	
	VTP-11					7						7	
	VTP-13											1	
	VTP-15	1										1	
	VTP-16						1					1	
	合計	5	32	0	0	7	0	2	9	0	0	6	46
小ビット	VSP-2		10								2	12	
	VSP-35	1										1	
	合計	1	10	0	0	0	0	0	0	0	2	12	
堆土	VF-2					1						1	
	VF-3	1				14						15	
	VF-14							1				1	
	VF-17							4				4	
	VF-18							2				2	
	合計	0	1	0	0	0	15	0	0	7	0	0	23

分類/品目	遺構名	分類											土器品	合計
		Ⅱ剥離面	Ⅲ剥離面	Ⅳ剥離面	Ⅴ剥離面	Ⅵ剥離面	Ⅶ剥離面	Ⅷ剥離面	Ⅸ剥離面	Ⅹ剥離面	不明			
集石	V S - 1									1			1	
	V S - 2									20			20	
	V S - 3									5			5	
	V S - 4									2			2	
	V S - 5									4			4	
合計		0	0	0	0	0	0	4	28	0	0	2	34	
個数		18	2892	3	405	172	3	1589	790	114	1	357	5337	

表4 造構出土石器等一覧

造構 種別	遺構名	遺物名													石器 部類	総計			
		石核	石核 碎片	石核 石核	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R 直面刮削器	U フライイク	石核	剥片	石斧	石のひ	たたき石	磨石	北海道式石斧	石頭	研磨石	加工痕ある砾	原石
住居跡	V H - 1	4	5	1	2	6	3	12,896	3	1	1				1	3	9	10	12,945
	V H - 2	4	1	2	3	1	1	4,533	13	3	2	3	3		9	9	39	4,518	
	V H - 3	14	5	6	1	5	2	6,945	3	1	6	8	1	3	13	13	7,013		
	V H - 4	24	2	1	5	1	8	11,236	7	4	1	4	2	1	5	24	11,325		
	V H - 5							8								4	12		
	V H - 5・HF - 1	2						1,866								9	1,877		
	V H - 6	7	1	1	1	2		3,690	6		3	1	2		5	24	3,742		
	V H - 7	2		2				70			1				11	86			
	V H - 8	1		1	1			32			1	3			6	45			
	V H - 9	1		2			2	61	3						2	71			
	V H - 10	3	2	5	2	2	1	1,850	4	3	2	17	6	3	4	3	1	157	2,065
	V H - 11	1			1			422		1	1					426			
	V H - 12		1					12		1	4					7	25		
	V H - 13				3											3			
	V H - 14	5		1		1	1	1,644							1	2	171	1,826	
	V H - 15	7	4	3	2	1	643	5	3	1	3	22	1	6	1	11	71	784	
	V H - 15・HP - 1						2									2			
	V H - 16					2	3	1	66	1	1	1	1		3	1	3	82	
	V H - 17	8	8	2	11	1	5,643	2	3	1	1	14	5		10	48	5,757		
土坑	V P - 1	1		1				14			1	2	2	2	1		7	31	
	V P - 2															3	4		
	V P - 3							11			1				1	13			
	V P - 4							1							18	19			
	V P - 5														7	8			
	V P - 8							2							2	4			
	V P - 11	1		1				3							1	2	6		
	V P - 12							2								2			
	V P - 13	1						12	1						1	15			
	V P - 14	1			1		4							1	2	9			
	V P - 15	1									1				2	4			
	V P - 16										2				2				
	V P - 17										1					1			
	V P - 18							1	1					1	2	5			
	V P - 22							1								1			
	V P - 24											5			15	18			
	V P - 29		1					7	1					1	3	13			
	V P - 31														1	1			
	V P - 33														1	1			
	V P - 34							2							2				
	V P - 35									2	13	1	1	1	23	40			
	V P - 36													3	1	4			
	V P - 39							15		1						16			
	V P - 40							2								3			
	V P - 41	1		2		35	2	1						4	1	46			
	V P - 42				1		4									5			
	V P - 45						2	1							2	5			
	V P - 48											1				1			
	V P - 50							4			1					5			
	V P - 52							1								1			
	V P - 54								21							21			
	V P - 55	1						10	1							12			
	V P - 56	1						4,421							1	4,423			
	V P - 58							1	7							8			
	V P - 59								1							1			
	V P - 60														1				

遺構 種別	遺構名	遺物名												総計									
		石 器	石 核	石 片	石 核	剥 片	石 片	石 核	石 片	石 核	石 片	加工 する 場	磨 石										
土坑	VP-61											1		1									
	VP-62											1		4									
	VP-63											2		3									
	VP-64											1		2									
	VP-66											1		5									
	VP-67											1		1									
	VP-71											2		2									
	VP-72											5		6									
Tピット	VP-73											1		1									
	VP-78											1		1									
	VTP-1											2		2									
	VTP-2											1		1									
	VTP-7		1	3		9								13									
	VTP-8						1							1									
	VTP-10			1										1									
	VTP-11						8							9									
小ピット	VSP-1											1		1									
	VSP-2											1		20									
	VF-1													2									
	VF-2						1							1									
	VF-3						6	1						7									
	VF-6						12							12									
	VF-7											1		1									
	VF-12													1									
焼土	VF-13						18		1					19									
	VF-14						83					1	1	85									
	VF-15						5							5									
	VF-18													1									
	VS-1											4		51									
	VS-2													40									
	VS-3						3					1	2	71									
	VS-4											7		77									
集石	VS-5						8					1		131									
	VS-6							2	1	9	53		2	121									
	片岩集石 VPC-1						60							60									
	總計	91	9	19	37	11	1	50	17	4	56,428	53	2	24	15	18	82	102	37	1	8	74	51,172

表5 遺構出土揭露土器一覧

番号	遺構名	調査区・測量番号×点数	部位	部位	分類	回収番号	備考
IV-2-1-1	VP-57	VP-57-1×4	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-1	
		N35-1×12, N35-2×28	石44	V			
IV-2-2-2	VP-59	VP-59-1×26	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-1	
		K35-3×13	計39	V			
IV-2-3-3	VP-61	VP-61-1×4, VP-61-5×87	土	土	復元個体(口縁～底面)	H b-1	
		VP-61-18×2	土	土		回収26	石皿と一緒に出土
IV-2-4-4	VH-4	VH-4-34×2, VH-4-42×2, VH-4-75×1	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-4-122×1, VH-4-194×3	計47	V			
IV-2-4-5	VH-6	VH-6-12×22, VH-6-141×1	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-6-34×1, VH-6-5×1, VH-6-7×1	土	土			傾斜して出土
IV-2-4-6	VH-6	VH-6-5×2, VH-6-7×1	土	土	復元個体(口縁～底面)	H b-2	
		VH-6-150×49	土	土		回収27	傾斜して出土
IV-2-4-7	VH-10	VH-10-2×2, VH-10-5×10	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-10-10×8×9	土	土			
IV-2-4-8	VH-10	VH-10-8×9×9	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-10-13×1, VH-10-14×1	土	土			
IV-2-5-9	VH-15	VH-15-9×7×6	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-15-14×1	土	土			
IV-2-5-10	VH-15	VH-15-16×5×9	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-15-22×1, VH-15-23×1	土	土			
IV-2-5-11	VH-17	VH-17-167×2, VH-17-115×1	土	土	復元個体(口縁～肩部)	H b-2	
		VH-17-115×1, VH-17-116×1	土	土			
IV-2-5-12	VP-8	VP-8-2×1, VP-8-4×2, VP-8-5×1, VP-8-6×1, VP-8-7×1, VP-8-8×1, VP-8-9×2, VP-8-10×1, VP-8-11×2, VP-8-12×1, VP-8-13×1, VP-8-14×1, VP-8-15×1, VP-8-16×1, VP-8-17×1, VP-8-18×2, VP-8-19×1, VP-8-20×1, VP-8-21×1, VP-8-22×1, VP-8-23×1, VP-8-24×1, VP-8-25×1, VP-8-26×1, VP-8-27×1, VP-8-28×1, VP-8-29×1, VP-8-30×1, VP-8-31×1, VP-8-32×1, VP-8-33×1, VP-8-34×1, VP-8-35×1, VP-8-36×1, VP-8-37×1, VP-8-38×1, VP-8-39×1, VP-8-40×1, VP-8-41×1	土	土	回収28		
		O31-2×2, O31-6×1, P31-3×7	計101	V			

圖面号	造形名	断面图・造形部寸法	部位	部数	分類	圖面号	備考		
図IV-2-5-13	V P - 11	V P - 11 - 5×1, V P - 11 - 5×1, V P - 11 - 11×1, V P - 11 - 11×1 V P - 11 - 15×1, V P - 11 - 17×1 V P - 11 - 46×1, V P - 11 - 47×1 V P - 11 - 36×1, V P - 11 - 38×2, V P - 11 - 36×2, V P - 11 - 38×3, V P - 11 - 39×1, V P - 11 - 41×1 V P - 39 - 6×1	壁土2	復元部体(脚～底部)	II b - 1	図版26			
		V P - 23 - 1×31	壁土						
		K 29 - 4×16	Y						
		V P - 30 - 1×2, V P - 30 - 2×2	壁土	復元部体(口縁～脚部)	II b - 1				
		H 21 - 5×5	Y						
		V H - 2 - 254×1, V H - 2 - 255×1	壁土						
図IV-2-6-15	V H - 2	V F - 2 - 1×1, V F - 3 - 2×1, V F - 3 - 3×5, V F - 3 - 5×4, V F - 3 - 10×1, V F - 3 - 11×1, V F - 3 - 12×1, V F - 3 - 18×1 H 11 - 2×1, L 20 - 10×1, M 25 - 11×1, P 10 - 3×3, Q 10 - 10×1, Q 11 - 3×3	土上面	復元部体(口縁～底部)	II b - 3	図版27			
		V H - 5 - 5×1, V H - 5 - 15×1, V H - 5 - 16×1, V H - 5 - 17×1, V H - 5 - 18×1, V H - 5 - 19×1, V H - 5 - 20×1, V H - 5 - 21×1, V H - 5 - 22×1, V H - 5 - 38×1	壁土1						
		V H - 5 - 5×1, V H - 5 - 52×1, V H - 5 - 53×1, V H - 5 - 54×1	壁土2						
		V H - 5 - 55×1, V H - 5 - 60×1, V H - 5 - 61×1, V H - 5 - 71×1, V H - 5 - 74×2, V H - 5 - 79×1	壁土3	復元部体(口縁～脚部)	IV a - 2				
		V H - 5 - 57×1, V H - 5 - 62×3, V H - 5 - 65×4, V H - 5 - 67×1, V H - 5 - 125×1	壁土4上面						
		V H - 7 - 13×7, V H - 7 - 15×5	壁土						
図IV-2-8-18	V H - 7	V H - 7 - 2×4	表面	復元部体(口縁～脚部)	IV a - 2	図版28	土面剥離		
		V H - 7 - 17×17,	床						
		V H - 7 - 4×2, V H - 7 - 5×3, V H - 7 - 6×6, V H - 7 - 7×1, V H - 7 - 8×4, V H - 7 - 10×1	床						
		V H - 7 - 13×1, V H - 7 - 15×1	壁土	復元部体(口縁～底部)	IV b - 1				
		V H - 7 - 17×1	Y						
		P 43 - 3×54, P 43 - 5×3, P 43 - 10×1	Y						
図IV-2-11-21	V P - 42	V P - 42 - 1×3	壁土	復元部体(口縁～脚部)	IV b - 1	図版29	土面剥離		
		1.6 - 10×1, J 5 - 12×3, J 7 - 8×1, J 7 - 9×1	Y						
		V P - 74 - 1×1	壁土						
		S 46 - 4×2	Y	復元部体(脚～底部)	IV b - 2				
		V H - 14 - 21×5, V H - 14 - 22×1, V H - 14 - 37A×2L, V H - 14 - 37B×17, V H - 14 - 37C×4, V H - 14 - 37D×12, V H - 14 - 37E×2, V H - 14 - 62×3, V H - 14 - 91×3	壁土1						
		V H - 14 - 12×1, V H - 14 - 38×2, V H - 14 - 41×1, V H - 14 - 42×1, V H - 14 - 44×1, V H - 14 - 46×1, V H - 14 - 50×1, V H - 14 - 53×1, V H - 14 - 57×1, V H - 14 - 58×1, V H - 14 - 59×2, V H - 14 - 61×1, V H - 14 - 62×1, V H - 14 - 64×1, V H - 14 - 65×1, V H - 14 - 67×1, V H - 14 - 69×1, V H - 14 - 71×1, V H - 14 - 76×1, V H - 14 - 78×3, V H - 14 - 91×4	壁土2	復元部体(口縁～脚部)	IV b - 2				
図IV-2-11-24	V H - 14	V H - 14 - 3×22, V H - 14 - 16×1,	壁土		図版30	23・25と一括で出土			
		V H - 14 - 16×1, V H - 14 - 17×1	Y						
図IV-2-11-25	V H - 14	V H - 14 - 16×1	壁土	復元部体(口縁～脚部)	IV b - 2				

番号	遺構名	断面図・遺物番号・点数	位置	層位	分類	断面番号	備考
図IV-2-11-25	VH-14	VH-14-17×1, VH-14-91×1, VH-14-96×1	計26	層土1	後元層体(口縁~洞部)	IV b-2	図版30 23-24と一括で出土
	VH-16	VH-14-25×6 P48-3×2, Q46-4×1	H3	V			
図IV-2-11-26	VH-16	VH-16-1×24	床面	三元層体(口縁~底面)	IV b-2		
		G6-12×3, G6-18×2, G6-21×9, G7-5×3, G17-1×1, H6-16×5, H6-5×4×2, H7-5×3, HT-28×1, HS-7×2, HS-20×1, JT-2×1, JB-8×1, PB-1×2, Q15-10×4, Q16-3×2, Q16-5×2	土壌				
図IV-2-12-27	VP-41	VH-16-41×1	V	後元層体(口縁~洞部)	IV b-3		
		G16-3×2 G16-5×5	計43			図版31	
図IV-2-12-28	VH-16	F16-6×5, G10-3×14, I5-5×5	計24	V	後元土器(口縁~洞部)	IV c-1	
図IV-2-12-29	a	G16-3×2	V	後元土器(口縁)	IV c-1		
	b	VH-16-17×4	層土	後元土器(洞~底面)	IV c-1	同一個体	
図IV-2-12-30	VP-30	VP-30-2×28	層土	後元土器(口縁~底面)	IV c-1		
図IV-2-13-31	V S P-25	V S P-25-1×1	層土	口縫部	II a-2		
図IV-2-13-32	V T P-8	V T P-8-1×2	層部	洞部	II a-1		
図IV-2-13-33	a	V H-2	V H-2-35×2	床面	口縫部	II b-2	
b	V H-2	V H-2-35×1	底面	洞部	II b-2		
		V H-2-35×1	底面	口縫部	II b-2	同一個体	
図IV-2-13-34	V H-2	V H-2-35×1	底面	洞部	II b-2		
a	b	V H-2	V H-2-35×2	底面	洞部	II b-2	
	b	V H-2	V H-2-8×1, V H-2-9×1, V H-2-11×1	計3	層土	底面	同一個体
図IV-2-13-35	V H-3	V H-3-133×1	洞部	洞部	II b-1		
図IV-2-13-36	V H-3	V H-3-133×1	洞部	口縫部	II b-2		
図IV-2-13-37	V H-3	V H-3-111×1, V H-3-133×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-13-38	V H-3	V H-3-41×1, V H-3-133×7	層土	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-13-39	V H-3	V H-3-16×1	V			図版32	
図IV-2-13-40	V H-3	V H-3-5×2×1	底面	洞部	II b-2		
図IV-2-13-41	V H-3	V H-3-5×2×1	底面	洞部	II b-2		
図IV-2-13-42	V H-4	V H-4-65×2	層土	口縫部	II b-1		
図IV-2-13-43	V H-4	V H-4-100×1	底面	洞部	II b-1		
図IV-2-13-44	V H-4	V H-4-34×1, V H-4-86×3	計4	層土	口縫~洞部	II b-2	
図IV-2-13-45	V H-4	V H-4-4×1	層土	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-13-46	V H-4	V H-4-54×2	層土	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-13-47	V H-4	V H-4-1-105×1	層土	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-13-48	V H-4	V H-4-65×1	層土	洞部	II b-2		
図IV-2-13-49	V H-4	V H-4-65×1	層土	洞部	II b-2		
図IV-2-14-50	V H-6	V H-6-269×1	底面	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-14-51	V H-6	V H-6-204×1	V				
図IV-2-14-52	V H-6	V H-6-186×1	底面	口縫部	II b-2		
図IV-2-14-53	V H-6	V H-6-251×1	底面	口縫部	II b-2		
図IV-2-14-54	V H-6	V H-6-210×1	底面	口縫部	II b-2		
図IV-2-14-55	V H-6	V H-6-154×1	底面	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-14-56	V H-6	V H-6-833×1	底面	口縫~洞部	II b-2		
a	b	V H-6-541×1	底面	口縫部	II b-2		
	b	V H-6-644×1	V	口縫部	II b-2	同一個体	
図IV-2-14-57	V H-6	V H-6-249×1	底面	口縫部	II b-2		
図IV-2-14-58	V H-6	V H-6-735×1	床面	洞部	II b-2		
図IV-2-14-59	V H-6	V H-6-282×1, V H-6-228×1	計2	底面	洞部	II b-2	
図IV-2-14-60	V H-6	V H-6-204×1	底面	底板	II b-2		
図IV-2-14-61	V H-6	V H-6-165×1	底面	洞部	II b-3		
図IV-2-14-62	V H-6	V H-6-93×1	層+2	洞部	II b-3		
図IV-2-14-63	V H-6	V H-6-165×1	層+2	口縫部	II b-1		
図IV-2-14-64	V H-6	V H-6-165×1	層+2	洞部	II b-1		
図IV-2-15-65	V H-10	V H-10-127×3	H P-1	口縫部	II b-1		
図IV-2-15-66	V H-10	V H-10-117×1	H P-2	口縫~洞部	II b-2		
図IV-2-15-67	V H-10	V H-10-2×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-68	V H-10	V H-10-2×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-69	V H-10	V H-10-8×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-70	V H-10	V H-10-5×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-71	V H-10	V H-10-5×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-72	V H-10	V H-10-2×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-73	V H-10	V H-10-119×1	H P-4	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-74	V H-10	V H-10-30×1	層土	口縫部	II b-2		
図IV-2-15-75	V H-10	V H-10-2×1	層土	口縫部	II b-2		

回数	通称名	種別名・植物番号・点数	部位	部位	分類	回数	備考
回IV-2-15-76	VH-10	VH-10-118×1	H P-2 茎+2	脚部	B b-2	回版33	
回IV-2-15-77	VH-10	VH-10-124×1	葉面	脚部	B b-2		
回IV-2-15-78	VH-10	VH-10-4×1, VH-10-5×1	茎+2	脚部	B b-1		
回IV-2-15-79	a b	VH-10 VH-10-2×2	茎土	脚部	B b-1		同一個体
回IV-2-15-80	VH-10	VH-10-5×3	葉土	脚部	B b-1		
回IV-2-15-81	VH-10	VH-10-124×1	葉面	脚部	B b-2		
回IV-2-15-82	a b	VH-10 VH-10-105×16	H P-2 茎+2	口輪～脚部	B b-3	回版34	同一個体
回IV-2-16-83	VH-15	VH-15-215×1	H P-1 茎+2	脚部	B b-2		
回IV-2-16-84	VH-15	VH-15-147×1	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-85	VH-15	VH-15-114×1	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-86	VH-15	VH-15-97×3	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-87	VH-15	VH-15-73×1	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-88	VH-15	VH-15-149×1	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-89	VH-15	VH-15-73×3	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-90	VH-15	VH-15-136×4	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-91	VH-15	VH-15-156×1	茎+2	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-92	VH-15	VH-15-156×3	茎+2	脚部	B b-2		
回IV-2-16-93	VH-15	G2-15×1	茎+2	脚部	B b-3		
回IV-2-16-94	VH-15	VH-15-45×1	茎+2	脚部	B b-3		
回IV-2-16-95	VH-17	VH-17-119×1	茎+3	口輪部	B b-1		
回IV-2-16-96	VH-17	VH-17-72×1	茎+2	脚部	B b-1		
回IV-2-16-97	VH-17	VH-17-113×2	茎+2	脚部	B b-1		
回IV-2-16-98	VH-17	VH-17-44×1	茎+2	脚部	B b-3		
回IV-2-16-99	VH-17	K12-5×1	V	脚部	B b-3		
回IV-2-16-100	VH-17	VH-17-68×1	茎+1	脚部	B b-3		
回IV-2-16-101	VH-17	R22-3×1	V	脚部	B b-3		
回IV-2-16-102	VP-1	VP-1-4×1	茎+1	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-103	VP-1	VP-1-57×1	茎+1	口輪部	B b-2		
回IV-2-16-104	VP-1	VP-1-27×1	茎+1	脚部	B b-2		
回IV-2-16-105	VP-1	VP-1-20×1	茎+1	脚部	B b-2		
回IV-2-16-106	VP-1	VP-1-26×1	茎+1	脚部	B b-2		
回IV-2-16-107	a b c	VP-11-14×2, VP-11-15×2 VP-11-55×1 VP-11-8×1 VP-11-16×1, VP-11-18×3 VP-11-21×1, VP-11-23×1 VP-11-54×1 VP-11-47×6 VP-11-31×1 VH-3-209×1 J18-5×1	茎+2 口輪～脚部 茎+2 脚部 茎+2 脚部 茎+2 脚部 V 口輪部 V	口輪～脚部	B b-2	回版35	同一個体
回IV-2-17-108	VP-14	VP-14-4×1	脚部	口輪部	B b-2		
回IV-2-17-109	VP-16	VP-16-1×3	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-17-110	VP-24	VP-24-8×1	脚土	口輪部	B b-1		
回IV-2-17-111	VP-24	VP-24-3×3	脚底	脚部	B b-1		
回IV-2-17-112	VP-29	VP-29-12×1	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-17-113	VP-29	VP-29-3×3	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-17-114	a b	VP-29 VP-34	VP-29-2×1 VP-34-1×1	脚土 脚部	B b-3		同一個体
回IV-2-17-115	V P-32	V P-32-1×1, V P-32-4×1, V P-32-5×6	茎+2	口輪～脚部	B b-2		
回IV-2-17-116	VP-36	VP-36-1×1	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-17-117	VP-47	VP-47-1×1, VP-47-2×1	茎+2	脚部	B b-2		
回IV-2-17-118	VP-50	VP-50-7×1	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-17-119	VP-62	VP-62-1×1	脚土	口輪部	B b-1		
回IV-2-18-120	VTP-10	VTP-10-1×1	脚土	口輪部	B b-1		
回IV-2-18-121	VSP-2	VSP-2-1×1	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-18-122	VSP-2	VSP-2-1×1	脚土	脚部	B b-2		
回IV-2-18-123	a b	VH-10 G19-5×4, G19-12×7, G19-9×1 G19-6×3, G19-12×3	H P-2 茎+2 V VH-10-129×1	口輪～脚部	B a-1	回版36	同一個体
回IV-2-18-124	a b c d	VH-17 VH-17 VH-17-5×2 VH-17-5×2 VH-17-5×16 K12-2×5, K12-7×2	脚土 脚部 脚土 脚部 脚土 脚部	口輪部 脚部 脚土 脚部 脚土 脚部	B a-1	回版36	同一個体
回IV-2-19-125	VH-1	VH-1-129×1	脚土	脚部	B b-3		
回IV-2-19-126	a b	VH-1 VH-1-333×1	脚土	脚部	B b-3		同一個体
回IV-2-19-127	VH-1	VH-1-216×1	脚土	脚部	B b-3		
回IV-2-19-128	VH-3	VH-3-32×1	脚土	口輪部	B b-3		
回IV-2-19-129	VH-3	VH-3-67×5, VH-3-68×1	脚土	口輪～脚部	B b-3		

遺物番号	遺物名	測量区・遺物番号・点数	測位	部位	分類	回収番号	備考
遺IV - 2 - 19 - 129	VH - 3	VH - 3 - 110×1	H7	帶土	口縁～腹部	II b - 3	
遺IV - 2 - 19 - 130	VH - 3	VH - 3 - 214×1	床面	網席	II b - 3	回収番号	
遺IV - 2 - 19 - 131	VH - 4	VH - 4 - 35×2	P13 - 3×1, Q12 - 5×2	H5	V		
遺IV - 2 - 19 - 132	VH - 9	VH - 9 - 6×1	帶土	口縁部	II b - 3		
遺IV - 2 - 19 - 133	VH - 9	VH - 9 - 9×1	帶土	口縁部	II b - 3		
遺IV - 2 - 19 - 134	VH - 4	VH - 4 - 110×2	帶土	網席	IV a - 2		
a b c	VH - 5 VH - 5 VH - 5	VH - 5 - H F - 1 - 124×1 VH - 5 - H F - 1 - 25×1 VH - 5 - H F - 1 - 104×1	帶土(上面)	口縁部			
遺IV - 2 - 19 - 135	VH - 5	VH - 5 - H F - 1 - 29×1	帶土2	口縫部	IV a - 2		同一個体
a b c	H F - 1 H F - 1 H F - 1	VH - 5 - H F - 1 - 57×4	帶土3	網席			
遺IV - 2 - 19 - 136	VH - 5	VH - 5 - H F - 1 - 29×1	帶土2	口縫部	IV a - 2		
遺IV - 2 - 19 - 137	VH - 7	VH - 7 - 27×1	床面	口縫部	IV a - 2		
遺IV - 2 - 19 - 138	V P - 52	V P - 52 - 4×1	帶土1	網席	IV a - 2		
遺IV - 2 - 20 - 139	VH - 9	VH - 9 - 3×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 20 - 140	VH - 9	VH - 9 - 21×1, VH - 9 - 22×1	H2	床面	網席	IV b - 1	
遺IV - 2 - 20 - 141	VH - 11	VH - 11 - 9×1	H P - 2	網席	IV b - 1		回収番号
a b c d	VH - 11 VH - 11 L 3 - 9×1, L 3 - 13×2, L 3 - 14×3	VH - 11 - 4×1 K 4 - 14×1 L 3 - 13×5, L 3 - 21×1 L 3 - 13×3	床面付近	口縫～網席	IV b - 1		同一個体
遺IV - 2 - 20 - 142	V H - 11	V H - 11 - 4×1	網席				
a b c d	V H - 11 V H - 11 L 3 - 9×1, L 3 - 13×2, L 3 - 14×3	K 4 - 14×1 L 3 - 13×5, L 3 - 21×1 L 3 - 13×3	V	網席			
遺IV - 2 - 20 - 143	V H - 12	V H - 12 - 14×1	床付近	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 20 - 144	V H - 12	V H - 12 - 16×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 20 - 145	V H - 12	V H - 12 - 13×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 20 - 146	V H - 12	V H - 12 - 14×1	床付近	網席	IV b - 1		
a b	V H - 12 V H - 12	J 1 - 19×1, J 1 - 20×1 J 1 - 16×2, J 1 - 21×1, J 1 - 31×1	J 2	V	網席	IV b - 1	同一個体
遺IV - 2 - 20 - 147	V H - 12	V H - 12 - 14×1	床付近	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 20 - 148	V H - 12	V H - 12 - 14×1	帶土1	口縫部	IV b - 2		
遺IV - 2 - 20 - 149	V H - 14	V H - 14 - 96×1	帶土1	口縫部	IV b - 2		
遺IV - 2 - 20 - 150	V H - 14	V H - 14 - 45×1	帶土2	口縫～網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 20 - 151	V H - 14	V H - 14 - 45×2, V H - 14 - 62×1	H3	帶土2	口縫～網席	IV b - 2	
遺IV - 2 - 20 - 152	V H - 14	V H - 14 - 13×1, V H - 14 - 80×2	H3	帶土2	口縫部	IV b - 2	
遺IV - 2 - 20 - 153	V H - 14	V H - 14 - 82×1, V H - 14 - 96×1	H2	帶土1	口縫～網席	IV b - 2	
遺IV - 2 - 20 - 154	V H - 14	V H - 14 - 35×1	帶土2	口縫部	IV b - 2		
遺IV - 2 - 20 - 155	V H - 14	V H - 14 - 2×1	帶土1	口縫～網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 20 - 156	V H - 14	V H - 14 - 91×2	帶土1	網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 21 - 156	V P - 40	V P - 40 - 2×1	帶土	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 157	V P - 40	V P - 40 - 5×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 158	V P - 40	V P - 40 - 2×2	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 159	V P - 41	V P - 41 - 12×1	V				
遺IV - 2 - 21 - 160	V P - 41	V P - 41 - 5×1	帶土	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 161	V P - 41	V P - 41 - 33×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 162	V P - 41	V P - 41 - 1×1	帶土	網席	IV b - 3		回収番号
遺IV - 2 - 21 - 163	V P - 41	V P - 41 - 31×4, V P - 41 - 32×1	H2	帶土	口縫～網席	IV b - 3	
遺IV - 2 - 21 - 164	V P - 41	V P - 41 - 13×4, V P - 41 - 17×1	H2	V	網席	IV b - 3	
a b	V P - 41 V P - 41	J 1 - 15×1 J 1 - 41×1, J 1 - 12×1 V P - 41 - 22×1, V P - 41 - 23×1, V P - 41 - 24×1, V P - 41 - 25×1, V P - 41 - 26×1, V P - 41 - 29×1	J 2	V	網席	IV b - 3	
遺IV - 2 - 21 - 165	V P - 41	V P - 41 - 13×4, V P - 41 - 17×1	H2	V	網席	IV b - 3	
遺IV - 2 - 21 - 166	V P - 42	V P - 42 - 1×2	帶土	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 167	V P - 45	V P - 45 - 7×1	帶土	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 168	V P - 45	V P - 45 - 5×1	帶土	網席	IV b - 1		
a b	V P - 45 V P - 45	V P - 45 - 2×1 J 1 - 10×1 H 0 - 9×1, H 2 - 15×1, J 2 - 16×1	H2	V	網席	IV b - 1	同一個体
遺IV - 2 - 21 - 170	V P - 48	V P - 48 - 1×1	帶土	口縫部	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 171	V P - 48	V P - 48 - 2×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 172	V P - 54	V P - 54 - 1×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 173	V P - 55	V P - 55 - 1×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 21 - 174	V P - 56	V P - 56 - 1×1	帶土	網席	IV b - 1		
遺IV - 2 - 22 - 175	V P - 58	V P - 58 - 1×1	帶土	口縫部	IV b - 2		
遺IV - 2 - 22 - 176	V P - 58	V P - 58 - 1×1	帶土	網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 22 - 177	V P - 67	V P - 67 - 2×1	帶土	網席	IV b - 2		
a b	V P - 69 S 48 - 2×8	S 48 - 2×8 S 48 - 3×1	V	口縫～網席	IV b - 1		同一個体
a b	V P - 71 V P - 71	V P - 71 - 1×1 V P - 71 - 1×1	帶土	口縫部	IV b - 1		同一個体
遺IV - 2 - 22 - 179	V P - 72	V P - 72 - 1×5	帶土	網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 22 - 180	V P - 74	V P - 74 - 2×1	帶土	網席	IV b - 2		
遺IV - 2 - 22 - 181	V P - 74	V P - 74 - 2×1	帶土	網席	IV b - 2		

図番号	遺物名	測量区・遺物番号×点数	層位	断面	分類	図版番号	備考
図IV-2-22-182	V F-18	V F-18-1×1	Ⅳ-1	口縁部	IV b-2		
図IV-2-22-183	V S-1	V S-1-1×5	Ⅳ-1	側部	IV b-2		
図IV-2-22-184	V S-2	V S-2-1×2	Ⅳ-1	側部	IV b-2		
図IV-2-22-185	V S-5	V S-5-5×9	Ⅳ-1	側部	IV b-2		
図IV-2-22-186 a	V H-16	V H-16-4×5	Ⅳ-1	口縁～側部	IV c-1	図版39	
図IV-2-22-186 b	V H-16	F10-8×5	Ⅳ-1	口縁部			
図IV-2-22-187	V H-16	V H-16-4×2	Ⅳ-1	口縁～側部	IV c-1	図版39	
	V P-4)	V P-4-40×7	Ⅳ-1	口縁～側部	IV c-1	図版39	

表6 造構出土揭露土製品一覧

図版番号	遺物名	測量区・遺物番号×点数	層位	分類	図版番号	備考
図IV-2-23-1	V H-1	V H-1-2×1×2	Ⅳ-1	再生土切削盤		ノック式
図IV-2-23-2	V H-15	V H-15-1×1×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-3	V H-15	V H-15-1×1×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-4	V H-15	V H-15-1×1×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-5	V H-17	V H-17-100×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-6	V H-17	V H-17-101×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-7	V H-17	V H-17-105×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-23-8	V P-1	V P-1-21×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-24-9	V P-15	V P-15-17×2	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-24-10	V P-15	V P-15-18×17	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-24-11	V P-15	V P-15-19×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-24-12	V P-15	V P-15-22×2	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-24-13	V P-15	V P-15-21×4	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-25-14	V P-17	V P-17-18×10	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-25-15	V P-17	V P-17-19×4	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-25-16	V P-17	V P-17-19×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-25-17	V P-17	V P-17-19×4	Ⅳ-1	再生土切削盤		
図IV-2-25-18	V P-21	V P-21-3×1	Ⅳ-1	再生土切削盤		

表7 造構出土揭露器等一覧

図版番号	遺物名	遺物番号	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	図版番号	備考
図IV-2-26-1	V H-1	109	覆土	石錐	(2.6)	1.8	0.3	1.2	黒曜石		
図IV-2-26-2	V H-1	357	床	石錐	3.3	2.0	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-26-3	V H-1	59	覆土	石錐	3.8	2.0	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-26-4	V H-1	213	床	石錐	(4.5)	1.9	0.6	4.4	黒曜石		
図IV-2-26-5	V H-1	178	床	石錐	(5.4)	3.3	0.8	13.0	頁岩		
図IV-2-26-6	V H-1	250	覆土	スクレイパー	2.6	1.8	0.6	3.4	黒曜石		
図IV-2-26-7	V H-1	101	覆土	スクレイパー	4.2	1.5	0.6	3.2	黒曜石		
図IV-2-26-8	V H-1	352	床	石のみ	9.0	2.1	0.9	40.8	泥岩		
図IV-2-26-9	V H-1	292	床	たたき石	7.5	6.7	5.0	431.5	珪岩		
図IV-2-26-10	V H-1	140	覆土	石皿片	(16.5)	(10.7)	(11.2)	275.2	安山岩		
図IV-2-27-1	V H-2	237	覆土	石錐	(2.1)	1.6	0.3	0.8	頁岩		
図IV-2-27-2	V H-2	5	覆土	スクレイパー	(3.7)	1.6	0.8	4.8	黒曜石		
図IV-2-27-3	V H-2	263-264	床	石斧	11.1	4.2	1.4	117.9	緑色泥岩		
図IV-2-27-4	V H-2	259	床	すり石	9.5	(8.5)	6.8	895.0	安山岩		
図IV-2-27-5	V H-2	39	覆土	すり石片	(9.0)	(3.3)	(5.7)	245.2	砂岩		
図IV-2-27-6	V H-2	346-347	坑底	石錐	29.5	25.8	3.5	7800.0	安山岩		
図IV-2-28-1	V H-3	96	覆土	石錐	(2.3)	1.1	0.3	0.5	黒曜石		
図IV-2-28-2	V H-3	125	覆土	石錐	2.4	1.3	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-2-28-3	V H-3	168	覆土	石錐	1.7	1.4	0.2	0.5	黒曜石		
図IV-2-28-4	V H-3	92	床面	石錐	(3.9)	2.3	0.5	4.6	黒曜石		
図IV-2-28-5	V H-3	129	覆土	石錐	4.7	2.1	0.7	5.6	黒曜石		
図IV-2-28-6	V H-3	140	覆土	石錐	(3.3)	2.2	0.8	5.5	頁岩		
図IV-2-28-7	V H-3	97	覆土	石錐	(3.3)	0.8	0.4	0.6	黒曜石		
図IV-2-28-8	V H-3	98	覆土	石錐	(3.4)	1.4	0.5	3.0	頁岩		
図IV-2-28-9	V H-3	127	覆土	石錐	3.0	1.5	0.4	1.4	頁岩		
図IV-2-28-10	V H-3	206	床	つまみ付きナイフ	6.6	2.7	1.2	19.8	頁岩		
図IV-2-28-11	V H-3	138	覆土	石錐	4.6	(5.9)	1.8	70.9	砂岩		
図IV-2-28-12	V H-4	116	床	つまみ付きナイフ	3.1	2.0	0.5	3.4	頁岩		
図IV-2-28-2	V H-4	115	床	つまみ付きナイフ	7.4	1.8	1.2	21.0	頁岩		
図IV-2-28-3	V H-4	120	床	スクレイパー	9.0	(4.2)	1.0	48.8	頁岩		
図IV-2-28-4	V H-4	119	床	砥石	(6.6)	(3.9)	1.4	53.0	砂岩		
図IV-2-28-5	V H-6	168	床	石錐	3.1	1.4	0.4	1.1	黒曜石		
図IV-2-28-2	V H-6	266	床	石錐	2.3	1.1	0.3	0.5	黒曜石		
図IV-2-28-3	V H-6	105	覆土	石錐	(3.9)	1.3	0.3	1.5	黒曜石		
図IV-2-28-4	V H-6	207	床	石錐	2.8	1.7	0.5	2.7	頁岩		

図番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	面積 (m ²)	材質	図版番号	備考
図IV-2-28-5	VH-6	70	覆土	つまみ付きナイフ	3.6	1.6	0.5	2.8	頁岩	図版80	
図IV-2-28-6	VH-6	146	床	砥石片	5.3	4.4	1.3	45.8	砂岩		
図IV-2-29-1	VH-7	20	覆土	石縫	2.4	1.1	0.2	0.5	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-7	2	覆土	つまみ付きナイフ	5.4	1.3	0.7	5.8	頁岩		
図IV-2-29-3	VH-7	3	覆土	つまみ付きナイフ	5.2	1.6	0.8	6.5	頁岩		
図IV-2-29-1	VH-8	11	覆土	ナイフ	6.8	2.2	1.0	13.7	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-8	22	床	つまみ付きナイフ	5.8	1.9	0.4	6.4	頁岩		
図IV-2-29-1	VH-9	19	覆土	石縫	(3.8)	1.9	0.5	2.6	黒曜石		
図IV-2-29-2	VH-9	18	覆土	石縫	(5.4)	2.6	0.6	8.0	黒曜石		
図IV-2-29-3	VH-9	14	覆土	石斧	8.9	3.2	0.8	46.2	緑色泥岩		
図IV-2-29-1	VH-10	64	覆土	石縫	2.6	1.2	0.3	0.9	黒曜石		被熱
図IV-2-29-2	VH-10	46	覆土	石縫	6.6	2.4	0.8	11.1	チャート		
図IV-2-29-3	VH-10	120	覆土	つまみ付きナイフ	4.7	(1.5)	0.8	6.4	頁岩		
図IV-2-29-4	VH-10	18	覆土	つまみ付きナイフ	6.2	2.0	0.8	9.4	頁岩		
図IV-2-29-5	VH-10	71	覆土	すり石	8.7	5.8	5.7	592.0	安山岩		
図IV-2-29-6	VH-10	23	覆土	すり石片	10.0	(8.7)	4.7	626.0	砂岩	図版81	北海道式石冠 被熱
	H19	9	V								北海道式石冠片 接合
図IV-2-29-7	VH-10	22	覆土	石縫	8.3	8.1	2.7	327.3	片麻岩		
図IV-2-29-8	VH-10	84	覆土	石縫片	(5.8)	(3.7)	1.9	70.6	砂岩		
図IV-2-30-1	VH-11	1	床面付近	石縫	(2.2)	1.7	0.3	0.8	黒曜石		
図IV-2-30-2	VH-11	2	床面付近	両面突起石器	3.8	2.4	0.7	6.8	黒曜石		
図IV-2-30-3	VH-11	8	床面付近	台石片	13.0	(15.5)	5.8	1878.0	砂岩		
図IV-2-30-4	VH-11	7	床面付近	石皿片	13.2	(11.3)	7.5	1717.0	砂岩		
図IV-2-30-1	VH-12	1	覆土	つまみ付きナイフ	12.5	4.1	1.0	51.0	黒曜石		
図IV-2-30-1	VH-14	111	覆土	石縫	(1.4)	1.2	0.3	0.4	黒曜石		
図IV-2-30-2	VH-14	110	覆土	石縫	(1.6)	(1.4)	0.3	0.4	黒曜石		
図IV-2-30-3	VH-14	8	覆土	石縫	2.3	1.5	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-2-30-4	VH-14	26	覆土	石縫	(1.9)	1.8	0.3	0.7	黒曜石		
図IV-2-30-5	VH-14	88	覆土	つまみ付きナイフ	4.5	1.8	0.5	3.6	黒曜石		
図IV-2-31-1	VH-15	183	覆土	石縫	(1.3)	1.2	0.1	0.2	黒曜石	図版82	
図IV-2-31-2	VH-15	74	覆土	石縫	(2.0)	1.2	0.3	0.6	黒曜石		
図IV-2-31-3	VH-15	11	覆土	つまみ付きナイフ	5.0	1.7	0.7	5.5	黒曜石		
図IV-2-31-4	VH-15	31	覆土	つまみ付きナイフ	(4.9)	1.7	0.5	5.2	頁岩		
図IV-2-31-5	VH-15	54	覆土	つまみ付きナイフ	5.3	2.4	0.8	8.9	頁岩		
図IV-2-31-6	VH-15	88	覆土	つまみ付きナイフ	6.5	2.3	0.9	14.6	頁岩		
図IV-2-31-7	VH-15	98	覆土	スクレイパー	4.0	1.8	0.4	4.4	頁岩		
図IV-2-31-8	VH-15	171	覆土	スクレイパー	(5.8)	2.7	1.0	17.4	泥岩		
図IV-2-31-9	VH-15	13	覆土	石斧	(8.5)	4.4	0.9	51.6	片岩		
図IV-2-31-10	VH-15	75	覆土	すり石	8.4	14.1	4.8	853.0	砂岩		
図IV-2-31-11	VH-15	5	覆土	すり石片	8.8	(6.3)	4.6	346.0	安山岩		
図IV-2-31-12	VH-15	56	覆土	石縫片	6.9	(5.7)	2.8	189.7	片麻岩		
図IV-2-32-1	VH-16	6	覆土	たたき石	15.0	6.4	2.2	465.2	緑色泥岩	図版81	
図IV-2-32-2	VH-16	7	覆土	砥石片	(6.0)	7.8	2.0	170.5	砂岩		
図IV-2-32-3	VH-16	8	覆土	加工痕のある標	9.0	(3.9)	1.5	71.1	緑色泥岩		
図IV-2-32-4	VH-16	10	覆土	加工痕のある標	11.1	5.0	1.7	155.6	緑色泥岩		
図IV-2-32-5	VH-16	9	覆土	加工痕のある標	11.9	4.6	1.5	145.6	緑色泥岩		
図IV-2-33-1	VH-17	8	覆土	石縫	(2.5)	2.0	0.3	0.1	黒曜石		
図IV-2-33-2	VH-17	9	覆土	石縫	2.4	1.3	0.3	0.5	黒曜石		
図IV-2-33-3	VH-17	42	覆土	石縫	2.3	1.4	0.4	1.1	黒曜石		
図IV-2-33-4	VH-17	10	覆土	石縫	(2.7)	1.3	0.3	1.2	黒曜石		
図IV-2-33-5	VH-17	11	覆土	つまみ付きナイフ	5.6	3.0	0.6	10.7	黒曜石		
図IV-2-33-6	VH-17	13	覆土	つまみ付きナイフ	8.6	2.3	0.6	13.8	頁岩	図版82	
図IV-2-33-7	VH-17	12	覆土	つまみ付きナイフ	(4.6)	2.8	0.4	5.0	頁岩		
図IV-2-33-8	VH-17	98	覆土	つまみ付きナイフ	6.8	3.0	0.6	11.9	頁岩		
図IV-2-33-9	VH-17	102	覆土	つまみ付きナイフ	1.9	3.5	0.6	4.2	頁岩		
図IV-2-33-10	VH-17	75	覆土	スクレイパー	2.4	2.2	0.9	5.7	黒曜石		
図IV-2-33-11	VH-17	108	覆土	スクレイパー	(3.7)	1.8	0.7	3.8	黒曜石		
図IV-2-33-12	VH-17	17	覆土	石片	7.9	4.9	1.2	65.1	緑色泥岩		
図IV-2-33-13	VH-17	22-105	覆土	加工痕のある標	17.1	4.6	2.6	398.1	緑色泥岩		

図版番号	遺構名	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図IV-2-34-1	V P-1	4	覆土1	石鐘乳	(1.7)	1.4	0.4	0.6	頁岩		
図IV-2-34-2	V P-1	5	覆土1	石鐘乳	3.2	(1.6)	0.9	3.8	風化石		
図IV-2-34-3	V P-1	46	覆土1	つまみ付きナイフ	4.9	1.9	0.9	9.4	頁岩		
図IV-2-34-1	V P-2	2	覆土	砥石	(16.5)	36.7	34.1	233.2	砂岩		四面砥石
図IV-2-34-1	V P-11	48	覆土	石鐘乳	(1.8)	1.3	0.3	0.6	黑曜石		
図IV-2-34-2	V P-11	59	覆土	つまみ付きナイフ	6.8	2.2	1.0	15.0	頁岩		
図IV-2-34-1	V P-13	4	覆土	石鐘乳	(1.6)	1.3	0.2	0.4	黑曜石		
図IV-2-34-2	V P-13	1	覆土	石斧	(7.5)	2.6	0.7	23.5	片岩		
図IV-2-34-1	V P-14	7	坑底	石鐘乳	(1.8)	1.2	0.2	0.4	黑曜石		
図IV-2-34-1	V P-15	16	覆土	石鐘乳	(1.9)	1.7	0.2	0.7	黑曜石		
図IV-2-34-1	V P-18	2	覆土	石斧	9.7	3.2	0.9	45.3	綠色泥岩		
図IV-2-34-1	V P-24	1	覆土	石晶片	(10.6)	(11.0)	10.1	2026.0	凝灰岩		
図IV-2-34-2	V P-24	4	坑底	石晶片	(11.9)	(12.7)	(11.0)	2096.0	凝灰岩		
図IV-2-35-1	V P-29	1	坑底	つまみ付きナイフ	7.2	2.9	0.9	15.4	黑曜石		
図IV-2-35-2	V P-29	7	覆土	石斧	11.9	4.2	1.8	159.6	綠色泥岩		
図IV-2-35-1	V P-41	7・8	覆土	石斧	9.1	3.6	1.6	72.5	泥岩		
図IV-2-35-2	V P-41	16	覆土	たたき石	(10.4)	5.3	3.7	306.7	泥岩		
図IV-2-35-3	V P-41	36	覆土	石製品	1.0	0.8	0.6	1.0	滑石		
図IV-2-35-1	V P-48	3	覆土	石晶片	(14.3)	(16.0)	2.6	867.0	砂岩		
図IV-2-35-1	V P-55	3	覆土	石鐘乳	2.2	1.3	0.4	0.6	黑曜石		
図IV-2-35-2	V P-55	2	覆土	石のみ	6.9	1.9	0.9	25.8	綠色泥岩		
図IV-2-37-1	V P-61	7	覆土4	石皿	26.0	25.0	13.4	14800.0	安山岩	図版85	ベンガラ付番
図IV-2-36-1	V P-63	2	覆土	台石	17.5	20.8	7.0	3416.0	砂岩		
図IV-2-36-2	V P-63	3	覆土	台石	20.6	28.2	8.0	5700.0	砂岩		
図IV-2-36-1	V P-64	5	覆土	加工痕のある隕	16.6	9.4	9.1	2069.0	安山岩	図版84	
図IV-2-37-1	V P-78	1	覆土	石皿	23.2	19.9	10.0	5630.0	安山岩		
図IV-2-38-1	V P-13	1	V	台石	(28.8)	14.0	8.7	6000.0	凝灰岩	図版85	被熱
図IV-2-38-1	V F-14	2	V	石鐘乳	3.4	1.8	0.8	4.6	黑曜石		
図IV-2-38-1	V S-6	2・3・5 9・13	VI	すり石	7.4	14.3	5.3	690.0	砂岩	図版85	9点接合
図IV-2-38-2	V S-6	7・8・10	VI	石皿	25.5	22.9	9.2	6350.0	砂岩	図版85	53点接合

表8-1 包含層出土揭露復元土器一覧

図版号	施設名・遺物番号・点数	層位	範囲	分類	施設番号	備考
図IV-3-1-1	G33・5×4、G33・6×1、 G33・7×6	計61	V	復元調査(口縁～斜面)	II b-1	
図IV-3-1-2	R35・3×16		V	復元調査(口縁～斜面)	II b-2	
図IV-3-1-3	K11・4×6		V	復元調査(口縁～底面)	II b-3	
図IV-3-1-4	J 4・5×1、J 5・35×2、 J 4・35×16、J 4・18×1、 J 4・11×1、J 5・11×1、 J 5・5×1	計23	V	復元調査(口縁～斜面)	IV a-2	
図IV-3-2-5	J 5・6×1、J 5・15×1、 J 5・15×1、K 5・13×4、 K 5・14×16、K 5・18×1、 K 5・18×1、L 2・14×1、 L 4・14×1	計127	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-1	図版43
図IV-3-3-6	J 7・18×1		V	復元調査(口縁～底面)	IV b-1	図版42、出土工具、30秒利B式相当
図IV-3-4-7	P37・2×4、P38・1×1、 Q37・2×2、Q37・4×35、 Q38・1×2、S38・3×1	計45	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	図版43
図IV-3-4-8	L34・4×1、L45・3×3、 N49・2×1、O43・3×3、 O43・2×2、O43・6×1、 P49・2×2、P50・1×1	計13	V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	図版42
図IV-3-4-9	N39・4×6、O40・6×1、 H11・5×56、I11・5×44	計106	V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	
図IV-3-5-11	L42・6×8、L43・8×12	計20	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	
図IV-3-5-12	O33・2×71、O33・5×13	計94	V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	
図IV-3-5-13	N51・1×1		V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	
図IV-3-5-14	O33・1×3、S33・4×3、 S34・1×1、S35・1×1	計106	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	図版43
図IV-3-5-15	L42・6×8、L43・8×12	計20	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	
図IV-3-5-16	O33・2×71、O33・5×13	計94	V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	
図IV-3-5-17	N51・1×1		V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	
図IV-3-5-18	O33・2×7、O33・3×19	計21	V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	
図IV-3-6-16	L42・4×6		V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	図版45
図IV-3-6-17	O33・4×40		V	復元調査(口縁～底面)	IV b-2	
図IV-3-6-18	K35・2×3、K36・1×3、 K36・3×4、K36・4×2		V	復元調査(口縁～斜面)	IV b-2	図版44

遺物番号	出発区・遺物番号×点数	部位	部位	分類	遺物番号	備考
図IV-3-6-18	L37-1×1	計10	V	復元樹体(口縁～胸部)	IV b - 2	
図IV-3-6-19	P43-10×2, R43-6×2, R43-7×7	計11	V	復元樹体(口縁～胸部)	IV b - 2	図版44
図IV-3-7-20	O44-4×1, O45-1×4, O45-6×2, O45-12×1	計56	V	復元樹体(口縁～胸部)	IV b - 2	
図IV-3-7-21	R32-9×41		V	復元樹体(口縁～底部)	IV b - 2	図版45
図IV-3-7-22	P44-1×8, P44-2×2, P45-3×3	計13	V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	
図IV-3-7-23	H12-11×45		V	復元樹体(口縫～胸部)	IV b - 2	
図IV-3-7-24	N54-8×1	計22	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV b - 2	
図IV-3-7-25	O54-8×43		V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	図版46
図IV-3-8-26	N54-10×1, N54-11×3, N54-12×5	計7	V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	
図IV-3-8-27	S48-4×4		V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	
図IV-3-8-28	S47-7×7		V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	
図IV-3-8-29	R47-5×1, R47-8×3, S47-3×9	計13	V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	備文
図IV-3-8-30	M44-5×6		V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	備文
図IV-3-8-31	O53-7×17		V	復元樹体(口縫～底部)	IV b - 2	備文
図IV-3-8-32	N17-6×1, N18-8×1, O13-5×1, O17-4×6, O18-4×3, O18-6×27	計61	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV b - 3	
図IV-3-8-33	O51-3×8		V	復元樹体(口縫)	IV b - 3	図版47
図IV-3-8-34	O45-2×1, O45-5×2, O45-12×1	計4	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV b - 4	
図IV-3-9-35	K2-8×1, K2-18×1, K3-15×15, L3-15×2, L3-19×1	計20	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	
図IV-3-9-36	H5-3×1, I2-2×1, I4-21×1, I5-18×4, I5-16×2, J7-11×1, J7-24×1	計11	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	図版48
図IV-3-9-37	G17-8×11, G17-20×3, G17-27×2, G17-28×1, G17-29×1	計17	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	内模接合
図IV-3-9-38	I1-8×2, I1-11×3, I1-22×1, I2-17×1, K5-3×1, K6-6×1	計8	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-9-39	I1-8×2, I1-11×3, I1-22×1, I2-17×1, I1-23×1, I2-7×2	計10	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-9-40	H2-18×5, H2-22×12, I1-18×2, J3-4×9, K2-19×1	計21	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-9-41	F13-15×1, F15-3×1, F16-7×10, G13-4×1, G14-5×1, G16-2×1, G16-6×43, G16-15×1, H19-8×5	計64	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	図版49
図IV-3-9-42	I14-8×4+1, I18-9×6, I15-14×1, J14-1×1, J14-8×4, J14-8×2	計18	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-10-43	F14-4×14, F15-3×1, G13-4×1, G14-5×3, G15-8×5, G16-6×8	計45	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-10-44	J14-9×10, K14-2×4, K14-5×1, K14-11×9	計16	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	
図IV-3-11-45	F14-4×8, F15-3×2, G16-6×5	計16	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	
図IV-3-11-46	H2-16×1, H3-19×2, I5-18×1, I5-28×5, K4-9×5, K4-15×1	計15	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-11-47	I1-5×24, I9-4×62	計166	V	復元樹体(口縫～底部)	IV c - 1	
図IV-3-11-48	J4-5×4, J4-8×3, K4-7×4, K4-15×8, K5-3×1	計20	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-12-49	H16-4×6, H17-7×3, H19-5×1, I18-2×3, I18-9×37, I15-14×3, I18-5×2, I18-12×8, J14-8×1, J15-8×1, J16-2×3, J16-8×6, J16-18×1, J17-13×8 J19-3×1	計72	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	図版50
図IV-3-12-50	F22-5×1, G14-5×8, G15-3×1, G15-8×2, G16-6×5, H15-16×21, H16-7×3, I15-8×1, J12-4×5, Q16-8×2	計43	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	
図IV-3-13-51	I14-18×3, J14-8×9, J14-9×3	計15	V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	図版51
図IV-3-13-52	G16-26×1, G15-8×1, G16-6×10, G17-8×10, G17-12×2, G17-20×1,		V	復元樹体(口縫～胸部)	IV c - 1	

器物号	埋藏区・遺物番号×点数	部位	部位	分類	回復番号	備考
図IV-3-13-52	G17・28×9, G17・24×1, H16・7×15, H17・18×2, L17・25×3, L17・35×1 計162	V	復元脚体(口縁～側部)	IV c - 1	回復B1	
	P 6・6×1, P 6・6×1, P 6・5×1, P 6・5×4, P 9・7×5, Q 5・5×2×15, Q10・4×10, Q10・8×2, R10・6×10 計39	V	復元脚体(胴～底部)	IV c - 1		柱口土器
図IV-3-14-54	I 2・17×1, I 2・26×2, I 2・40×15 計18	V	復元脚体(胴～底部)	IV c - 1	回復B1	柱口土器
	G16・6×1, G17・36×25 計26	V	復元脚体(口縁～底部)	IV c - 1		輪文・内縫縦合
図IV-3-15-55	M42・4×16 M42・2×4	V	復元脚体(口縁～底部)	IV c - 1	回復B2	1△△△△土器
図IV-3-15-57	M42・2×4 Q43・2×4	V	復元脚体(口縁～底部)	IV c - 3		
図IV-3-15-58	Q 8・5×21, Q 8・6×48, Q 8・7×17 計86	V	復元土器(口縁～底部)	IV c - 3	回復B2	
図IV-3-16-59	Q51・9×7, Q53・1×2, R52・15×1, R53・2×25 計35	V	復元脚体(IJ縁～胴部)	V b		
図IV-3-17-60	Q50・9×1 Q54・3×22, Q55・2×13, R53・2×3 計98	V	復元脚体(口縁～底部)	V c	回復B2	
図IV-3-17-61	R53・2×3 計98	V	復元脚体(口縁～底部)	V c		

表8-2 包含層出土揭露土器一覧 II群a類

器物号	埋藏区・遺物番号×点数	部位	部位	施分類	回復番号	備考
図IV-3-18-62	H 4・10×1	V	口縁部	1類		
図IV-3-18-63	E 28・8×1	V	口縁部			
図IV-3-18-64	H 30・10×3	V	口縁部			
図IV-3-18-65	L 34・2×2	V	側部			
図IV-3-18-66	E 29・2×2	V	側部			
図IV-3-18-67	I 32・1×2	V	側部			
図IV-3-18-68	M 38・2×1	V	口縁部			
図IV-3-18-69	G 19・5×1, G 19・11×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-18-70	J 23・1×1	V	口縁部			
図IV-3-18-71	I 17・28×1	V	口縁部			
図IV-3-18-72	I 17・39×1	V	口縁部	2類		
図IV-3-18-73	G 21・14×1	V	口縁部			同一個体
図IV-3-18-74	G 21・14×1	V	口縁部			同一個体
図IV-3-18-75	M 12・1×1	V	口縁部			
図IV-3-18-76	G 18・16×1, K 17・6×1, L 15・5×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-18-77	O 30・1×1	V	口縁部			
図IV-3-18-78	a J 37・3×1	V	口縁部			
	b J 37・7×2	V	口縁部			
図IV-3-18-79	a J 17・18×1 b M 14・2×1	V	口縁部	2類		
図IV-3-18-80	J 20・5×1	V	口縁部			
図IV-3-18-81	L 38・4×1, L 27・3×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-18-82	K 34・4×2	V	口縁部			
図IV-3-18-83	O 22・3×2	V	口縁部			
図IV-3-18-84	O 34・3×1, Q 35・4×1 計2	V	口縁部			

表8-3 包含層出土揭露土器一覧 II群b類

器物号	埋藏区・遺物番号×点数	部位	部位	施分類	回復番号	備考
図IV-3-19-85	H 34・1×1	V	口縁部	1類	回復B3	
図IV-3-19-86	G 18・11×1, G 19・11×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-19-87	G 18・5×1	V	口縁部			
図IV-3-19-88	R 30・8×1	V	口縁部			
図IV-3-19-89	R 30・12×1	V	口縁部			
図IV-3-19-90	M 27・5×1	V	口縁部			
図IV-3-19-91	I 19・5×1	V	口縁部			
図IV-3-19-92	G 15・5×1	V	口縁部			
図IV-3-19-93	K 22・4×4, K 23・1×2 計6	V	口縁部			
図IV-3-19-94	I 30・1×1	V	口縁部			
図IV-3-19-95	H 37・8×3 L 15・4×1, Q 31・3×1 計2	V	口縁部	1類	回復B4	
図IV-3-19-96	a K 30・3×2 b K 30・3×1, K 30・3×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-19-97	H 15・3×1	V	口縁部			
図IV-3-19-98	K 23・1×5	V	口縁～側部			
図IV-3-19-99	Q 34・4×1	V	側部			
図IV-3-20-100	O 22・1×3, O 22・3×8 計11	V	口縁～側部			
図IV-3-20-101	G 31・2×1	V	口縁～側部			
図IV-3-20-102	F 17・9×2	V	口縁部			
図IV-3-20-103	I 30・1×1	V	口縁～側部			
図IV-3-20-104	O 28・1×1, O 29・10×1 計2	V	口縁部			
図IV-3-20-105	H 20・15×1	V	口縁部	1類	回復B5	
図IV-3-20-106	O 16・4×1	V	口縁部			
図IV-3-20-107	H 22・4×1	V	口縁部			
図IV-3-20-108	F 22・11×1	V	口縁部			
図IV-3-20-109	G 23・2×1	V	口縁部			
図IV-3-20-110	H 24・1×1	V	口縁部			
図IV-3-20-111	I 15・12×1, I 15・15×1, I 15・20×1 計3	V	側部			
図IV-3-20-112	F 22・6×5	V	側部			
図IV-3-20-113	L 10・3×1	V	側部			
図IV-3-20-114	K 11・2×1	V	側部			
図IV-3-20-115	I 17・6×1	V	側部			回復B5

器番号	測量区・測量番号×点数	層位	部位	標分類	測量番号	場所
IV-3-20-116	J20-7×2	V	胸～腹部			
IV-3-20-117	P13-8×1, Q11-7×1	H12	V	胸～腹部		
IV-3-21-118	N 9-5×1		V	口縫部		
IV-3-21-119	K29-1×1		V	口縫部		
IV-3-21-120	I 19-1×1, J 18-5×1	H12	V	口縫部		
IV-3-21-121	P20-6×1		V	口縫部		
IV-3-21-122	L 18-1×2		V	口縫部		
IV-3-21-123	F14-7×1		V	口縫部		
IV-3-21-124	N2-4×1		V	口縫部		
IV-3-21-125	a I 17-11×5, I 18-12×1	H14	V	口縫～胸部		
	b I 18-12×2		V	胸～腹部		
IV-3-21-126	I 17-11×1, I 17-21×1	H12	V	口縫部		
IV-3-21-127	N35-1×1		V	口縫部		
IV-3-21-128	J 18-5×1		V	口縫部		
IV-3-21-129	G15-9×1		V	口縫部		
IV-3-21-130	O34-10×1		V	口縫部		
IV-3-21-131	G21-2×1		V	口縫部		
IV-3-21-132	I 38-8×1		V	口縫部		
IV-3-21-133	I 11-2×2		V	口縫部		
IV-3-21-134	Q37-17×1		V	口縫～胸部		
IV-3-21-135	K13-7×1		V	口縫部		
IV-3-21-136	G22-6×1		V	口縫部		
IV-3-21-137	K16-9×1		V	口縫部		
IV-3-21-138	J 28-6×1		V	口縫部		
IV-3-21-139	I 18-16×1		V	口縫部		
IV-3-21-140	Q37-1×1		V	口縫部		
IV-3-21-141	P26-4×5		V	口縫～胸部		
IV-3-21-142	O18-1×1		V	口縫部		
IV-3-21-143	I 18-17×1		V	口縫部		
IV-3-21-144	M25-8×1		V	口縫部		
IV-3-21-145	H29-2×1		V	口縫部		
IV-3-21-146	H15-24×1		V	口縫部		
IV-3-22-147	L14-6×1		V	口縫部		
IV-3-22-148	G33-6×1		V	口縫部		
IV-3-22-149	P26-4×3		V	口縫部		
IV-3-22-150	G33-4×1, G33-5×1,					
IV-3-22-151	G33-7×1	H15	V	口縫部		
IV-3-22-152	Q1-3×2		V	口縫部		
IV-3-22-153	J 15-10×1, J 15-12×4,					
	J 15-13×1	H16	V	口縫～胸部		
IV-3-22-154	J 35-1×1		V	口縫部		
IV-3-22-155	G19-13×1		V	口縫部		
IV-3-22-156	J 17-11×1		V	口縫部		
IV-3-22-157	K13-7×1, K14-5×1	H12	V	口縫部		
IV-3-22-158	R19-3×1		V	口縫部		
IV-3-22-159	D21-3×1, Q21-3×1,	H12	V	口縫部		
IV-3-22-160	H19-10×1		V	口縫部		
IV-3-22-161	H19-2×1, L19-10×2	H15	V	口縫～胸部		
IV-3-22-162	L25-3×1, L25-8×1	H12	V	口縫部		
IV-3-22-163	I 17-11×3		V	口縫部		
IV-3-22-164	K12-5×2		V	口縫部		
IV-3-22-165	K15-1×1		V	口縫部		
IV-3-22-166	P20-1×1		V	口縫部		
IV-3-22-167	O39-2×1		V	底部		
IV-3-22-168	P20-2×2		V	胸～腹部		
IV-3-22-169	K20-3×1		V	口縫部		
IV-3-22-170	H28-5×1		V	口縫部		
IV-3-22-171	L34-2×3		V	口縫部		
IV-3-22-172	Q25-12×1		V	口縫部		
IV-3-23-173	a G22-7×1, K24-4×1	H12	V	口縫部		
	G21-3×1, H22-12×1,					
	K17-8×1, M12-7×4,					
	Q7-10×1	H17	V	胸部		
IV-3-23-174	R20-7×1		V	口縫部		
IV-3-23-175	F15-10×1		V	口縫部		
IV-3-23-176	N16-8×1		V	口縫部		
IV-3-23-177	M26-3×1		V	口縫部		
IV-3-23-178	H24-8×1, I 21-3×1	H12	V	口縫部		
IV-3-23-179	P21-6×1		V	胸部		
IV-3-23-180	F10-2×1		V	口縫部		
IV-3-23-181	M 9-4×1		V	口縫部		
IV-3-23-182	Q15-12×2		V	口縫部		
IV-3-23-183	L19-14×2		V	口縫部		
IV-3-23-184	I 14-11×1		V	口縫部		
IV-3-23-185	H25-7×1, H22-3×1	H12	V	口縫部		
IV-3-23-186	J 27-1×4		V	口縫～胸部		
IV-3-23-187	a L24-6×1, L25-3×6,					
	L25-7×9, Q11-1×1,					
	P20-6×1	H17	V	胸部		
	b P24-7×1					
IV-3-23-188	a G28-5×1, H21-5×1,					
	H22-13×1	H19	V	胸～腹部		
	b H22-12×2					
IV-3-23-189	a F22-7×1					
	b J 17-7×1, K17-3×1,	H12	V	胸部		
	P11-3×1					

器物号	遗迹区・遗物番号×点数	層位	部位	編分類	遺物番号	備考
IIIIV - 3 - 23 - 190	J12 - 5X1	V	口部			
IIIIV - 3 - 23 - 191	J16 - 12X1, K9 - 5X1	II2	肩部			
IIIIV - 3 - 23 - 192	H15 - 25X1	V	腹部	3組	IIIIVS7	
IIIIV - 3 - 23 - 193	J2 - 18X1, L9 - 9X1	II2	尾部			

表8-4 包含層出土揭露土器一覧 III群a類

器物号	遗迹区・遗物番号×点数	層位	部位	編分類	遺物番号	備考
IIIIV - 3 - 24 - 194	a J11 - 6X3	V	口部			
	b J11 - 6X3		肩部			
	c J11 - 6X1		腹～底部			
	a H14 - 7X1, H14 - 8X2,		口輪～胸形			
IIIIV - 3 - 24 - 195	a H14 - 17X3	II6	口輪尾			
	b H14 - 8X2		腹部			
	c H14 - 8X1, H14 - 17X1	II2	腹部			
IIIIV - 3 - 24 - 196	J17 - 8X2, K11 - 22X1	II5	V			
	a G16 - 5X2		口部			
	b J16 - 5X1		肩部			
	c G16 - 5X5		腹部			
IIIIV - 3 - 24 - 197	J16 - 5X1	V	V			
	a J17 - 15X1		腹部			
	f G16 - 5X3		腹～底部			
IIIIV - 3 - 24 - 198	K33 - 2X2	V	口部			
IIIIV - 3 - 24 - 199	G19 - 2X1	V	口部			
IIIIV - 3 - 24 - 200	F17 - 8X1	V	口輪部			
IIIIV - 3 - 24 - 201	G15 - 6X1	V	胸部			
IIIIV - 3 - 24 - 202	F17 - 8X2	V	口輪部			
	a F12 - 4X5		口輪～胸部			
IIIIV - 3 - 24 - 203	b F12 - 4X2	V	肩部			
	c F12 - 4X6		腹～底部			
	a H13 - 9X1, J14 - 24X1	II2	口輪～調節			
	b J13 - 9X1, J12 - 12X1,					
	c J13 - 9X1, J12 - 31X1,					
IIIIV - 3 - 24 - 204	b J16 - 6X2, J16 - 3X1,	V	胸～底部			
	J12 - 5X1, J14 - 18X1,					
	K12 - 7X4					
IIIIV - 3 - 24 - 205	J12 - 13X1, J12 - 18X1	II2	V			
IIIIV - 3 - 24 - 206	G17 - 2X1, H20 - 5X1	II2	腹部			
IIIIV - 3 - 24 - 207	a F17 - 8X1	V	腹部			
	b F20 - 2X1		腹～底部			

表8-5 包含層出土揭露土器一覧 III群b類

器物号	遗迹区・遗物番号×点数	層位	部位	編分類	遺物番号	備考
IIIIV - 3 - 25 - 208	a J34 - 3X1, J35 - 1X4	II2	V	口部～胸部		
	b J34 - 1X1, J35 - 1X2	II3	V	口部		
IIIIV - 3 - 25 - 209	Q30 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 210	P30 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 211	M31 - 2X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 212	a R53 - 1X1	V	V			
	b R52 - 1X1, R52 - 8X1	II2	V	口部		
IIIIV - 3 - 26 - 213	R52 - 8X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 214	J2 - 14X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 215	H3 - 16X1	V	V			
IIIIV - 3 - 25 - 216	L32 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 217	R52 - 1X6, R52 - 8X3	II9	V	口部～胸部		
IIIIV - 3 - 26 - 218	M6 - 2X2	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 219	I23 - 10X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 220	S42 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 221	O31 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 222	Q40 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 223	J35 - 3X2	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 224	a J38 - 5X2	V	V	口部～胸部		
	b J38 - 6X4	V	V	腹部		
IIIIV - 3 - 26 - 225	M9 - 6X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 226	H23 - 2X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 227	H7 - 21X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 228	a J22 - 3X1	V	V			
	b H22 - 14X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 229	J25 - 5X2	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 230	K23 - 8X1, K28 - 3X1	II2	V	口部		
	a J23 - 3X2, J23 - 10X1	II3	V	口部		
IIIIV - 3 - 26 - 231	b J23 - 14X1	V	V	胸部		
IIIIV - 3 - 26 - 232	N16 - 6X2	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 233	G8 - 7X1, L9 - 11X1	II2	V			
IIIIV - 3 - 26 - 234	K25 - 6X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 235	P55 - 1X1	V	V			
IIIIV - 3 - 26 - 236	N30 - 3X3	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 237	Q11 - 3X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 238	K2 - 6X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 239	P11 - 5X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 240	K10 - 4X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 241	J2 - 12X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 242	J2 - 12X1, J2 - 18X1	II2	V			
IIIIV - 3 - 27 - 243	N16 - 4X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 244	N16 - 5X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 245	O6 - 2X1	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 246	N30 - 3X2	V	V			
IIIIV - 3 - 27 - 247	R9 - 7X1	V	V			

器物番号	断面区・造物番号×点数	部位	部位	断面番号	器物番号	備考
IV-N-3-27-248	M 9 × 6×3	V	口縁部			
IV-N-3-27-249	M 7 × 7×2	V	口縁部			
IV-N-3-27-250	L 32 × 2×1	V	口縁部			
IV-N-3-27-251	O 21 × 1×1, Q 26 × 3×5	J16	口縫～側部			
IV-N-3-27-252	a P 15 × 3×1, P 13 × 11×1 b P 12 × 6×1, Q 12 × 4×1	J12	V	3類	同一個体	
IV-N-3-27-253	K 9 × 11×1	V	口縁部			
IV-N-3-27-254	O 32 × 2×1, O 32 × 5×2	J13	V	口縁部		
IV-N-3-27-255	O 14 × 4×1	V	口縁部			
IV-N-3-27-256	M 11 × 1×1	V	側部			
IV-N-3-27-257	X 11 × 1×1	V	側部			
IV-N-3-27-258	P 20 × 4×2	V	側部			
IV-N-3-27-259	I 8 × 4×1	V	側部			
IV-N-3-27-260	N 15 × 4×1	V	側部			
IV-N-3-27-261	G 5 × 12×1	V	側部			
IV-N-3-27-262	M 9 × 6×1	V	側部			
IV-N-3-27-263	K 7 × 2×1	V	側部			

表 8-6 包含層出土揭露土器一覧 IV群 a類

器物番号	断面区・造物番号×点数	部位	部位	断面番号	器物番号	備考
IV-N-3-28-264	a Q 41 × 2×4 b P 52 × 1×1	V	口縁部			
IV-N-3-28-265	P 37 × 1×1	V	側部			
IV-N-3-28-266	M 26 × 10×1	V	側部			
IV-N-3-28-267	a I 13 × 7×1 b L 11 × 7×1	V	口縫～側部			
IV-N-3-28-268	Q 85 × 6×1	V	口縁部			
IV-N-3-28-269	S 46 × 1×1	V	側部			
IV-N-3-28-270	R 52 × 2×1	V	口縁部			
IV-N-3-28-271	K 9 × 3×1, K 10 × 5×1, N 11 × 4×1	J13	V	口縫		
IV-N-3-28-272	M 39 × 4×1	V	口縫～側部			
IV-N-3-28-273	a K 28 × 2×1 b S 56 × 4×1, L 23 × 4×1,	V	口縫～側部			
IV-N-3-28-274	R 58 × 1×1	V	側部			
IV-N-3-28-275	K 10 × 5×1	V	側部			
IV-N-3-28-276	H 11 × 4×1, P 15 × 4×1, R 12 × 2×1	J13	V	側部		
IV-N-3-28-277	S 42 × 5×7	V	側～側部			

表 8-7 包含層出土揭露土器一覧 IV群 b類

器物番号	断面区・造物番号×点数	部位	部位	断面番号	器物番号	備考
IV-N-3-29-278	a I 2 × 5×5, I 2 × 18×1, I 3 × 45×1, J 1 × 11×1, J 1 × 17×1, J 2 × 9×1, J 2 × 11×1, J 2 × 18×1, J 2 × 29×1, J 2 × 41×1, J 2 × 53×1, J 2 × 15×3, b J 2 × 23×1	V	口縫～側部		IV-N-3-28-271	同一個体
IV-N-3-29-279	R 39 × 3×4	V	口縫～側部			
IV-N-3-29-280	P 47 × 6×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-281	P 48 × 4×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-282	O 14 × 4×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-283	H 9 × 34×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-284	a G 10 × 31×1 b J 18 × 31×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-285	J 18 × 3×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-286	H 11 × 12×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-287	K 11 × 12×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-288	J 2 × 7×4, J 7 × 8×1	J15	V	口縫～側部		
IV-N-3-29-289	R 46 × 5×2	V	口縫部			
IV-N-3-29-290	a I 1 × 10×1, I 1 × 14×1 b I 1 × 21×1, I 1 × 34×1, I 1 × 26×1, I 1 × 28×1, I 2 × 16×1	J12	V	口縫部		
IV-N-3-29-291	G 7 × 32×1, G 8 × 10×1	J12	V	口縫部	IV-N-3-29-292	同一個体
IV-N-3-29-292	H 7 × 22×1	V	口縫部			
IV-N-3-29-293	H 0 × 9×2	V	口縫部			
IV-N-3-29-294	A 23 × 5×5, Q 37 × 6×2	J15	V	口縫～側部		
IV-N-3-29-295	F 16 × 14×1, G 16 × 1×1	J12	V	口縫部		
IV-N-3-30-297	H 4 × 36×2, I 5 × 27×1, I 6 × 8×7, L 3 × 18×1	J11	V	口縫～側部		
IV-N-3-30-298	H 5 × 14×3	V	口縫部			
IV-N-3-30-299	G 8 × 8×1	V	口縫部			
IV-N-3-30-300	a O 44 × 4×1 b O 44 × 4×1, O 44 × 6×2, b O 48 × 1×1	J14	V	口縫部		
IV-N-3-30-301	N 42 × 1×2	V	口縫部			
IV-N-3-30-302	N 42 × 1×2, I 1 × 21×1	J12	V	口縫部		
IV-N-3-30-303	G 15 × 39×8	V	口縫部			
IV-N-3-30-304	H 14 × 9×1	V	口縫部			
IV-N-3-30-305	H 1 × 32×3, H 2 × 15×1	J12	V	口縫部		
IV-N-3-30-306	H 2 × 15×2	V	口縫～側部			
IV-N-3-30-307	H 2 × 15×2	V	口縫部			
IV-N-3-30-308	a Q 43 × 4×1 b Q 43 × 4×1	V	口縫部			

圖面號	部位區- 運物番号×底數	部位	部位	組分類	圖版番号	位名
IIIV - 3 - 30 - 308	K 4 - 14×1	V	口輪底			
IIIV - 3 - 30 - 309	G 8 - 8×3	V	網部			
IIIV - 3 - 30 - 310	H 2 - 15×1, H 3 - 10×10	計11	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 311	J 1 - 34×1, J 1 - 38×1,		V	口輪~網部	圖版63	
	J 1 - 5×1, J 1 - 15×3	計15	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 312	a. J 7 - 8×6, J 7 - 15×3	計9	V	口輪~網部		
	b. J 7 - 7×1, J 7 - 8×1	計7	V	網部		
	N54 - 3×1		V	口輪~網部		
	N54 - 8×1		V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 313	M52 - 2×2, N54 - 1×1,		V	口輪~網部	圖版64	
	N54 - 3×3	計15	V	網部		
	c. N54 - 1×4			網部		
IIIV - 3 - 31 - 314	J 4 - 11×2	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 31 - 315	H 9 - 14×1	V	口輪底			
IIIV - 3 - 31 - 316	H 1 - 36×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 317	G 9 - 3×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 318	H 1 - 39×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 319	G15 - 18×2, H14 - 9×1,		V	口輪~網部		
	H15 - 26×1	計4	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 320	Q51 - 7×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 321	G 7 - 32×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 322	H 0 - 12×1, J 1 - 10×1	計2	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 323	N54 - 1×1	V	口輪~網部			
	N54 - 6×1, N54 - 8×1	計2	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 31 - 324	N38 - 4×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 325	I 9 - 12×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 326	S44 - 4×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 31 - 327	N45 - 4×2, S43 - 1×1	計3	V	口輪部		
IIIV - 3 - 31 - 328	Q37 - 4×3	V	口輪部			
	M38 - 4×1, N38 - 4×2	計3	V	口輪部		
IIIV - 3 - 31 - 329	a. H 8 - 8×1	V	口輪部			
	b. H 8 - 11×1		V	口輪部		
	L 3 - 14×2, L 3 - 13×2,		V	口輪~網部		
	s. L 3 - 14×3, L 3 - 18×1,		V	網部		
	L 3 - 23×1, L 3 - 24×1	計11	V	網部		
IIIV - 3 - 32 - 330	b. L 3 - 15×1, L 3 - 18×1,		V	網部		
	M 5 - 6×2	計4	V	網部		
	c. L 3 - 21×3		V	網~底部		
IIIV - 3 - 32 - 331	L48 - 8×5, L42 - 9×1	計4	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 32 - 332	O45 - 9×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 32 - 333	a. I 2 - 16×14	V	網部			
	b. I 2 - 16×5	V	網部			
IIIV - 3 - 32 - 334	N51 - 4×2	V	網部			
IIIV - 3 - 32 - 335	O34 - 21×2, P24 - 5×1	計3	V	網部		
IIIV - 3 - 32 - 336	G 6 - 21×1	V	網部			
IIIV - 3 - 32 - 337	G 9 - 3×1	V	網部			
IIIV - 3 - 32 - 338	J 2 - 16×2, J 2 - 26×1,		V	網部		
	J 2 - 34×1	計4	V	網部		
	a. N43 - 4×4		V	網部		
	b. M42 - 2×4, O44 - 8×1	計5	V	網部		
	c. O44 - 6×1		V	網部		
	d. N42 - 4×4		V	網~底部		
IIIV - 3 - 32 - 340	G 8 - 16×4	V	網部			
IIIV - 3 - 32 - 341	I 2 - 16×1	V	網部			
IIIV - 3 - 33 - 342	a. N54 - 3×2, P56 - 2×3	計5	V	口輪~網部		
	b. N54 - 6×4, N54 - 8×7	計11	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 33 - 343	a. P45 - 3×1	V	口輪部			
	b. S46 - 3×2		V	網部		
IIIV - 3 - 33 - 344	R42 - 1×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 33 - 345	Q44 - 8×2	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 346	P43 - 3×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 33 - 347	P54 - 1×1, P54 - 5×1	計2	V	口輪部		
IIIV - 3 - 33 - 348	S48 - 4×1	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 349	P41 - 1×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 33 - 350	Q45 - 4×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 33 - 351	Q43 - 1×1, Q43 - 4×8	計9	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 33 - 352	Q44 - 7×1, R46 - 1×2	計3	V	口輪~網部		
	L44 - 4×1	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 353	L41 - 3×1, L41 - 4×1,		V	口輪~網部		
	L42 - 5×1, L42 - 9×7,		V	口輪~網部		
	L42 - 10×3	計13	V	口輪~網部		
IIIV - 3 - 33 - 354	G10 - 4×2	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 355	P40 - 9×1	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 356	a. Q43 - 3×1, R43 - 6×1	計2	V	網部		
	b. P43 - 3×2		V	網部		
	c. P42 - 4×4		V	網部		
IIIV - 3 - 33 - 357	M51 - 1×4	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 33 - 358	L45 - 6×1	V	口輪~網部			
IIIV - 3 - 34 - 359	R52 - 8×5, S54 - 1×1	計4	V	口輪部		
IIIV - 3 - 34 - 360	L45 - 6×5	V	口輪部			
IIIV - 3 - 34 - 361	M41 - 2×1	V	口輪部			
IIIV - 3 - 34 - 362	R44 - 4×2	V	口輪部			
IIIV - 3 - 34 - 363	a. P46 - 3×1, P47 - 9×2	計3	V	口輪~網部	圖版65	
	b. P47 - 9×2		V	網部		
	c. P46 - 3×1		V	網部		
IIIV - 3 - 34 - 364	M45 - 8×8	V	口輪部			
	1.47 - 1×1	V	口輪部			

図版号	断面図・通路番号×点数	層位	部材	細分層	図版号	備考
図IV-3-34-365	N47-5×1, N49-3×1, N49-4×1	H9	V形 口縫～側縫			
図IV-3-34-366	Q53-1×14, Q53-3×3	H17	V形 口縫～側縫			
図IV-3-34-367	Q53-1×1	V	V形 口縫～側縫			
図IV-3-34-368	N43-2×3, N43-4×1	H4	V形 口縫～側縫			
図IV-3-34-369	a N51-1×1 b N51-4×1	V	口縫 側縫	図版67		
図IV-3-34-370	L44-7×1	V	口縫			
図IV-3-34-371	L46-6×2	V	口縫			
図IV-3-34-372	N51-1×3	V	側縫			
図IV-3-34-372	N51-4×9	V	側縫			
図IV-3-34-373	a Q41-3×1 b Q41-3×1	V	側縫			
図IV-3-34-374	S50-5×1	V	口縫			
図IV-3-34-375	P44-1×1	V	口縫			
図IV-3-34-376	O41-2×1	V	側縫			
図IV-3-34-377	M40-4×1	V	側縫			
図IV-3-34-378	a R52-9×2 b R52-9×2	V	側縫			
図IV-3-34-379	Q45-1×1, Q43-4×1	H2	V	図版68		
図IV-3-35-380	H0-9×3, H0-12×6	H9	V形 口縫～側縫			
図IV-3-35-381	a Q51-8×4 b Q51-8×5	V	口縫～側縫 周～側縫			
図IV-3-35-382	L41-3×1, L41-4×1	H10	V形 口縫～側縫			
図IV-3-35-383	Q53-8×2, R52-3×3	H2	V形 口縫～側縫			
図IV-3-35-384	R50-9×3	V	口縫～側縫			
図IV-3-35-384	K48-1×4, Q43-4×2	H10	V	図版69		
図IV-3-35-385	Q48-2×4	V	口縫～側縫			
図IV-3-35-386	Q48-1×1, Q43-4×2	H10	V			
図IV-3-35-387	Q53-8×3	V	口縫～側縫			
図IV-3-35-388	N51-4×2	V	口縫～側縫			
図IV-3-35-389	L45-8×2	V	口縫～側縫			
図IV-3-35-390	N51-2×1, Q53-4×1	H2	V	図版70		
図IV-3-35-391	a R45-1×1, R45-6×2 b R45-6×3, R45-7×1	H3	V			
図IV-3-35-392	1×2×1	H4	V			
図IV-3-35-393	1×2×1	V	側縫			
図IV-3-35-393	1×7-2×1	V	側縫			
図IV-3-35-394	P50-3×1, R46-6×1, a S46-4×6 b R48-6×3	H8	V			
図IV-3-35-395	N43-4×2, O43-3×1, O43-4×1	H4	V	図版71		
図IV-3-35-396	a M30-3×1 b M30-3×1	V	側縫			
図IV-3-35-397	K30-3×2	V	側縫～側縫			
図IV-3-36-398	Q43-1×2, Q43-5×1	H2	V			
図IV-3-36-399	Q43-3×2	V	口縫～側縫			
図IV-3-36-400	P47-8×1	V	口縫	図版72		
図IV-3-36-401	R47-8×3, S47-3×1	H4	V			
図IV-3-36-402	R51-3×3	V	口縫			
図IV-3-36-403	a L44-6×6 b L45-3×5 c L45-3×2	V	口縫～側縫			
図IV-3-36-404	O47-9×2	V	口縫			
図IV-3-36-405	a H17-3×4, H17-30×1 b H16-16×1, H17-12×2	H5	V			
図IV-3-36-406	a O45-11×1, O45-13×4 b O45-13×1	H5	V	図版73		
図IV-3-36-407	H6-25×1, H6-24×1	H2	V			
図IV-3-36-408	1×2-30×1	V	口縫			
図IV-3-36-409	M4-3×1	V	口縫			
図IV-3-36-410	a G-5×1, H6-24×1, b H6-25×1 c H6-10×10, H6-24×1,	H3	V			
図IV-3-36-411	1×10-12×1	H12	V			
図IV-3-36-411	1×11×1	V	口縫			
図IV-3-36-412	1×17×1	V	口縫			
図IV-3-36-413	1×14×1	V	口縫			
図IV-3-37-414	a O47-9×2, O47-10×5 b O47-7×4	H7	V	図版74		
図IV-3-37-415	M37-3×1, J36-1×1, K36-3×2	H4	V			
図IV-3-37-416	J347-4×3	V	口縫			
図IV-3-37-417	H13-12×1	V	側縫			
図IV-3-37-418	S440-3×1	V	側縫			
図IV-3-37-419	a M44-10×3, M46-2×1, b M44-7×6, O45-12×2 c M46-2×1, R46-3×1	H12	V			
図IV-3-37-420	M45-10×3, M46-2×1, a M45-8×3, N45-8×2 b M45-13×1	H6	V	図版75		
図IV-3-37-420	1×9-4×4	V	側縫			
図IV-3-37-421	1×9-4×2	V	口縫			
図IV-3-37-422	S50-9×1, S51-4×2	H5	V			
図IV-3-37-423	F14-4×14, F14-5×1	H15	V			
図IV-3-37-423	b F14-4×4, G14-5×4 c F14-4×10, F14-5×1	H15	V			

面番号	測量区・地物番号×点数	面位	形状	組分類	面番号	備考
IVIV - 3 - 37 - 424	G81 - 8×1	V	口縁～鋸部	4組		
IVIV - 3 - 38 - 425	L 2 - 8×3	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 38 - 426	L 4 - 7×1	V	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 427	M43 - 2×1	V	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 428	G17 - 7×1	V	往口部	往口部		
IVIV - 3 - 38 - 429	P53 - 3×1	V	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 430	O40 - 5×1	V ₀	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 431	H11 - 9×1, I 11 - 5×1	計2	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 432	P 9 - 5×1	V	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 433	J14 - 9×1	V	往口部			
IVIV - 3 - 38 - 434	M37 - 6×1	V ₀	底部			
IVIV - 3 - 38 - 435	R45 - 2×1	V	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 436	Q56 - 2×9	V	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 437	Q41 - 3×1	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 438	H17 - 6×1, O18 - 6×1	計2	底部	底部		
IVIV - 3 - 38 - 439	P52 - 2×4	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 440	O35 - 2×14	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 441	S15 - 1×1	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 442	N55 - 1×1	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 443	R44 - 7×1	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 444	O43 - 4×1	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 445	P26 - 1×3	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 446	L42 - 8×6	V ₀	底部			
IVIV - 3 - 38 - 447	L 2 - 12×3	V	底部			
IVIV - 3 - 38 - 448	H 0 - 12×1	V	底部	底部		
IVIV - 3 - 38 - 449	I 2 - 26×2	V	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 450	P47 - 6×1	V ₀	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 451	M 3 - 10×1	V	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 452	Q63 - 8×1	V	側～底部			
IVIV - 3 - 38 - 453	[G 7 - 23×1, G 7 - 25×1, G 8 - 8×7, G 8 - 10×2]	計11	側～底部			

表 8-8 包含層出土揭露土器一覧 IV群 c 類

面番号	測量区・地物番号×点数	面位	形状	組分類	面番号	備考
IVIV - 3 - 39 - 454	I 1 - 38×1, I 3 - 10×1, I 4 - 21×1, J 1 - 5×1	計4	口縁～鋸部	4組		
IVIV - 3 - 39 - 455	I 2 - 7×1, I 3 - 17×3	計4	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 456	F18 - 7×1	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 457	F 9 - 4×2, F 9 - 5×1, F 10 - 3×1	計4	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 458	K 4 - 7×3, K 5 - 11×1	計6	口縁～底部			
IVIV - 3 - 39 - 459	I 6 - 12×9	V	側～底部			
IVIV - 3 - 39 - 460	M 4 - 4×1	V	底部			
IVIV - 3 - 39 - 461	H 1 - 34×1	V	底部			
IVIV - 3 - 39 - 462	a. F15 - 3×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 462	b. G14 - 5×1	V	口縁部			同一個体
IVIV - 3 - 39 - 463	G 7 - 33×1	V	口縁部	同一個体		
IVIV - 3 - 39 - 464	J 14 - 12×7	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 465	G16 - 6×2	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 466	R52 - 10×2	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 467	P47 - 10×1	V ₀	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 468	I 8 - 5×2	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 469	a. R49 - 4×6	V	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 39 - 469	b. R49 - 4×2	V	口縁部			同一個体
IVIV - 3 - 39 - 470	P46 - 5×2	V ₀	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 471	G16 - 6×1	V	口縁部	同一個体		
IVIV - 3 - 39 - 472	M 4 - 4×3	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 473	H 7 - 20×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 474	G16 - 6×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 475	I 8 - 5×2	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 476	J 14 - 5×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 477	a. P47 - 10×2	V ₀	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 477	b. P47 - 7×1	V	口縁部			同一個体
IVIV - 3 - 39 - 478	I 4 - 25×1	V	口縁～鋸部	同一個体		
IVIV - 3 - 39 - 479	a. R45 - 8×3	V	口縁部			
IVIV - 3 - 39 - 479	b. R44 - 5×1	V	口縁部			同一個体
IVIV - 3 - 40 - 480	K 4 - 7×1, K 4 - 9×7	計6	口縁～鋸部			
IVIV - 3 - 40 - 481	H16 - 7×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 482	a. K 5 - 6×1, I 3 - 8×1	計2	口縁～鋸部	同一個体		
	K 5 - 22×1, K 6 - 21×1, L 5 - 11×2, M 4 - 17×1	計5	鋸部			
	c. K 4 - 9×4, K 4 - 15×9, K 6 - 7×1, K 10 - 17×1, L 6 - 12×1	計15	前～底部			
IVIV - 3 - 40 - 483	L 2 - 9×3	V	口縁～鋸部	同一個体		
IVIV - 3 - 40 - 484	a. O12 - 3×2	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 484	b. F16 - 3×1	V	口縁部			同一個体
IVIV - 3 - 40 - 485	a. K 4 - 9×1, K 4 - 16×1	計2	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 485	b. K 4 - 15×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 486	H 7 - 20×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 487	a. G16 - 6×7	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 487	b. G16 - 20×3	V	鋸部			
IVIV - 3 - 40 - 488	I 37 - 2×1, M 39 - 4×1	計2	口縁～底部			
IVIV - 3 - 40 - 489	H 5 - 9×1	V	口縁部	同一個体		
IVIV - 3 - 40 - 490	a. J 6 - 12×1	V	口縁部			
IVIV - 3 - 40 - 490	b. J 6 - 12×2	V	口縁部	同一個体		
IVIV - 3 - 40 - 491	L 42 - 1×1, L 42 - 2×7, M42 - 5×16	計24	口縁～鋸部			

図版号	調査区・遺物番号×点数	部位	部位	組分類	図版番号	備考
図IV-3-41-492	I 8 - 5×6	V	口縁～側部	図版73		
図IV-3-41-493	K 4 - 9×2, K 4 - 15×1	計5	V			
図IV-3-41-494	I 0 - 2×1, I 2 - 7×1	計8	V			
図IV-3-41-495	I 9 - 6×2	V	口縁部			
図IV-3-41-496	G 10 - 5×1	V	口縁部			
図IV-3-41-497	G 16 - 8×1	V	口縁部			
図IV-3-41-498	G 14 - 5×3	V	口縁～側部			
図IV-3-41-499	G 16 - 6×2	V	口縁～側部			
図IV-3-41-500	J 14 - 8×2	V	口縁～側部			
図IV-3-41-501	G 16 - 6×1	V	口縁～側部			
図IV-3-41-502	I 14 - 8×1, J 14 - 8×1	計2	V	口縁部		
図IV-3-41-503	G 16 - 6×2	V	口縁部			
図IV-3-41-504	I 3 - 8×1, I 3 - 22×4	計5	V	口縁～側部		
図IV-3-41-505	J 4 - 8×5, J 4 - 12×3,					
	K 4 - 7×7, K 4 - 15×13	計28	V	口縁～側部		
図IV-3-41-506 a	P 48 - 5×2	V	口縁～側部	図版74		
b	Q 47 - 6×2	V	口縁部			
図IV-3-41-507	F 15 - 3×1	V	口縁部			
図IV-3-41-508	Q 26 - 6×2	V	口縁部			
図IV-3-41-509	G 7 - 24×1	V	口縁部			
図IV-3-42-510	J 4 - 8×1, K 4 - 15×9	計19	V	口縁～側部		
図IV-3-42-511	L 2 - 6×1	V	口縁部			
図IV-3-42-512	I 14 - 20×1	V	口縁部			
図IV-3-42-513 a	H 15 - 16×1	V	口縁部			
b	G 15 - 8×4	V	口縁部			
図IV-3-42-514	I 5 - 18×1	V	口縁部	図版75		
a	I 2 - 17×1	V	口縁部			
b	H 5 - 19×1, G 3 - 6×1, I 2 - 7×1, I 5 - 17×1, I 2 - 22×1, I 2 - 23×2, I 2 - 36×1, I 2 - 37×2, I 2 - 38×1, I 5 - 28×1	計20	V	口縁～側部		
図IV-3-42-515 a	I 3 - 8×2, I 3 - 10×1	計5	V	図版76		
b	I 4 - 21×1	V	口縁部			
c	I 3 - 8×2, I 4 - 21×1	計5	V			
図IV-3-42-516 a	H 2 - 16×1, I 2 - 17×1,	計4	V			
b	I 5 - 28×2	計4	V			
図IV-3-42-517 a	H 3 - 11×1, I 2 - 17×2,	計4	V			
b	I 5 - 28×1	計4	V			
図IV-3-42-518	I 1 - 11×1	V	口縁部			
図IV-3-42-519 a	N 45 - 6×2	V	口縁～側部	図版77		
b	L 44 - 1×2	V	口縁部			
図IV-3-42-520	L 44 - 1×1	V	口縁部			
図IV-3-42-521	G 18 - 6×1	V	口縁部			
図IV-3-42-522	N 7 - 9×1	V	口縁部			
図IV-3-43-523	K 10 - 6×17	V	口縁～側部			
図IV-3-43-524	I 3 - 25×1, I 4 - 10×2,					
	I 4 - 11×1, I 4 - 21×1	計5	V			
図IV-3-43-525	J 12 - 4×1	V	口縁部			
図IV-3-43-526	H 2 - 16×2, H 2 - 20×5,					
	H 3 - 30×1	計5	V			
図IV-3-43-527	K 3 - 15×1, L 3 - 15×2	計5	V	口縁部		
図IV-3-43-528 a	R 45 - 1×5, R 46 - 1×3,	計5	V	口縁～側部	図版78	
b	R 45 - 8×1, R 46 - 9×4	計12	V	側部		
c	I 4 - 8×2	V	口縁～側部			
図IV-3-43-529 a	H 5 - 20×1, K 4 - 9×1,	計11	V	側部		
b	K 4 - 15×2, K 4 - 34×2,					
c	K 15 - 4×1, L 4 - 8×4					
図IV-3-44-530	M 44 - 1×3, M 44 - 2×34,					
	M 44 - 5×4, N 44 - 4×16	計57	V	口縁～側部		
図IV-3-44-531 a	M 45 - 9×1, N 44 - 4×1	計5	V	口縁～側部	図版79	
b	N 45 - 3×2, N 45 - 5×1	計2	V	側部		
c	M 45 - 2×6, N 45 - 8×2	計6	V	側部		
図IV-3-44-532 a	G 15 - 6×2	V	側部			
b	G 15 - 6×1	V	側部			
図IV-3-44-533	G 15 - 6×1	V	口縁～側部			
図IV-3-44-534	H 4 - 19×1	V	口縁部			
図IV-3-44-535	M 45 - 3×2	V	口縁～側部			
図IV-3-45-536	L 42 - 2×12	V	口縁～側部	図版80		
図IV-3-45-537	L 42 - 2×2	V	口縁～側部			
図IV-3-45-538	O 33 - 6×1	V	口縁部			
図IV-3-45-539	I 1 - 10×1, I 1 - 11×1	計2	V	口縁部		
図IV-3-45-540	M 42 - 5×12	V	口縁～側部			

表8-9 包含層出土攜載土器一覧 V群 b類

図版号	調査区・遺物番号×点数	部位	部位	組分類	図版番号	備考
図IV-3-45-541	J 37 - 1×1	V	口縁部			
図IV-3-45-542	S 66 - 5×2	V	口縁部	美4-3式	図版77	

表8-10 包含層出土揭露土器一覧 V群c類

器番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	器番号	備考
IV-3-45-543	O65-1×2	V	口縁部			
IV-3-45-544	R60-1×1	V	口縁部			
IV-3-45-545	a R53-2×1	V	口縁部			
	b R53-2×1	V	底部			同一個体
IV-3-45-546	N54-1×4	V	口縁部	マサチⅢ群	IV-3-45-547	
IV-3-45-547	N53-2×1	V	口縁部			
IV-3-45-548	R51-5×46	V	口縁部			
	a R53-2×4	V	口縁部			
	b R53-2×4	V	口縁部			同一個体

表9 包含層出土揭露土製品一覧

器番号	調査区・遺物番号×点数	層位	分類	実器番号	備考
IV-3-46-1	F30-4×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-2	Q20-5×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-3	F23-3×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-4	I23-7×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-5	K28-5×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-6	I1-12×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-7	I9-11×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-8	I1-11×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-9	J24-6×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-10	G8-2×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-11	H28-6×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-12	H22-10×1	V	再生土器内側		
IV-3-46-13	P34-13×5	V	再生土器内側		
IV-3-46-14	O25-10×6	V	再生土器内側		
IV-3-46-15	O25-10×6	V	再生土器内側		
IV-3-46-16	O24-11×4	V	再生土器内側		

表10 包含層出土揭露石器等一覧

器番号	調査区	遺物番号	形態	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	器番号	備考
IV-3-53-1	E21	4	V	細石刃	(3.6)	0.9	0.2	0.9	黒曜石		打点削
IV-3-53-2	F30	19	V	細石刃	(2.4)	0.7	0.2	0.3	黒曜石		打点削
IV-3-53-3	F31	10	V	細石刃	(2.4)	0.9	0.2	0.7	黒曜石		打点削
IV-3-53-4	O25	6	V	細石刃	(2.4)	0.7	0.2	0.5	黒曜石		中間部
IV-3-53-5	F31	8	V	細石刃	(2.4)	0.8	0.2	0.5	黒曜石		中間部
IV-3-53-6	F31	11	V	細石刃	(1.9)	0.6	0.1	0.2	黒曜石		中間部
IV-3-53-7	K17	25	V	石鏟	1.9	1.1	0.2	0.5	黒曜石		
IV-3-53-8	H26	7	V	石鏟	2.0	1.2	0.2	0.6	黒曜石		
IV-3-53-9	R29	4	V	石鏟	2.3	1.5	0.2	0.8	黒曜石		
IV-3-53-10	Q20	13	V	石鏟	3.1	1.4	0.4	1.6	黒曜石		
IV-3-53-11	L17	3	V	石鏟	2.0	1.2	0.3	0.5	黒曜石		
IV-3-53-12	G21	21	V	石鏟	1.9	1.0	0.3	0.6	黒曜石		
IV-3-53-13	N36	1	V	石鏟	2.1	1.4	0.5	1.2	黒曜石		
IV-3-53-14	J28	2	V	石鏟	2.4	1.4	0.3	0.9	黒曜石		
IV-3-53-15	L15	21	V	石鏟	2.6	1.2	0.4	1.0	黒曜石		
IV-3-53-16	K17	6	V	石鏟	(2.3)	1.7	0.3	0.6	黒曜石		
IV-3-53-17	H3	28	V	石鏟	(2.4)	1.8	0.4	0.9	黒曜石		
IV-3-53-18	L3	23	V	石鏟	2.7	(1.8)	0.4	0.9	黒曜石		
IV-3-53-19	J2	22	V	石鏟	(2.4)	1.5	0.3	0.8	黒曜石		
IV-3-53-20	J3	31	V	石鏟	3.1	1.8	0.3	0.8	黒曜石		
IV-3-53-21	I2	14	V	石鏟	3.1	1.3	0.3	0.9	黒曜石		
IV-3-53-22	P13	5	V	石鏟	2.7	1.2	0.3	0.8	黒曜石		
IV-3-53-23	G6	17	V	石鏟	(2.9)	1.2	0.3	0.7	黒曜石		
IV-3-53-24	R9	1	V	石鏟	3.4	1.4	0.5	1.1	チャート		
IV-3-53-25	J24	1	V	石鏟	(3.2)	1.5	0.3	1.3	黒曜石		
IV-3-53-26	N18	8	V	石鏟	3.3	1.3	0.4	1.2	黒曜石		
IV-3-53-27	P17	8	V	石鏟	3.1	1.6	0.3	1.2	頁岩		
IV-3-53-28	P5	4	V	石鏟	(4.1)	1.8	0.5	3.2	チャート		
IV-3-53-29	I6	1	V	石鏟	2.3	0.8	0.3	0.4	黒曜石		
IV-3-53-30	J2	18	V	石鏟	(2.3)	1.2	0.3	0.6	黒曜石		
IV-3-53-31	O21	10	V	石鏟	(2.9)	1.5	0.2	0.9	黒曜石		
IV-3-53-32	Q12	15	V	石鏟	3.1	1.5	0.4	1.3	黒曜石		
IV-3-53-33	I2	29	V	石鏟	3.5	(2.2)	0.5	2.8	黒曜石		
IV-3-53-34	F18	1	V	石鏟	(4.1)	1.7	0.5	2.4	黒曜石		
IV-3-53-35	Q20	14	V	石鏟	(3.8)	2.0	0.4	3.4	メノウ質頁岩		
IV-3-53-36	O24	5	V	石鏟	(4.3)	1.3	0.3	1.7	黒曜石		

器番号	埋蔵区	遺物番号	形態	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	器種番号	備考
四IV-3-53-37	R15	17	V		石錐	(2.6)	1.0	0.3	0.8	黒曜石		
四IV-3-53-38	F22	16	V		石錐	2.7	1.3	0.4	0.9	黒曜石		
四IV-3-53-39	R28	2	V		石錐	3.4	1.3	0.4	1.3	黒曜石		
四IV-3-53-40	Q13	23	V		石錐	(4.1)	1.2	0.4	1.6	黒曜石		
四IV-3-53-41	O20	3	V		石錐	4.2	1.1	0.4	1.9	頁岩		
四IV-3-53-42	Q34	1	V		石錐	(4.4)	1.7	0.4	2.6	黒曜石		
四IV-3-53-43	P40	3-10	V		石錐	6.9	1.4	0.4	3.8	黒曜石		
四IV-3-53-44	Q12	15	V		石錐	2.2	1.3	0.4	0.9	黒曜石		
四IV-3-53-45	O4	1	V		石錐	2.3	1.4	0.2	0.6	黒曜石		
四IV-3-53-46	K21	7	V		石錐	(2.3)	1.4	0.3	0.6	黒曜石		
四IV-3-53-47	O16	1	V		石錐	(2.6)	1.4	0.3	0.9	黒曜石		
四IV-3-53-48	Q24	21	V		石錐	(2.7)	1.7	0.3	1.1	黒曜石		
四IV-3-53-49	P19	13	V		石錐	3.3	1.2	0.3	1.1	黒曜石	四版86	
四IV-3-53-50	P19	1	V		石錐	3.1	1.3	0.3	1.1	黒曜石		
四IV-3-53-51	O20	2	V		石錐	3.4	1.7	0.4	1.8	黒曜石		
四IV-3-53-52	Q9	11	V		石錐	3.3	1.6	0.4	1.4	黒曜石		
四IV-3-53-53	I21	4	V		石錐	3.7	1.7	0.4	1.9	頁岩		
四IV-3-53-54	I19	35	V		石錐	(3.8)	1.8	0.4	1.9	黒曜石		
四IV-3-53-55	N24	4	V		石錐	4.0	1.7	0.5	2.4	黒曜石		
四IV-3-53-56	P27	3	V		石錐	4.3	1.6	0.4	2.5	黒曜石		
四IV-3-54-57	H6	19	V		石錐	4.6	2.4	0.7	5.2	黒曜石		
四IV-3-54-58	H32	18	V		石錐	6.9	3.5	0.7	11.0	黒曜石		
四IV-3-54-59	R26	3	V		石錐	(6.4)	3.7	0.6	10.7	黒曜石		
四IV-3-54-60	J29	1	V		石錐	6.1	2.3	0.9	12.6	頁岩		
四IV-3-54-61	N47	14	V砂		石錐	6.9	2.4	0.6	9.6	黒曜石		
四IV-3-54-62	Q13	1	V		石錐	7.8	3.9	0.9	21.3	黒曜石		
四IV-3-54-63	P44	7	V		石錐	7.8	3.0	0.6	1.8	黒曜石		
四IV-3-54-64	P50	9	V砂		石錐	8.3	3.3	1.0	23.4	黒曜石		
四IV-3-54-65	O44	39	V		石錐	9.9	3.5	0.9	27.5	黒曜石		
四IV-3-54-66	S53	5	V		ナイフ	17.1	4.3	0.9	80.3	黒曜石		
四IV-3-54-67	S53	6	V		ナイフ	16.1	4.6	1.0	88.1	黒曜石		
四IV-3-55-68	P23	5	V		石錐	(2.9)	2.7	0.7	4.4	黒曜石		
四IV-3-55-69	L20	11	V		石錐	(3.3)	(3.1)	0.4	2.6	黒曜石		
四IV-3-55-70	P18	12	V		石錐	4.6	1.6	1.0	9.3	頁岩		
四IV-3-55-71	I31	13	V		石錐	3.2	0.9	0.4	1.3	黒曜石		
四IV-3-55-72	E29	16	V		石錐	(4.8)	0.9	0.7	2.4	黒曜石		
四IV-3-55-73	I32	5	V		石錐	4.7	0.9	0.8	2.6	黒曜石		
四IV-3-55-74	P20	13	V		石錐	5.0	1.3	0.5	3.4	頁岩		
四IV-3-55-75	M47	17	V砂		石錐	4.8	1.8	0.8	4.3	×ノク質真岩	四版87	
四IV-3-55-76	N19	10	V		つまみ付きナイフ	(3.9)	1.4	0.8	4.7	頁岩		
四IV-3-55-77	R57	2	V		つまみ付きナイフ	5.8	1.9	0.7	8.2	頁岩		
四IV-3-55-78	S48	3	V		つまみ付きナイフ	8.1	2.7	0.7	17.0	頁岩		
四IV-3-55-79	N50	19	V		つまみ付きナイフ	(8.0)	2.0	0.6	12.6	頁岩		
四IV-3-55-80	O43	12	V		つまみ付きナイフ	10.2	2.2	1.0	25.5	頁岩		
四IV-3-55-81	L17	5	V		つまみ付きナイフ	6.2	4.0	0.9	26.6	頁岩		
四IV-3-55-82	Q37	13	V		つまみ付きナイフ	6.7	3.2	1.1	21.2	頁岩		
四IV-3-55-83	H29	8	V		つまみ付きナイフ	7.1	3.4	1.0	20.4	黒曜石		
四IV-3-55-84	I21	6	V		つまみ付きナイフ	9.2	3.4	0.9	20.1	頁岩		
四IV-3-55-85	H3	21	V		つまみ付きナイフ	6.2	2.6	0.8	10.9	黒曜石		
四IV-3-55-86	G30	6	V		つまみ付きナイフ	6.4	2.4	1.2	15.6	黒曜石		
四IV-3-55-87	G17	25	V		つまみ付きナイフ	8.3	2.5	1.0	18.3	頁岩		
四IV-3-55-88	N50	18	V		つまみ付きナイフ	(3.7)	4.2	0.4	6.2	黒曜石		
四IV-3-55-89	Q39	4	V		つまみ付きナイフ	4.0	(5.7)	1.1	18.6	頁岩		
四IV-3-56-90	I34	1	V		つまみ付きナイフ	2.7	1.8	0.6	2.7	黒曜石	四版88	
四IV-3-56-91	J2	9	V		スレーブイヤー	(3.9)	2.0	1.2	7.7	黒曜石		
四IV-3-56-92	H33	13	V		スレーブイヤー	(4.8)	2.1	0.7	6.1	黒曜石		
四IV-3-56-93	I34	36	V		スレーブイヤー	5.1	2.5	0.8	8.6	黒曜石		

図番号	調査区	遺物番号	順位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	面積番号	備考
国IV-3-56-94	H29	3	V	スケレイバー	8.3	4.7	1.2	63.5	頁岩		
国IV-3-56-95	G34	7	V	スケレイバー	7.3	3.6	1.1	41.4	頁岩		
国IV-3-56-96	O12	1	V	スケレイバー	3.9	2.0	0.5	0.5	頁岩		
国IV-3-56-97	Q18	1	V	スケレイバー	3.5	2.3	0.7	6.1	黒曜石		
国IV-3-56-98	M16	3	V	スケレイバー	3.7	2.5	1.0	8.4	頁岩		
国IV-3-56-99	M37	1	V	スケレイバー	4.3	3.5	1.0	16.4	黒曜石		
国IV-3-56-100	M39	15	V砂	スケレイバー	2.7	2.8	0.8	6.6	黒曜石		
国IV-3-56-101	N25	3	V	スケレイバー	3.8	2.1	0.7	6.6	黒曜石		
国IV-3-56-102	F30	6	V	スケレイバー	3.6	3.8	0.5	11.5	黒曜石		
国IV-3-56-103	L22	19	V	スケレイバー	2.8	4.5	0.9	9.3	黒曜石		
国IV-3-56-104	P21	5	V	スケレイバー	5.1	4.1	1.2	19.5	黒曜石		
国IV-3-56-105	G31	11	V	スケレイバー	(3.8)	1.6	0.5	3.2	黒曜石		
国IV-3-57-106	I3	36	V	両面調整石器	3.2	2.6	0.5	5.3	黒曜石		
国IV-3-57-107	I1	34	V	両面調整石器	3.5	3.0	0.6	6.8	黒曜石		
国IV-3-57-108	H3	22	V	両面調整石器	3.6	2.5	0.8	6.8	黒曜石		
国IV-3-57-109	N52	2	V	両面調整石器	5.3	3.6	0.9	18.9	黒曜石		
国IV-3-57-110	F15	29	V	石斧	11.3	7.4	4.0	576.8	綠泥岩		
国IV-3-57-111	F11	1	V	石斧	11.9	5.5	2.2	240.1	綠色泥岩		
国IV-3-57-112	P29	2	V	石斧	9.3	4.6	1.0	58.8	綠色泥岩		
国IV-3-57-113	Q24	30	V	石斧	9.2	2.9	1.6	54.4	綠色泥岩		
国IV-3-57-114	P44	31	V	石斧	7.5	3.3	1.3	55.6	綠色泥岩		
国IV-3-57-115	I9	2	V	石斧	9.0	3.3	1.6	84.3	綠色泥岩		
国IV-3-58-116	R49	5	V	石斧	9.4	3.2	2.1	100.0	綠色泥岩		
国IV-3-58-117	Q32	1	V	石斧	10.7	4.0	1.6	10.1	片岩		
国IV-3-58-118	J5	15	V	石斧	12.0	4.8	1.7	148.4	綠色泥岩		
国IV-3-58-119	F22	21	V	石斧	11.9	4.9	2.4	246.9	蛇紋岩		
国IV-3-58-120	J7	11	V	石斧	13.7	3.7	1.1	99.7	片岩		
国IV-3-58-121	M6	?	V	石斧	15.8	5.7	3.3	489.0	綠色泥岩		
国IV-3-58-122	S48	5	V	石のみ	3.1	1.9	0.4	3.6	綠色泥岩		
国IV-3-58-123	P6	11	V	石のみ	4.1	1.4	0.3	2.6	片岩		
国IV-3-58-124	K22	3	V	石のみ	(5.7)	1.3	0.3	7.2	綠色泥岩		
国IV-3-58-125	R51	6	V	石のみ	7.4	1.9	1.0	21.0	片岩		
国IV-3-59-126	R43	22	V	たたき石	16.3	7.0	3.6	602.0	凝灰岩		
国IV-3-59-127	P9	6	V	たたき石	15.2	4.0	4.2	411.0	砂岩		
国IV-3-59-128	O44	15	V	たたき石	10.1	6.5	4.4	406.0	安山岩		
国IV-3-59-129	R41	1	V	たたき石	7.5	4.9	4.0	203.0	砂岩		
国IV-3-59-130	M46	5	V	たたき石	7.8	4.7	3.8	203.0	砂岩		
国IV-3-59-131	P14	2	V	たたき石	9.0	4.8	3.1	249.0	綠色泥岩		
国IV-3-59-132	R50	20	V	たたき石	4.7	5.0	3.1	136.0	綠色泥岩		
国IV-3-59-133	G17	7	V	たたき石	5.9	5.6	3.4	185.0	綠色泥岩		
国IV-3-59-134	J13	15	V	たたき石	4.9	5.0	4.9	208.0	綠體岩		
国IV-3-59-135	G31	17	V	すり石	(7.0)	13.6	5.4	708.0	砂岩		
国IV-3-59-136	H19	21	V	すり石	5.8	7.5	6.2	481.5	安山岩		
国IV-3-59-137	H20	19	V	すり石	7.9	7.3	4.9	389.7	安山岩		
国IV-3-60-128	R46	6	V	すり石	8.7	12.6	4.6	805.0	安山岩		
国IV-3-60-139	P24	9	V	すり石	9.4	13.3	5.5	944.0	安山岩		
国IV-3-60-140	F17	2	V	すり石	9.7	14.5	5.4	1027.0	砂岩		
国IV-3-60-141	M3	6	V	すり石	6.2	14.0	2.5	400.8	砂岩		
国IV-3-60-142	J23	23	V	すり石	8.6	18.6	5.4	1450.0	安山岩		
国IV-3-61-143	P22	29	V	石綿	6.8	10.1	1.4	107.2	砂岩		
国IV-3-61-144	R44	21	V	石綿	3.5	10.8	1.2	67.3	砂岩		
国IV-3-61-145	O53	4	V	磁石	14.9	6.6	1.0	194.3	砂岩		
国IV-3-61-146	O44	15・45 +66	V	磁石	(22.7)	12.0	4.8	2840.0	砂岩		114点接合
国IV-3-61-147	P55	19	V	磁石	11.2	4.7	4.8	364.0	砂岩		四面砥石
国IV-3-61-148	P22	5	V	石綿	5.2	6.5	8.8	50.0	凝灰岩		
国IV-3-61-149	F19	12	V	石綿	5.7	7.3	1.7	127.4	片麻岩		
国IV-3-61-150	M16	18	V	石綿	7.9	7.0	2.4	260.5	片麻岩		
国IV-3-61-151	K20	21	V	石綿	9.0	7.3	1.5	174.4	片麻岩		

図番号	調査区	遺物 番号	遺物 番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	圖版 番号	備考
図IV-3-61-152	K19	1	V		石器	(4.5)	11.9	1.5	130.8	緑色泥岩		石斧転用?
図IV-3-62-153	N44	14	V		石器	15.5	21.1	10.2	5012.0	安山岩	図版91	
図IV-3-62-154	G33	1	V		石器	31.2	28.2	14.5	18100.0	凝灰岩		ベンガラ村着
図IV-3-63-155	H27	5	V		石製品	4.8	4.6	3.0	21.9	鰐石		
図IV-3-63-156	G18	29	V		石製品	6.7	5.0	2.0	31.9	鰐石		
図IV-3-63-157	J1	9	V		石製品	7.0	6.3	2.2	45.4	鰐石		
図IV-3-63-158	H31	31	V		石製品	2.8	1.5	0.8	1.4	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-159	L24	19	V		石製品	1.6	1.2	0.8	0.7	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-160	P55	13	V		石製品	2.9	0.8	0.6	1.9	黒曜石		異形石器
図IV-3-63-161	N36	6	V		石製品	0.9	0.9	0.9	1.0	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-162	N37	1	V		石製品	0.9	0.9	0.8	0.6	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-163	R39	3	V		石製品	1.0	1.0	1.2	1.8	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-164	I2	25	V		石製品	1.6	1.6	1.3	4.6	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-165	N54	4	V		石製品	1.3	1.0	0.6	1.1	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-166	P52	15	V		石製品	1.2	1.4	0.5	1.0	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-167	O45	13	V		石製品	(1.8)	1.0	0.5	1.2	メノウ		幽都
図IV-3-63-168	H7	11	V		石製品	(1.7)	0.9	0.2	0.6	蛇紋岩		幽都
図IV-3-63-169	Q33	13	V		石製品	1.7	2.6	0.8	2.6	鰐石		玉
図IV-3-63-170	H2	51	V		石製品	2.5	1.3	1.2	8.3	蛇紋岩		玉
図IV-3-63-171	O44	8	V		石製品	2.5	1.7	0.9	6.7	鰐石		玉・孔2か所
図IV-3-63-172	M10	4	V		石製品	4.0	4.5	0.5	9.4	凝灰岩		玉・孔2か所
図IV-3-63-173	N36	2	V		石製品	9.6	19.8	4.0	1005.0	凝灰岩		半円状有孔石製品
図IV-3-63-174	Q54	36	V		石製品	20.6	16.1	1.8	666.0	凝灰岩		オロシガネ状石製品
図IV-3-64-175	Q62	13	V		石製品	12.5	9.5	1.8	225.5	凝灰岩		オロシガネ状石製品
図IV-3-64-176	N42	22	V		石製品	31.5	8.1	1.9	585.0	片岩		複雑形石器 接合・1点被削
	P25	7	V									

表11 土壌フローテーション成果一覧

追跡番号	処理番号	基質土壌 重量 g	炭化物重量 g 2.0mm 0.425mm 組成	種子 重量 g	各 土壤 重量 g						土壠 土製品 石粉類 重量 g	側面 重量 g	側面 点数 馬場石 その他の 馬場石	その他の 重量 点数/g	備考	
					土砂	土砂 底質	土砂 底質	土製品 底質	石粉類 底質	側面 底質						
VH-1	19-22	0.66	0.4 0.2 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	28.5	1,442	6				
VH-1-HF-1	19-23	5.65	4.3 1.4 1.7	なし	なし	3.1	1	なし	0.1	1.8	51	19	ベンガラ			
VH-1	19-24	0.40	0.1 0.0 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	34.4	1,808	5				
VH-1	19-25	1.87	0.5 0.2 0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	70.7	6,076	2,733	側面2.0g/0.0g	種子、不規則 カサツリ根(1)		
VH-5-HF-1	19-26	0.69	0.1 0.1 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.1	33	なし				
VH-5-HF-1	19-27	0.60	0.0 0.0 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.1	16	なし				
VH-5-HF-1	19-28	0.25	0.0 0.0 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.1	15	なし				
VH-5-HF-1	19-29	0.38	0.1 0.1 0.0	なし	なし	0.9	5	なし	なし	0.1	13	なし				
VH-5-HF-1	19-30	0.52	0.4 0.3 0.0	なし	なし	4.2	7	なし	なし	0.3	33	なし				
VH-5-HF-1	19-31	0.45	0.5 0.2 0.0	なし	なし	2.0	6	なし	なし	0.3	58	なし				
VH-5-HF-1	19-32	0.46	0.3 0.2 0.0	なし	なし	3.5	19	なし	なし	0.3	43	なし	側面1.0g/0.3g			
VH-5-HF-1	19-33	0.59	0.21 1.2 0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.9	145	なし				
VH-5-HF-1	19-34	0.30	0.1 0.2 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.9	122	なし				
VH-5-HF-1	19-35	0.54	1.3 1.0 0.1	なし	なし	6.4	15	なし	なし	0.3	46	なし				
VH-5-HF-1	19-36	4.63	1.4 1.2 1.4	0.0	なし	78.6	311	なし	なし	4.0	587	なし	側面2.0g/3.9g 不規則(1片)	種子 ベンガラ		
VH-5-HF-1	19-37	2.40	1.4 1.0 0.1	なし	なし	29.5	124	なし	なし	1.5	291	なし	ベンガラ			
VH-5-HF-1	19-38	4.37	0.3 0.5 0.8	0.0	なし	16.5	124	なし	なし	1.0	185	なし	種子 不規則(1片)			
VH-5-HF-1	19-39	9.13	0.2 0.5 0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	0.6	193	なし	ベンガラ			
VH-6	19-40	1.47	0.7 0.5 0.0	なし	なし	0.0	1.7	15	18.3	なし	0.5	20	8			
VH-6	19-41	1.11	0.6 0.7 0.0	なし	なし	32.0	30	40.9	なし	0.5	29	17				
VH-7-HF-1	19-42	0.44	13.5 1.6 0.0	なし	なし	なし	なし	7.4	なし	なし	なし					
VH-7-HF-1	19-43	3.50	13.2 4.9 2.5	なし	なし	10.9	32	6.9	なし	0.1	11	1	ベンガラ			
VH-7-HF-1	19-44	2.37	3.8 2.4 0.0	なし	なし	3.4	4	21.7	なし	なし	なし	2				
VH-8	19-45	1.49	2.3 5.4 0.2	なし	なし	なし	なし	8.2	なし	0.6	2	13				
VH-10-HF-1	19-46	5.76	0.8 0.9 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	2.7	284	56	ベンガラ			
VH-10-HF-1	19-47	5.21	2.2 2.7 0.1	なし	なし	なし	なし	19.6	なし	3.6	359	106	側面5点			
VH-10-HF-1	19-48	2.80	0.3 0.7 0	なし	なし	0.4	1	2.9	なし	1.6	100	35				
VH-10-HF-1	19-49	5.89	0.5 1.3 0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	1.2	160	86	ベンガラ 種子、不明(1片)			
VH-10-HF-1	19-50	5.49	0.3 0.7 0.1	0.1	なし	なし	なし	1.2	なし	1.0	148	53	側面53.6g/0.9g			
VH-10-HF-1	19-51	7.29	0.0 0.2 0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	1.2	164	11	種子、不明(1片)			
VH-10-HF-2	19-52	3.74	1.9 0.6 0.0	なし	なし	なし	なし	27.5	なし	0.6	2	なし	側面2点			
VH-10-HF-2	19-53	3.06	0.0 0.3 0.0	なし	なし	なし	なし	5.0	なし	なし	なし	1				
VH-11-HF-1	19-54	2.05	0.2 0.3 0.0	0.0	なし	なし	なし	29.3	なし	4.1	384	24	種実?			
VH-12	19-55	0.44	0.0 0.0 0.0	なし	なし	なし	なし	0.6	なし	0.5	2	4				
VH-12-HF-1	19-56	1.72	0.6 0.4 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.6	2	10				
VF-6	19-57	2.40	23.6 19.4 4.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.6	2	10				
VP-1	19-58	0.09	0.0 0.1 0.0	なし	なし	なし	なし	2.1	なし	なし	なし	なし				
VP-41	19-59	8.09	0.8 1.1 0.3	0.0	なし	なし	なし	37.3	なし	0.2	21	なし	種子、不明(4片)			
VF-14	20-25	—	36.6 16.7 1.2	0.4	なし	1.5	1	なし	なし	0.2	27	1	側面50g 種子アンドウ(1)			
VF-14	20-33	—	2.4 2.1 0.2	なし	なし	3.0	2	なし	なし	0.5	54	なし	カルトナード/0.3g			
VF-11	20-34	—	0.1 0.2 0.1	なし	なし	12.9	100	なし	なし	0.13	21	なし	種子、不明(1片)			
VF-12	20-35	—	0.1 0.1 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	1	なし				
VF-13	20-36	—	0.3 0.2 0.2	なし	なし	0.1	1	なし	なし	0.1	18	なし	高齢小植の健芽と 黒れい66.4g 側面0.0g			
VF-14	20-37	—	0.9 0.6 0.0	なし	なし	4.8	13	なし	なし	0.2	13	なし				
VH-14	20-38	—	5.2 1.7 0.2	なし	なし	2.5	1	21.3	なし	0.5	76	9				
VH-14	20-39	—	0.6 0.4 0.0	なし	なし	なし	なし	0.4	0.4	23	なし					
VF-15	20-40	—	2.1 0 0.3	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	5	なし				
VH-15-HF-1	20-41	—	0.0 0.0 0.0	なし	なし	0.2	2	なし	なし	0	2	1				
VH-14	20-42	—	0.1 0.1 0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.14	16	なし				
VH-16-HF-1	20-43	—	0.3 0.3 0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.7	31	なし				
VH-17-HF-1	20-44	—	0.0 0 0	0.06	なし	なし	なし	なし	なし	0.4	31	12	種子不明(3片)			

V 梅川1遺跡

1 遺構

(1) 概要

遺構はT a - c を除去後にV層上面から焼土を9か所検出している。旧河道を挟む標高8 mほどの段丘上の両側から確認している。獸骨・魚骨の微細骨片が多く含む灰層がある。焼土は、周辺からの出土遺物やT a - c 降下直前とみられる検出層位から、縄文時代晩期中葉に形成されたと考えられる。

(2) 焼土

VF-1 (図V-1-2/表1~4・7)

特 微 T a - c を除去後、S 74 a 区を調査中に微細骨片を多量に含むオリーブ灰色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獸骨・魚骨が106.1 g のほか堅果・炭化材・カワシンジュガイなどが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物は焼成面上からV群b類土器 (図V-2-1-1)、石錐 (図V-2-2-1)、剥片が出土している。剥片は被熱したものが多量に出土した。北西側には土器片 (V群b類) の集中がみられる。

時 期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。

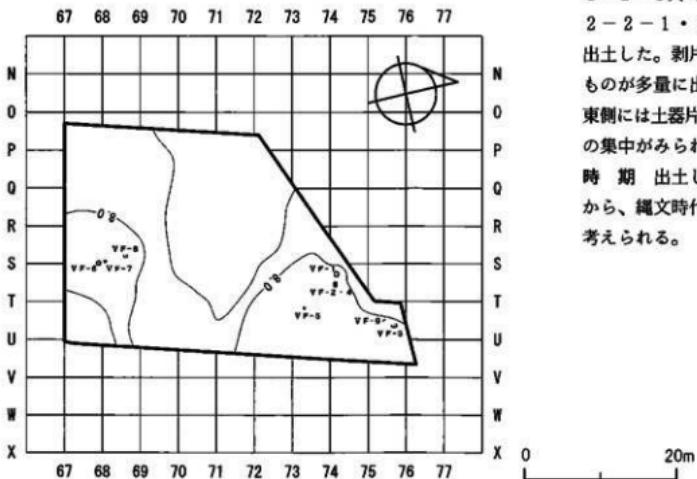
(酒井)

VF-2 (図V-1-2/表1~4・7)

特 徴 T a - c を除去後、S 74 a + b 区を調査中に微細骨片を多量に含む赤褐色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獸骨・魚骨が15.9 g のほか堅果・炭化材・カワシンジュガイなどが検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。位置的にはVF-1 から廃棄されたものと推定される。遺物はV群b類土器 (図V-2-

1-2・3)、石錐 (図V-2-2-1-2)、剥片が出土した。剥片は被熱したものが多量に出土した。南東側には土器片 (V群b類) の集中がみられる。

時 期 出土している遺物から、縄文時代晩期中葉と考えられる。 (酒井)



図V-1-1 遺構位置図

V F - 3 (図V-1-2 / 表1・2・4)

特 微 T a - c を除去後、S 75 c 区を調査中に微細骨片を含む黒色土の範囲を検出した。西側をB調査坑により削平されている。南側を半截したところ、黒色土の下に微細骨片を多量に含むオリーブ灰色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる獸骨・魚骨が291.1gのほか種子・堅果・炭化材・カワシンジュガイなどが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物は焼成面上からV群 b類土器、焼成粘土塊、スクレイパー(図V-2-2-1)、剥片が出土した。剥片は、被熱して白く曇っているもののが多量に出土している。

時 期 出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(酒井)

V F - 4 (図V-1-2 / 表1・2・7)

特 微 V F - 2 を半截した際に直下から微細骨片を含む橙色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。骨片のほか種子・炭化材などが検出された。焼土は非常によく焼けている。遺物はV群 b類土器、剥片が出土した。

時 期 出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(酒井)

V F - 5 (図V-1-3 / 表1・2・7)

特 微 T a - c を除去後、T 73 a 区を調査中に微細骨片を含むにぶい赤褐色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。微細骨片のほか種子・炭化材などが検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物は剥片が出土した。

時 期 周囲から出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(酒井)

V F - 6 (図V-1-3 / 表1・2・7)

特 微 T a - c を除去後、R 67 c + S 67 d 区を調査中に微細骨片を含むにぶい橙色の範囲を検出した。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のような結果を得た。種子・炭化材が検出された。焼土には微細骨片が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物はV群 b類土器、剥片が出土している。

時 期 出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(影浦)

V F - 7 (図V-1-3 / 表1・2)

特 微 T a - c を除去後、R 68 b 区を調査中に炭化物を含む明黄褐色の範囲を検出した。焼土には炭化物が混入しており、現地で焼成された様子も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物は剥片が出土している。

時 期 周囲から出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(影浦)

V F - 8 (図V-1-3 / 表1・2)

特 微 T a - c を除去後、R 68 c 区を調査中に微細骨片を微量含む橙色の範囲を検出した。焼土は非常によく焼けており、現地で焼成されたものと考えられる。遺物はV群 b類土器(図V-2-1-4)、剥片が出土している。

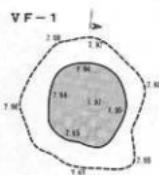
時 期 出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(影浦)

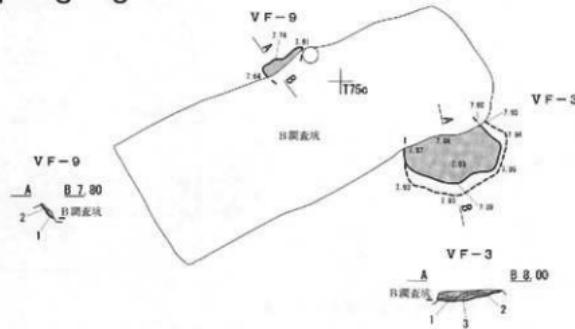
V F - 9 (図V-1-2 / 表1・2・7)

特 微 T a - c を除去後、T 75 a 区を調査中、B 調査坑の断面に微細骨片を含む焼土の断面を検出した。精査したところ微細骨片を多量に含むオリーブ灰色の範囲を検出した。北東側をB調査坑により削平されている。この土壤を採取し、フローテーション処理して選別を行ったところ、表7のよう

VF-1・2・4

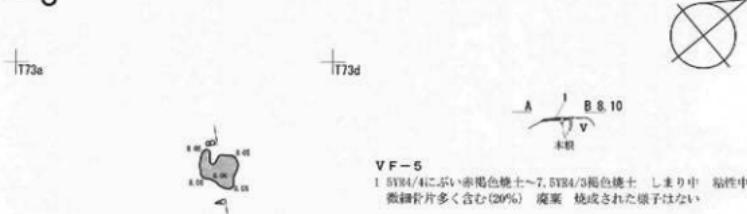


VF-3・9

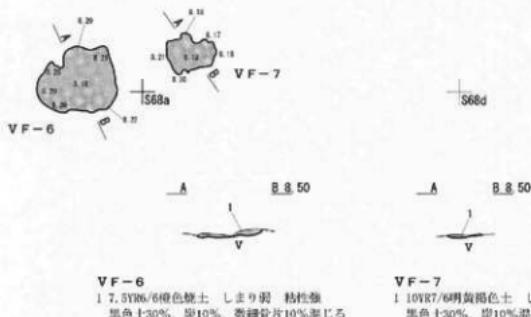


図V-1-2 VF-1~4・9

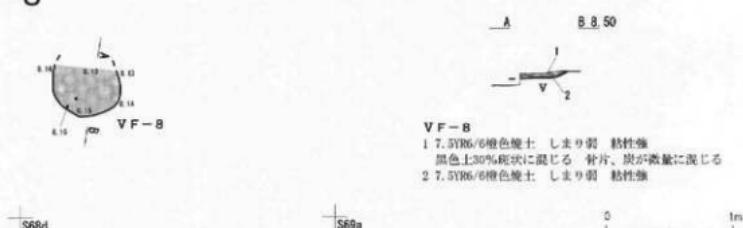
VF-5



VF-6・7



VF-8



図V-1-3 VF-5~8

な結果を得た。シカやサケ・マス類とみられる歯骨・魚骨が18.5gのほか炭化材が検出された。焼土は非常によく焼けており、現地で焼成されたものと考えられる。遺物はV群b類土器、剥片が出土している。B調査坑の壁面の崩落で傾いている。

時期 出土している遺物から、縄文時代晚期中葉と考えられる。

(酒井)

2 遺構出土の遺物

(1) 土器

V F - 1 (図V - 2 - 1 / 表3 / 図版94)

1はV群b類。口縁部片。口唇断面は角形。器外面にRL斜走繩文。口唇直下は横ナデにより無文。

V F - 2 (図V - 2 - 2・3 / 表3 / 図版94)

2・3はV群b類。いずれも口縁部片。2は端面が内傾する。端面～外面にRL斜走繩文。3は口唇がやや肥厚し、端面が内傾する。器外面にRL斜走繩文。

V F - 8 (図V - 2 - 4 / 表3 / 図版94)

4はV群b類。突起の一部が残る口縁部片。端面が内傾する。器外面にRL縦走繩文が施されるが、口唇直下は横ナデにより無文。繩側面圧痕5条が横走する。
(芝田)

(2) 石器等

遺構からは剥片石器4点、剥片3,735点、礫片19点の合計3,758点が出土している。剥片石器等の石材はすべて黒曜石である。この中から剥片石器4点を図化した。

V F - 1 (図V - 2 - 2 - 1、表4、図版94)

1は石鐵。有茎凸基。被熱によって全体が薄く白く曇っている。

V F - 2 (図V - 2 - 2 - 1・2、表4、図版94)

1・2は石鐵。有茎平基。被熱によって全体が白く曇っている。2は有茎凸基。調整が粗く、未成品の可能性がある。

V F - 3 (図V - 2 - 2 - 1、表4、図版94)

1はスクレイパー。剥片の周縁を加工して刃部を作出している。被熱によって全体が白く曇っている。

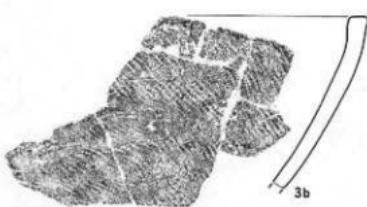
V F - 1



V F - 2



V F - 8



0 10cm

図V - 2 - 1 遺構の土器

3 包含層出土の遺物

(1) 土器

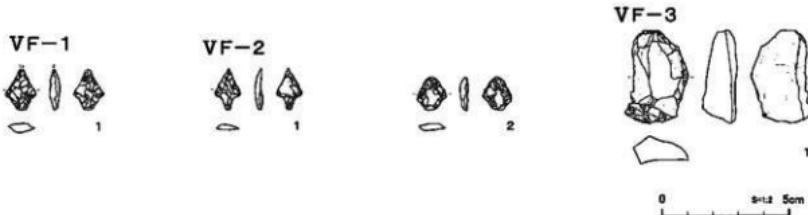
V層より土器等は1,797点出土している(表I-4)。このうちV群b類が1,466点で最も多い。このほかⅢ群b類が256点、IV群b類が59点、IV群c類が4点出土しているが、いずれも微細な破片で、透水の影響で残存状態がよくないことから掲載しなかった。土製品12点はすべて焼成粘土塊である。

V群b類は、美々3式に相当する。焼土VF-1~9と同様にV層上面から3~5cm下のV層上位より出土する。遺物分布図は、祝梅川小野遺跡と合わせて記載した(図IV-3-47~52)。梅川1遺跡と祝梅川小野遺跡の低地部分は、祝梅川旧河道右岸の同じ段丘面に立地しており、埋蔵文化財包蔵地としては一連のものとみなせる。縄文時代前~後期は遺構・遺物が希薄で、これは祝梅川小野遺跡の低地部分北側から続く傾向である。晩期中葉(V群b類)は、梅川旧河道の両岸(65~69ライン、74~76ライン)に集中域があり、北側の調査範囲外へと続くと予想される。梅川旧河道の内部からの出土は少ない。

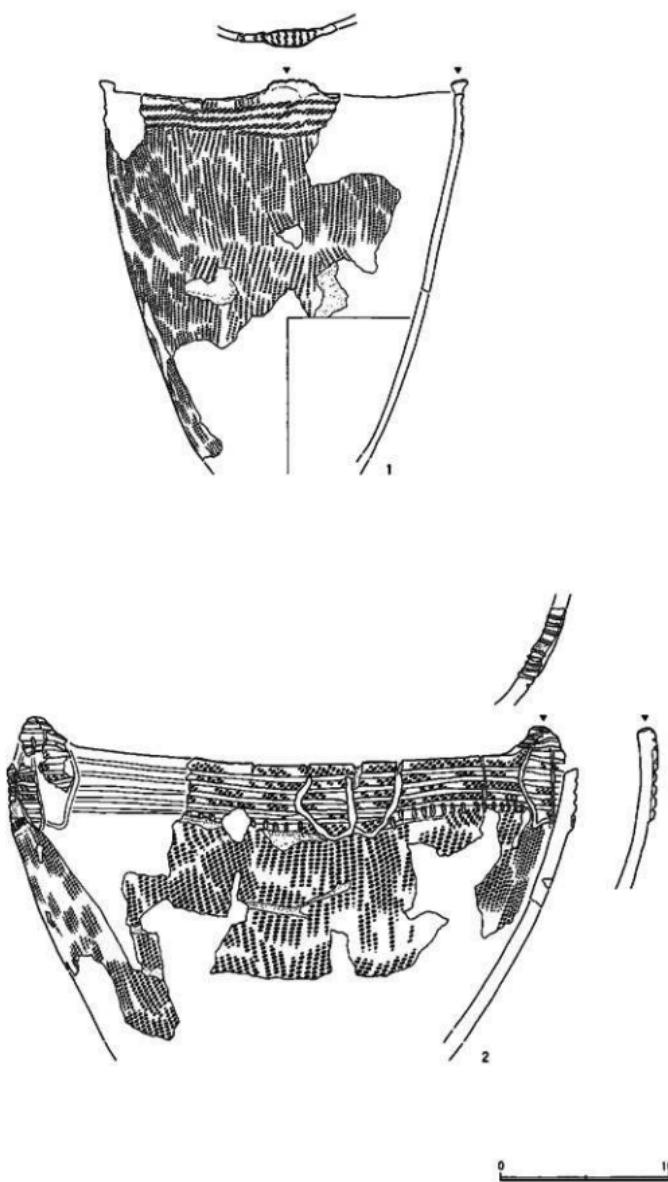
縄文時代晩期中葉の土器(図V-3-1・2/表5/図版93・94)

V群b類: 美々3式に相当するもの(1~18)

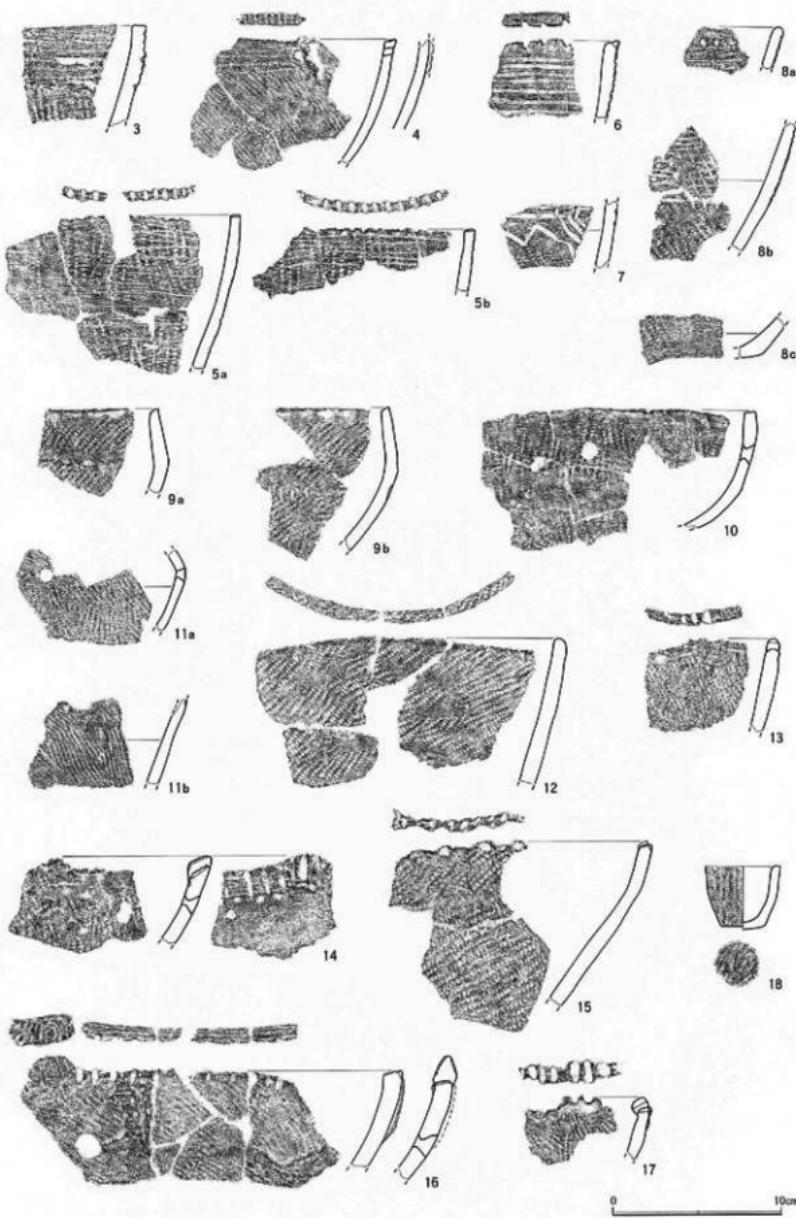
1は口縁~胴下部が復元された深鉢。山形突起4か所が設けられていたと推測される。突起の頂部は肥厚し、縦位のLR繩側面圧痕。口縁部は無文で、LR繩側面圧痕3ないし4条が巡る。胴部外面はRL縦走縄文。2は口縁~胴中部が復元された深鉢。山形突起2か所が現存する。突起の頂部は半截竹管状施文具により縦位に刻まれる。器外面にはRL原体により口縁部は斜走縄文、胴部は縦走縄文。口縁部は4~7条の横走沈線に、2連の垂下屈曲沈線を上書きしている。横走沈線下には半截竹管状施文具による刺突列が巡る。3は口縁部にRL繩側面圧痕7条が巡り、竹管状施文具による横向きの押し引き状刺突列が上書きされる。胴部はRL縦走縄文。4は口縁部にRL繩側面圧痕4条が巡り、弧状またはV字状と推測される貼付帯が取り付けられる。貼付帯の側縁に円形刺突孔1か所が確認される。端面は内傾し、RL繩により縦位に刻まれる。胴部はRL斜走縄文。5は器外面にRL縦走縄文が施され、細沈線がやや粗雑に横走する。端面は水平で、棒状施文具の側縁により刻まれる。6は無文地に横走沈線が多段に巡り、縦位の細沈線が上書きされる。端面外縁は棒状施文具の側縁により刻まれる。7は胴上部片。RL斜走縄文に横走・弧状・鋸歯状の沈線が上書きされる。8は器外面にRL斜走縄文。口縁部は粗雑な横走沈線に斜位の細沈線が上書きされる。口唇直下には円形刺突列が巡る。底部は丸底ぎみ。9~11は口縁部が内側へ屈曲する器形。9は端面が内傾する。器外面に



図V-2-2 遺構の石器



図V-3-1 包含層の土器（1）



図V-3-2 包含層の土器（2）

L R 斜走縄文が施され、屈曲部分には半截竹管状施文具による刺突列が巡る。10は浅鉢。端面は水平。器外面にR L 縱走縄文が施される。補修孔2か所が確認される。11はR L 縱走縄文が施され、補修孔1か所が確認される。12は端面～外面にR L 斜走縄文。端面は丸みを帯びる。13は山形突起部分で、器外面にR L 斜走縄文。突起の頂部は棒状施文具の側縁により刻まれる。14・15は浅鉢。14は山形突起部分で、内面の口唇直下にR L 縄側面圧痕4条が巡り、棒状施文具の側縁により刻まれる。縄側面圧痕下には円形刺突列が巡る。15は端面の内外側縁が指頭圧痕により小波状を呈し、さらに波頂部が竹管状施文具により刺突される。器外面にL R 斜走縄文。16は山形突起および端面に縄側面圧痕。端面外縁は棒状施文具の側縁により刻まれる。器外面にL R 斜走縄文を施した後、口縁部に幅広の貼付帶を上乗せし、縄側面圧痕や刺突列などを加えている。補修孔1か所が確認される。17は山形突起部分。頂部および端面は棒状施文具の側縁により刻まれる。器外面にR L 斜走縄文。18はミニチュアの深鉢。器外面～底面にR L 縱走縄文が施される。

(芝田)

(2) 石器等

石器等は479点出土している。剥片石器55点、礫石器19点、剥片385点、礫・礫片20点である。この中から定型的で完形のものを中心に抽出し掲載した。利用する石材は、剥片石器類では黒曜石が98%を占める。礫石器類は安山岩(31%)、砂岩(28%)、緑色泥岩(23%)、その他(18%)である。分類別では石鎚・スクレイパー・石斧が多い。遺物分布図については、祝梅川小野遺跡の遺物分布図(図IV-3-65~79)と合わせて記載している。

石鎚(図V-3-3-1~4/表6/図版94)

石鎚は15点出土した。すべて有茎のものである。石材はすべて黒曜石。

1~4は有茎鎚。1~3は平基。1・2は基部が逆三角形状になる。4は菱形をしている。裏面に素材剥片の剥離面を残す。

スクレイパー(図V-3-3-5~8/表6/図版94)

スクレイパーは11点出土した。石材は黒曜石が10点を占め、頁岩は掲載した1点のみである。

5~7は剥片の周囲に円弧状の刃部を設けている。8は縦長剥片の片面全面を加工している。つまみ部が作出されていないためスクレイパーとしたが、つまみ付きナイフの未成品の可能性がある。

石斧(図V-3-3-9~10/表6/図版94)

石斧は6点出土した。短冊形のものが出土している。石材は緑色泥岩・泥岩である。

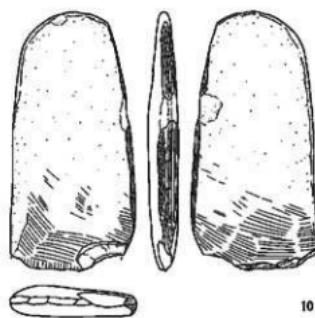
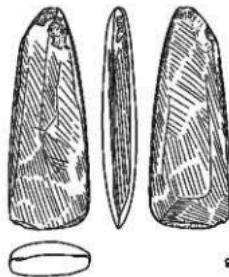
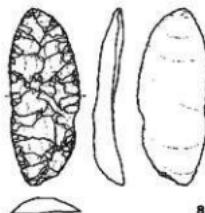
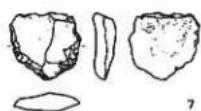
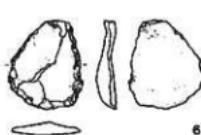
9・10は短冊形で曲刃、両刃。9は敲打による整形後、全面を研磨している。10は扁平礫の右側縁を研磨によって直線的に整形している。刃部は使用による剥離が見られる。

すり石(図V-3-3-11/表6/図版94)

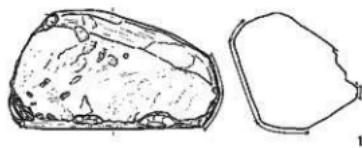
すり石は3点出土した。断面三角形の稜を擦ったもの1点と北海道式石冠片が2点出土している。石材は砂岩と安山岩である。

11は断面が三角形の礫の稜を擦ったすり石。左端部を欠損している。2つの稜に擦り痕が見られる。右端部ともう一つの稜には敲打による整形が見られる。

(酒井)



0 5cm 10cm



0 5cm 10cm

図V-3-3 包含層の石器

表1 掘出造構規模一覧

造構種別	造構名	調査区	規模(m)				時期 (縦文時代)	特徴	図番号			
			上端		下端							
			長軸	短軸	長軸	短軸						
焼土	VF-1	S74a	0.66	0.62	—	—	0.06	晚期中葉	現地	図V-1-2		
	VF-2	S74ab	0.64	0.44	—	—	0.02	晚期中葉	廢棄	図V-1-2		
	VF-3	S75c	0.76	0.40	—	—	0.06	晚期中葉	現地	図V-1-2		
	VF-4	S74ab	0.50	0.26	—	—	0.02	晚期中葉	現地	図V-1-2		
	VF-5	T73a	0.30	0.26	—	—	0.02	晚期中葉	廢棄	図V-1-3		
	VF-6	R67c/S67d	0.64	0.54	—	—	0.02	晚期中葉	廢棄	図V-1-3		
	VF-7	R68b	0.40	0.30	—	—	0.02	晚期中葉	廢棄	図V-1-3		
	VF-8	R68c	0.56	0.40	—	—	0.04	晚期中葉	現地	図V-1-3		
	VF-9	T75a	0.36	0.10	—	—	—	晚期中葉	廢棄	図V-1-2		

表2 遺構出土遺物一覧

造構名	層位	遺物名	分類	石材	点数	造構名	層位	遺物名	分類	石材	点数
VF-1	V	土器	V群b類		261	VF-5	V	剥片	剥片	黒曜石	1
		剥片	石器	黒曜石	1						合計 1
		剥片	剥片	黒曜石	2439	VF-6	V	土器	V群b類		14
					合計 2701			剥片	剥片	黒曜石	26
VF-2	V	土器	V群b類		52	VF-7	V	剥片	剥片	黒曜石	2
		剥片	石器	黒曜石	2						合計 2
		剥片	剥片	黒曜石	246	VF-8	V	土器	V群b類		297
					合計 300			剥片	剥片	黒曜石	2
VF-3	V	土器	V群b類		11	VF-9	V	土器	V群b類		46
		土製品	燒成粘土壤		96			剥片	剥片	黒曜石	64
		剥片	石器	黒曜石	1						合計 110
		剥片	剥片	黒曜石	785						5236
VF-4	V				合計 892						
		土器	V群b類		877						
		剥片	剥片	黒曜石	14						
					合計 891						

表3 遺構出土揭露土器一覧

図番号	造構名	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	国版番号	備考
図V-2-1-1	VF-1	VF-1・3×2	V	口縁部	Vb		
図V-2-1-2	VF-2	VF-2・2×3	V	口縁部	Vb		
図V-2-1-3 b	VF-2	VF-2・3×3	V	口縫部	Vb	図版89	同一個体
		VF-2・3×6		口縫～胴部			
図V-2-1-4	VF-3	VF-3・2×3	V	口縫部	Vb		

表4 遺構出土掲載石器一覧

図番号	造構名	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	国版番号	備考
図V-2-2-1	VF-1	5	V	石器	(1.6)	1.1	0.3	0.5	黒曜石	図版94	有茎 被熱
図V-2-2-1	VF-2	5	V	石器	(1.6)	1.0	0.2	0.2	黒曜石	図版94	有茎 被熱
図V-2-2-2	VF-2	6	V	石器	(1.3)	1.1	0.3	0.4	黒曜石	図版94	有茎
図V-2-2-1	VF-3	1	V	スクレイパー	3.6	(2.4)	1.2	9.6	黒曜石	図版94	被熱

表5 包含層出土揭露土器一覧

図番号	検査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図V-3-1-1	S66-5×14, S-66-6×1、 S67-5×6	V 計21	復元土器(口縁～脚部)	Vb	図版33	
図V-3-1-2	R74-1×36	V	復元土器(口縁～脚部)	Vb		
図V-3-2-3	T76-2×2	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-4	S67-5×3	V	口縁～脚部	Vb		
図V-3-2-5	a. S67-5×4 b. S67-4×1, S-67-5×4	V 計15	口縁～脚部	Vb		同一個体
図V-3-2-6	S67-5×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-7	T67-4×1	V	脚部	Vb		
a. R74-1×1		口縁部				
図V-3-2-8	b. R74-1×2 c. R74-1×3	V	脚部 底部	Vb		同一個体
図V-3-2-9	a. R67-1×1 b. R67-1×2	V	口縁部	Vb		同一個体
図V-3-2-10	R74-1×6, S-74-7×2	計18	口縁～脚部	Vb	図版34	
図V-3-2-11	a. R67-1×2 b. S68-2×1	V	脚部	Vb		同一個体
図V-3-2-12	T74-5×4	V	口縁～脚部	Vb		
図V-3-2-13	S74-4×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-14	T72-4×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-15	T68-2×2	V	口縁～脚部	Vb		
図V-3-2-16	T74-3×6	V	口縁～脚部	Vb		
図V-3-2-17	S67-5×1	V	口縁部	Vb		
図V-3-2-18	T71-1×1	V	口縁～底部	Vb		

表6 包含層出土揭露石器一覧

図番号	検査区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図V-3-3-1		S74	2	V	石鎚	(2.1)	1.2	0.4	0.6	黒曜石	図版94 有茎
図V-3-3-2		S67	3	V	石鎚	2.2	1.3	0.3	0.8	黒曜石	図版94 有茎
図V-3-3-3		S73	9	V	石鎚	(2.7)	1.2	0.4	0.8	黒曜石	図版94 有茎
図V-3-3-4		S67	4	V	石鎚	2.1	1.2	0.4	0.6	黒曜石	図版94 有茎
図V-3-3-5		R74	2	V	スクレイパー	2.9	2.7	0.8	6.2	黒曜石	図版94
図V-3-3-6		T74	2	V	スクレイバー	2.9	2.6	0.8	5.5	黒曜石	図版94
図V-3-3-7		T74	3	V	スクレイバー	3.5	2.9	0.7	5.8	黒曜石	図版94
図V-3-3-8		T67	9	V	スクレイバー	6.9	2.7	1.0	17.2	頁岩	図版94
図V-3-3-9		T73	6	V	石斧	8.7	3.1	1.3	58.5	緑色泥岩	図版94
図V-3-3-10		R68	1	V	石斧	(10.2)	4.9	1.1	93.2	緑色泥岩	図版94
図V-3-3-11		R70	1	V	すり石	(12.6)	8.6	6.8	778.0	砂岩	図版94 断面三角形

表7 土壌フローテーション成果一覧

遺伝名	地図番号	炭化物重量g		網子 重量g	合 重量g	土鉢 重量g	土器 重量g	土製品 重量g	石器 重量g	磨擦石 重量g	剥片 重量g	磨擦石 その他の 剥片	その他 剥片 点数/点	備考		
		2.0m	0.425mm													
VF-1	20-1	31.9	4.3	7.8	1.5	106.3	56.2	115	なし	なし	16.9	1,627	なし	堅果0.6g カワシングルガイ3.1g		
VF-1	20-2	3.2	0.3	0.4	なし	50.0	44.7	47	なし	なし	14.0	794	なし	堅果1.6g/0.5g 網片16.8g/1.6g	堅果0.1g カワシングルガイ0.0g	
VF-2	20-3	4.8	11.7	0.2	0.1	15.3	8.1	14	なし	なし	2.6	220	なし	堅果0.1g 網片15.8g/1.6g	堅果0.1g カワシングルガイ0.0g	
VF-2	20-4	0.7	0.4	0.1	なし	0.5	なし	なし	なし	なし	0.2	22	なし			
VF-3	20-5	5.3	1.2	0.3	0.0	291.1	25.2	11	18.6	なし	6.2	785	なし	地或粘土塊35块/18.6g	堅果0.6g カヤツリグサ(3) カワシングルガイ0.0g	
VF-4	20-6	6.9	1.6	0.0	0.0	0.2	52.8	695	なし	なし	0.0	12	なし		不明(2)	
VF-4	20-7	6.4	1.4	0.0	0.0	0.1	36.1	178	なし	なし	0.0	2	なし		シソ科(1)カラシソウ(2) 不明(100%)	
VF-5	20-8	0.4	0.4	0.0	0.0	0.6	なし	なし	なし	なし	0.0	1	なし		種子 不明(1)(1) 尾虫(1片)	
VF-6	20-9	1.1	0.4	0.0	0.0	なし	15.5	12	なし	なし	5.7	25	なし		種子 不明(1)(1片)	
VF-7	20-10	6.8	0.3	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	2	なし			
VF-8	20-11	0.3	0.2	0.0	なし	なし	49.7	177	なし	なし	なし	なし	なし			
VF-9	20-12	2.4	0.7	0.0	0.0	18.5	39.5	46	なし	なし	0.5	64	なし		カワシングルガイ0.0g	
	TF5	20-14	4.4	1.2	0.1	なし	22.4	1.9	4	なし	なし	0.3	26	なし		カワシングルガイ0.1g

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果について

平成19年度に当財団が株式会社加速器分析研究所に委託し、年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果 報告書」を掲載する。報告書中の測定結果については、今回報告するV層の測定結果9点について抜き出して掲載している。測定の対象となった試料IAAA-72173～72177・72180～72182・72184の採取位置などについては表1のとおりである。

測定試料は、堅穴住居跡や土坑から採取された炭化物である。各遺構の形成年代を把握することを目的として測定を依頼した。

測定結果については、現場での観察結果および整理段階での検討結果と、今回の測定数値におおきな乖離は見られなかった。

縄文時代前期後半を想定していたVH-2・VH-6は4,489～4,537yrBP、後期前葉を想定していたVH-7・VP-10は3,490～3,528yrBP、後期中葉～後葉を想定していたVH-11・VP-39・VP-42は3,218～3,407yrBPという数値を得た。これらについては、おおよそ想定した年代ごとにまとまった数値となっており、数値自体もこれまでの年代観に対して異論を挟むものではないと考えられる。また、各遺構から出土する遺物や周囲から出土する遺物とも矛盾しない。(酒井)

表VI-1-1 放射性炭素年代測定試料一覧

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	層年較正用 (yrBP・丸め込みなし)	層年較正1σ (yrcalBP)	層年較正2σ (yrcalBP)
No.9	炭化物	VH-2	HP-23 坑底	IAAA-72173	AAA	4537±37	3360-3320BC(18.3%) 3280-3260BC(0.8%) 3240-3110BC(49.2%)	3370-3260BC(35.1%) 3250-3090BC(60.3%)
No.10	炭化物	VH-6	HP-1 覆土 4層	IAAA-72174	AAA	4489±35	3340-3260BC(29.0%) 3250-3110BC(14.2%) 3190-3150BC(12.5%) 3130-3090BC(12.1%)	3350-3080BC(91.8%) 3060-3030BC(3.6%)
No.11	炭化物	VH-7	HF-1 覆土	IAAA-72175	AAA	3490±31	1880-1760BC(68.2%)	1900-1730BC(94.3%) 1710-1690BC(1.1%)
No.12	炭化物	VH-7	HF-1 覆土	IAAA-72176	AAA	3528±31	1920-1870BC(28.1%) 1850-1770BC(40.1%)	1940-1750BC(95.4%)
No.13	炭化物	VH-11	床面付近	IAAA-72177	AAA	3407±32	1750-1660BC(68.2%)	1870-1840BC(3.0%) 1780-1610BC(92.4%)
No.16	炭化物	VP-10	覆土	IAAA-72180	AAA	3523±31	1990-1860BC(20.2%) 1850-1770BC(48.0%)	1940-1750BC(95.4%)
No.17	炭化物	VP-39	覆土	IAAA-72181	AAA	3344±30	1690-1600BC(61.6%) 1570-1560BC(4.2%) 1550-1540BC(2.4%)	1740-1710BC(2.9%) 1700-1520BC(92.5%)
No.18	炭化物	VP-42	覆土	IAAA-72182	AAA	3218±31	1515-1445BC(68.2%)	1610-1580BC(2.6%) 1540-1410BC(92.8%)
No.20	炭化物		V層	IAAA-72184	AAA	3287±33	1610-1520BC(68.2%)	1670-1650BC(1.4%) 1640-1490BC(94.0%)

祝梅川小野遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

祝梅川小野遺跡は、北海道千歳市祝梅485番地2ほか（北緯42°49'51"、東経141°41'52"）に所在する。測定対象試料は、祝梅川小野遺跡から出土した炭化物9点である。

2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際に遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

4 測定方法

測定機器は、(株)加速器分析研究所の¹⁴C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹⁴C/¹³Cの測定も同時に行う。

5 算出方法

年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する。¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として過る年代である。この値は、δ¹⁴Cによって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰; パーミル)で表される。δ¹⁴Cは、試料

炭素の¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを計算する。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により¹⁴C/¹²Cを測定した場合には表中に（加速器）と注記する。また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるときの¹⁴C濃度に換算した上で計算した値である。pMC (percent Modern Carbon) は、¹⁴C濃度の現代炭素に対する割合を示す。

年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値を暦年較正年代という。暦年較正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下桁を四捨五入していない¹⁴C年代値である。

6 測定結果

¹⁴C年代は、VH-2では、HP-23坑底の炭化物が 4540 ± 40 yrBP (No.9 : IAAA-72173) である。VH-6では、HP-1覆土4層の炭化物が 4490 ± 40 yrBP (No.10 : IAAA-72174) である。VH-7では、HF-1覆土の炭化物が 3490 ± 30 yrBP (No.11 : IAAA-72175) と 3530 ± 30 yrBP (No.12 : IAAA-72176) である。VH-11では、床面付近の炭化物が 3410 ± 30 yrBP (No.13 : IAAA-72177) である。VP-10覆土の炭化物は 3520 ± 30 yrBP (No.16 : IAAA-72180)、VP-39覆土の炭化物が 3340 ± 30 yrBP (No.17 : IAAA-72181)、VP-42覆土の炭化物が 3220 ± 30 yrBP (No.18 : IAAA-72182) である。包含層V層出土の炭化物が 3290 ± 30 yrBP (No.20 : IAAA-72184) である。

暦年較正年代 ($1\sigma = 68.2\%$) は、No.9が $3360 \sim 3110$ BC、No.10が $3340 \sim 3090$ BC、No.11が $1880 \sim 1760$ BC、No.12が $1920 \sim 1770$ BC、No.13が $1750 \sim 1665$ BC、No.16が $1900 \sim 1770$ BC、No.17が $1690 \sim 1540$ BC、No.18が $1515 \sim 1445$ BC、No.20が $1610 \sim 1520$ BCに含まれる。

試料の炭素含有率は十分であり、化学処理および測定内容にも問題がないことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

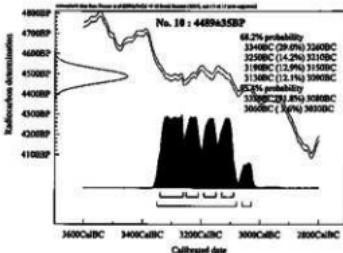
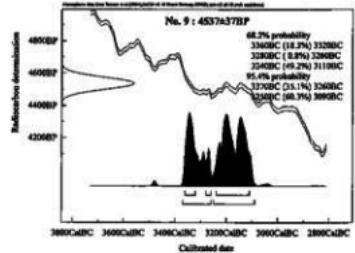
IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比	
IAAA-72173 #2040-9	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-2 HP-23坑底	Libby Age (yrBP) : 4,540 ± 40	
	試料形態 : 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.94 ± 0.65	
	試料名(番号) : No. 9	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -431.5 ± 2.7	
	(参考)	pMC (%) = 56.85 ± 0.27	
	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -433.8 ± 2.5	
		pMC (%) = 56.62 ± 0.25	
		Age (yrBP) : 4,570 ± 40	
IAAA-72174 #2040-10	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-6・HP-1覆土4層	Libby Age (yrBP) : 4,490 ± 40	
	試料形態 : 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.66 ± 0.32	
	試料名(番号) : No. 10	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -428.1 ± 2.5	
	(参考)	pMC (%) = 57.19 ± 0.25	
	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -431.3 ± 2.5	
		pMC (%) = 56.87 ± 0.25	
		Age (yrBP) : 4,530 ± 40	
IAAA-72175 #2040-11	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-7・HF-1覆土	Libby Age (yrBP) : 3,490 ± 30	
	試料形態 : 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.99 ± 0.83	
	試料名(番号) : No. 11	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -352.4 ± 2.5	
	(参考)	pMC (%) = 64.76 ± 0.25	
	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -353.7 ± 2.3	
		pMC (%) = 64.63 ± 0.23	
		Age (yrBP) : 3,510 ± 30	
IAAA-72176 #2040-12	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-7・HF-1覆土	Libby Age (yrBP) : 3,530 ± 30	
	試料形態 : 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.58 ± 0.56	
	試料名(番号) : No. 12	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -355.5 ± 2.5	
	(参考)	pMC (%) = 64.45 ± 0.25	
	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -357.6 ± 2.4	
		pMC (%) = 64.24 ± 0.24	
		Age (yrBP) : 3,550 ± 30	
IAAA-72177 #2040-13	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VH-11 床面付近	Libby Age (yrBP) : 3,410 ± 30	
	試料形態 : 炭化物	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.09 ± 0.86	
	試料名(番号) : No. 13	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -345.7 ± 2.6	
	(参考)	pMC (%) = 65.43 ± 0.26	
	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -347.1 ± 2.4	
		pMC (%) = 65.29 ± 0.24	
		Age (yrBP) : 3,430 ± 30	

IAA

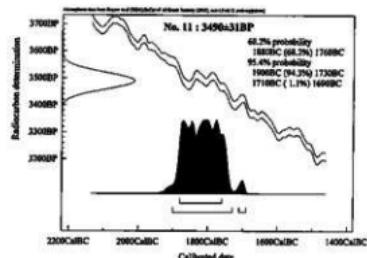
IAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72180 #2040-16	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-10 覆土 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 16	Libby Age (yrBP) : 3,520 ± 30 $\delta^{14}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -22.42 ± 0.88 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -355.1 ± 2.6 pMC (‰) = 64.49 ± 0.26
	(参考)	$\delta^{14}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -351.7 ± 2.3 pMC (‰) = 64.83 ± 0.23 Age (yrBP) : 3,480 ± 30
	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-39 覆土 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 17	Libby Age (yrBP) : 3,340 ± 30 $\delta^{14}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.14 ± 0.61 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -340.6 ± 2.5 pMC (‰) = 65.94 ± 0.25
	(参考)	$\delta^{14}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -338 ± 2.4 pMC (‰) = 66.2 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,310 ± 30
	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 VP-42 覆土 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 18	Libby Age (yrBP) : 3,220 ± 30 $\delta^{14}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27 ± 0.5 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -330.2 ± 2.6 pMC (‰) = 66.98 ± 0.26
	(参考)	$\delta^{14}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -332.9 ± 2.5 pMC (‰) = 66.71 ± 0.25 Age (yrBP) : 3,250 ± 30
IAAA-72184 #2040-20	試料採取場所 : 日本国北海道千歳市祝梅485番地2ほか 祝梅川小野遺跡 V層 試料形態 : 炭化物 試料名(番号) : No. 20	Libby Age (yrBP) : 3,290 ± 30 $\delta^{14}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.72 ± 0.74 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -335.9 ± 2.8 pMC (‰) = 66.41 ± 0.28
	(参考)	$\delta^{14}\text{C}$ の補正無し
		$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -334.1 ± 2.6 pMC (‰) = 66.59 ± 0.26 Age (yrBP) : 3,270 ± 30

【参考値：腐年較正 Radiocarbon determination】

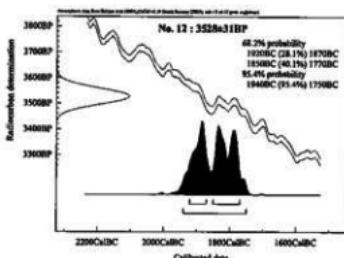
【参考値：腐年較正 Radiocarbon determination】



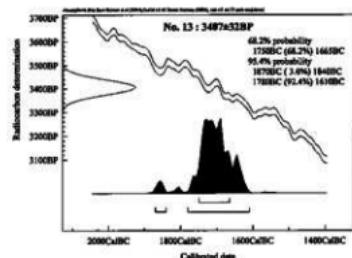
[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



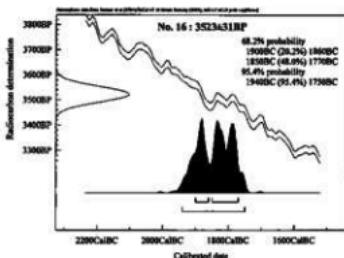
[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



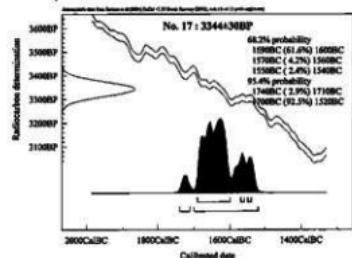
[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



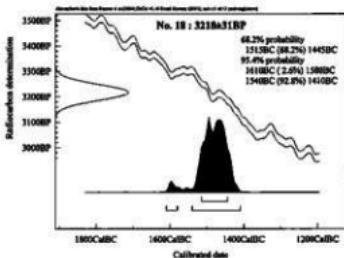
[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



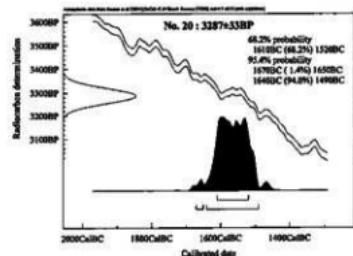
[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



[参考値：断年校正 Radiocarbon determination]



使用プログラム - OxCal - v3.10

2 祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析

平成19年度に当財団が株式会社第四紀地質研究所に委託した、土器・粘土塊の胎土分析の成果として提出された「祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析（報告書）」を掲載する。

今回分析の対象となった試料62点の内容については表VI-2-1・2に示した。対象試料1~62は、いずれも祝梅川小野遺跡の遺構や包含層より出土した土器・粘土塊・盤状粘土塊を抽出したものである。1~18が粘土塊・盤状粘土塊、19~62が縄文時代前期～後期の土器片で、一部はIV章でも実測図を掲載している（4~8・14・15・18・22・38・39・49・50）。土器片については拓影図を掲載した。

盤状粘土塊はその形状やV P-15・17・21における出土状況などから、土器製作に関わる遺物と推測している。また、V H-17でII群b類土器と共に、包含層での出土分布が重なることから、縄文時代前期後半のものが多いと考えられる。今回の分析の目的は、盤状粘土塊と主に縄文時代前期後半の土器（大麻V式・円筒土器下層d式）、これ以外に周辺で出土している中期・後期の土器の胎土を分析・比較することにより、遺跡内における土器製作技術の変遷と時期を探ることである。

分析の結果では、盤状粘土塊とII群b類土器が同じ組成分類に偏るということはなかった。盤状粘土塊は大麻V式・円筒土器下層d式以外の、北筒式・タブコブ式・ウサクマイC式・籠潤式・堂林式などとも対比された。各土器型式は胎土の組成が多種にわたり分散する傾向が見られる。一方、盤状粘土塊と粘土塊のみの組成分類で、土器型式との関連性が認められないものもある。これらの盤状粘土塊が土器原材粘土の規格をそろえて貯蔵したものであるとすると、今回の試料は「使用されなかつたもの」であり、同一の組成の土器が存在しないことになる。分析結果から、縄文時代前期～後期の各時期、複数の胎土種類が存在した可能性がある。これが粘土採取地の違いを反映したものは不明であるが、異なる時期でもほぼ同じ組成の胎土を使用することもあったのではないか。この生地としての粘土を加工して土器を製作する技術（混和材や焼成温度など）が次第に変化し、各土器型式の胎土組成を複雑化していったと考えられる。

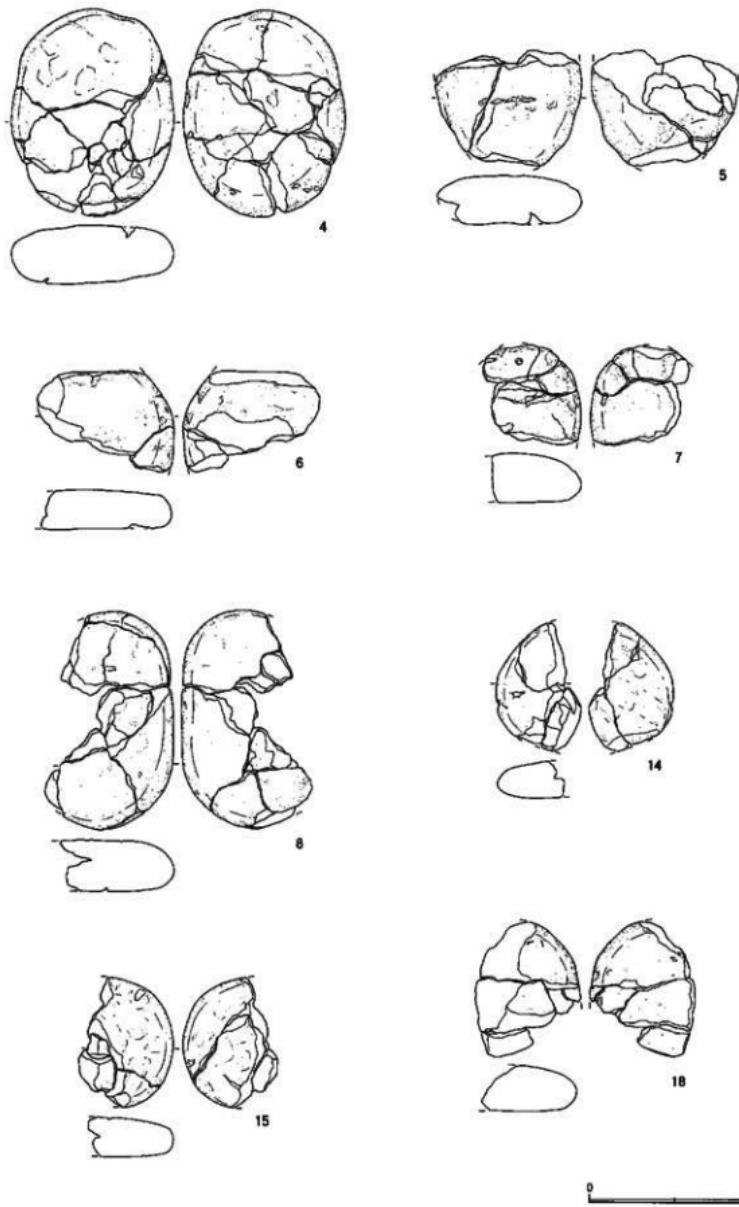
(芝田)

表VI-2-1 胎土分析依頼試料一覧(1)

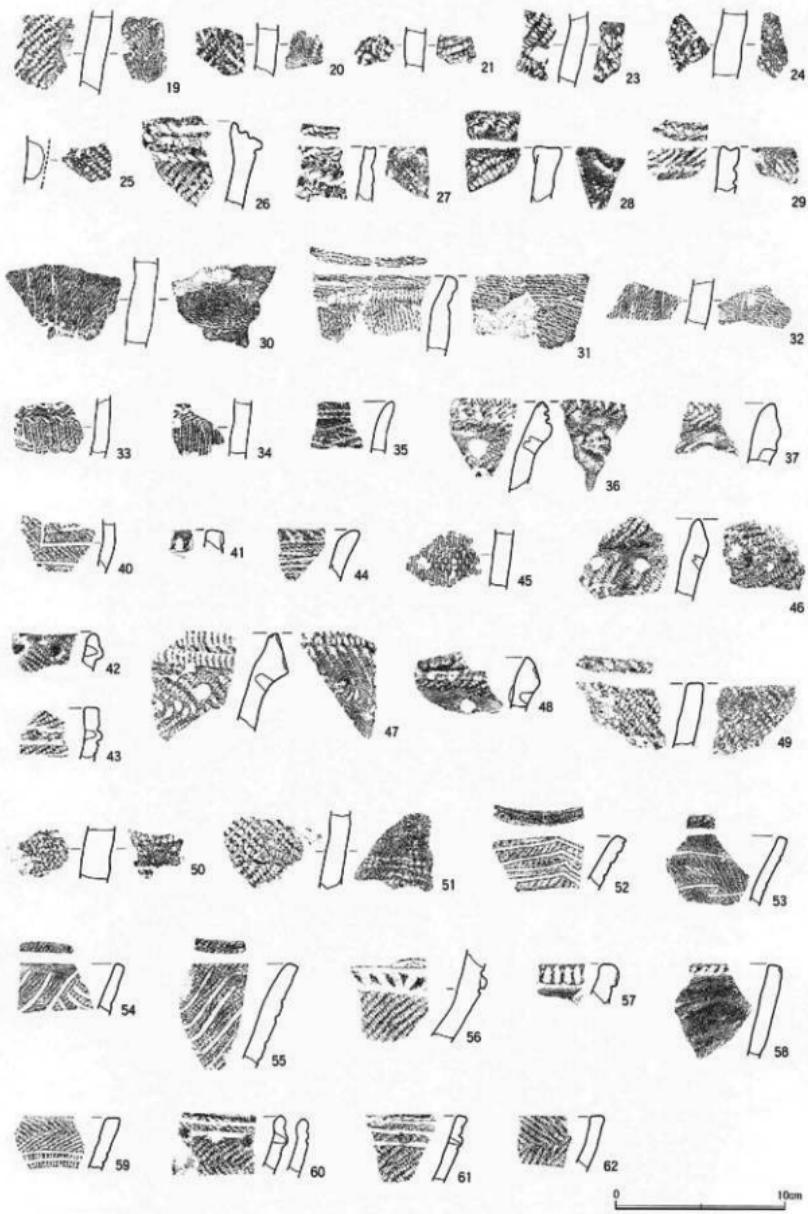
試料番号	遺構番号・調査区	遺物番号	層位	試 料	部 位	分 類	型 式	備 考
1	V P - 8	16 b	覆土	粘土塊				
2	V P - 11	58	覆土	粘土塊				
3	V P - 15	6	覆土	盤状粘土破片				
4	V P - 15	18	覆土	盤状粘土破片				ほぼ完形に接合
5	V P - 15	21	覆土	盤状粘土破片				3/4接合・細かく割れている
6	V P - 15	22	覆土	盤状粘土破片				2個体のうち1点・1/2残
7	V P - 17	5	覆土	盤状粘土破片				1/4残
8	V P - 17	8	覆土	盤状粘土破片				4/5接合
9	V P - 17	12	覆土	盤状粘土破片				小片多数・接合不可
10	V P - 20	8	覆土	粘土塊				小片
11	V P - 21	4	覆土	盤状粘土破片				1/4残
12	I 23	17	V層	盤状粘土破片				小片
13	J 17	1	V層	盤状粘土破片				1/6残
14	F 24	13	VI層	盤状粘土破片				小型 1/2残
15	O 24	11	VI層	盤状粘土破片				小型 1/2残
16	F 26	4	V層	粘土塊				2・3 cmの粘土塊多数
17	L 13	5	V層	粘土塊				やや小型 2/3残
18	O 23	10	V層	粘土塊				

表VI-2-2 地下分析依頼試料一覧(2)

試料番号	遺構番号・調査区	遺物番号	層位	試料	部位	分類	型式	備考
19	VH-4	47	覆土	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	内面繩文
20	VH-4	86	覆土	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	内面繩文
21	VH-5	113	覆土4	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	
22	VH-5	139	床面	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	復元土器と同じ・破片多數
23	VH-10	5	覆土	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	内面繩文
24	VH-10	2	覆土	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	内面繩文
25	VP-23	3	覆土	土器片	肩部	II b - 2	大麻V式	内面繩文・表面剥落
26	L14	9	V層	土器片	口縁	II b - 2	大麻V式	口唇施文・繩線2条
27	P13	10	V層	土器片	口縫	II b - 2	大麻V式	口唇施文・繩線2条・内面繩文
28	H21	5	V層	土器片	口縁	II b - 2	大麻V式	口唇施文・内面繩文・繩文1条
29	H19	2	V層	土器片	口縫	II b - 2	大麻V式	口唇施文・内面繩文・繩文1条
30	J27	1	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	撚糸文・内面横線
31	L24	11	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	撚糸文・絆条件压痕
32	G22	7	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	撚糸文・内面も地文
33	L26	2	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	繩紋
34	K21	8	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	
35	F27	6	V層	土器片	口縁	II b - 3	円筒土器下層d式	
36	O14	4	V層	土器片	口縫	III b - 3	北窓式	
37	J7	4	V層	土器片	口縫	III b - 3	北窓式	
38	VH-7・HF-1	3	床面	土器片	肩部	IV a - 2	タブコブ式	土器囲炉の土器と同じ
39	VH-7・HF-1	6	床面	土器片	肩部	IV a - 2	タブコブ式	土器囲炉の土器と同じ
40	M6	3	V層	土器片	肩部	IV b - 1	ウサクマイC式	沈線・磨消繩文
41	I7	5	V層	土器片	口縫	IV b - 3	沈綱式	口縫・沈綱+刻み
42	I5	28	V層	土器片	口縫	IV c - 1	堂林式	口縫・沈綱+刻み
43	I3	8	V層	土器片	口縫	IV c - 1	堂林式	口縫・突瘤文
44	I23	12	V層	土器片	口縫	IV b - 3	円筒土器下層d式	
45	J24	1	V層	土器片	肩部	II b - 3	円筒土器下層d式	多軸糸条体
46	O7	5	V層	土器片	口縫	III b - 3	北窓式	
47	Q12	5	V層	土器片	口縫	III b - 3	北窓式	
48	P5	4	V層	土器片	口縫	III b - 3	北窓式	突起部か
49	VH-5・HF-1	102	覆土3	土器片	口縫	IV a - 2	タブコブ式	土器囲炉の土器と同じ
50	VH-5・HF-1	65	覆土4上面	土器片	肩部	IV a - 2	タブコブ式	土器囲炉の土器と同じ
51	R28	1	V層	土器片	肩部	IV a - 2	タブコブ式	内面繩文
52	I7	5	V層	土器片	口縫	IV b - 1	ウサクマイC式	口縫施文
53	J5	12	V層	土器片	口縫	IV b - 1	ウサクマイC式	口唇施文
54	J7	8	V層	土器片	口縫	IV b - 1	ウサクマイC式	口唇施文
55	E28	4	V層	土器片	口縫	IV b - 1	ウサクマイC式	口唇施文
56	P16	1	V層	土器片	口縫	IV b - 3	沈綱式	刻み
57	I7	5	V層	土器片	口縫	IV b - 3	沈綱式	刻み
58	I7	9	V層	土器片	口縫	IV b - 3	沈綱式	刻み無文部・口唇角刻み
59	I17	30	V層	土器片	口縫	IV b - 3	沈綱式	刻み
60	G5	10	V層	土器片	口縫	IV c - 1	堂林式	突瘤文
61	I4	10	V層	土器片	口縫	IV c - 1	堂林式	突瘤文
62	L3	8	V層	土器片	口縫	IV c - 1	堂林式	



図VI-2-1 対象試料(1)



図VI-2-2 対象試料（2）

祝梅川小野遺跡出土土器等の胎土分析(報告書)

地質研究所 井上 嶽

1 X線回折試験及び化学分析試験の実験条件

(1) 試料

分析に供した試料は表VI-2-3・4:胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

(2) X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計測時間: 0.5秒。

(3) 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素を行った。

2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は表VI-2-3・4:胎土性状表に示す通りである。表の右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織を、左側には各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度である。

(1) 組成分類

a. Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

図VI-2-3に示すように三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。モンモリロナイトはMont/(Mont+Mica+Hb)*100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は図VI-2-3に示す通りである。

b. Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイヤグラム

図VI-2-4に示すように菱形ダイヤグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、ア) 3成分以上含まれない、イ) Mont, Chの2成分が含まれない、ウ) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある1～7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は図VI-2-4に示すとおりである。

(2) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて SiO_2 - Al_2O_3 図、 Fe_2O_3 - TiO_2 図、 K_2O - CaO 図を作成した。これらの図とともに、土器類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果

(1) タイプ分類

表VI-2-3・4：胎土性状表には祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土とが記載してある。表VI-2-7：タイプ分類表に示すように土器と原土はA～Jの10タイプが検出された。

Aタイプ：Hb, Chの2成分を含み、Mont, Micaの2成分に欠ける。

Bタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Eタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

組成的にはCタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Fタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

組成的にはDタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Gタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける。

Hタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, HB, Chの3成分に欠ける。

Iタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。

Jタイプ：Ch 1成分を含み、Mont, Mica, HB, Chの3成分に欠ける。

祝梅川小野遺跡の出土土器はA～Jの10タイプすべてが検出され多種にわたる。表VI-2-7：タイプ分類表に示すように、Iタイプが22個で最も多く、次いでBとFタイプの各10個、Hタイプの8個、A・C・D・E・G・Jタイプの各2個である。

(2) 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相關について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して葉地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくる。

図VI-2-7：Qt-P1図に示すように、Qtの強度が小の領域から大の領域にかけて6グループと“その他”に分類された。

- Qt 1 : Qtが90～190、Plが250～550の領域に分布する。
 Qt 2 : Qtが530～900、Plが150～750の領域に分布する。
 Qt 3 : Qtが700～1200、Plが150～1000の領域に分布する。
 Qt 4 : Qtが1200～1800、Plが130～800の領域に分布する。
 Qt 5 : Qtが1800～2650、Plが250～800の領域に分布する。
 Qt 6 : Qtが1400～1750、Plが1100～1550の領域に分布する。
 "その他"：祝梅川小野-46はPlの値が2777と高く異質である。

4 化学分析結果

表VI-2-5・6：化学分析表には祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土とが記載してある。分析結果に基づいて図VI-2-8: SiO_2 - Al_2O_3 図、図VI-2-9: Fe_2O_3 - TiO_2 図、図VI-2-10: K_2O - CaO 図を作成した。

(1) SiO_2 - Al_2O_3 の相関について

図VI-2-8: SiO_2 - Al_2O_3 図を基準として、祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土はI～VIの6タイプに分類した。

- タイプ I : SiO_2 が36～43%、 Al_2O_3 が38～40%の領域に分布する。
 タイプ II : SiO_2 が44～52%、 Al_2O_3 が30～40%の領域に分布する。
 タイプ III : SiO_2 が50～62%、 Al_2O_3 が18～33%の領域に分布する。
 タイプ IV : SiO_2 が63～69%、 Al_2O_3 が19～24%の領域に分布する。
 タイプ V : SiO_2 が76～79%、 Al_2O_3 が11～16%の領域に分布する。
 タイプ VI : SiO_2 が36～37%、 Al_2O_3 が28～29%の領域に分布する。

(2) Fe_2O_3 - TiO_2 の相関について

図VI-2-9: Fe_2O_3 - TiO_2 図に示すように、 Fe_2O_3 の領域によって4グループに細分された。

- Fe_2O_3 -1 : Fe_2O_3 が4.0～11%、 TiO_2 が0.5～1.7%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -2 : Fe_2O_3 が10.5～15.5%、 TiO_2 が0.7～1.8%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -3 : Fe_2O_3 が17.5～19.5%、 TiO_2 が1.0～1.5%の領域に分布する。
 Fe_2O_3 -4 : Fe_2O_3 が25～26%、 TiO_2 が2.0～3.0%の領域に分布する。

(3) K_2O - CaO の相関について

図VI-2-10: K_2O - CaO 図に示すように K_2O の値によって4グループと"その他"に分類した。

- K_2O -1 : K_2O が0～1.5%、 CaO が0.1～1.7%の領域に分布する。
 K_2O -2 : K_2O が1.5～2.4%、 CaO が0～1.9%の領域に分布する。
 K_2O -3 : K_2O が2.5～3.1%、 CaO が0.5～1.3%の領域に分布する。
 K_2O -4 : K_2O が3.8～4.0%、 CaO が0.6～1.0%の領域に分布する。
 "その他"：祝梅川-39は CaO が4.58%と高く異質である。

5まとめ

X線回折試験と螢光X線分析の結果に基づいて、祝梅川小野遺跡より出土した土器と粘土塊・盤状粘土を表VI-2-7:タイプ分類表、および表VI-2-8・9:組成分類表に示すように分類した。

- 1) 土器胎土はA~Jの10タイプに分類された。表VI-2-7:タイプ分類表に示すように、祝梅川小野遺跡の出土土器はA~Jの10タイプすべてが検出され多種にわたる。最も多いのはIタイプの22個、次いでB・Fタイプの各10個、Hタイプの8個、A・C・D・E・G・Jタイプの各2個である。
- 2) 図VI-2-7:Qt-P1図に示すように、Qtの強度が小さい領域~大きい領域にかけて6グループと"その他"に分類された。
- 3) 表VI-2-8・9:組成分類表に示すように、土器と粘土のX線回折試験と化学分析の結果に基づいて図VI-2-7:Qt-P1図、図VI-2-8:SiO₂-Al₂O₃図、図VI-2-9:Fe₂O₃-TiO₂図、図VI-2-10:K₂O-CaO図を作成し、各相関により分類したもので組成分類をおこなった。
A:「① タイプI・Qt1・Fe₂O₃-3」、「② タイプI・Qt2・Fe₂O₃-2」、「③ タイプII・Qt2・Fe₂O₃-1」、「⑧ タイプIII・Qt2・Fe₂O₃-1」、「⑨ タイプIII・Qt2・Fe₂O₃-2」、「⑩ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-3」、「⑫ タイプIV・Qt1・Fe₂O₃-4」の7タイプは粘土塊あるいは盤状粘土破片で組成的に土器と対比されるものはない。
B:「⑪ タイプIII・Qt3・Fe₂O₃-1」が13個で最も多く検出された。祝梅川-12・14の盤状粘土破片と祝梅川-22・28の大麻V式、30・32・34の円筒土器下層d式、38・50・51のタブコブ式、53のウマクサイC式、61・62の堂林式の土器が同じ組成を示す。
C:「⑫ タイプIII・Qt4・Fe₂O₃-1」は8個検出され、祝梅川-13の盤状粘土破片と祝梅川-29の大麻V式、35の円筒土器下層d式、36・48の北筒式、42・43の堂林式、59の続洞式の土器が同じ組成を示す。
D:「⑬ タイプIII・Qt4・Fe₂O₃-2」は4個検出され、祝梅川-9の盤状粘土破片と祝梅川-39のタブコブ式、40のウマクサイC式、41の続洞式の土器が同じ組成を示す。
E:「⑭ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-1」は4個検出され、祝梅川-19・24の大麻V式、57の続洞式、60の堂林式の土器が同じ組成を示す。
F:「⑮ タイプIII・Qt3・Fe₂O₃-2」は3個検出され、祝梅川-18の粘土塊と祝梅川-21の大麻V式、37の北筒式の土器が同じ組成を示す。
G:「⑯ タイプIII・Qt5・Fe₂O₃-2」は3個検出され、祝梅川-54・55のウマクサイC式、58の続洞式の土器が同じ組成を示す。
H:「⑭ タイプII・Qt3・Fe₂O₃-2」は2個検出され、祝梅川-33・45の円筒土器下層d式の土器が同じ組成を示す。
I:「⑰ タイプIV・Qt5・Fe₂O₃-1」は2個検出され、祝梅川-27の大麻V式と祝梅川-31の円筒土器下層d式の土器が同じ組成を示す。
J:⑤~⑦、⑪~⑬、⑭~⑯の各タイプは各々1個が1タイプとして独立しており、多種にわたる。これらの傾向は大麻V式土器で多く見られる。
- 4) 祝梅川小野遺跡の粘土塊と盤状粘土破片、土器との関係は複雑で、分析した粘土関連のものはそのほとんどが土器と対比されるものがない。しかし、土器と直接関連する粘土塊と盤状粘土破片があり、これらはQt-P1相関でも化学組成でも類似性が高く関連性が認められる。
- 5) 大麻V式土器は胎土の組成が多種にわたり分散する傾向が強い。

表 VI-2-3 地土性状表 (1)

試料 No.	タイプ No.	地土試験名及び測定物												試 料 No.	分類 式	地 質 名
		水 質	Na Mg Ca Mg/Ca Al Mg/Ca Al	He O/H He/H He/H	Cl/H Cl/H Cl/H Cl/H	Na/H Na/H Na/H Na/H	K/H K/H K/H K/H	Hg/H Hg/H Hg/H Hg/H	As/H As/H As/H As/H	Pb/H Pb/H Pb/H Pb/H	Au Au Au Au					
板橋川-1	B	5	20			69		677	285	180			粘土塊			
板橋川-2	I	14	20			191	405						粘土塊			
板橋川-3	F	7	20			80	64	893	304	228			無灰狀土樣片			
板橋川-4	F	7	20			105	85	823	303	225			無灰狀土樣片			
板橋川-5	F	7	20			107	75	766	419	198			無灰狀土樣片			
板橋川-6	F	7	20			87	77	773	239	94			無灰狀土樣片			
板橋川-7	F	7	20			97	84	863	420	123			無灰狀土樣片			
板橋川-8	H	8	20			94		802	374	125			無灰狀土樣片			
板橋川-9	H	8	20			165		1667	501	79			無灰狀土樣片			
板橋川-10	I	14	20					534	257	109			粘土塊			
板橋川-11	I	14	20					833	353	106			無灰狀土樣片			
板橋川-12	I	14	20					945	282	129			無灰狀土樣片			
板橋川-13	D	6	20			100	123	1561	945	107			無灰狀土樣片			
板橋川-14	I	14	20					897	226	167			無灰狀土樣片			
板橋川-15	F	7	20			84	60	2219	392	54			無灰狀土樣片			
板橋川-16	I	14	20					122	412	51			粘土塊			
板橋川-17	I	14	20					94	421	56			粘土塊			
板橋川-18	I	14	20					1084	526	122			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-19	I	14	20					2254	491	89			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-20	B	5	20					861	1475	155			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-21	I	14	20					745	465	208			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-22	F	7	20			104	76	943	271	105			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-23	B	5	20			90		1084	1104	126			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-24	F	7	20			101	75	2356	765	71			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-25	B	5	20			105		1677	1192	147			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-26	D	6	20			93	154	1549	412	161			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-27	B	5	20			94		2384	391				土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-28	I	14	20					837	756	159			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-29	B	5	20					1405	526	136			土樣片	b - 2	大解剖式	
板橋川-30	B	5	20					699	230	92			土樣片	b - 3	凹槽下層d式	
板橋川-31	H	8	20			137		2201	271				土樣片	b - 3	凹槽下層d式	
板橋川-32	A	5	11			114	176	1603	322	224			土樣片	b - 3	凹槽下層d式	
板橋川-33	G	8	8			133		159	234	106			土樣片	b - 3	凹槽下層d式	
板橋川-34	E	7	9			134	118	931	149	105			土樣片	b - 3	凹槽下層d式	
板橋川-35	A	5	11			131	169	1795	536	86			土樣片	b - 3	凹槽下層d式	

Mon : オキセリタイト Min : 鉄雲母 Hb : 鋼鐵石 ChlMe : 一次鉄雲母 ChlFe : 一次鉄雲母 Qtz : 磷酸石 Pyrite : 黄鐵矿 As : 鉻鐵石 Pt : 黃銅礦石 Crust : カラクリタイト

Multis : マルチタイト K-feld : カルナリット Halloysite : ハロイサイト

表VI-2-4 胎土性状表(2)

地名	タイプ	組成分類										岩石地質学的・物理的性質									
		No	分類	Mg-Na-Mg	Mg	Hb	Mn	Fe	Cr	Al	Crat	Mnfs	Kfs	Ab	Or	Ast	斜長石	中長石	長石	分類式	岩相式
笠置川 - 1	I	14	J4	20		107		1517	577	95							II型片	III b - 3	北同式		
笠置川 - 3	B	6	20		105	98		1042	413	129							II型片	IV b - 3	北同式		
笠置川 - 8	F	7	20		89			1170	608	70							II型片	IV a - 2	タツコブ式		
笠置川 - 9	H	8	20					1658	707								II型片	IV b - 1	タツコブ式		
笠置川 - 40	H	8	20		104			1305	477	91							II型片	IV b - 3	タツコマ C式		
笠置川 - 1	G	8						88	1631	415							II型片	IV c - 1	宮林式		
笠置川 - 42	H	8	20		80			1543	794	92							II型片	IV c - 1	宮林式		
笠置川 - 43	I	14						1420	470	91							II型片	IV b - 3	印賀土西 d式		
笠置川 - 4	I	14	20					1457	137	82							II型片	IV b - 3	印賀土西 d式		
笠置川 - 5	I	14	20					839	250	76							II型片	IV b - 3	印賀土西 d式		
笠置川 - 6	J	15	21					80	2777	100							II型片	IV b - 3	北同式		
笠置川 - 7	B	6	20					1635	366	193							II型片	IV b - 3	北同式		
笠置川 - 8	C	6	10					1374	464	151							II型片	IV b - 3	北同式		
笠置川 - 9	I	14	20					930	564	67							II型片	IV a - 2	タツコブ式		
笠置川 - 9	H	8	20					708	575	65							II型片	IV a - 2	タツコブ式		
笠置川 - 10	H	8	20					1042	522	90							II型片	IV a - 2	タツコブ式		
笠置川 - 1	I	14	20					1740	1547	60							II型片	IV b - 1	タツコマ C式		
笠置川 - 52	C	6	10					1095	278	114							II型片	IV b - 1	タツコマ C式		
笠置川 - 53	I	14	20					1947	634	76							II型片	IV b - 1	タツコマ C式		
笠置川 - 54	B	5	20					2057	512	70							II型片	IV b - 1	タツコマ C式		
笠置川 - 5	H	8	20					126									II型片	IV b - 3	継続式		
笠置川 - 56	B	7	9					126	65								II型片	IV b - 3	継続式		
笠置川 - 57	J	15	21					55	1899	777	66						II型片	IV b - 3	継続式		
笠置川 - 58	I	14	20					2254	560	93							II型片	IV b - 3	継続式		
笠置川 - 59	I	14	20					1307	623	60							II型片	IV b - 3	継続式		
笠置川 - 60	F	7	20					1916	342	64							II型片	IV c - 1	宮林式		
笠置川 - 61	I	14	20					937	523	76							II型片	IV c - 1	宮林式		
笠置川 - 62	I	14	20					731	554	82							II型片	IV c - 1	宮林式		

Mons: シリコナイト MnO₃ + CaSiO₃ + K₂O + Na₂O + Al₂O₃ + FeO + TiO₂ + MnO + Mn₂O₃ + MnO₂ + Mn₃O₄ + Mn₄O₅ + Mn₅O₈ + Mn₆O₁₁ + Mn₇O₁₃ + Mn₈O₁₇ + Mn₉O₂₁ + Mn₁₀O₂₃ + Mn₁₁O₂₅ + Mn₁₂O₂₇ + Mn₁₃O₃₁ + Mn₁₄O₃₅ + Mn₁₅O₃₉ + Mn₁₆O₄₃ + Mn₁₇O₄₇ + Mn₁₈O₅₁ + Mn₁₉O₅₅ + Mn₂₀O₅₉ + Mn₂₁O₆₃ + Mn₂₂O₆₇ + Mn₂₃O₇₁ + Mn₂₄O₇₅ + Mn₂₅O₇₉ + Mn₂₆O₈₃ + Mn₂₇O₈₇ + Mn₂₈O₉₁ + Mn₂₉O₉₅ + Mn₃₀O₉₉ + Mn₃₁O₁₀₃ + Mn₃₂O₁₀₇ + Mn₃₃O₁₁₁ + Mn₃₄O₁₁₅ + Mn₃₅O₁₁₉ + Mn₃₆O₁₂₃ + Mn₃₇O₁₂₇ + Mn₃₈O₁₃₁ + Mn₃₉O₁₃₅ + Mn₄₀O₁₃₉ + Mn₄₁O₁₄₃ + Mn₄₂O₁₄₇ + Mn₄₃O₁₅₁ + Mn₄₄O₁₅₅ + Mn₄₅O₁₅₉ + Mn₄₆O₁₆₃ + Mn₄₇O₁₆₇ + Mn₄₈O₁₇₁ + Mn₄₉O₁₇₅ + Mn₅₀O₁₇₉ + Mn₅₁O₁₈₃ + Mn₅₂O₁₈₇ + Mn₅₃O₁₉₁ + Mn₅₄O₁₉₅ + Mn₅₅O₁₉₉ + Mn₅₆O₂₀₃ + Mn₅₇O₂₀₇ + Mn₅₈O₂₁₁ + Mn₅₉O₂₁₅ + Mn₆₀O₂₁₉ + Mn₆₁O₂₂₃ + Mn₆₂O₂₂₇ + Mn₆₃O₂₃₁ + Mn₆₄O₂₃₅ + Mn₆₅O₂₃₉ + Mn₆₆O₂₄₃ + Mn₆₇O₂₄₇ + Mn₆₈O₂₅₁ + Mn₆₉O₂₅₅ + Mn₇₀O₂₅₉ + Mn₇₁O₂₆₃ + Mn₇₂O₂₆₇ + Mn₇₃O₂₇₁ + Mn₇₄O₂₇₅ + Mn₇₅O₂₇₉ + Mn₇₆O₂₈₃ + Mn₇₇O₂₈₇ + Mn₇₈O₂₉₁ + Mn₇₉O₂₉₅ + Mn₈₀O₂₉₉ + Mn₈₁O₃₀₃ + Mn₈₂O₃₀₇ + Mn₈₃O₃₁₁ + Mn₈₄O₃₁₅ + Mn₈₅O₃₁₉ + Mn₈₆O₃₂₃ + Mn₈₇O₃₂₇ + Mn₈₈O₃₃₁ + Mn₈₉O₃₃₅ + Mn₉₀O₃₃₉ + Mn₉₁O₃₄₃ + Mn₉₂O₃₄₇ + Mn₉₃O₃₅₁ + Mn₉₄O₃₅₅ + Mn₉₅O₃₅₉ + Mn₉₆O₃₆₃ + Mn₉₇O₃₆₇ + Mn₉₈O₃₇₁ + Mn₉₉O₃₇₅ + Mn₁₀₀O₃₇₉ + Mn₁₀₁O₃₈₃ + Mn₁₀₂O₃₈₇ + Mn₁₀₃O₃₉₁ + Mn₁₀₄O₃₉₅ + Mn₁₀₅O₃₉₉ + Mn₁₀₆O₄₀₃ + Mn₁₀₇O₄₀₇ + Mn₁₀₈O₄₁₁ + Mn₁₀₉O₄₁₅ + Mn₁₁₀O₄₁₉ + Mn₁₁₁O₄₂₃ + Mn₁₁₂O₄₂₇ + Mn₁₁₃O₄₃₁ + Mn₁₁₄O₄₃₅ + Mn₁₁₅O₄₃₉ + Mn₁₁₆O₄₄₃ + Mn₁₁₇O₄₄₇ + Mn₁₁₈O₄₅₁ + Mn₁₁₉O₄₅₅ + Mn₁₂₀O₄₅₉ + Mn₁₂₁O₄₆₃ + Mn₁₂₂O₄₆₇ + Mn₁₂₃O₄₇₁ + Mn₁₂₄O₄₇₅ + Mn₁₂₅O₄₇₉ + Mn₁₂₆O₄₈₃ + Mn₁₂₇O₄₈₇ + Mn₁₂₈O₄₉₁ + Mn₁₂₉O₄₉₅ + Mn₁₃₀O₄₉₉ + Mn₁₃₁O₅₀₃ + Mn₁₃₂O₅₀₇ + Mn₁₃₃O₅₁₁ + Mn₁₃₄O₅₁₅ + Mn₁₃₅O₅₁₉ + Mn₁₃₆O₅₂₃ + Mn₁₃₇O₅₂₇ + Mn₁₃₈O₅₃₁ + Mn₁₃₉O₅₃₅ + Mn₁₄₀O₅₃₉ + Mn₁₄₁O₅₄₃ + Mn₁₄₂O₅₄₇ + Mn₁₄₃O₅₅₁ + Mn₁₄₄O₅₅₅ + Mn₁₄₅O₅₅₉ + Mn₁₄₆O₅₆₃ + Mn₁₄₇O₅₆₇ + Mn₁₄₈O₅₇₁ + Mn₁₄₉O₅₇₅ + Mn₁₅₀O₅₇₉ + Mn₁₅₁O₅₈₃ + Mn₁₅₂O₅₈₇ + Mn₁₅₃O₅₉₁ + Mn₁₅₄O₅₉₅ + Mn₁₅₅O₅₉₉ + Mn₁₅₆O₆₀₃ + Mn₁₅₇O₆₀₇ + Mn₁₅₈O₆₁₁ + Mn₁₅₉O₆₁₅ + Mn₁₆₀O₆₁₉ + Mn₁₆₁O₆₂₃ + Mn₁₆₂O₆₂₇ + Mn₁₆₃O₆₃₁ + Mn₁₆₄O₆₃₅ + Mn₁₆₅O₆₃₉ + Mn₁₆₆O₆₄₃ + Mn₁₆₇O₆₄₇ + Mn₁₆₈O₆₅₁ + Mn₁₆₉O₆₅₅ + Mn₁₇₀O₆₅₉ + Mn₁₇₁O₆₆₃ + Mn₁₇₂O₆₆₇ + Mn₁₇₃O₆₇₁ + Mn₁₇₄O₆₇₅ + Mn₁₇₅O₆₇₉ + Mn₁₇₆O₆₈₃ + Mn₁₇₇O₆₈₇ + Mn₁₇₈O₆₉₁ + Mn₁₇₉O₆₉₅ + Mn₁₈₀O₆₉₉ + Mn₁₈₁O₇₀₃ + Mn₁₈₂O₇₀₇ + Mn₁₈₃O₇₁₁ + Mn₁₈₄O₇₁₅ + Mn₁₈₅O₇₁₉ + Mn₁₈₆O₇₂₃ + Mn₁₈₇O₇₂₇ + Mn₁₈₈O₇₃₁ + Mn₁₈₉O₇₃₅ + Mn₁₉₀O₇₃₉ + Mn₁₉₁O₇₄₃ + Mn₁₉₂O₇₄₇ + Mn₁₉₃O₇₅₁ + Mn₁₉₄O₇₅₅ + Mn₁₉₅O₇₅₉ + Mn₁₉₆O₇₆₃ + Mn₁₉₇O₇₆₇ + Mn₁₉₈O₇₇₁ + Mn₁₉₉O₇₇₅ + Mn₂₀₀O₇₇₉ + Mn₂₀₁O₇₈₃ + Mn₂₀₂O₇₈₇ + Mn₂₀₃O₇₉₁ + Mn₂₀₄O₇₉₅ + Mn₂₀₅O₇₉₉ + Mn₂₀₆O₈₀₃ + Mn₂₀₇O₈₀₇ + Mn₂₀₈O₈₁₁ + Mn₂₀₉O₈₁₅ + Mn₂₁₀O₈₁₉ + Mn₂₁₁O₈₂₃ + Mn₂₁₂O₈₂₇ + Mn₂₁₃O₈₃₁ + Mn₂₁₄O₈₃₅ + Mn₂₁₅O₈₃₉ + Mn₂₁₆O₈₄₃ + Mn₂₁₇O₈₄₇ + Mn₂₁₈O₈₅₁ + Mn₂₁₉O₈₅₅ + Mn₂₂₀O₈₅₉ + Mn₂₂₁O₈₆₃ + Mn₂₂₂O₈₆₇ + Mn₂₂₃O₈₇₁ + Mn₂₂₄O₈₇₅ + Mn₂₂₅O₈₇₉ + Mn₂₂₆O₈₈₃ + Mn₂₂₇O₈₈₇ + Mn₂₂₈O₈₉₁ + Mn₂₂₉O₈₉₅ + Mn₂₃₀O₈₉₉ + Mn₂₃₁O₉₀₃ + Mn₂₃₂O₉₀₇ + Mn₂₃₃O₉₁₁ + Mn₂₃₄O₉₁₅ + Mn₂₃₅O₉₁₉ + Mn₂₃₆O₉₂₃ + Mn₂₃₇O₉₂₇ + Mn₂₃₈O₉₃₁ + Mn₂₃₉O₉₃₅ + Mn₂₄₀O₉₃₉ + Mn₂₄₁O₉₄₃ + Mn₂₄₂O₉₄₇ + Mn₂₄₃O₉₅₁ + Mn₂₄₄O₉₅₅ + Mn₂₄₅O₉₅₉ + Mn₂₄₆O₉₆₃ + Mn₂₄₇O₉₆₇ + Mn₂₄₈O₉₇₁ + Mn₂₄₉O₉₇₅ + Mn₂₅₀O₉₇₉ + Mn₂₅₁O₉₈₃ + Mn₂₅₂O₉₈₇ + Mn₂₅₃O₉₉₁ + Mn₂₅₄O₉₉₅ + Mn₂₅₅O₉₉₉ + Mn₂₅₆O₁₀₀₃ + Mn₂₅₇O₁₀₀₇ + Mn₂₅₈O₁₀₁₁ + Mn₂₅₉O₁₀₁₅ + Mn₂₆₀O₁₀₁₉ + Mn₂₆₁O₁₀₂₃ + Mn₂₆₂O₁₀₂₇ + Mn₂₆₃O₁₀₃₁ + Mn₂₆₄O₁₀₃₅ + Mn₂₆₅O₁₀₃₉ + Mn₂₆₆O₁₀₄₃ + Mn₂₆₇O₁₀₄₇ + Mn₂₆₈O₁₀₅₁ + Mn₂₆₉O₁₀₅₅ + Mn₂₇₀O₁₀₅₉ + Mn₂₇₁O₁₀₆₃ + Mn₂₇₂O₁₀₆₇ + Mn₂₇₃O₁₀₇₁ + Mn₂₇₄O₁₀₇₅ + Mn₂₇₅O₁₀₇₉ + Mn₂₇₆O₁₀₈₃ + Mn₂₇₇O₁₀₈₇ + Mn₂₇₈O₁₀₉₁ + Mn₂₇₉O₁₀₉₅ + Mn₂₈₀O₁₀₉₉ + Mn₂₈₁O₁₁₀₃ + Mn₂₈₂O₁₁₀₇ + Mn₂₈₃O₁₁₁₁ + Mn₂₈₄O₁₁₁₅ + Mn₂₈₅O₁₁₁₉ + Mn₂₈₆O₁₁₂₃ + Mn₂₈₇O₁₁₂₇ + Mn₂₈₈O₁₁₃₁ + Mn₂₈₉O₁₁₃₅ + Mn₂₉₀O₁₁₃₉ + Mn₂₉₁O₁₁₄₃ + Mn₂₉₂O₁₁₄₇ + Mn₂₉₃O₁₁₅₁ + Mn₂₉₄O₁₁₅₅ + Mn₂₉₅O₁₁₅₉ + Mn₂₉₆O₁₁₆₃ + Mn₂₉₇O₁₁₆₇ + Mn₂₉₈O₁₁₇₁ + Mn₂₉₉O₁₁₇₅ + Mn₃₀₀O₁₁₇₉ + Mn₃₀₁O₁₁₈₃ + Mn₃₀₂O₁₁₈₇ + Mn₃₀₃O₁₁₉₁ + Mn₃₀₄O₁₁₉₅ + Mn₃₀₅O₁₁₉₉ + Mn₃₀₆O₁₂₀₃ + Mn₃₀₇O₁₂₀₇ + Mn₃₀₈O₁₂₁₁ + Mn₃₀₉O₁₂₁₅ + Mn₃₁₀O₁₂₁₉ + Mn₃₁₁O₁₂₂₃ + Mn₃₁₂O₁₂₂₇ + Mn₃₁₃O₁₂₃₁ + Mn₃₁₄O₁₂₃₅ + Mn₃₁₅O₁₂₃₉ + Mn₃₁₆O₁₂₄₃ + Mn₃₁₇O₁₂₄₇ + Mn₃₁₈O₁₂₅₁ + Mn₃₁₉O₁₂₅₅ + Mn₃₂₀O₁₂₅₉ + Mn₃₂₁O₁₂₆₃ + Mn₃₂₂O₁₂₆₇ + Mn₃₂₃O₁₂₇₁ + Mn₃₂₄O₁₂₇₅ + Mn₃₂₅O₁₂₇₉ + Mn₃₂₆O₁₂₈₃ + Mn₃₂₇O₁₂₈₇ + Mn₃₂₈O₁₂₉₁ + Mn₃₂₉O₁₂₉₅ + Mn₃₃₀O₁₂₉₉ + Mn₃₃₁O₁₃₀₃ + Mn₃₃₂O₁₃₀₇ + Mn₃₃₃O₁₃₁₁ + Mn₃₃₄O₁₃₁₅ + Mn₃₃₅O₁₃₁₉ + Mn₃₃₆O₁₃₂₃ + Mn₃₃₇O₁₃₂₇ + Mn₃₃₈O₁₃₃₁ + Mn₃₃₉O₁₃₃₅ + Mn₃₄₀O₁₃₃₉ + Mn₃₄₁O₁₃₄₃ + Mn₃₄₂O₁₃₄₇ + Mn₃₄₃O₁₃₅₁ + Mn₃₄₄O₁₃₅₅ + Mn₃₄₅O₁₃₅₉ + Mn₃₄₆O₁₃₆₃ + Mn₃₄₇O₁₃₆₇ + Mn₃₄₈O₁₃₇₁ + Mn₃₄₉O₁₃₇₅ + Mn₃₅₀O₁₃₇₉ + Mn₃₅₁O₁₃₈₃ + Mn₃₅₂O₁₃₈₇ + Mn₃₅₃O₁₃₉₁ + Mn₃₅₄O₁₃₉₅ + Mn₃₅₅O₁₃₉₉ + Mn₃₅₆O₁₄₀₃ + Mn₃₅₇O₁₄₀₇ + Mn₃₅₈O₁₄₁₁ + Mn₃₅₉O₁₄₁₅ + Mn₃₆₀O₁₄₁₉ + Mn₃₆₁O₁₄₂₃ + Mn₃₆₂O₁₄₂₇ + Mn₃₆₃O₁₄₃₁ + Mn₃₆₄O₁₄₃₅ + Mn₃₆₅O₁₄₃₉ + Mn₃₆₆O₁₄₄₃ + Mn₃₆₇O₁₄₄₇ + Mn₃₆₈O₁₄₅₁ + Mn₃₆₉O₁₄₅₅ + Mn₃₇₀O₁₄₅₉ + Mn₃₇₁O₁₄₆₃ + Mn₃₇₂O₁₄₆₇ + Mn₃₇₃O₁₄₇₁ + Mn₃₇₄O₁₄₇₅ + Mn₃₇₅O₁₄₇₉ + Mn₃₇₆O₁₄₈₃ + Mn₃₇₇O₁₄₈₇ + Mn₃₇₈O₁₄₉₁ + Mn₃₇₉O₁₄₉₅ + Mn₃₈₀O₁₄₉₉ + Mn₃₈₁O₁₅₀₃ + Mn₃₈₂O₁₅₀₇ + Mn₃₈₃O₁₅₁₁ + Mn₃₈₄O₁₅₁₅ + Mn₃₈₅O₁₅₁₉ + Mn₃₈₆O₁₅₂₃ + Mn₃₈₇O₁₅₂₇ + Mn₃₈₈O₁₅₃₁ + Mn₃₈₉O₁₅₃₅ + Mn₃₉₀O₁₅₃₉ + Mn₃₉₁O₁₅₄₃ + Mn₃₉₂O₁₅₄₇ + Mn₃₉₃O₁₅₅₁ + Mn₃₉₄O₁₅₅₅ + Mn₃₉₅O₁₅₅₉ + Mn₃₉₆O₁₅₆₃ + Mn₃₉₇O₁₅₆₇ + Mn₃₉₈O₁₅₇₁ + Mn₃₉₉O₁₅₇₅ + Mn₄₀₀O₁₅₇₉ + Mn₄₀₁O₁₅₈₃ + Mn₄₀₂O₁₅₈₇ + Mn₄₀₃O₁₅₉₁ + Mn₄₀₄O₁₅₉₅ + Mn₄₀₅O₁₅₉₉ + Mn₄₀₆O₁₆₀₃ + Mn₄₀₇O₁₆₀₇ + Mn₄₀₈O₁₆₁₁ + Mn₄₀₉O₁₆₁₅ + Mn₄₁₀O₁₆₁₉ + Mn₄₁₁O₁₆₂₃ + Mn₄₁₂O₁₆₂₇ + Mn₄₁₃O₁₆₃₁ + Mn₄₁₄O₁₆₃₅ + Mn₄₁₅O₁₆₃₉ + Mn₄₁₆O₁₆₄₃ + Mn₄₁₇O₁₆₄₇ + Mn₄₁₈O₁₆₅₁ + Mn₄₁₉O₁₆₅₅ + Mn₄₂₀O₁₆₅₉ + Mn₄₂₁O₁₆₆₃ + Mn₄₂₂O₁₆₆₇ + Mn₄₂₃O₁₆₇₁ + Mn₄₂₄O₁₆₇₅ + Mn₄₂₅O₁₆₇₉ + Mn₄₂₆O₁₆₈₃ + Mn₄₂₇O₁₆₈₇ + Mn₄₂₈O₁₆₉₁ + Mn₄₂₉O₁₆₉₅ + Mn₄₃₀O₁₆₉₉ + Mn₄₃₁O₁₇₀₃ + Mn₄₃₂O₁₇₀₇ + Mn₄₃₃O₁₇₁₁ + Mn₄₃₄O₁₇₁₅ + Mn₄₃₅O₁₇₁₉ + Mn₄₃₆O₁₇₂₃ + Mn₄₃₇O₁₇₂₇ + Mn₄₃₈O₁₇₃₁ + Mn₄₃₉O₁₇₃₅ + Mn₄₄₀O₁₇₃₉ + Mn₄₄₁O₁₇₄₃ + Mn₄₄₂O₁₇₄₇ + Mn₄₄₃O₁₇₅₁ + Mn₄₄₄O₁₇₅₅ + Mn₄₄₅O₁₇₅₉ + Mn₄₄₆O₁₇₆₃ + Mn₄₄₇O₁₇₆₇ + Mn₄₄₈O₁₇₇₁ + Mn₄₄₉O₁₇₇₅ + Mn₄₅₀O₁₇₇₉ + Mn₄₅₁O₁₇₈₃ + Mn₄₅₂O₁₇₈₇ + Mn₄₅₃O₁₇₉₁ + Mn₄₅₄O₁₇₉₅ + Mn₄₅₅O₁₇₉₉ + Mn₄₅₆O₁₈₀₃ + Mn₄₅₇O₁₈₀₇ + Mn₄₅₈O₁₈₁₁ + Mn₄₅₉O₁₈₁₅ + Mn₄₆₀O₁₈₁₉ + Mn₄₆₁O₁₈₂₃ + Mn₄₆₂O₁₈₂₇ + Mn₄₆₃O₁₈₃₁ + Mn₄₆₄O₁₈₃₅ + Mn₄₆₅O₁₈₃₉ + Mn₄₆₆O₁₈₄₃ + Mn₄₆₇O₁₈₄₇ + Mn₄₆₈O₁₈₅₁ + Mn₄₆₉O₁₈₅₅ + Mn₄₇₀O₁₈₅₉ + Mn₄₇₁O₁₈₆₃ + Mn₄₇₂O₁₈₆₇ + Mn₄₇₃O₁₈₇₁ + Mn₄₇₄O₁₈₇₅ + Mn₄₇₅O₁₈₇₉ + Mn₄₇₆O₁₈₈₃ + Mn₄₇₇O₁₈₈₇ + Mn₄₇₈O₁₈₉₁ + Mn₄₇₉O₁₈₉₅ + Mn₄₈₀O₁₈₉₉ + Mn₄₈₁O₁₉₀₃ + Mn₄₈₂O₁₉₀₇ + Mn₄₈₃O₁₉₁₁ + Mn₄₈₄O₁₉₁₅ + Mn₄₈₅O₁₉₁₉ + Mn₄₈₆O₁₉₂₃ + Mn₄₈₇O₁₉₂₇ + Mn₄₈₈O₁₉₃₁ + Mn₄₈₉O₁₉₃₅ + Mn₄₉₀O₁₉₃₉ + Mn₄₉₁O₁₉₄₃ + Mn₄₉₂O₁₉₄₇ + Mn₄₉₃O₁₉₅₁ + Mn₄₉₄O₁₉₅₅ + Mn₄₉₅O₁₉₅₉ + Mn₄₉₆O₁₉₆₃ + Mn₄₉₇O₁₉₆₇ + Mn₄₉₈O₁₉₇₁ + Mn₄₉₉O₁₉₇₅ + Mn₅₀₀O₁₉₇₉ + Mn₅₀₁O₁₉₈₃ + Mn₅₀₂O₁₉₈₇ + Mn₅₀₃O₁₉₉₁ + Mn₅₀₄O₁₉₉₅ + Mn₅₀₅O₁₉₉₉ + Mn₅₀₆O₂₀₀₃ + Mn₅₀₇O₂₀₀₇ + Mn₅₀₈O₂₀₁₁ + Mn₅₀₉O₂₀₁₅ + Mn₅₁₀O₂₀₁₉ + Mn₅₁₁O₂₀₂₃ + Mn₅₁₂O₂₀₂₇ + Mn₅₁₃O₂₀₃₁ + Mn₅₁₄O₂₀₃₅ + Mn₅₁₅O₂₀₃₉ + Mn₅₁₆O₂₀₄₃ + Mn₅₁₇O₂₀₄₇ + Mn₅₁₈O₂₀₅₁ + Mn₅₁₉O₂₀₅₅ + Mn₅₂₀O₂₀₅₉ + Mn₅₂₁O₂₀₆₃ + Mn₅₂₂O₂₀₆₇ + Mn₅₂₃O₂₀₇₁ + Mn₅₂₄O₂₀₇₅ + Mn₅₂₅O₂₀₇₉ + Mn₅₂₆O₂₀₈₃ + Mn₅₂₇O₂₀₈₇ + Mn₅₂₈O₂₀₉₁ + Mn₅₂₉O₂₀₉₅ + Mn₅₃₀O₂₀₉₉ + Mn₅₃₁O₂₁₀₃ + Mn₅₃₂O₂₁₀₇ + Mn₅₃₃O₂₁₁₁ + Mn₅₃₄O₂₁₁₅ + Mn₅₃₅O₂₁₁₉ + Mn₅₃₆O₂₁₂₃ + Mn₅₃₇O₂₁₂₇ + Mn₅₃₈O₂₁₃₁ + Mn₅₃₉O₂₁₃₅ + Mn₅₄₀O₂₁₃₉ + Mn₅₄₁O₂₁₄₃ + Mn₅₄₂O₂₁₄₇ + Mn₅₄₃O₂₁₅₁ + Mn₅₄₄O₂₁₅₅ + Mn₅₄₅O₂₁₅₉ + Mn₅₄₆O₂₁₆₃ + Mn₅₄₇O₂₁₆₇ + Mn₅₄₈O₂₁₇₁ + Mn₅₄₉O₂₁₇₅ + Mn₅₅₀O₂₁₇₉ + Mn₅₅₁O₂₁₈₃ + Mn₅₅₂O₂₁₈₇ + Mn₅₅₃O₂₁₉₁ + Mn₅₅₄O₂₁₉₅ + Mn₅₅₅O₂₁₉₉ + Mn₅₅₆O₂₂₀₃ + Mn₅₅₇O₂₂₀₇ + Mn₅₅₈O₂₂₁₁ + Mn₅₅₉O₂₂₁₅ + Mn₅₆₀O₂₂₁₉ + Mn₅₆₁O₂₂₂₃ + Mn₅₆₂O₂₂₂₇ + Mn₅₆₃O₂₂₃₁ + Mn₅₆₄O₂₂₃₅ + Mn₅₆₅O₂₂₃₉ + Mn₅₆₆O₂₂₄₃ + Mn₅₆₇O₂₂₄₇ + Mn₅₆₈O₂₂₅₁ + Mn₅₆₉O₂₂₅₅ + Mn₅₇₀O₂₂₅₉ + Mn₅₇₁O₂₂₆₃ + Mn₅₇₂O₂₂₆₇ + Mn₅₇₃O₂₂₇₁ + Mn₅₇₄O₂₂₇₅ + Mn₅₇₅O₂₂₇₉ + Mn₅₇₆O₂₂₈₃ + Mn₅₇₇O₂₂₈₇ + Mn₅₇₈O₂₂₉₁ + Mn₅₇₉O₂₂₉₅ + Mn₅₈₀O₂₂₉₉ + Mn₅₈₁O₂₃₀₃ + Mn₅₈₂O₂₃₀₇ + Mn₅₈₃O₂₃₁₁ + Mn₅₈₄O₂₃₁₅ + Mn₅₈₅O₂₃₁₉ + Mn₅₈₆O₂₃₂₃ + Mn₅₈₇O₂₃₂₇ + Mn₅₈₈O₂₃₃₁ + Mn₅₈₉O₂₃₃₅ + Mn₅₉₀O₂₃₃₉ + Mn₅₉₁O₂₃₄₃ + Mn₅₉₂O₂₃₄₇ + Mn₅₉₃O₂₃₅₁ + Mn₅₉₄O₂₃₅₅ + Mn₅₉₅O₂₃₅₉ + Mn₅₉₆O₂₃₆₃ + Mn₅₉₇O₂₃₆₇ + Mn₅₉₈O₂₃₇₁ + Mn₅₉₉O₂₃₇₅ + Mn₆₀₀O₂₃₇₉ + Mn₆₀₁O₂₃₈₃ + Mn₆₀₂O₂₃₈₇ + Mn₆₀₃O₂₃₉₁ + Mn₆₀₄O_{2395</}

表 VI-2-5 化学分析表 (1)

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	Total	試料	分類	型式	備考
松浦川-1	0.32	1.44	30.88	50.98	3.84	0.98	1.04	0.00	9.59	0.31	99.98	粘土塊			
松浦川-2	1.49	0.00	39.35	36.94	0.43	1.41	1.48	1.06	17.54	0.31	100.00	粘土塊			
松浦川-3	1.31	0.00	30.52	50.65	2.05	0.93	1.27	0.27	12.94	0.06	100.01	鐵鉢粘土塊片			
松浦川-4	1.69	0.00	29.43	53.17	3.42	2.03	1.10	0.66	8.49	0.00	99.99	鐵鉢粘土塊片			ほ光沢に接合
松浦川-5	1.45	0.00	35.59	51.38	1.79	0.79	1.16	0.42	6.83	0.46	99.99	鐵鉢粘土塊片			3/4块合・届かず割れている
松浦川-6	1.21	0.00	26.73	53.51	2.54	0.73	1.46	0.38	13.44	0.06	100.00	鐵鉢粘土塊片			2個体のうち1点・1/2块
松浦川-7	1.56	0.00	30.57	58.66	2.11	0.75	1.19	0.11	4.91	0.15	100.01	鐵鉢粘土塊片			1/4块
松浦川-8	1.96	0.00	29.79	58.57	2.25	0.75	1.00	0.47	5.19	0.00	100.00	鐵鉢粘土塊片			4/5块合
松浦川-9	0.66	1.40	19.30	59.71	3.97	0.82	1.45	0.17	13.09	0.01	99.98	鐵鉢粘土塊片			小片多数・接合不可
松浦川-10	1.26	0.00	39.83	42.03	1.31	0.78	0.73	0.40	13.24	0.44	100.01	粘土塊			小片
松浦川-11	1.26	0.00	34.57	51.52	2.77	0.57	1.65	0.00	7.67	0.00	100.01	鐵鉢粘土塊片			1/4块
松浦川-12	1.44	0.00	29.78	54.34	2.07	0.80	1.21	0.41	9.63	0.32	100.00	鐵鉢粘土塊片			小片
松浦川-13	0.53	0.16	26.34	61.21	0.37	0.56	1.35	0.28	10.66	0.00	100.00	鐵鉢粘土塊片			1/6块
松浦川-14	0.87	0.00	32.96	52.87	3.87	0.69	1.00	0.66	6.63	0.42	99.99	鐵鉢粘土塊片			小粒 1/2块
松浦川-15	0.37	0.63	22.51	50.74	2.27	0.69	0.96	1.46	19.74	0.64	100.01	鐵鉢粘土塊片			小型 1/2块
松浦川-16	1.97	0.00	28.67	37.02	0.70	2.74	2.40	1.22	25.09	0.19	100.00	粘土塊			2・3 cm の粘土塊多数
松浦川-17	1.64	0.45	27.92	36.11	0.82	3.23	2.64	1.79	25.40	0.00	100.00	粘土塊			やや小型 2/3块
松浦川-18	1.63	0.00	29.48	52.38	1.68	1.04	1.74	0.65	11.40	0.00	100.00	粘土塊			
松浦川-19	1.81	0.00	29.38	53.85	1.95	0.84	1.25	0.70	10.23	0.00	100.00	粘土塊			内面繊文
松浦川-20	1.62	0.00	30.79	51.29	2.18	0.59	0.83	0.43	11.84	0.32	99.99	土器片	II b - 2	大底V式	内面繊文
松浦川-21	0.65	0.00	28.83	54.65	1.70	0.52	0.97	0.60	11.96	0.11	99.99	土器片	II b - 2	大底V式	
松浦川-22	1.56	0.00	27.97	57.58	2.02	1.07	1.50	0.12	10.01	0.00	100.00	土器片	II b - 2	大底V式	後元土器と同じ・繊片多数
松浦川-23	1.80	0.00	28.63	58.78	1.65	1.42	1.04	0.52	8.16	0.00	100.00	土器片	II b - 2	大底V式	内面繊文
松浦川-24	1.41	0.00	23.34	60.76	1.97	0.61	1.02	0.67	10.23	0.00	100.01	土器片	II b - 2	大底V式	内面繊文・表面剥落
松浦川-25	2.42	0.00	19.97	65.03	2.52	1.14	0.84	0.72	6.88	0.46	100.00	土器片	II b - 2	大底V式	
松浦川-26	2.28	0.00	22.80	63.48	1.80	1.08	1.26	0.28	6.55	0.48	100.01	土器片	II b - 2	大底V式	口唇施文・繊片 2条
松浦川-27	1.67	0.00	23.56	63.14	1.72	0.87	1.37	0.13	7.53	0.00	99.99	土器片	II b - 2	大底V式	口唇施文・内面繊文
松浦川-28	2.02	0.00	27.85	58.13	1.32	0.53	0.54	0.86	8.64	0.12	100.01	土器片	II b - 2	大底V式	口唇施文・内面繊文・繊片 1条
松浦川-29	2.35	0.00	26.00	58.31	1.91	1.11	1.10	0.00	8.59	0.61	99.98	土器片	II b - 2	大底V式	口唇施文・内面繊文・繊片 1条
松浦川-30	1.73	0.00	28.89	56.44	1.54	0.56	1.18	0.44	9.15	0.01	99.98	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	口唇施文・内面繊文
松浦川-31	2.20	0.00	20.22	68.11	2.72	0.55	0.75	0.36	4.76	0.38	99.99	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	口唇施文・輪郭压痕
松浦川-32	1.44	0.00	29.59	55.50	1.69	1.18	1.41	0.56	8.63	0.00	100.00	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	口唇施文・内面も施文
松浦川-33	1.06	0.00	32.39	48.58	1.63	0.68	1.03	1.30	13.32	0.00	99.99	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	輪郭压痕
松浦川-34	0.40	1.21	28.25	56.42	1.02	0.98	0.81	0.23	10.32	0.35	99.99	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	
松浦川-35	1.50	0.00	22.90	61.12	2.65	0.89	1.39	0.54	8.90	0.12	100.01	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式	

表VII-2-6 化学分析表(2)

鉱物番号	N a O	M g O	A l 2 O 3	S i O 2	K 2 O	C a O	T i O 2	M n O	F e 2 O 3	N i O	Total	試 料	分 類	型 式	備 考	
															北高式	北高式
板塊川-3 6	1.91	0.00	26.65	60.73	0.79	1.24	1.03	0.28	7.36	0.02	100.01	土器片	Ⅲ b - 3	北高式		
板塊川-3 7	1.57	0.00	28.72	54.19	1.58	1.21	1.47	0.24	11.02	0.00	100.00	土器片	Ⅲ b - 3	北高式		
板塊川-3 8	2.00	0.00	23.11	58.94	2.81	1.26	1.27	0.10	10.37	0.23	99.99	土器片	IV a - 2	タブコブ式	土器開拓の土器と同じ	
板塊川-3 9	1.68	1.56	21.84	54.02	2.54	4.58	0.95	0.33	12.51	0.00	100.01	土器片	IV a - 9	タブコブ式	土器開拓の土器と同じ	
板塊川-4 0	1.01	0.00	25.56	53.26	1.63	0.77	1.65	0.73	15.16	0.23	100.00	土器片	IV b - 1	ワサツマイ C式	沈錐・磨削鏡文	
板塊川-4 1	1.40	0.00	23.86	55.65	2.13	0.27	0.77	0.61	14.92	0.37	99.98	土器片	IV b - 3	鏡面式	口縁・沈錐+刻み	
板塊川-4 2	1.35	0.00	22.80	61.09	2.13	1.23	0.74	0.51	9.98	0.16	99.99	土器片	IV c - 1	窓林式	口縁・沈錐+刻み	
板塊川-4 3	1.43	0.00	24.53	59.49	1.77	1.05	1.51	0.41	9.24	0.57	100.00	土器片	IV c - 1	窓林式	口縁・突縮文	
板塊川-4 4	1.29	0.00	37.85	44.96	1.82	0.43	0.84	0.52	11.73	0.68	100.00	土器片	IV b - 3	円筒土器下盤d式	円筒土器下盤d式	
板塊川-4 5	1.47	0.00	32.03	51.75	1.68	1.11	1.00	0.87	10.69	0.00	100.00	土器片	II b - 3	円筒土器下盤d式	多輪轍条体	
板塊川-4 6	0.72	0.00	39.10	46.80	0.83	0.14	0.83	0.66	10.48	0.43	99.99	土器片	III b - 3	北高式		
板塊川-4 7	0.99	0.00	36.59	50.34	0.80	0.51	0.80	0.00	9.98	0.00	100.01	土器片	III b - 3	北高式		
板塊川-4 8	1.96	0.00	26.74	58.67	1.14	1.69	1.61	0.31	7.73	0.16	100.01	土器片	III b - 3	北高式		
板塊川-4 9	0.27	0.00	15.88	76.35	2.13	0.31	0.62	0.22	4.35	0.06	99.99	土器片	IV a - 2	タブコブ式	土器開拓の土器と同じ	
板塊川-5 0	1.11	0.00	27.29	56.36	1.46	2.17	0.85	0.98	8.77	0.32	99.99	土器片	IV a - 2	タブコブ式	土器開拓の土器と同じ	
板塊川-5 1	0.90	0.00	27.69	58.37	1.62	1.24	1.29	0.27	8.34	0.27	99.99	土器片	IV a - 2	タブコブ式	内而施文	
板塊川-5 2	0.55	1.66	19.76	59.93	2.01	1.20	1.26	0.63	13.01	0.00	100.01	土器片	IV b - 1	ワサツマイ C式	口唇施文	
板塊川-5 3	1.25	0.00	28.55	55.33	1.82	0.51	1.22	0.76	10.15	0.41	100.00	土器片	IV b - 1	ワサツマイ C式	口唇施文	
板塊川-5 4	1.43	0.00	18.51	59.40	2.35	0.69	1.46	0.78	15.36	0.00	99.98	土器片	IV b - 1	ワサツマイ C式	口唇施文	
板塊川-5 5	1.59	0.00	21.16	58.19	1.88	0.75	1.37	0.37	14.69	0.00	100.00	土器片	IV b - 1	ワサツマイ C式	口唇施文	
板塊川-5 6	0.71	0.40	11.74	78.44	0.97	0.65	0.84	0.51	5.65	0.09	100.00	土器片	IV b - 3	鏡面式	刻み	
板塊川-5 7	0.99	0.00	24.64	59.31	2.16	0.98	1.00	0.81	9.88	0.28	100.00	土器片	IV b - 3	鏡面式	刻み無文部・口唇角刻み	
板塊川-5 8	1.29	0.00	23.20	58.36	1.76	0.79	1.36	0.76	12.50	0.00	100.02	土器片	IV b - 3	鏡面式	刻み	
板塊川-5 9	0.88	0.00	25.85	60.61	1.75	1.57	1.16	0.22	7.77	0.09	100.00	土器片	IV b - 3	鏡面式	突縮文	
板塊川-6 0	1.52	0.00	26.32	59.49	1.97	0.39	0.98	0.45	8.87	0.00	99.99	土器片	IV c - 1	窓林式	突縮文	
板塊川-6 1	1.57	0.13	23.60	60.04	1.93	1.82	1.14	0.23	9.53	0.00	99.99	土器片	IV c - 1	窓林式	突縮文	
板塊川-6 2	1.08	0.00	27.11	59.09	1.94	0.91	1.11	0.54	8.21	0.03	100.02	土器片	IV c - 1	窓林式		

第1-2-7 タイプ分類表

試料	タイプ	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	
No			No			No			No			No	
荒川 - 3 2	A	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式	無系文・内面も無文								
荒川 - 3 5	A	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式									
荒川 - 1	B	粘土塊											
荒川 - 2	B	土壌片	II b - 2	六角 V式	内面開文								
荒川 - 2 3	B	土壌片	II b - 2	六角 V式	外面開文								
荒川 - 2 5	B	土壌片	II b - 2	六角 V式	内面開文・表面剥落								
荒川 - 2 7	B	土壌片	II b - 2	六角 V式	口唇有文・横縫 2 条・中面開文								
荒川 - 2 9	B	土壌片	II b - 2	六角 V式	口唇無文・内面開文・縞文 1 条								
荒川 - 3 0	B	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式	添余文・内面無文								
荒川 - 3 7	B	土壌片	III b - 3	北側式									
荒川 - 4 7	B	土壌片	III b - 3	北側式									
荒川 - 5 4	B	土壌片	IV b - 1	ワタツイ C式	口唇無文								
荒川 - 4 8	C	土壌片	III b - 3	北側式	尖起窓小								
荒川 - 5 2	C	土壌片	IV b - 1	ワタツイ C式	口唇無文								
荒川 - 1 3	D	無状粘土塊片											
荒川 - 2 8	D	土壌片	II b - 2	六角 V式	1/6縫								
荒川 - 3 4	E	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式	口唇無文・内面縫 2 条								
荒川 - 5 0	E	土壌片	IV b - 3	橢圓式	刺み								
荒川 - 3	F	無状粘土塊片			ほぼ完形に近似								
荒川 - 4	F	無状粘土塊片			3/4縫合・窓小・焼れていろ								
荒川 - 5	F	無状粘土塊片			2縫合・2・5点・1/2縫								
荒川 - 6	F	無状粘土塊片			1/4縫								
荒川 - 7	F	無状粘土塊片			小窓 1/4縫								
荒川 - 1 5	F	無状粘土塊片			元土器・同じ・縫合多數								
荒川 - 2 2	F	土壌片	II b - 2	六角 V式	内面開文								
荒川 - 2 4	F	土壌片	II b - 2	六角 V式	土唇無文の土器と同じ								
荒川 - 3 0	F	土壌片	IV a - 2	ワタツイ式	突痕文								
荒川 - 6 0	F	土壌片	IV c - 1	窓式	突痕文								
荒川 - 3 3	G	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式	無縫文								
荒川 - 4 1	G	土壌片	IV b - 3	橢圓式	口縫・北側+刺み								
荒川 - 5 7	J												

試料	タイプ	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	試料	分類	
No			No			No			No			No	
荒川 - 8	H	無状地片											
荒川 - 9	H	無状粘土塊片											
荒川 - 3 1	H	土壌片	II b - 3	円筒土器下盤 d式	4/5縫合								
荒川 - 3 0	H	土壌片	IV a - 2	ワタツイ式	小穴多數・複合不可								
荒川 - 4 6	H	土壌片	IV b - 1	ワタツイ C式	土唇無文の土器と同じ								
荒川 - 4 2	H	土壌片	IV c - 1	窓式	化粧・縫合+刺み								
荒川 - 5 0	H	土壌片	IV a - 2	ワタツイ式	土唇無文の土器と同じ								
荒川 - 5 5	H	土壌片	IV b - 1	ワタツイ C式	口唇無文								
荒川 - 2	I	粘土塊											
荒川 - 1 0	I	粘土塊											
荒川 - 1 1	I	無状地片											
荒川 - 1 2	I	無状地片											
荒川 - 1 4	I	無状地片											
荒川 - 1 6	I	粘土塊											
荒川 - 1 7	I	粘土塊											
荒川 - 1 8	I	粘土塊											
荒川 - 1 9	I	土壌片	II b - 3	大原 V式	大原 V式								
荒川 - 2 1	I	土壌片	II b - 2	大原 V式	大原 V式								
荒川 - 2 6	I	土壌片	II b - 2	大原 V式	大原 V式								
荒川 - 3 6	I	土壌片	III b - 3	北側式									
荒川 - 4 3	I	土壌片	IV c - 1	窓式									
荒川 - 4 4	I	土壌片	II b - 3	大原 V式	大原 V式								
荒川 - 6	I	土壌片	II b - 2	大原 V式	多施粘土体								
荒川 - 4 9	I	土壌片	IV a - 2	ワタツイ式	土唇無文の土器と同じ								
荒川 - 5 1	I	土壌片	IV a - 2	ワタツイ式	内面無文								
荒川 - 5 3	I	土壌片	IV b - 1	ワタツイ C式	口唇無文・口唇角丸								
荒川 - 5 5	I	土壌片	IV b - 3	橢圓式									
荒川 - 5 9	I	土壌片	IV b - 1	窓式									
荒川 - 6 1	I	土壌片	IV c - 1	窓式	美輪文								
荒川 - 6 2	I	土壌片	IV c - 1	窓式									
荒川 - 4 6	J	土壌片	IV b - 3	北側式									
荒川 - 5 7	J	土壌片	IV b - 2	北側式									

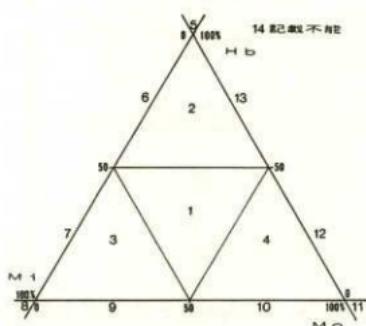
表VI-2-8 組成分類表(1)

Fe	Qt	Si	試料 No	タイプ 分類	造物分類		
					試料	分類	型式
① タイプI・Qt1・ Fe_2O_3 : 3							
3	1	1	祝梅川-2	I	粘土塊		
② タイプI・Qt2・ Fe_2O_3 : 2							
2	2	1	祝梅川-10	I	粘土塊		
③ タイプII・Qt2・ Fe_2O_3 : 1							
1	2	2	祝梅川-5	F	盤状粘土破片		
1	2	2	祝梅川-11	I	盤状粘土破片		
④ タイプII・Qt3・ Fe_2O_3 : 2							
2	3	2	祝梅川-33	G	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
2	3	2	祝梅川-45	I	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
⑤ タイプII・Qt4・ Fe_2O_3 : 1							
1	4	2	祝梅川-47	B	土器片	III b - 3	北筒式
⑥ タイプII・Qt4・ Fe_2O_3 : 2							
2	4	2	祝梅川-44	I	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
⑦ タイプII・Qt7・ Fe_2O_3 : 1							
1	7	2	祝梅川-46	J	土器片	III b - 3	北筒式
⑧ タイプIII・Qt2・ Fe_2O_3 : 1							
1	2	3	祝梅川-1	B	粘土塊		
1	2	3	祝梅川-4	F	盤状粘土破片		
1	2	3	祝梅川-7	F	盤状粘土破片		
1	2	3	祝梅川-8	H	盤状粘土破片		
⑨ タイプIII・Qt2・ Fe_2O_3 : 2							
2	2	3	祝梅川-3	F	盤状粘土破片		
2	2	3	祝梅川-6	F	盤状粘土破片		
⑩ タイプIII・Qt3・ Fe_2O_3 : 1							
1	3	3	祝梅川-12	I	盤状粘土破片		
1	3	3	祝梅川-14	I	盤状粘土破片		
1	3	3	祝梅川-22	F	土器片	II b - 2	大麻V式
1	3	3	祝梅川-28	I	土器片	II b - 2	大麻V式
1	3	3	祝梅川-30	B	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-32	A	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-34	E	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
1	3	3	祝梅川-38	F	土器片	IV a - 2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-50	H	土器片	IV a - 2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-51	I	土器片	IV a - 2	タブコブ式
1	3	3	祝梅川-53	I	土器片	IV b - 1	ウサクマイC式
1	3	3	祝梅川-61	I	土器片	IV c - 1	堂林式
1	3	3	祝梅川-62	I	土器片	IV c - 1	堂林式
⑪ タイプIII・Qt3・ Fe_2O_3 : 2							
2	3	3	祝梅川-18	I	粘土塊		
2	3	3	祝梅川-21	I	土器片	II b - 2	大麻V式
2	3	3	祝梅川-37	B	土器片	III b - 3	北筒式

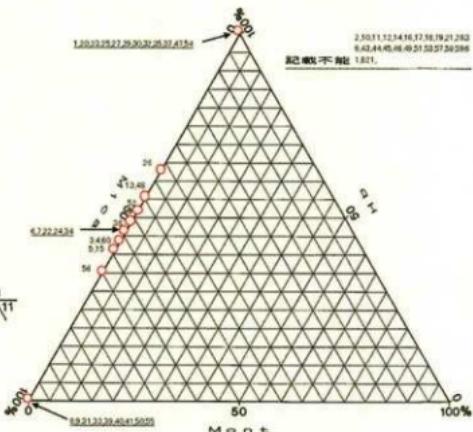
表VI-2-9 組成分類表(2)

Fe	Qt	Si	試料 No	タイプ 分類	遺物分類		
					試料	分類	型式
⑪ タイプIII・Qt 4・Fe₂O₃ : 1							
1	4	3	祝梅川-13	D	盤状粘土破片		
1	4	3	祝梅川-29	B	土器片	II b - 2	大麻V式
1	4	3	祝梅川-35	A	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
1	4	3	祝梅川-36	I	土器片	III b - 3	北筒式
1	4	3	祝梅川-42	H	土器片	IV c - 1	堂林式
1	4	3	祝梅川-43	I	土器片	IV c - 1	堂林式
1	4	3	祝梅川-48	C	土器片	III b - 3	北筒式
1	4	3	祝梅川-59	I	土器片	IV b - 3	鏡洞式
⑫ タイプIII・Qt 4・Fe₂O₃ : 2							
2	4	3	祝梅川-9	H	盤状粘土破片		
2	4	3	祝梅川-39	H	土器片	IV a - 2	タブコブ式
2	4	3	祝梅川-40	H	土器片	IV b - 1	ウサクマイC式
2	4	3	祝梅川-41	G	土器片	IV b - 3	鏡洞式
⑬ タイプIII・Qt 5・Fe₂O₃ : 1							
1	5	3	祝梅川-19	I	土器片	II b - 2	大麻V式
1	5	3	祝梅川-24	F	土器片	II b - 2	大麻V式
1	5	3	祝梅川-57	J	土器片	IV b - 3	鏡洞式
1	5	3	祝梅川-60	F	土器片	IV c - 1	堂林式
⑭ タイプIII・Qt 5・Fe₂O₃ : 2							
2	5	3	祝梅川-54	B	土器片	IV b - 1	ウサクマイC式
2	5	3	祝梅川-55	H	土器片	IV b - 1	ウサクマイC式
2	5	3	祝梅川-58	I	土器片	IV b - 3	鏡洞式
⑮ タイプIII・Qt 5・Fe₂O₃ : 3							
3	5	3	祝梅川-15	F	盤状粘土破片		
⑯ タイプIII・Qt 6・Fe₂O₃ : 1							
1	6	3	祝梅川-23	B	土器片	II b - 2	大麻V式
⑰ タイプIII・Qt 6・Fe₂O₃ : 2							
2	6	3	祝梅川-52	C	土器片	IV b - 1	ウサクマイC式
⑱ タイプIII・Qt 7・Fe₂O₃ : 2							
2	7	3	祝梅川-20	B	土器片	II b - 2	大麻V式
⑲ タイプIV・Qt 4・Fe₂O₃ : 1							
1	4	4	祝梅川-26	D	土器片	II b - 2	大麻V式
⑳ タイプIV・Qt 5・Fe₂O₃ : 1							
1	5	4	祝梅川-27	B	土器片	II b - 2	大麻V式
1	5	4	祝梅川-31	H	土器片	II b - 3	円筒土器下層d式
㉑ タイプIV・Qt 6・Fe₂O₃ : 1							
1	6	4	祝梅川-25	B	土器片	II b - 2	大麻V式
㉒ タイプV・Qt 3・Fe₂O₃ : 1							
1	3	5	祝梅川-49	I	土器片	IV a - 2	タブコブ式
㉓ タイプV・Qt 5・Fe₂O₃ : 1							
1	5	5	祝梅川-56	E	土器片	IV b - 3	鏡洞式
㉔ タイプVI・Qt 1・Fe₂O₃ : 4							
4	1	6	祝梅川-16	I	粘土塊		
4	1	6	祝梅川-17	I	粘土塊		

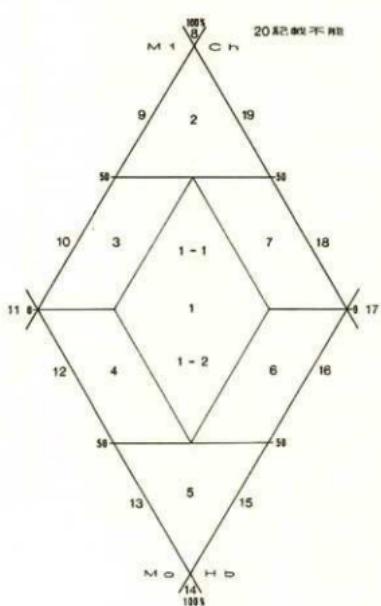
図VI-2-3 三角ダイヤグラム
位置分類図



図VI-2-5 Mo-Mi-Hb
三角ダイヤグラム



図VI-2-4 菱形ダイヤグラム
位置分類図



図VI-2-6 Mo-Ch, Mi-Hb
菱形ダイヤグラム

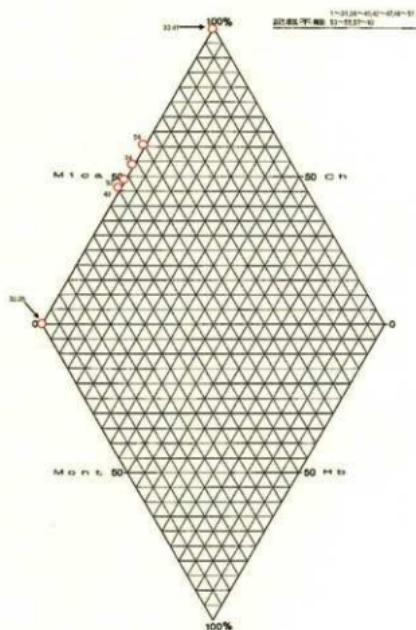
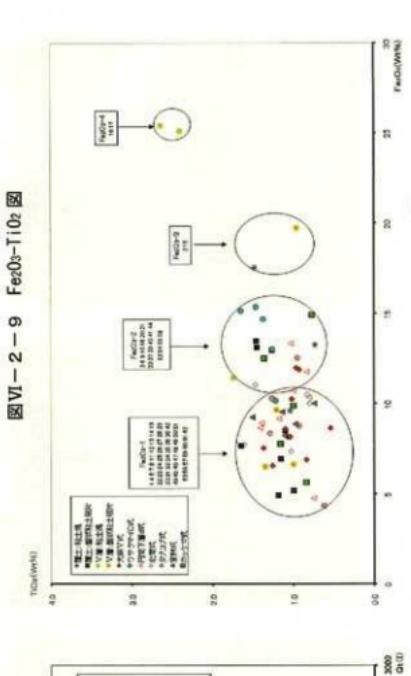
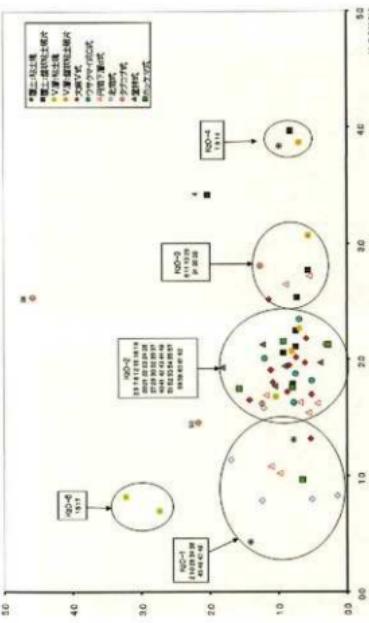


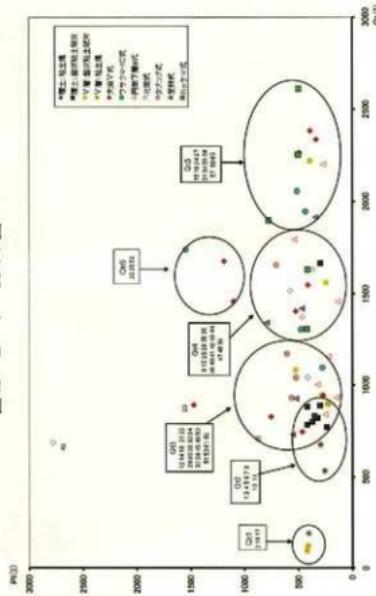
图 VI-2-9 $\text{Fe}_2\text{O}_3-\text{TiO}_2$ 图



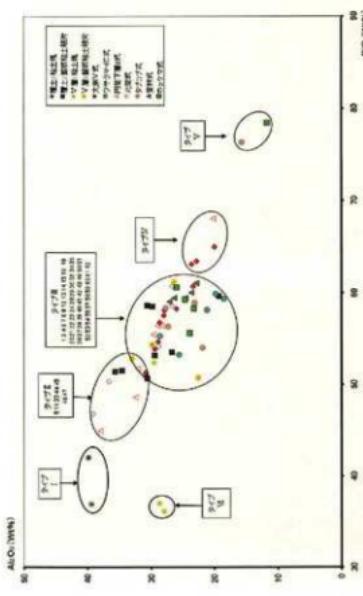
図VI-2-10 K₂O-CaO 図



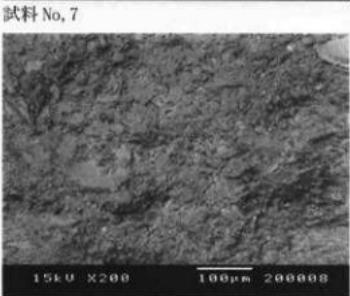
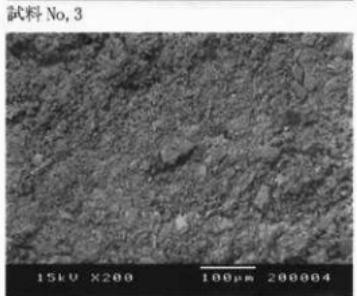
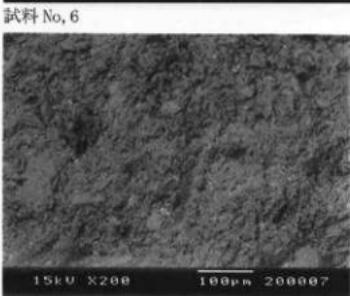
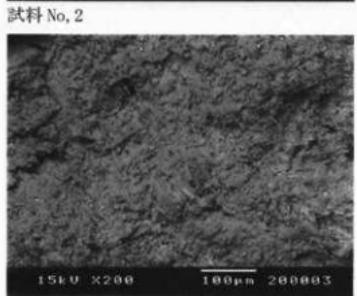
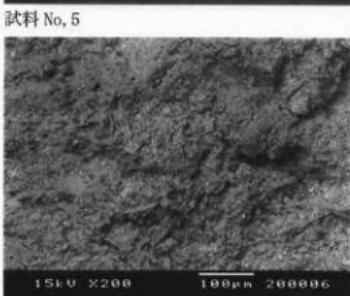
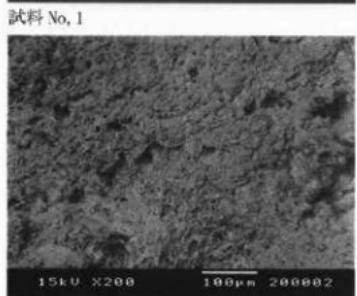
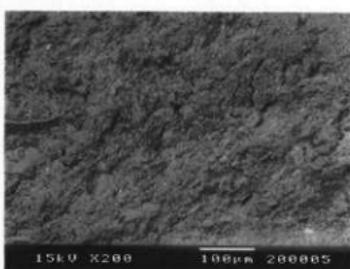
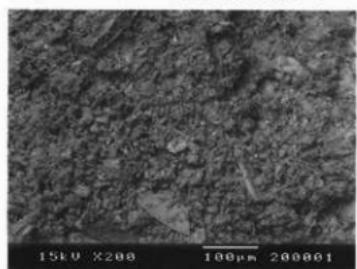
図VI-2-7 0t-Pt 図



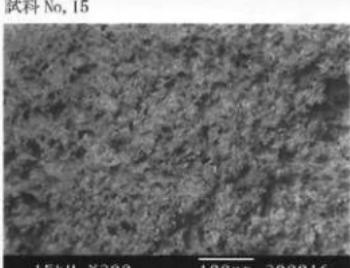
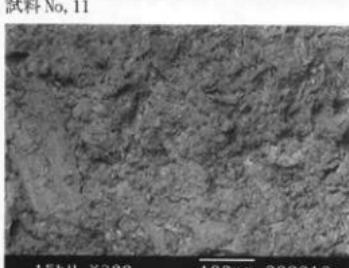
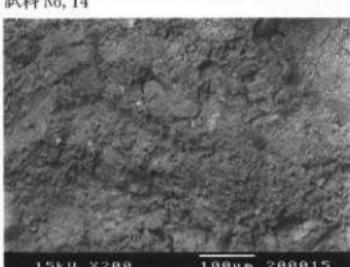
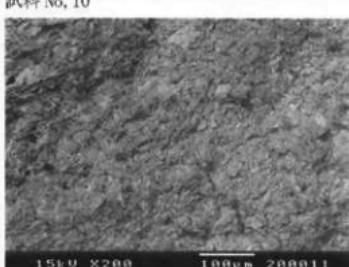
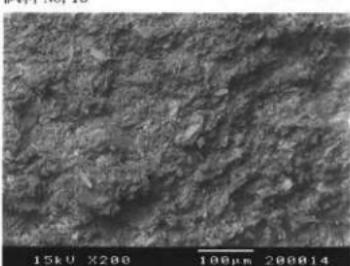
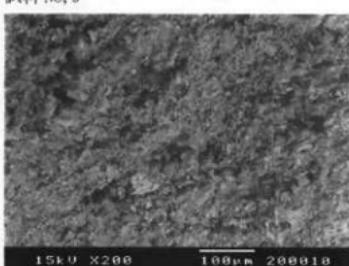
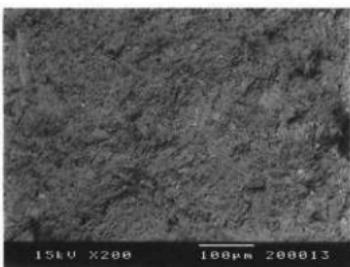
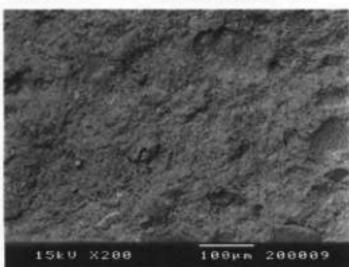
図VI-2-8 SiO₂-Al₂O₃ 図



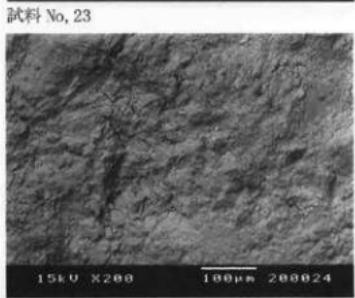
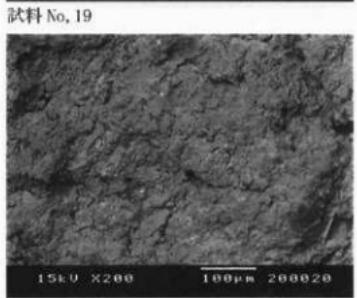
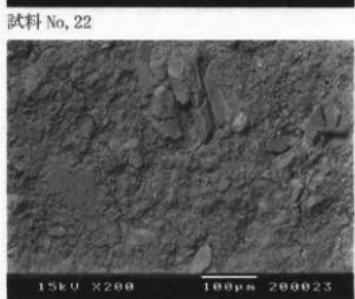
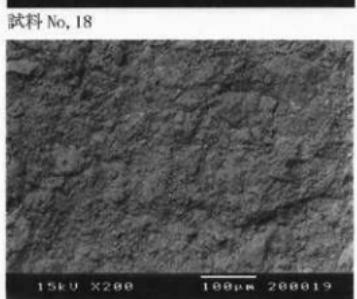
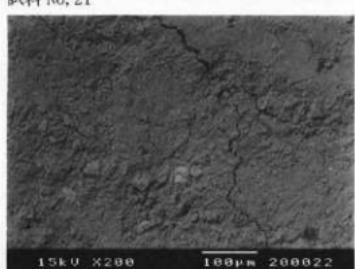
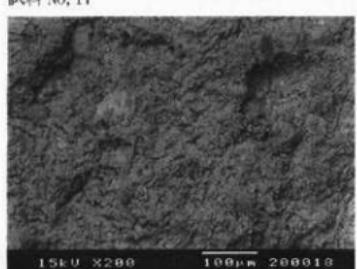
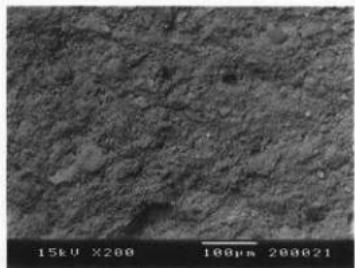
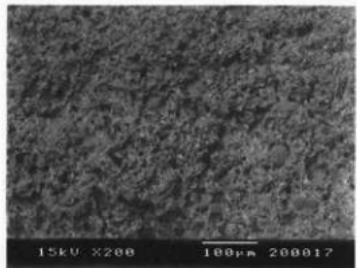
図版VI-2-1 電子顕微鏡写真（1）



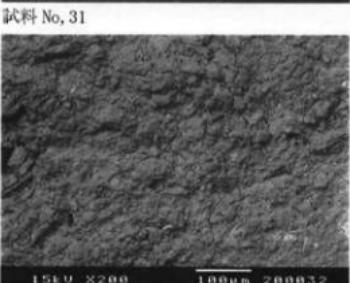
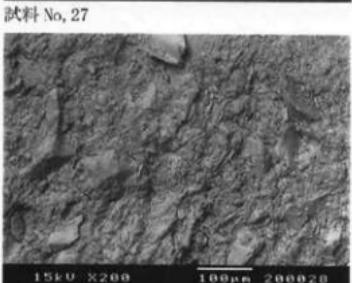
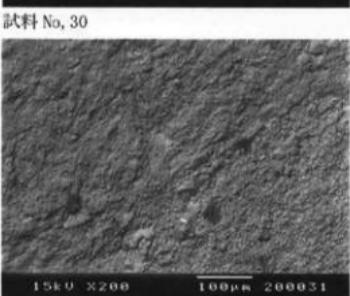
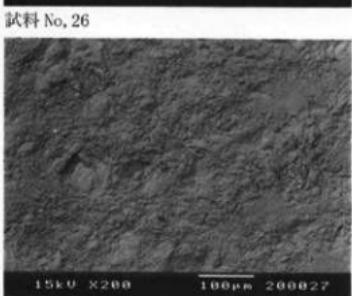
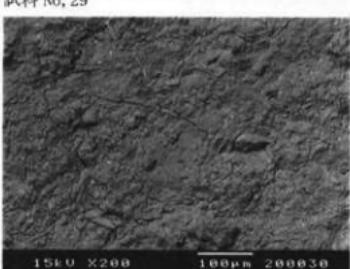
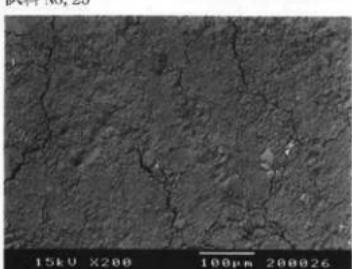
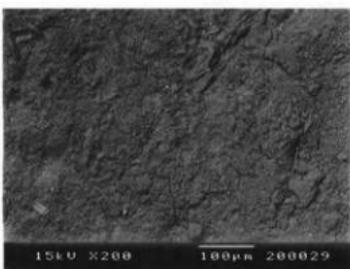
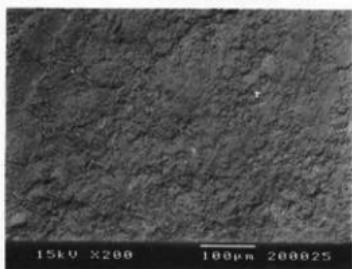
図版VI-2-2 電子顕微鏡写真（2）



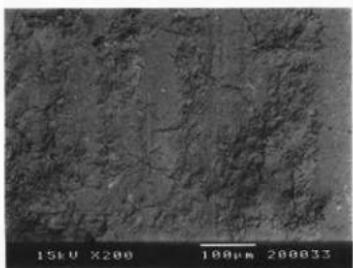
図版VI-2-3 電子顕微鏡写真（3）



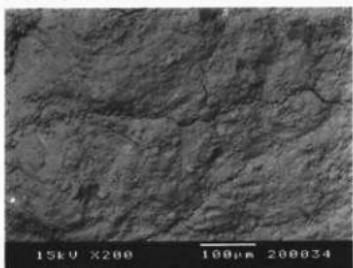
図版VI-2-4 電子顕微鏡写真（4）



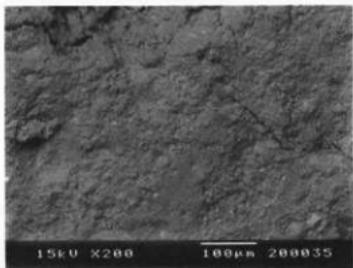
図版VI-2-5 電子顕微鏡写真（5）



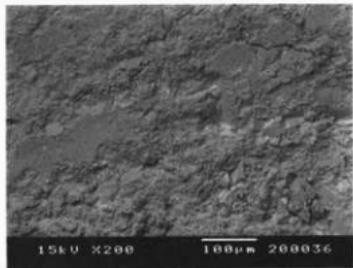
試料 No. 33



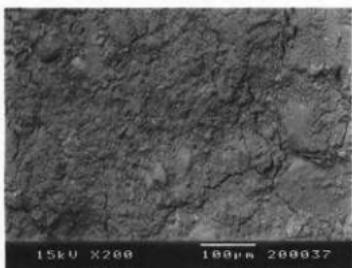
試料 No. 34



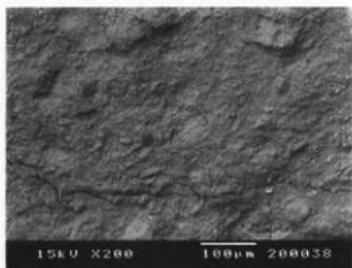
試料 No. 35



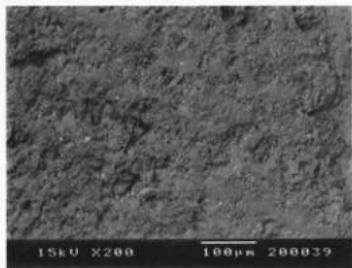
試料 No. 36



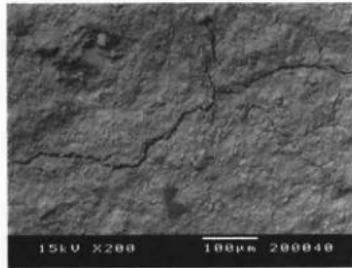
試料 No. 37



試料 No. 38

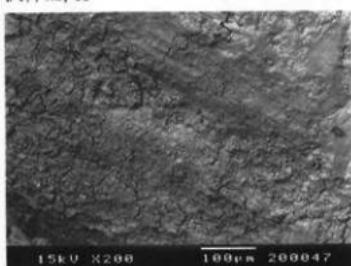
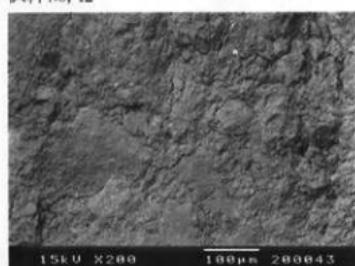
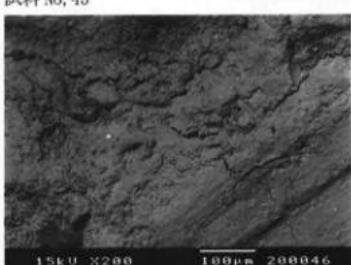
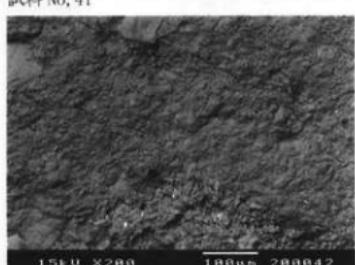
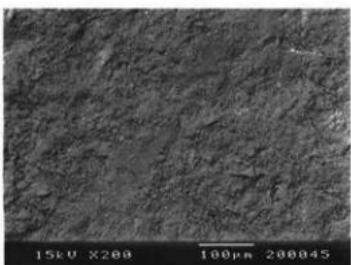
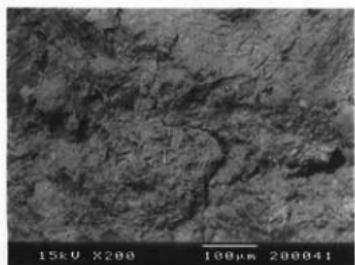


試料 No. 39

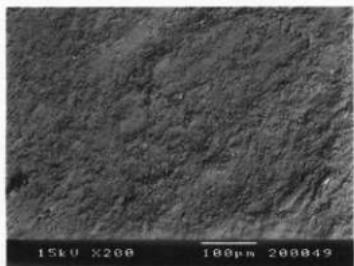


試料 No. 40

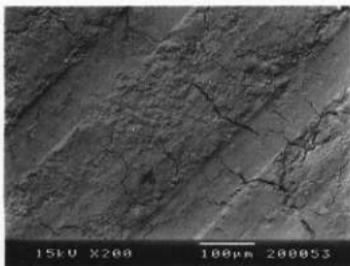
図版VI-2-6 電子顕微鏡写真（6）



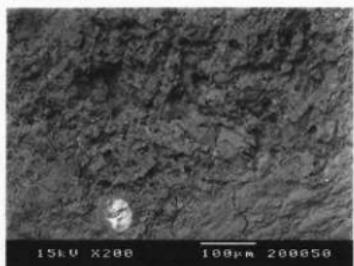
図版VI-2-7 電子顕微鏡写真(7)



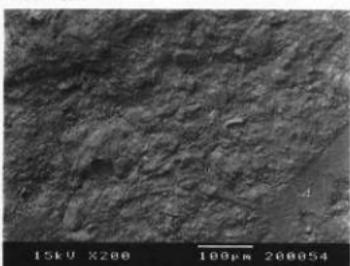
試料 No. 49



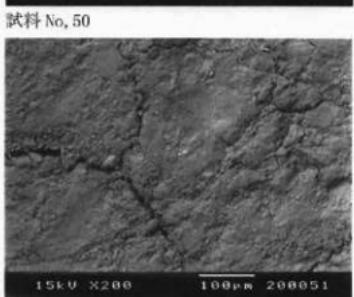
試料 No. 53



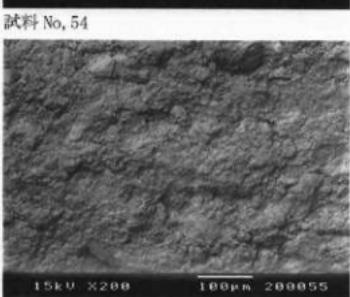
試料 No. 50



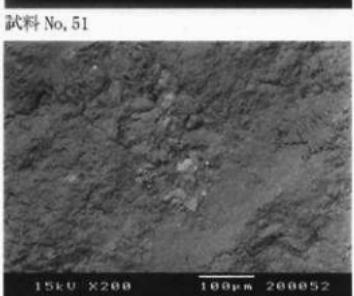
試料 No. 54



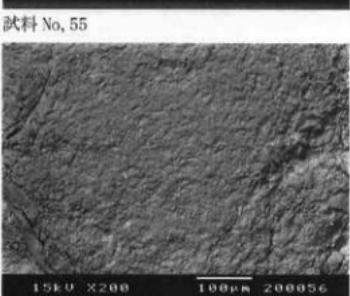
試料 No. 51



試料 No. 55

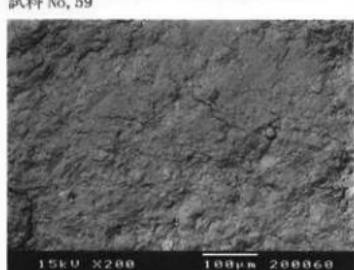
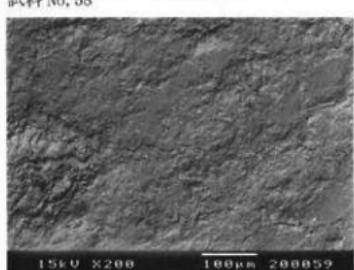
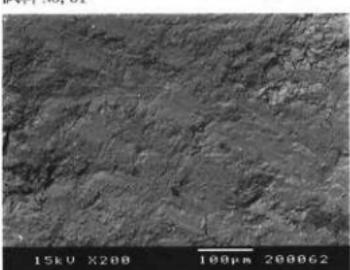
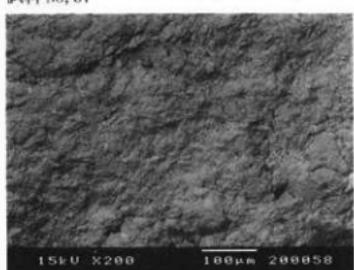
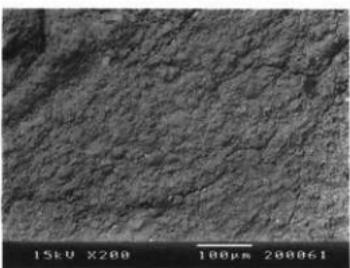
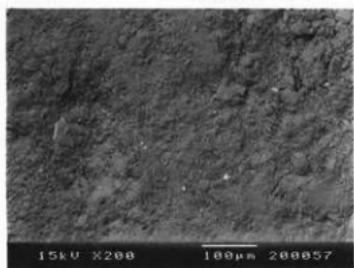


試料 No. 52



試料 No. 56

図版VI-2-8 電子顕微鏡写真(8)



引用・参考文献

- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』2004年版 日本色研事業株式会社
- 長見義三 1976 『ちとせ地名散歩』北海道新聞社
- 北海道教育委員会 1977 『美沢川流域の遺跡群Ⅰ』
- 北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』 北海道火山灰命名委員会
- 千歳市史編さん委員会 1983 『増補 千歳市史』 千歳市
- 野村宗 1985 『北海道縄文時代終末期の研究』 みやま書房
- 千歳市教育委員会 1986 『梅川3遺跡における考古学的調査』 千歳市文化財調査報告書XII
- 千歳市教育委員会 1991 『祝梅川山田遺跡における考古学的調査』 千歳市文化財調査報告書XVI
- 日本ペトロジー学会 1997 『土壤調査ハンドブック 改訂版』 博友社
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市 キウス5遺跡(4) B地区・C地区』 北埋調報116
- 柳原正文 2002 『データベース・アイヌ語地名3』 北海道出版企画センター
- 千歳市教育委員会 2002 『梅川4遺跡における考古学的調査』 千歳市文化財調査報告書XXIV
- 千歳市教育委員会 2003 『祝梅川遺跡・祝梅川矢島遺跡・梅川4遺跡における考古学的調査』
- 千歳市文化財調査報告書XXXIX
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ1遺跡』 北埋調報188
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市 オルイカ2遺跡』 北埋調報189
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』 北埋調報238
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 梅川4遺跡(1)』 北埋調報253
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『むかわ町 鶴別D遺跡』 北埋調報259
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 『千歳市 梅川4遺跡(2)』 北埋調報269

報告書抄録

ふりがな	ちとせし しゅくばいがわおのいせき(1)・うめかわ1いせき(1)							
書名	千歳市 祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)							
副書名	道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第285集							
編著者名	鈴木信・菊池慈人・影浦覚・芝田直人・阿部明義・山中文雄・酒井秀治							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行年月日	平成24(西暦2012)年3月26日							
所轄遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
祝梅川小野遺跡	千歳市祝梅 485-2ほか	A-03-48 01224	M20杭	20070507 ~20071031	7,630m ²	道路敷設に 伴う記録保存		
			42度49分 57.75689秒	141度41分 27.39113秒	20080507 ~20081031		10,267m ²	
梅川1遺跡	千歳市祝梅 498-3	A-03-56	S72杭	20080507 ~20081031	893m ²			
42度50分 05.77447秒	141度41分 31.15295秒							
所轄遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		
祝梅川小野遺跡	遺物 包含地	旧石器時代 縄文時代 前期・中期 後期・晚期	住居跡17軒、土坑72基、 Tピット21基、小ピット39基、 焼土15か所、剥片集中1か所、 集石6基	土器 土製品 (再生土製円盤・盤状格子地) 石器等 石製品 (オロシガネ状石製品・ 棍棒形石器・玉類など)				
梅川1遺跡	遺物 包含地	縄文時代 晩期中葉	焼土9か所	土器 石器等				
要約	<p>平成19・20年度の2か年の調査報告である。今報告書はIV層以下の報告となる。両遺跡は、千歳市街地から東へ約3km、千歳川の支流である梅川の左岸、標高7~15mに立地する。</p> <p>祝梅川小野遺跡からは、主に縄文時代前期~晚期の遺構・遺物が検出されている。遺構は、住居跡17軒、土坑72基などが確認された。遺物は、土器73,294点、石器等110,227点の合計183,521点が出土している。土製品では再生土製円盤・盤状粘土塊、石製品ではオロシガネ状石製品や棍棒形石器などが出土している。</p> <p>梅川1遺跡からは、主に縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が検出されている。遺構は、焼土9か所が確認された。遺物は、土器2,154点、石器等4,237点の合計6,391点が出土している。</p>							

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登載番号、経緯度は世界測地系による。

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第285集

千歳市 祝梅川小野遺跡(1)・梅川1遺跡(1)

-道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成24(2012)年3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238

[E-mail] mail@domaibun.or.jp

[URL] http://www.domaibun.or.jp

印 刷 柏楊印刷株式会社

〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号

TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376

[E-mail] info@hakuyo-print.jp

[URL] http://hakuyo-print.jp/
